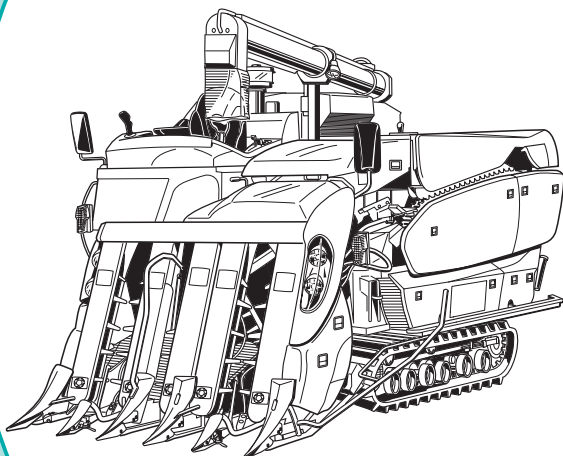


クボタコンバイン

取扱説明書

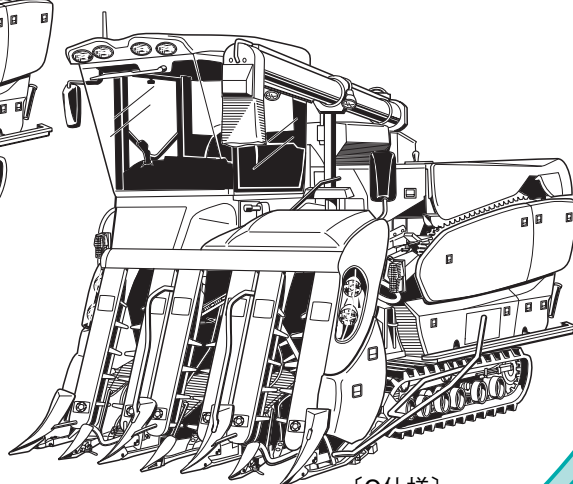
エアロ★スタ-ダイナマックス

ER
572・587



1ARAEASAP6610

ER
698・108



〔Q仕様〕

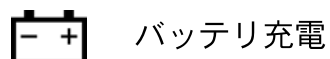
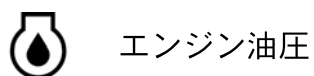
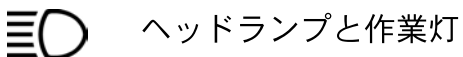
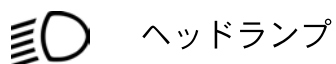
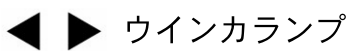
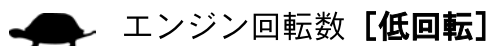
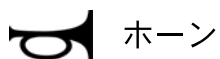
1ARAEASAP6600

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

OPERATOR'S MANUAL

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



専門用語の説明

• 予熱（グロー）	エンジンの始動を容易にするための補助装置
• パワーステアリングレバー	油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
• ブレーキターン	左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
• スピンターン	左右のクローラが互いに反対方向に駆動される旋回
• ソフトターン	左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
• 接地センサ	ほ場面に接地して刈取部とほ場面の高さ（刈高さ）を一定に保持するセンサ
• デバイダ	こくかんを分けすくい上げる部分
• ドレイン（プラグ）	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
• HST	油圧式の無段変速装置
• アジャスト	調節を意味する
• 主変速レバー	〔前進〕〔後進〕の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
• 1 番スクリュ	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
• 2 番スクリュ	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
• チャフシープ	こく粒を粗選する棧状の板
• トウミ	選別風を発生させるファン
• グレンシープ	こく粒を精選するあみ体
• 送じん調節レバー	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
• 排じん調節板	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
• こぎ胴	脱こくするドラム
• フィードチェーン	稲を挟持搬送するチェーンコンベア
• 縦スクリュ	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
• こぎ胴オープン	こぎ胴を上にする機構
• 揺動板（シープケース）	揺動運動してこく粒を選別する装置
• アンローダ	グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただき、じゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



危険

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警告

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦の刈取り・収穫用の作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造はしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)

仕様について

なお、説明は【ER108SDQ仕様】を基本とし、【ER108SDQ仕様】と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って、機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

①刈取条数・エンジン出力によって

[572]	(5条刈り・72PS)
[587]	(5条刈り・87PS)
[698]	(6条刈り・98PS)
[108]	(6条刈り・108PS)

②諸装置の仕様によって (別表参照) ... { [HD仕様]
(ハイドラックス)
[SD仕様]
(スーパーデラックス)

④キャビン・バックモニタ

バックモニタ付き	[SQ仕様]
キャビン付き	[Q仕様]

型式	クローラ幅 (mm)		
	[W 仕様]	[W2 仕様]	[W3 仕様]
[572]	450	500	550
[587]	500	550	—
[698・108]	550	—	—

- 550 ～ 1300 (mm) [表示なし]
- 500 ～ 1200 (mm) [H仕様]

○：標準装備　－：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）

目 次

▲安全に作業するために

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください.....	1
安全作業するための表示ラベル.....	24
表示ラベルの内容・貼付位置.....	24
表示ラベルの手入れ.....	38
表示ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守る.....	38

サービスと保証について

小型特殊自動車について.....	3
------------------	---

装置の名称と取扱い

機体方向説明.....	4
装置の名称とはたらき.....	5
メインスイッチ.....	9
アクセルダイヤル.....	10
主変速レバー、副変速切換えスイッチ.....	10
副変速レバー.....	11
ブレーキペダル（駐車ブレーキ）.....	12
パワーステアリングレバー.....	12
旋回モード切換えダイヤル・旋回力アップトリガ.....	13
フットレスト（足置き）.....	14
運転席（シート）.....	16
アームレスト（ひじ掛け）.....	17
ドリンクホルダ.....	17
刈取下降ロックスイッチ.....	17
脱こく・刈取クラッチレバー.....	18
刈取変速切換えスイッチ・引起し変速レバー.....	18
左分草かん開閉スイッチ.....	19
刈取りかき込みペダル.....	20
ポジピタスイッチ.....	20
こぎ胴開閉スイッチ.....	20
エンジン停止スイッチ.....	21
わら処理切換えスイッチ.....	22
もみ排出スイッチ.....	22
ファインビューメータ.....	23
コンビネーションスイッチ、ホーンスイッチ.....	28
自動化装置の名称とはたらき.....	29
自動アクセル制御装置.....	31
自動車速制御装置.....	32
自動車体水平制御装置（左右モンロー）.....	33
自動車体水平制御装置（4PC・ST モンロー）.....	35
水平操作手動スイッチ.....	38
自動こぎ深さ制御装置.....	39
手動こぎ深さスイッチ.....	39
自動刈高さ制御装置.....	40
刈取オートクラッチ.....	43

自動脱こく制御装置.....	43
アンローダ自動旋回制御装置.....	45
アンローダ操作スイッチ.....	46
無線アンローダリモコンスイッチ.....	47
作業設定スイッチ（ワンタッチ設定）.....	51
キャビン装置の名称とはたらき [Q仕様].....	52
各装置の取扱い.....	53
ドアの開閉、ロックのしかた.....	53
各ウインドの開閉のしかた.....	54
ワイパの使いかた.....	55
作業灯スイッチ.....	56
ルームランプの使いかた.....	57
エアコンの取扱い.....	57
コントロールパネル.....	57
内外気切換えレバー.....	58
エアコン操作のしかた.....	59
バックモニタの取扱い.....	60
バックモニタについて.....	61
液晶パネルについて.....	62
CCD カメラの取扱いについて.....	62
バックモニタの操作.....	64
バックモニタの各部の名称とはたらき.....	64
バックモニタの機能説明.....	65
バックモニタが故障かな？と思ったら.....	67
バックモニタの取扱い上の注意.....	68
バックモニタのお問合わせ.....	68
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い.....	69
電源の入／切.....	69
音量調節.....	69
リリースボタン.....	69
音質調整.....	70
重低音の増強.....	70
時計表示への切換え.....	71
時刻合わせ.....	71
左右スピーカの音量バランス調整.....	72
スクリーンセーバーの設定.....	72
ラジオの選択.....	73
受信バンドの選択.....	73
クイック選局（ISR 機能）.....	73
プリセット選局.....	74
メモリ登録（自動選局）.....	74
メモリ登録（手動選局）.....	74
メモリ登録の確認.....	74
自動選局.....	74
手動選局.....	74
CD の挿入と再生.....	75
CD の取出し.....	75
演奏の一時停止.....	75
次の曲／前の曲の選択.....	76
早送り／早戻し.....	76
トップ機能.....	76
曲を探す（スキャン演奏）.....	76
曲を繰り返し聴く（リピート演奏）.....	76
ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）.....	76
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？と思われるたら.....	77

目次

AM/FM ラジオ付き CD プレーヤーのエラー表示について	77
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤーの取扱い上の注意	78
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤーのお問合わせ	78

運転のしかた

運転前の点検	79
日常点検項目	80
新車時の扱い	82
ならし運転について	82
エンジンの始動と停止のしかた	82
始動のしかた	83
暖機運転について	86
寒冷時の始動のしかた	86
燃料切れ後の再始動のしかた	86
バッテリーが上がったときの始動のしかた	87
停止のしかた	87
移動走行について	88
移動走行前の準備	89
発進のしかた	91
旋回のしかた	94
停車・駐車のしかた	94
道路走行について	95
輸送について	96
トラックとあゆみ板の準備	96
トラックへ積み込み時のコンバインの準備	96
トラックへの積み込み・積降しのしかた	96
トラック上での処置	97

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件	99
作物の条件	99
ほ場の条件	100
ほ場の準備	100
ほ場の準備	100
コンバインの準備	101
コンバインの準備のしかた	101
刈取作業のしかた	107
ほ場の出入りのしかた	107
刈取作業の手順	108
ほ場の刈りかたと旋回のしかた	111
作物に合わせた変速の選びかた	112
もみの排出のしかた	113
手刈り（枕刈り）脱こくのしかた	117
作業に合わせた各部の調整・調節のしかた	119
デバйдダの上・下調整	120
右デバйдダの調整	120
引起し爪高さの調節	121
刈刃の高さ調節	121
こぎ室送じん調節レバーの調節	122
自動脱こく制御の調節	123

排出調整板の調整	123
マルチナビによる異常と処置	124
マルチナビによる故障と処置	128

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた	132
防じんカバーの開閉と脱着	132
こぎ胴の開閉	133
刈取部の開閉	136
引起し部の開閉	142
刈取搬送部の開閉	146
運転操作部の開閉	148
カッタ部の開閉	153
シーブケースの脱着	155
受あみの脱着	163
引起しサイドカバーの脱着	164
引起しカバーの脱着	164
左サイドカバーの脱着	165
脱こく前カバーの脱着	166
グレンタンク後カバー 2，グレンタンク下カバーの脱着	167
カッタ切換えカバーの開閉	168
グレンタンクの開閉	169
各部の掃除と注油のしかた	172
各部の掃除	173
各部の注油	178
定期点検	189
オイル，フィルタ類の交換とチェーン，ベルト，クローラの張り調整	190
廃棄物の処理について	190
洗車時の注意	190
使用者が行なってはいけない修理	191
定期点検一覧表	192
給・注油（水）点検一覧表	197
燃料，オイル，グリースの点検・補給・交換	199
燃料の補給	199
エンジンオイルの点検・補給・交換	200
トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換	203
刈刃駆動ケースオイルの補給	204
刈取 HST ギヤケースオイルの点検・補給・交換	204
油圧オイルタンクオイルの点検・補給・交換	205
脱こくギヤケースオイルの点検・補給・交換	206
HST 入力フランジのオイルの補給・交換	207
フィードチェーン駆動ケースオイルの補給	208
レール台ブッシュ部への注油	208
各部のグリース	210
ラジエータ冷却水の点検・補給・交換	214
ウオッシュ液の補給	216
プレクリーナの点検・掃除	217
エアクリーナの点検・掃除・交換	217
パイプ，ホース類の点検・交換	219

防じんあみ、各フィンの掃除	222
油水分離機（セパレータ）の点検・排水	224
燃料フィルタカートリッジの交換	225
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	226
HST オイルフィルタカートリッジ、トランス ミッションオイルフィルタカートリッジの 交換、HST 油圧オイルタンクフィルタの洗 浄・交換	227
各部ワイヤの点検・調整	228
駐車ブレーキワイヤの点検・調整	229
フィードチェーンオートクラッチワイヤの点 検・調整	230
脱こくクラッチワイヤの点検・調整	231
各部ベルトの点検・調整	232
ファン駆動ベルトの点検・調整	238
ミッション駆動ベルトの点検・調整	239
刈取駆動ベルトの点検・調整	239
脱こく駆動ベルトの点検・調整	240
補助搬送（突起付）ベルトの点検・調整 ..	240
トウミ駆動ベルトの点検	241
コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整 ..	241
こぎ胴駆動ベルトの点検・調整	242
2 番駆動ベルトの点検・調整	242
1 番駆動ベルトの点検・調整	243
揺動駆動ベルトの点検・調整	244
後方こぎ胴駆動ベルトの点検・調整	244
排わらチェーン駆動ベルトの点検・調整 ..	244
カッタ駆動ベルトの点検・調整	245
タンククラッチ駆動ベルトの点検・調整 ..	245
各部チェーンの点検・調整	246
引起しチェーンの点検・調整	248
右穂先チェーンの点検・調整	249
中穂先チェーン、左穂先チェーンの点検 ..	250
株元供給チェーンの点検・調整	250
右株元チェーン、中株元チェーン、左株元 チェーンの点検・調整	251
供給サポートチェーンの点検・調整	254
供給サポートチェーン駆動チェーンの点検 ..	254
こぎ深さチェーンの点検・調整	255
フィードチェーンの点検・調整	255
排わら株元チェーンの点検・調整	256
排わら穂先チェーンの点検・調整	256
刈刃の点検・調整	257
こぎ歯の点検・交換	263
わら切刃の点検・組換え・交換	265
カッタ部の点検・調整・増締め	267
カッタ刃の交換	273
排わらチェーン押えの点検・調整・交換 ..	277
キャビン内気、外気フィルタの掃除・交換 ..	277
冷媒（ガス）量の点検	279
吐出口ブーツの点検・交換	279
バッテリーの点検・交換	280
電気の各配線コード、各ヒューズの点検・交換	284

ランプ（電球）の点検・交換、ホーンスイッ チの点検	287
反射器、反射テープの点検・交換	288
クローラの点検・調整	288
トラックローラ（転輪）の点検	290
ドライブローラの点検・左右入換え・交換 ..	291
刈取作業後の手入れ	292
毎日の作業後	292
長期格納時	292

コンバインの不調と処置

わらが詰まる	294
自動エンジン停止装置がはたらいたとき ..	294
わら詰まりの取除きかた（左、右株元チェー ン合流部）	296
シャープピンが破損したとき	296
もみが詰まる	298
アンローダからもみが排出されないとき ..	298
その他	299
けん引フックについて	299

付表

主要諸元	300
付属部品	308
オプション（別売品）（純正品を使いませ う）	308
スイスイデバイダ	308
自動方向制御装置	308
刈取スタンド	308
刈取り防じんカバー	308
種子用交換部品	309
キャノピ	309
無線アンローダリモコン	309
バックミラー	309
カッタ後部標準結束機	309
カッタ後部ストンパ結束機	309
スクリュ式拡散装置	309
電動ドロップ	309
消耗部品（純正部品を使いましょう） ..	310
クボタ純オイル	327
オイルはクボタ純オイルをお使いください。	327
クボタスペアグリース	327

索引

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で▲危険・▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

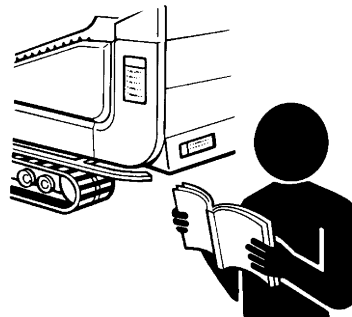
◆ 一般的な注意事項

▲取扱説明書及び機械に貼付けている▲表示ラベルをよく読み、正しい運転、作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。

[守らないと]

死亡又は傷害を負うおそれがあります。



1BBAAAAAP0280

▲体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は、機械の運転操作を行なわないでください。
 - ・ お酒を飲んでいる方
 - ・ 睡眠不足の方
 - ・ 妊娠中のご婦人
 - ・ 過労、病気の方
 - ・ 16 歳未満の方



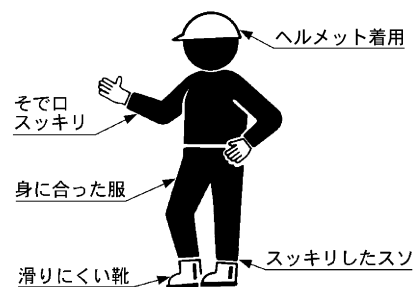
1ARAEABAP0420

[守らないと]

思わぬ事故の原因になります。

⚠ 運転者、補助者とも作業に適した服を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き、首巻き、腰タオルは着用しない。
- サンドル、スリッパなどの履物は着用しない。
- ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などを必要に応じて着用する。



1ARAEABAP0450

【守らないと】

レバーや作動部に引っかかったり、滑ったりして、傷害を負うおそれがあります。

⚠ 取扱説明書及び ⚠ 表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

- 機械を他人に貸すとき、運転させるときは、取扱説明書を読ませるとともに、取扱方法や安全な使いかたを説明して、安全な作業ができるよう指導する。



1AAACAAAP008A

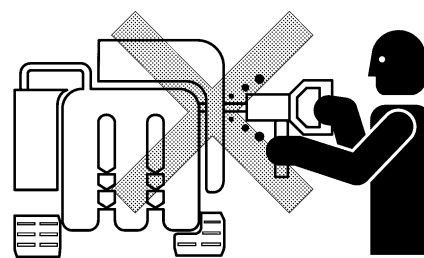
【守らないと】

死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

⚠ 機械を改造しない。

【守らないと】

安全性をそこない、思わぬ事故の原因になります。



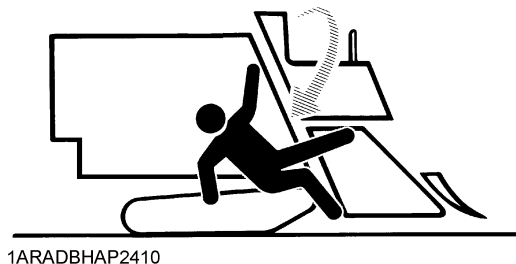
1ARABAHAP0040

⚠ 運転席に乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしない。

- 平坦な場所でハンドルをしっかり握り、すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。

【守らないと】

転倒・転落し、傷害を負うおそれがあります。



⚠ 運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり、飛び降りたりしない。

【守らないと】

振り落とされたり、ひかれたりして、死亡又は傷害を負うおそれがあります。

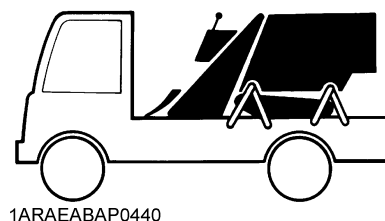


⚠ 公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は、所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は、トラックで運搬する。

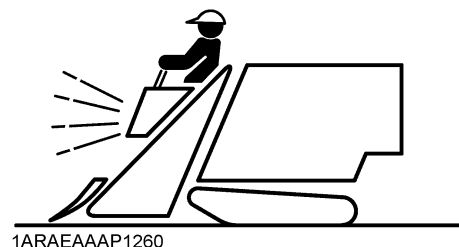
【守らないと】

交通事故をまねき、死亡又は傷害を負うおそれがあります。



⚠ 夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは、必ずヘッドランプを点灯し、作業灯は消灯させる。



【守らないと】

交通事故や転倒・転落をまねき、死亡又は傷害を負うおそれがあります。

◆ 作業前の注意事項

⚠ 屋内で運転するときは、排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

[守らないと]

エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。



1ARAEAAAP0560

⚠ 燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止める。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふきとる。

[守らないと]

火災の原因になります。



1AAACAAAP001A

⚠ 機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

- エンジンを始動するときは、運転席に座って、主変速レバーを【停止】位置、副変速レバーを【N】（中立）以外の位置にし、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にして、ホーンを鳴らすなどの合図をする。
- 機械を発進するときや脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは、ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。

[守らないと]

回転物に巻込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAEAAAP0780

- 初めて運転する人は、操作になれるまで低速で運転する。

[守らないと]

思わぬ事故の原因となります。



1ARAEABAP0580

⚠ 作業前点検（日常点検）を実施する。

■ 運転の前には点検項目（79 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

【守らないと】

整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。



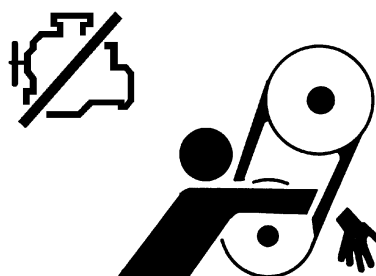
1ARAEABAP0460

■ 点検・整備・掃除・給油するときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜く。

■ 取外した安全カバー、保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

【守らないと】

回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

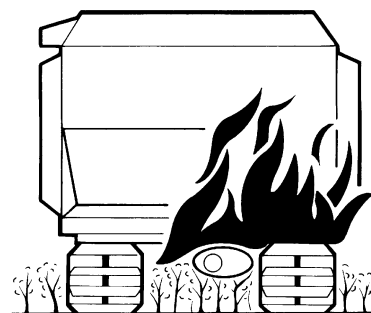


1ASADACAP4900

■ マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリー周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

【守らないと】

火災の原因になります。



1ARAEABAP0600

■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

【守らないと】

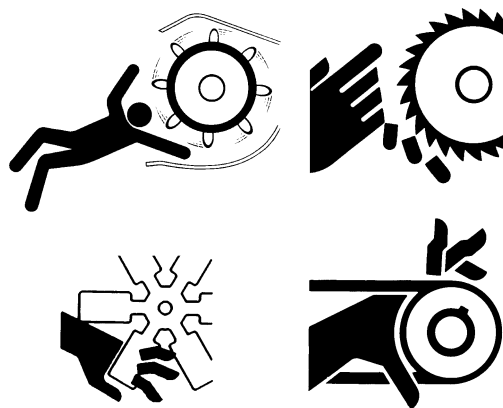
回転物に巻込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAEAAAP0780

⚠刈取部，引起し部，運転操作部，カッタ部，結束機，防じんカバー，グレンタンクを開閉するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- 各部の開閉を行なうときは平坦な場所で行なう。
- 刈取部，引起し部，カッタ部，グレンタンク，結束機を開いたときは，ストッパを掛ける。
- 各部を開いたままエンジンを始動しない。



1ARAAAAAP1130

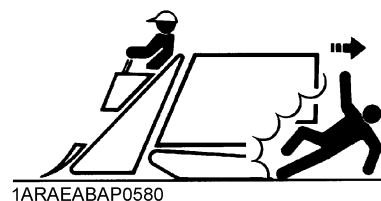
[守らないと]

内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

[SDSQ 仕様]

⚠後進するときは，バックモニタの液晶パネル画像だけを見ながらの運転操作はしない。

- 後進するときは，機械の周りに人や障害物などがないか，バックミラーや目視でも必ず後方の確認しながらゆっくりと運転操作を行なう。
- 夜間は視界が悪いため運転操作を行なうときは，特に機械の周りに人や障害物などがないか確認しながらゆっくりと運転操作を行なう。
- CCD カメラからバックモニタに写しだされる画像（広角映像）に慣れるまではゆっくりと慎重に運転操作を行なう。



1ARAEABAP0580

[守らないと]

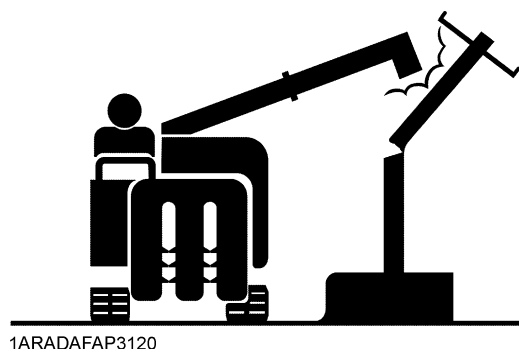
接触したり，ひかれたりして死亡又は，重大な傷害を負うおそれがあります。

[SDSQ 仕様]

◆ 移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

⚠ 移動走行するときは、次の事項を守る。

- 各作業クラッチ（脱こく・刈取、もみ排出）を【切】位置にし、運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出する。
- 副変速レバーを切換えるときは、平坦な場所で主変速レバーを【停止】位置にし、走行をいったん止めてから行なう。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取付ける。
- 補助デッキ、左分草かん、補助ステップを収納して、機体幅を狭くする。
- アンローダを下げ、アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。
- 旋回モード切換えダイヤルを、【ソフトターン】位置に切換える。

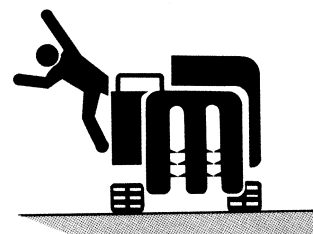


【守らないと】

人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠ 移動走行時は急旋回をしない。

- 方向を変えるときは、走行速度を落として（低速にして）、パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。



【守らないと】

機械から振り落とされたり、転倒するおそれがあります。

⚠ 坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- 坂道（傾斜地）では、急なパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、副変速切換えスイッチ、ポジピタスイッチ、ブレーキペダル、水平操作手動スイッチ、傾斜角手動調節スイッチ、旋回モード切換えダイヤル、旋回力アップトリガ、アンローダリモコンの操作はしない。
- 坂道（傾斜地）では、斜め走行や旋回はしない。

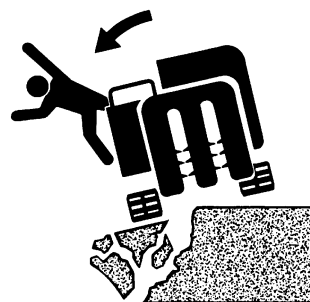


【守らないと】

暴走したり、転倒するおそれがあります。

⚠ 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は、走行しない。

- 溝のある農道や、両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝、穴、土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど、地面のよく見えないときは、事前に降車してよく確かめる。



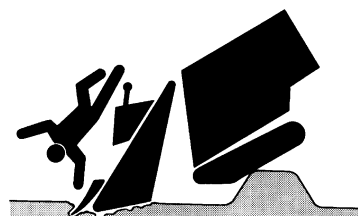
1ARAEABAP0500

[守らないと]

機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

⚠ ほ場の出入りで、段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- グレタンク内のもみはすべて排出する。



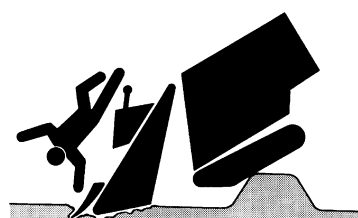
1ASABAAAP3710

[守らないと]

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠ あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

- 10cm以上のあぜ、又はコンクリートのあぜは、段差の4倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- グレタンク内のもみはすべて排出する。



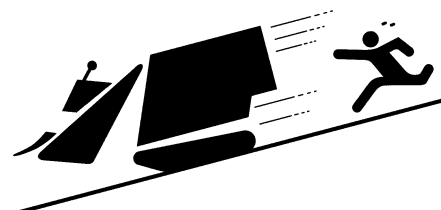
1ASABAAAP3710

[守らないと]

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠ 駐車するときや運転席を離れるときは、平坦な場所に止め、副変速レバーを【作業・走行】又は、【畦越え】位置にし、駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当たるまで降ろして、エンジンを必ず止めて、キーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは、さらに木片などで確実に車止めをする。



1ARAEAAAP1290

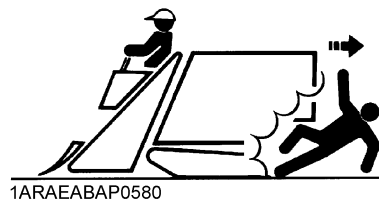
[守らないと]

機械が暴走し、思わぬ事故のおそれがあります。

◆ 作業時の注意事項

⚠ 共同作業するときは、ホーンなどで合図を行なう。

- エンジン始動時、及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは、ホーンなどで合図し、必ず補助者の OK をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは、運転者に知らせることを徹底させる。

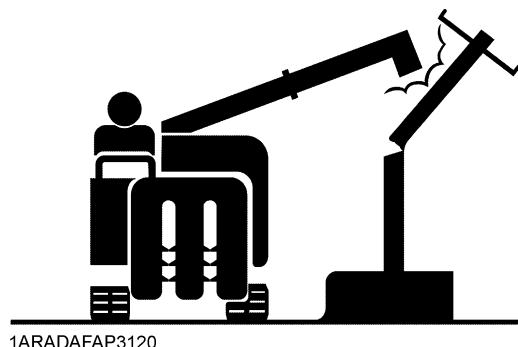


【守らないと】

補助者は運転席から見えにくい位置にすることがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠ アンローダを動かすときは、旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。

- 旋回範囲に人がいたり、障害物があるときは、アンローダを動かさない。
- アンローダは、アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。



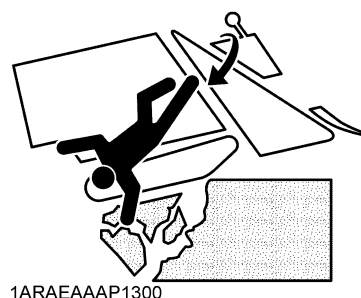
【守らないと】

人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠ すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

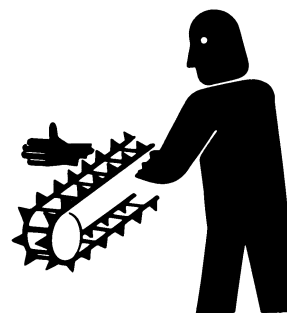
【守らないと】

後退し過ぎると、転倒・転落するおそれがあります。



⚠ 手こぎ作業するときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして、少量ずつ供給する。

- 機械は平坦な場所に止めて、刈取部を止め、駐車ブレーキを掛ける。
- そで口はきっちり止めて、手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。
- 刈取防じんカバー付きの機械は、刈取防じんカバーを開ける。
- 刈取クラッチを【切】にして、枕こぎ台の上にわらを乗せて手刈り脱こくを行なう。
- 脱こく部入り口にたまった、わらやもみなどを脱こく部に押込むときは、チェーンに手や腕が巻込まれないように、少量ずつ押し込む。



1ARAEABAP0570

【守らないと】

チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 異常に気づいたら、すぐエンジンを必ず止めて、キーを抜く。

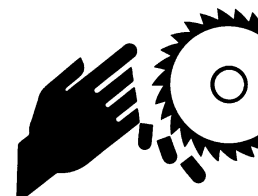
- わらの巻付きや詰まりを取除くときや、もみの点検・掃除をするときは、各作業クラッチ（脱こく・刈取、もみ排出）を【切】位置にし、エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは、厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。
- 引起し部を上げて刈取部に詰まったわらなどを取除くときは、下降防止のロック金具を掛ける。



1ARAEAAP0460

【守らないと】

カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0550

⚠点検や掃除で外したカバーは、必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー、及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

【守らないと】

内部の回転物に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



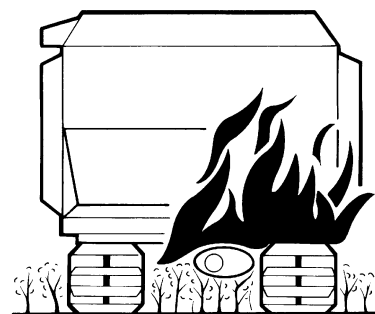
1ARAEAAP0460

◆ 作業後・格納時の注意事項

⚠ わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

【守らないと】

わらくずや枯れた雑草は燃えやすく、火災が発生するおそれがあります。

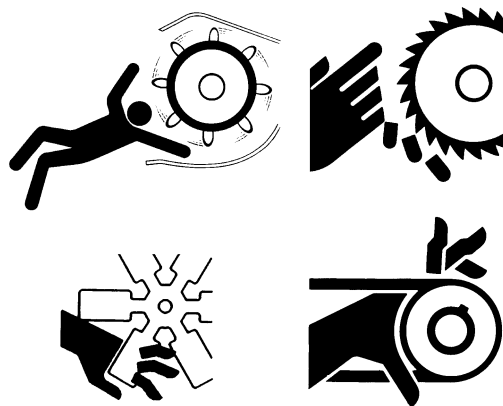


1ARAEABAP0600

⚠ 点検・掃除する前に、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜く。

【守らないと】

機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAAAAAP1130

⚠ 点検・掃除は、エンジン停止後、各部が冷えてから行なう。

- エンジン本体・マフラ・排気管は、エンジン停止直後は触れない。

【守らないと】

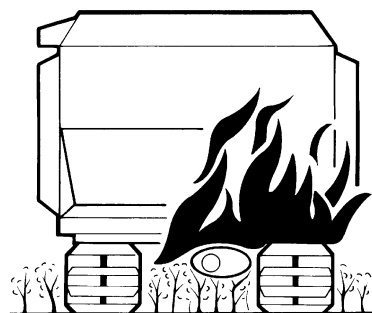
やけどを負うおそれがあります。



1AKADACAP1390

⚠ エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内，配線部，バッテリー周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

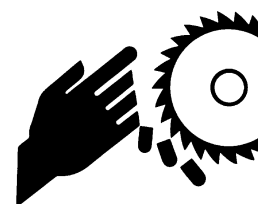
【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



1ARAEABAP0600

⚠ 掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

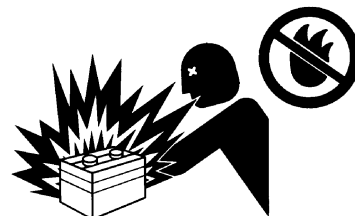
【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0550

⚠ バッテリーの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，バッテリーケーブルをショートさせない。

【守らないと】
バッテリーからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。



1ARAEABAP0110

⚠ ワイヤハーネスやバッテリーコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

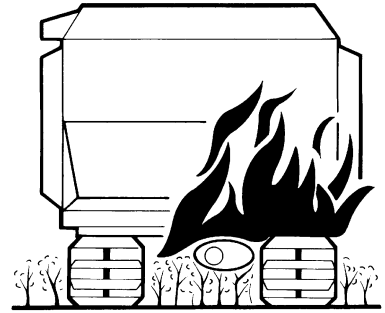
【守らないと】
ショートによる火災発生のおそれがあります。



1ARAEAAP0410

⚠ 機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから掛ける。

【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



1ARAEABAP0600

◆ 点検整備時の注意事項

⚠ 定期点検整備を行ない、各部の保守をする。

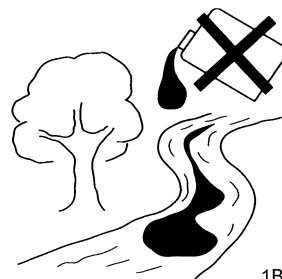
[守らないと]

整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。



⚠ 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しない。

- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしない。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理する。



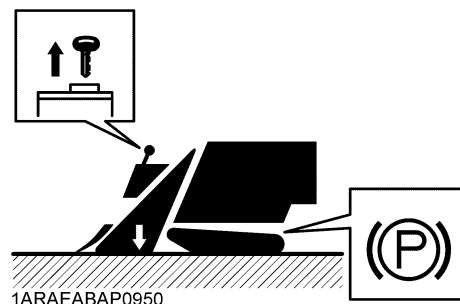
[守らないと]

環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

⚠ 各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは、平たんな場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜き、各クラッチを[切]位置にして、駐車ブレーキを掛ける。

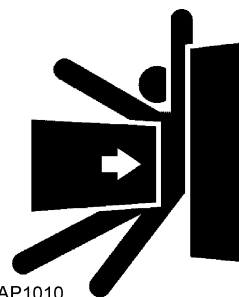
[守らないと]

機械に挟まれたり、巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



⚠ 刈取部，引起し部，カッタ部，結束機，グレンタンクを開いたときは，ストッパで固定する。

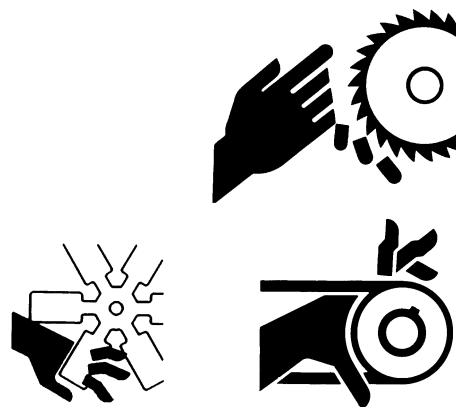
[守らないと]
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP1010

⚠ 刈取部，引起し部，運転操作部，カッタ部，結束機，防じんカバー，グレンタンクを開いたままエンジンを回さない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



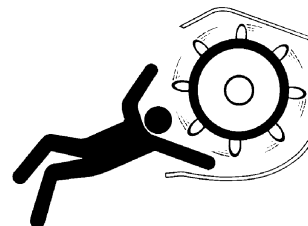
1ARAEASAP5490

⚠ こぎ胴を開いて点検・整備・調整を行なうときは，こぎ胴を最上昇位置又は，詰まり除去位置で停止し，エンジンを必ず止めてメインスイッチのキーを抜く。

[守らないと]
● 機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。
● 内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



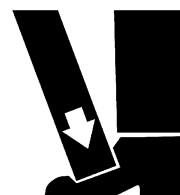
1ARAEABAP1010



1ARAEASAP5480

⚠ シーブケースや切断軸アッシ，結束機など重量物の脱着作業は，3人以上で行なう。

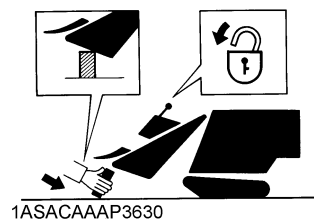
[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。



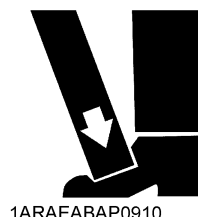
1ARAEABAP0910

⚠ 刈取部を上げる又は、開いて点検・整備・掃除するときは、刈取部をロックするとともに、落下防止の歯止めをする。

- 作業前に、エンジンを必ず止めて、駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしない。
- 刈取部を開くときは、平たんな場所で自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。



【守らないと】
機械にはさまれて、傷害を負うおそれがあります。



⚠ 刈刃、カッタ刃、わら切刃を調整・交換するときは、手袋を着用し、直接刃先に触らない。

【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。



⚠ 取外したカバー類は、必ず取付ける。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



⚠ バッテリーを取外すときは、最初にマイナス（－）側のケーブルを取外す。

- バッテリーの近くに裸火（マッチ・ライター・タバコの火など）を近づけたり、バッテリーケーブルのショートによるスパークをさせない。
- バッテリーを取付けるときは、最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。



1ARAEABAP0110

【守らないと】

ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

⚠ バッテリーは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。【補水タイプ】

- バッテリー液が不足していれば、すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリーにブースタケーブルなどを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従う。



1ARAEABAP0130

【守らないと】

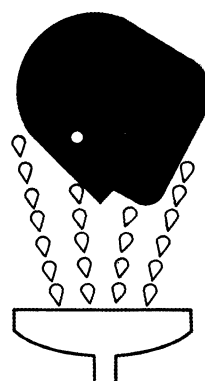
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。

⚠ バッテリー液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは、すぐ水でよく洗った後、医師の治療を受ける。
- 皮ふ、衣服についたときは、すぐ水でよく洗う。

【守らないと】

失明やヤケドのおそれがあります。

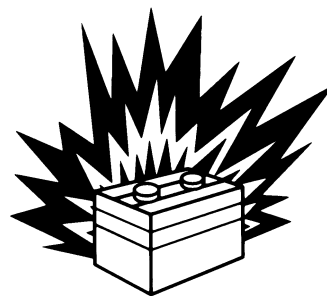


⚠ 指定外のバッテリーは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリーを使用する。

【守らないと】

思わぬ事故が発生するおそれがあります。



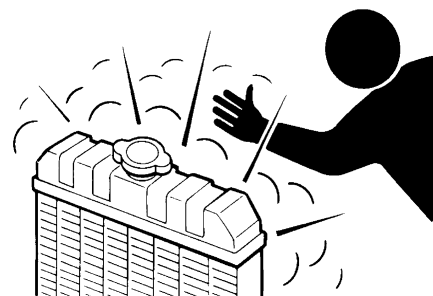
1ARAEABAP0120



1ARAEABAP0620

⚠ ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは、エンジンが冷えてから開ける。

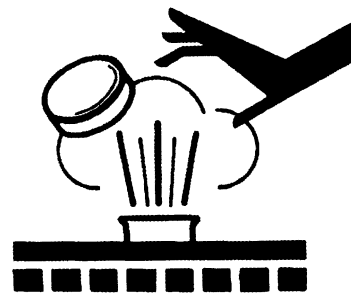
- エンジン停止後、30分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。



1ARAEABAP0050

【守らないと】

熱湯や蒸気が吹き出して、ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0160

⚠ 燃料ホース、ラジエータホース、オイルドレンホースは、2年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので、定期的に交換する。

【守らないと】

燃料や熱湯がもれて、火災やヤケドを負うおそれがあります。



1AAAAABAP0240



1ARAEABAP0970

⚠ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは、厚紙や板などを使って点検する。

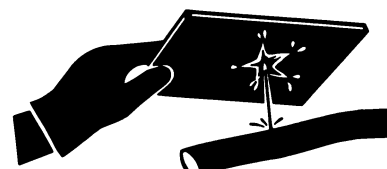
- 高圧噴油に直接手を触れない。もし、触れた場合は、直ちに医者への診断を受ける。



1BAACAAAP010A

【守らないと】

油が皮ふに侵入して、えそにかかるおそれがあります。

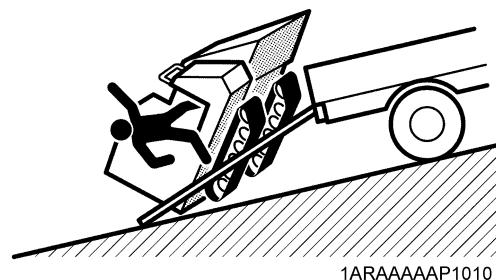


1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

⚠トラックへの積み込み・積降しは平坦地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキを掛け、トラックの変速レバーを **R（後進）** 又は、**1 速** に入れたあと、さらにタイヤに歯止めを行ない、トラックが動かないようにしっかり固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。



1ARAAAAAP1010

【守らないと】

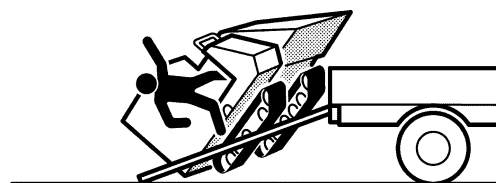
あゆみ板がずれたり、トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積み込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	70cm 以上
数 量	2 枚
強 度	1 枚が 3500kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック、すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。



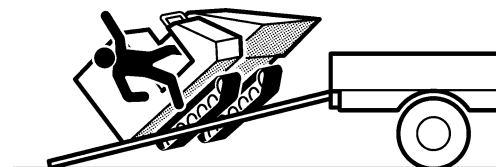
1ARAAAAAP1020

【守らないと】

あゆみ板がずれたり、外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積み込み・積降し前に、もみはすべて排出する。

- アンローダを下げ、アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。



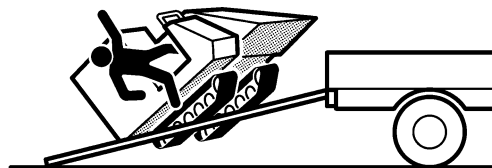
1ARAAAAAP1030

【守らないと】

バランスがくずれて、転倒・転落するおそれがあります。

⚠トラックへの積み込み・積降しは最低速で行なう。

- 各作業クラッチ（脱こく・刈取、もみ排出）を【切】位置にする。
- 積み込みは前進で、積降しは後進で行なう。
- 結束機を装着している機械は後進で積み込み、前進で積降しを行なう。



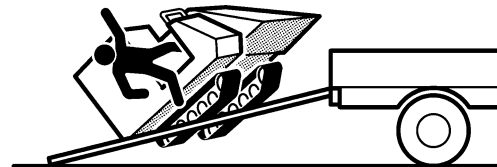
1ARAAAAAP1030

【守らないと】

バランスがくずれて、転倒・転落するおそれがあります。

⚠あゆみ板の上では方向修正しない。

- あゆみ板の上では、急なパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、副変速スイッチ、ポジピタスイッチ、ブレーキペダル、水平操作手動スイッチ、傾斜角手動調節スイッチ、旋回モード切換えダイヤル、旋回力アップトリガ、アンローダリモコンの操作はしない。
- 方向を変えるときは、いったん地上、又は荷台にもどって方向を修正し、再度やり直す。



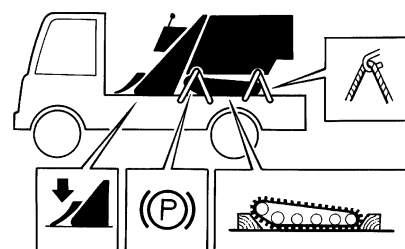
1ARAAAAAP1030

【守らないと】

急旋回したり、暴走して落下するおそれがあります。

⚠トラックの上では、刈取部を床に当たるまで降ろして、駐車ブレーキを掛ける。

- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。
- 副変速レバーを【作業・走行】位置又は【畦越え】位置にし、駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の【ロープ掛けフック（4箇所）】にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。



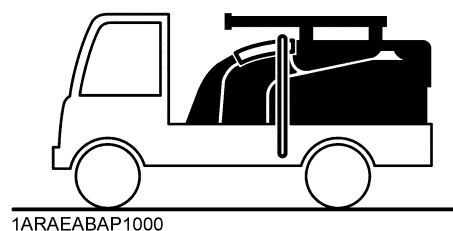
1AVAAAAAP2220

【守らないと】

機械が動き、思わぬ事故のおそれがあります。

⚠トラックに積んだときは、機体の各カバーを固定する。

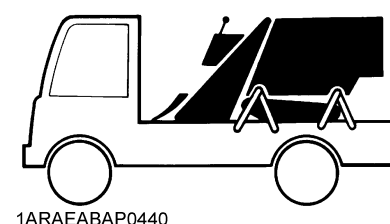
- 樹脂カバー・着脱の簡単なカバー・折りたたみ部品などは、ロープで確実に固定するか、外して荷台に置く。
- 刈取防じんカバーは閉じる。【刈取防じんカバー付】



【守らないと】
輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

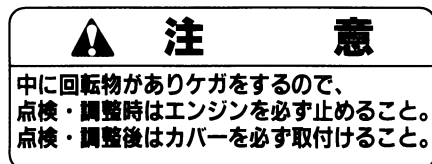
【守らないと】
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。



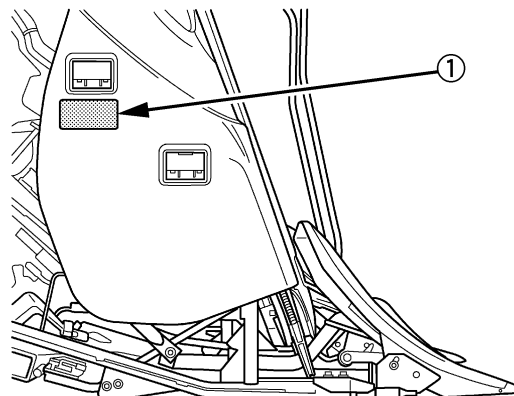
安全作業するための表示ラベル

■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番 5K190-6432-1

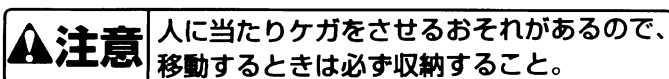


1ARADBEAP341J



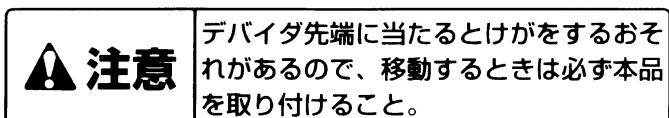
1ARAEASAP172C

②品番 5H601-4344-1

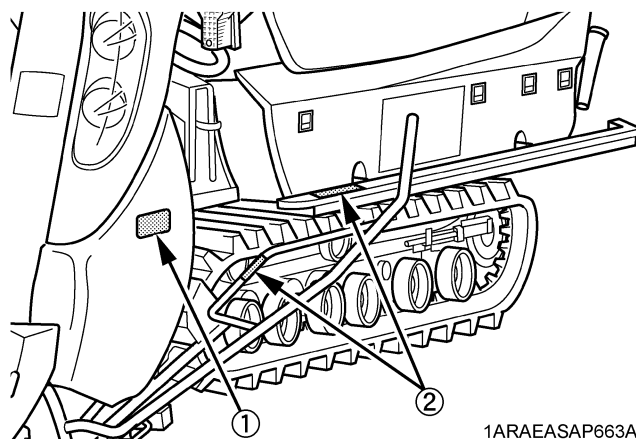


1ARADBEAP342J

③品番 59700-4332-2

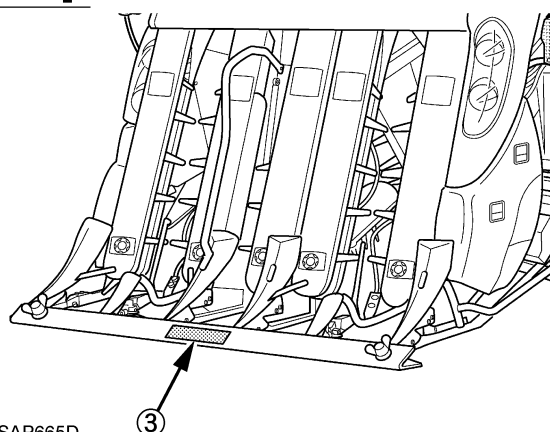


1ARADBEAP344J



1ARAEASAP663A

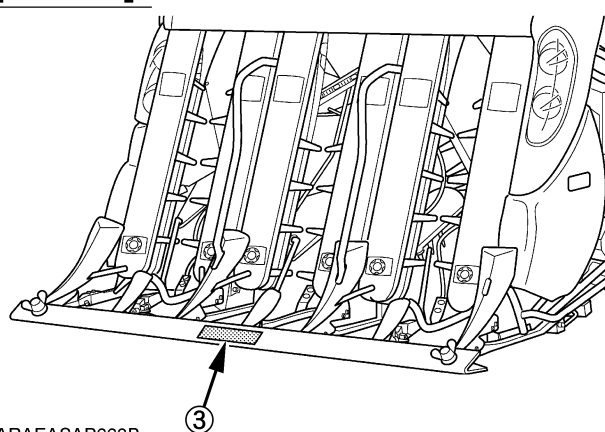
[572・587]



1ARAEASAP665D

[572・587]

[698・108]



1ARAEASAP663B

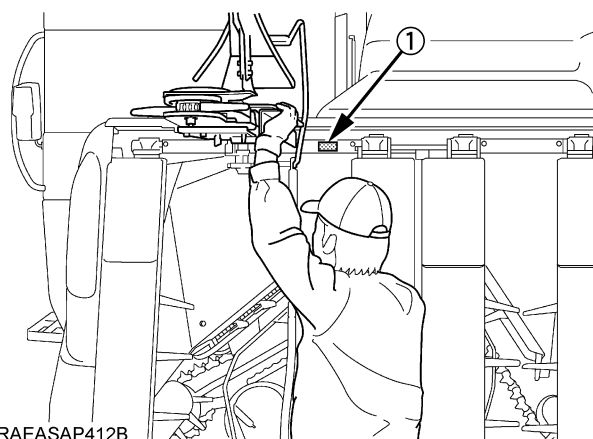
[698・108]

①品番 5H803-7925-1



1, 引起しオープン状態で、刈取部を回転させると非常に危険ですので、エンジンは絶対に始動しないこと。
2, 引起し装置が落下して身体がはさまれる恐れがあるので、ロック棒で必ず固定すること。

1ARAEASAP1820

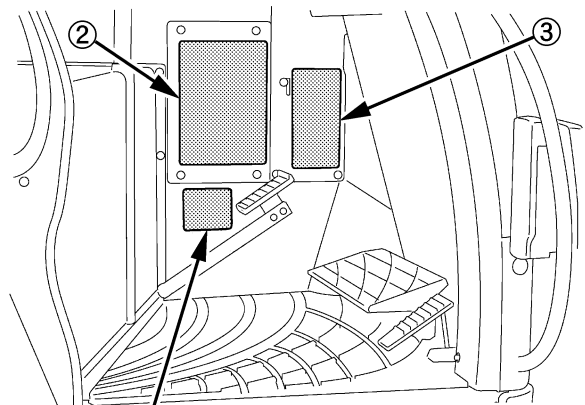


1ARAEASAP412B

①品番 5H801-4342-2

▲ 注 意	
	エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。
	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

1ARAEASAP1780



1ARAEASAP471A

※イラストはQ仕様除く

②品番 5H801-4348-1

▲ 注 意	
作業前 - 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。 - エンジンを始動するときは、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキペダルを踏み込み、各作業クラッチを「切」にすること。 - 屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒の危険があるので換気すること。 - ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。 移動・作業中 - 発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近付けないこと。 - 転落・転倒事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。 - 走行を停止するときは、主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。 ※ 主変速レバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので、ノブを握らないこと。 - 道路交通法規定により、トラック運搬時（特にキャビン付）は、地上高3.8m以下で運行すること。 - 刈取作業時以外（あぜ乗越時、移動走行時、運搬時、格納時）は、「もみ」をすべて排出または降ろして、各作業クラッチを「切」にし、M仕様（車体水平制御）は一番下げた状態にすること。 積込・積降ろし - 転倒・転落事故の危険があるので、車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。 - 積み込むときは前進で、降ろすときは後進にすること。 - 副変速を作業にし、エンジンの回転を落として（2000rpm以上）、低速にすること。 - あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。 - あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使用すること。 駐・停車 - 火災の危険があるので、機械を停止するときは、切りワラや雑草の上に止めないこと。 - 急発進・暴走の危険があるので、副変速レバーを切り換えるときは、平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし、駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。 - 機械から離れるときは、エンジンを止めて始動キーを抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。	

1ARAEASAP1800

③品番 5H801-4358-2

▲ 注 意	
- トラックへの積み降ろし中および、走行中に駐車ブレーキペダルを踏むと急に機体の向きが変わり、転倒・衝突のおそれがあるので踏まないこと。 - 駐車ブレーキをかけるときは、副変速レバーを必ず「N」以外の位置に入れること。 ※ 副変速レバーが「N」では、油圧ロックが作動しないため、坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。 - 坂道で駐車するときは、暴走を防ぐため、必ず車止めをすること。	
駐車ブレーキの取り扱い 主変速レバーを完全に停止位置に戻してから駐車ブレーキペダルをロックがかかるまで、強くいっばいに踏んでください。駐車ブレーキペダルを踏みながらレバーを上へ上げると駐車ブレーキが解除されます。路上走行時はロックレバーはAの位置に引き上げておいてください。	

1ARAEASAP4760

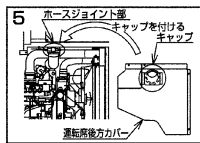
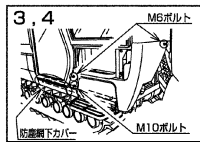
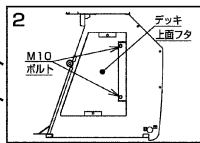
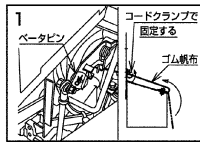
①品番 5H801-4371-6

注意

1. 運転席をオープンする際には、運転席が急に開くおそれがあるので、平坦で傾斜のない場所を選ぶこと。
 2. 運転席オープン状態では、高温部・回転部が剥きだしとなり、また暴走するおそれもあるので、エンジンをかけないこと。
 3. オープン収納時は、デッキ下のボルトやフレームのボルト等を確実に組み付けること。
- * 忘れると移動中運転席が動いて危険となるため。

運転席オープンの手順

1. 運転席と刈取部の間の下にある主変速連結部のペータピンを外して下さい。またマフラカバー上のゴム帆布を引き上げて、コードクランプで固定して下さい。
2. 運転席のデッキマットをめくり、デッキ上面フタを取り外して、運転席を主フレームに固定するM10ボルト2本を外して下さい。
3. 運転席デッキ下カバー（M6ボルト2本で固定）を外して下さい。また防塵網下のカバー（M6ボルト2本で下から固定）を外して下さい。
4. 運転席右前の主フレーム上にあるM10ボルト1本を外して下さい。
5. 運転席後方カバー（M6ボルト3本で固定）を外し、吸気ホースジョイント部のハーネスのキャップを外し、またホースバンドを緩めて吸気ホースを外して、パイプとホースそれぞれにキャップでフタをして下さい。
6. 運転席をしっかりと保持しながら機体右後方に引っ張って、運転席をオープンして下さい。オープンした後は、運転席右下の補助フレームに取り付けてある固定ピンで主フレームと固定して下さい。

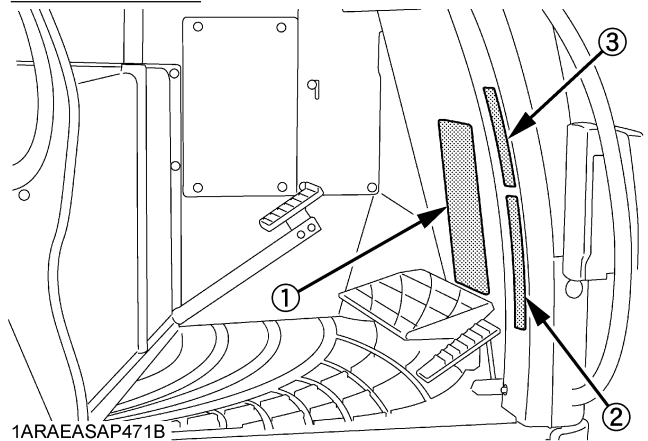


* 収納時は、取り外した吸気ホースやホースバンド、ボルトや部品等を確実に元通りに組み付けて下さい。

* 詳細は取扱説明書をご覧ください。

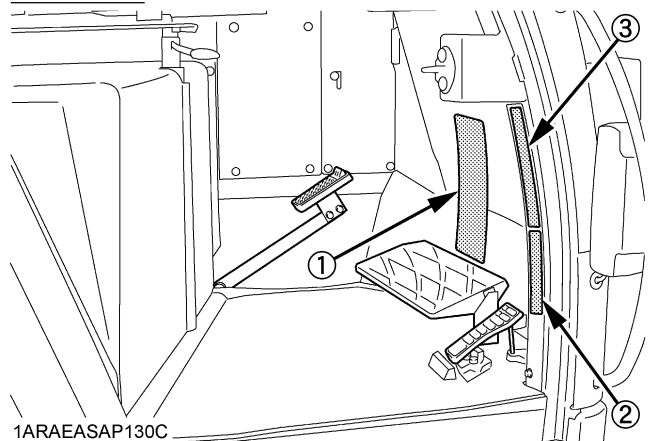
1ARAESAP6620

[Q仕様除く]



[Q仕様除く]

[Q仕様]



[Q仕様]

②品番 5H801-4323-2

③品番 5H801-4322-1

注意

刈取・脱コクONの作業状態では主変速レバーが停止位置にあっても、刈取かき込みペダルを踏むだけで、刈取部が回転するので、注意すること。



移動時の操作について

1. 移動時は、エンジン回転を2000rpm以上で使用して下さい。
2. 副変速「走行」での刈取作業は機械のトラブルの原因になりますので使用しないで下さい。

1ARAESAP1770

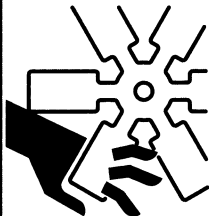
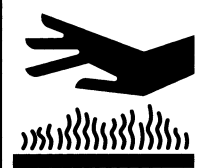
注意

刈取部を上昇して点検調整を行う時には、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。

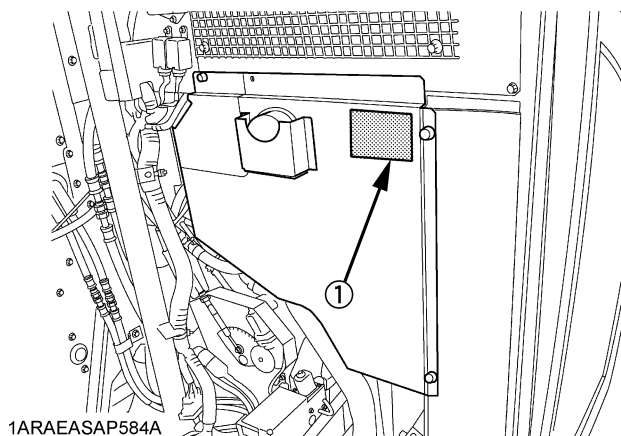


1ARAESAP1760

①品番 5H801-4342-2

 注 意	
	エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。
	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

1ARAEASAP1780

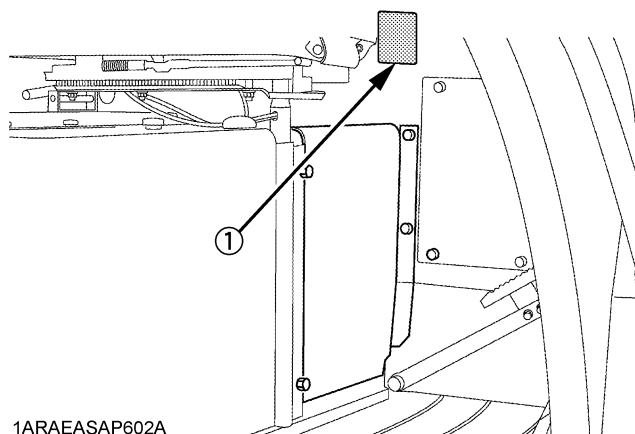


1ARAEASAP584A

①品番 5H801-4354-2

 注 意
坂道や歩みの上で、副変速レバーを操作すると、機械が暴走する恐れがあるので、絶対に操作しないこと。
副変速レバーの取扱い 畦の乗り越えや傾斜面上る時などで”作業・走行”段で上れない場合は運転席と刈取部との間にある副変速レバーを押し下げて”畦越え”段に切り換えて下さい。レバー操作は機械を一旦停車して行って下さい。レバー操作後は、変速段が確実に切り換わっていることを確認してから走行して下さい。 ・通常の作業や移動時には”作業・走行”段で使用して下さい。

1ARAEASAP4780



1ARAEASAP602A

[SD仕様 (Q仕様除く)]

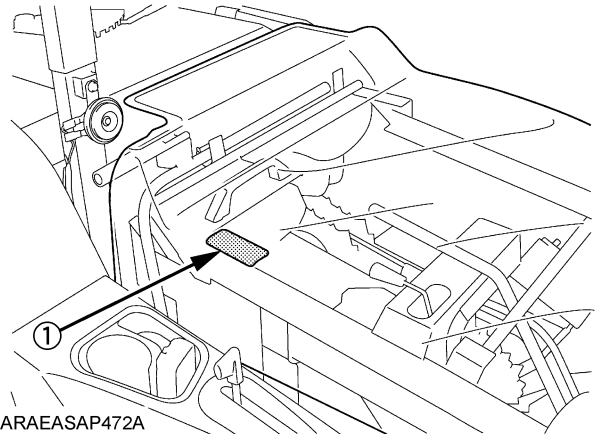
①品番 52000-7917-2



注 意

トラックで輸送するときは、風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、ボウジンカバーを閉じ、ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。

1ARAEAPAP010J



[SD仕様 (Q仕様除く)]

①品番 5H801-4343-1

注 意

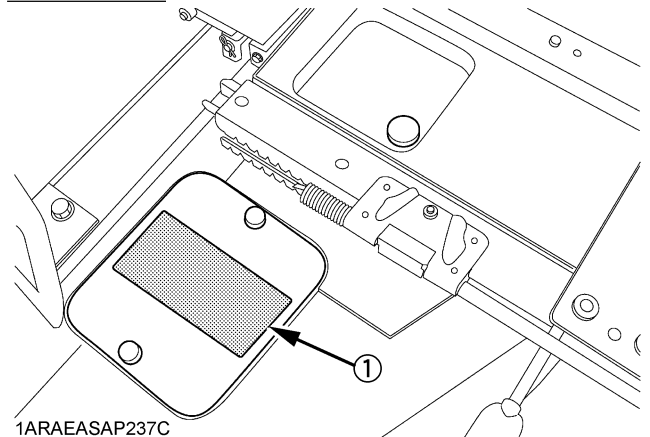


オーバーヒートで点検口を開いたり、運転席をオープンして、エンジンを点検・整備するときは、次の手順を守ること。

- 1 エンジンを止める。
 - 2 必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。
- エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

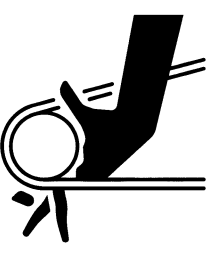
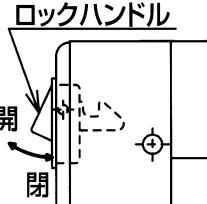
1ARAEASAP1790

[Q仕様除く]

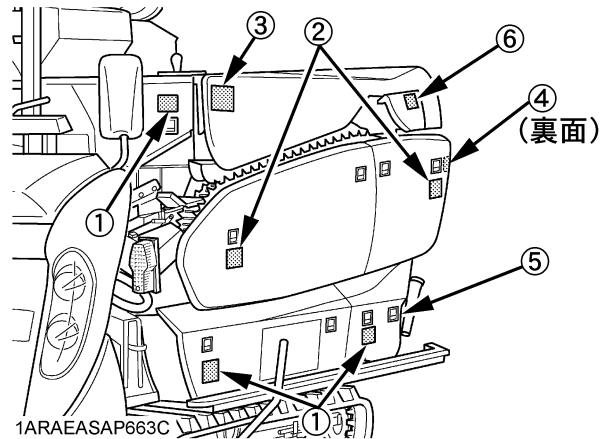


[Q仕様除く]

- ①品番 5K275-6433-1
②品番 5K275-6434-1

		1. 回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
	ロックハンドル 	1. カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。 2. ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

1ARADBLAP2740



- ⑤品番 52166-2575-1



注 意



火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油

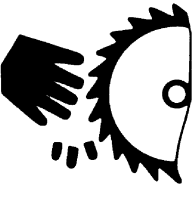
1ARADAKAP2290

- ③品番 53649-6435-1

	 警 告
	1. わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。 2. 手こぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれけがをするおそれがあるので、下記を守ること。 ・平坦な所で走行部・刈取部を止めること。 ・自動車体水平制御は必ず機体を一番下まで下げる。【M仕様】 ・防じんカバーを開くこと。【防じんカバー付き】 ・手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しずつ送り込むこと。

1ARADBEAP355J

- ④品番 5K275-6442-1

	警告
	

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。

2. チェーン・ベルトに接触すると、手をケガするので、手を絶対に入れないこと。

3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。

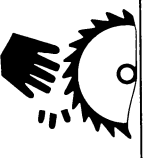
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。

5. 点検・調整、ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。

6. 点検・調整などが終わったら、カバーを元通りに必ず取り付けすること。

1ARADAKAP2310

- ⑥品番 5K190-6446-1

	警告
	1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。 2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。 3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

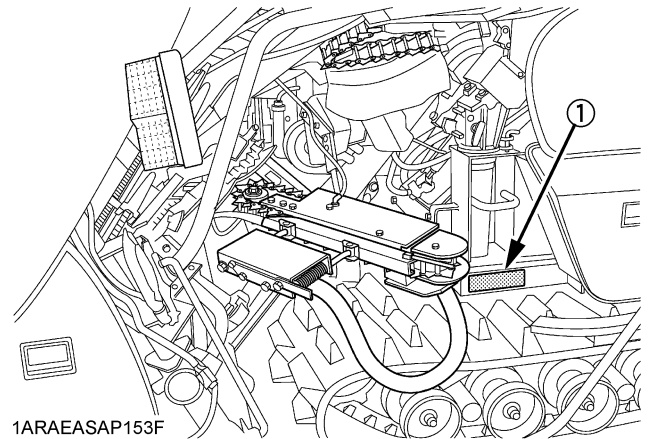
1ARAEAPAP016J

①品番 5H700-4367-1



1. 刈取オープン作業は平たんで安全な場所で、刈取部の昇降以外はエンジンを必ず止めて行って下さい。
2. 刈取部をオープンしたまま、走行しないで下さい。
3. 枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをして下さい。

1ARAEAOAP114J



1ARAEASAP153F

①品番 5G230-6314-1



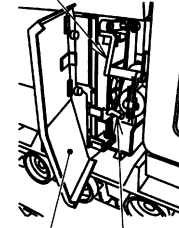
注 意

グレンタンクをオープンするときは、回転物に接触したり、タンクに身体がはさまれるおそれがあるので、平坦な場所で、内部の「もみ」を排出し、エンジンを停止してからオープンすること。

◆ タンクオープンのしかた

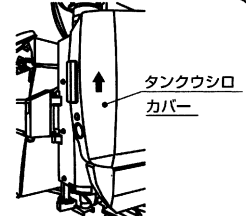
- 1) タンク内を空にしてエンジンを停止してください。
- 2) タンクサイドカバーの前端のフタを開け、タンク固定ピン1を解除してください。
- 3) タンクオープンレバーを持って手前に引き、タンクを開いてください。
開いた後はタンク後方に取り付けてあるタンク固定ピン2でタンクを固定して下さい。
- 4) タンクを閉じる時は上記の逆の順番で確実にタンクを固定してください。

タンクオープンレバー



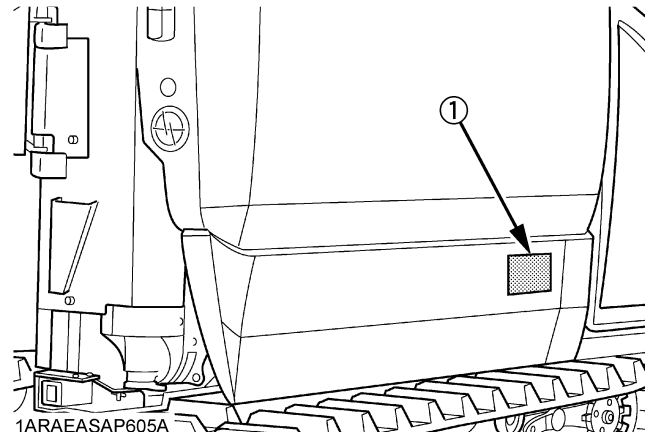
タンクサイドカバーフタ タンク固定ピン1

◆ タンクをオープンする時は、カッタを閉じてください。



- ◆ タンクウシロカバーを外すときは、矢印の方向に持ち上げてGタンク側板への固定用フックを外します。また、ランプのハーネス2箇所を外して下さい。

1ARAEASAP1750

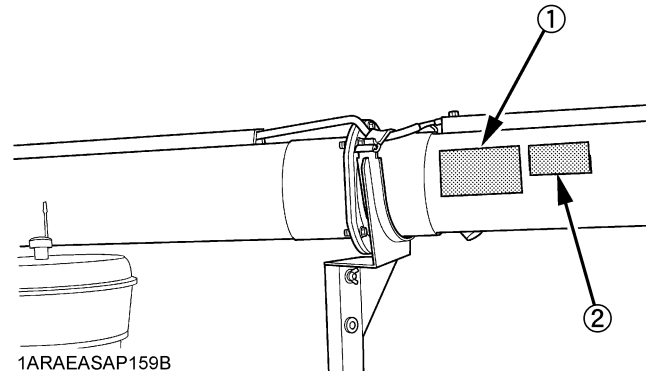


1ARAEASAP605A

①品番 5G200-7113-2

注	意
あぜ越え、移動走行時及びトラック等で輸送する場合、アンローダがササエから外れると人や物に当たり、ケガや損傷のおそれがあるのでアンローダは必ず、次の通りに収納固定すること。 1.アンローダササエを下げてセットする。 2.アンローダを収納する。 3.アンローダが浮き上がらないようバンドで確実に固定すること。	

1ARAEAPAP014J



1ARAEASAP159B

②品番 58071-8173-1

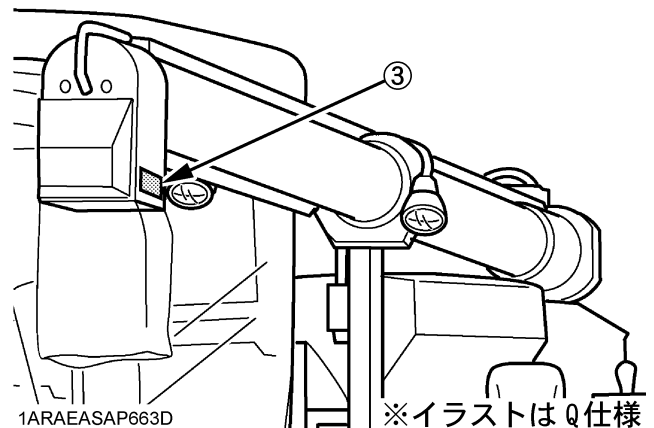
注意	1.手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、アンローダササエの上に手を置かないこと。	2.アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないこと。
----	--	---

1ARAEAPAP011J

③品番 5G200-6425-1

注意	余裕 袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。 アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。
----	---

1ARADBEAP366J



1ARAEASAP663D

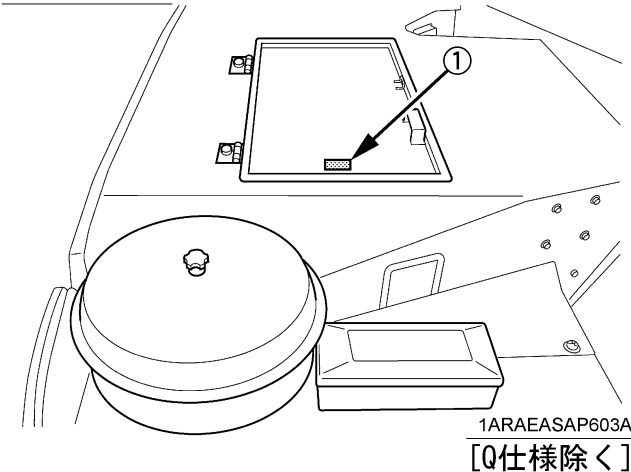
①品番 53690-3129-2

▲ 注意

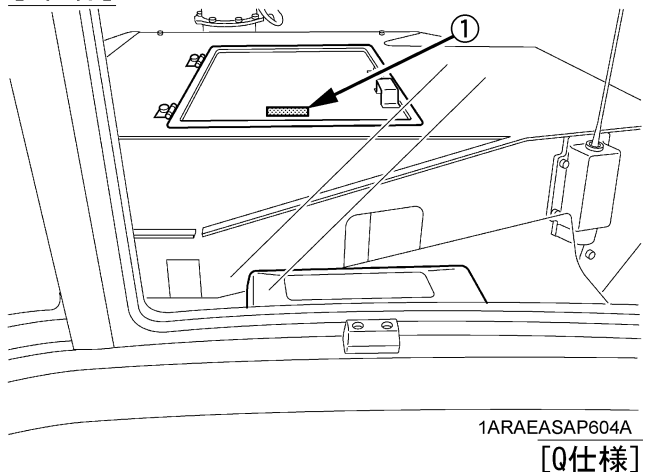
中に回転物がありケガをする
おそれがあるので、運転中は
絶対に手を入れないこと。

1ARAEAPAP012J

[Q仕様除く]



[Q仕様]



①品番 53981-6434-1



注意

掃除口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP369J

②品番 58071-8174-1

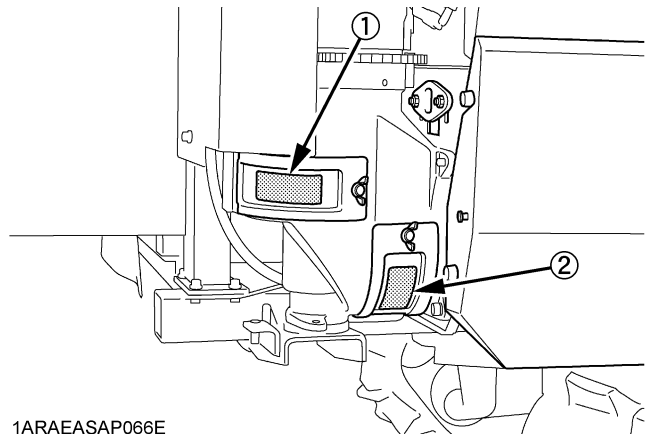
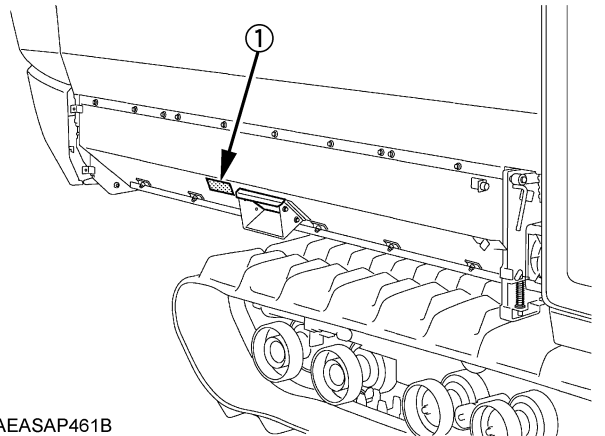


注意

掃除口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP368J



①品番 58071-8174-1

⚠
注 意

掃 除 □

中 回 転 物 が あ り け が を す る の で 、
 清 掃 時 は エ ン ジ ン を 必 ず 止 め る こ と 。
 清 掃 後 は フ タ を 必 ず 閉 じ る こ と 。

1ARADBEAP368J

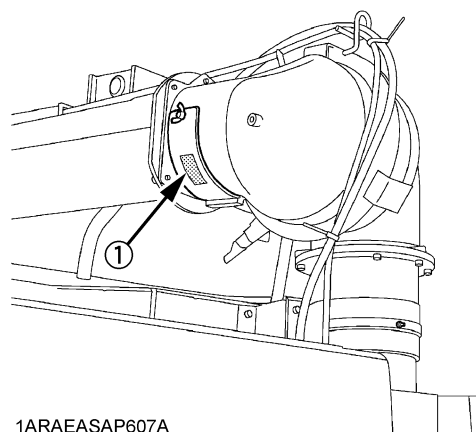
②品番 5K190-6461-1

⚠
注 意

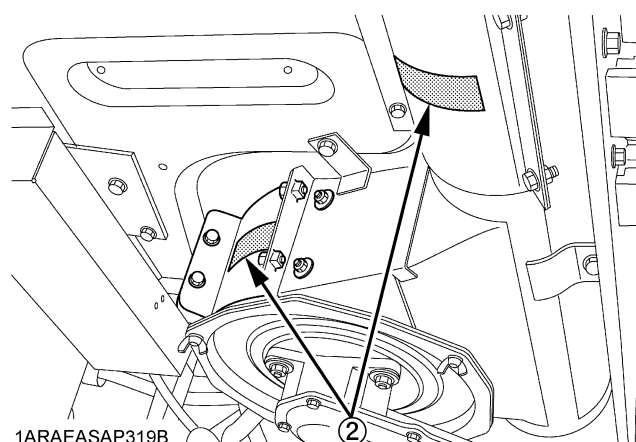
掃 除 □

中 回 転 物 が あ り け が を す る の で 、
 清 掃 時 は エ ン ジ ン を 必 ず 止 め る こ と 。
 清 掃 後 は フ タ を 必 ず 閉 じ る こ と 。

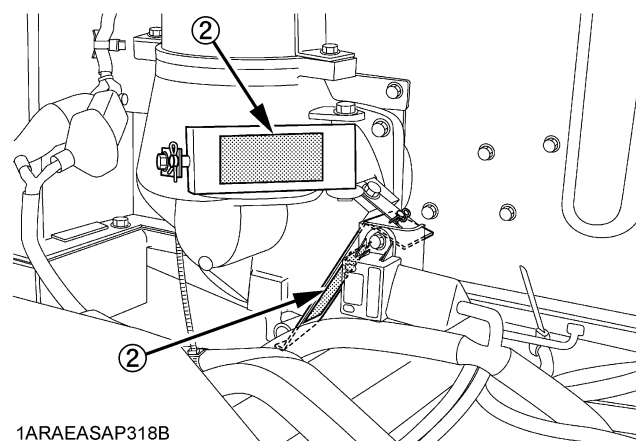
1ARADBEAP369J



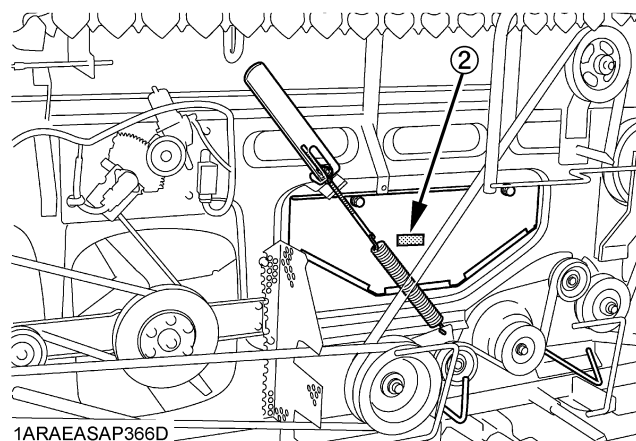
1ARAEASAP607A



1ARAEASAP319B



1ARAEASAP318B



1ARAEASAP366D

①品番 5K116-6421-3

▲ 注意

シーブケースは重いので脱着作業は3人以上で行うこと。

プレート (A) の使用方法

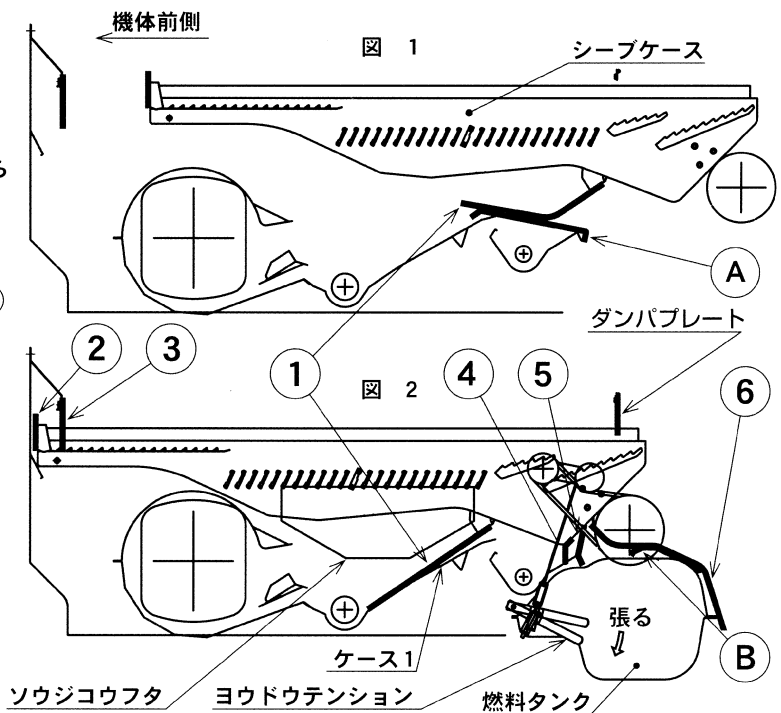
- ・プレート (A) をグレンタンク下側の収納場所から取り外して下さい。
- ・シーブケースをセットする前にプレート (A) を図1の様にセットして下さい。
- ・ハンブ (1) を図1の様にプレート (A) の上に乗せシーブケースを入れて下さい。ハンブ (1) のセットが簡単になります。

必ずして下さい

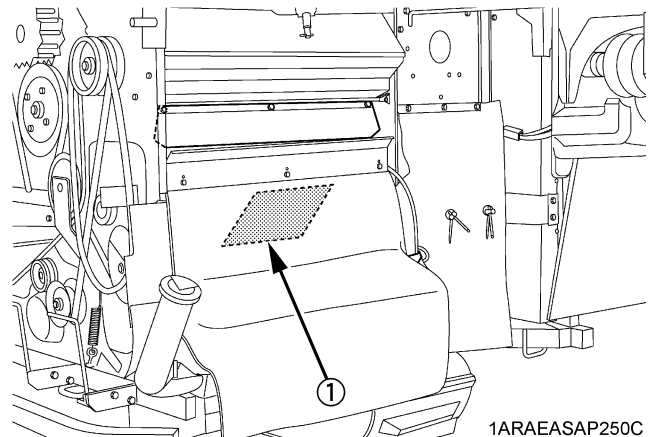
- ・シーブケース取り付け後はハンブ (2) はハンブ (3) の前、ハンブ (1) はケース1の上にあることをソウジコウフタを開いて確認して下さい。また、ハンブ (4)、ハンブ (5)、ハンブ (6) は図2の様にセットして下さい。
- ・プレート (A) を取り出しグレンタンク下側の収納場所にセットして下さい。
- ・ヨウドウテンションを忘れないように張り側へセットして下さい。
- ・ダンバプレート及びプレート (B) を図2の様にセットして下さい。

必ずして下さい

- ・シーブケースを抜き出す時はダンバプレート及びプレート (B) を外して下さい。



1ARAEASAP1830

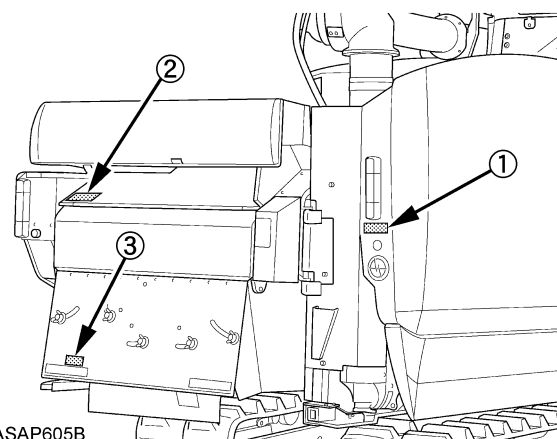


1ARAEASAP250C

①品番 5K190-6432-1

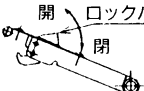
 注 意
中に回転物がありケガをするので、 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J



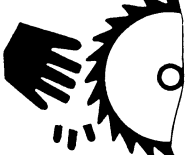
1ARAEASAP605B

②品番 57691-5166-1

 警告	1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。 2. 点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。 3. 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと。
	
 開 ロックハンドル 閉	1. このカバーを開ける場合、ロックハンドルを必ず「閉」位置にすること。 2. ロックが確実にされていないと、エンジンをかけ脱こクラッチを入れるとエンジンが停止します。

1ARADBEAP372J

③品番 57691-5315-1

 警告	1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。 2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
	

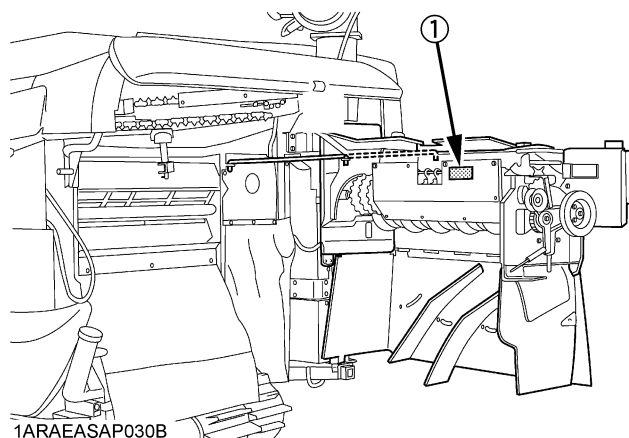
1ARADBEAP373J

①品番 57745-5124-1



1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。

1ARADBEAP374J



1ARAEASAP030B

①品番 3P200-9892-2

105E41R

ハイドロメーターの見方

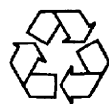
良好



要充電



要点検



使用済バッテリーは再生資源として利用(リサイクル)されます



火気禁止



メガネ着用



こども禁止



腐蝕注意



爆発注意

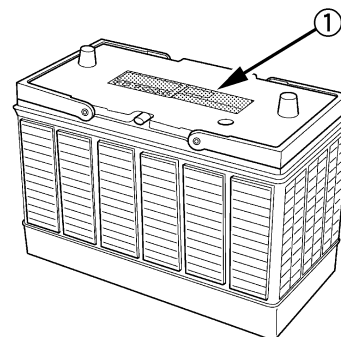


明火厳禁

危険

- バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火・爆発のおそれがあります。
- この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
- 充電は風通しのよいところで、ショートやスパークをさせないでください。
- ブースターケーブルの使用は車両またはバッテリーの取扱説明書をお読みください。
- バッテリー液(希硫酸)で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
- バッテリー液注入済(横倒し厳禁 液漏れ注意)
- 充電時火気厳禁 ●急速充電厳禁 ●開封厳禁(密封タイプ)

1AGADALAP255J



1ARAEASAP038C

①品番 16667-8724-1

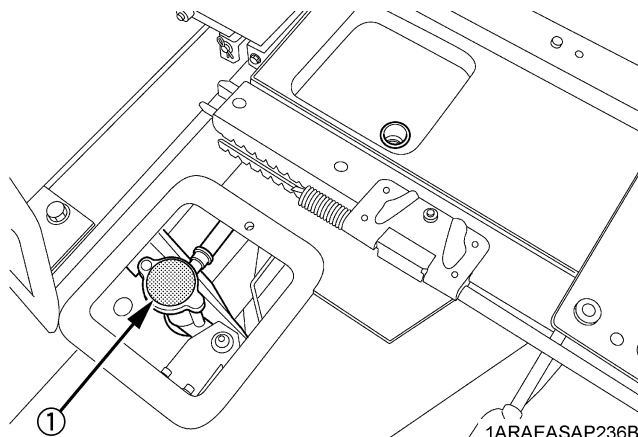
注意

危険、熱い時あけるな。

CAUTION

DANGER, never open
When hot

1ARADBEAP376J



1ARAEASAP236B

表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守る

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにする。
-  表示ラベルがよごれた場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布でふく。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので、高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替える。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全にふき取り、乾いた後、もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので
使用前によくご覧ください。

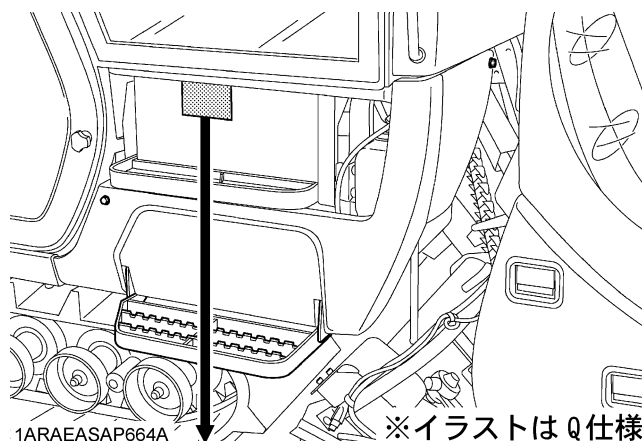
◆ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ【ご相談窓口】を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際

1. 販売型式・区分と車台番号
2. とう載機関（エンジン）の型式名と機関番号をあわせてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

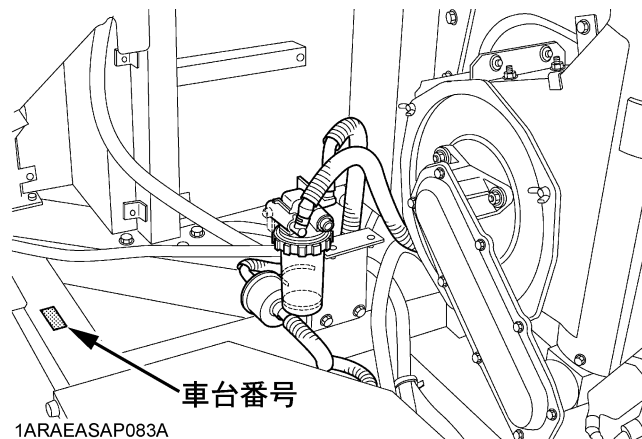
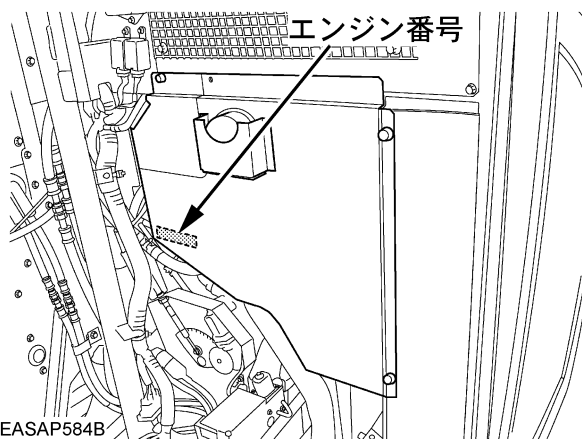


農業機械の種類		コンバイン（自脱型）	
農機型式名	クボタ		
商品名			
区分			
車両型式名	クボタ		
車台番号			
刈取条数			条
とう機型式名	クボタ		
機関番号			
最大出力		kW/	rpm
無負荷最高回転速度			rpm
製造元	株式会社クボタ		



警告

*** 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。**



サービスと保証について

◆ 認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は、下記の型式名及び番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車	
			車両型式名	型式認定番号
ER572 [Q仕様除く]	クボタ R0706	32198	クボタ KDN-C515	—
ER572 [Q仕様]				農 3247
ER587 [Q仕様除く]	クボタ R0705	32197	クボタ SB-C513	—
ER587 [Q仕様]				農 3166
ER698 [Q仕様除く]	クボタ R0704	32196	クボタ SB-C609	—
ER698 [Q仕様]				農 3164
ER108 [Q仕様除く]	クボタ R0703	32195	クボタ EDR-C608	—
ER108 [Q仕様]				農 3163

補 足

* 届出には型式認定番号が必要ですが、車台番号（打刻）で代用することができます。

◆ 補修用部品の供給年限について

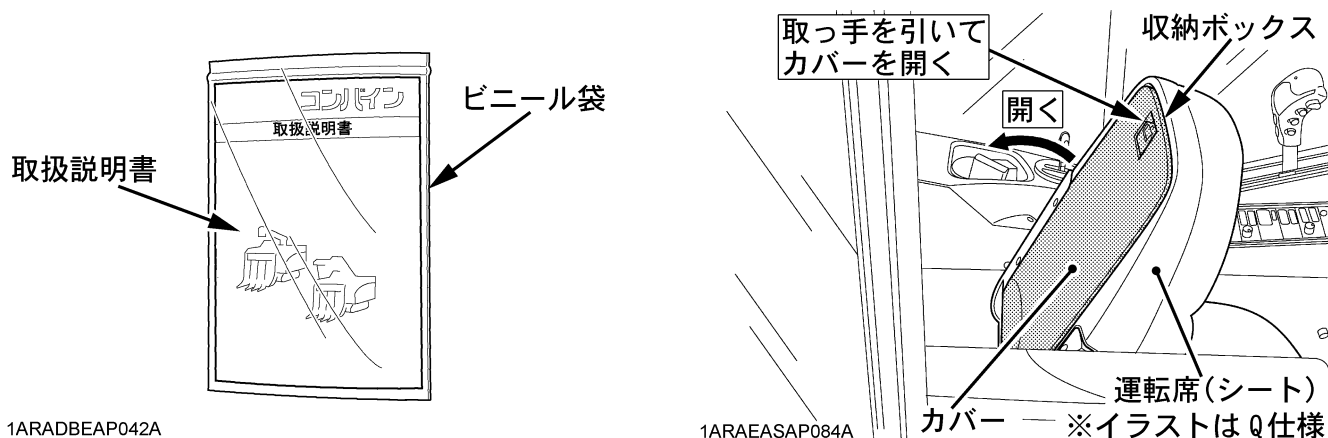
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆ 取扱説明書の収納場所について

本冊子を付属部品のビニール袋に入れたあと、運転席（シート）裏側にある収納ボックスに本冊子を収納して、常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）



小型特殊自動車について

このコンバインは、道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。



警告

*** 道路を走行するときは、小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。**



注意

- * 作業灯は【道路運送車両の保安基準】第 42 条（灯火の色等の制限）において、【走行中に使用しない灯火】とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されています。**
- * このコンバインは、小型特殊自動車で道路運送車両の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。**

1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は、一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では、道路走行することはできません。
4. 結束機、ドロップ、スイスイデバイダなどを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは、トラック輸送（96 ページ参照）してください。（カッタは、装着したままで走行できます。）

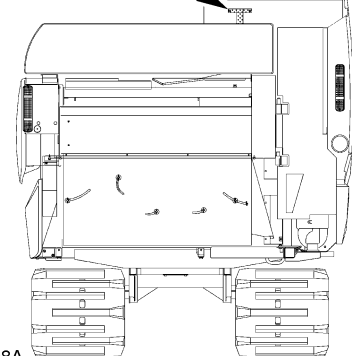
◆ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得を市町村役所に届け、標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。

標識（ナンバプレート）取付け位置
（付属部品）



1ARA-EASAP608A

補 足

- * 付属品箱の中にあるステー（ナンバプレート）を組付要領書を参照して、ボルト 2 本で取付けてください。**

◆ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

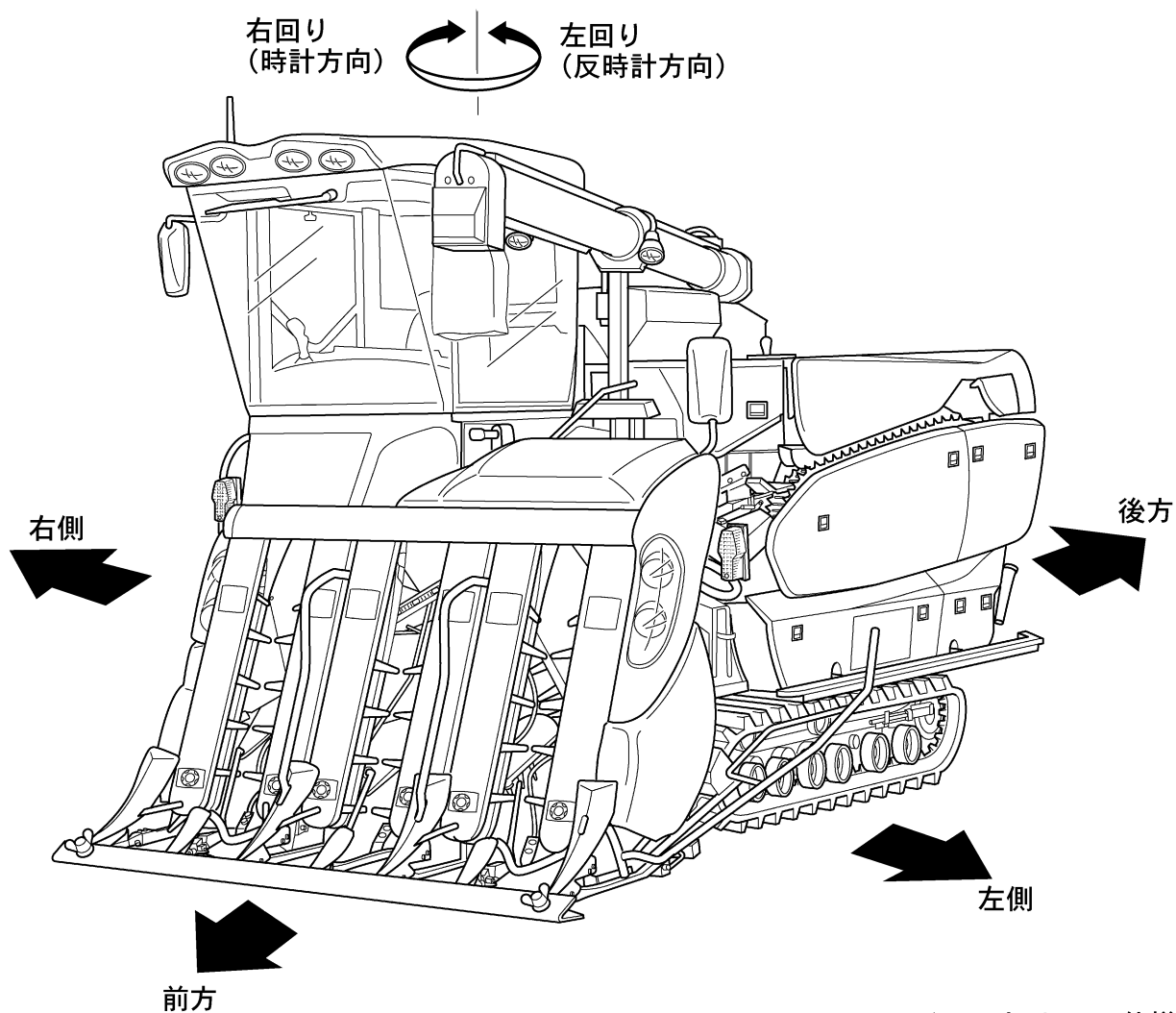
◆ 運転免許証の携帯

公道走行時は、大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は、図示の通りです。



1ARAEASAP663E

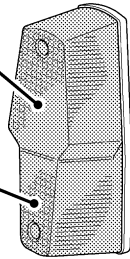
※イラストは 108Q 仕様

装置の名称とはたらき

〔方向指示器・車幅灯〕〔前側〕

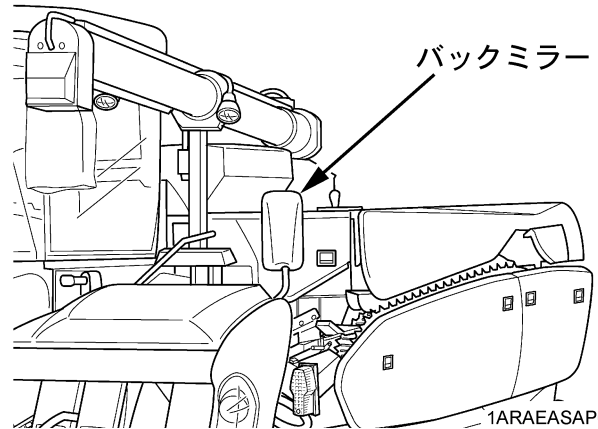
方向指示器
(ウインカランプ)

車幅灯



1ARADBEAP626A

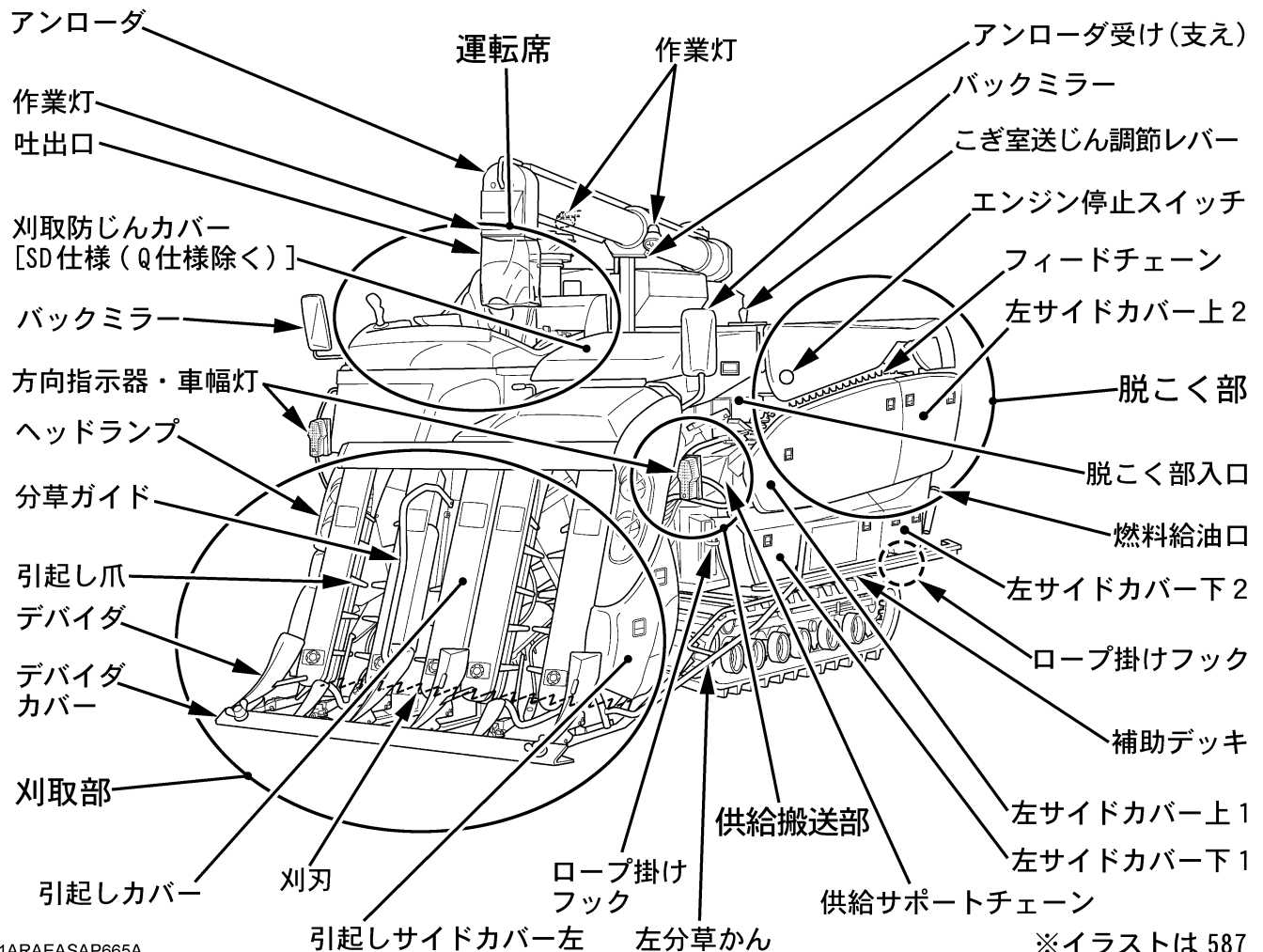
〔Q仕様〕



バックミラー

1ARAEASAP663F

〔Q仕様〕



1ARAEASAP665A

※イラストは 587

- **運転操作部**..... エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**..... 作物の引きしと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**..... 刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**..... 作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**..... グレンタンクからもみを排出する筒

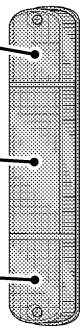
装置の名称と取扱い

〔方向指示器・尾灯兼制動灯・後退灯〕〔後方〕

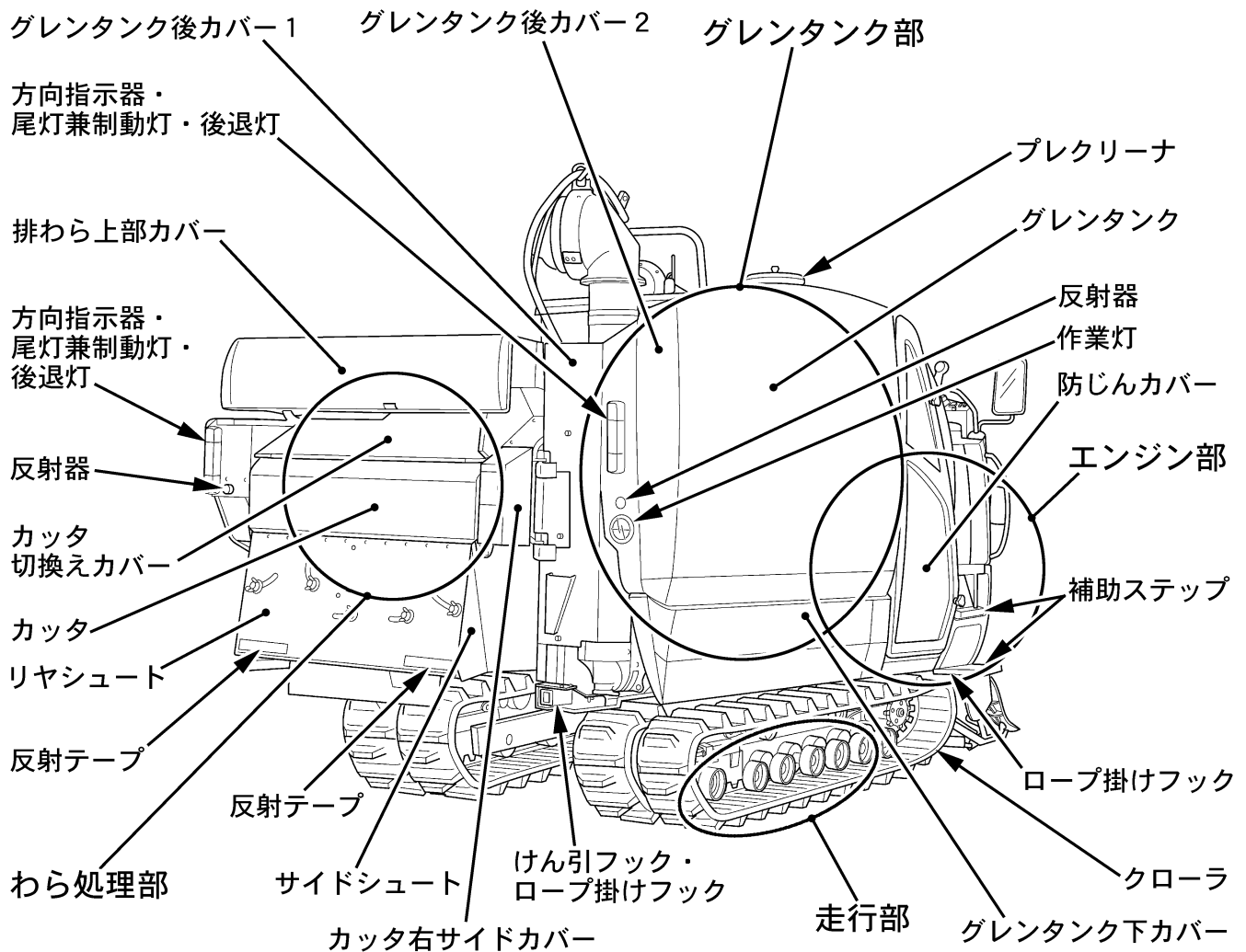
方向指示器
(ウインカランプ)

尾灯兼制動灯
(ブレーキランプ)

後退灯
(バックランプ)



1ARADBEAP627C

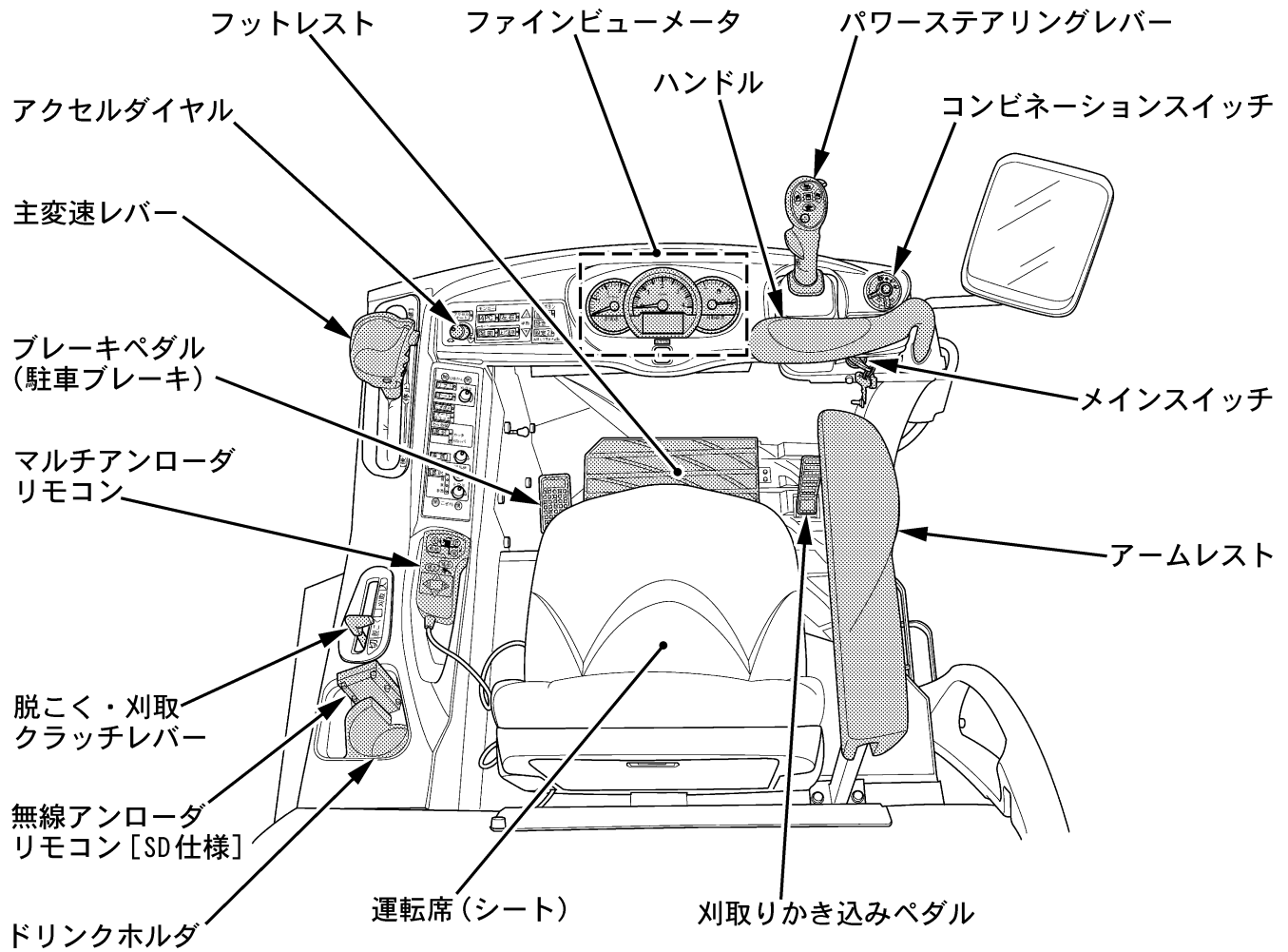


1ARAEASAP609A

※イラストは 587

- **エンジン部**……………運転席下部にある動力装置
- **走行部**……………クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**………脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンロードで排出を行なうところ
- **わら処理部**……………わらの切断やばら落しなどわらの処理を行なうところ

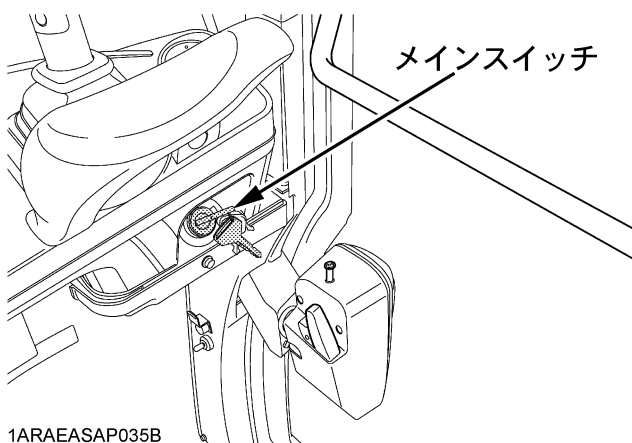
装置の名称と取扱い



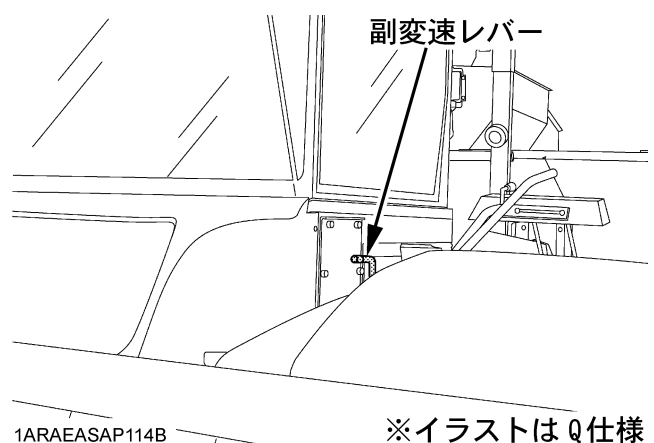
1ARAEASAP610A

※イラストは SD仕様

[Q仕様]



1ARAEASAP035B

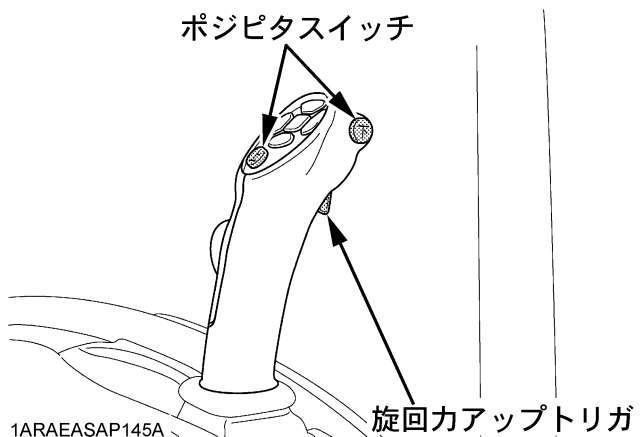
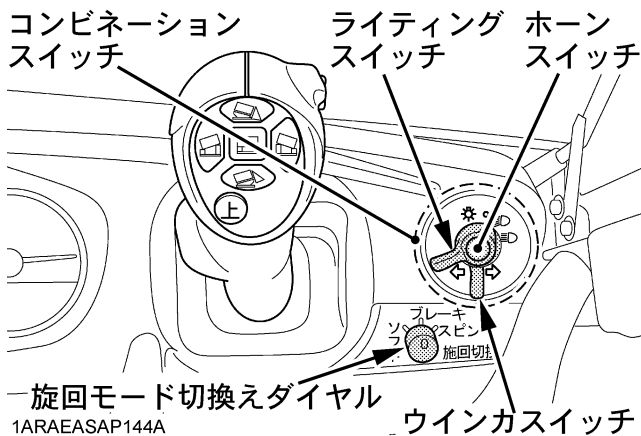
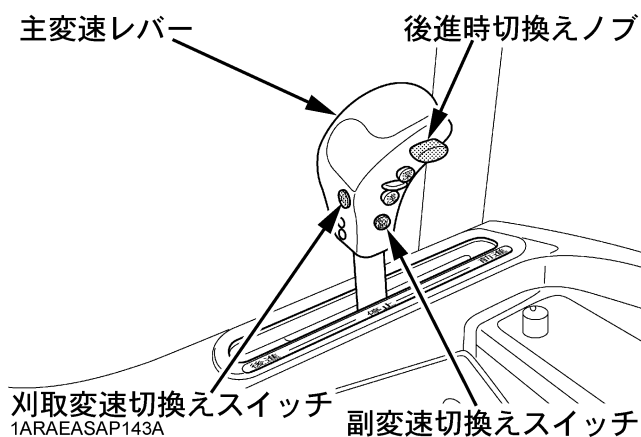
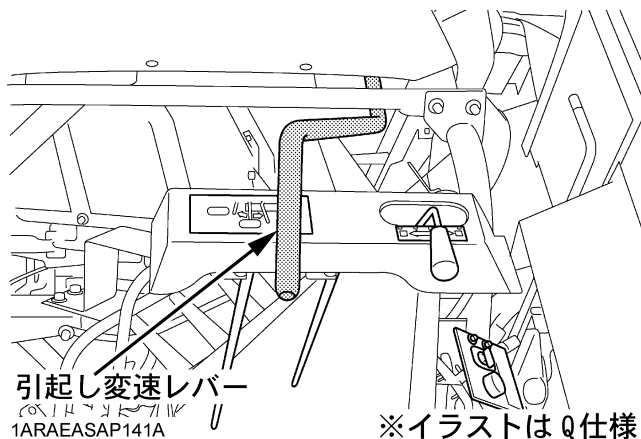


1ARAEASAP114B

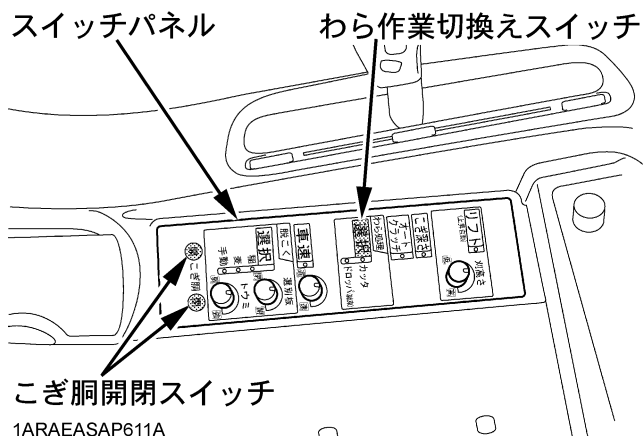
※イラストは Q仕様

[Q仕様]

装置の名称と取扱い

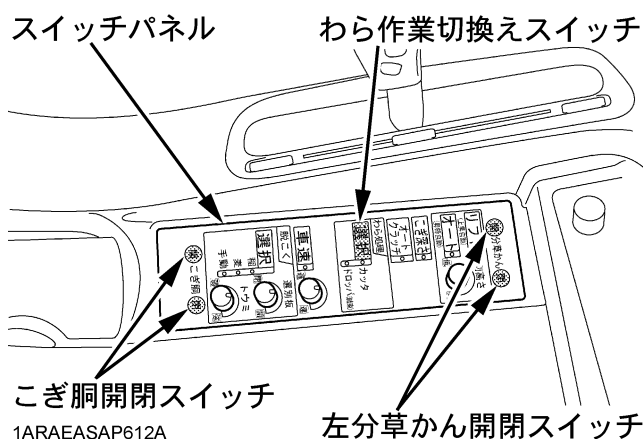


[HD仕様]

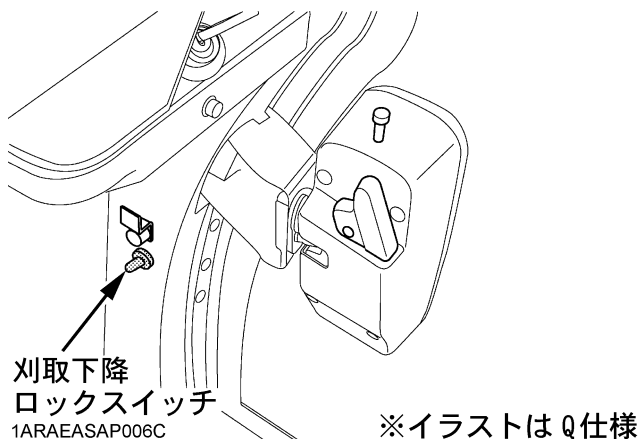


[HD仕様]

[SD仕様]



[SD仕様]



装置の名称と取扱い

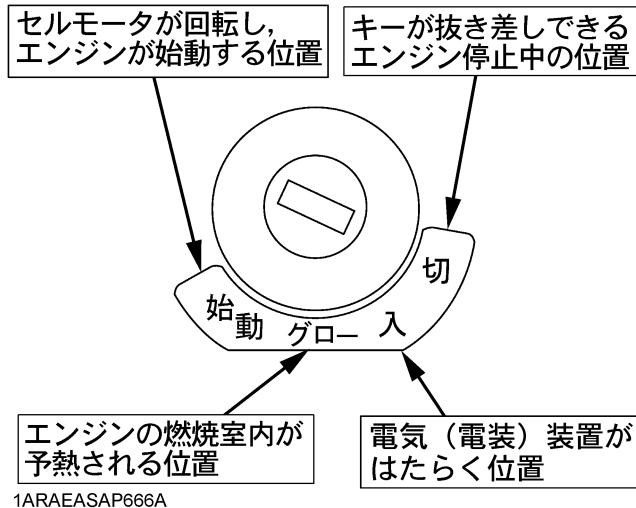
◆ エンジン操作関係

■ メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**、及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

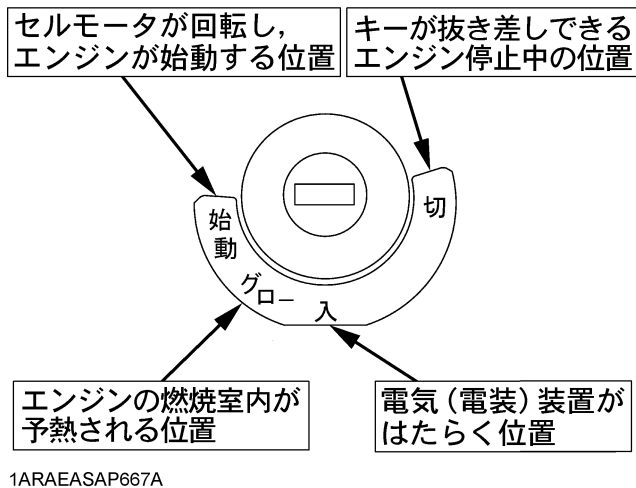
[572]

[Q仕様除く]



[Q仕様除く]

[Q仕様]

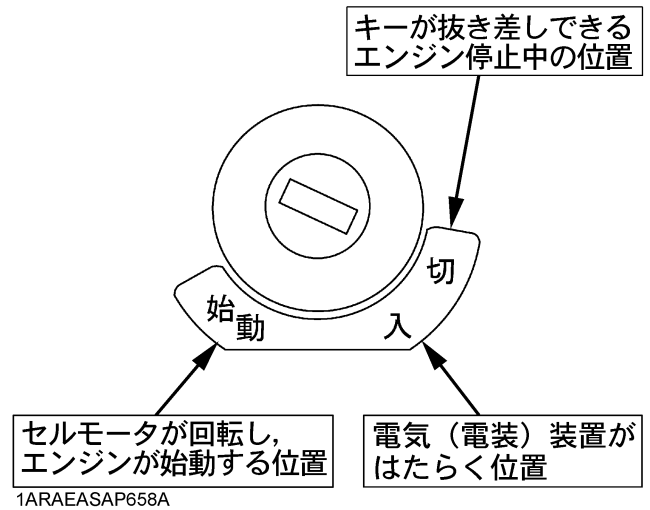


[Q仕様]

[572]

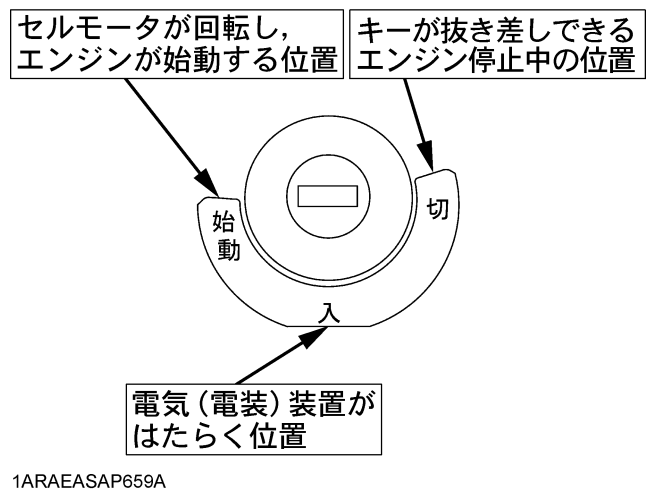
[587・698・108]

[Q仕様除く]



[Q仕様除く]

[Q仕様]



[Q仕様]

[587・698・108]

補 足

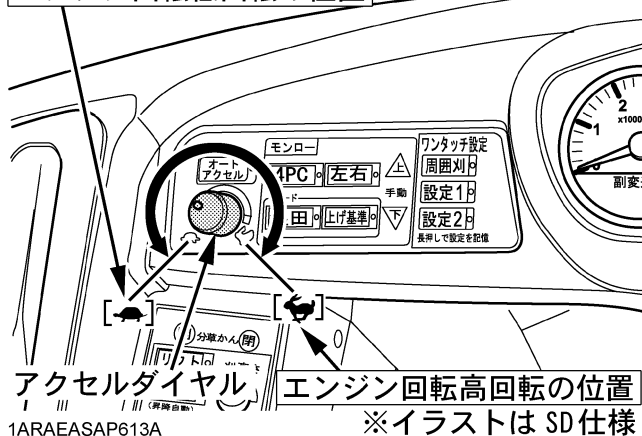
* エンジン始動後、メインスイッチのキーから手を離すとキーは、【入】の位置に戻ります。

装置の名称と取扱い

■アクセルダイヤル

エンジン回転をコントロールするダイヤルです。
ダイヤルを右に回すと回転数が上がります。

エンジン回転低回転の位置



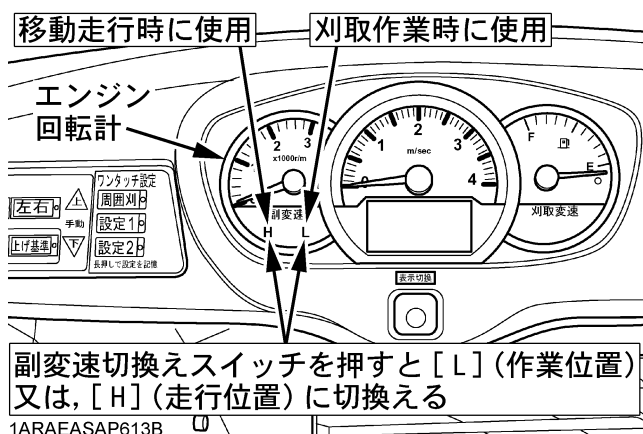
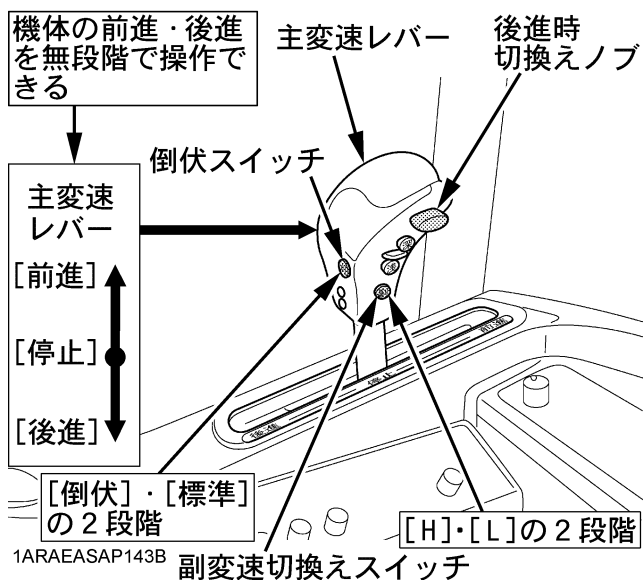
補 足

- * エンジン回転計は、23 ページを参照してください。
- * 自動アクセル制御が【入】のとき、主変速レバーが【中立】位置、脱こく・刈取クラッチレバーが脱こく【切】位置、もみ排出スイッチが【停止】位置のときは、アクセルダイヤルを操作してもエンジンの回転数は変わりません。

◆ 走行操作関係

■主変速レバー、副変速切換えスイッチ

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバー・スイッチです。



重 要

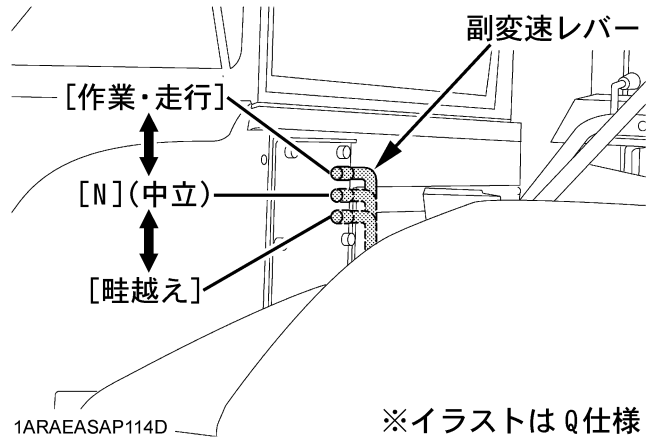
- * 駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補 足

- * 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは、**【停止】**位置に固定され、主変速レバーを操作しても動きません。
- * 後進するときは、主変速レバーの後進切換えノブを押しながら**【後進】**側に引いてください。**【後進】**位置にするとバックブザーが鳴り、後退灯（バックランプ）が点灯します。
- * メインスイッチのキーを**【入】**位置にした直後の副変速切換えスイッチは**【L（作業位置）】**です。
- * 副変速切換えスイッチが**【H（走行位置）】**の状態で行取作業を開始すると、**【L（作業位置）】**へ自動的に切換わります。
- * 行取作業中は、副変速切換えスイッチを押しても**【H（走行位置）】**には切換わりません。
- * 副変速切換えスイッチを押すと、エンジン回転計の下側にある**副変速**の表示部が**【L】**又は、**【H】**に切換わります。
- * 行取作業や傾斜地（あぜ越えやあゆみ板）で移動走行を行なうときは**【L（作業位置）】**、通常の移動走行を行なうときは**【H（走行位置）】**で使用してください。
- * 主変速レバーが**【中立】**位置以外の位置でエンジンを始動しようとするとき、液晶ディスプレイに**【主変速を中立にする】**と表示します。
- * 副変速切換えスイッチを押すと、液晶ディスプレイに**【副変速 L 作業】**又は、**【副変速 H 走行】**と表示します。
- * 副変速切換えスイッチを**【H（走行位置）】**に切換えると、旋回モード切換えダイヤルで選択している位置に関係なく旋回力が**ソフトターン**に固定されます。また、旋回力アップトリガを引いても旋回力は変わりません。

■副変速レバー

あぜの乗り越えや傾斜地を上がる時、負荷が大きいため上がれない場合に使用する変速レバーです。



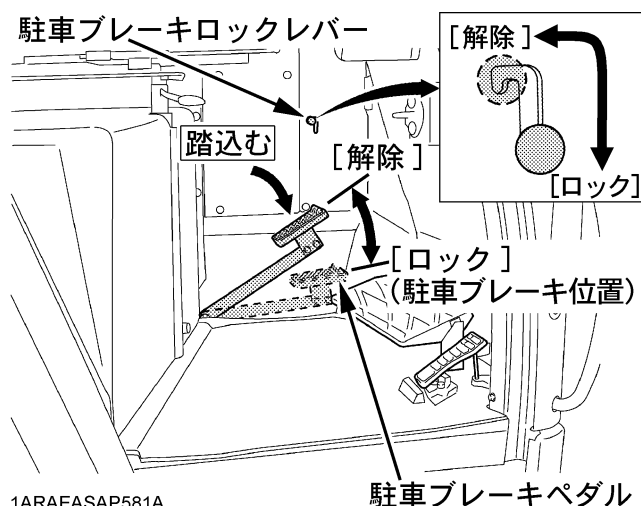
補 足

- * 副変速レバーを**【畦越え】**位置で走行するときは、副変速切換えスイッチを**【L（作業位置）】**にしてください。
- * 副変速レバーを**【畦越え】**位置にして走行が終わったあとは、必ず**【作業・走行】**に切換えてください。

装置の名称と取扱い

■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

ブレーキペダルを踏込むとブレーキが掛かります。また、駐車ブレーキロックレバーを【解除】位置から【ロック】位置にしたあと、ブレーキペダルを踏込むと、駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを少し踏込みながら駐車ブレーキロックレバーを【解除】位置に引上げてください。



重 要

- * 駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補 足

- * 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは、【停止】位置に固定され、主変速レバーを操作しても動きません。
- * 移動（路上を含む）走行時は、駐車ブレーキペダルを【解除】位置にしてください。
- * 駐車ブレーキペダルを踏込まないと、エンジンは始動しません。また、駐車ブレーキペダルを踏込まずにエンジンを始動しようとする、液晶ディスプレイに【駐車ブレーキを踏む】と表示します。

■パワーステアリングレバー

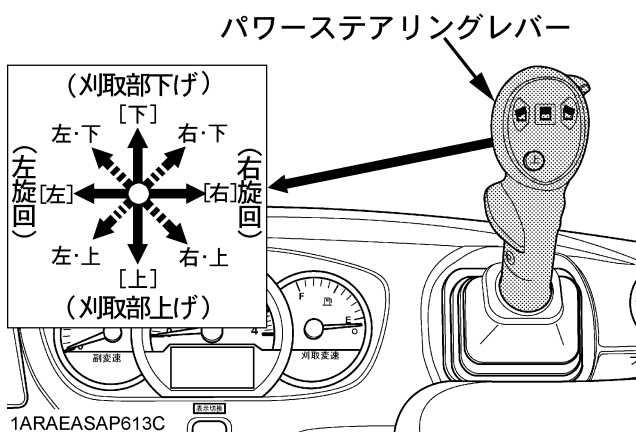
パワーステアリングレバーは、機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

【左】↔【右】 …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行います。

【下げ】
↓
【上げ】 …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。

左・下 右・下 …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に、刈取部が上下に動きます。
左・上 右・上

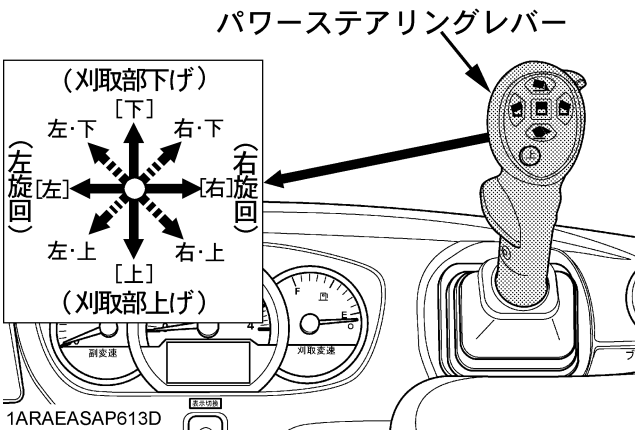
[HD仕様]



[HD仕様]

装置の名称と取扱い

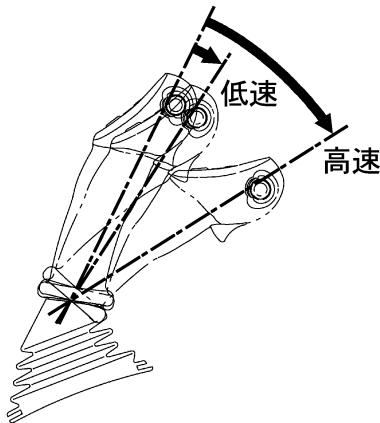
[SD 仕様]



[SD 仕様]

補 足

- * 刈取部の**上昇↔下降**操作を行なうとき、レバーを倒す量に応じて昇降速度が変化します。昇降速度は、レバーを倒す量が大きいくほど速くなります。

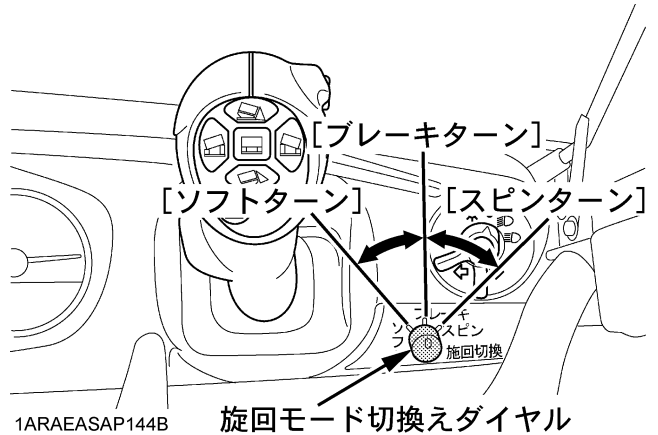


- * エンジンが停止中で、刈取部が上がっているときにパワーステアリングレバーを前方（**[下]** 方向）に倒しても刈取部は下がりません。

■ 旋回モード切換えダイヤル・旋回力アップトリガ

● 旋回モード切換えダイヤル

旋回方式を選択するダイヤルです。作業条件に応じて切換えてください。



【スピントーン】 ……

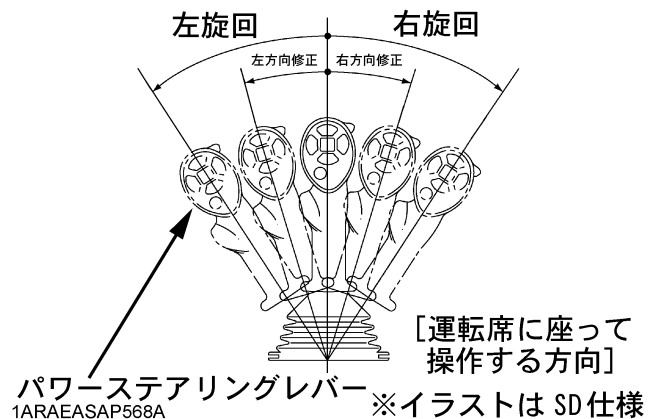
パワーステアリングレバーの倒し量に応じて旋回内輪側のクローラが逆転します。**【ブレーキターン】**よりもさらに小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用してください。

【ソフトターン】 ……

左右のクローラに回転差をつけ両輪で前進駆動しながら旋回します。旋回半径は、やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合や移動走行時に使用してください。

【ブレーキターン】 ……

パワーステアリングレバーを右又は、左に倒すと、倒した方向のクローラの駆動が停止した状態で旋回します。小回りが必要なときに使用してください。



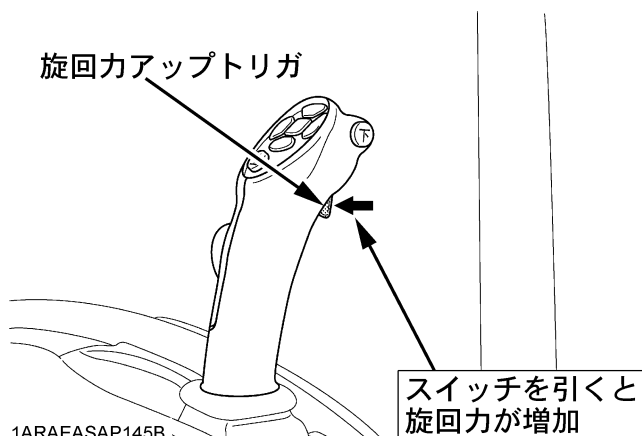
装置の名称と取扱い

補 足

- * 副変速切換えスイッチを **[H] (走行位置)** に切換えると、旋回モード切換えダイヤルで選択している位置に関係なく旋回力が**ソフトターン**に固定されます。

● 旋回力アップトリガ

旋回力をアップするスイッチです。



旋回モード切換えダイヤルが **[ソフトターン]** 位置のとき、旋回力アップトリガを引くと、**[ブレーキターン]** と同じ旋回力となる

旋回モード切換えダイヤルが **[ブレーキターン]** 位置のとき、旋回力アップトリガを引くと、**[スピントーン]** と同じ旋回状態となる

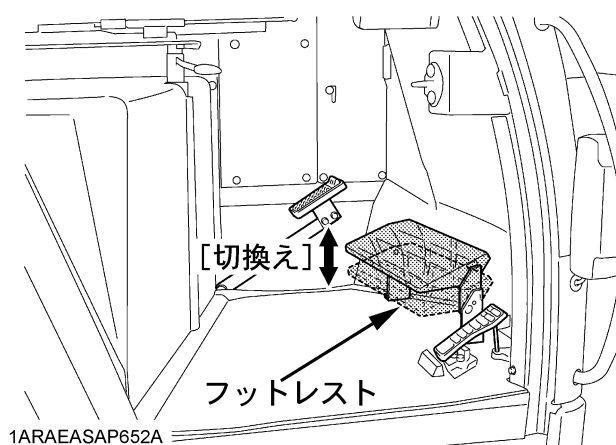
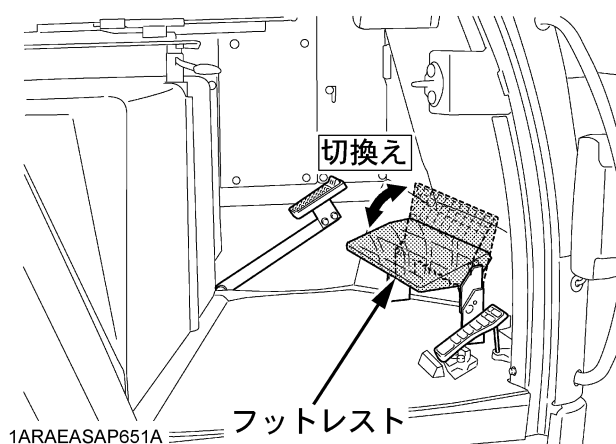


補 足

- * 旋回モード切換えダイヤルが **[スピントーン]** 位置のときは、旋回力アップトリガを押しても **[スピントーン]** の旋回状態です。
- * 旋回力アップトリガは、少し引くと旋回力が切換ります。
- * 副変速切換えスイッチが **[H] (走行位置)** のときは、旋回力が**ソフトターン**に固定されるため、旋回モード切換えダイヤル及び旋回力アップトリガを操作しても旋回力は変わりません。
- * 旋回モード切換えダイヤルを操作すると、液晶ディスプレイに **[旋回切替 ソフト]** 又は、**[旋回切替 ブレーキ]** 又は、**[旋回切替 スピン]** と表示します。

■フットレスト (足置き)

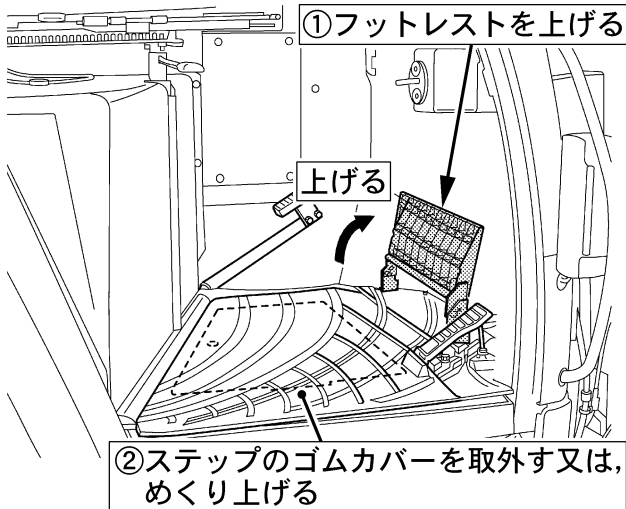
フットレストを使用しないとき又は、フットレストの高さが高いときは必要に応じて切換えてください。



装置の名称と取扱い

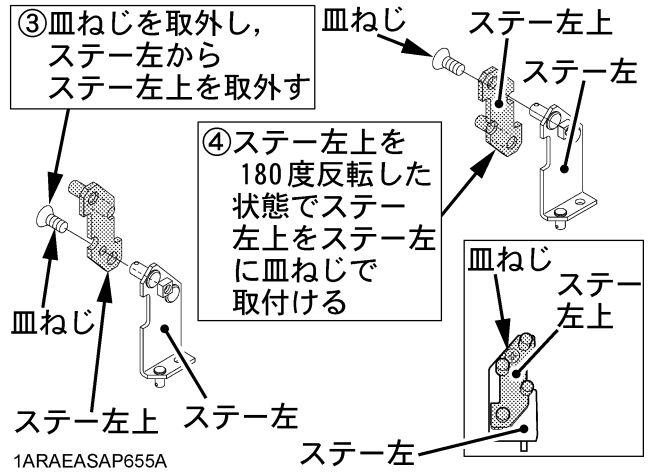
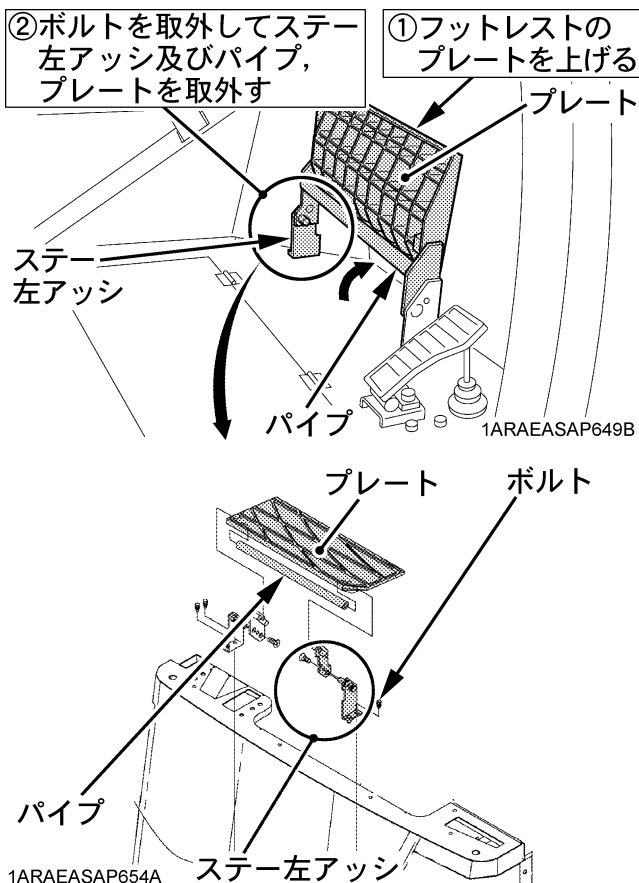
● 高さの切換えかた

1. ステップのゴムカバーを取外します。

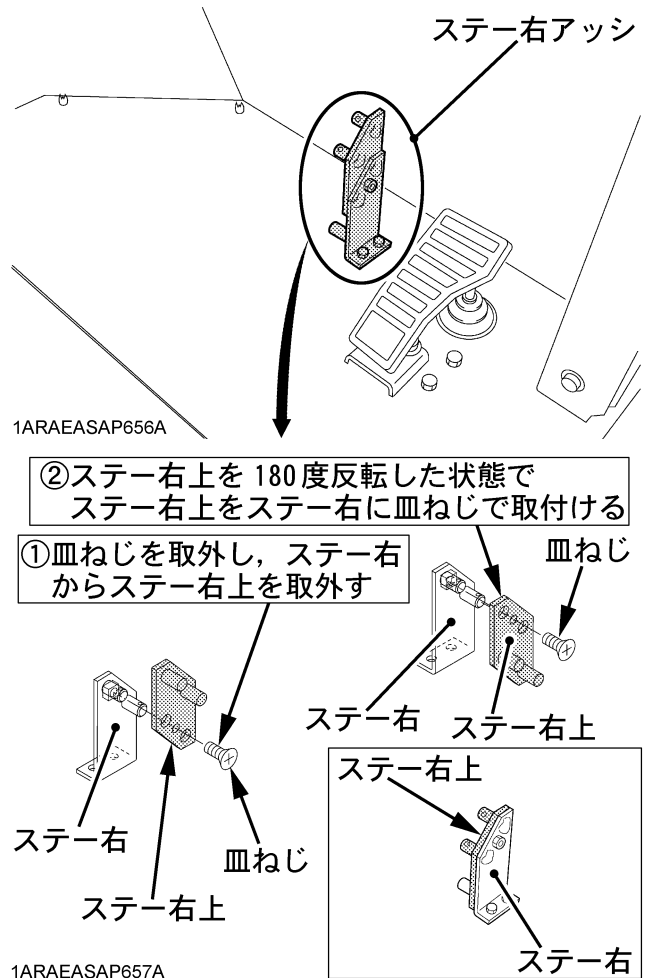


1ARAEASAP653A

2. ステー左アッシに取付けているステー左上の組換えを行ないます。

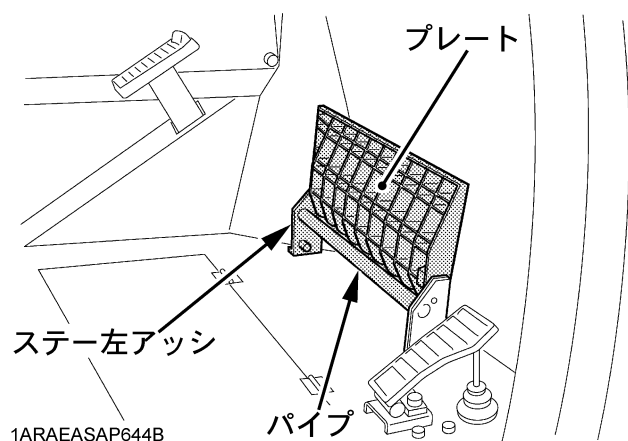


3. ステー右アッシに取付けているステー右上の組換えを行ないます。



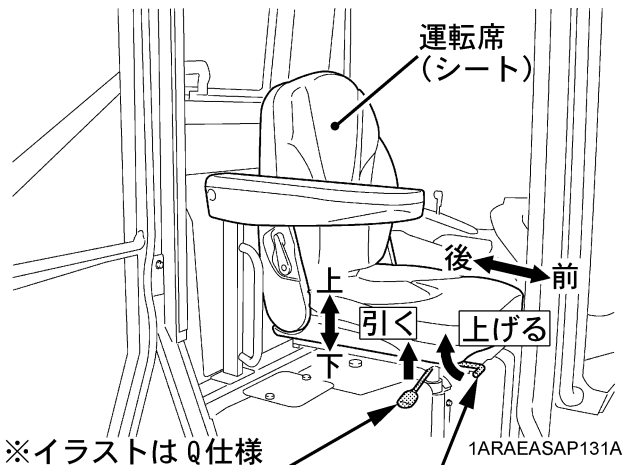
装置の名称と取扱い

4. 手順 2. と逆の手順で取外したパイプ、プレート及びステー左アッシを取付けます。



■運転席（シート）

運転席は、**前**、**後**方向及び**上**、**下**方向に調節が行なえます。調節は、前後調節レバー及び、上下調節レバーを引いて行なってください。

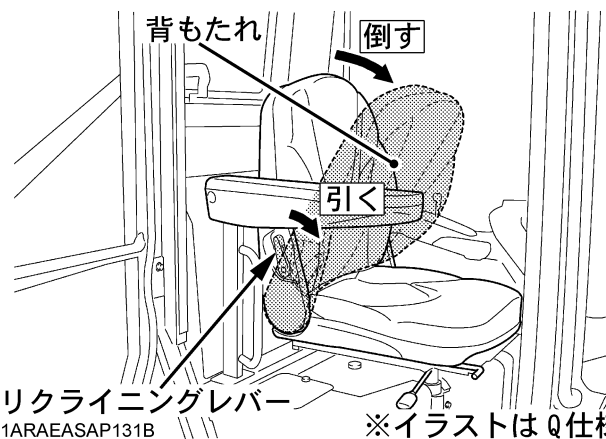


※イラストは Q 仕様

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ②上下調節レバーでシートの上下調節をする | ①前後調節レバーでシートの前後調節をする |
|----------------------|----------------------|

補 足

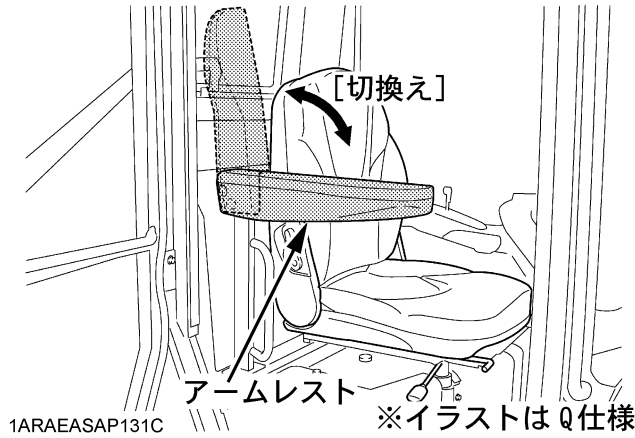
- * 運転席の背もたれは、リクライニングレバーを引いて前方へ倒すことができます。元に戻すときは、背もたれをロックするまで後方に引いてください。



※イラストは Q 仕様

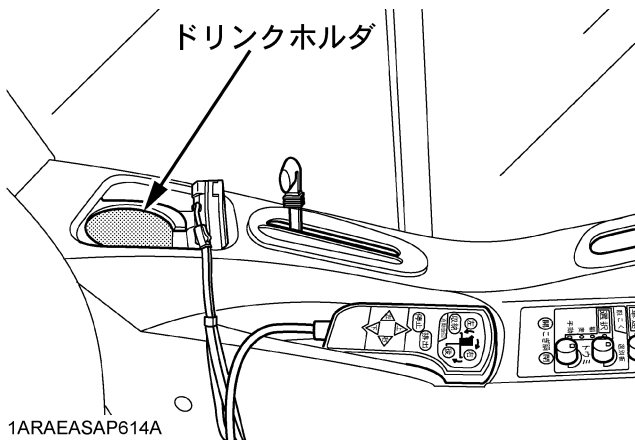
■アームレスト（ひじ掛け）

必要に応じて切換えてください。



■ドリンクホルダ

飲料水の置き場として使用してください。

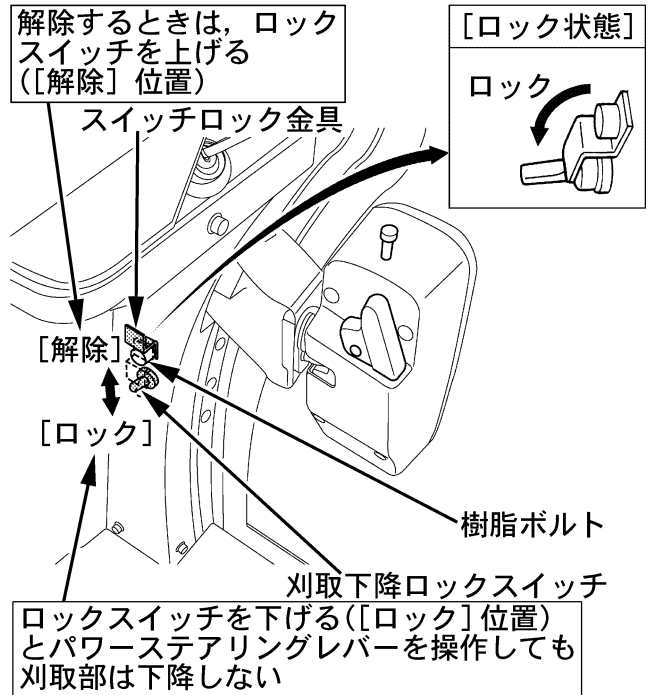


補 足

- * 飲料水がこぼれないように注意してください。

■刈取下降ロックスイッチ

刈取部の下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる（**[ロック]** 位置）とパワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。



補 足

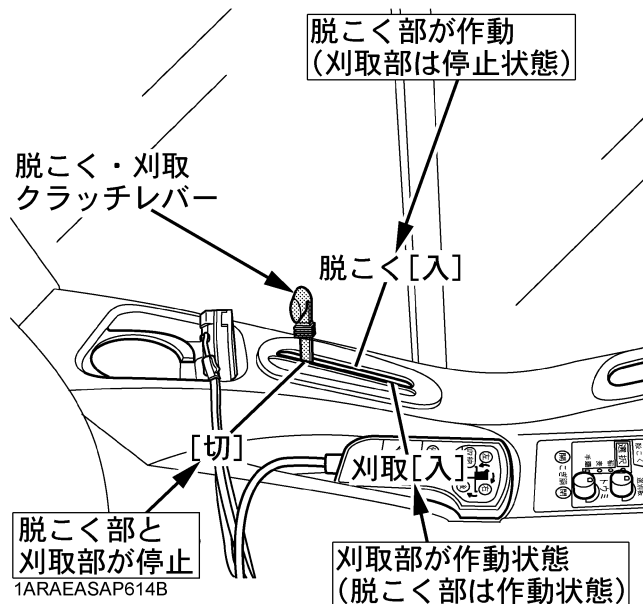
- * ロックスイッチを下げたときは、必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。
- * エンジンを始動しないと刈取部は上昇、下降しません。

装置の名称と取扱い

◆ 刈取・脱こく関係

■ 脱こく・刈取クラッチレバー

脱こく部と刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



補 足

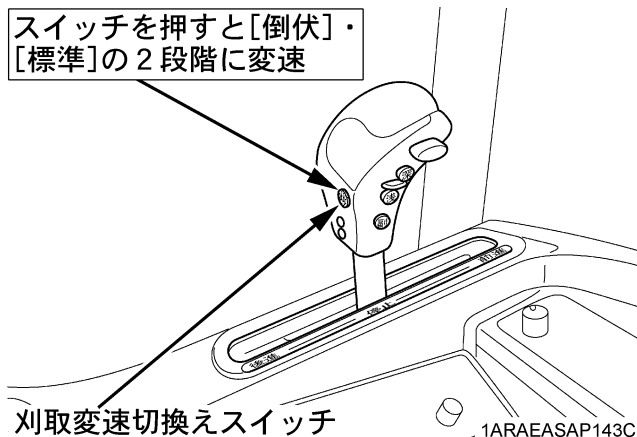
- * 脱こく・刈取クラッチレバーが**脱こく [入]** 又は、**刈取 [入]** 位置でエンジンを始動しようとするとき、液晶ディスプレイに**【脱こくクラッチを切る】**と表示します。
- * こぎ胴を開いた状態で脱こく・刈取クラッチレバーを操作すると、液晶ディスプレイに**【こぎ胴が開いています】**と表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。また、このとき、脱こく部は作動しません。

■ 刈取変速切換えスイッチ・引起し変速レバー

刈取部の速度を切換えるスイッチ・レバーです。

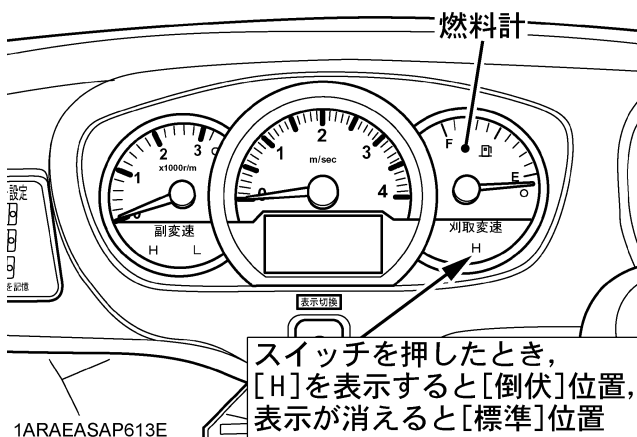
● 刈取変速切換えスイッチ

スイッチを押すと**【倒伏】**・**【標準】**の2段階に変速

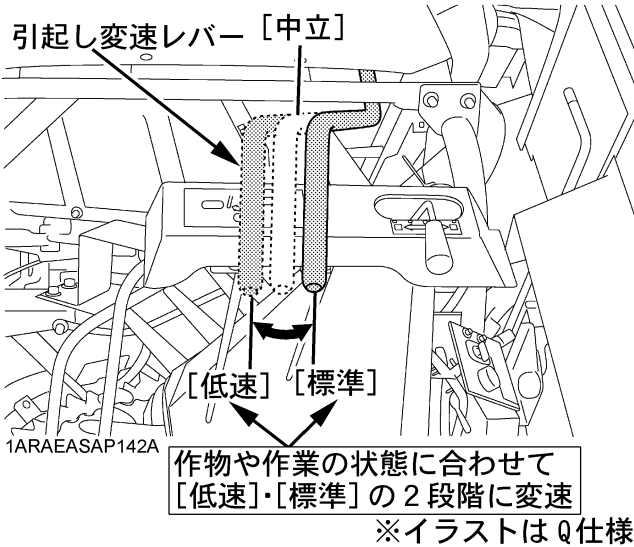


補 足

- * 刈取変速スイッチを押したとき、燃料計下側にある**刈取変速**の表示部に**【H】**を表示すると**【倒伏】**位置、**【H】**の表示が消えると**【標準】**位置です。
- * メインスイッチのキーを**【入】**位置にした直後の刈取変速切換えスイッチは**【標準】**です。
- * 刈取変速スイッチを押すと、液晶ディスプレイに**【刈取変速 高】**又は、**【刈取変速 標】**と表示します。



● 引起し変速レバー



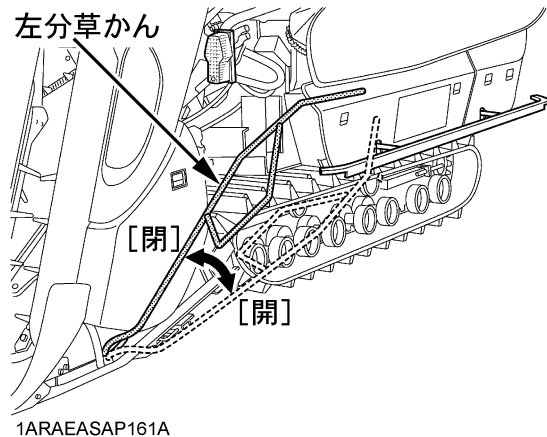
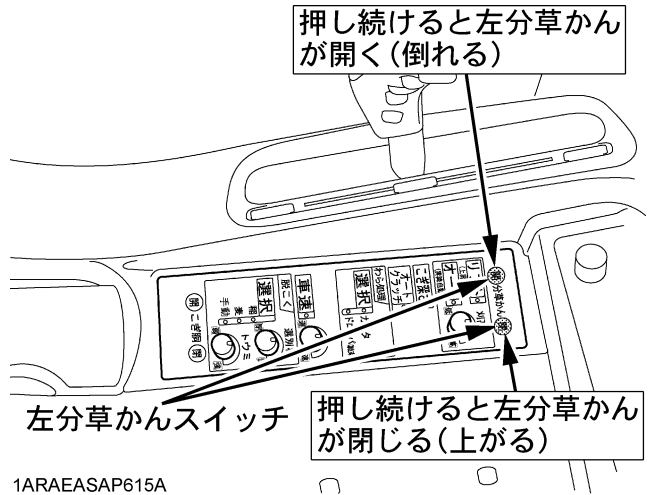
補 足

- * 112 ページを参照して適正な引起し速度を選んでください。
- * 引起し部の開閉を行なうときは、引起し変速レバーを **[中立]** 位置にしてください。(142 ページ参照)

■ 左分草かん開閉スイッチ

[SD 仕様]

左分草かん前を開閉するスイッチです。



補 足

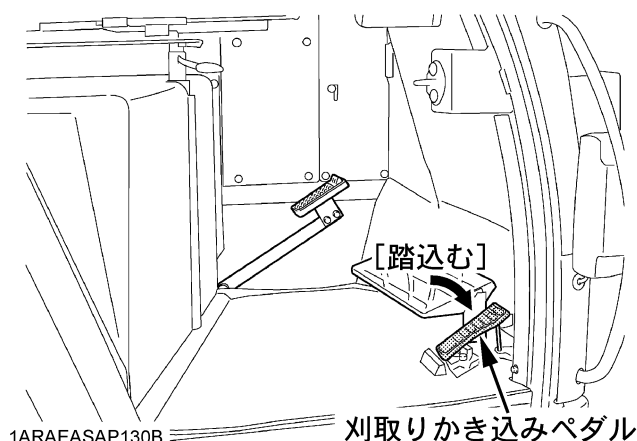
- * 分草かん開閉スイッチを操作すると、エンジン停止中でも、メインスイッチ **[入]** の位置で左分草かんは開閉しますが、バッテリー上がり防止のため、エンジンを始動してから操作してください。
- * 左分草かんは手動でも開閉操作が行なえます。
- * 左分草かん開閉スイッチを押すと、液晶ディスプレイに **[分草かん 開]** 又は、**[分草かん 閉]** と表示します。

[SD 仕様]

装置の名称と取扱い

■刈取りかき込みペダル

あぜぎわなどで前進しながら刈取作業が行なえないときやほ場へ進入するときに低速で作物の刈取りを行なうときに使用するペダルです。脱こく・刈取クラッチレバーが**刈取【入】**位置のとき、かき込みペダルを踏込むと刈取部及び搬送部が動き、作物の刈取り（かき込み）を行ないます。

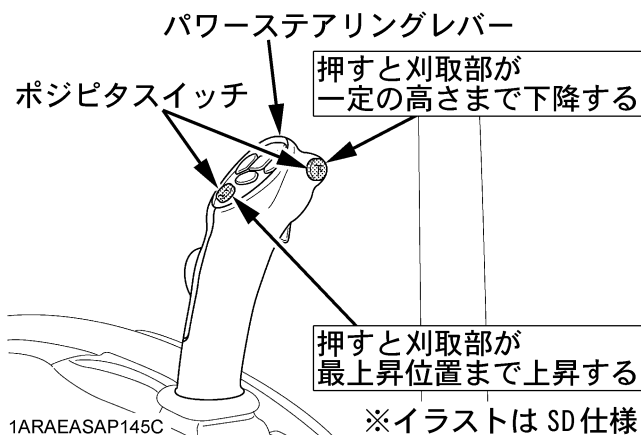


補 足

- * 脱こく・刈取クラッチレバーを**刈取【入】**位置にして刈取りかき込みペダルを踏込むと、主変速レバーが**【停止】**又は、**【後進】**位置のときでも刈取部及び搬送部が動きます。
- * 刈取りかき込みペダルを踏込むとき、踏込み量が大きいかほど刈取部及び搬送部が速く動きますので、速くかき込み作業を行ないたいときは、強く踏込んでください。
- * 刈取オートクラッチがはたらいているとき、刈取かき込みペダルを踏込んでも刈取部及び搬送部は動きません。

■ポジピタスイッチ

刈取作業中に、ポジピタスイッチを押すと刈取部が**上昇↔下降**します。

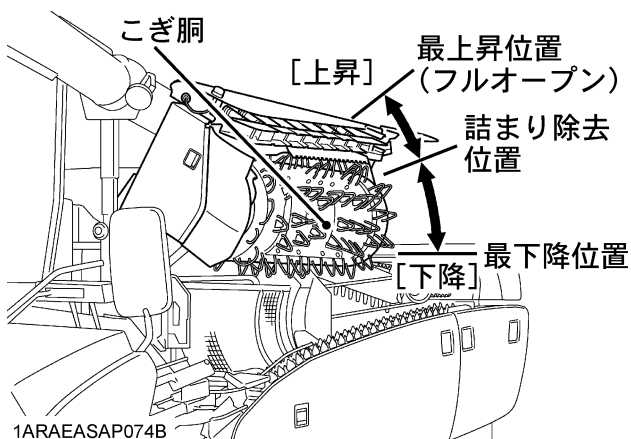
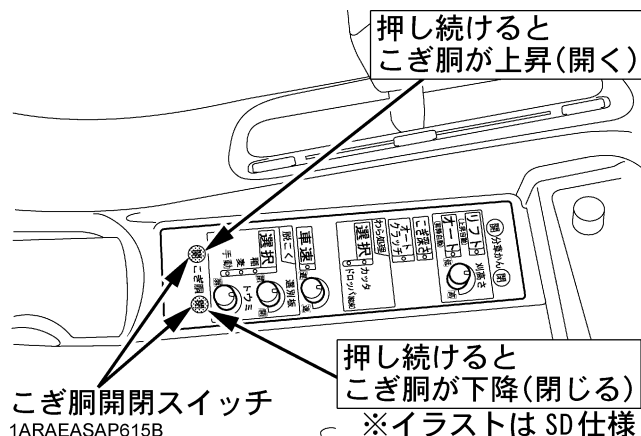


補 足

- * ポジピタスイッチは脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく【入】**及び**刈取【入】**位置にするとはたらきます。

■こぎ胴開閉スイッチ

こぎ胴の**上昇、下降**（開、閉）を行なうスイッチです。



重 要

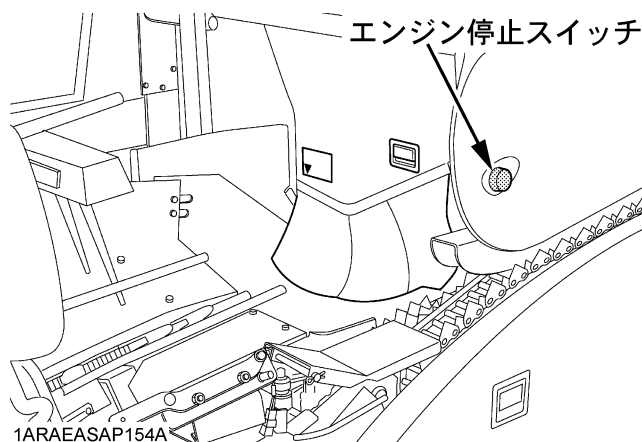
- * こぎ胴の上昇、下降を連続して繰り返さないでください。モータが加熱し、故障の原因になります。

補 足

- * こぎ胴の開閉を行なうときは、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にし、エンジンを始動してください。脱こく・刈取クラッチレバーが**脱こく【入】**位置又は、エンジン停止状態では、こぎ胴開閉スイッチを操作してもこぎ胴は開閉しません。
- * こぎ胴の停止位置は、**最下降**位置（閉じている状態）・**詰まり除去**位置・**最上昇**位置（フルオープン）の3箇所です。また、こぎ胴が開閉途中にこぎ胴開閉スイッチから手を離すとその位置でこぎ胴は停止しますが、安全確保のため上記3箇所の停止位置のいずれかでこぎ胴を停止してください。
- * こぎ胴が**最上昇**位置・**詰まり除去**位置・**最下降**位置まで動くときピピッと確認音が鳴り、液晶ディスプレイに【こぎ胴ロック しました】と表示します。また、上記3箇所の停止位置以外でこぎ胴が停止すると、液晶ディスプレイに【こぎ胴が 開いています】と表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。
- * こぎ胴開閉スイッチを操作すると、押している間はエアロナビに【こぎ胴 開】又は、【こぎ胴 閉】と表示します。
- * こぎ胴が開いている状態で脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく【入】**にしても脱こく部は作動しません。
- * こぎ胴を開いてメンテナンスやわらなどを取除くときは、**最上昇**位置又は、**詰まり除去**位置で行なってください。
- * **詰まり除去**位置は、上昇途中ではいったん停止しますが、下降中は停止しません。

■エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。



補 足

- * エンジン停止スイッチを押すと、液晶ディスプレイに【エンジン停止しました】↔【メインスイッチ切にしてください】を一定時間交互に表示します。
- * エンジンの再始動を行なうときは、下記項目を遵守してください。
 - メインスイッチのキーを【切】位置にしてブザーを止めてください。
 - メインスイッチのキーを【切】位置にしてから約5秒間待ってください。エンジンの停止直後にメインスイッチのキーを【始動】位置にしてもエンジンは始動しません。

装置の名称と取扱い

◆ 排わら関係

■ わら処理切換えスイッチ

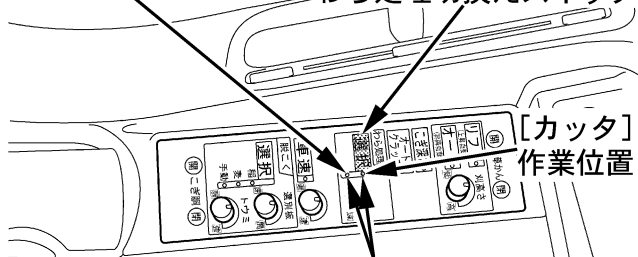
排わら処理の選択を行なう切換えスイッチです。わら処理切換えスイッチを押すと、**【カット】**→**【ドロップ】**の順に切換わり、ランプが点灯すると共に、カット切換えカバーが開閉します。

【ドロップ・バラ落し】

【結束機】(結束機付き仕様)

作業位置

わら処理切換えスイッチ



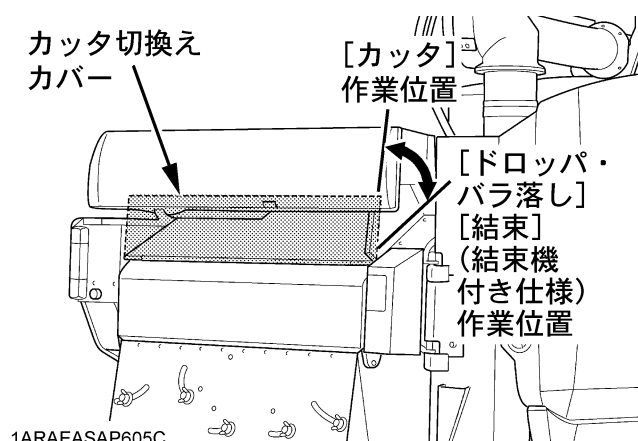
1ARAESAP612B

※イラストはSD仕様

カット切換え
カバー

【カット】
作業位置

【ドロップ・
バラ落し】
【結束】
(結束機
付き仕様)
作業位置



1ARAESAP605C

補 足

- * カット作業を行なうときは、**【カット】**作業位置、ドロップ・バラ落し・結束(結束機付き仕様)各作業を行なうときは、**【ドロップ】**位置にしてください。
- * わら処理切換えスイッチを押すと、液晶ディスプレイに**【わら処理 カット】** / **【わら処理 ドロップ】**(結束機付き仕様)と一定時間表示します。
- * わら処理切換えスイッチを押したとき、液晶ディスプレイに**【排わら切換確認する】**と表示し、警報ブザーが鳴ったときは、エンジンを停止したあと、わら処理部(排わらチェーンやカット部)を確認し、わらや雑草を取除いてください。(173 ページ参照)

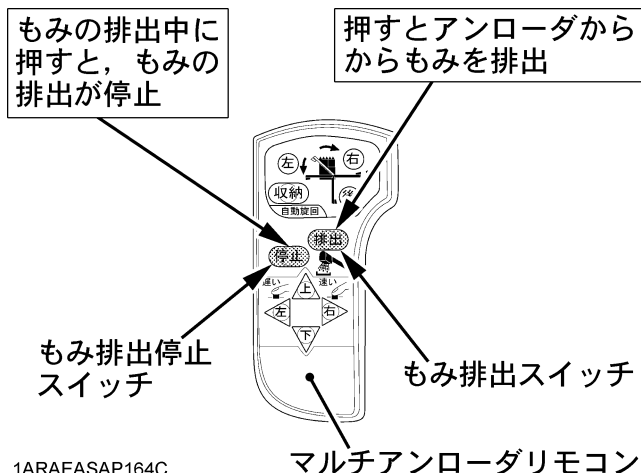
【結束機付き仕様】

- * わら処理切換えスイッチを押して、カット切換えカバーの切換えを行なうときは、エンジン始動後、脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく【入】**にして、必ず脱こく機を作動してから行なってください。脱こく・刈取クラッチレバーが**【切】**位置のとき、わら処理切換えスイッチを押すと、液晶ディスプレイに**【脱こくクラッチ ON】**と表示します。

【結束機付き仕様】

■ もみ排出スイッチ

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。



1ARAESAP164C

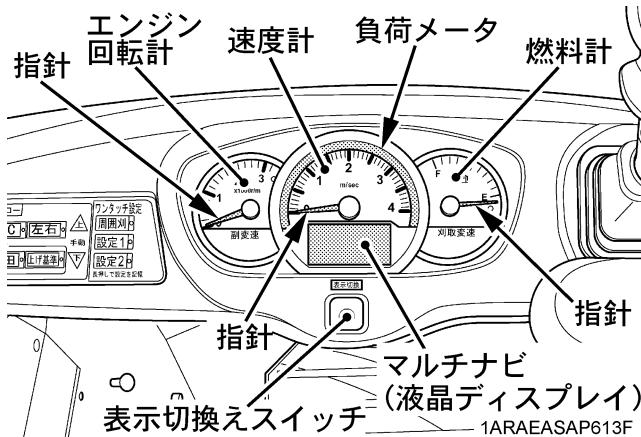
補 足

- * エンジンが運転中、アンローダ収納状態で、もみ排出スイッチを押しても、もみは排出しません。

装置の名称と取扱い

◆ 電装関係

■ ファインビューメータ



補 足

* メインスイッチのキーを【切】位置から【入】位置にすると、各ランプが一定時間全て点灯（ランプ点灯確認）すると同時に、各メータの指針が動き（作動確認）ます。

◆ 各メータ

● エンジン回転計（単位：rpm）

1 分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● 燃料計

燃料の残量を指針で表示（[E]〔空〕↔[F]〔満タン〕）します。

● 速度計（単位：m/s）

1 秒間に進む距離を指針で表示します。

補 足

* ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。

● 負荷メータ

刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

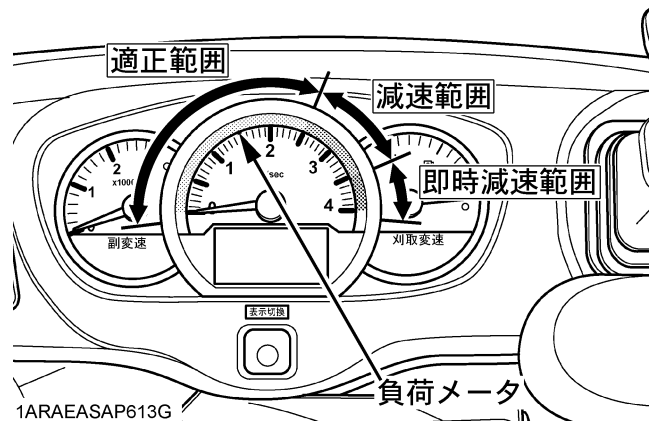
補 足

* エンジン回転数は、負荷が大きくなるほど下がります。負荷ランプの点灯表示で以下のようになります。

適正状態… 適正範囲：負荷メータ 8 目盛
↓
(ランプ：緑色)

減速…………… 減速範囲：負荷メータ 3 目盛
↓
(ランプ：オレンジ色)

即時減速… 即時減速範囲：負荷メータ 2 目盛
(ランプ：赤色)



装置の名称と取扱い

◆ マルチナビ

マルチナビは機械の状態や状況（通常作業時，異常発生時，誤操作時など）に応じて，液晶ディスプレイに必要な情報を表示します。

補 足

- * 表示切換えスイッチは，液晶ディスプレイに異常や警報を表示したとき，通常表示に戻す場合やメンテナンス作業で使用します。

1. 移動走行・通常作業時

(1) 【アワメータ・オイル・充電】表示

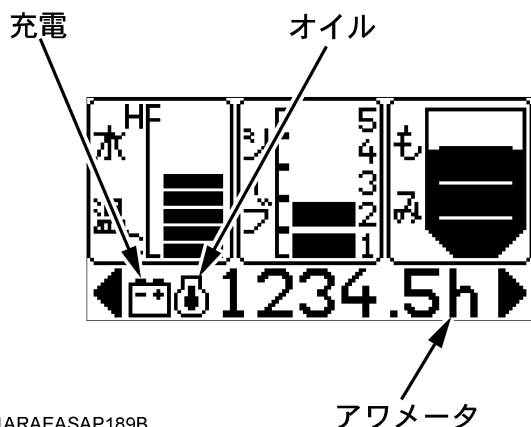
駐車ブレーキが掛かっていない状態でメインスイッチのキーを【切】位置から【入】位置にする则表示します。（エンジンは停止状態）

● アワメータ表示（単位：h【時間】）

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

● オイル・充電表示

オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき，警報を出す準備状態にあることを表示します。



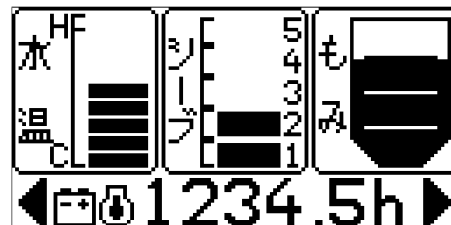
1ARAEASAP189B

重 要

- * エンジンが停止状態で，オイル又は，充電の表示が消えているときは，オイルの油圧異常又は，充電異常が発生しても警報が出ません。その場合は，直ちに購入先に連絡してください。

(2) 【水温 / シーブ / もみ】表示

エンジン始動後，作業時の基本表示【水温 / シーブ / もみ】を表示します。



1ARAEASAP189A

補 足

- * エンジン始動中，異常発生時以外のはきは，オイル・充電表示はされません。

2. 異常発生時

補 足

* 処置については 124 ページを参照してください。

● 表示

燃料を給油	燃料を給油 して下さい	燃料の残量が少なくなると表示します。
充電系異常	充電系統が 異常です	充電系統に異常が発生すると表示します。
エンジン油圧異常	エンジン油圧 異常です	エンジンオイルの圧力が、異常に低下すると表示します。
オーバーヒート	オーバー ヒート	エンジンの冷却水温が高温になると表示します。
負荷	負荷	刈取作業中にエンジンに大きな負荷がかかると表示します。
もみ満杯	もみが 満杯です	グレンタンク内のもみが満杯になると表示します。
2 番	2 番	2 番処理ケース内又は、1 番、2 番縦スクリュケース内が詰まると、表示します。
こぎ深さ	こぎ深さ	自動こぎ深さ制御がはたらいしている状態で、穂先センサにわらの引掛かりなどの異常が発生すると表示します。
シープ	シープ	脱こく機の選別板上のもみの量が異常に多くなったとき表示します。
刈取	刈取	供給搬送部にわらが詰まり、エンジンが自動停止（ エンジン自動停止装置 ）すると表示します。
排わら	排わら	フィードチェーン終端部にわらが詰まり、エンジンが自動停止（ エンジン自動停止装置 ）すると表示します。

装置の名称と取扱い

カッタ	カッタ	わら処理（カッタ）部にわらが詰まり、エンジンが自動停止（ エンジン自動停止装置 ）すると表示します。
こぎ胴が開いています	こぎ胴が開いています	こぎ胴が 最下降位置 ， 詰まり除去位置 ， 最上昇位置 各位置以外の位置で停止したときに表示します。
結束詰まり	結束機	結束機にわらが詰まり、エンジンが自動停止（ エンジン自動停止装置 ）すると表示します。 【結束機付き仕様】
結束ひも切れ	結束機	結束機のひもが切れ、エンジンが自動停止（ エンジン自動停止装置 ）すると表示します。 【結束機付き仕様】
結束巻付き	結束機	結束機のビルにわらが巻付き、エンジンが自動停止（ エンジン自動停止装置 ）すると表示します。 【結束機付き仕様】

補 足

* こぎ胴の停止位置については、20 ページを参照してください。

3. 誤操作時

● 表示

アンローダを上昇する	アンローダを 上昇する	アンローダ 下降不可範囲 内で、誤まったアンローダリモコンの操作をすると表示します。
アンローダを確認する	アンローダを 確認する	アンローダが収納位置以外の位置のとき、走行を開始すると表示します。
こぎ胴が開いています	こぎ胴が開いています	こぎ胴が 最下降位置 （液晶ディスプレイに 【こぎ胴ロック しました】 と表示される位置）以外の状態のとき、脱こく・刈取クラッチレバーを 脱こく【入】 にしたときに表示します。
脱こくクラッチ ON	脱こくクラッチ ON	脱こく・刈取クラッチレバーが 【切】 位置のとき、わら処理切換えスイッチを押すと表示します。 【結束機付き仕様】

補 足

* **下降不可範囲**については、113 ページを参照してください。

装置の名称と取扱い

● 表示

排わら切換 確認する	排わら切換 確認する	カッタ部にわらや雑草が詰まり、カッタ切換えカバーが切換わらなかったときに表示します。
結束機起動 SW 確認する	結束機起動 SW 確認する	結束機起動スイッチが【ON】（入）位置のとき、わら処理切換えスイッチを押すと表示します。【結束機付き仕様】

エンジン始動時にメインスイッチのキーを【始動】位置にしたとき、始動条件を満たしていない場合、その内容を表示します。

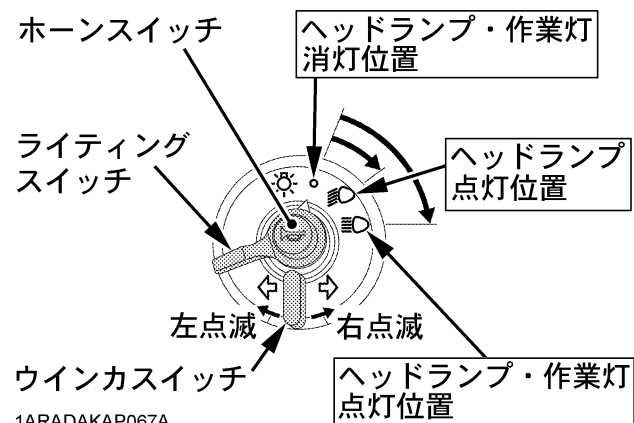
脱こくクラッチ を切る	脱こくクラッチ を切る	脱こく・刈取クラッチレバーが 脱こく【入】 又は、 刈取【入】 位置のときに表示します。
刈取クラッチ を切る	刈取クラッチ 切にする	刈取変速 HST が【中立】位置以外のときに表示します。
主変速を 中立にする	主変速を 中立にする	主変速レバーが【停止】（中立）位置以外のときに表示します。
駐車ブレーキ を踏む	駐車ブレーキ を踏む	駐車ブレーキペダルを踏んでいないときに表示します。
もみクラッチを 切る	もみクラッチを 切る	もみ排出クラッチが【入】のときに表示します。
エンジンを 確認する	エンジンを 確認する	エンジンのインレットパイプが接続されていないときに表示します。（エンジン始動防止用カプラが外れている状態）

補 足

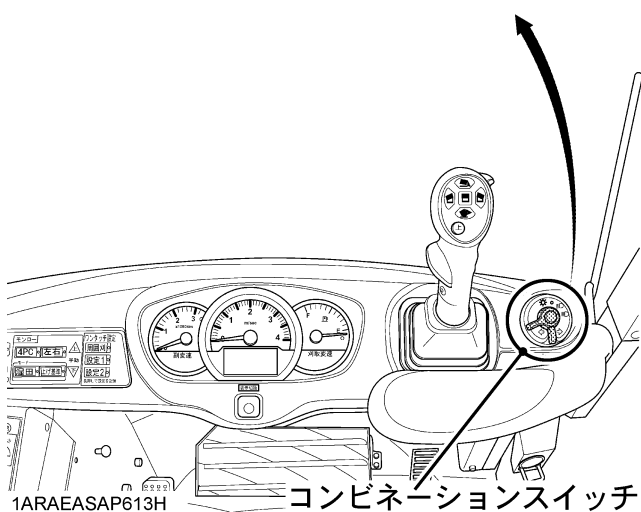
* エンジンのインレットパイプについては、148 ページを参照してください。

装置の名称と取扱い

■コンビネーションスイッチ、ホーンスイッチ



1ARADAKAP067A



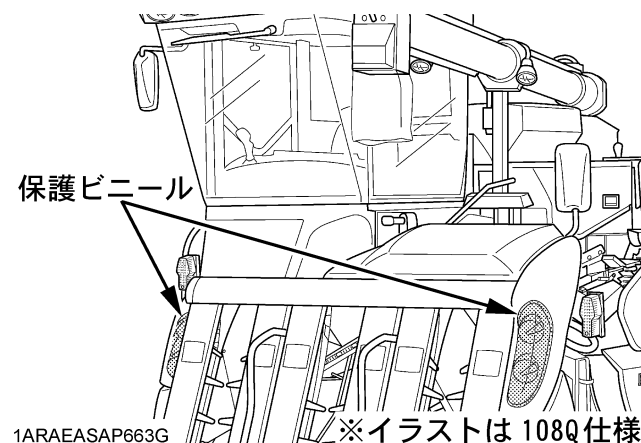
1ARAEASAP613H

● ライティングスイッチ

スイッチを操作するとランプが点灯します。

重要

- * 刈取部の左、右にあるヘッドランプと作業灯のカバーに保護ビニールが貼られているときは、保護ビニールをはがしてください。ランプの熱でビニールが溶けたりランプが高熱になり破損する原因となります。



1ARAEASAP663G

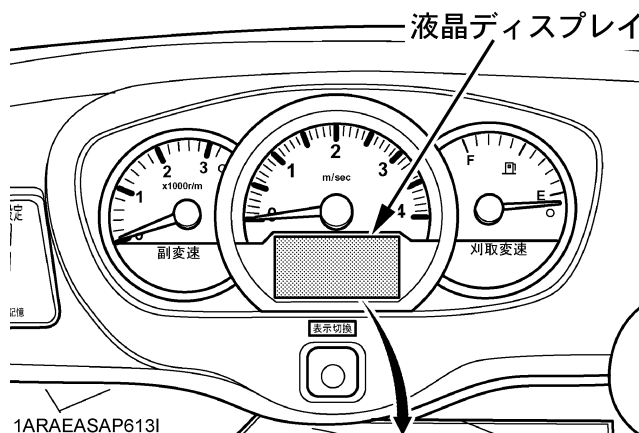
※イラストは 108Q仕様

● ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

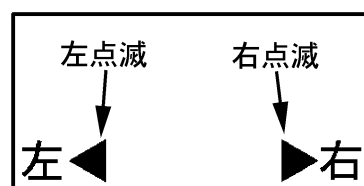
● ウィンカススイッチ

旋回方向に操作すると、ウィンカランプが点滅すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイにウィンカ表示が点滅します。



1ARAEASAP613I

〔ウィンカ表示ランプ〕



1ARAEASAP189C

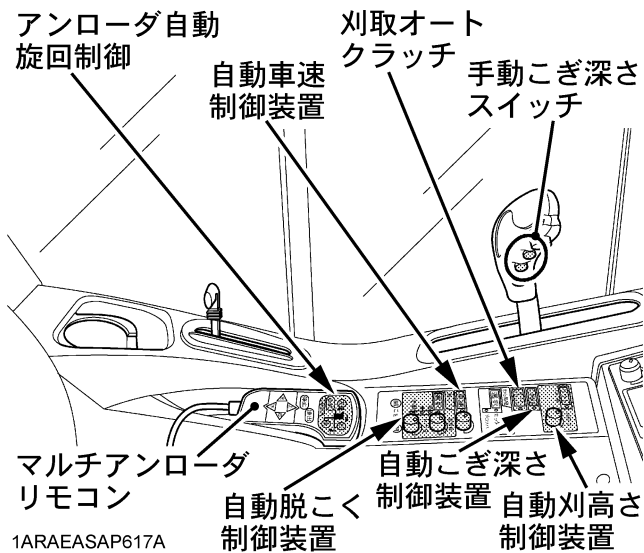
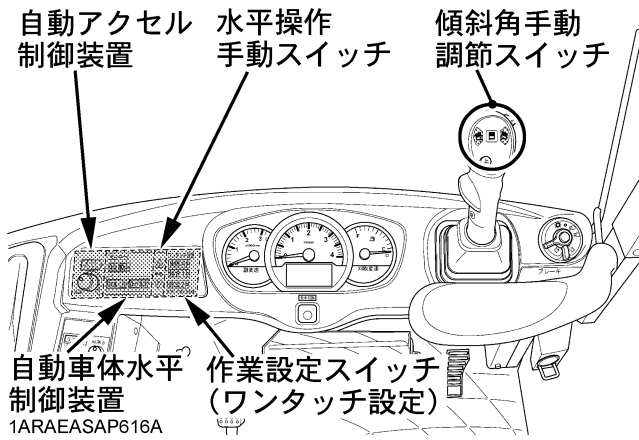
重要

- * ウィンカススイッチを操作したとき、ウィンカ表示〔左◀〕又は、〔▶右〕が高速点滅（いつもより点滅速度が速い）したときは、ウィンカランプの故障又は、ハーネスのカプラの接続不良が発生しています。（処置については、167、284、287 ページを参照してください）

装置の名称と取扱い

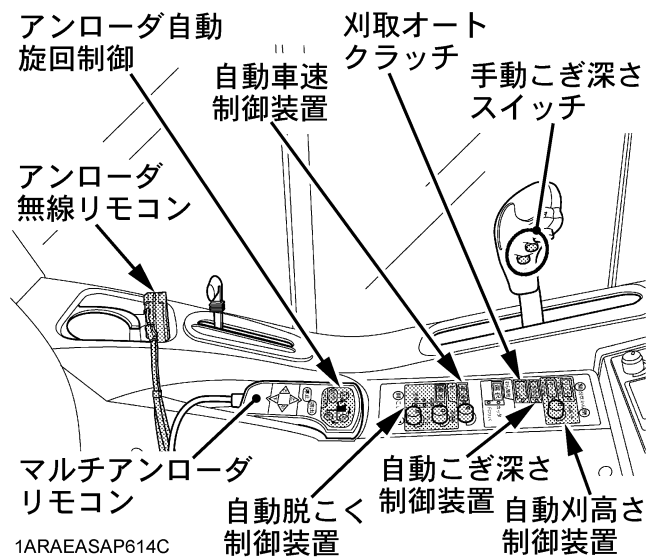
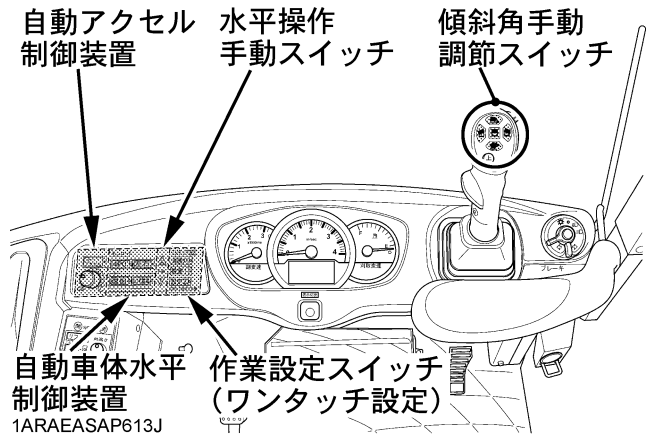
自動化装置の名称とはたらき

[HD 仕様]



[HD 仕様]

[SD 仕様]



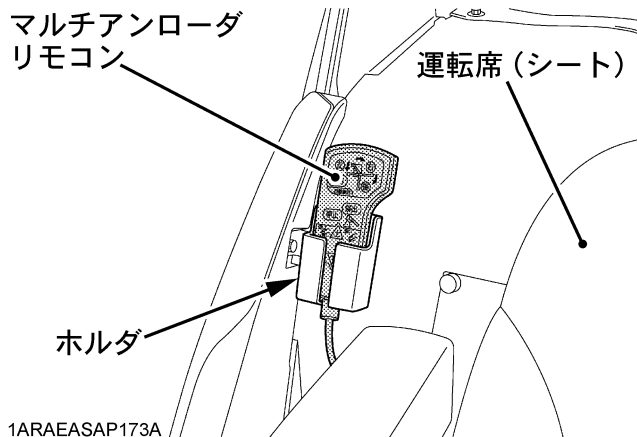
[SD 仕様]

装置の名称と取扱い

補 足

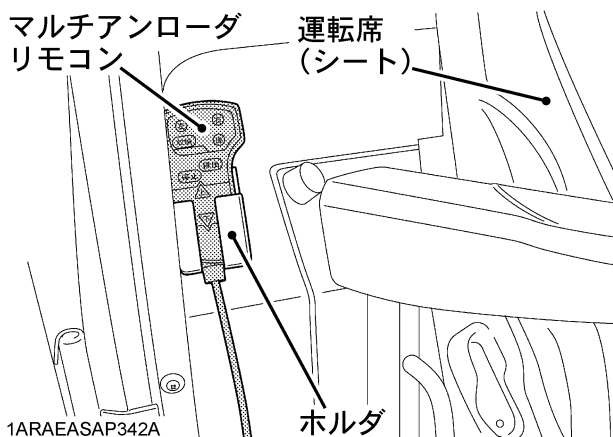
- * 出荷時、マルチアンローダリモコンは、運転席左後部のホルダに収納しています。作業に応じて左サイドパネル部の収納位置に収納してください。

[Q仕様除く]



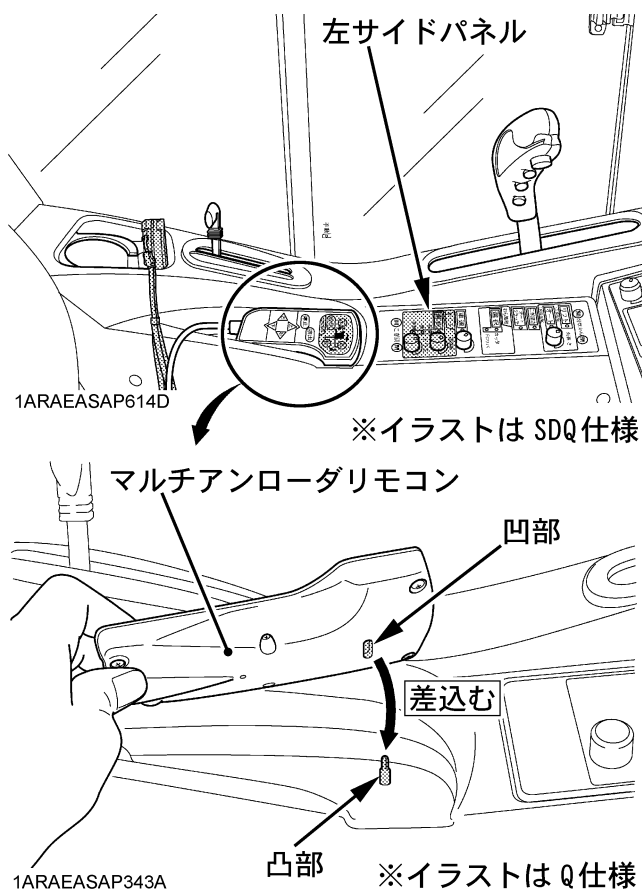
[Q仕様除く]

[Q仕様]



[Q仕様]

- * アンローダリモコンを左サイドパネル部に収納するときは、アンローダリモコン裏側の凹部を左サイドパネル部収納側の凸部に差込んでください。



◆ エンジン操作関係

■ 自動アクセル制御装置

自動アクセル制御は、刈取作業やもみ排出作業又は、移動走行時のエンジン回転数を制御する装置です。

自動アクセル制御が**【入】**のとき、下記エンジン回転数自動上昇条件のいずれかの操作が行なわれると、エンジン回転数がアクセルダイヤルで設定した回転数まで自動上昇します。また、下記条件の全ての操作が解除されるとエンジンの回転数がアイドリング回転数となります。

〈エンジン回転数自動上昇条件〉

- 脱こく・刈取クラッチレバー……**脱こく【入】**
- もみ排出スイッチ……………**【排出】**
- 主変速レバー……………前進・後進操作
(副変速レバー **【中立】** 位置以外)

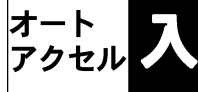
自動アクセル制御**【切】**のときは、エンジン回転数はアクセルダイヤルで設定した回転数となります。

● オートアクセルスイッチ

自動アクセル制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**オートアクセル【入】／【切】**を一定時間表示します。

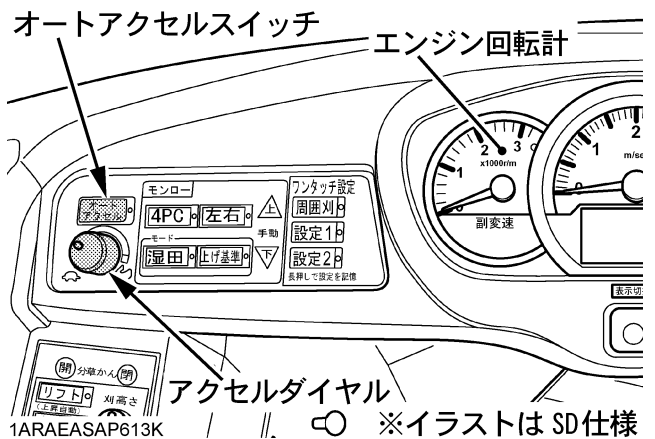
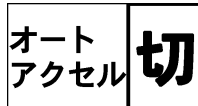
自動アクセル制御

【入】……………ランプが点灯し、自動アクセル制御が作動します。



自動アクセル制御

【切】……………ランプが消灯し、自動アクセル制御が解除されます。



補 足

* 自動アクセル制御がはたらいているとき、アクセルダイヤルを回すと、アクセルダイヤルで設定したエンジン回転数となります。

装置の名称と取扱い

◆ 走行操作関係

■ 自動車速制御装置

自動車速制御装置は、刈取作業中の速度を制御する装置です。エンジンの負荷に応じて自動的に最適な刈取速度に変速（増・減速）します。

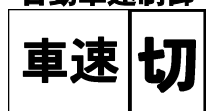
● 車速自動スイッチ

自動車速制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**車速** **入** / **切** を一定時間表示します。

自動車速制御 **入** … ランプが点灯し、自動車速制御が作動します。

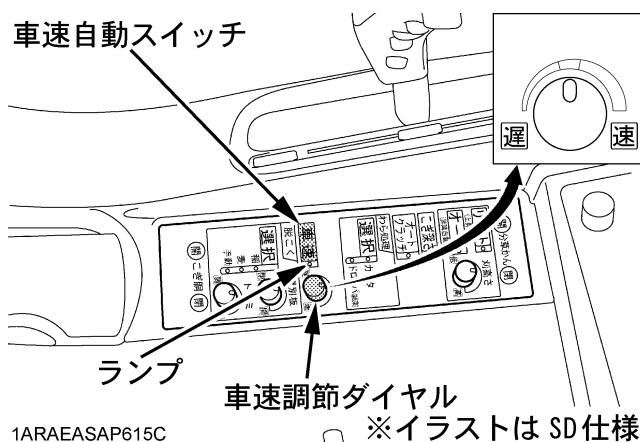


自動車速制御 **切** … ランプが消灯し、自動車速制御が解除されます。



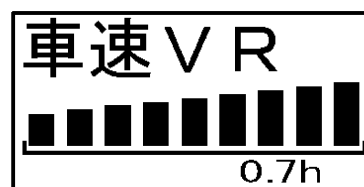
● 車速調節ダイヤル

自動車速制御で増速する**最高速度**の設定を行なうダイヤルです。作業速度を速くしたいときや遅くしたいときに変更してください。ダイヤルを**時計方向**に回すと**速く**なり、**反時計方向**に回すと**遅く**なります。また、調節ダイヤルを回すと、液晶ディスプレイに9段階の目盛で表示します。



1ARA-EASAP615C

[液晶表示]



遅い ← 車速 → 速い

1ARA-EASAP231A

補 足

* 自動制御がはたらいっているときでも、主変速レバーによる操作が優先されます。

■自動車体水平制御装置（左右モンロー）

[HD仕様]

自動車体水平制御装置は、機体が左・右に傾くと、自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

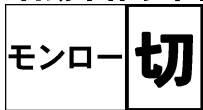
● 水平自動スイッチ

自動車体水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**モンロー【入】／【切】**を一定時間表示します。

自動車体水平制御【入】 …… ランプが点灯し、自動制御が作動します。

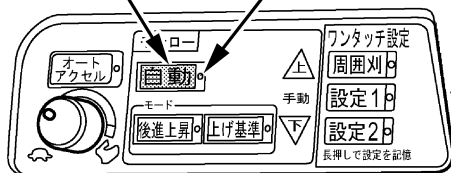


自動車体水平制御【切】 …… ランプが消灯し、自動車体水平制御が解除されます。

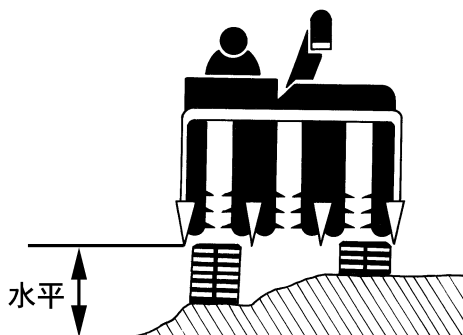


水平自動スイッチ

ランプ



1ARAEASAP616B



1ARAEASAP569A

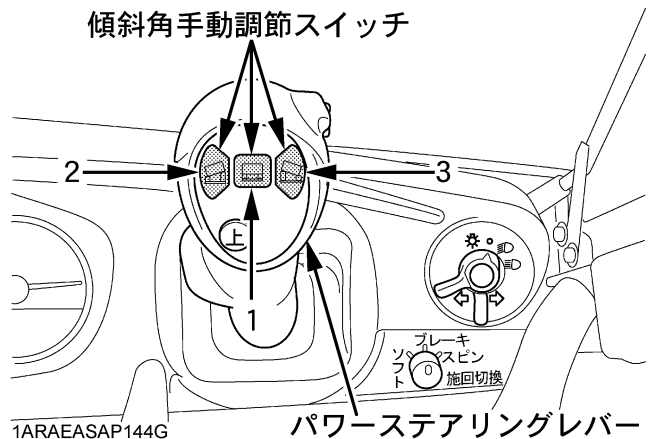
補 足

* 自動で作業した後、脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にする又は、水平自動スイッチを**【切】**にすると、機体は左右共に**最下降位置**まで下がります。（下限復帰）また、下降中に、水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。

● 傾斜角手動調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき、機体を左又は、右に傾けた状態で制御をはたかせるスイッチです。

傾斜角手動調節スイッチ



- 1 …… スイッチを押すと、左右水平となる状態で制御します。
- 2 …… スイッチを押している間、機体が**右上り**になります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。
- 3 …… スイッチを押している間、機体が**左上り**になります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

補 足

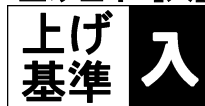
- * 傾斜角手動調節スイッチの 又は、 を押している間機体が傾きます。
- * 水平自動スイッチが**【切】**で自動車体水平制御が解除されているとき、 又は、 スイッチを押すと機体はその方向に傾きます。また、 スイッチを押すと機体は**最下降位置**まで下降します。

装置の名称と取扱い

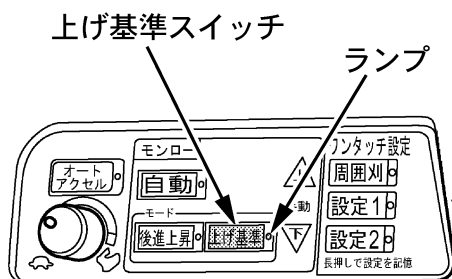
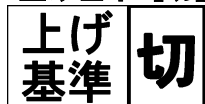
● 上げ基準スイッチ

自動車体水平制御がはたらいしているとき、水平制御を行なう基準の高さを切替えるスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**上げ基準【入】／【切】**を一定時間表示します。

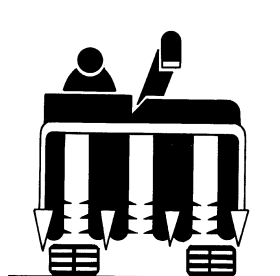
上げ基準【入】 …… ランプが点灯し、上げ基準で作動します。



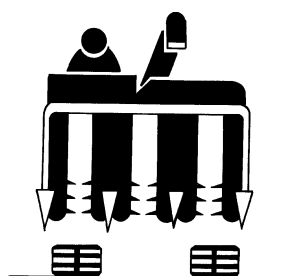
上げ基準【切】 …… ランプが消灯し、下げ基準で作動します。



1ARAEASAP616C



下げ基準
(最下降位置)



上げ基準
(最上昇位置)

1ARAEAPAP138A

補 足

- * 通常は**【下げ基準】(ランプ消灯)**にて、作業してください。深い湿田での刈終り時に、旋回が困難な場合にスイッチを押して**【上げ基準】(ランプ点灯)**状態にさせることにより、旋回が容易になります。直進刈取状態になれば、再びスイッチを押して**【下げ基準】(ランプ消灯)**にしてください。
- * 超湿田で**【上げ基準】**を選択したまま刈取り作業を行なうと、車体が深みにはまった場合、脱出不能となることがあります。超湿田の刈取作業は**【下げ基準】**で行なってください。

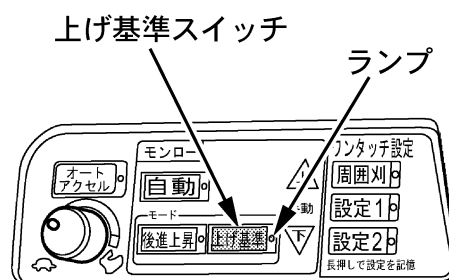
● 後進時機体上昇スイッチ

自動車体水平制御が**下げ基準**で制御されているとき、機体が後進時のみ、**上げ基準**に切替えるスイッチです。スイッチを操作すると同時に、液晶ディスプレイに**後進時上昇【入】／【切】**の表示をします。

後進時上昇【入】 …… ランプが点灯し、後進時**上げ基準**で作動します。



後進時上昇【切】 …… ランプが消灯し、**下げ基準**で作動します。



1ARAEASAP616C

補 足

- * 乾田では**【切】**にしてください。
- * 湿田で後進時に機体が後上りになり後進しにくいときは、後進時機体上昇スイッチを**【入】**にしてください。

[HD仕様]

■自動車体水平制御装置（4PC・ST モンロー）

[SD 仕様]

自動車体水平制御装置は、機体が前・後及び左・右に傾くと、自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

補 足

* 自動車体水平制御をはたらかせるときは、水平自動4PCスイッチ又は、水平自動左右スイッチのどちらかを選択してください。

また、自動車体水平制御を使用しないときは、水平自動 4PC スwitchと水平自動左右スイッチ両方共に【切】（ランプ消灯）にしてください。

● 4PC 水平自動スイッチ

前・後及び左・右方向の水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**モンロー【4PC】／【切】**を一定時間表示します。

自動車体 4PC 水平制御

【入】

モンロー **4PC**

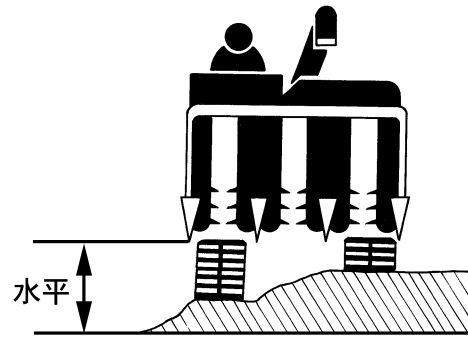
ランプが点灯し、前後及び左・右方向の自動制御が作動します。

自動車体 4PC 水平制御

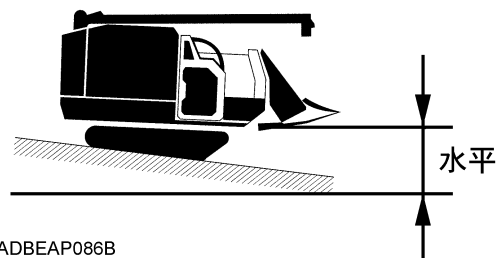
【切】

モンロー **切**

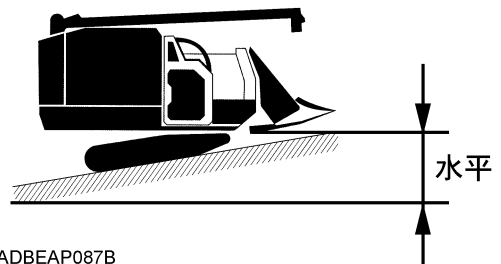
ランプが消灯し、前後及び左・右方向の自動制御が解除されます。



1ARAEASAP569A



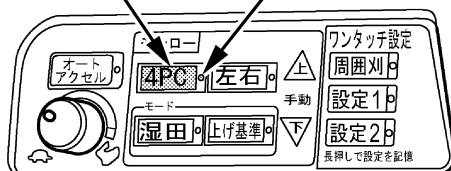
1ARADBEAP086B



1ARADBEAP087B

4PC 自動スイッチ

ランプ



1ARAEASAP613L

装置の名称と取扱い

● 左右水平自動スイッチ

左・右方向の水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**モンロー【左右】／【切】**を一定時間表示します。

自動車体左右水平制御

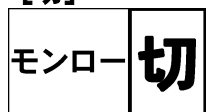
【入】



ランプが点灯し、左・右方向の自動制御が作動します。

自動車体左右水平制御

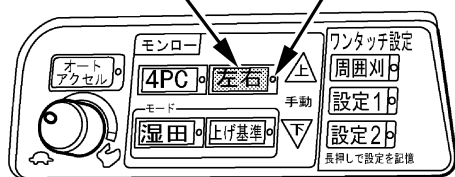
【切】



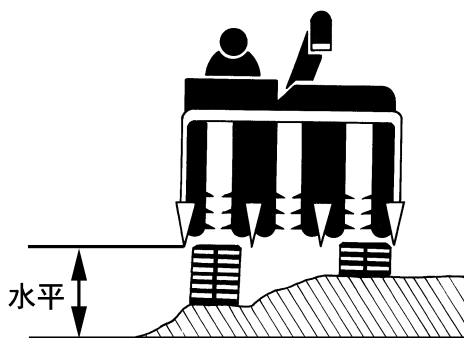
ランプが消灯し、左・右方向の自動制御が解除されます。

左右自動スイッチ

ランプ



1ARAEASAP613M



1ARAEASAP569A

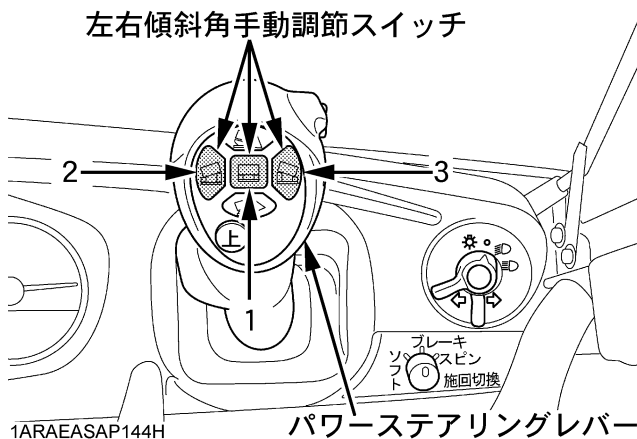
補 足

* 自動で作業したあと、脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にする又は、水平自動スイッチを**【切】**にすると、機体は前後・左右共に**最下降位置**まで下がります。(下限復帰) また、下降中に、水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。

● 左右傾斜角手動調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいしているとき、機体を左又は、右に傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに傾きを一定時間表示します。

左右傾斜角手動調節スイッチ



- 1 スイッチを押すと、前後・左右水平となる状態で制御します。
- 2 スイッチを押している間、機体が**右上り**になります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。
- 3 スイッチを押している間、機体が**左上り**になります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

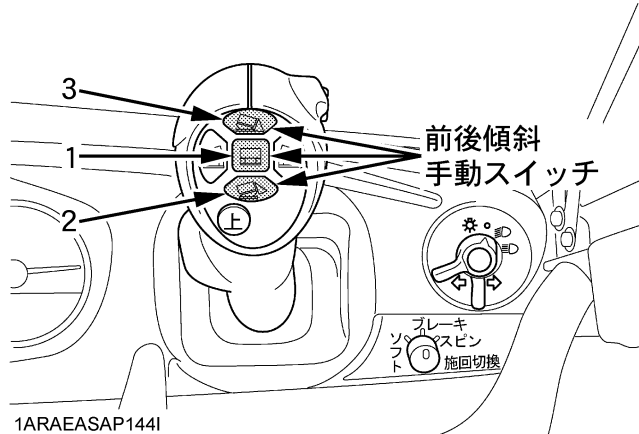
補 足

- * 左右傾斜角手動調節スイッチの 又は、 を押している間機体が傾きます。
- * 水平自動スイッチが**【切】**で自動車体水平制御が解除されているとき、 又は、 スイッチを押すと機体はその方向に傾きます。また、 スイッチを押すと機体は**最下降位置**まで下降します。

装置の名称と取扱い

● 前後傾斜手動調節スイッチ

機体の**前・後**方向の傾きを調整する手動スイッチです。ほ場の出入りなどで機体を前後に傾けたいときは、4PC 水平自動スイッチを【切】にし、手動スイッチで操作してください。



1ARAEASAP144I

- 1 スイッチを押すと、前後・左右水平となる状態で制御します。
- 2 スイッチを押している間、機体が**前上り**になります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。
- 3 スイッチを押している間、機体が**後上り**になります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

補 足

- * 傾斜角手動調節スイッチの【】又は、【】を押している間機体が傾きます。
- * 水平自動スイッチが【切】で自動水平制御が解除されているとき、【】又は、【】スイッチを押すと機体はその方向に傾きます。また、【】スイッチを押すと機体は**最下降位置**まで下降します。
- * 刈取作業時以外のときは、湿田 / 乾田モード切換えスイッチを【切】にしてください。
- * 左右水平自動スイッチが【入】の状態では、前後方向の手動スイッチを操作すると、前後に傾斜した状態で左・右の水平制御を行ないません。

* 手動スイッチの操作を行なうと機体は下記のように作動します。

- 【】 機体後部が最下降したあと、機体前部が上昇します。
- 【】 機体前部が最下降したあと、機体後部が上昇します。

● 湿田／乾田モード切換えスイッチ

湿田／乾田モードを切換えるスイッチです。また、スイッチを操作すると液晶ディスプレイに**モノロー [湿]**、**モノロー [乾]** を一定時間表示します。

湿田モード ランプが点灯し、湿田モードで水平制御が作動します。

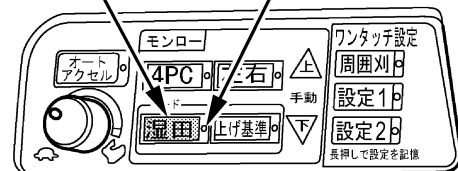


乾田モード ランプが消灯し、乾田モードで水平制御が作動します。



湿田 / 乾田モード
切換えスイッチ

ランプ



1ARAEASAP613N

補 足

- * 自動で作業したあと、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にする又は、水平自動スイッチを【切】にすると、機体は前後・左右共に**最下降位置**まで下がります。（下限復帰）また、下降中に、水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。
- * 湿田モードを選択すると、水平制御が敏感にはたります。前後【4PC】及び左右の動きが大きいときは、乾田モードを選択してください。

装置の名称と取扱い

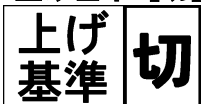
● 上げ基準／下げ基準モード切換えスイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき、水平制御を行なう基準の高さを切換えるスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**上げ基準**【入】／【切】を一定時間表示します。

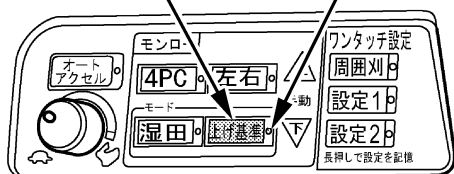
上げ基準【入】 …… ランプが点灯し、上げ基準で作動します。



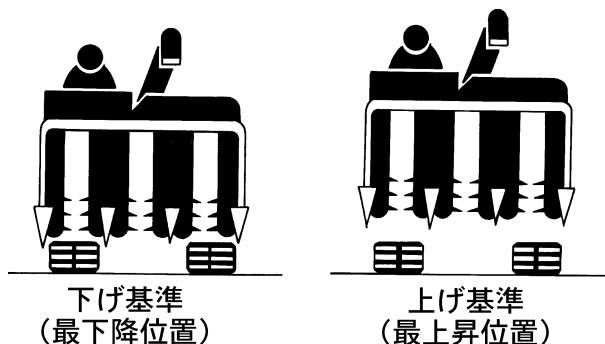
上げ基準【切】 …… ランプが消灯し、下げ基準で作動します。



上げ基準／下げ基準
モード切換えスイッチ ランプ



1ARAEASAP6130



1ARAEAPAP138A

補 足

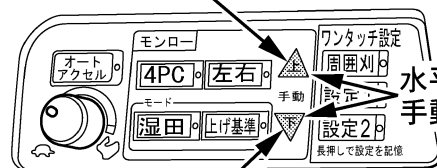
- * 通常は**【下げ基準】（ランプ消灯）**にて、作業してください。深い湿田での刈終り時に、旋回が困難な場合にスイッチを押して**【上げ基準】（ランプ点灯）**状態にさせることにより、旋回が容易になります。直進刈取状態になれば、再びスイッチを押して**【下げ基準】（ランプ消灯）**にしてください。
- * 超湿田で**【上げ基準】**を選択したまま刈取り作業を行なうと、車体が深みにはまった場合、脱出不能となることがあります。超湿田の刈取作業は**【下げ基準】**で行なってください。

[SD仕様]

■ 水平操作手動スイッチ

機体の**上昇↕下降**を行なう手動の操作スイッチです。

押すと機体上昇



水平操作
手動スイッチ

押すと機体下降

1ARAEASAP613P

※イラストは SD仕様

補 足

- * 水平操作手動スイッチを押している間機体上昇又は、下降します。
- * 傾斜地では操作しないでください。
- * モンロー操作時（特に全上昇、全下降）は、エンジン回転数を上げてください。

◆ 刈取・脱こく関係

■ 自動こぎ深さ制御装置

こぎ深さ自動制御装置は、作物の長さに応じて、適正なこぎ深さを保つ装置です。

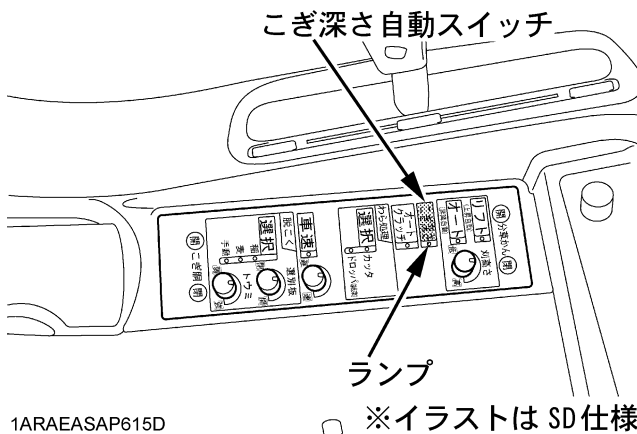
● こぎ深さ自動スイッチ

自動こぎ深さ制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**こぎ深さ【入】／【切】**を一定時間表示します。

自動こぎ深さ制御【入】 …… ランプが点灯し、自動こぎ深さ制御が作動します。



自動こぎ深さ制御【切】 …… ランプが消灯し、自動こぎ深さ制御が解除されます。



1ARAEASAP615D

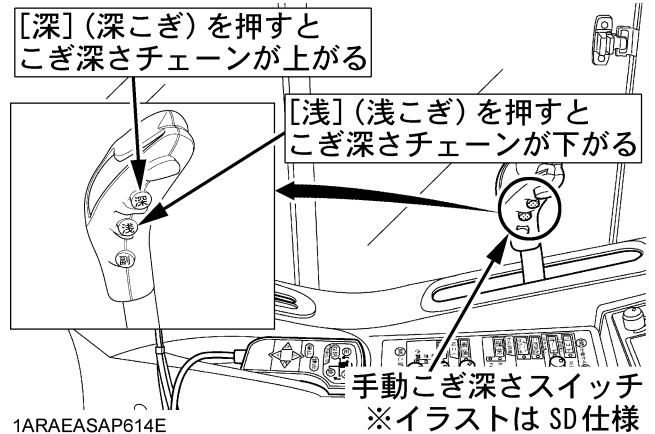
補 足

- * 穂先センサ（株元側、穂先側）に浮きわらや雑草が引っ掛かると、正常な自動制御ができませんので取除いてください。
- * 下記のときは、手動で操作してください。
 - 長かん作物（約130cm以上）を刈取るとき
 - 遅れ穂が多く、こぎ残しが出るとき
 - 極端に作物の長さが不揃いのとき
 - 雑草が多いとき
 - 倒状作物を低速で刈取るとき

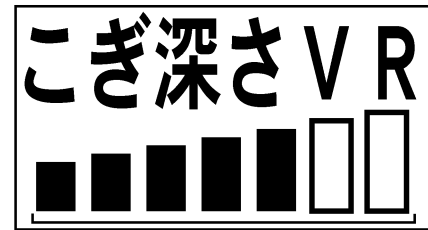
■ 手動こぎ深さスイッチ

● 手動こぎ深さスイッチ

こぎ深さの調節を手動で行なうスイッチです。スイッチを操作すると同時に、液晶ディスプレイに7段階の目盛でこぎ深さチェーンの位置を表示します。



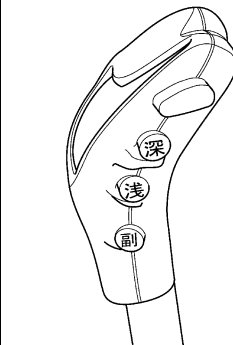
〔液晶表示〕



浅い ← こぎ深さ → 深い

1ARAEASAP232A

スイッチの操作	こぎ深さチェーンの動き
深	上がる
浅	下がる

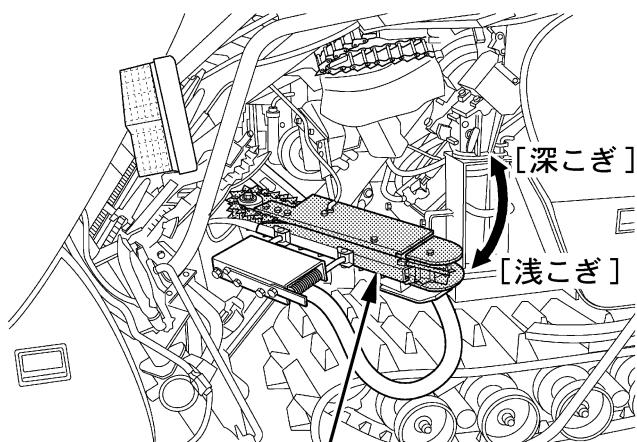


1ARAEASAP151B

装置の名称と取扱い

補 足

* 自動制御が、はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

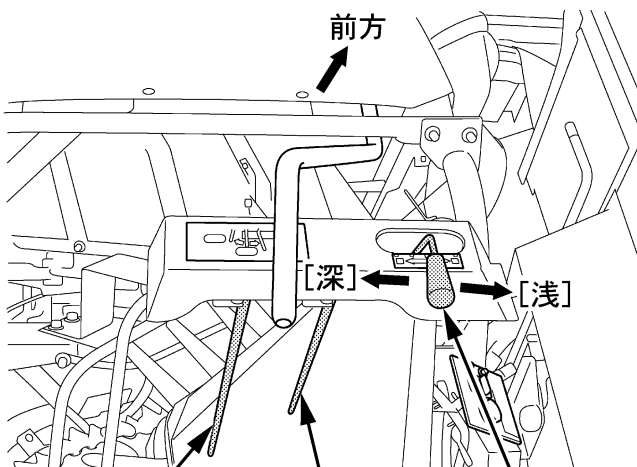


1ARAEASAP153A

こぎ深さチェーン

● 穂先センサの位置調節について

通常は【ほぼ中央】に合せてください。調節は、レバーを【深】の方向に倒すと、深こぎ気味に保持され、レバーを【浅】の方向に操作すると、浅こぎ気味に保持されます。



1ARAEASAP141B

穂先センサ (株元側) 穂先センサ (穂先側) こぎ深さ調節レバー

■ 自動刈高さ制御装置

自動刈高さ制御装置は、刈取作業中の刈取部の高さを地面に対して、一定以上の高さに修正する(リフトモード)又は、一定の高さに修正・保持(オートモード)する装置です。

● 上昇(リフト)自動スイッチ

上昇(リフト)制御の**入/切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**楽刈リフト【入】/【切】**を一定時間表示します。

上昇(リフト)制御
【入】

ランプが点灯し、上昇(リフト)制御が作動します。

楽刈
リフト **入**

上昇(リフト)制御
【切】

ランプが消灯し、上昇(リフト)制御が解除されます。

楽刈
リフト **切**

[SD仕様]

● 昇降(オート)自動スイッチ

昇降(オート)制御の**入/切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**楽刈オート【入】/【切】**を一定時間表示します。

昇降(オート)制御
【入】

ランプが点灯し、昇降(オート)制御が作動します。

楽刈
オート **入**

昇降(オート)制御
【切】

ランプが消灯し、昇降(オート)制御が解除されます。

楽刈
オート **切**

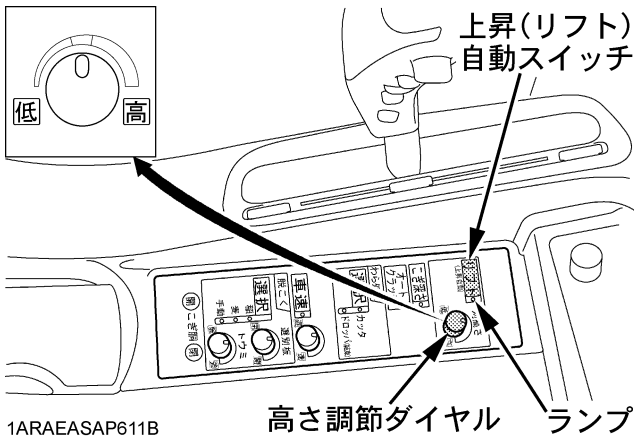
[SD仕様]

● 高さ調節ダイヤル

ほ場条件に応じて刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。

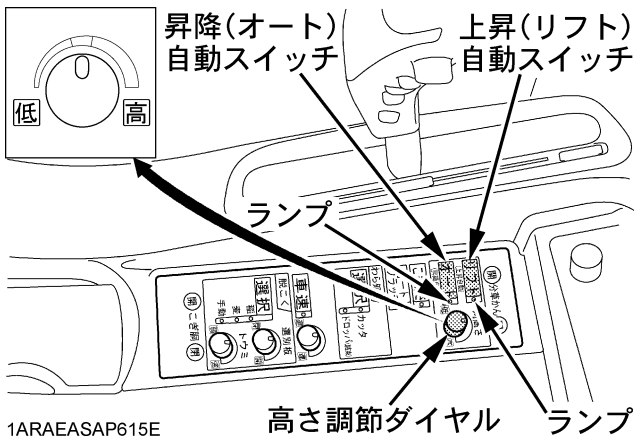
ダイヤルを**時計方向**に回すと刈高さが**高**くなり、**反時計方向**に回すと刈高さが**低**くなります。また、液晶ディスプレイに9段階の目盛で刈取部の高さを表示します。

[HD仕様]



[HD仕様]

[SD仕様]



[SD仕様]

[液晶表示]



低い ← 刈高さ → 高さ

1ARAEASAP3130

補 足

- * ほ場に溝やわだちがあるときは、突込み防止のため、高さ調節ダイヤルの低1～低3で使用しないでください。

装置の名称と取扱い

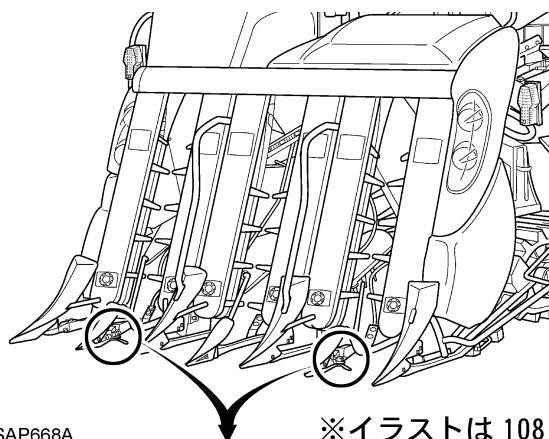
● 上昇自動（リフト）、昇降自動（オート）【SD仕様】について

上昇自動（リフト）…

デバイダの地面への突込みを防止する制御のみを行ないます。刈取部を下降する操作はパワーステアリングレバーで行なってください。

昇降自動（オート）【SD仕様】…

刈取部が地面の凹凸に追従し、一定の刈高さに修正・保持します。



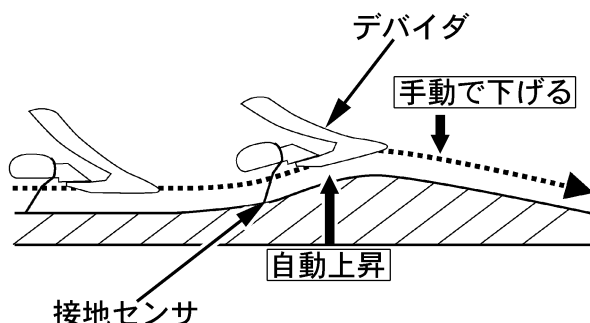
11RAEASAP668A

デバイダ

11RAEASAP168A

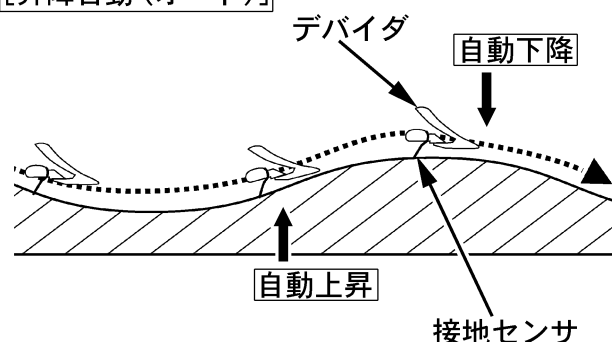
接地センサ

【上昇自動（リフト）】



11RAEASAP289A

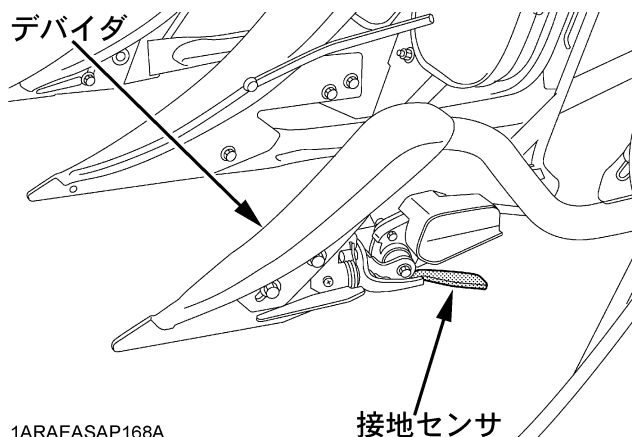
【昇降自動（オート）】



11RAEASAP289B

補 足

- * 自動制御がはたらいっているときでも、パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。
- * 高さ調節ダイヤルを低い側に調整すると、地面の状態により、デバイダの突込みを生じる場合があります。
- * 刈始めに、切わらや土の盛上りを接地センサが検知して刈取部が上昇する場合は、前進しながらパワーステアリングレバーで、適正な高さに修正してください。
- * 接地センサの下部に、泥やわらが付着すると、誤動作することがありますので、エンジンを必ず止めてから泥やわらを取除いてください。



11RAEASAP168A

接地センサ

- * 左右両方の接地センサがほ場の溝やわだちの上を通ると、デバイダが地面に突込むおそれがありますので、上昇（リフト）自動スイッチ及び昇降（オート）自動スイッチ【SD仕様】を【切】（ランプ消灯）にし、パワーステアリングレバーを操作して刈取作業を行なってください。

■刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは、刈取部及び脱こく部が作動中にパワーステアリングレバーやポジピタスイッチを操作したとき、刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部及び、フィードチェーンが停止し、一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

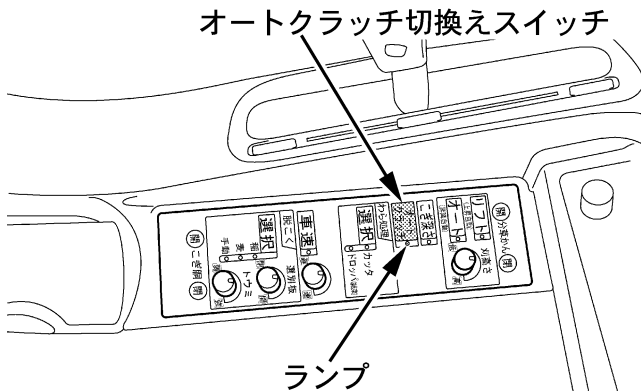
● オートクラッチ切換えスイッチ

刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに**オートクラッチ【入】／【切】**を一定時間表示します。

オートクラッチ【入】 … ランプが点灯し、刈取オートクラッチが作動します。



オートクラッチ【切】 … ランプが消灯し、刈取オートクラッチが解除されます。



1ARAEASAP615F

※イラストは SD 仕様

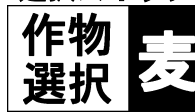
■自動脱こく制御装置

自動脱こく制御装置は、もみの量や刈取速度の変化に対応してチャフ開度とトウミ風力を自動的に調節し（作物選択スイッチの**【手動】**除く）、安定した選別作業を行なう装置です。

● 作物（手動／麦／稲）選択スイッチ

作物の種類や濡れ状態に合わせて選択を行なうスイッチです。作物選択スイッチを押すと**【稲】⇒【麦】⇒【手動】**の順に切換わります。また、ランプが点灯し、液晶ディスプレイに**稲／麦／通常表示**の表示をします。

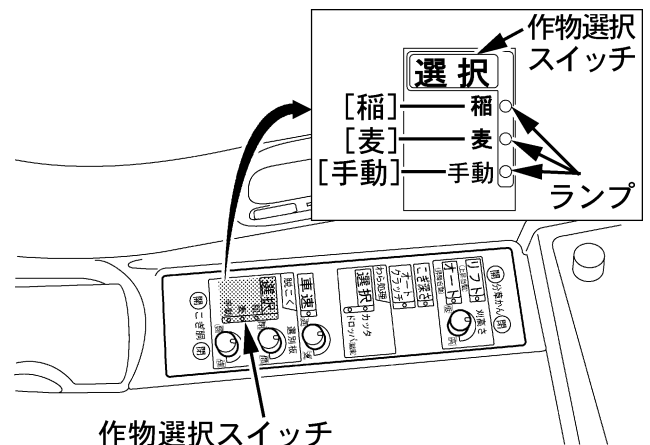
選択スイッチ【麦】 …… 作物が麦のときに選択します。



選択スイッチ【稲】 …… 作物が稲のときに選択します。



選択スイッチ【手動】 …… 濡れた作物を刈取るときや選別板の開度及びトウミの風力を固定するときに選択します。



1ARAEASAP615G

※イラストは SD 仕様

装置の名称と取扱い

補 足

- * 作物選択スイッチが【手動】位置のときは、液晶ディスプレイに**通常表示（水温／シープ／もみ）**を表示します。



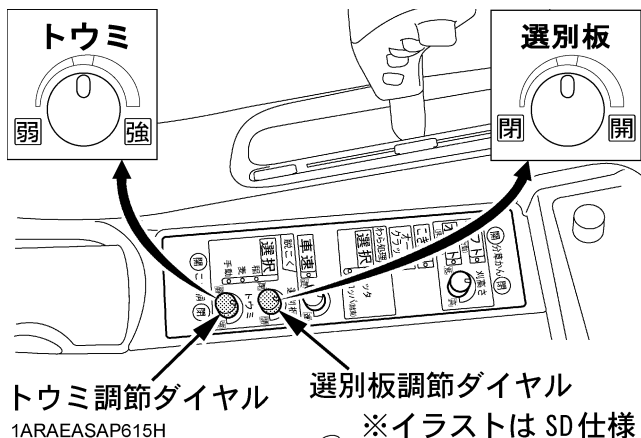
1ARAEASAP189A

● トウミ調節ダイヤル

トウミの風力調節を行なうダイヤルです。風力は、ダイヤルを**時計方向**に回すと**強**くなり、**反時計方向**に回すと**弱**くなります。液晶ディスプレイに7段階の目盛でトウミの風力を表示します。

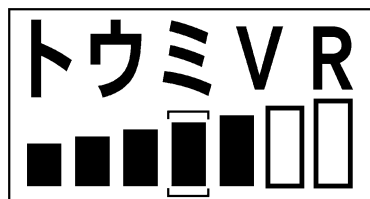
● 選別板調節ダイヤル

シープケース選別板の開度の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**時計方向**に回すと**開**き、**反時計方向**に回すと**閉**じます。また、調節ダイヤルを回すと、液晶ディスプレイに7段階の目盛で選別板の開度を表示します。



1ARAEASAP615H

[液晶表示]



弱い ← トウミの風力 → 強い

1ARAEASAP233A

[液晶表示]

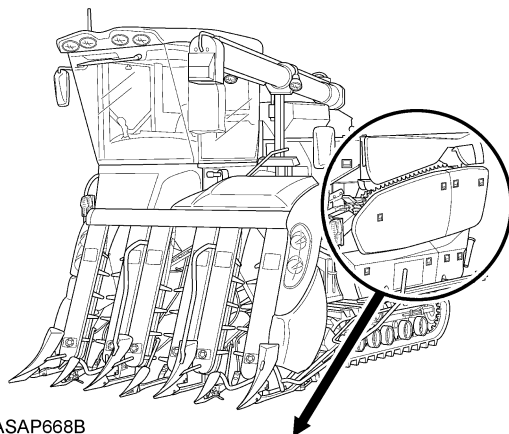


閉じる ← 選別板の開度 → 開く

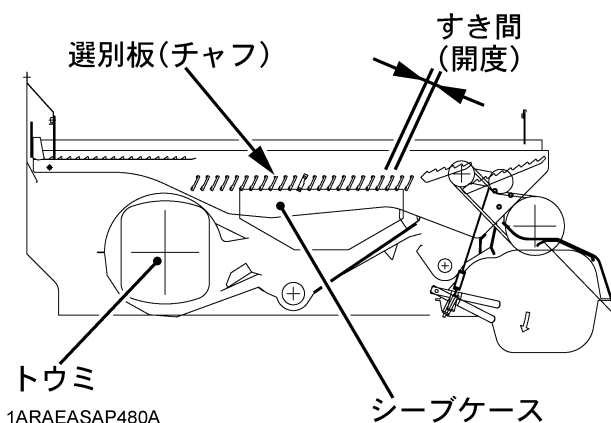
1ARAEASAP234A

補 足

- * 作物選択スイッチで【手動】を選択したときは、ダイヤルで選別板の開度及びトウミ風力を調節してください。また、強湿材作物を刈取る場合は、選別板調節ダイヤルを**全開**（時計方向いっぱいまで回す）位置にしてください。



1ARAEASAP668B



1ARAEASAP480A

◆ グレンタンク関係

■ アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は、**【左】・【右】・【後】**の自動旋回スイッチの操作により、アンローダが**排出位置**に自動旋回し、収納スイッチの操作により、アンローダが**収納位置**に自動旋回する装置です。

● アンローダ自動旋回（左・右・後）スイッチ

アンローダ自動（左・右・後）旋回スイッチを押すと、アンローダが選択した排出位置まで自動旋回します。

補 足

- * アンローダが動作開始範囲外にあるときは、アンローダ自動旋回（左・右・後）スイッチを押してもアンローダは自動旋回しません。旋回するときは、アンローダ操作スイッチで手動で操作する又は、アンローダをいったんアンローダ受けに収納したあと、アンローダ自動旋回スイッチを操作してください。

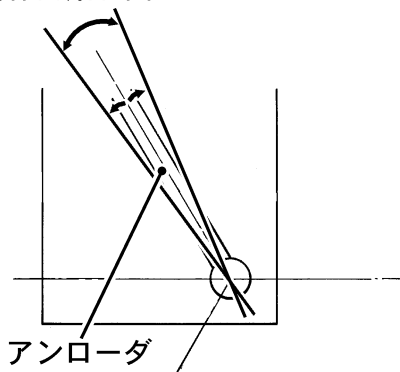
● 収納スイッチ

収納スイッチを押すと、アンローダが収納位置まで自動旋回します。

補 足

- * アンローダが動作開始範囲内にあるときは、収納スイッチを押してもアンローダは収納しません。収納するときは、アンローダ操作スイッチで手動で操作してください。

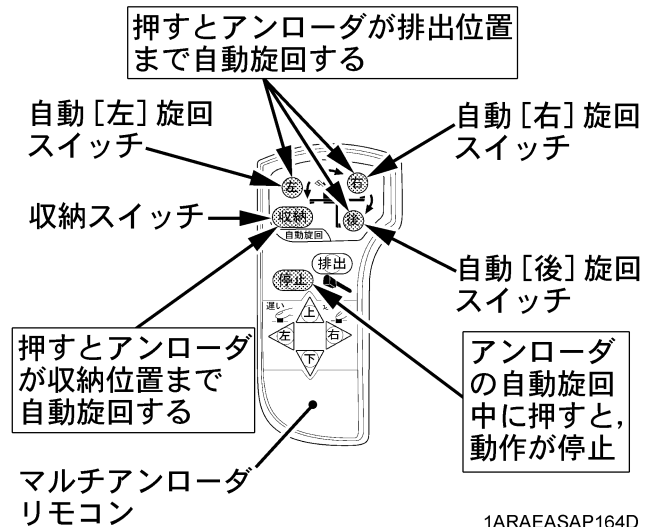
動作開始範囲



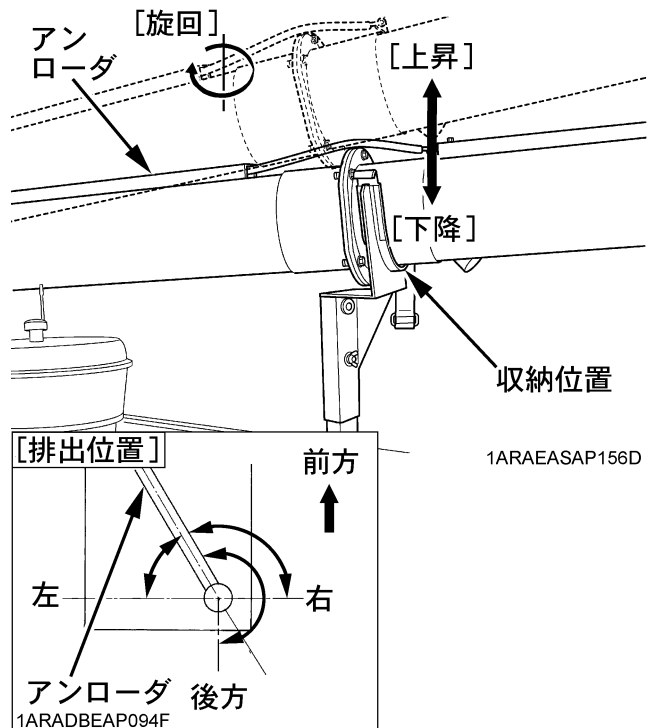
1ARAEASAP571A

● 停止スイッチ

自動上昇・旋回・下降途中で停止スイッチを押すと、その位置でアンローダが停止します。



1ARAEASAP164D



1ARAEASAP156D

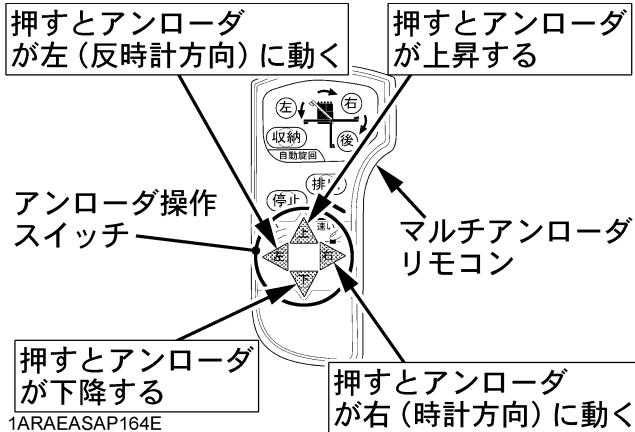
補 足

- * 自動制御装置作動中でもアンローダ操作スイッチの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。
- * 自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に、アンローダ自動旋回スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10 秒程度待ってから自動スイッチを押す又は、停止スイッチを1度押してから自動スイッチを押してください。

装置の名称と取扱い

■アンローダ操作スイッチ

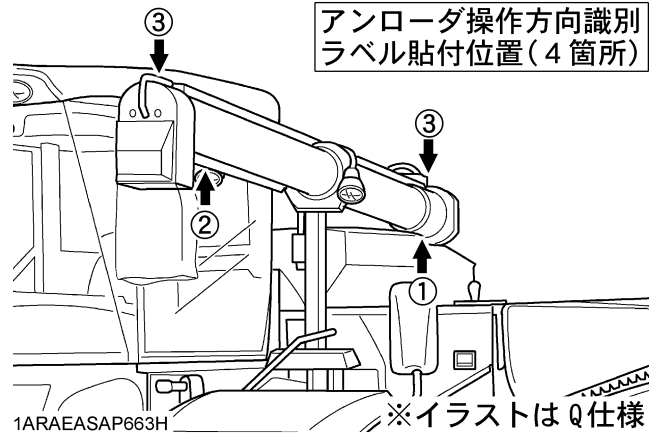
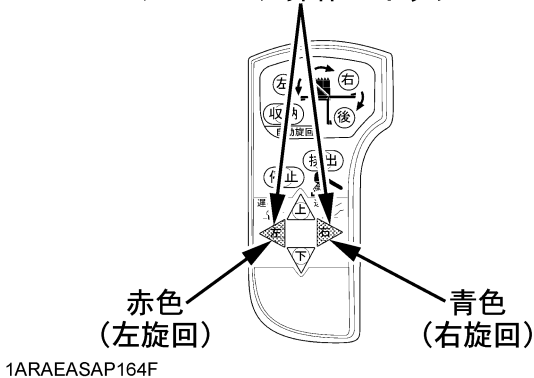
アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動の操作スイッチです。また、アンローダ操作スイッチは、弱く押すとアンローダは遅く動き、強く押すとアンローダの動きが速くなる2段階式の操作スイッチです。



補 足

* アンローダ操作スイッチの【左】、【右】とアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し、アンローダ操作スイッチを操作してください。アンローダ操作スイッチの【左】（赤色）を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し、アンローダ操作スイッチの【右】（青色）を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。

アンローダ操作スイッチ



青色（右旋回） 赤色（左旋回）

操作方向識別ラベル①

1ARADBEAP096A

青色（右旋回） 赤色（左旋回）

操作方向識別ラベル②

1ARADBEAP097A

青色（右旋回） 赤色（左旋回）

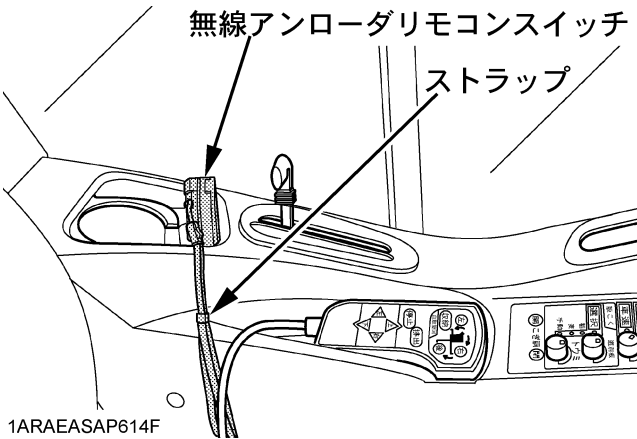
操作方向識別ラベル③

1ASADACAP695A

■無線アンローダリモコンスイッチ

[SD仕様]

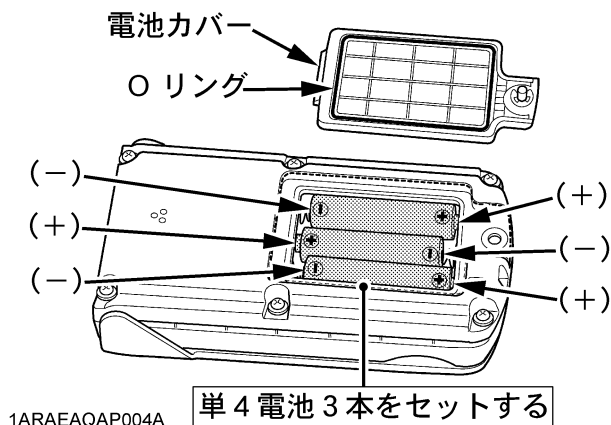
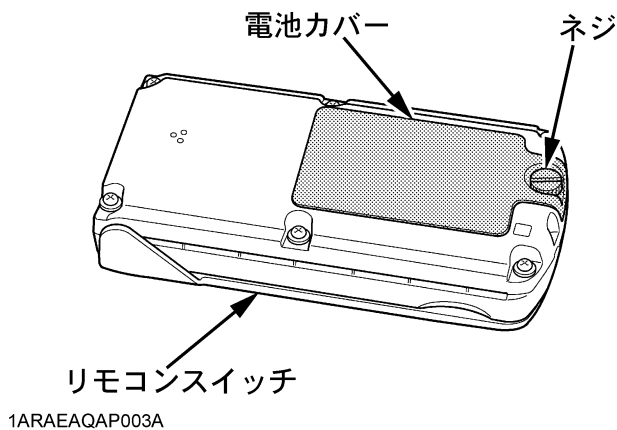
機体から離れた場所で、遠隔操作によりアンローダの上昇・下降及び旋回とグレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。



◆ リモコンスイッチの準備

● 単4電池のセット

1. リモコンスイッチ裏側の電池カバーのネジをゆるめて電池カバーを外します。
2. 単4電池3本をセットします。



重要

- * 電池カバー裏側にある防水用のOリングを外さないでください。雨水などの浸水により、電池や電極が腐食するおそれがあります。

補足

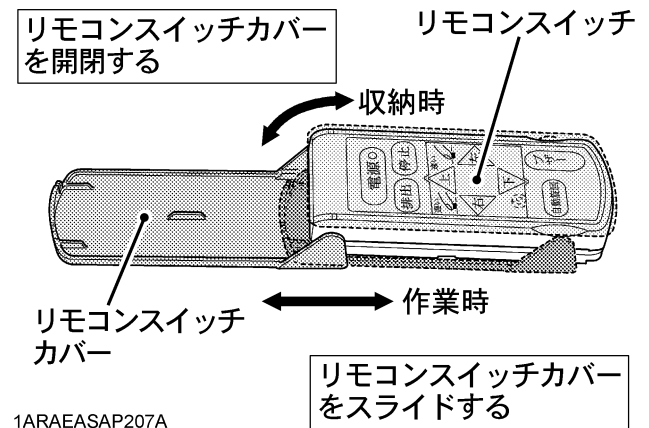
- * (+) と (-) を間違えないようにセットしてください。
 - * 初回は、付属部品の単4電池3本を使用してください。
 - * 推奨電池はアルカリ電池です。
3. 電池カバーをリモコンスイッチに取付けたあと、ネジをしっかりと締付けてください。

重要

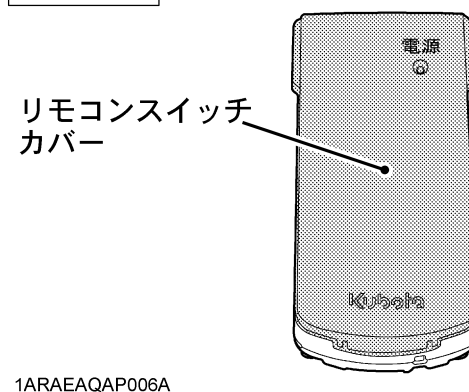
- * 長期間使用しない場合は、電池を取外してください。液もれにより電極が腐食するおそれがあります。
- * 電池カバーを取付けるとき、Oリングを溝にきちんとセットしてください。

● 収納と準備

リモコンスイッチを収納又は、作業状態にするときは、リモコンスイッチのカバーを動かして、収納状態又は、作業状態にしてください。



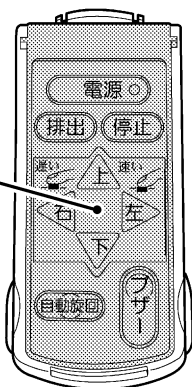
[収納状態]



装置の名称と取扱い

[作業状態]

リモコンスイッチ



1ARA-EASAP208A

重要

- * リモコンスイッチが破損するおそれがあるため下記事項に注意してください。
- 落とさないでください。
- ズボンの後ポケットに入れた状態で座らないでください。
- 水洗いや水没させたり、高圧洗浄機の水を掛けしないでください。
- 高温多湿な場所や直射日光の当たる場所に放置しないでください。

補足

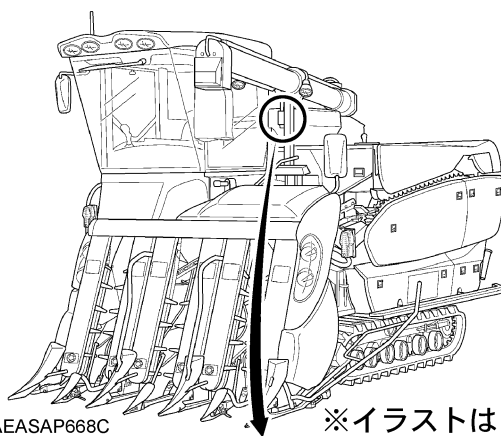
- * リモコンスイッチの落下防止のため、付属部品のストラップをリモコンスイッチに取付けると、首など体の一部に掛けて作業が行なえます。

◆ リモコンスイッチの操作とアンローダの操作について

- 無線アンローダリモコンの送信範囲について
リモコンスイッチを押してアンローダの操作が行なえる範囲は周囲約 10m です。

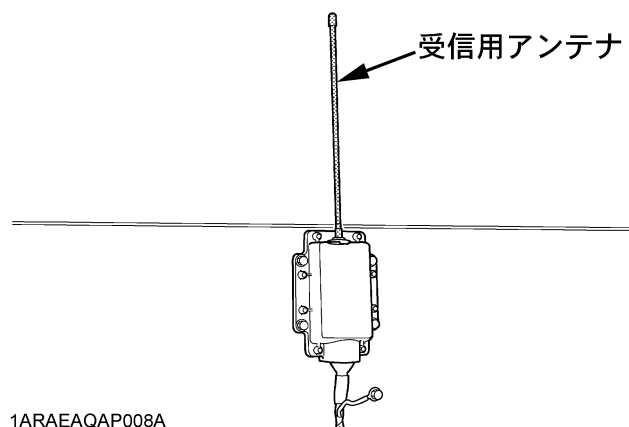
補足

- * 電波障害となる建物や無線基地局などが近くにあるときは、10m より狭くなる場合があります。
- * 受信用アンテナが折れたりして破損しているときは使用しないでください。また、購入先に連絡して交換してください。



1ARA-EASAP668C

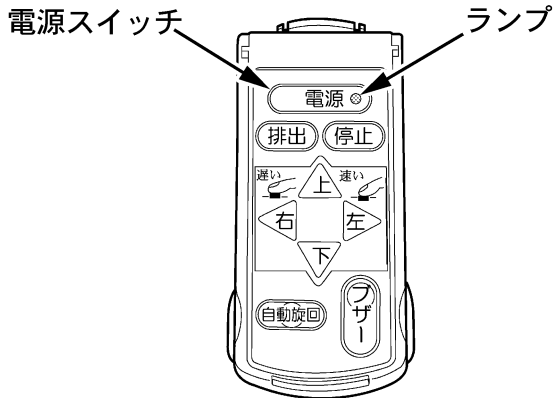
※イラストは Q 仕様



1ARA-EAQAP008A

● 電源操作

リモコンスイッチを操作するには、電源スイッチを押して電源を**入**（ランプ点灯）にしてください。操作後は、電源スイッチをもう一度押して、電源を**切**（ランプ消灯）にしてください。

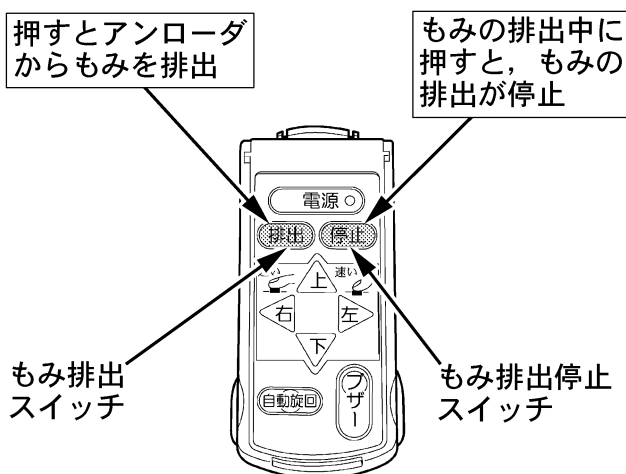


1ARAESAP208B

補 足

- * 電池の消耗を軽減するため、約5分間リモコンスイッチの操作をしなかったとき、電源が自動的に切れ（ランプ**消灯**）ます。
- * ランプが**点滅**したときは、電池の残量が少なくなっていますので早目に電池交換を行ってください。
- * アンローダが作動中（巡回、もみ排出）に電池が切れても（ランプ**消灯**）アンローダの動きは停止しません。巡回又は、もみの排出を停止するときは、運転席側の操作で停止してください。

● もみの排出操作

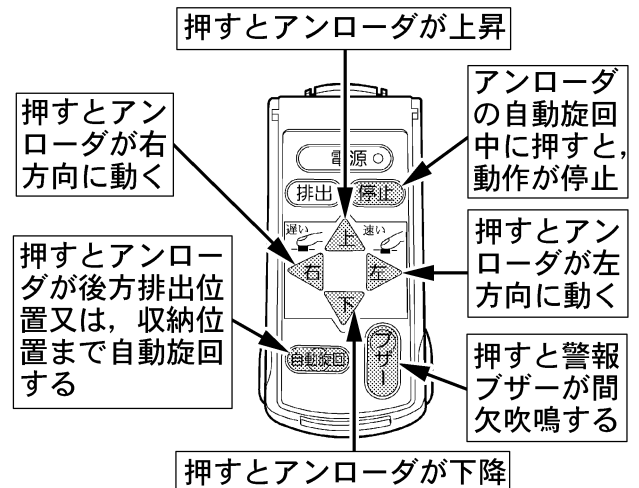


1ARAESAP208C

補 足

- * **【停止】**スイッチはリモコンスイッチの電源が切れている場合でも、有効にはたります。

● 作業前の合図、上昇・下降及び旋回操作



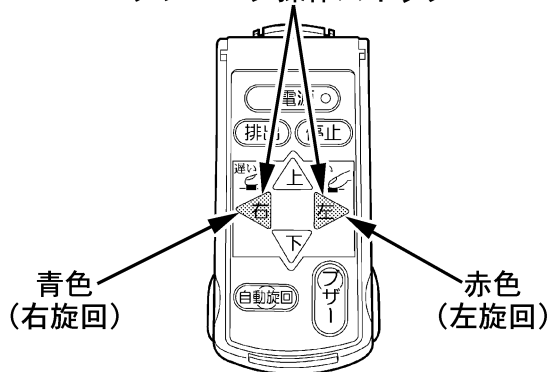
1ARAESAP208D

補 足

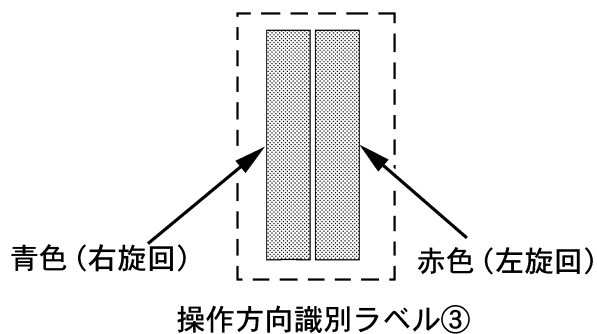
- * 共同作業時の安全確認など、**【ブザー】**スイッチを押すと、運転者へ合図を送ることができます。
- * アンローダ操作スイッチは、弱く押すとアンローダは遅く動き、強く押すとアンローダの動きが速くなる2段階式の操作スイッチです。
- * 自動巡回スイッチを押したとき、排出位置へ自動巡回後、停止する位置は**後方**位置です。
- * アンローダが動作開始範囲で停止しているときに自動スイッチを押すと、アンローダは排出位置まで上昇及び自動巡回をします。
- * マルチアンローダリモコンと無線アンローダリモコンのリモコンスイッチを同時に操作したときは、無線アンローダリモコンのリモコンスイッチによる操作が優先されます。
- * アンローダ操作スイッチの**【左】**、**【右】**とアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し、アンローダ操作スイッチを操作してください。アンローダ操作スイッチの**【左】**（赤色）を押すとアンローダは左巡回（ラベル赤色方向）し、アンローダ操作スイッチの**【右】**（青色）を押すとアンローダは右巡回（ラベル青色方向）します。

装置の名称と取扱い

アンローダ操作スイッチ



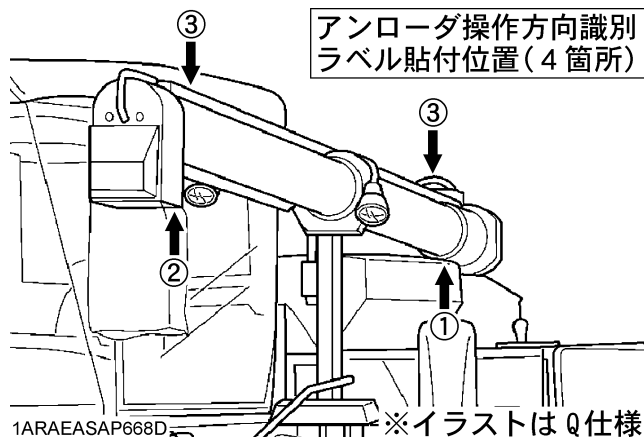
1ARAEASAP208E



1ASADACAP695A

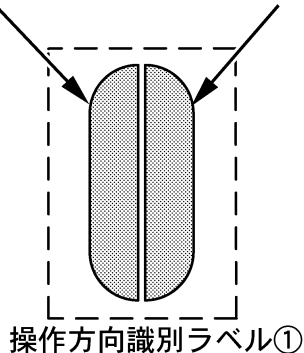
[SD仕様]

アンローダ操作方向識別ラベル貼付位置(4箇所)



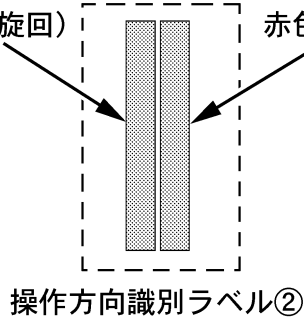
1ARAEASAP668D

青色 (右旋回) 赤色 (左旋回)



1ARADBEAP096A

青色 (右旋回) 赤色 (左旋回)



1ARADBEAP097A

装置の名称と取扱い

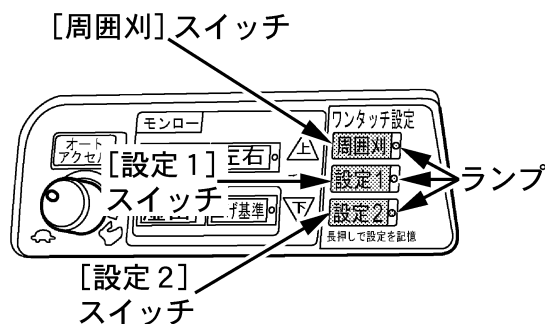
◆ その他

■作業設定スイッチ（ワンタッチ設定）

作業やほ場の条件に合わせて、はたらかせたい各自動制御装置の組合せを設定するスイッチです。

● 作業設定スイッチ

【周囲刈】・【設定 1】・【設定 2】 のいずれかのスイッチを操作すると、ランプが点灯すると同時に液晶ディスプレイに**ワンタッチ【周囲刈】/【切】・ワンタッチ【設定 1】/【切】・ワンタッチ【設定 2】/【切】** を一定時間表示します。



1ARAESAP613Q

設定内容の変更を行なうときは、はたらかせたい各自動制御装置を**【入】**（ランプ点灯）にしたあと、設定内容を記憶させたい**【周囲刈】・【設定 1】・【設定 2】** のいずれかの作業設定スイッチを“**ピピッ**”と音がするまで押してください。設定が終わったあとは、作業やほ場の条件に合わせて 3 種類の各作業設定スイッチのいずれかを選び、スイッチを押して切換えてください。

【結束機付き仕様】

補 足

* 脱こく機が停止状態のときは、作業設定スイッチを押しても切換えができません。切換えを行なうときは、エンジンを始動後、脱こく・刈取クラッチレバーを必ず**脱こく【入】**位置にし、脱こく機が作業状態のときに行なってください。

【結束機付き仕様】

補 足

* 出荷時の各作業設定スイッチの自動制御装置の設定は下表の通りです。

【HD 仕様】

○：【入】 ×：【切】

自動制御装置	作業設定スイッチ		
	周囲刈	設定 1	設定 2
アクセル	○	○	○
車速	×	×	○
車体水平	○	○	○
こぎ深さ	○	○	○
刈高さ	リフト	○	○
刈取オートクラッチ	×	○	○
脱こく	【稲】	【稲】	【稲】

※わら処理選択は**【カット】**位置

【HD 仕様】

【SD 仕様】

○：【入】 ×：【切】

自動制御装置	作業設定スイッチ		
	周囲刈	設定 1	設定 2
アクセル	○	○	○
車速	×	×	○
車体水平	○	○	○
こぎ深さ	○	○	○
刈高さ	リフト	×	×
	オート	○	○
刈取オートクラッチ	×	○	○
脱こく	【稲】	【稲】	【稲】

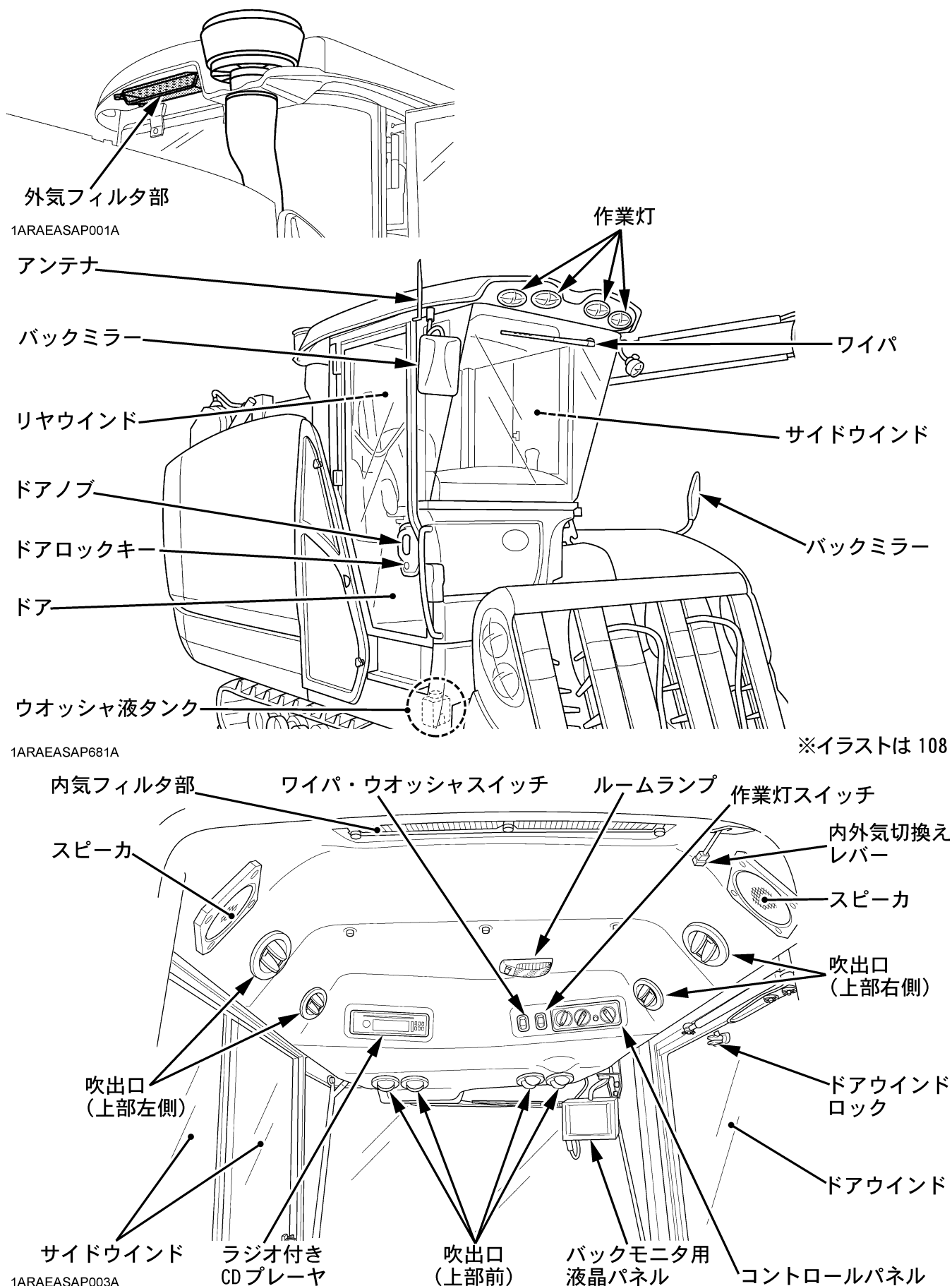
※自動車体水平制御は**【4PC】**位置

※わら処理選択は**【カット】**位置

【SD 仕様】

装置の名称と取扱い

キャビン装置の名称とはたらき【Q仕様】



各装置の取扱い

■ ドアの開閉，ロックのしかた



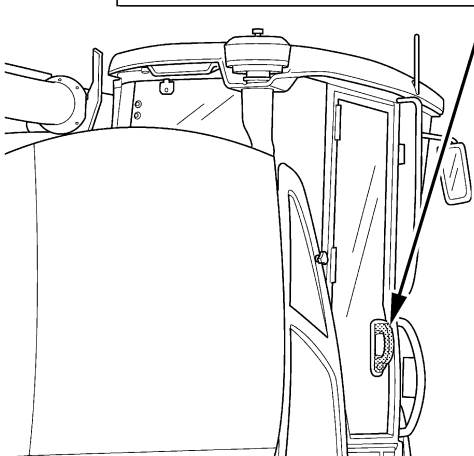
注 意

- * ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。
- * ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

◆ ドアの開閉のしかた

● 室外から

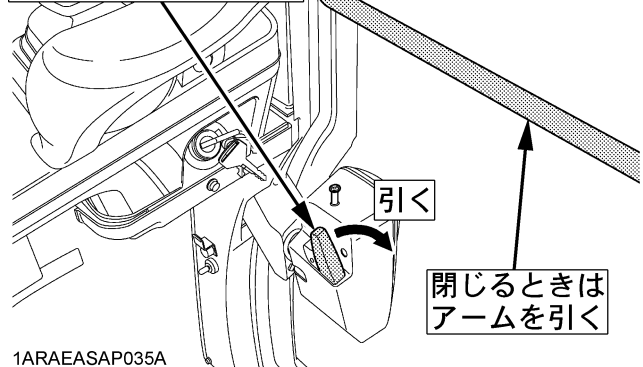
ドアノブを引くと開き，閉じるときは
[ボタン] と音がするまで強く押す



1ARAEASAP605H

● 室内から

開くときは
オープンレバーを引く



1ARAEASAP035A

重 要

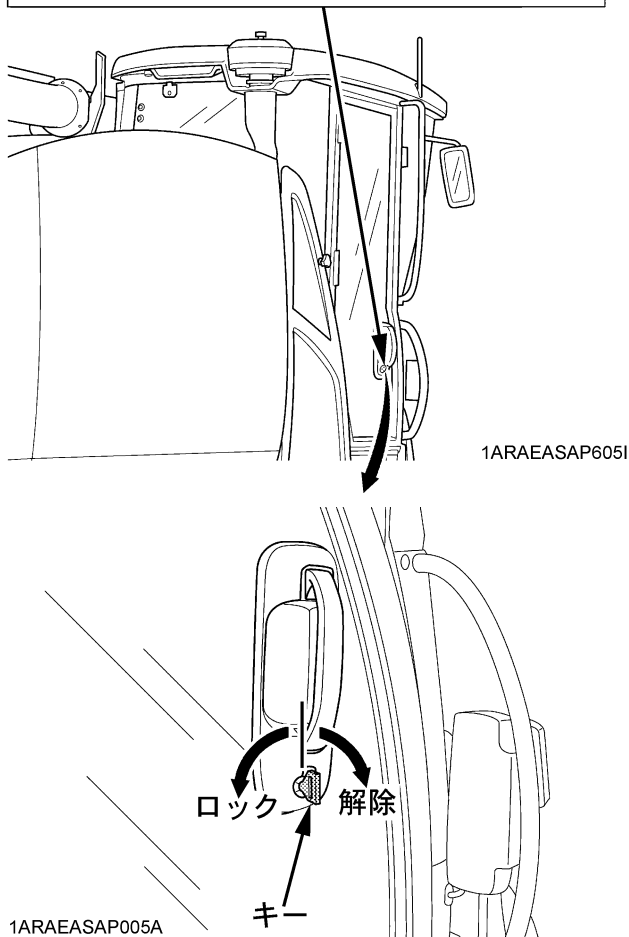
- * ドアにぶらさがったり，開閉範囲を越えた無理な操作をしないでください。ドアが破損するおそれがあります。

装置の名称と取扱い

◆ ドアのロック・解除のしかた

● 室外から

ドアが閉じている状態で、ドアロックキーにキャビン用キーを差し込む

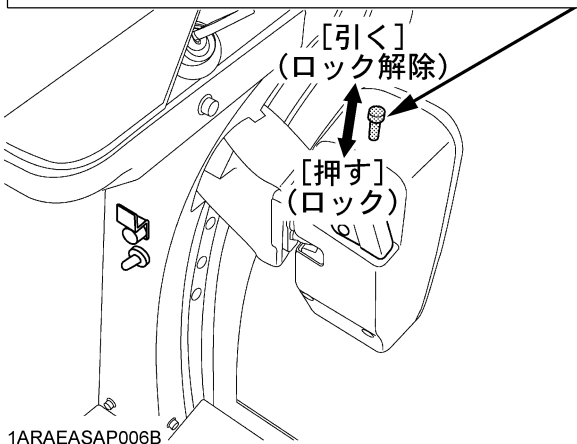


重 要

* 長時間コンバインから離れるときは、必ずドアのロックをしてください。

● 室内から

ドアの開閉をロックするときはロックレバーを押し、解除するときはロックレバーを引く



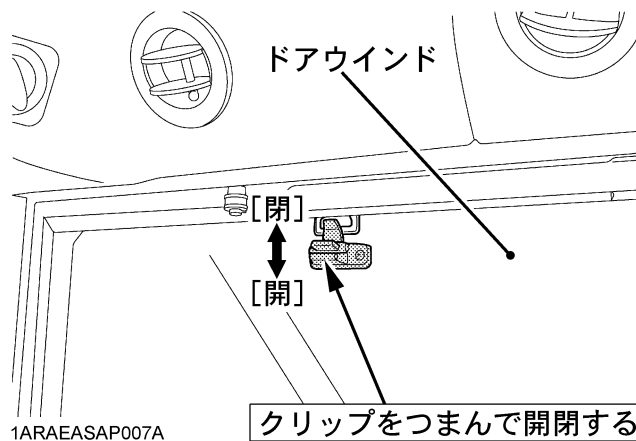
■ 各ウインドの開閉のしかた



注 意

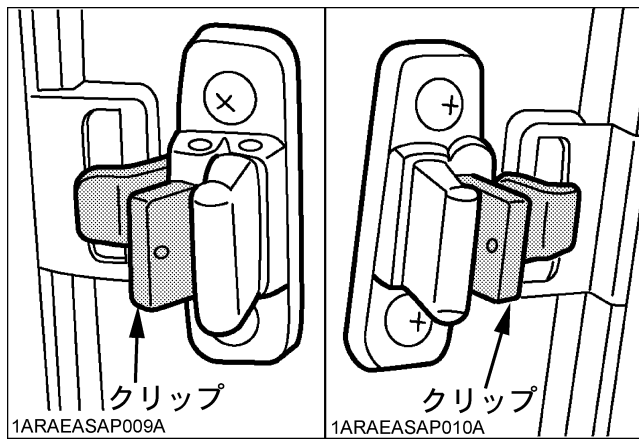
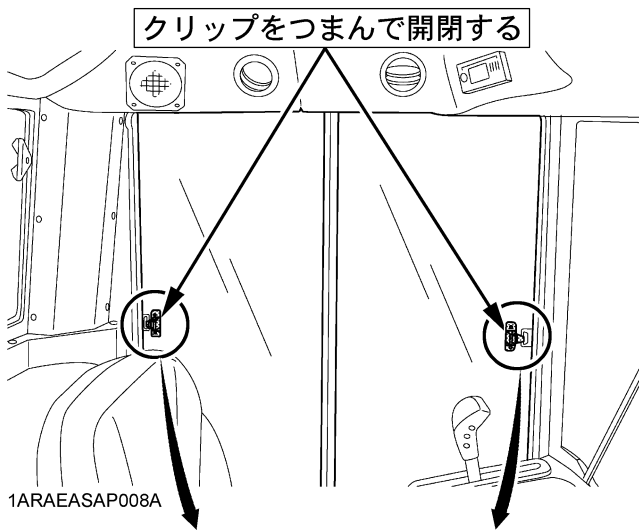
* リヤウインド後方で作業をする場合は、頭などを打つおそれがあるため注意してください。

◆ ドアウインド



装置の名称と取扱い

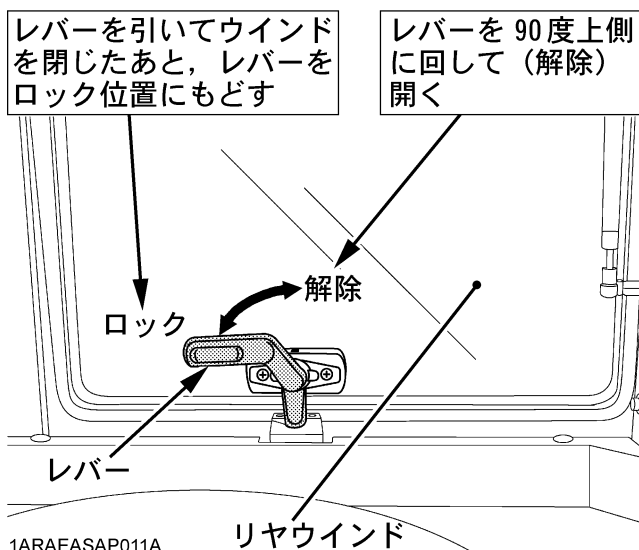
◆ サイドウインド



◆ リヤウインド

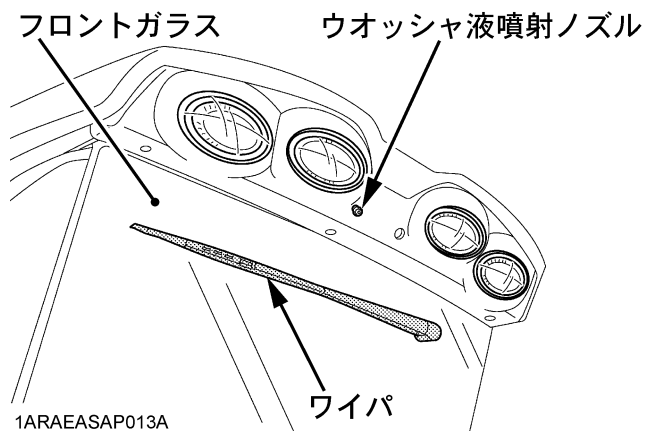
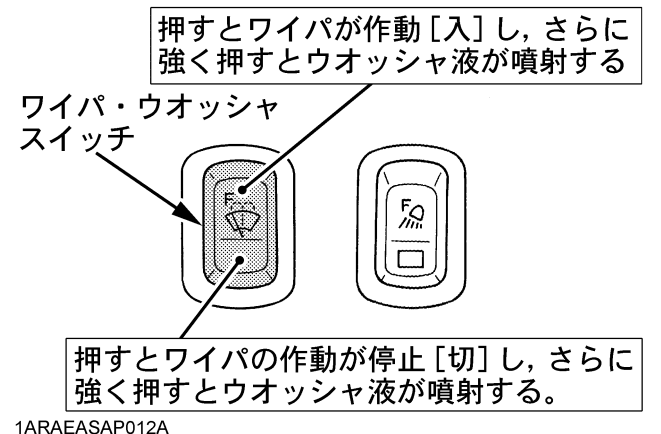
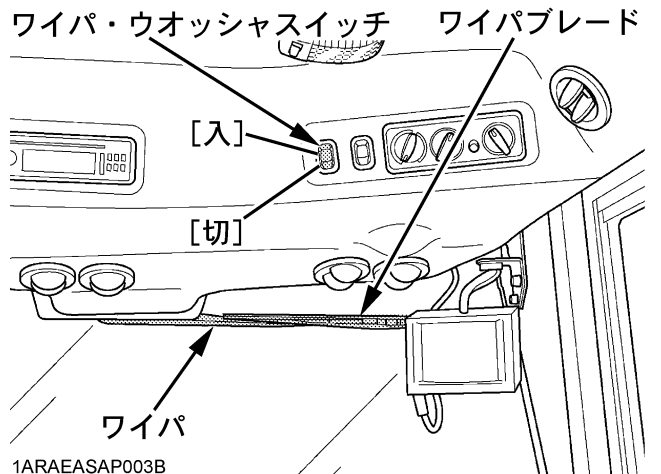
重要

* リヤウインドを開放したままで、高速走行や悪路走行をしないでください。



■ ワイパの使いかた

メインスイッチのキーが【入】位置のとき、ワイパ・ウオッシャスイッチの上側を押す【入】と作動し、下側を押す【切】と停止します。また、ワイパ・ウオッシャスイッチの上側又は、下側を強く押すとウオッシャ液噴射ノズルからフロントガラスにウオッシャ液を噴射します。



装置の名称と取扱い

重 要

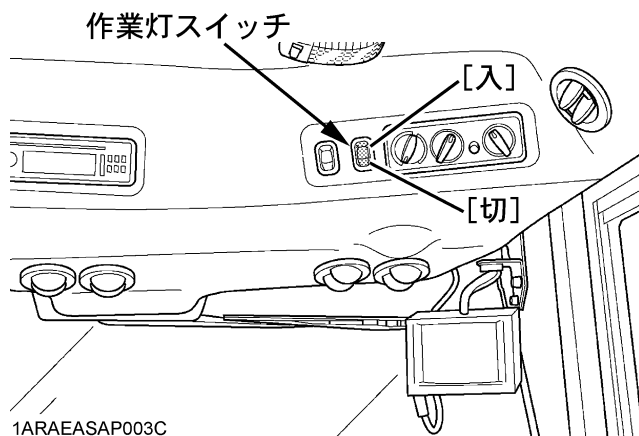
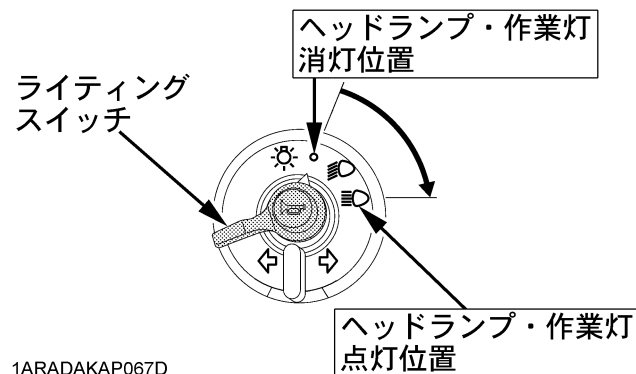
- * ガラス表面に泥などが付着している場合は、ウオッシャ液を噴射する又は、汚れの程度に応じて濡れタオルなどでふき取ってください。泥などが付着したまま作動させると、ガラスのキズ付やワイパブレード（ゴム部）の損傷の原因になります。
- * 長期使用しなかったときや寒冷時に動かすときは、ワイパブレード（ゴム部）がガラス面に接着していることがありますので注意してください。
- * エンジンを停止して長時間使用するとバッテリーが上がるおそれがあります。

補 足

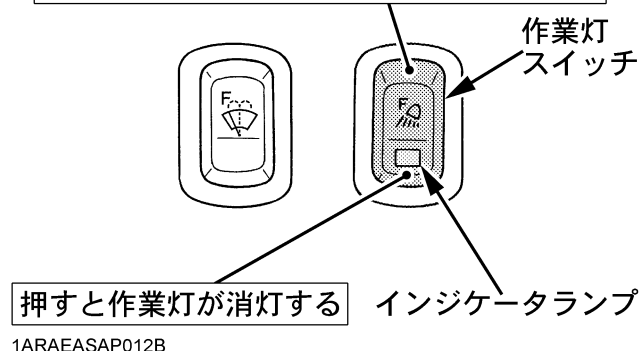
- * ウオッシャ液はワイパ・ウオッシャスイッチを強く押している間噴射します。

■作業灯スイッチ

メインスイッチのキーが【入】位置のとき、ライティングスイッチを【≡〇】位置（ヘッドランプ・作業灯点灯）にしたあと、作業灯スイッチの上側を押す【入】と作業灯が点灯し、下側に押す【切】と作業灯が消灯します。



ライティングスイッチを【≡〇】位置にし、押すと作業灯が点灯する



補 足

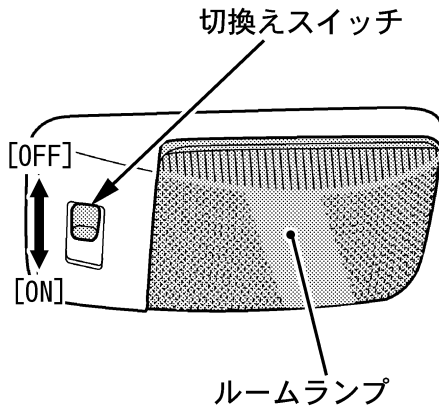
- * 夜間など暗いときにライティングスイッチを【≡〇】（ヘッドランプ点灯）位置にすると、作業灯スイッチのバックライトが点灯します。また、作業灯の点灯状態を示すインジケータランプも点灯します。

■ルームランプの使いかた

メインスイッチのキーが【入】位置のとき、ルームランプの切換えスイッチを【ON】（入）にすると点灯します。

【OFF】（切）… ドアの開閉に関係なく、ランプは点灯しません。

【ON】（入）… ドアの開閉に関係なく、ランプが点灯します。



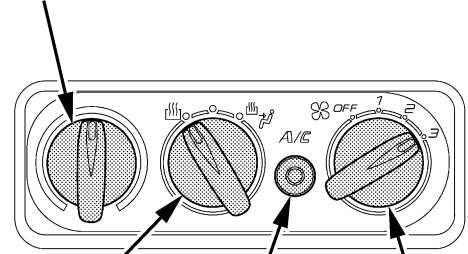
重 要

- * エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリーが上がるおそれがあります。

エアコンの取扱い

■コントロールパネル

温度調整つまみ



1AGACBAAP069F

◆ エアコンスイッチ

エアコンの電源を入・切するスイッチです。

重 要

- * コンバインを1週間以上、長期放置後にエアコンを使うときは、エンジン回転をアイドリングして $\frac{A}{C}$ エアコンスイッチを【入】にし、1分間運転してください。
エンジン回転が高いままで、 $\frac{A}{C}$ エアコンスイッチを【入】にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補 足

- * エアコンスイッチを押して【入】の運転状態にすると、インジケータランプが点灯します。

◆ ファンスイッチ

風量を調節するスイッチです。スイッチを回すことにより3段階（1（弱）↔2（中）↔3（強））の調節が行なえます。

補 足

- * ファンスイッチが【OFF】位置のときは、送風が停止状態です。

◆ 温度調整つまみ

温度を調整するつまみです。つまみを左側に操作すると温度は下がり、右側に操作すると温度が上がります。

装置の名称と取扱い

◆ 吹出口切換えスイッチ

送風の吹出口及び風力を切換えるスイッチです。



…… 吹出口風向きグリル（上部前）と吹出口（上部両横）より風が吹出します。

- …………… 吹出口（上部前）の風力が強くなり吹出口（上部両横）の風力が弱くなります。



…… 吹出口風向きグリル（上部前）より風が吹出します。

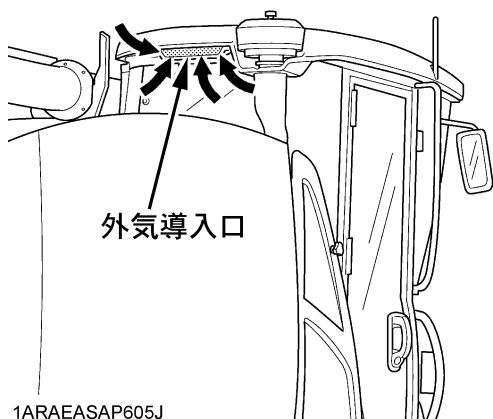
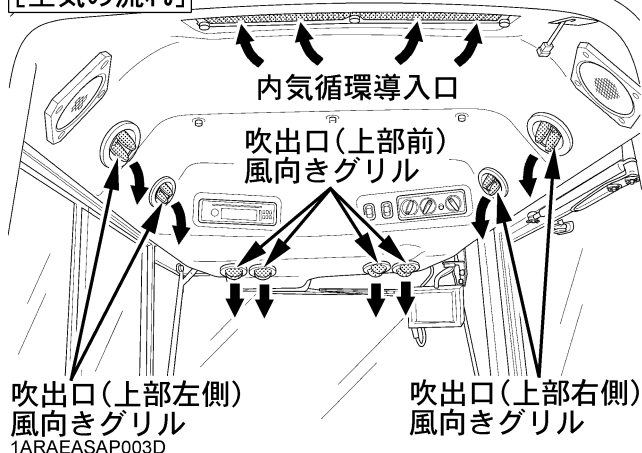
● 吹出口風向きグリルの調整のしかた

吹出口の風向きグリルを動かして風量や風向きの調整を行なってください。

補 足

- * キャビン内の空気の流れを参照して、吹出口の風量や風力を調節してください。また、外気導入口は、キャビン後部の天井下側にあります。

「空気の流れ」



■内外気切換えレバー

キャビン室内の空気の状態を切替えるレバーです。

外気導入…… 切換えると外気を取入れます。
 ほこりが多い作業やガラスがくもる場合に使用します。

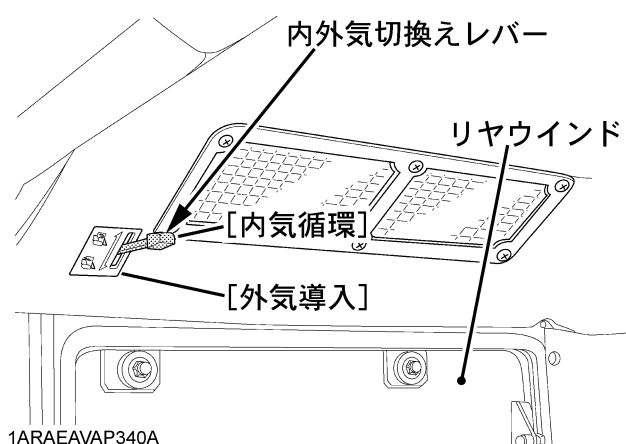


FRESH

内気循環…… 切換えると内気のための循環を行
RECIRC ないます。



早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

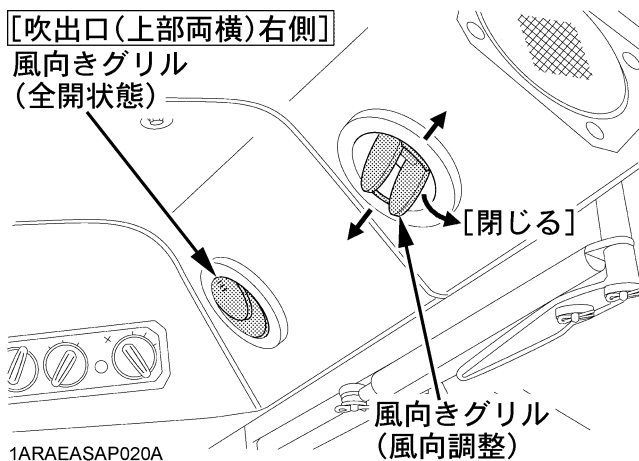
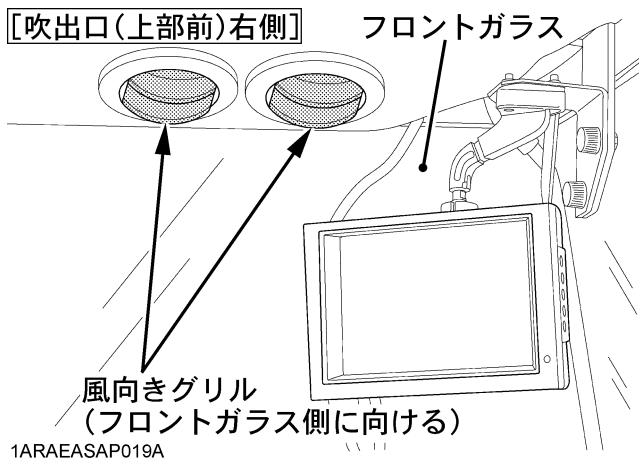


重要

- * 洗車を行なうとき、外気導入口に水をかけないでください。故障の原因になります。

補 足

- * キャビン室内の温度を早く下げたい又は、上げたいときは、**【内気循環】**位置にしてください。
- * **【内気循環】**での長時間暖房は避けてください。ガラスがくもりやすくなります。
- * 作業中にほこりが多いときは、**【外気導入】**位置にしてキャビン内に新鮮な空気を入れてください。
- * 吹出口（上部前）又は、吹出口（上部両横）の風量は、吹出口風向きグリルの角度を変更して行なってください。風向きグリルを閉じると開いている風向きグリルの風量が増えます。
- * キャビン内のガラスがくもっているときは、くもりがなくなるまで待ってください。くもりを早く取りたいとき、例えばフロントガラスがくもっているときは、吹出口（上部前）の風向きグリルをフロントガラスに向けたあと、吹出口（上部両横）の風向きグリルを全て閉じてください。



■エアコン操作のしかた

◆ 暖房

1. 吹出口切換スイッチを  又は、 又は、 にします。
2. 内外気切換えレバーを  **【外気導入】** にします。
早く室温を上げたいときは  **【内気循環】** にします。
3. ファンスイッチと温度調整つまみを調整します。

◆ 冷房・除湿暖房

1. 吹出口切換スイッチを  にします。
2. 内外気切換えレバーを  **【外気導入】** にします。
3. エアコンスイッチを押し **【入】** にします。
4. ファンスイッチを作動させます。
5. 温度つまみを **冷風** 位置（左端）又は、中間位置に調整します。

補 足

- * 冷房・除湿暖房の運転状態で、温度調整つまみを中間位置で使用すると、顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態となります。

◆ デフロスト

フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは、

1. 吹出口（上部前）を、フロントガラスに向けます。
2. 吹出口切換スイッチを  にします。
3. 内外気切換えレバーを  **【外気導入】** にします。
4. ファンスイッチを **【3】**、温度調整つまみを **温風** 位置（右端）に回します。

補 足

- * 湿度が高く窓ガラスがくもりやすいときは、除湿暖房を行なってください。
- * 健康上、冷房はやや弱い目に効かせてください。また、冷風は身体1箇所集中して風を当てるのは避けてください。
- * 連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると、冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転は避けてください。
- * エンジンの冷却水の水温が高くなるまでは暖房ができません。

装置の名称と取扱い

バックモニタの取扱い



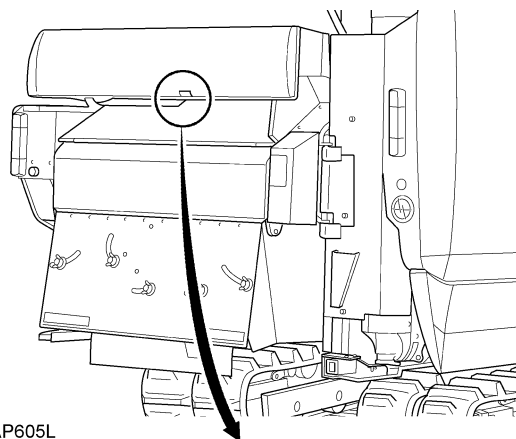
警告

- * 後進するときは、液晶パネル画像確認以外にも、必ずバックミラーや目視で後方確認作業を行なってください。CCD カメラの死角になっている人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。
- * CCD カメラから液晶パネルに写し出される広角の画像に慣れるまでは、ゆっくりと慎重に運転してください。速度を上げて後進すると判断を誤まり、人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。
- * 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。



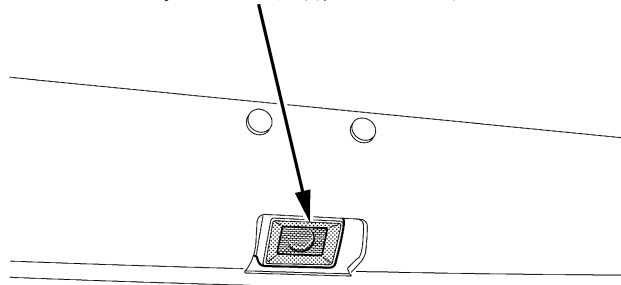
注意

- * 他の目的で使用したり、他の機械などで使用しないでください。感電やケガをするおそれがあります。



1ARAEASAP605L

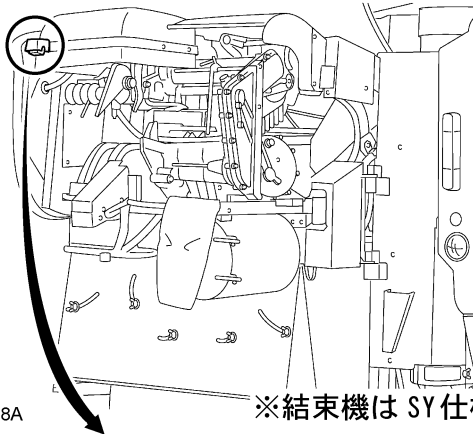
バックモニタ用 CCD カメラ



1ARAEAQAP066A

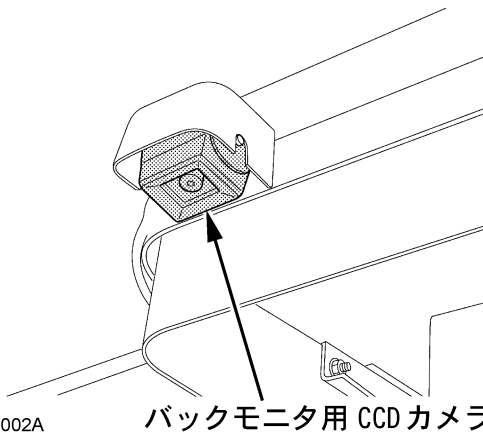
装置の名称と取扱い

[結束機付き仕様]



1ARAEATAP078A

※結束機は SY 仕様



1ARAEATAP002A

バックモニタ用 CCD カメラ

[結束機付き仕様]

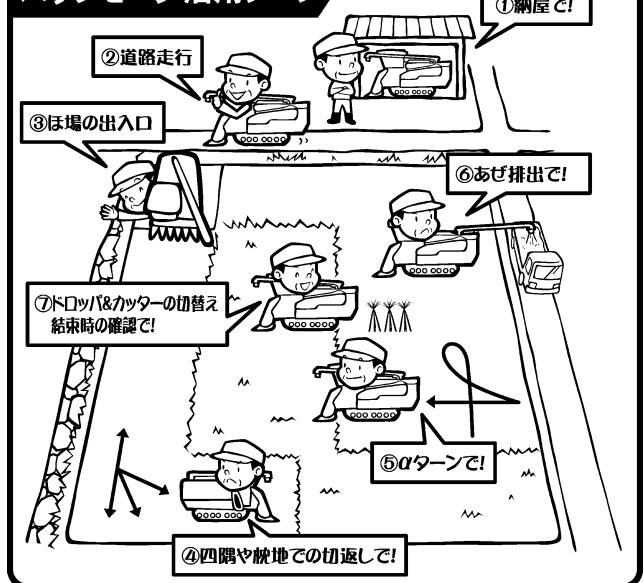
■バックモニタについて

バックモニタは機体後進時、機体後方周辺の安全確認を行なうための補助装置です。

下記作業などを行なう場合の確認作業に活用してください。

- 移動走行時、収穫作業時、納屋格納時などの後方確認作業。
- ほ場の出入り、枕地での切返し、あぜ際などでの機体の位置確認作業。
- 排わら処理の切換え確認や排わら処理状態の確認作業。

バックモニタ活用シーン

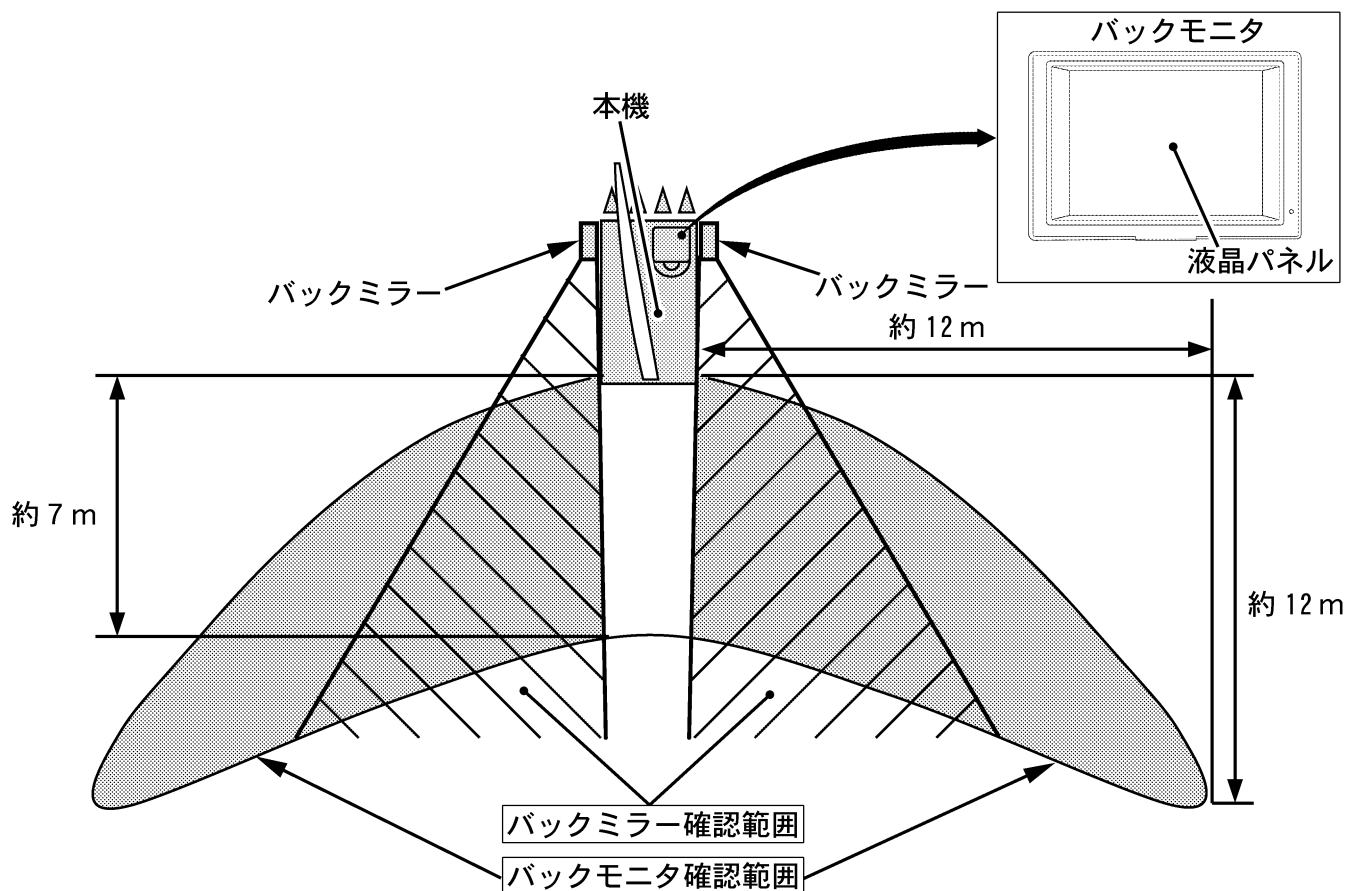


1ARAEAQAP067A

装置の名称と取扱い

■液晶パネルについて

液晶パネルに写し出される範囲(確認範囲)は左右約 12m, 後方左右両端部約 12m, 後方真後で約 7 m です。



1ARAEAQAP068B

補 足

* 上図の範囲は目安です。CCD カメラの角度設定により確認範囲は異なります。

■ CCD カメラの取扱いについて

バックモニタの液晶パネルに写し出される画像での確認範囲の前後方向の修正は、機体後方のカッタ上部カバー 2 又は、結束カバー **【結束機付き仕様】** に取付けている CCD カメラを前後方向に回動して調整を行なってください。

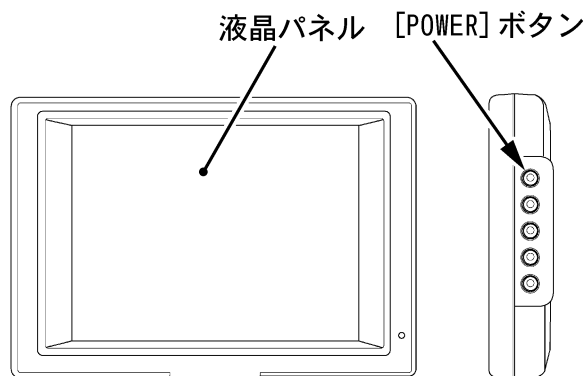
◆ 調整のしかた

1. メインスイッチのキーを **【入】** 位置にします。

重 要

* エンジンの始動は必要ありませんが、長時間に亘り調整作業を行なうとバッテリー上がりの原因となります。

2. 液晶パネルの **【POWER】 ボタン** を押すと、液晶パネルに画像が写し出されます。



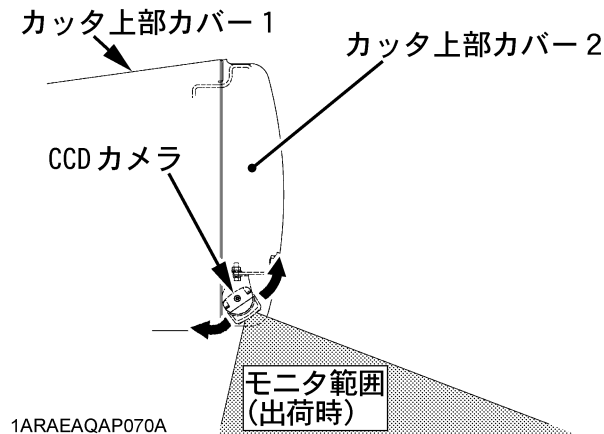
1ARAEASAP305A

補 足

* 液晶パネルの電源が入っている状態で、機体のメインスイッチ側で電源を切り、再度メインスイッチのキーを **【入】** 位置にすると、液晶パネルに画像が写し出されます。

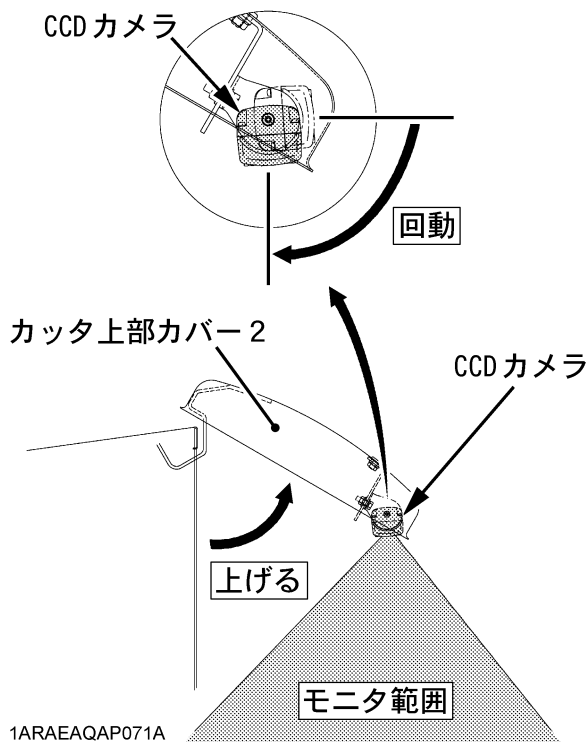
装置の名称と取扱い

3. CCD カメラを前後方向に手で回動して調整を行ないます。

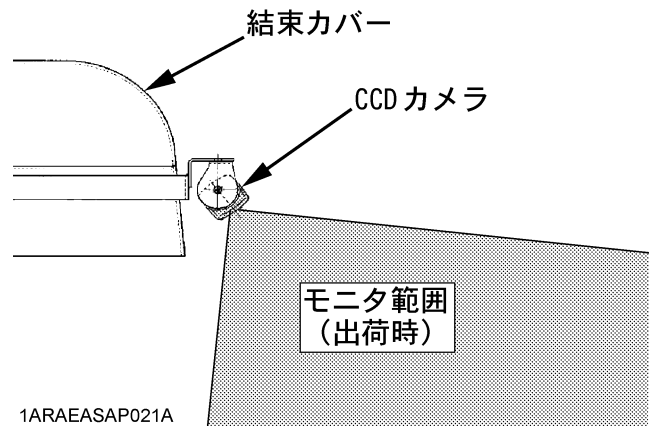


補 足

- * わら処理部にわらが入る量が多く、カッタ上部カバー 2 を上げた状態で作業を行なうときは、CCD カメラを約 90 度回動し、モニタ範囲の調整を行なってください。また、カッタ上部カバー 2 を元の状態に戻すときは逆の手順で元に戻してください。



[結束機付き仕様]



[結束機付き仕様]

4. 液晶パネルの画像を確認し、目標とするモニタ範囲になるまで再調整を行ないます。
5. **[POWER] ボタン**を押して液晶パネルの電源を切ります。

補 足

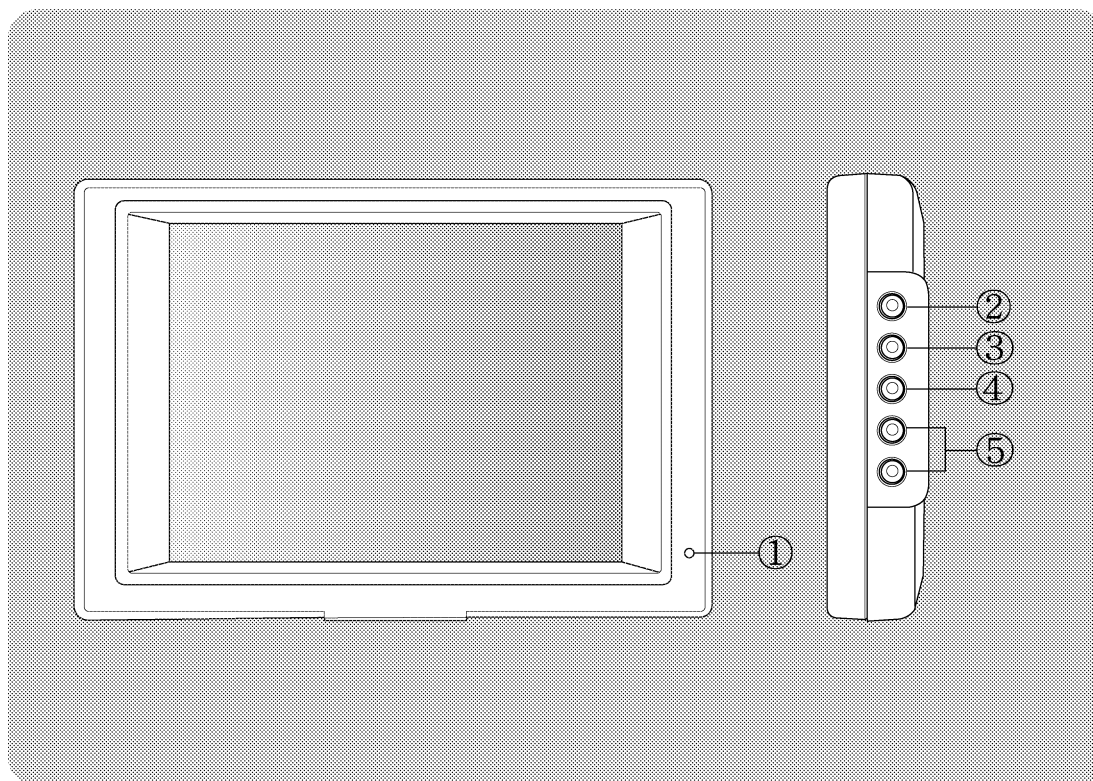
- * メインスイッチのキーを **[切]** 位置にすると液晶パネルの電源は切れます。

装置の名称と取扱い

バックモニタの操作

■バックモニタの各部の名称とはたらき

◆モニター



① S/BY LED

電源の入力状態の表示及びスタンバイ状態の表示

② POWER

電源のON/OFFボタン

③ MODE

カメラ(CAM1/CAM2)切り替え、
各種設定メニューの選択ボタン

④ MENU

各種設定メニュー切り替えボタン

⑤ UP/DOWN

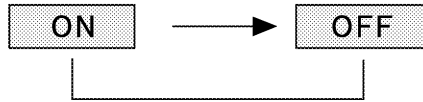
調整ボタン

補 足

* MODE ボタンは押さないでください。CAM2 に切換わると画像が消えます。もし、間違えて押したときは、再度 MODE ボタンを押して画像を表示してください。

■バックモニタの機能説明

1. POWER(電源)



● 電源のON/OFF

- ① POWER(電源)ボタンを押す。
「スタンバイ」ランプが消灯し、電源が入る。
- ② POWER(電源)ボタンをもう一度押す。
「スタンバイ」ランプが点灯して、電源が切れる。

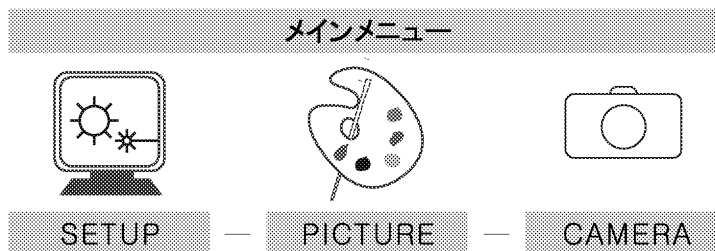
2. MENU : 設定メニュー

補 足

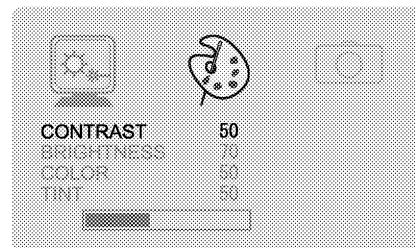
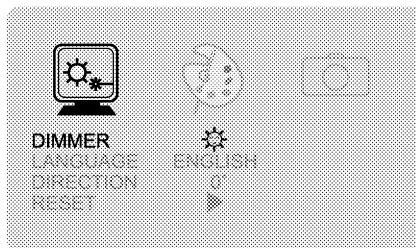
* 設定を行なうときは、表示時間が約3秒間と非常に短いため、素早くボタンの操作を行なってください。

◆ 各種設定のメインメニューを切り替えます。

- MENUボタンを押して、メインメニューを選択します。
選択すると赤くなります。



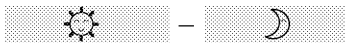
- MODEボタンを押して、サブメニューを選択します。
サブメニューを切り替えるには、UP/DOWNボタンを押します。



装置の名称と取扱い

(1) SETUP

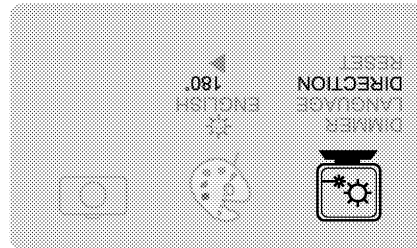
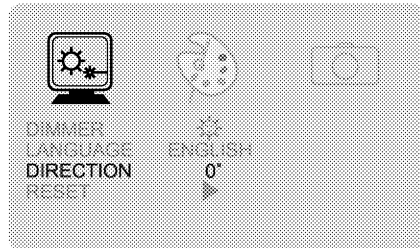
- DIMMER (モニター輝度)



- LANGUAGE (画面表示言語)

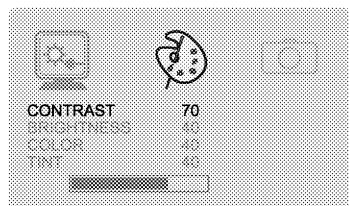


- DIRECTION (画像の向き・上下反転)



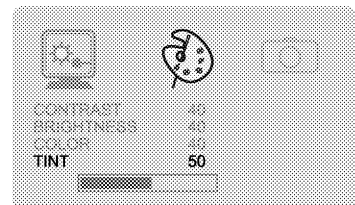
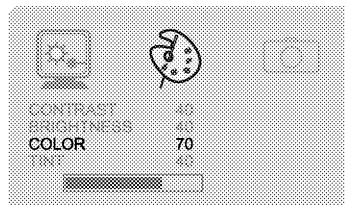
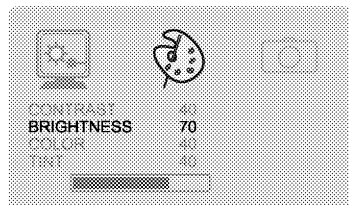
- RESET ▶工場出荷時の設定に戻ります。

(2) PICTURE (画質の調整)

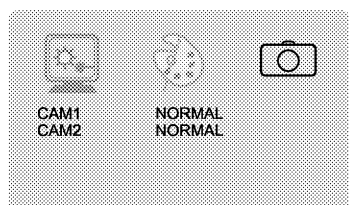


- ① CONTRAST, BRIGHTNESS, COLOR, TINTを選択するためにMODEボタンを使用します。選択すると赤くなります。

- ② UP/DOWNボタンを押します。BARと数字が変わり、画面が調整されます。BAR信号は赤色になります。



(3) CAMERA



- ① MODEボタンを押して、CAMERA1またはCAMERA2を選択します。選択すると赤くなります。
- ② UP/DOWNボタンを押します。NORMAL/MIRRORと文字が変わり、画面の左右反転が調整できます。NORMAL/MIRROR信号は赤色になります。

補 足

* 工場出荷時はNORMALモードです。

* 通常の作業を行なうときは、NORMALモードで使用してください。MIRRORモードに設定すると、左右が反転した状態で映像が画面に写し出されるためトラブルの原因となります。

■バックモニタが故障かな？と思ったら

- 故障かな？と思ったら、修理を依頼する前に、もう一度次の点をお調べください。

症 状	原 因	処 置
映像が出ない。	カメラの配線が正しく接続されていますか？	カメラ連動線の配線, カメラ用コネクタの接続を確認してください。
電源が入らない	電源の配線が正しく接続されていますか？	配線を確認してください。
	ヒューズが切れていませんか？	ヒューズ容量を確認し, 新しいヒューズと交換してください。 再度切れる場合は, お買い求めの販売店又は最寄の弊社修理相談窓口にご相談ください。
色が薄い。	使用状況が悪い。	車内温度が0℃以下, 又は60℃以上になっている場合が考えられます。車内温度を適温（25℃前後）にして確認してください。

※上記対処を行っても復帰しない場合は、本体の電源を切り、お買い求めの販売店又は、クラリオンサービス（株）にご相談ください。

装置の名称と取扱い

■バックモニタの取扱い上の注意

1. システムの動作中に、ケーブルの抜き差しは絶対におやめください。故障の原因となります。必ず電源を切って（OFF）から行なってください。
2. モニタ画面上の CCD カメラ映像は、広角レンズを採用しているため、人や障害物の距離が実際の距離と比べて詰まって映ります。ご注意ください。
3. 非常に寒いとき、画面の動きが遅くなったり画面が暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。常温に戻れば回復します。
4. 液晶パネルの中には、小さな黒点や輝点が出ることがありますが、液晶特有の現象で、故障ではありません。
5. 液晶パネル部の表面は傷つきやすいので、硬いものでこすったり、たたいたりしないでください。
6. 液晶パネル部に水滴などをつけた状態で放置しないでください。変色、シミの原因となります。また、水分が内部に侵入すると故障の原因となります。水滴などがついてしまった場合は、すぐ脱脂綿や柔らかい布などで拭取ってください。
7. 夏期は車内温度が高くなる場合がありますので、車内の温度を下げたからお使いください。
8. 本製品は－10℃～＋60℃の温度範囲の条件下で使用してください。
9. 本製品を分解したり、改造しないでください。火災及び感電の原因となります。
10. 車に設置時、エンジンを止めている状態で長時間使用する場合は、バッテリーが過放電される可能性がありますので、必ずエンジンをかけた状態で使用してください。
11. 水や飲料など、異物が入ると故障の原因となります。

● キャビネットのお手入れ

やわらかい乾いた布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をやわらかい布につけて軽く拭取り、乾いた布で仕上げてください。

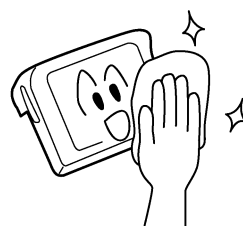


補 足

* 自動車用クリーナなどは、変質したり、塗料がはげる原因となりますので使わないでください。また、ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと、シミのつくことがあります。

● 液晶表示部のお手入れ

ホコリがつきやすいので、ときどき、やわらかい布で拭いてください。



補 足

* ベンジンやシンナなどの溶剤で液晶パネル部を清掃しないでください。

■バックモニタのお問合わせ

このバックモニタのお問合わせは、下記メーカー窓口でもご相談いただけます。

クラリオンサービス（株）

お客様相談室

TEL 0120-112-140

（土・日・祝除く / AM9:00～12:00
PM1:00～5:30）

048-541-2964

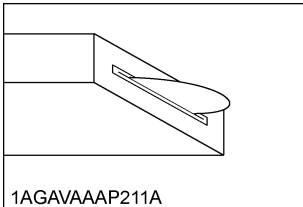
FAX 048-601-3807

AM/FMラジオ付きCDプレーヤの取扱い

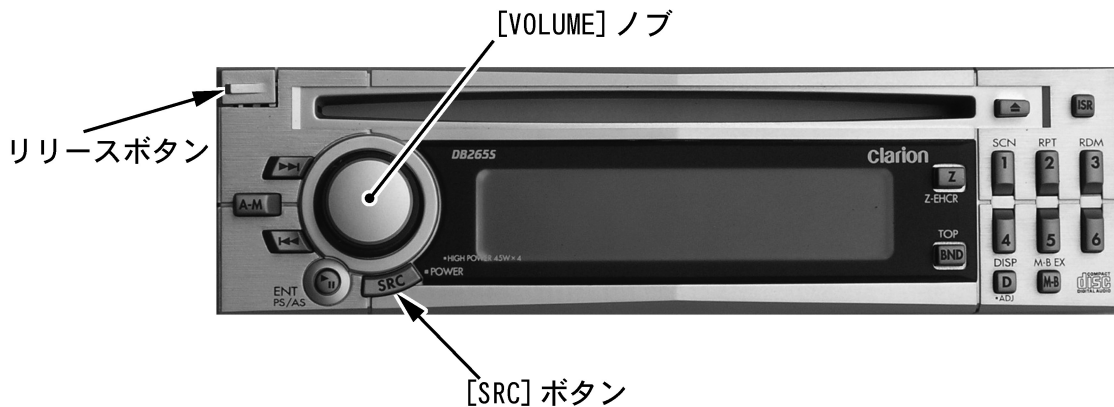


注意

- * 運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。
- * CD が落下して頭にあたったりするおそれがあるので、下図の状態で放置しないでください。



共通部の操作のしかた



1AGAVAAP1471

■電源の入／切

1. **[SRC]** ボタンを押すと電源が入り、前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. **[SRC]** ボタンを押すたびに、ラジオとCDが交互に切り替わります。CDが入っていないときには、**[NO DISC]** と表示されます。
3. **[SRC]** ボタンを約1秒間押すとラジオ又はCDへの電源が切れます。

補 足

- * 電源が**【切】**状態でも、キースイッチが**【ON】**位置では、時計が表示されます。(時刻の設定は**【時刻合わせ】**の項を参照)

■音量調節

[VOLUME] ノブを左右に調節します。右へ回すと大きくなり、左へ回すと小さくなります。

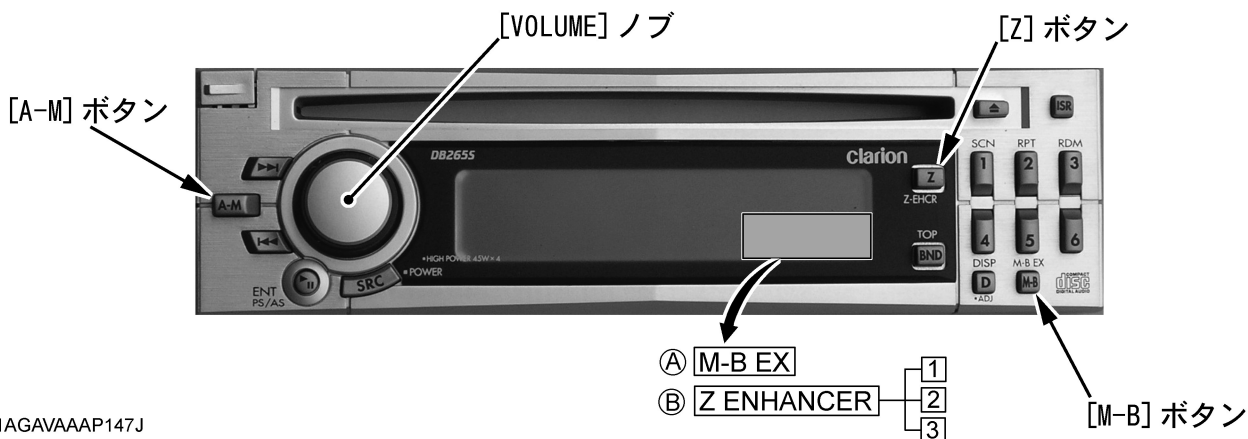
補 足

- * 調節時はディスプレイに音量値が**【VOLUME 0】** ~ **【VOLUME 33】** の範囲内で表示されます。

■リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。操作パネルは衝撃に弱いので、必要以外には取り外さないでください。

装置の名称と取扱い



- (A) マグナベース EX ON 時点
(B) Z エンハンサーインジケータ

■音質調整

◆音質自動ワンタッチ設定

[Z] ボタンを押すごとにインジケータ表示が下記のように切り替わります。お好みの音質を設定してください。

インジケータ	備 考
Z ENHANCER 1	低音を重視したサウンド
Z ENHANCER 2	高音を重視したサウンド
Z ENHANCER 3	低音と高音を重視したサウンド
消灯 (OFF)	初期設定

◆音質手動設定

- [Z] ボタンを押し、Z ENHANCER を **[OFF]** (消灯) にする。
- [A-M] ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切り替わります。

ディスプレイ	備 考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

- [BASS] または [TREB] を選択し、[VOLUME] ノブを左右に回し調節します。
右へ回すと強調され、左へ回すと減衰されます。(調整範囲は、-7~+7です。)
- [A-M] ボタンを再度押すと設定が完了します。

補 足

* 音質は Z-エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■重低音の増強

[M-B] ボタンを押すと、マグナ・ベース EX (MAGNA BASS EX) が ON になり、重低音が増強されます。
[M-B] ボタンを再度押すと、マグナ・ベース EX 機能が解除されます。



1AGAVAAAP147K

■時計表示への切換え

[D] ボタンを押すごとに下記のように表示が切換わります。

ラジオモードの場合

	表示例
周波数表示	FM 1 83.00
時間表示	AM 10:05

CD モードの場合

	表示例
演奏状態表示	TO 1 00:01
時間表示	PM 10:05

補 足

- * 常に時計を表示させるには、スクリーンセーバー機能を **[SS OFF]** に設定します。
(**[スクリーンセーバーの設定]** の項を参照)
- * 時計表示のときは、ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に、受信周波数やトラック No. などを表示した後、元の時計表示に戻ります。

■時刻合わせ

1. キースイッチを **[ON]** にします。
2. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し、**[SCRN SVR]** を表示させる。
3. サーチボタンを押して、**[CLOCK<E>]** を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを押します。
調整時点 (**[AM 10:16]** など) の時刻を表示して、時刻設定モードになります。
5. サーチボタンを押して、「時」または「分」を選択します。
点滅している項目が調整できます。
6. **[VOLUME]** ノブを回して、時刻を合わせます。
7. プレイ / ポーズボタンを押すと設定が完了します。

補 足

- * 時計は 12 時間表示です。
- * 時刻を合わせる途中で他のボタンを操作すると、時刻調整は解除されます。

装置の名称と取扱い



1AGAVAAAP147L

■左右スピーカの音量バランス調整

1. **[Z]** ボタンを押し、Z ENHANCER を **[OFF]** (消灯) にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切替わります。

ディスプレイ	備 考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BAL]** を選択し、**[VOLUME]** ノブを左右に回します。

右へ回すと右側が強調され、左へ回すと左側が強調されます。(調整範囲は、L13 ~ R13 です。)

4. **[A-M]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補 足

- * 音量は Z-エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■スクリーンセーバーの設定

1. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し、**[SCRN SVR]** を表示させる。
2. サーチボタンを押して、**[SCRN SVR]** を選択します。
3. **[VOLUME]** ノブを回して、**[SS ON]** 又は **[SS OFF]** を選択します。

SS ON	スクリーンセーバー機能がONになります。 演奏などの状態表示で30秒間何も操作しないと、スクリーンセーバー表示になります。
SS OFF	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

4. **[D]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補 足

- * 初期設定は **[SS ON]** です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は、**[SS OFF]** に設定しておいてください。

ラジオを聴くには



1AGAVAAP147M

■ラジオの選択

1. **[SRC]** ボタンを押すと受信バンドと受信周波数（**[FM1 83.00]** など）を表示して、ラジオが選択されます。

補 足

- * **[SRC]** ボタンを押すたびに、ラジオと CD が切替わります。

■受信バンドの選択

1. **[BND]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイが切替わります。
お好みのバンドを選択してください。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

■クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに、特定の放送局を呼び出す機能です。
交通情報など、運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

1. **[ISR]** ボタンを押すと、ディスプレイに **[ISR 1620]** が表示されます。
2. **[ISR]** ボタン又は **[SRC]** ボタンを押すと、元のソースに戻ります。

補 足

- * 初期設定では、AM1620kHz の交通情報が登録されています。

◆登録のしかた

登録させたい放送局を選局し、**[ISR]** ボタンを約 2 秒間押すと登録されます。

装置の名称と取扱い



(A) ST : ステレオ放送受信時に点灯

(B) MANU : 手動選局モード時点灯

■プリセット選局

あらかじめ自動又は手動でメモリ登録しておくと、ダイレクトボタン (1 ~ 6) を押すだけで選局できます。(登録のしかたは **【メモリ登録 (自動選局)】** 又は **【メモリ登録 (手動選局)】** の項を参照)

■メモリ登録 (自動選局)

登録できる数は FM1, FM2, AM1, AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ、計 24 局です。

1. **[BND]** ボタンでメモリ登録させたいバンド (FM1, FM2 または AM1, AM2) を選択します。
2. プレイ / ポーズボタンを約 2 秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン (1 ~ 6) に登録されます。

補 足

* 電波の弱い場所では 6 局すべて登録されない場合もあります。

■メモリ登録 (手動選局)

登録できる数は FM1, FM2, AM1, AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ、計 24 局です。

1. **[BND]** ボタンでメモリ登録させたいバンド (FM1, FM2 または AM1, AM2) を選択します。
2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。
3. 登録させたいダイレクトボタン (1 ~ 6) を約 2 秒間押すと登録されます。

■メモリ登録の確認

プレイ / ポーズボタンを押すと、登録された放送局を順に受信します。

プレイ / ポーズボタンを再度押すと解除されます。

■自動選局

1. ディスプレイに **[MANU]** が点灯しているときは、**[BND]** ボタンを約 1 秒間押し消灯させます。(消灯時のみ自動選局できます。)
2. サーチボタンを押します。
3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは、再度ボタンを押してください。

■手動選局

1. ディスプレイに **[MANU]** が消灯しているときは、**[BND]** ボタンを約 1 秒間押し点灯させます。(点灯時のみ手動選局できます。)
2. サーチボタンを押して、放送のあるところに合わせます。

CD を聴くには



■ CD の挿入と再生

CD の挿入口に CD を入れると **[T01 00:00]** を表示し、自動的に演奏が始まります。
8cm CD のときは、CD 挿入口の中央に入れます。

すでに CD が入っている場合は、**[SRC]** ボタンを押して CD を選択すると、トラック No. (**[T01 00:00]** など) を表示し、自動的に CD の演奏が始まります。

補 足

- * 本機は disc マーク表示のあるコンパクトディスク以外のご使用になれません。
- * CD-R/RW で記録されたディスクは、使用できない場合があります。
- * CD は印刷面を上にして入れてください。



■ CD の取出し

イジェクトボタンを押すと CD が取出されます。

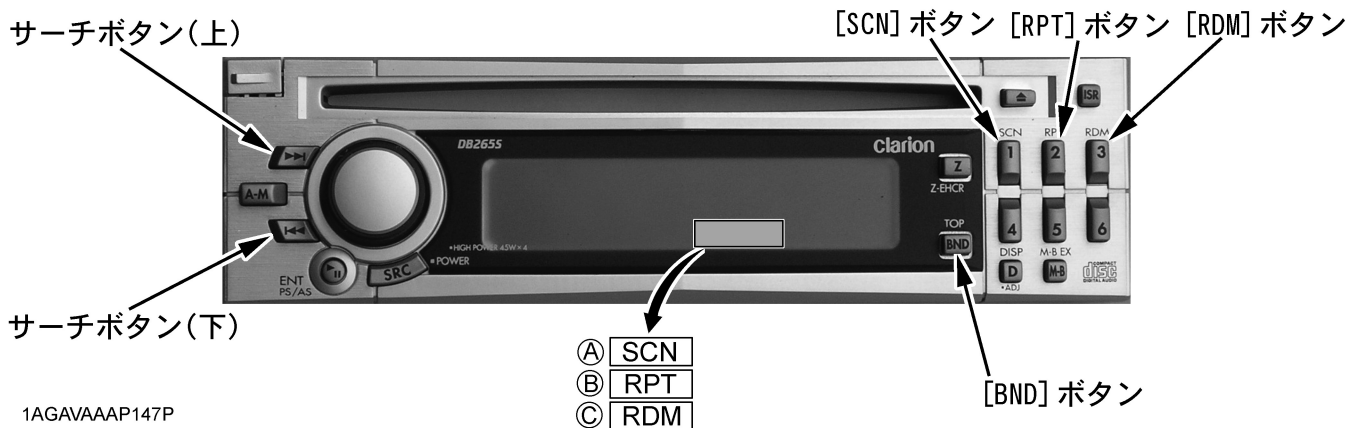
補 足

- * CD をイジェクトしたままにしておくと、15 秒後に本機内に引き込まれます (オートリロード)。
- * オートリロード前に無理に CD を押し込むと、CD にキズがつくおそれがあります。
- * 8cm CD はオートリロードされません。
イジェクトした場合は、8cm CD を取出してください。

■演奏の一時停止

プレイ / ポーズボタンを押すと **[PAUSE]** が表示され、演奏が一時停止します。
プレイ / ポーズボタンを再度押すと演奏が再開されます。

装置の名称と取扱い



1AGAVAAAP147P

- (A) **SCN** : スキャン演奏時に点灯
- (B) **RPT** : リピート演奏時に点灯
- (C) **RDM** : ランダム演奏時に点灯

■次の曲／前の曲の選択

次の曲を聴くときは、サーチボタン（上）を押します。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。

前の曲を聴くときは、サーチボタン（下）を2回押します。サーチボタン（下）を押すと、演奏中の曲を最初から演奏します。

さらに押すと、押した回数だけ前の曲が演奏されます。

曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン（下）を2回押すと、2つ前の曲へ戻ることができます。

■早送り／早戻し

早送りするときはサーチボタン（上）を押し続けます。

早戻しするときはサーチボタン（下）を押し続けます。

1秒以上押すと5倍速で、3秒後には30倍速で、演奏曲が早送りまたは早戻しされます。

■トップ機能

[BND] ボタンを押すと、最初の曲（トラック No. 1）から演奏されます。

■曲を探す（スキャン演奏）

CDに収録されている全曲を10秒間ずつ演奏します。

[SCN] ボタンを押すと、ディスプレイの **[SCN]** が点灯して、スキャン演奏します。スキャン演奏は、演奏している曲の次の曲から始まります。

■曲を繰り返し聴く（リピート演奏）

演奏中の1曲を繰り返し演奏します。

[RPT] ボタンを押すと、ディスプレイの **[RPT]** が点灯して、リピート演奏します。

■ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）

CDに収録されている全曲を順不同に演奏します。

[RDM] ボタンを押すと、ディスプレイの **[RDM]** が点灯して、ランダム演奏します。

装置の名称と取扱い

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？と思われたら

次のような症状は、故障ではないことがあります。修理を依頼される前に、もう一度次のことをお調べください。

現 象	原 因	修 理
電源が入らない。 (音が出ない)	ヒューズが切れている。	ヒューズ容量を確認し、新しいヒューズと交換してください。 再度切れる場合は、お買い求めの販売店又は最寄の弊社修理相談窓口にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう。	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れてください。
音飛びする。 ノイズなどが入る。	CD が汚れている。	CD を柔らかい布で拭いてください。
	CD に大きい傷やソリがある。	CD を無傷なものに交換してください。
電源を入れた直後音質が悪い。	湿気の多いところに駐車すると、内側のレンズに水滴が付くことがあります。	電源を入れた状態にして1時間乾燥させてください。
ボタンを押しても動作しない、又はディスプレイが正確に表示されない。	ノイズなどが原因で、マイコンが誤動作している。	リセットボタンを、細い棒などで約2秒間押してください。 リセットボタンを押したときは、設定したプリセットメモリなどが全て消えますので、もう一度設定し直してください。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのエラー表示について

本機はシステム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。

傷害が発生したときには、各種のエラーが表示されますので、対処方法にしたがって傷害を取除いてください。障害を取除けば、通常の動作に復帰します。

エラー表示	原 因	対処方法
E R 2	本機の CD デッキ内の CD が引掛かってイジェクトされないとき。	引掛かる要素を取除いてください。CD がイジェクトされない場合は、機器の故障と思われますので、お買い求めの販売店にご相談ください。
E R 3	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり、演奏できないとき。	傷やソリのない CD と交換してください。

※上記対処を行っても復帰しない場合は、本体の電源を切り、お買い求めの販売店又は、クラリオンサービス（株）お客様相談室にご相談ください。

装置の名称と取扱い

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注意

1. disc マークのついた CD をご使用ください。
また、ハート形や八角形など、特殊形状の CD は使用しないでください。
CD-R/CD-RW で記録されたディスクは、使用できない場合があります。
CD が曇っているときは、やわらかい布でふいてください。
2. 本機はシステム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには、**【エラー表示について】**の項を参照して障害を取除いてください。障害を取除けば、通常の動作になります。
3. 本機は、水分や高温、多湿を嫌いますので、車内清掃や換気に十分ご注意ください。
4. 車内の温度に気をつけてください。
極寒や酷暑のとき、とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。
5. 本機操作は、安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また運転中の音量は事故防止のため、車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
6. 本機のお手入れは、乾いたやわらかい布でふいてください。固い布や、ベンジン・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽くふき取ってください。
7. CD はディスク面に、傷や指紋をつけないように扱ってください。
汚れたときは、やわらかい布で、内側から外側へ向かって、よくふいてください。
8. 8cm CD をイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により、ディスクが落下するおそれがあります。
9. CD は次のような場所には保管しないでください。
 - 直射日光のあたる場所
 - 湿気やホコリの多い場所
 - 暖房の熱が直接あたる場所

◆ 推奨クリーニングディスク

クラリオン製 CTC-007-210



■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ

この AM/FM ラジオ付 CD プレーヤのお問合わせは、下記メーカ窓口でもご相談いただけます。

クラリオンサービス（株）

お客様相談室

TEL 0120-112-140

（土・日・祝除く / AM9:00 ~ 12:00
PM1:00 ~ 5:30）

048-541-2964

FAX 048-601-3807

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は、132 ページ以降を参照）



警告

- * 平たんな安全な場所で、エンジンを止めて駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
- * バッテリーの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
- * 各部の調整・点検・交換を行なうときは、エンジンを必ず停止させ、各レバー類を【切】位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。
- * 取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。



注意

- * 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- * 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
- * 使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
- * 燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- * バッテリー、マフラーやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
- * 刈刃やカッタの掃除や注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重要

各部への給油と交換

- * 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- * 使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、必ず指定の【クボタ純オイル・スぺアグリース】を使用してください。
- * 燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

運転のしかた

■ 日常点検項目

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参 照 ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（▲表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は、交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は、部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	— — 219 173, 294 ▲-24
刈刃, わら切刃, カッタ刃	・刃の損傷はないか。	・交換する。	257, 265, 273
クローラ	・たるみや損傷はないか。	・調整又は、交換する。	288
防じんあみ	・詰まりはないか。	・掃除する。	222
反射器, 反射テープ	・汚れや損傷はないか。	・調整又は、交換する。	288
エンジン回りを確認して			
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの 上限線と下限線の間 ）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル [572・587・698] …… D30 スーパー CD 又は D10W-30 スーパー CD [108] …… D10W-30 スーパー CF	200
ラジエータ冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの FULL 線と LOW 線の間 ）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	214
ラジエータフィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	214
オイルクーラフィン			
コンデンサフィン [Q仕様]			
インタークーラフィン [108]			
プレクリーナ	・コレクタにほこりがたまっていないか。	・掃除する。	217
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は、エレメントを交換する。	217
ファン駆動ベルト, ミッション駆動ベルト	・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	238
パイプ, ホース	・油もれや水もれはないか。	・取付部の締付け又は、交換する。	219
配線コード	・コネクタの外れはないか。 ・被覆の損傷はないか。	・接続する。 ・交換する。	284

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参 照 ページ
運転席に座りメインスイッチを入れて			
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は、点滅するか。	・球切れ、ヒューズ切れ、配線コードの切れを調べ交換又は、接続をする。 ・バッテリーの充電又は交換する。	287, 284, 280
液晶ディスプレイ	・表示はされているか。 ・切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか。		
燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。	・軽油を補給する。	199
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。	・ヒューズ切れ、配線コードの外れを調べ交換又は、接続をする。	284, 287
バックブザー	・主変速レバーを【後進】位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリー	・エンジンは始動するか。	・充電又は、交換する。	280
エンジンを始動して			
エンジン回転計・速度計	・回転計・速度計の作動に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	—
エンジン（マフラ）	・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	—
各レバー	・各レバーの作動に異常はないか。	・調整する。	228 ～ 231
駐車ブレーキ	・機体は停止するか。また、遊び量は適正か。	・調整する。	229
エンジン停止スイッチ	・スイッチを押すと、ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ヒューズ切れ、配線コードの外れを調べ交換又は、接続をする。	21, 284

重 要

* 処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。

運転のしかた

新車時の扱い

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる刈取作業は避けてください。

コンバインの性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。

新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

- * 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- * 寒い日や冬期、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
- * 高速での刈取作業は避けてください。
- * 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

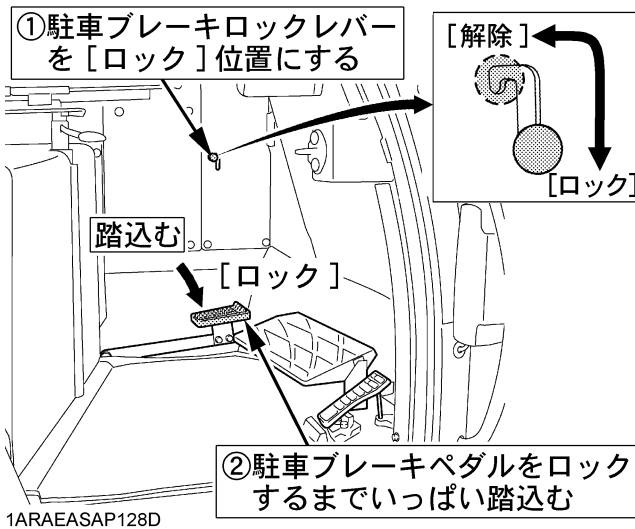


注 意

- * この取扱説明書前編の黄色のページの「安全に作業をするために」の内容を必ずお読みいただき安全作業を心掛けてください。
- * コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
- * コンバインに乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
- * エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
- * 始動操作は、ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。
- * 副変速レバーが [N]（中立）位置では、油圧ロックが作動しないため、坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。

■始動のしかた

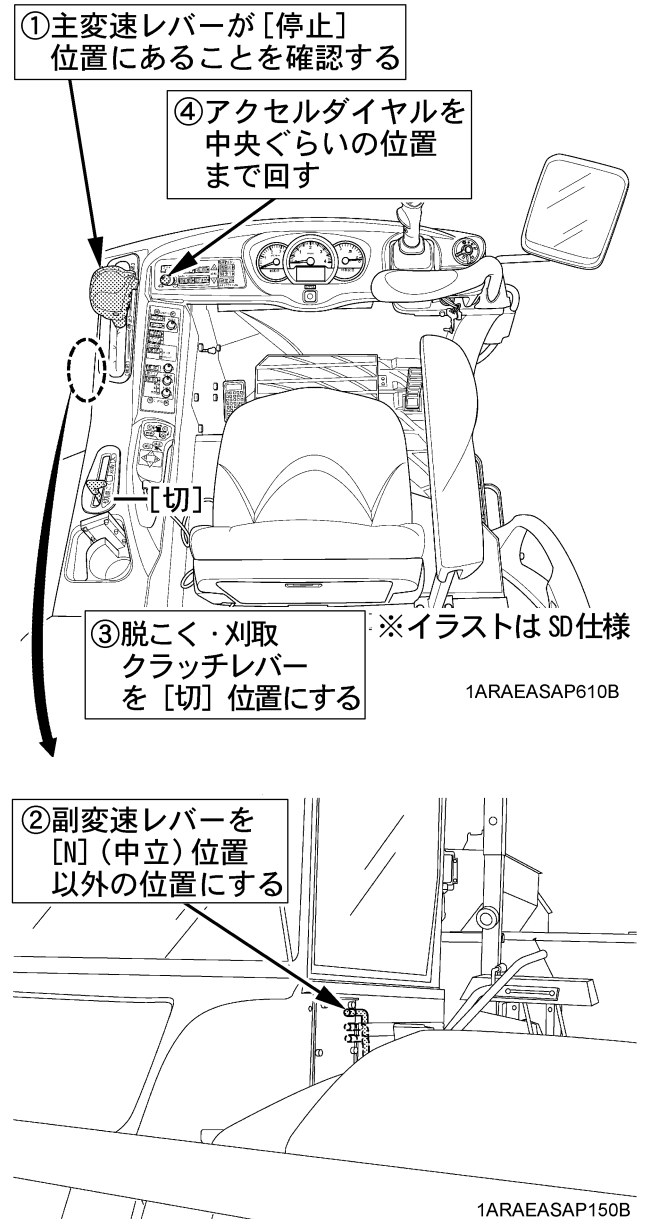
1. ハンドルをしっかりと握り、補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。
2. 運転席（シート）の調整（16 ページ参照）、及びフットレスト、アームレストの切換え（14, 17 ページ参照）を行なって楽な姿勢で運転操作が行なえる状態にします。
3. 駐車ブレーキを掛けます。



補 足

* 駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが**【停止】**位置に戻ります。また、ブレーキペダルが**【ロック】**位置の場合は、主変速レバーは動きません。

4. 各レバー位置の確認をします。



補 足

* 各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと、メインスイッチのキーを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに次の内容を表示しますので始動条件に合うように処置を行なってください。

- **【脱こくクラッチを切る】** ……
脱こく・刈取クラッチレバーを **【切】** 位置にする。
- **【主変速中立にする】** ……
主変速レバーを **【停止】（中立）** 位置にする。
- **【駐車ブレーキを踏む】** ……
駐車ブレーキペダルを踏込む。
- **【もみクラッチを切る】** ……
もみ排出クラッチを **【切】** にする。
- **【エンジンを確認する】** ……
エンジン始動防止用カプラを接続する。
(148 ページ参照)
- **【刈取クラッチを切にする】** ……
脱こく・刈取クラッチレバーを2～3回程度 **【切】** 位置 ↔ **刈取【入】** 位置に動かし、再度メインスイッチのキーを回してもエンジンが始動しないときは、購入先に連絡してください。

5. エンジンが始動します。

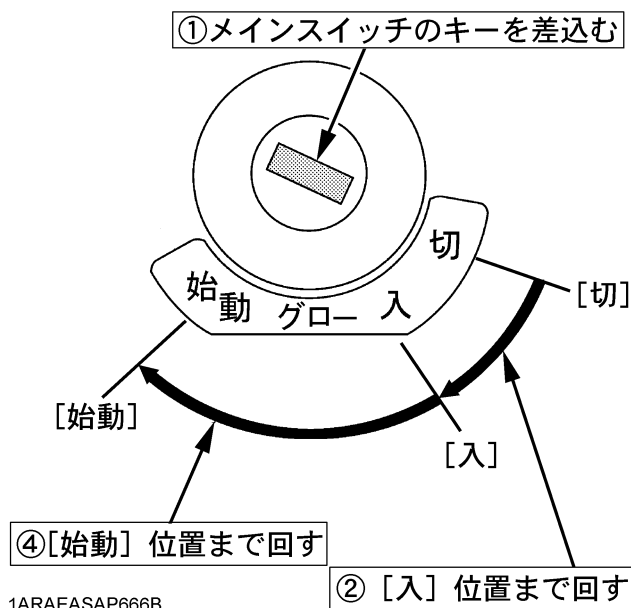
補 足

* エンジンが始動するとき、メインスイッチのキーを **【入】** 位置から **【始動】** 位置に回しても下記理由により、エンジンがすぐに始動しない場合があります。

- 脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく **【入】** 又は、刈取 **【入】** 位置でエンジンを停止した場合、次回エンジンを始動するときは、脱こく・刈取クラッチレバーを **【切】** 位置にしたあと、メインスイッチのキーを **【入】** 位置にしてからエンジンの始動条件が整うまでに約3秒かかります。

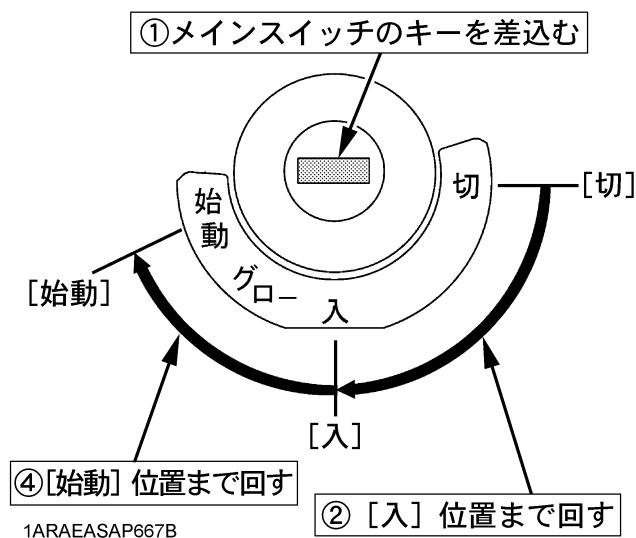
[572]

[Q 仕様除く]



[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

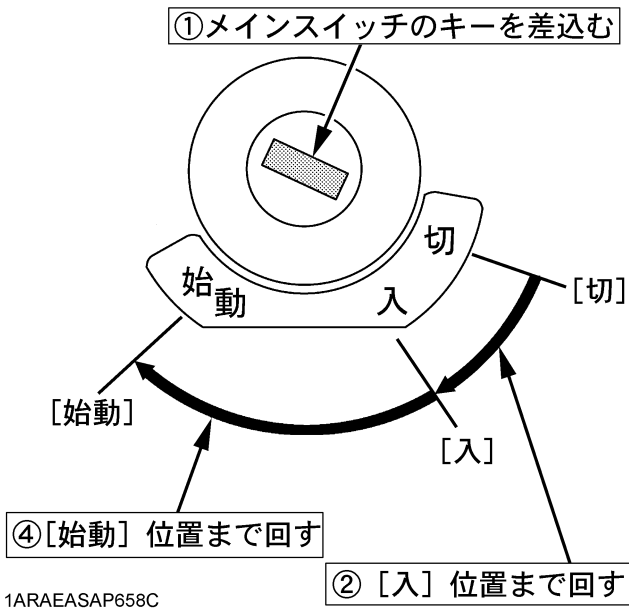


[Q 仕様]

[572]

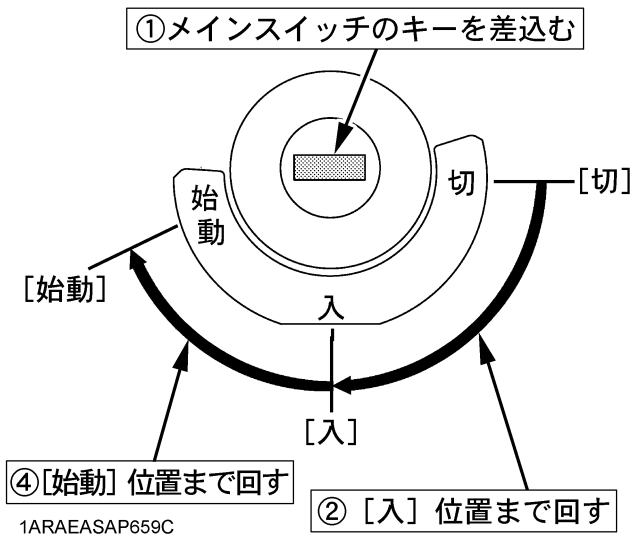
[587・698・108]

[Q仕様除く]



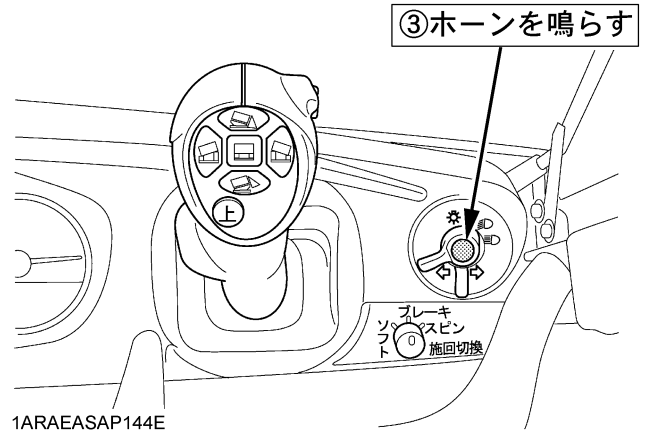
[Q仕様除く]

[Q仕様]



[Q仕様]

[587・698・108]



重要

- * メインスイッチのキーを **【始動】** 位置に回して10秒たっても始動しないときは、いったんキーを **【切】** 位置にして、30秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。**【始動】** 位置で10秒以上回すと故障の原因になります。
- * エンジン回転中に、メインスイッチのキーを **【始動】** 位置に回すと故障の原因になります。

補足

- * メインスイッチのキーを **【入】** 位置にすると、マルチナビの液晶ディスプレイに **【アワーメータ・オイル（図柄）・充電（図柄）】** が表示されますが、エンジンを始動してもオイル又は、充電の図柄の表示が消えないときは、購入先に連絡し、処置してください。
- * 駐車ブレーキが掛かっている状態でメインスイッチのキーを **【入】** 位置にすると **【駐車ブレーキ（P）】** が優先して表示し、駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。
- * ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

運転のしかた

■暖機運転について

エンジン始動後、エンジン回転数を約 1500rpm に合わせて通常（寒冷時以外）約 5 ～ 10 分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重 要

- * オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるため、始動してからすぐ負荷をかけると、エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。
- * 寒冷時は暖機運転を怠るとパワーステアリングレバーが操作できなくなったり、ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので、下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

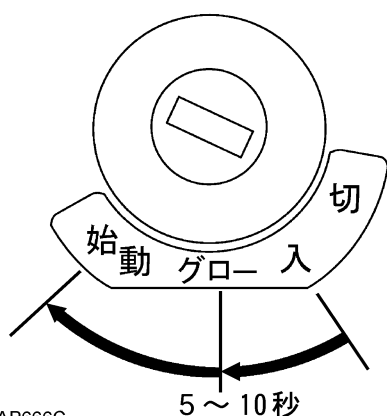
気 温	暖機運転時間
0℃～-10℃	約 10 分
-10℃～-15℃	10 ～ 15 分
-15℃～-20℃	15 ～ 20 分
-20℃以下	20 分以上

■寒冷時の始動のしかた

[572]

寒冷時にエンジンを始動するときは、始動する前にスイッチキーを【グロー】位置で 5 ～ 10 秒間予熱したあと【始動】位置に回してください。

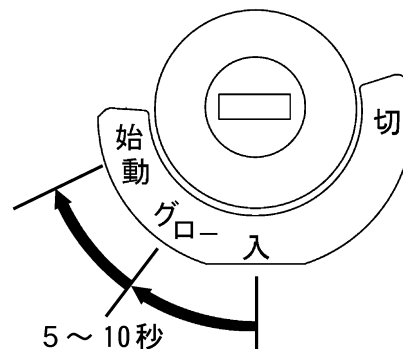
[Q 仕様除く]



1ARAEASAP666C

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]



1ARAEASAP667C

[Q 仕様]

[572]

■燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は、

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びメインスイッチのキーを【切】位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかた**の 1 ～ 4 を確認後、エンジンを始動します。

補 足

- * メインスイッチのキーを【入】位置にすると約 5 ～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

■バッテリーが上がったときの始動のしかた



危険

- * バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（-）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリー上りによりエンジンが始動できなくなったときは、バッテリーの補充電又は、交換を行なってください。（280 ページ参照）

補充電や交換がすぐに行なえないときは、救援車のバッテリーにブースタケーブルを接続してください。

重要

- * 接続するバッテリーは、必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
- * バッテリーを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
- * 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補足

- * ブースタケーブルの取扱いは、ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。
1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリーの（+）端子にそれぞれ接続したあと、ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリーの（-）端子に接続し、コンバイン側はバッテリーから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
 2. 利用するバッテリーが車などの場合は、エンジン回転を上げます。
 3. コンバインのエンジンを始動します。
 4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にします。
2. アクセルダイヤルを【L】（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを【切】位置にしてエンジンを停止します。

重要

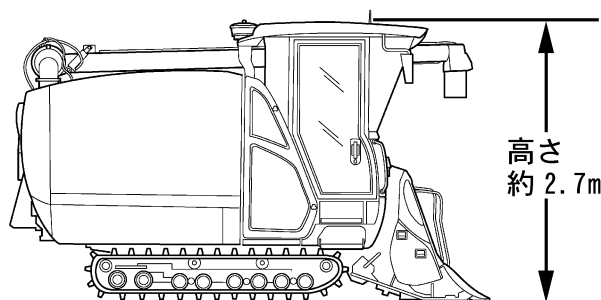
- * エンジン停止中でメインスイッチのキーが【入】位置で長時間放置するとバッテリー上りとなります。

移動走行について



注意

- * グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
- * 安全のためヘルメットを着用してください。
- * 運転者以外の人を乗せないでください。
- * 10cm以上の段差（あぜやコンクリートの畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
- * 水平操作手動スイッチで機体をいっぱい下げた状態にしてください。[Q仕様]は高さ制限のあるところを走行するときは注意してください。



1ARAEASAP669A

- * あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は、副変速切換えスイッチを[L]（作業位置）位置にし、低速で走行してください。
走行途中に停止するときは、主変速レバーを操作して停止してください。
- * あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）の走行途中で急なパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、副変速切換えスイッチ、ポジピタスイッチ、ブレーキペダル、水平操作手動スイッチ、傾斜角手動調節スイッチ、旋回モード切換えダイヤル、旋回力アップトリガ、アンローダリモコンを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。
- * あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは、速度を最低速にし、あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。

- * 下記のようなところを走行するときは、転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。
 - 両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩
 - 道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）
 - 路肩の弱い道路
 - 路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ
- * 結束機、ドロップ、スイスイデバイダなどを装着している場合は、[道路運送車両法]の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
- * [道路運送車両法]の[保安基準]に抵触するおそれがあるため、公道走行する前には必ず下記項目を確認し、異常があるときは購入先に連絡して処置を行なってください。また、異常があるときは必ずトラック輸送を行なってください。
 - 機械の周囲を回って油もれ、水もれ、燃料もれが発生している場合
 - エンジン音に異常がある場合
 - 旋回異常がある場合
 - ブレーキ、各変速、各クラッチに異常がある場合
 - 各警報（ブザー）、灯火装置（スイッチ、ランプ）に異常がある場合

■移動走行前の準備

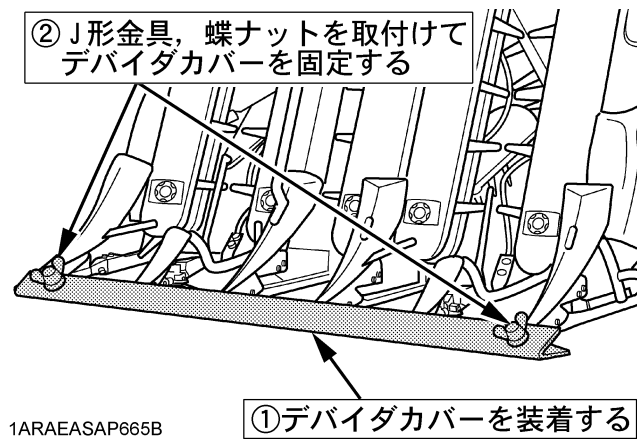


注意

- * 平たんな場所に置き、エンジンは必ず止めてください。
- * 取外したカバー類は必ず取付けてください。

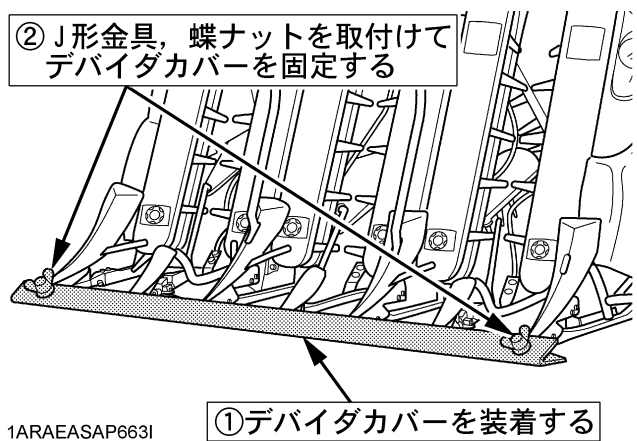
1. グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。(113 ページ参照)
2. デバイダカバーを取付けます。

[572・587]



[572・587]

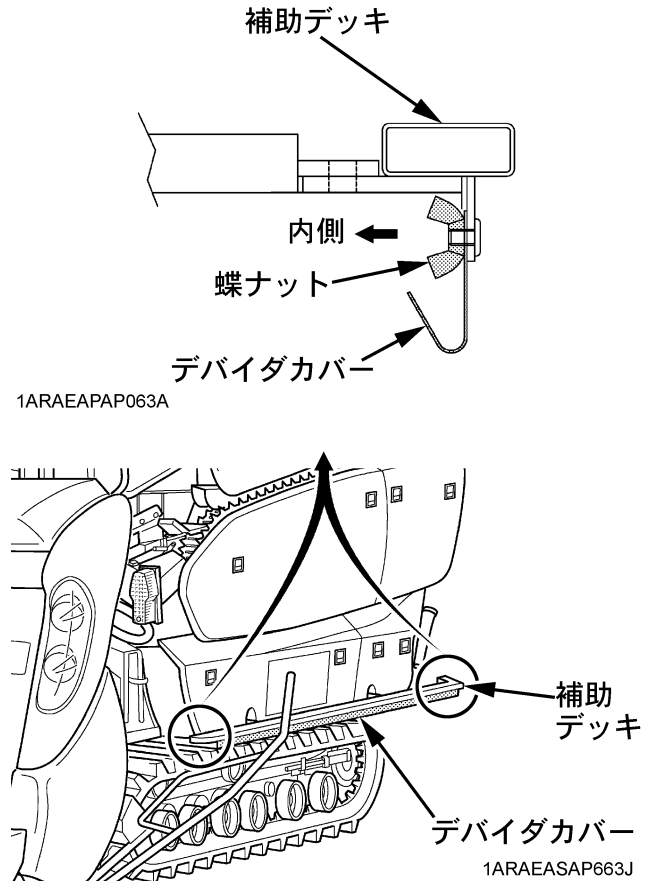
[698・108]



[698・108]

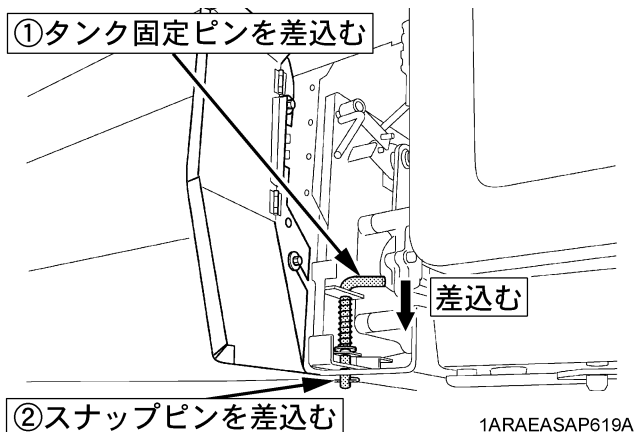
補 足

- * 補助デッキ内側に収納しているデバイダカバーを蝶ナットを外して取外し、デバイダに取付けてください。

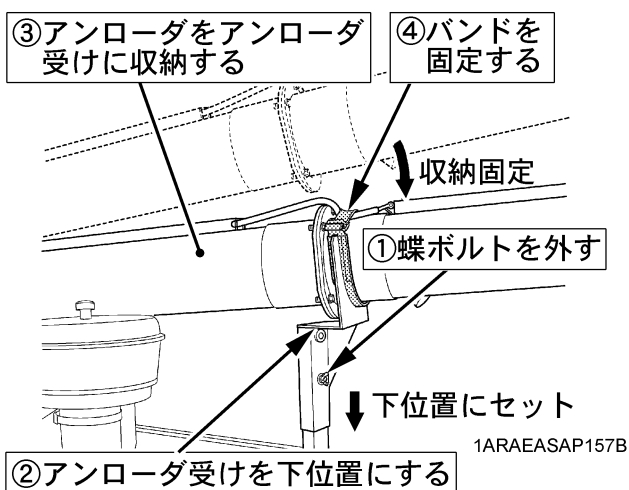


運転のしかた

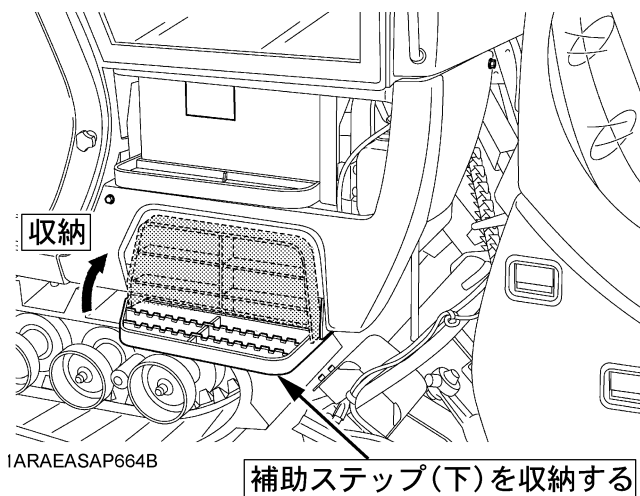
3. カバーを開いたあと、タンク固定ピンを差込み、スナップピンを取付けてグレンタンクを固定します。



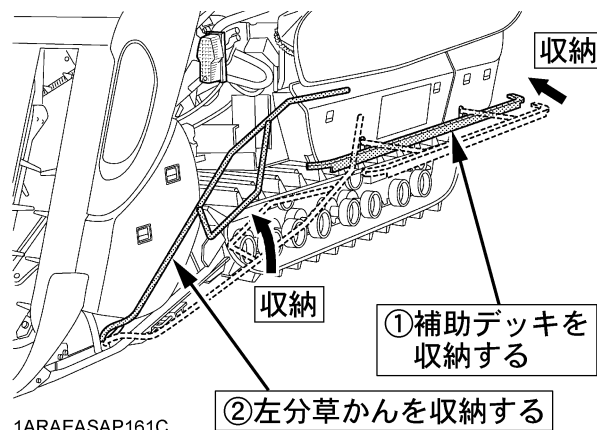
4. アンローダを収納します。



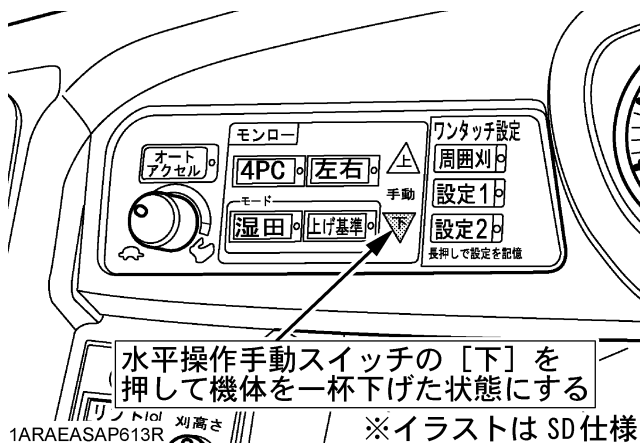
5. 補助ステップ（下）を収納します。



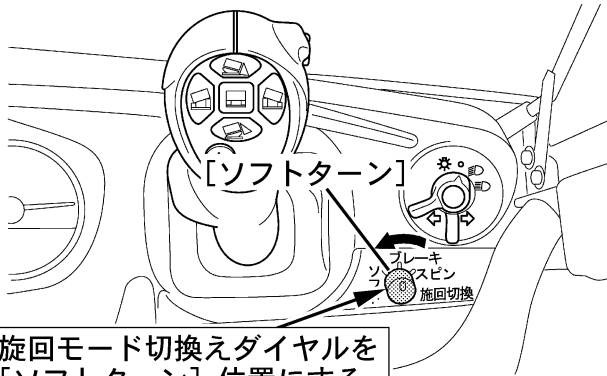
6. 補助デッキ、分草かんを収納します。



7. 水平操作手動スイッチで機体をいっぱいまで下げます。



8. 旋回モード切換えダイヤルを【ソフトターン】の位置にします。



旋回モード切換えダイヤルを【ソフトターン】位置にする

1ARAEASAP144F

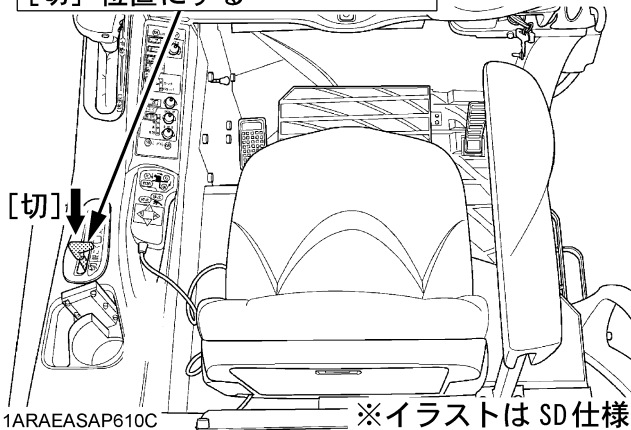
※イラストは SD 仕様

補 足

- * 副変速切換えスイッチが【H】（走行位置）のときは、【ソフトターン】に固定されます。また、旋回力アップトリガを引いても【ブレーキターン】には切換わりません。

9. 脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にします。

脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にする



1ARAEASAP610C

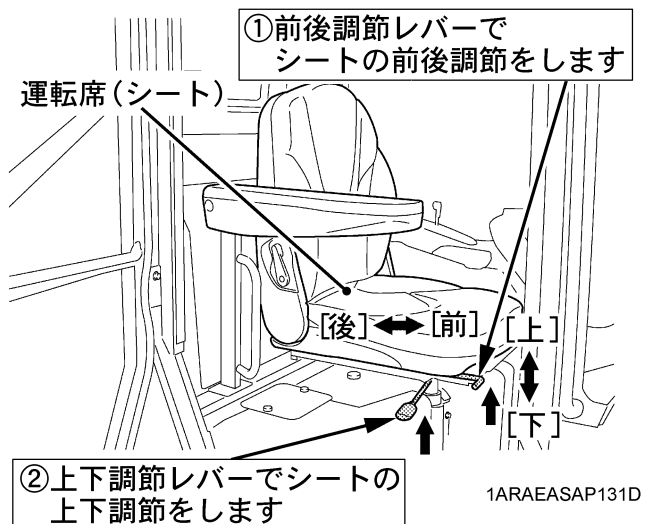
※イラストは SD 仕様

■発進のしかた

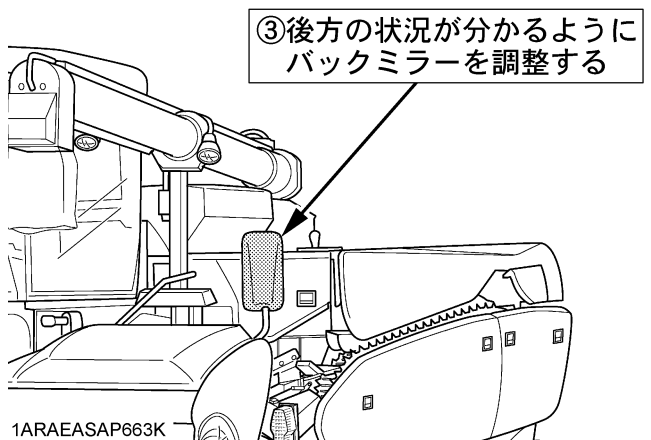


- * 発進をするときは、周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行ってから発進してください。
- * 急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。
- * 機体の前進を停止するとき、主変速レバーを【停止】側にするときは、後進時切換えノブを押さないでください。【後進】側に入り機体が後進するおそれがあります。

1. 運転席、バックミラーの調整を行ないます。



1ARAEASAP131D



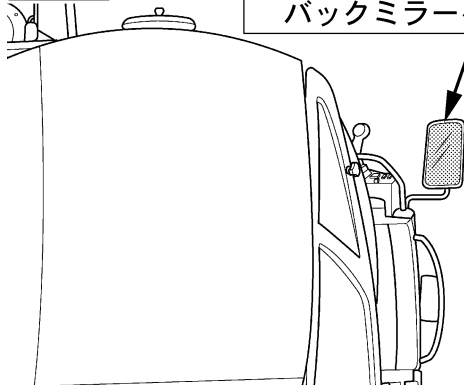
1ARAEASAP663K

運転のしかた

[Q 仕様除く]

[右側]

③後方の状況が分かるように
バックミラーを調節する



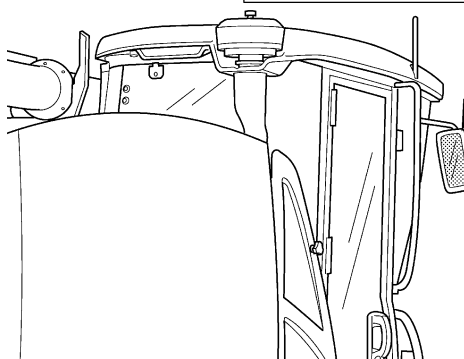
1ARAEASAP139B

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

[右側]

③後方の状況が分かるように
バックミラーを調節する

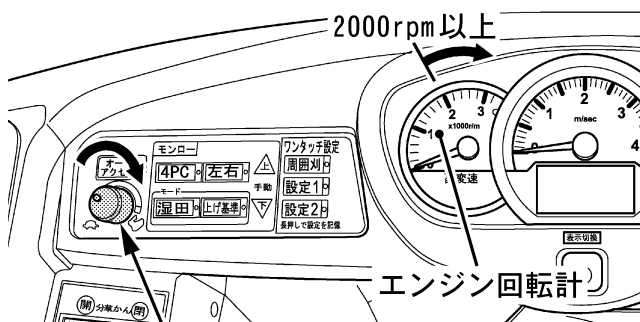


1ARAEASAP605K

[Q 仕様]

2. アクセルダイヤルを操作します。

エンジンを始動したあと、アクセルダイヤルを操作します。



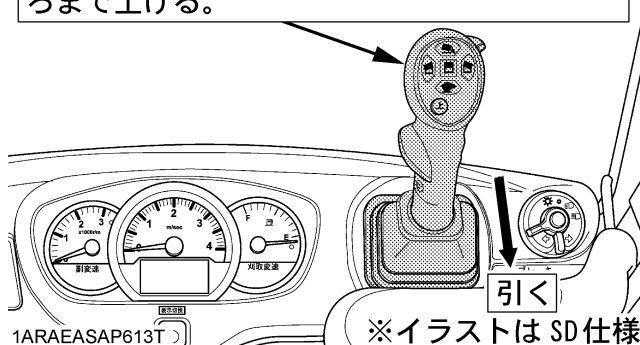
アクセルダイヤルを回してエンジン
回転数を 2000rpm 以上にする

1ARAEASAP613S

※イラストは SD 仕様

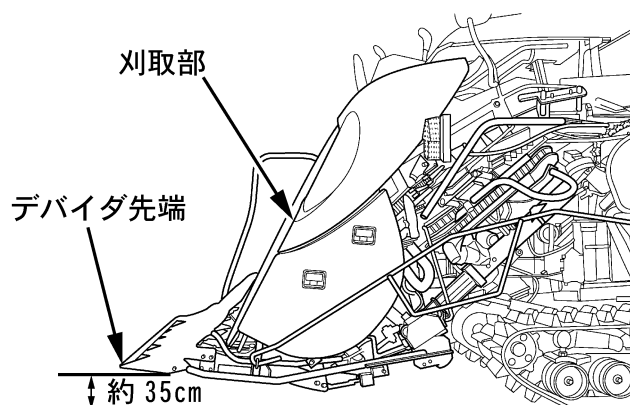
3. 刈取部を上げます。

パワーステアリングレバーを引き、刈取部の
デバイダ先端部を地面から約 35cm 程度のところ
まで上げる。



1ARAEASAP613T

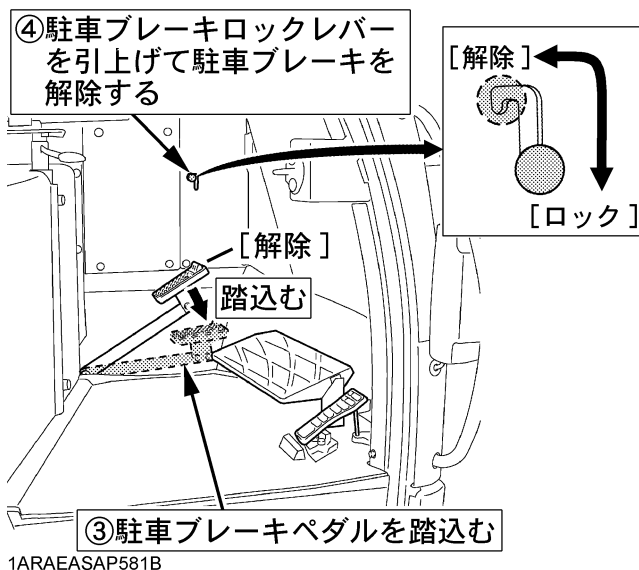
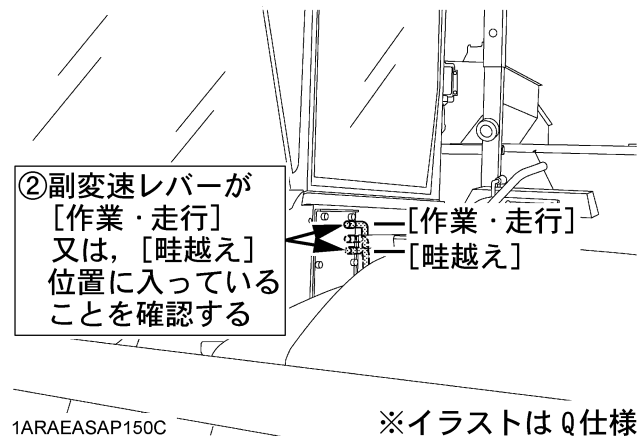
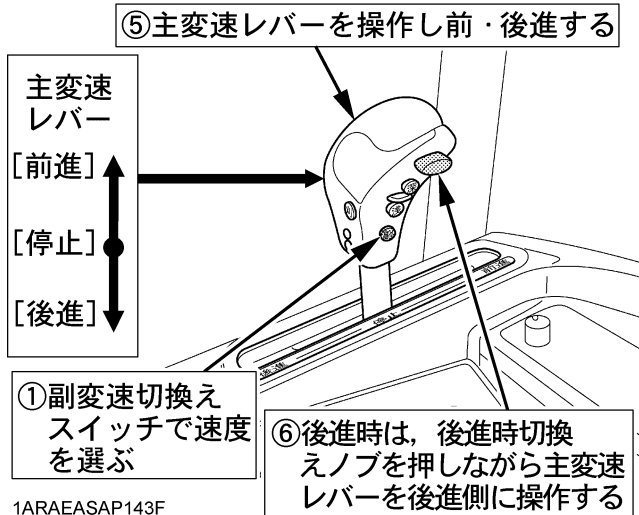
※イラストは SD 仕様



1ARAEASAP162A

4. 走行速度を選んで発進します。

主変速レバーを【停止】位置より前に押すと**前進**し、後に引くと**後進**します。後進するときは、主変速レバーの後進時切換えノブを押しながら【後進】側に引きます。



重要

- * 駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。
- * 副変速レバーの切換えは平坦な場所で主変速レバーを【停止】位置にし、ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

運転のしかた

■旋回のしかた

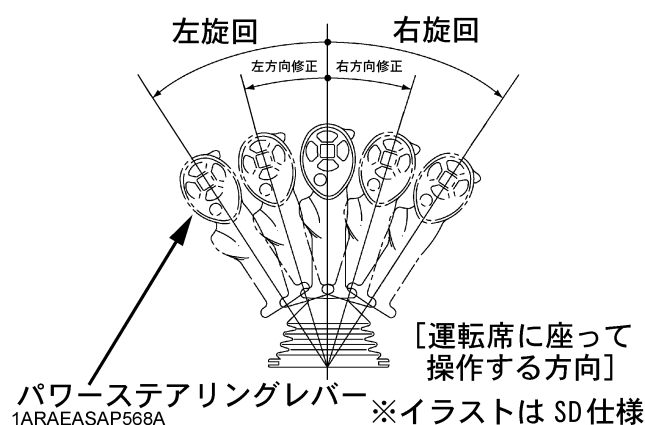
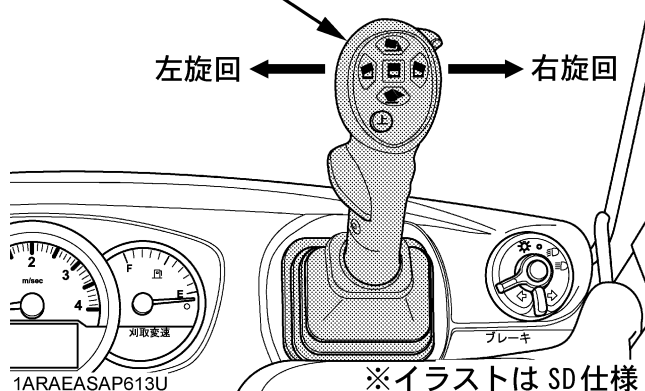


注意

- * 高速走行時、パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また、いっぱいまで倒すと急旋回します。

パワーステアリングレバー



重要

- * 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車・駐車のしかた



注意

- * コンバインを離れるときは、平たんで安全な場所に置き、刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めてください。
- * やむをえず坂道で駐車するときは、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを【停止】位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重要

- * 駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。
3. アクセルダイヤルを【】（低回転）位置にします。
 4. 副変速レバーを【N】（中立）以外の位置にします。
 5. 刈取部を降ろして地面に接地します。
 6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。
 7. 【Q仕様】はキャビンのドアをロックします。

■道路走行について



警告

- * 道路を走行するときは、大型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し、小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。



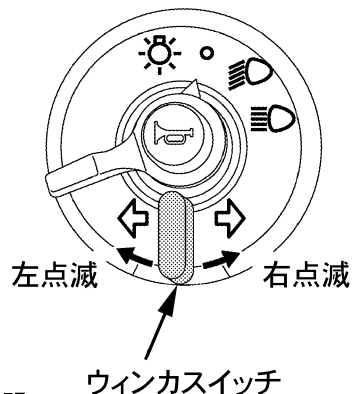
注意

- * 結束機、ドロップ、スライデバイダなどを装着した状態で移動するときは、トラック輸送してください。
- * 夜間など暗いときに移動走行するときは、ヘッドランプを必ず点灯し、作業灯は必ず消灯してください。
- * 作業灯は[道路運送車両の保安基準]第42条(灯火の色などの制限)において、[走行中に使用しない灯火]とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されています。

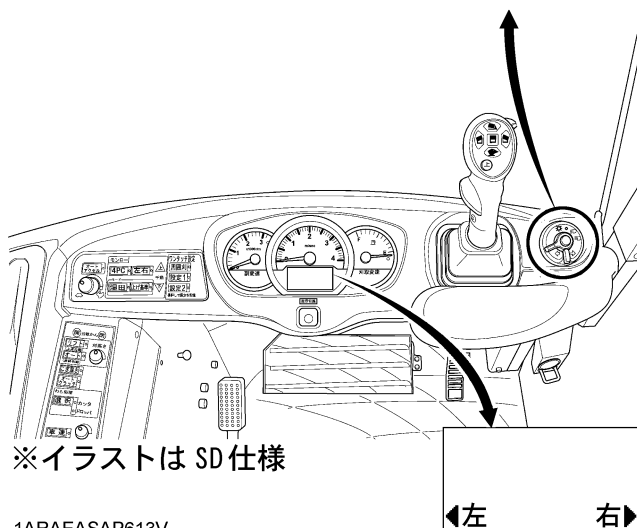
道路走行中、進路方向を変えるときは、ウインカ(方向指示器)で進路方向を他の自動車に知らせてください。

●ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると、ウインカランプが点滅し、マルチナビの液晶ディスプレイに【◀】(左方向)又は、【▶】(右方向)方向を示す矢印が点滅表示します。



1ARADAKAP067E



※イラストは SD 仕様

1ARAEASAP613V

補 足

- * 旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。

運転のしかた

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備



注 意

- * 積込み・積降しは平坦地を選び、トラックの駐車ブレーキを掛け、トラックの変速レバーをR（後進）又は、1速に入れたあと、さらにタイヤに歯止めを行ない、トラックが動かないようにしっかりと固定してください。
- * あゆみ板はフックが付いているもので、じゅうぶんな強度、幅（70cm 以上）、長さ（高さの4倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し、コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- * あゆみ板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	70cm 以上
数 量	2 枚
強 度	1 枚が 3500kg 以上の重量に耐えうる

■トラックへ積込み時のコンバインの準備

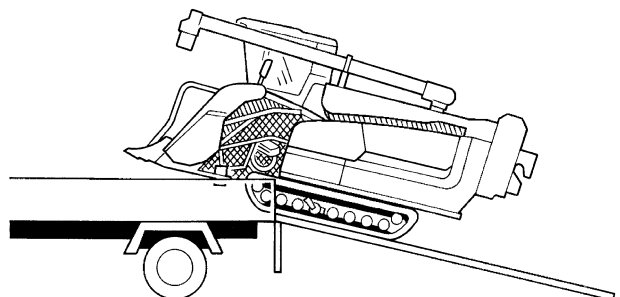
もみをすべて排出し、アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納後、脱こく・刈取クラッチレバー、もみ排出クラッチスイッチを【切】位置にし、自動車体水平制御（モンロー）を機体いっぱいまで下げ、補助デッキや左分草かんをそれぞれ収納したあと、デバイダカバーを取付けます。（89 ページ参照）

■トラックへの積込み・積降しのしかた



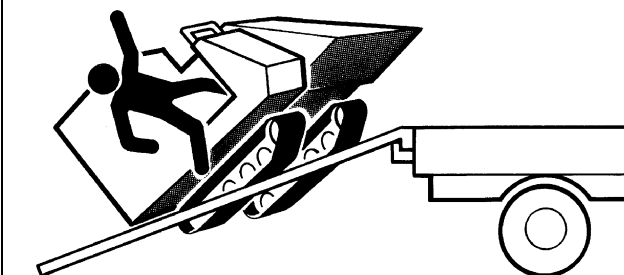
注 意

- * 積込みは前進で、積降しは後進で行なってください。
- * 平坦地を選び、できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また、助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前に人を近づけないでください。



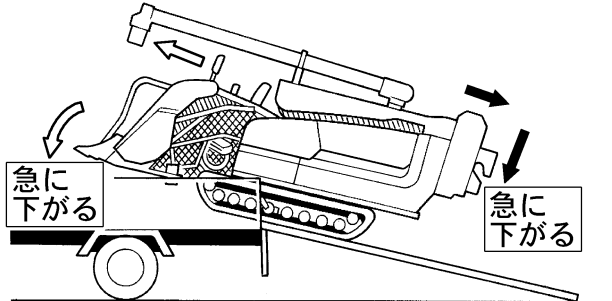
1ARAEASAP670A

- * あゆみ板の途中で急なパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、副変速切換えスイッチ、ポジピタスイッチ、ブレーキペダル、水平操作手動スイッチ、傾斜角手動調節スイッチ、旋回モード切換えダイヤル、旋回力アップトリガ、アンローダリモコンを操作すると、機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し、再度上り下り直してください。



1ARADBEAP122A

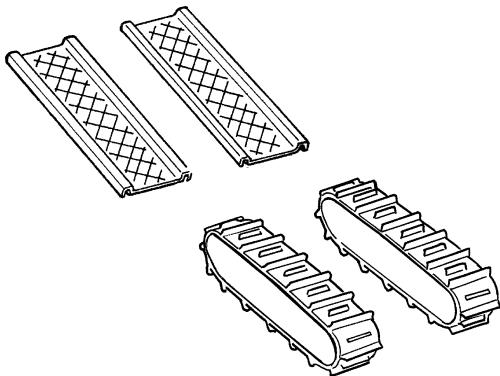
- * 機体が凸部を越えるときは、急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



1ARAEASAP671A

◆ 操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを【切】位置にします。
2. 水平操作手動スイッチで機体を**最下降位置**まで下げます。
3. パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。
4. オートアクセルスイッチを【切】にし、自動アクセル制御を解除します。
5. アクセルダイヤルを操作し、エンジン回転数を 2000rpm 以上にし、副変速切換えスイッチを【L】（作業位置）位置にしたあと、主変速レバーをゆっくり操作して、**低速**で走行します。
6. あゆみ板の前でいったん停止し、あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ、機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。



1ARADBEAP124A

7. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

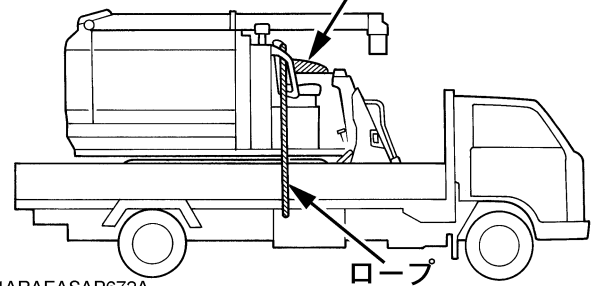
■トラック上での処置



注意

- * 刈取部を床まで降し、駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。
- * トラックで輸送する場合は、風圧で刈取防じんカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、刈取防じんカバーを閉じ、ロープなどで浮上りを防いでください。[SD仕様(Q仕様除く)]

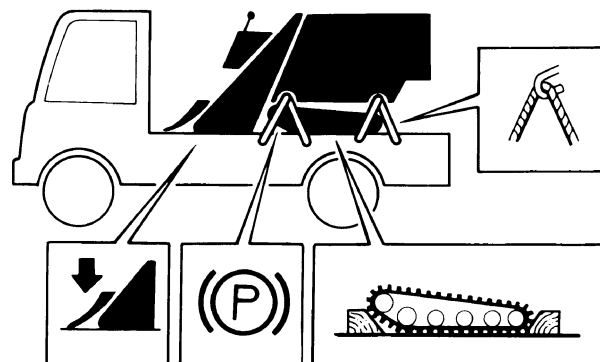
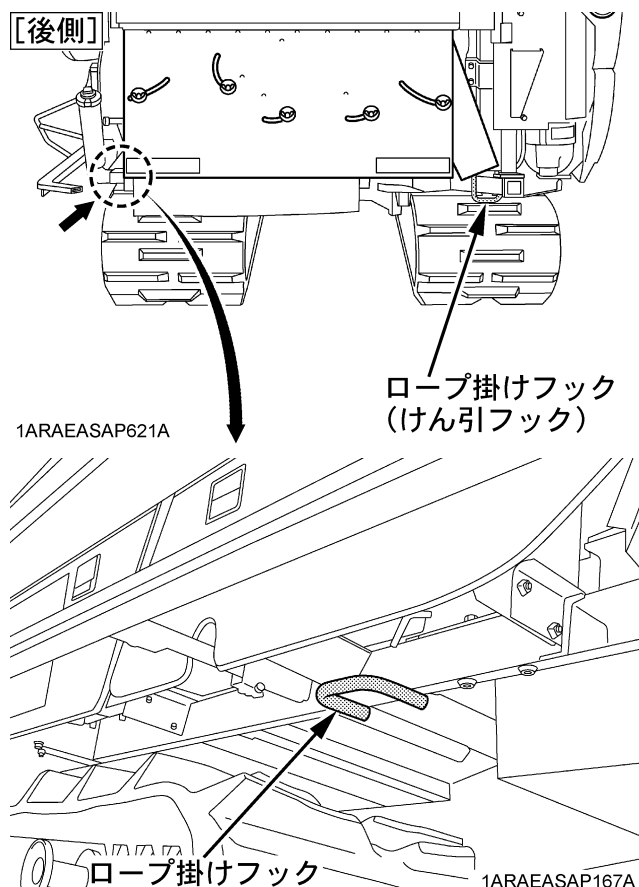
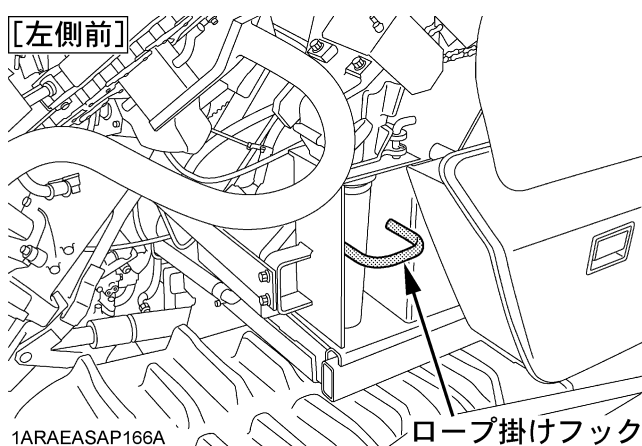
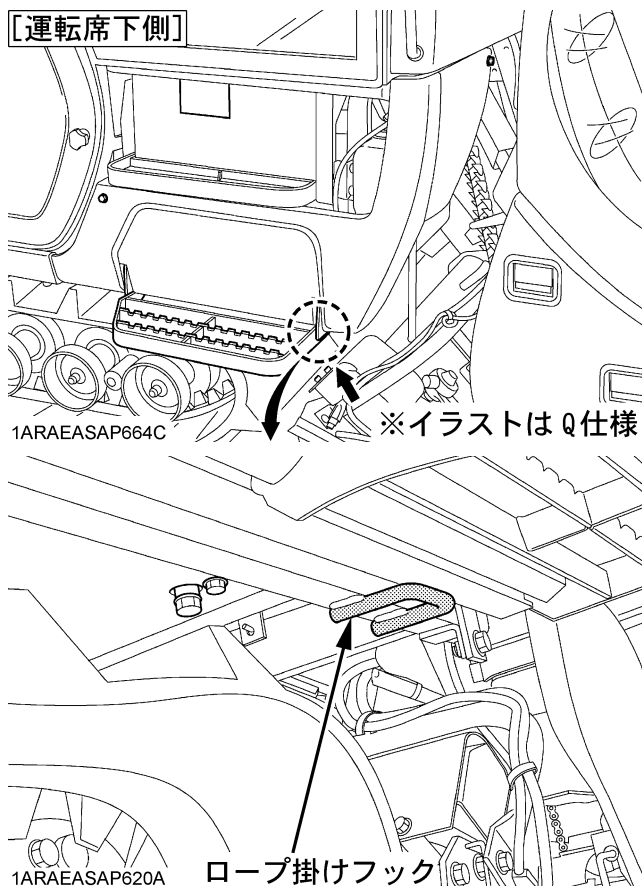
刈取防じんカバー



1ARAEASAP672A

運転のしかた

1. コンバインをトラックの荷台に乗せたあと、刈取部を床まで降ろし、駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. コンバインにロープを掛けます。ロープを掛けるときは、必ず指定のロープ掛け用のフック4箇所にかけてください。



1ARADBEAP127A

重 要

- * ロープ掛けフック以外の所には、ロープを掛けないでください。
- * 右後方のロープ掛けフック以外のロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。

補 足

- * 後右側のロープ掛けフックは、けん引フックとしても使用してください。(299 ページ参照)

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては、刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて、収穫量が上がる能率のよい作業を行ってください。

■作物の条件

◆ 作物の長さ

刈取れる長さは、標準の刈高さで

……全長約 55 ～ 130cm **【標準仕様】**

全長約 50 ～ 120cm **【H仕様（短かん用）】**

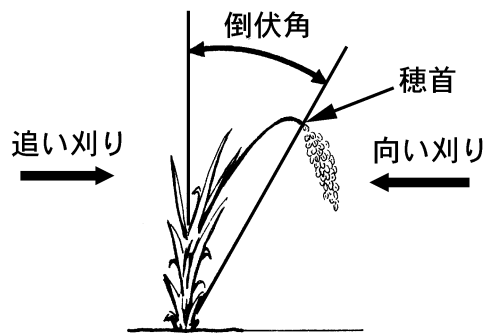


1ARADBEAP129A

◆ 作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により、刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒 伏 角
追い刈り	85 度以下
向い刈り	70 度以下



1ARADBEAP130A

◆ 作物のぬれ

作物は乾いて、手でしごいてぬれていない状態が適期です。

重 要

- * 湿田の倒伏やぬれ作物の刈取作業を行なうとき、受あみが目詰まりを起すことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し、受あみの目詰まりを取除いてください。

掃除を行なうときは、必要に応じて受あみを取外してください。（163 ページ参照）

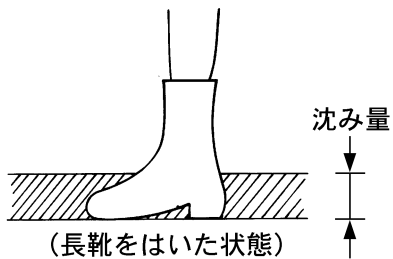
収穫作業のしかた

■ほ場の条件

◆ ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。また、クローラの仕様によって、目安の沈み量は異なります。

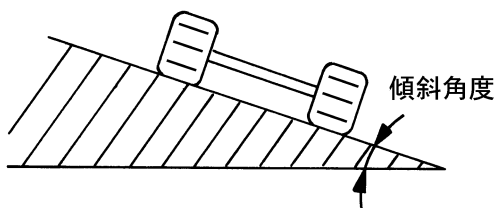
仕 様	沈 み 量
W	20cm まで
W2	20 ～ 30cm まで
W3	30 ～ 40cm まで



1ARADAFAP352A

◆ ほ場の傾き

傾斜角 5 度以上では、作業できません。

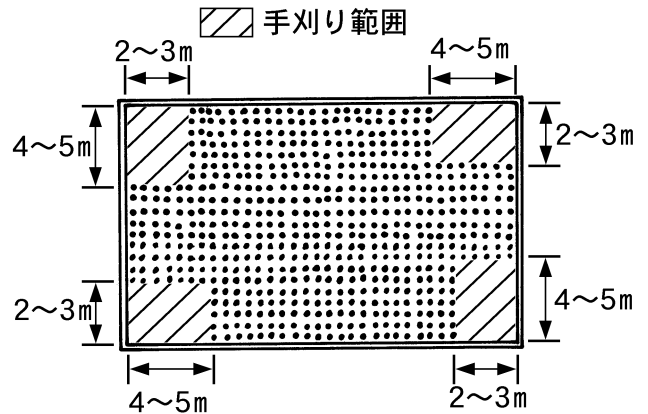


1ARADBEAP132A

ほ場の準備

■ほ場の準備

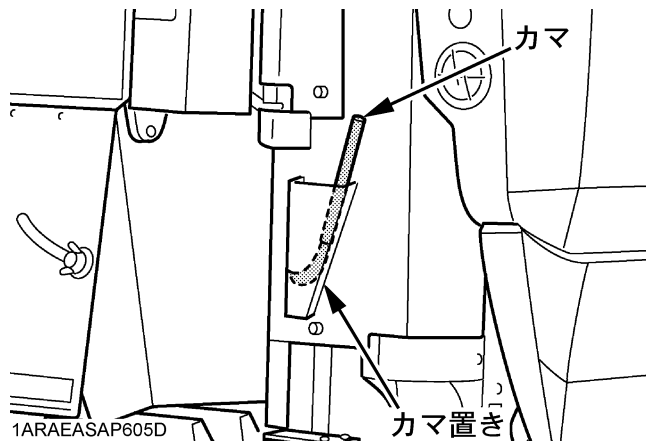
コンバインをほ場に入れる前に、あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように、旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。



1ARADBEAP133A

補 足

* カマの収納場所は下図の位置にあります。



1ARAEASAP605D

コンバインの準備



注 意

- * 平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。
- * 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■コンバインの準備のしかた

1. 各部への注油

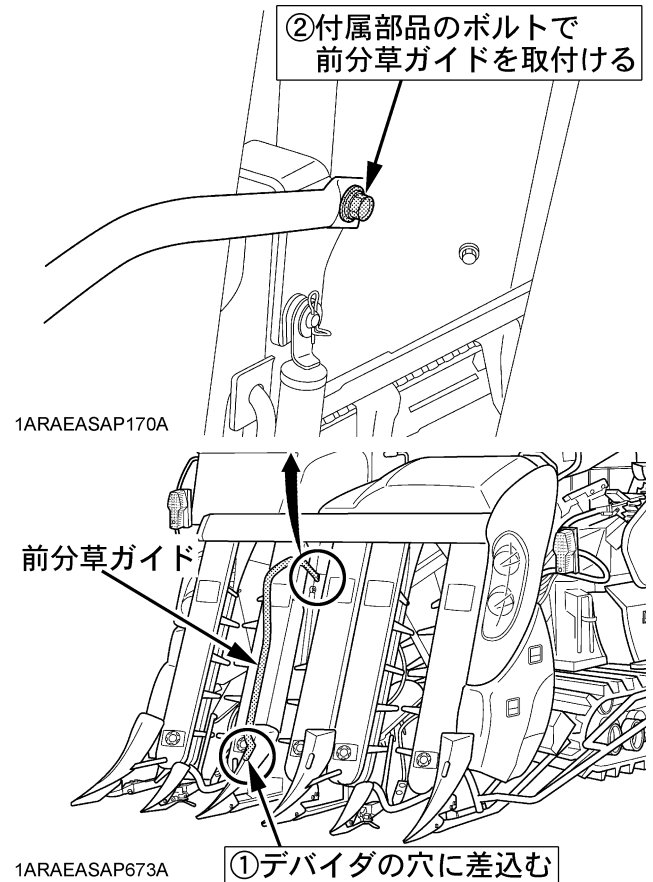
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(178 ページ参照)

2. 前分草ガイドの取付け

下記のは場や作物条件に合わせ，前分草ガイドの取付け又は，取外しを行なってください。

- 長かん作物で倒伏した作物を刈取るときは，付属部品の前分草ガイドを取付けてください。
- 雑草の多いほ場や引抜きを起こしやすい作物を刈取るときは，前分草ガイドを取外してください。

[572・587]



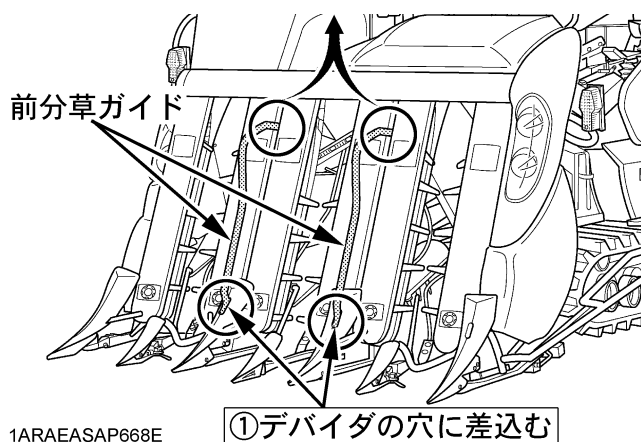
[572・587]

収穫作業のしかた

[698・108]

②付属部品のナットで
前分草ガイドを取付ける

1ARAEASAP171A



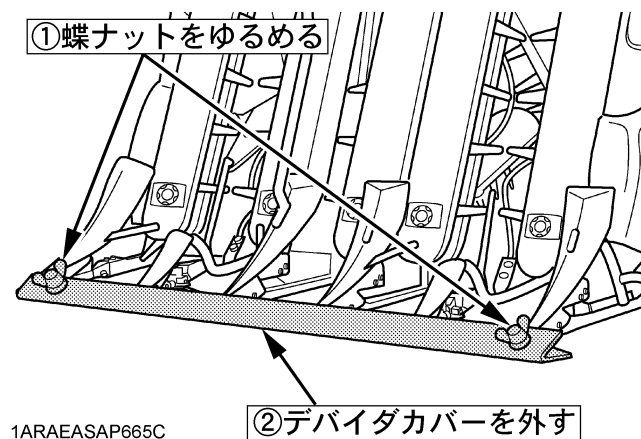
1ARAEASAP668E

[698・108]

3. デバイダカバーの取外し

[572・587]

①蝶ナットをゆるめる

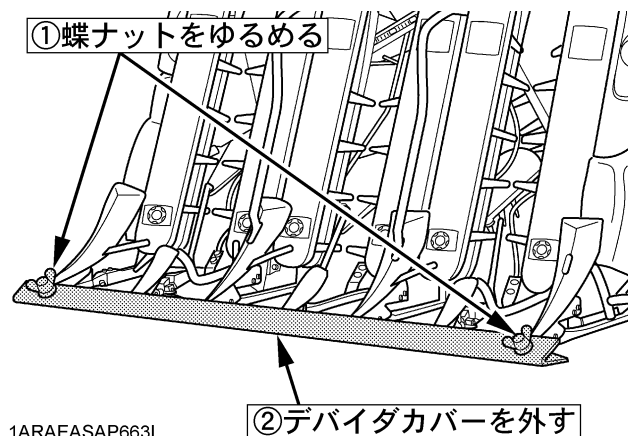


1ARAEASAP665C

[572・587]

[698・108]

①蝶ナットをゆるめる



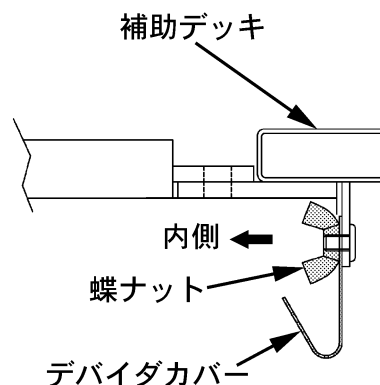
1ARAEASAP663L

[698・108]

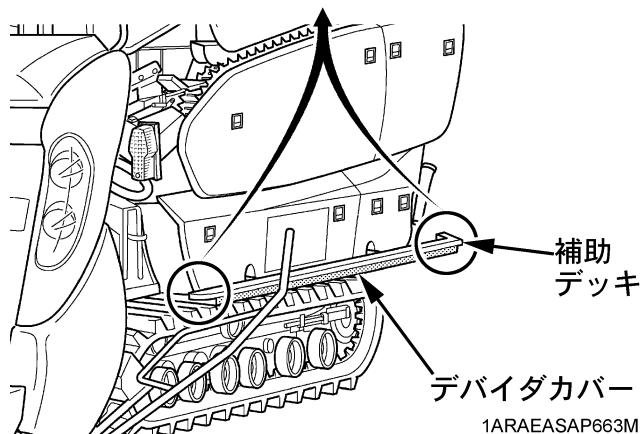
補 足

* デバイダカバーを取外したあと、補助デッキ内側にデバイダカバーを収納してください。収納するときは、補助デッキ内側にある2箇所（箇所）のボルトにデバイダカバーの取付穴を通し、取外した蝶ナットを締付けて取付けます。また、取外したJ形の金具はなくさないように大切に保管してください。

補助デッキ

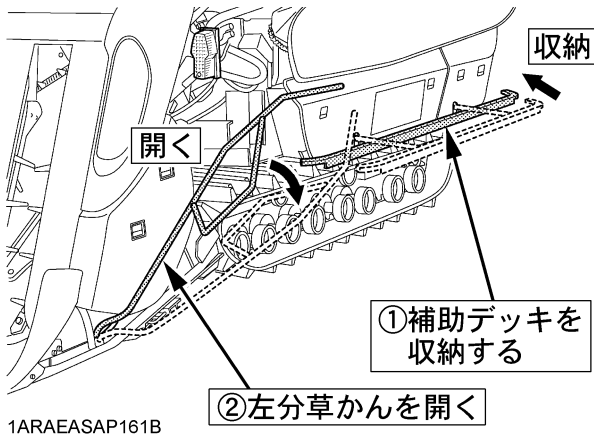


1ARAEAPAP063A

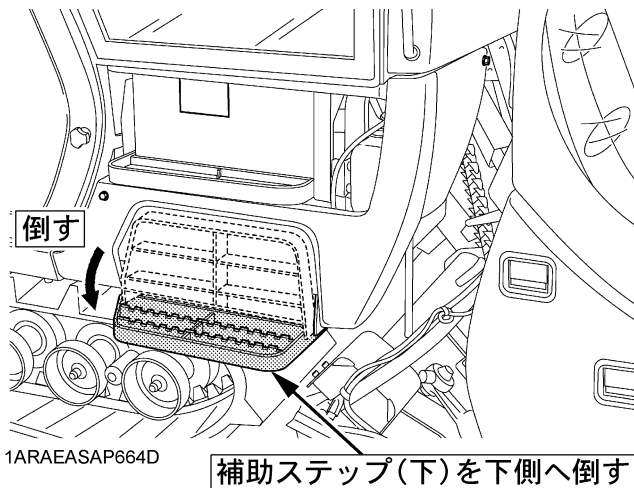


1ARAEASAP663M

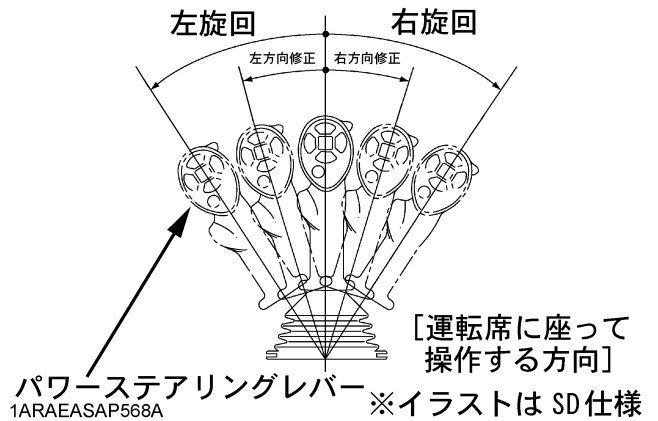
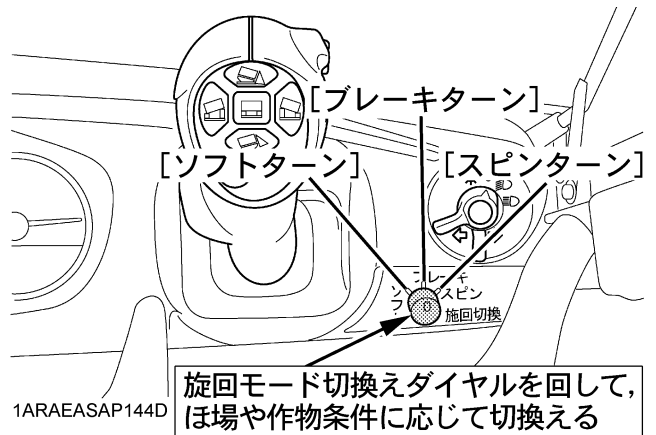
4. 左分草かんのセット



5. 補助ステップ（下）のセット



6. 旋回モード切換えダイヤルの選択

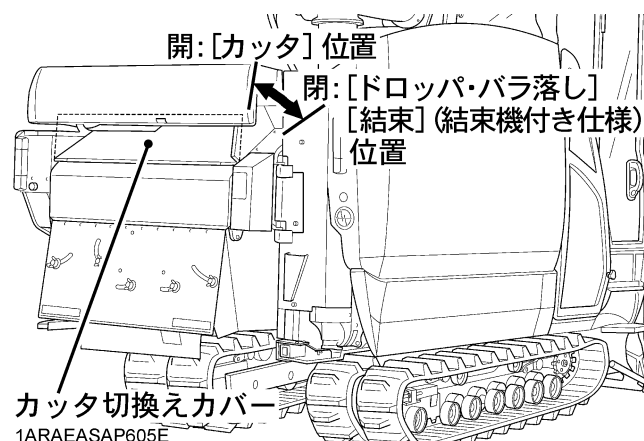
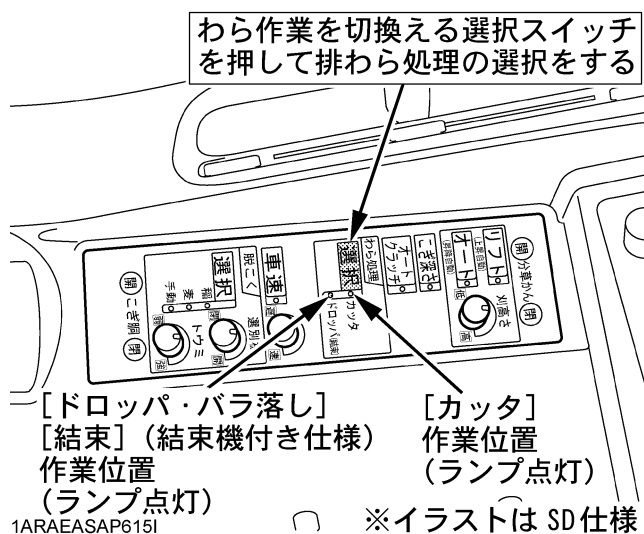


補 足

- * **【スピンターン】** 位置で作業を行なったとき、機体の振動が大きいときは、**【ブレーキターン】** 又は、**【ソフトターン】** 位置に切換えてください。
- * 副変速スイッチを **【H】（走行位置）** に切換えると、旋回モード切換えダイヤルで選択している位置に関係なく旋回力が**ソフトターン**に固定されます。

収穫作業のしかた

7. 排わら処理の選択



重要

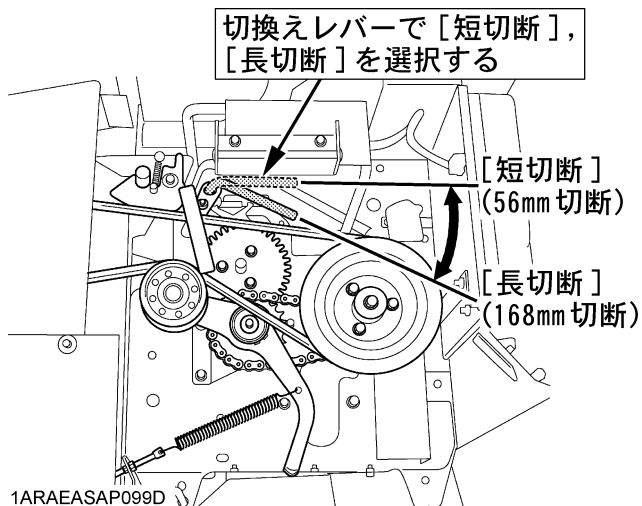
- * 作業中にわら作業を切換えるときは、搬送されている作物が完全に流れ終わってから行なってください。故障の原因となります。

補足

- * わら作業切換えスイッチを押すと、液晶ディスプレイに【わら処理 カット】／【わら処理 ドロップ】【わら処理 結束】(結束機付き仕様)と一定時間表示します。
- * わら処理切換えスイッチを押したとき、液晶ディスプレイに【排わら切換確認する】と表示し、警報ブザーが鳴ったときは、エンジンを停止したあと、わら処理部(排わらチェーンやカット部)を確認し、わらや雑草を取除いてください。(173 ページ参照)

8. 排わら切断長さの選択

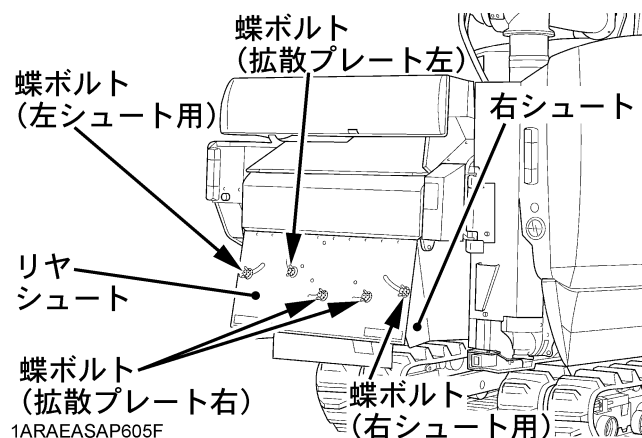
わらの切断長さの切換えを行なってください。切換えるときは、切換えが終わったあとは左サイドカバー上2を取付けてください。



9. リヤシュート・サイドシュートの準備

◆ セットのしかた

排わらの切断長さや拡散又は、中割り作業に応じてリヤシュート及びサイド(右, 左)シュートの調整を行なってください。また、調整が終わったあとは、蝶ボルトを確実に締付けてください。



◆ 調整のしかた

● 拡散作業 ↔ 寄せ作業

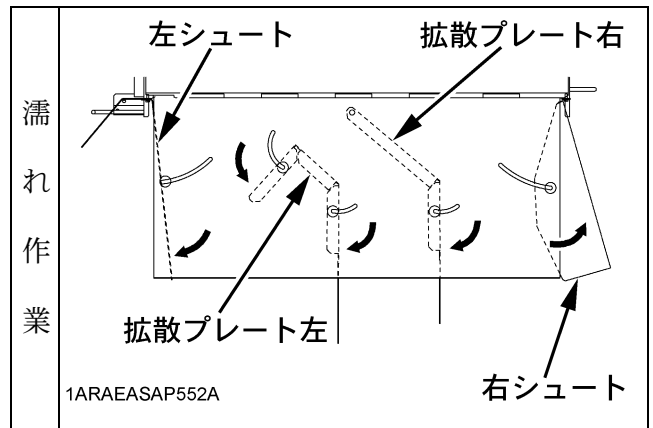
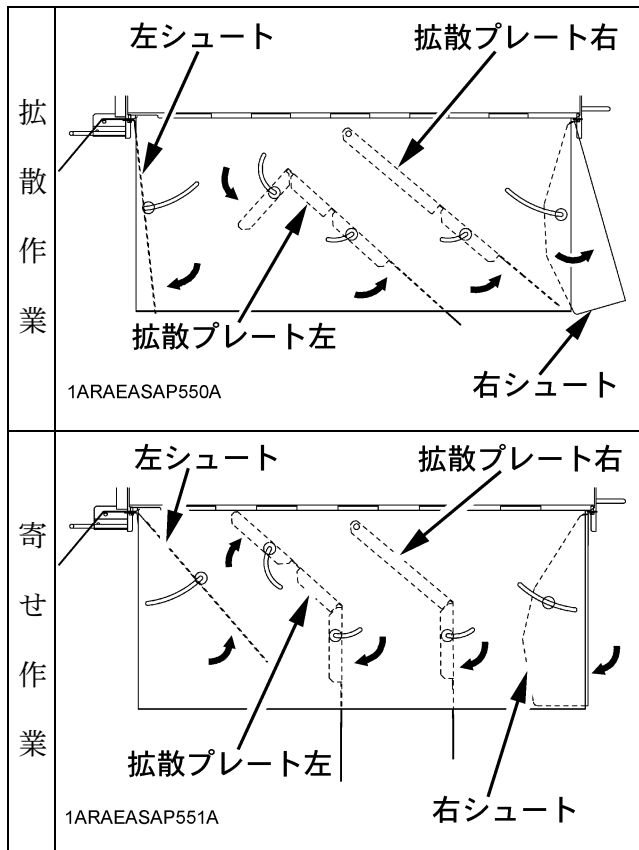
リヤシュート側にある蝶ボルト 5 本をゆるめて、左、右のシュートと拡散プレートを調整してください。

拡散作業… 左、右のシュートを外側に広げたあと、拡散プレート左の上部を下側、下部を右側にし、拡散プレート右を右側にします。

寄せ作業… 左のシュートを内側に寄せ、右のシュートの右端部を垂直状態に寄せたあと、拡散プレート左の上部を上側、下部を左側にし、拡散プレート右を左側にします。

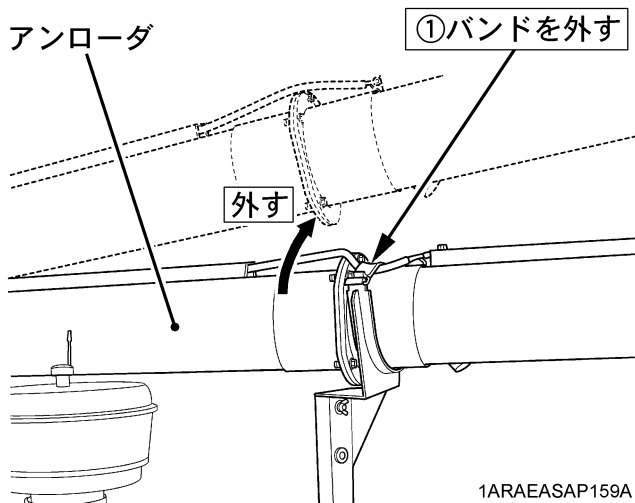
重 要

* 高水分作物や濡れ作物の拡散作業を行なうとき、右シュート付近で詰まりが発生する場合は、左、右のシュートを外側に広げたあと、拡散プレート左の上部を下側、下部を左側にし、左シュートを左側にしてください。シュートやプレートが破損するおそれがあります。

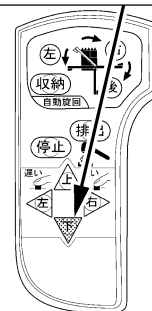


収穫作業のしかた

10. アンローダの準備

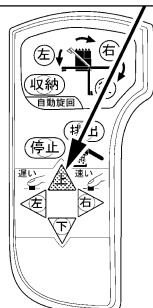


⑤アンローダ操作ボタンの[下]を押してアンローダを収納する

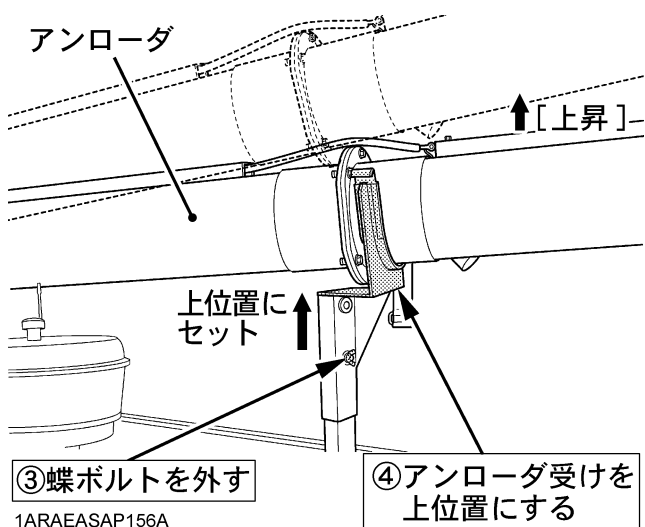


※イラストはマルチアンローダリモコン
1ARAEASAP164B

②アンローダ操作ボタンの[上]を押してアンローダを上昇させる



※イラストはマルチアンローダリモコン
1ARAEASAP164A



刈取作業のしかた

■ほ場の出入りのしかた



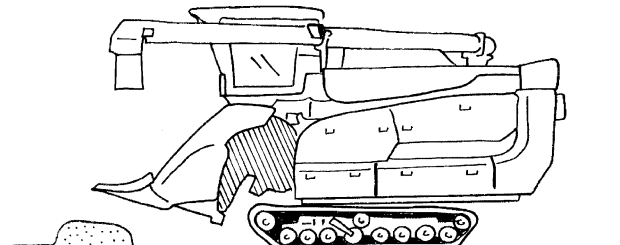
注 意

- * グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
- * 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
- * あゆみ板はじゅうぶんな強度、幅（70cm 以上）、長さ（高さの 4 倍以上）のある基準（96 ページ参照）に合ったすべり止め付きのものを使用し、コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また、あゆみ板はあぜに直角に置いてください。
- * あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは、速度を最低速にしてください。
- * あゆみ板を使うときは、速度を最低速にし、あぜに対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
- * あぜ越えやあゆみ板を走行するときは、自動車体水平制御（モンロー）は機体をいっばい下げた状態にしてください。
- * 後進する場合は後方の安全確認、また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
- * 機体が、凸部を越えるときは、重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

1. オートアクセルスイッチを【切】にし、自動アクセル制御を解除します。

2. 副変速切換えスイッチを【L】（作業位置）にし、アクセルダイヤルを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にし、主変速レバーをゆっくり操作して、低速であぜ越えしてください。

〔低いあぜ越え〕



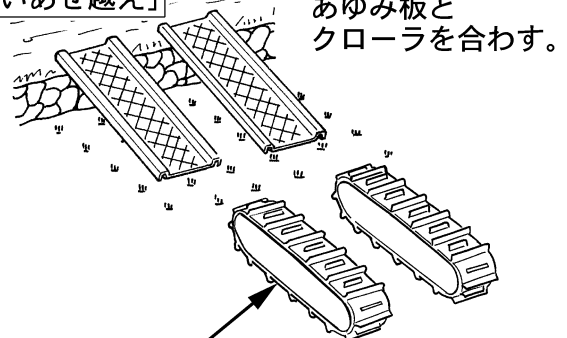
あぜ

1ARAESAP674A

※イラストは Q 仕様

3. 10cm 以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

〔高いあぜ越え〕



あゆみ板とクローラを合わせ。

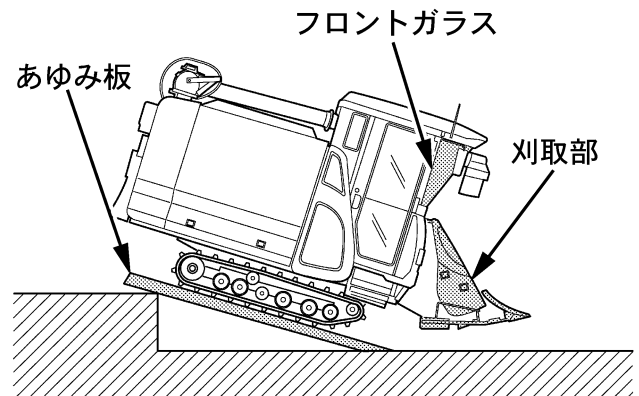
クローラ

1ASADAAAP196A

〔Q 仕様〕

重 要

- * あゆみ板を使用しないと刈取部が突上げられて、キャビンのフロントガラスが割れるおそれがあります。



1ARAESAP675A

〔Q 仕様〕

収穫作業のしかた

■刈取作業の手順



警告

- * コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。



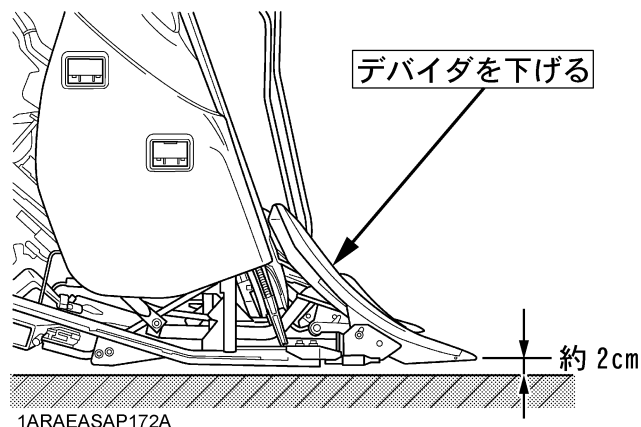
注意

- * 異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。
- * 小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
- * 傾斜地で刈取作業中にかき込みペダルを踏込むと、機体がすべるおそれがあるため、傾斜地では刈取かき込みペダルは踏まないでください。
- * 夜間など暗い場所で作業するときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。

重要

- * 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば、そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けると、エンジンオーバーヒートの原因になりますので注意してください。

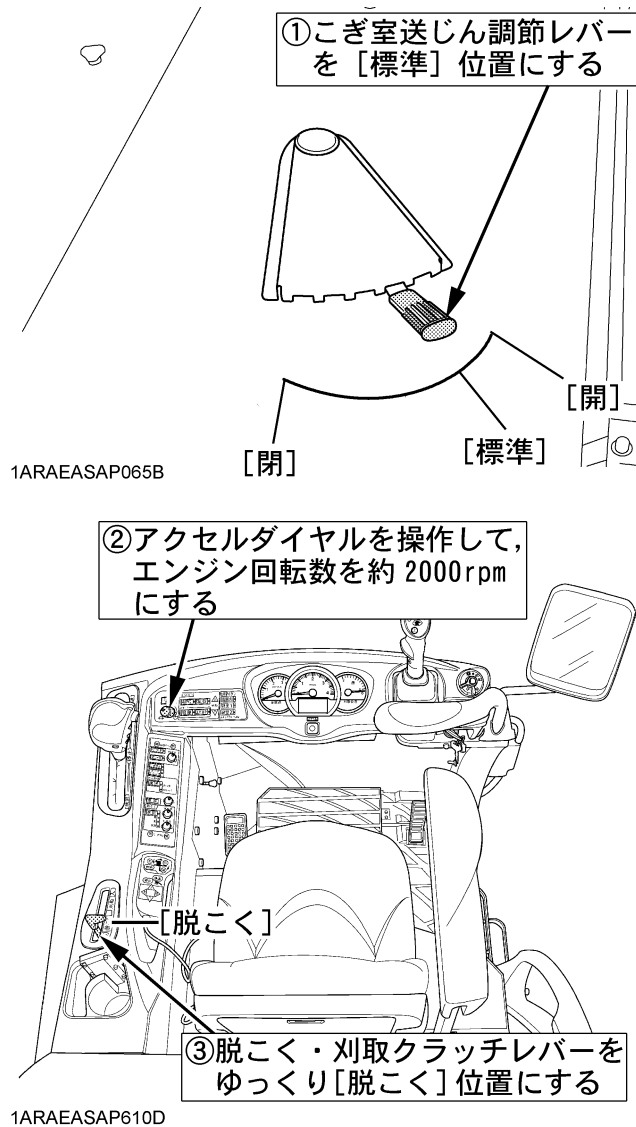
1. パワーステアリングレバーを操作し、通常はデバイダの先端を地面すれすれ（約 2 cm 程度）のところまで刈取部を下げます。



補足

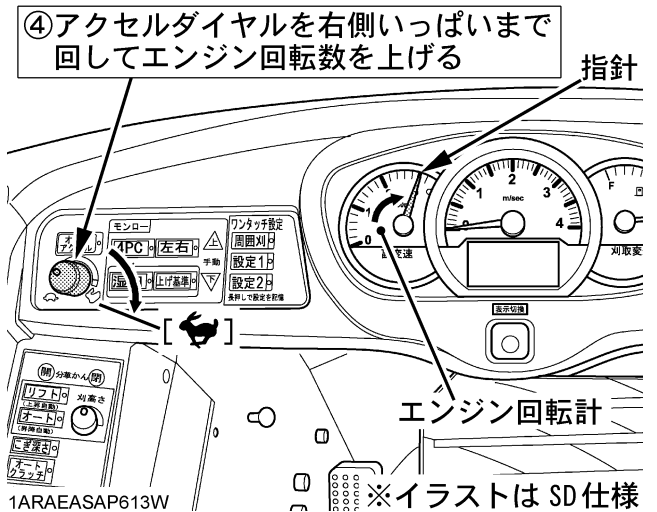
- * 長かん作物、麦、雑草の多い作物は、高刈りしてください。

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行います。



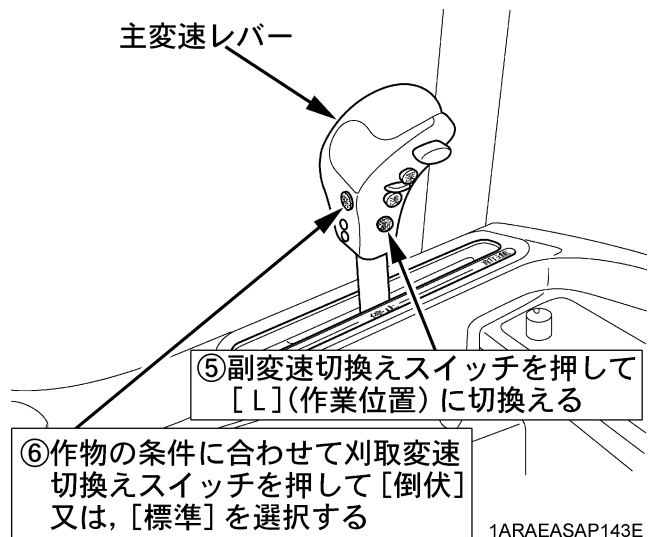
重要

- * エンジン回転数が 2000rpm 以上のとき、脱こく・刈取クラッチレバーを入ると駆動ベルトが破損するおそれがあります。



補足

- * アクセルダイヤルを右側いっぱいまで回したときのエンジン回転数は約 2700rpm です。
- * エンジン回転数が低すぎると、警報ブザーが鳴ります。

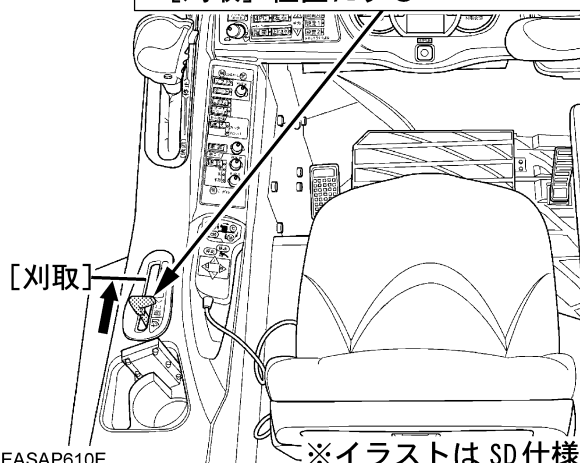


補足

- * 刈取変速スイッチを押したとき、燃料計下側にある刈取変速の表示部に【H】を表示すると【倒伏】位置、【H】の表示が消えると【標準】位置です。

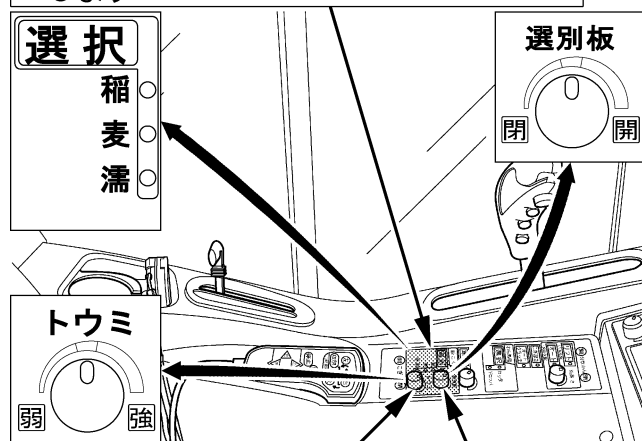
収穫作業のしかた

⑦脱こく・刈取クラッチレバーを
【刈取】位置にする



1ARAEASAP610E

⑧自動脱こく制御装置の作物選択スイッチ
(稲／麦／手動) を作物に合わせて設定
します



⑩トウミ調節ダイヤルを
開と閉の中間 (標準)
位置にする

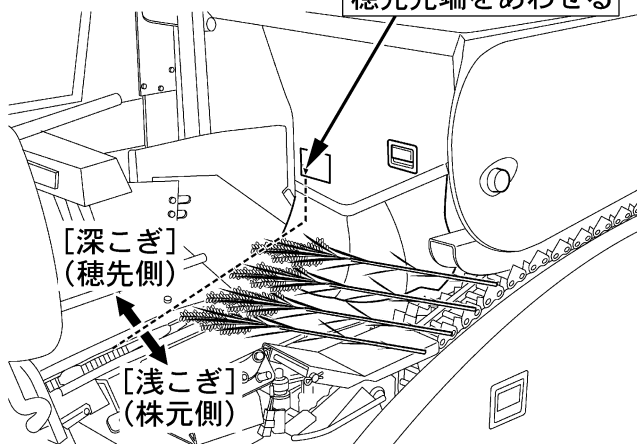
1ARAEASAP614G

※イラストは SD 仕様

⑨選別板調節ダイヤルを
開と閉の中間 (標準)
位置にする

3. 作物の長さを確認したあと、刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは、主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと、自動こぎ深さ切換えスイッチを【入】(ランプ点灯)にします。(39, 39 ページ参照)
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。(112 ページ参照)
5. 作物の穂先先端を脱こく入口の【▼マーク】(こぎ深さ標準位置)に合うようにこぎ深さを調節します。(39, 39 ページ参照)

▼マークラベルに
穂先先端をあわせる



1ARAEASAP154B

補 足

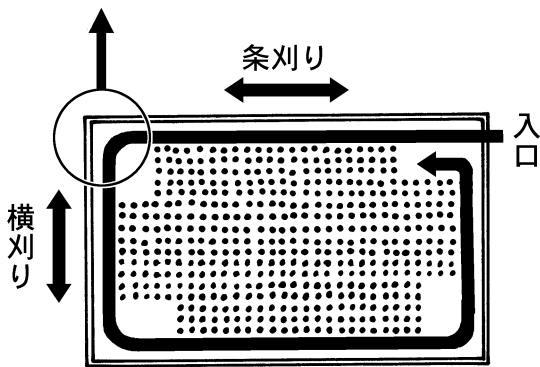
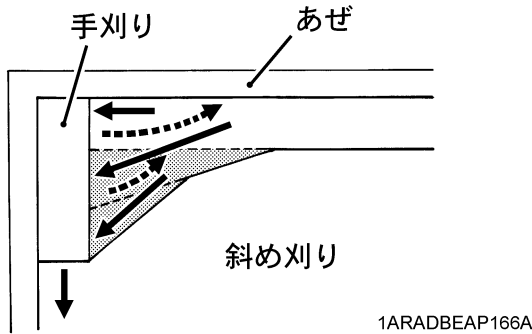
* **浅こぎ状態**では、こぎ残しが出て収穫量が下がったり、**深こぎ状態**では、負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

6. 刈取作業を少し行なったあと、選別状態やこぎ残しの有無を確認し、異常があれば各部の調節 (122, 123 ページ参照) を行なってください。
7. 刈取作業が終わると、脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく**【入】位置にし、脱こくが終わりもみが全て、グレンタンク内に入ったことを確認して、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にします。

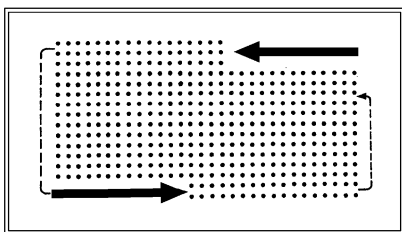
■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは、作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが、基本作業は、条刈りで左回りの2方向刈りを行なってください。

1. あぜは旋回できるまで2～4回斜め刈りします。



2. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら2方向刈りを行なってください。



◆デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

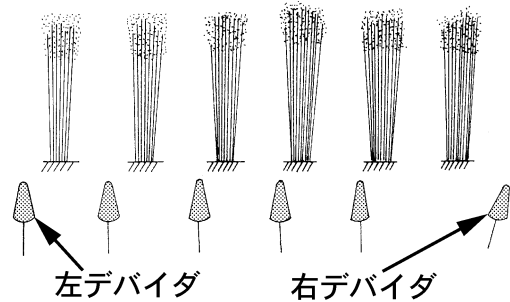
作物の植幅に合わせて、右デバイダも調節してください。

●通常の回り刈りのとき

既刈側刈跡に右デバイダを合わせる。

●中割り作業のとき

1. 右デバイダ基準で刈取ってください。
2. 植付け条間が広い場合は右デバイダを広げてください。



収穫作業のしかた

■作物に合わせた変速の選びかた

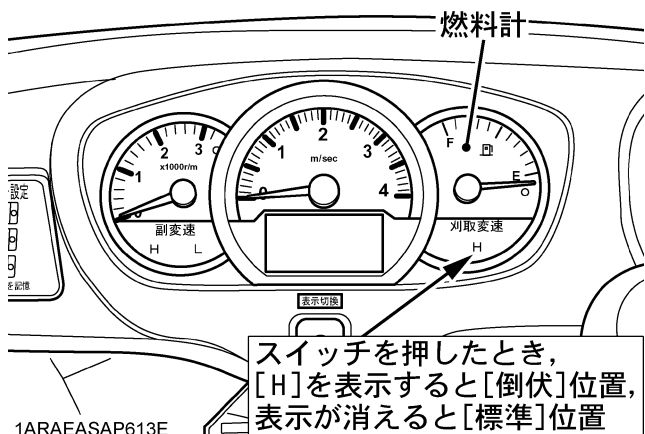
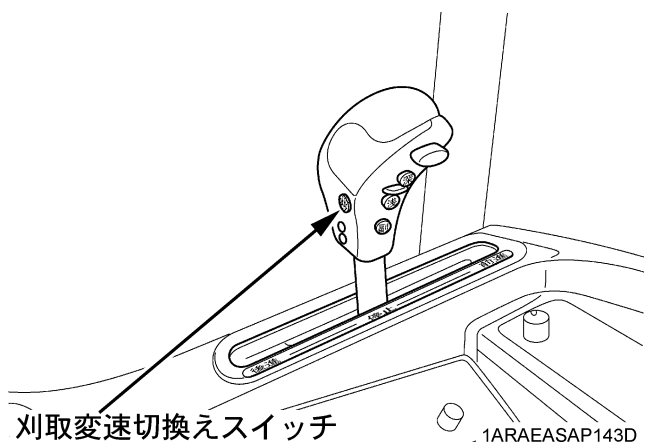
作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆刈取変速・引起し変速の選びかた

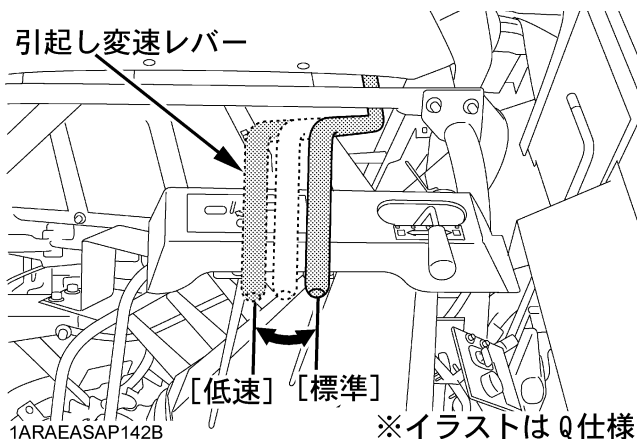
刈取部の引起し及び搬送の速度を作物の状態に合わせ、下表を参考にして、刈取変速切換えスイッチ（【倒伏】・【標準】の2段階）と引起し変速レバー（【標準】・【低速】の2段階）で変速を行なってください。

作物状態		スイッチ、レバー位置	
倒伏 度合	その他の条件	刈取変速切換え スイッチ位置	引起し変速 レバー位置
直立	一般的作物	【標準】	【標準】
	周囲刈りなど 低速走行作業	【標準】 (又は、【倒伏])	
	脱粒しやすい作物 (麦穂切れ大も含む)	【標準】 (又は、【倒伏])	【低速】
倒伏	45度以下の倒伏作物	【倒伏】 (又は、【標準])	【標準】
	45度以上の倒伏作物 長かん作物		【標準】

● 刈取変速切換えスイッチ



● 引起し変速レバー



補 足

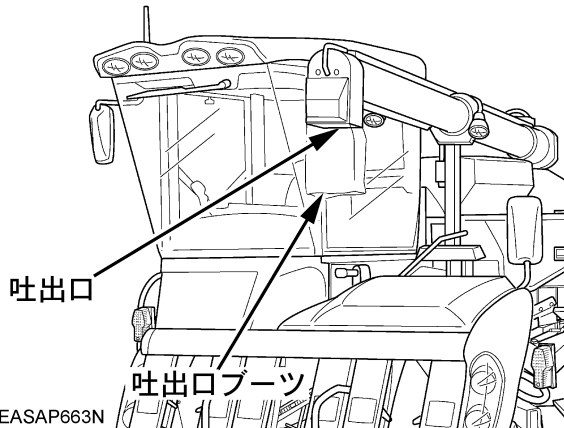
- * 刈取変速切換えスイッチを押したとき、燃料計下側にある**刈取変速**の表示部に【H】を表示すると【倒伏】位置、【H】の表示が消えると【標準】位置です。
- * 変速の選びかたの表は目安です。
- * 出荷時の引起し変速レバーは【標準】位置です。
- * 刈取部の引起し及び搬送の速度は、車速が増減すると増減します。
- * 下記のような条件では、上表のような作業速度では作業ができない場合があります。
 - 雑草が極めて多いほ場
 - 5度以上傾斜しているほ場
 - 病虫害、風水害により倒伏している作物
 - 根ぐされし、切れやすい作物
 - こくかんがくさり、ぬれているもの
 - 過熟して、茎が折れやすくなっている麦
 - 10cm以上の高うねのほ場
 - 極短かんで極少量作物

■もみの排出のしかた



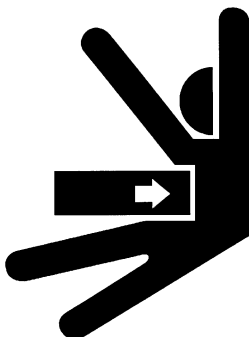
注意

- * コンバインを必ず停止してください。
- * 吐出口に手は入れないでください。また、吐出口ブーツが破損したときは、直ちに交換してください。



1ARAEASAP663N

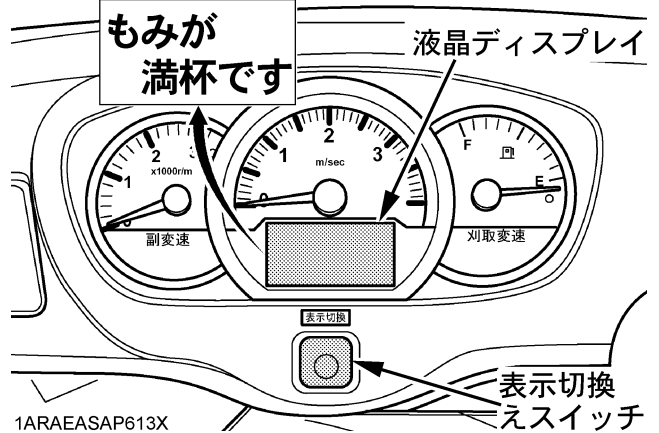
- * 手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、アンローダ受けの上に手を置かないでください。
- * もみ排出スイッチを【排出】位置にして、もみがアンローダ排出口から排出されるとき、頭部や顔などをアンローダ先端部に近付けないでください。もみの重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。
- * アンローダの旋回範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあります。



1ARADAFAP076A

- * 排出時は機体を水平な場所に停車させ、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にしてから排出作業を行なってください。

1. グレンタンク内のもみが満杯になると、マルチナビの液晶ディスプレイが【もみが満杯です】と表示すると同時にブザーが鳴ります。



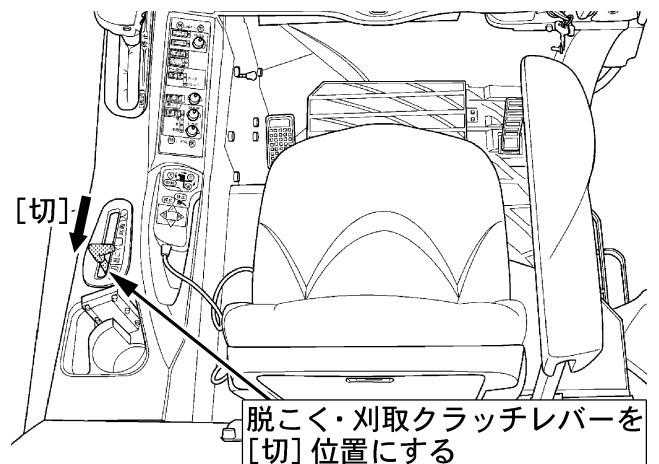
1ARAEASAP613X

重要

- * ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと、もみがあふれたり、1 番スクリュウが詰まったりして、故障の原因となります。

補足

- * 表示切換えスイッチを押すと、ブザーは停止します。
2. 刈取作業をいったん中止し、30 秒以上待ったあと、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にして、所定の排出位置に移動します。



1ARAEASAP610F

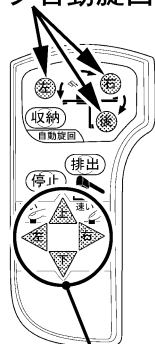
※イラストは SD 仕様

3. 主変速レバーを【停止】位置にして、駐車ブレーキを掛けます。

収穫作業のしかた

4. アンローダ自動旋回スイッチ（左・右・後）
又は、アンローダ手動スイッチを操作して、
アンローダを排出位置まで動かします。

アンローダ自動旋回スイッチ



アンローダ操作スイッチ

1ARAEASAP164J

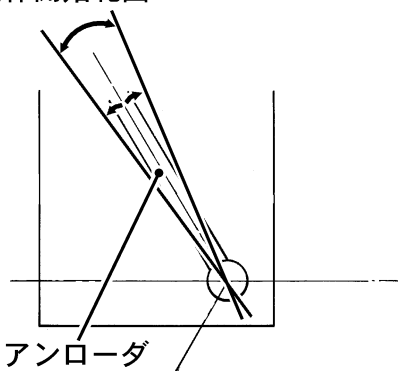
重要

- * 走行しながら、アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）の原因になります。
- * アンローダ自動旋回スイッチを押す前に、アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

補足

- * 自動制御装置作動中に、停止スイッチを押す又は、アンローダ操作スイッチを操作すると、自動制御は停止します。
- * アンローダ自動旋回スイッチを押したとき、アンローダが動作始動開始範囲外にあるときは、アンローダは自動旋回しません。旋回するときは、アンローダ操作スイッチで手動で操作する又は、アンローダをいったんアンローダ受けに収納したあと、アンローダ自動旋回スイッチを操作してください。

動作開始範囲

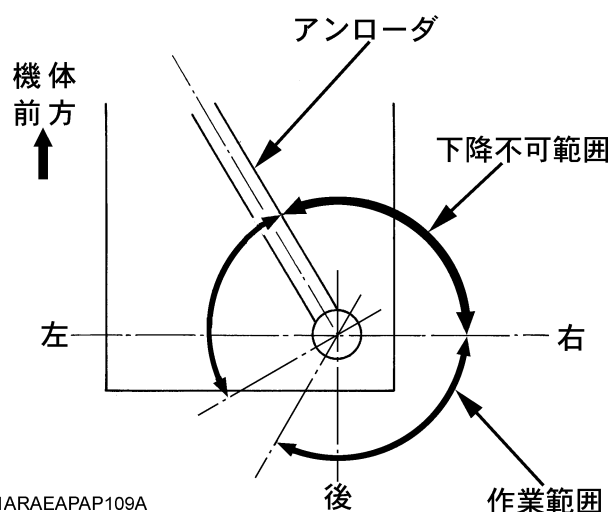


アンローダ

1ARAEASAP571A

- * 自動制御装置作動中でもアンローダ操作スイッチの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。

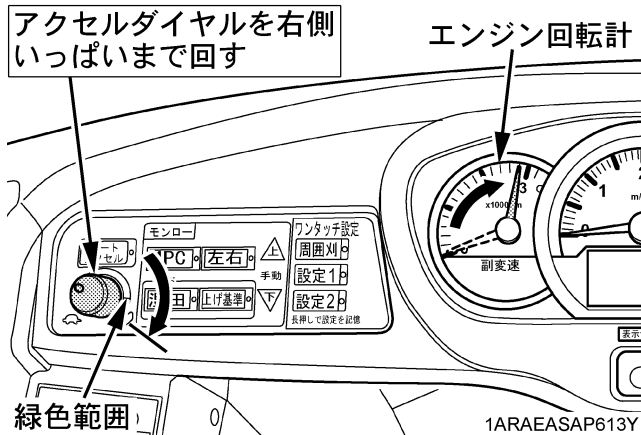
- * アンローダが最上昇位置のとき、**下降不可範囲**ではアンローダ操作スイッチを操作しても下降しません。また、このときに液晶ディスプレイに**【アンローダを上昇する】**と表示しますので、アンローダを最上昇位置まで上げて旋回してください。
- * アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき、アンローダ操作スイッチを操作しても**下降不可範囲**内には旋回しません。また、このときに液晶ディスプレイに**【アンローダを上昇する】**と表示します。



1ARAEAPAP109A

- * アンローダ操作スイッチとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し、アンローダ操作スイッチを操作してください。アンローダ操作スイッチの**【左】（赤色）**を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し、アンローダ操作スイッチの**【右】（青色）**を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。
- * アンローダが収納されていない状態で走行を開始すると、液晶ディスプレイに**【アンローダを確認する】**と表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。

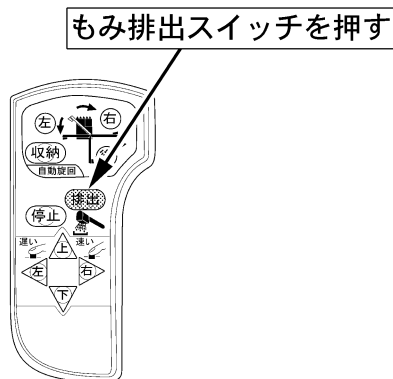
5. アクセルダイヤルを右側いっぱい（緑色範囲）まで回して刈取作業時と同じエンジン回転数にします。



補 足

- * 排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。
- * エンジン回転数を **1600rpm 以下** に下げないでください。もみ詰まりの原因となります。
- * 損傷しやすい作物は、エンジン回転数を約 2000rpm 程度まで下げてください。

6. もみ排出スイッチを押してもみを排出します。

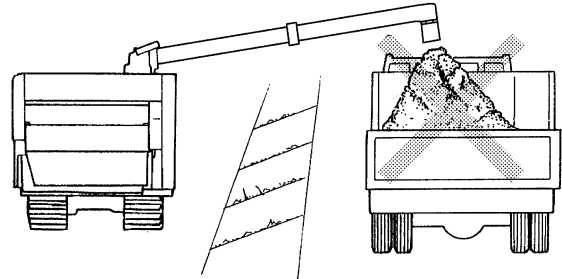


重 要

- * 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

[アンローダ出口注意]

[近づけすぎない]

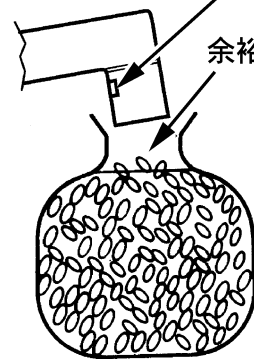


1ARAEASAP676A

- * アンローダには、絶対物を吊るさないでください。
- * アンローダで袋詰め作業を行なうとき、詰まり防止センサに一定時間もみが接触するとセンサがはたらいてもみの排出が停止しますが、詰まり防止のため、袋に余裕のある状態で、もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。

詰まり防止センサ

余裕のあること

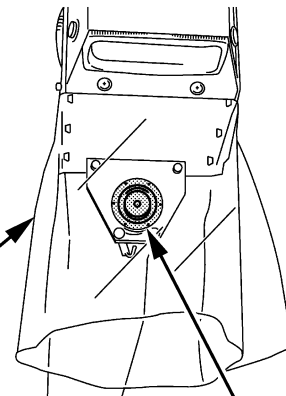


1ARAEASAP677A

アンローダ
吐出口

詰まり防止センサ

1ARAEASAP678A



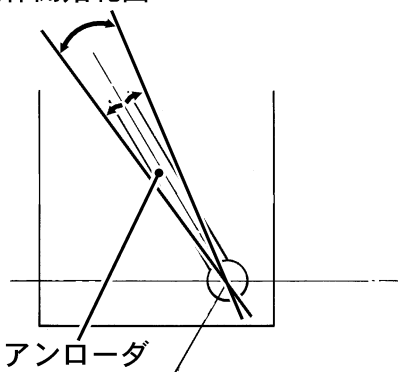
収穫作業のしかた

7. もみの排出が終わると、**【停止】**スイッチを押し、収納スイッチ又は、アンローダ操作スイッチを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補 足

- * アンローダ操作スイッチでアンローダを操作するときは、アンローダを最上昇位置にして旋回後、アンローダ受けに収納してください。
- * アンローダ内にもみが残っていると、もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。
- * 収納スイッチを押したとき、アンローダが動作開始範囲内にあるときは、アンローダは収納しません。収納するときは、アンローダ操作スイッチで手動で操作してください。

動作開始範囲



1ARAEASAP571A

- * アンローダ操作スイッチを操作してアンローダを収納するとき、操作スイッチを押し続けるとアンローダ受けの上側でアンローダがいったん停止します。そのあと、アンローダの旋回を行なうときは、いったん操作スイッチから手を離し、再度操作スイッチを操作してください。

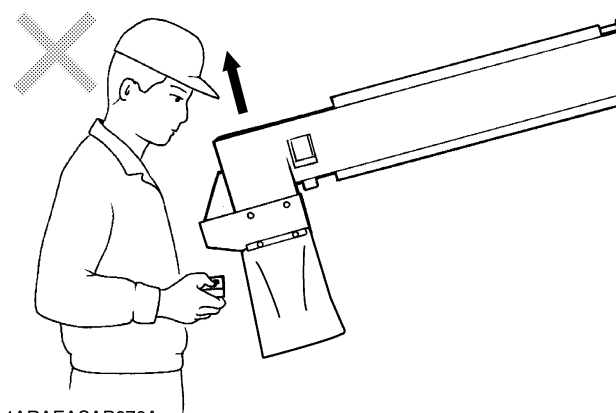
[SD 仕様]

◆ 無線アンローダリモコンについて

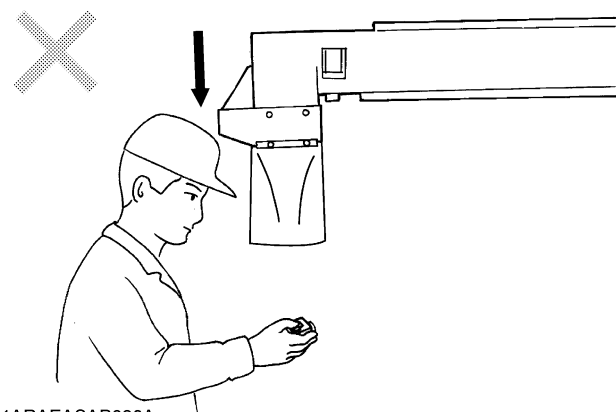


警 告

- * 共同作業を行なうときは、合図を徹底させて行なってください。
- * アンローダの先端部の位置を常に確認しながら作業を行なってください。無線アンローダリモコンスイッチの誤作動により、不意に動いてケガをするおそれがあります。



1ARAEASAP679A



1ARAEASAP680A

- * 無線アンローダリモコンの操作中に、運転席左側の操作パネルの各スイッチやレバーは絶対に操作しないでください。

重 要

- * アンローダが水平位置より低いところで操作するときは、アンローダ受けに接触させないでください。

1. 無線アンローダリモコンの自動スイッチ又は、アンローダ操作スイッチを操作して、アンローダを排出位置に移動します。

補 足

- * 詰まり防止センサは、排出時のもみの損傷を防止するためのセンサです。袋詰めするときは、余裕を持ってもみ排出スイッチを切るようにしてください。
 - * もみ袋に排出するときは、もみ袋が倒れないように、共同作業者やもみ袋受け台などを準備してください。
 - * アンローダでゆっくり動かすときは、アンローダ操作スイッチを弱く押し、大きく動かすときは、スイッチを強く押してください。
 - * マルチアンローダリモコンと無線アンローダリモコンを同時に操作したときは、無線アンローダリモコンによる操作が優先されます。
 - * アンローダ操作スイッチを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し、アンローダ操作スイッチを**青色**方向に操作すると無線アンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。（46ページ参照）
2. もみ排出スイッチを押すともみを排出します。
 3. もみの排出が終わると、停止スイッチを押してもみの排出を止めます。
 4. 作業が終わると無線アンローダリモコンを収納ケースに収納します。

[SD 仕様]

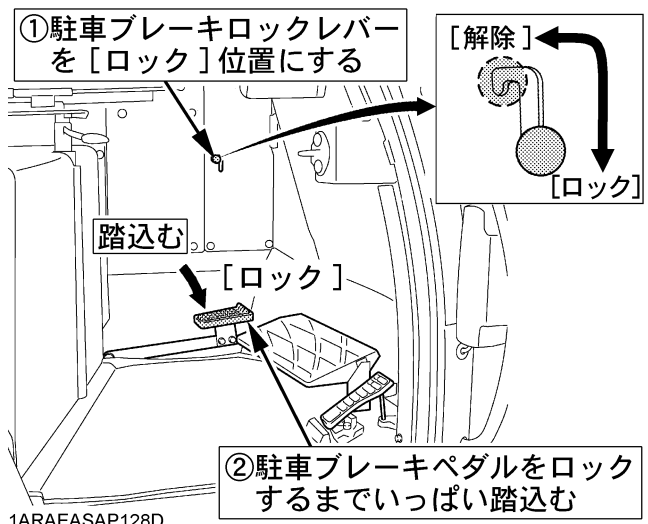
■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた



警 告

- * そで口はきっちり止めて、手袋、はち巻き、首巻き、腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
- * コンバインは平たんな場所に止めて、駐車ブレーキを掛けてください。
- * 刈取部は地面に接地させて、停止してください。
- * 手刈り（枕刈り）脱こくするときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして、作物を少量ずつ供給してください。

1. 駐車ブレーキを掛けます。

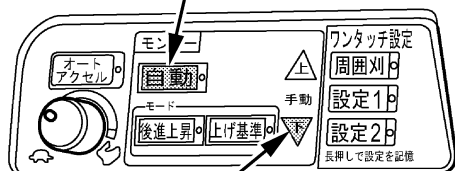


収穫作業のしかた

2. 機体を下げて、各部の準備をします。

[HD 仕様]

①水平自動スイッチを切にする



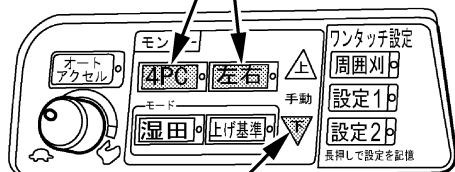
②水平操作手動スイッチの[下]を押して機体を最下降位置にする

1ARAEASAP616D

[HD 仕様]

[SD 仕様]

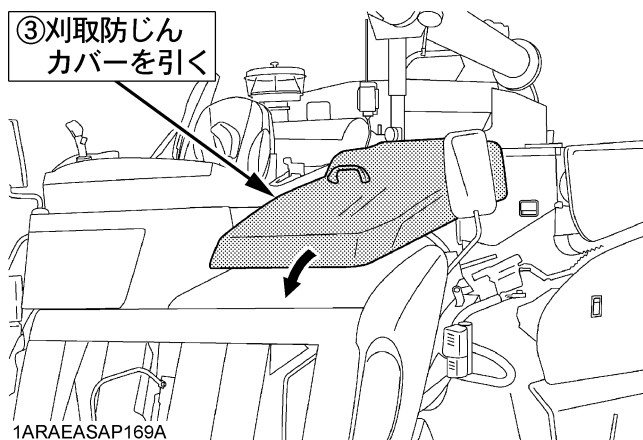
①水平自動スイッチを切にする



②水平操作手動スイッチの[下]を押して機体を最下降位置にする

1ARAEASAP290A

[SD 仕様]

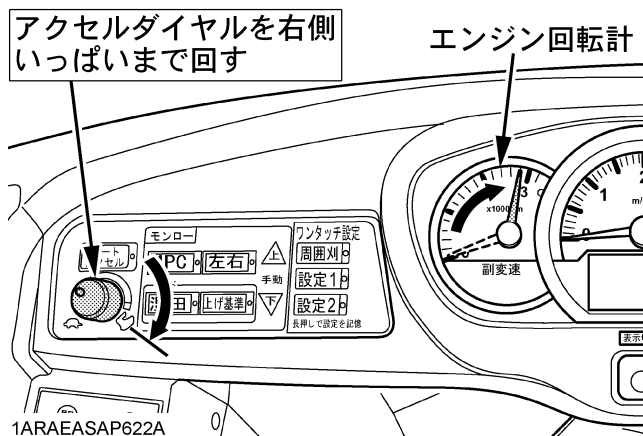


1ARAEASAP169A

補 足

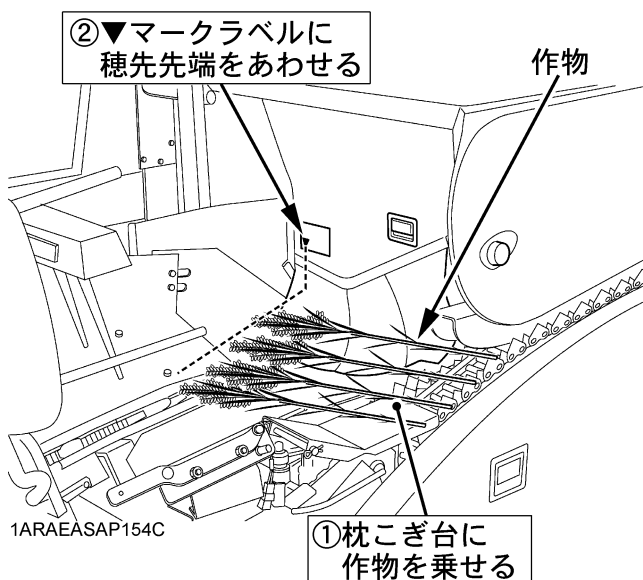
* 刈取防じんカバーは前方いっぱいまで引いてください。

3. 脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく**【入】位置にし、脱こく部だけを動かします。
4. アクセルダイヤルを右側いっぱいまで回します。



1ARAEASAP622A

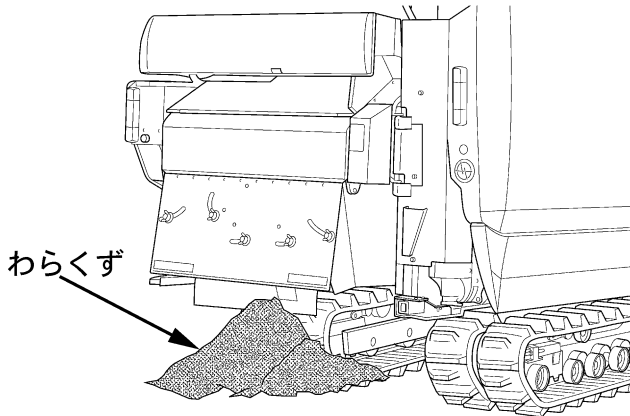
5. 作物を少量ずつフィードチェーンに供給します。



1ARAEASAP154C

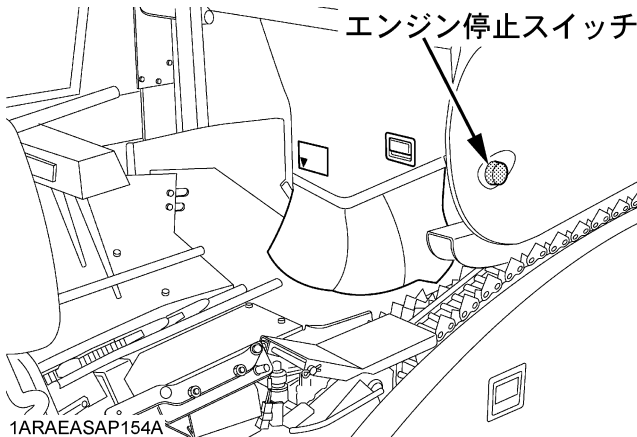
重 要

- * 1箇所でも多量の手こぎをする場合、カッタやドロップの下に排わらや切断わらの堆積が原因で、カッタなどが詰まることがありますから、機体を定期的に移動させてください。
- * 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は、エンジンを必ず止めて取除いてください。



1ARAEASAP605G

- * 手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは、エンジン停止スイッチを押してください。



1ARAEASAP154A

■作業に合わせた各部の調整・調節のしかた



警 告

- * 調整時は必ずエンジンを止めてください。
- * 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので、取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。



注 意

- * 平たんで安定した場所で行なってください。
- * コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。

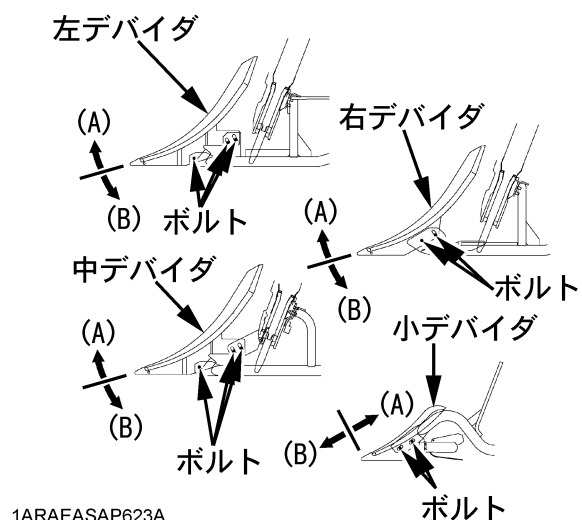
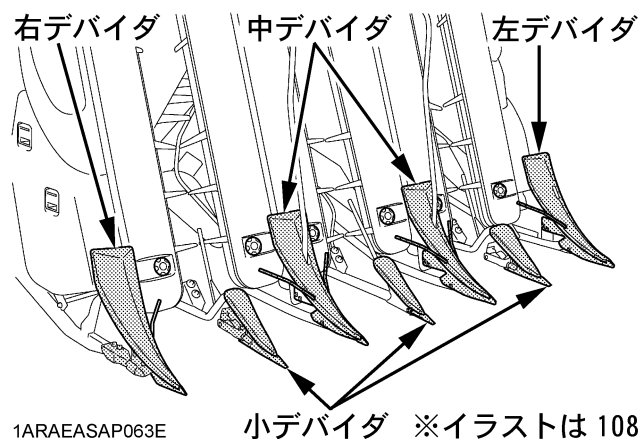
収穫作業のしかた

◆刈取部

■デバイダの上・下調整

下表の作物条件に応じて、調整を行なってください。調整のしかたは、ボルトをゆるめて下表を参照し調整を行なったあと、ボルトを締付けます。

作物・ほ場条件	調整方向
標準	出荷位置
湿田で前上りになるとき	(A) 方向
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	(B) 方向

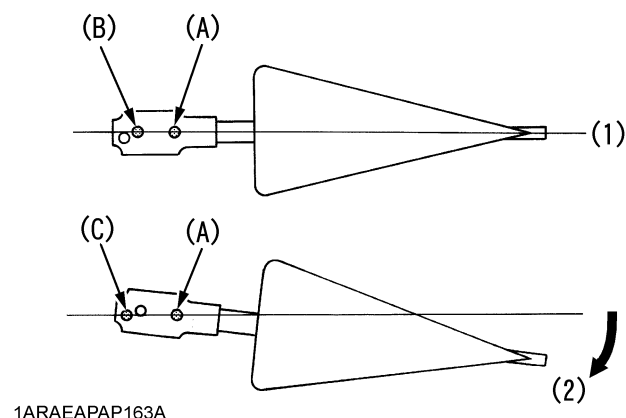
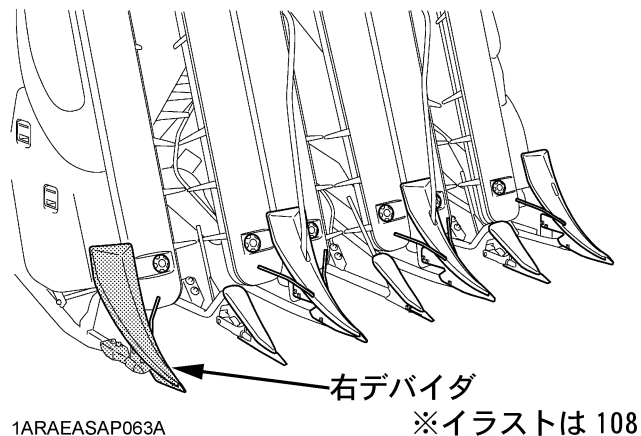


補 足

* デバイダの上下高さは、全てのデバイダを同じ高さにしてください。

■右デバイダの調整

作業条件に応じて、調節を行なってください。右デバイダは、外側に約 5.5cm 広げることができます。調節のしかたは、ボルト (A) と (B) 又は、(C) 2箇所をゆるめたあとボルト (B) 又は、(C) の取付け位置を変更して下表を参照し調節を行なったあと、ボルト 2箇所を締付けてください。



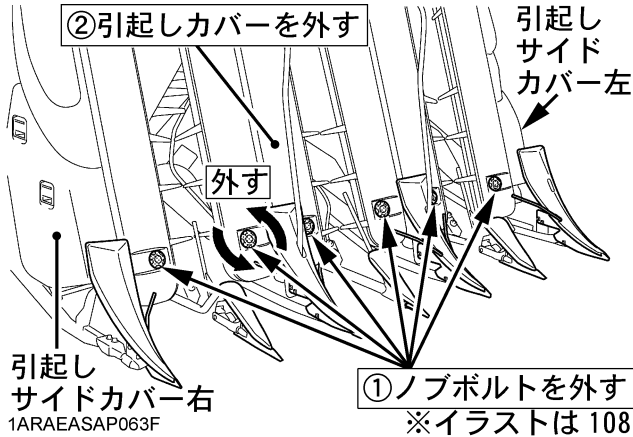
補 足

* デバイダカバーを取付けるときは、(1) (標準) の位置にしてください。

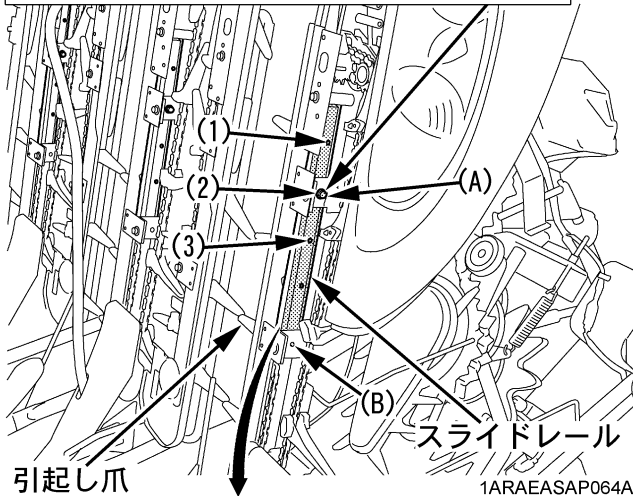
■引起し爪高さの調節

作物条件に応じて、引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1. 引起しサイドカバー左、右を取外したあと、引起しカバーのノブボルトを外して、引起しカバーを全て外します。



- ③ボルトを外してスライドレールを上下に動かし調節したあと、ボルトを締付ける



		スライドレール 調節位置	ボルト 取付位置
作物 条件	標準の作物	(1)	(A)
	極長かん (130cm 以上)	(2)	(A)
	脱粒しやすい品種 わらちぎれの多い作物 (過熟小麦など)	(3)	(B)
	長かんで倒伏している作物	(2)	(A)

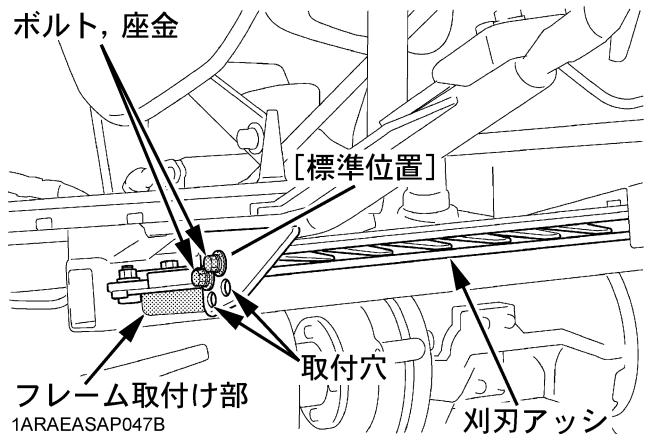
2. 引起しカバーを全て装着したあと、ノブボルトを締付けます。
3. 引起しサイドカバー左、右を取付けます。

■刈刃の高さ調節

作物の刈株跡の高さを低くするとき、刈刃の高さ調節を行なってください。調節を行なうときは2人作業で行なってください。

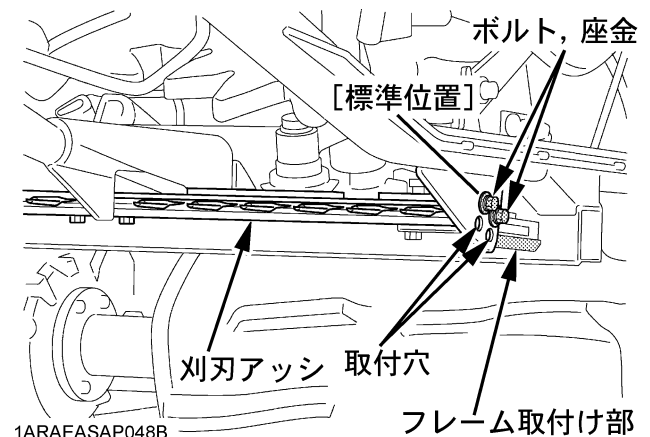
1. エンジンを始動したあと、自動水平制御装置の手動スイッチの**【上】**を押して機体を**最上昇位置**にします。
2. 刈取部を**最上昇位置**にしたあと、刈取下降ロックスイッチを**【ロック】**位置にして刈取部の下降防止を行なったあと、エンジンを停止します。
3. 刈刃アッシをフレームに固定している6箇所のボルト、座金をそれぞれ取外して刈刃アッシを下側に倒します。(257 ページ参照)
4. 刈刃アッシのフレーム取付け部をフレームの**【標準位置】**下側の取付穴に6箇所のボルト、座金をそれぞれ取付けて刈刃アッシを固定します。

[右側]



[右側]

[左側]



[左側]

収穫作業のしかた

重 要

* 下記条件のときは、作業のしかたにより刈刃に泥・土がかかり破損の原因となりますので**標準位置**（出荷時）で作業を行なってください。

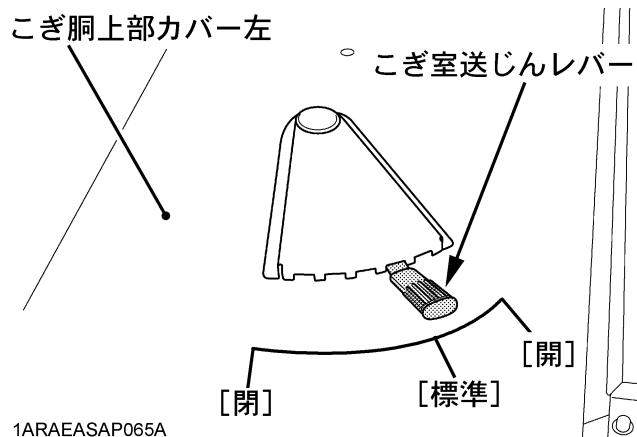
- ほ場が湿田のとき
- 作物が麦などのうねのあるほ場のときや、雑草が多いとき

◆脱こく部

■こぎ室送じん調節レバーの調節

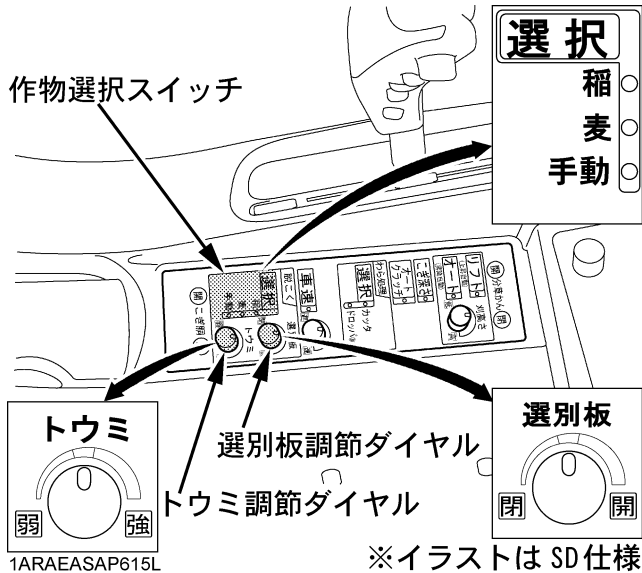
下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節してください。

調節方向	現 象（状 態）
【開】 ↑ 【標準】 ↓ 【閉】	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ふや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
	● 選別が悪い ● 芒・枝梗粒が多い ● 穂切れ粒が多い ● ササリ粒が多い ● 排じんロス（もみの飛散）が多い



■自動脱こく制御の調節

作物に合わせて作物選択スイッチで【稲】／【麦】／【手動】を設定したあと、下表を参照してトウミ調節ダイヤル（風力の調節）及び選別板調節ダイヤル（選別板のすきまの調節）で調節してください。



トウミ調節ダイヤル

調節方向	現象(状態)
【強】 【弱】	● 選別が悪い
	● 排じんロス(もみの飛散)が多い

選別板調節ダイヤル

調節方向	現象(状態)
【開】 【閉】	● 排じんロス(もみの飛散)が多い
	● 脱ぶが多い
【開】 【閉】	● 選別が悪い
	● 小枝梗が多い

補 足

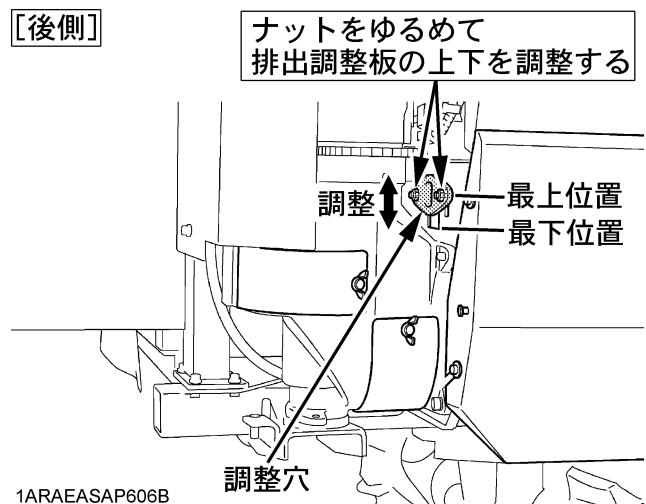
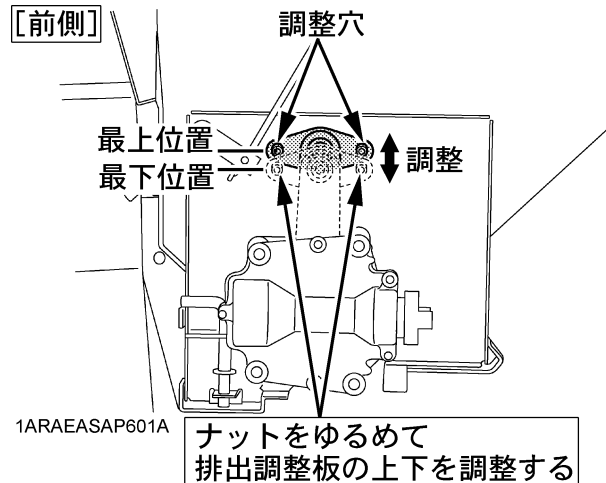
* 作物選択スイッチで【手動】を選択したときは、ダイヤルで選別板の開度及びトウミ風力を調節してください。また、強湿材作物を刈取る場合は、選別板調節ダイヤルを**全開**（時計方向いっぱいまで回す）位置にしてください。

◆グレンタンク部

■排出調整板の調整

排出調整板を最上位置で、水分の多い小麦の刈取りを行なうと、スクリュに詰まりが発生するおそれがあります。その場合は、排出調整板の位置を**最下位置**にしてください。また、小麦以外の作物の刈取りを行なうときは、**最上位置**にしてください。

- グレンタンク後カバー2を取外したあと、グレンタンクをオープンします。
- グレンタンクの前後の両側面にある排出調整板の上下調整を行ないます。
 - ナットをゆるめます。
 - 排出調整板を最上又は、最下位置にします。
 - ナットを締付けます。



- グレンタンクを閉じたあと、グレンタンク後カバー2を取付けます。

収穫作業のしかた

■マルチナビによる異常と処置



警告

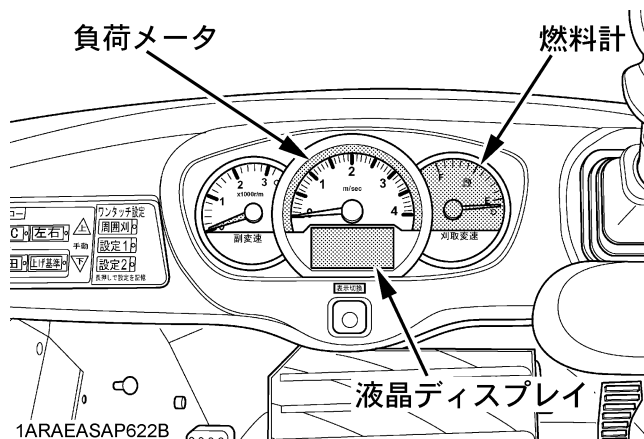
- * 各部の点検やわら詰まりを取除くときは、エンジンを必ず止めてください。
- * 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。



注意

- * エンジン停止直後は、エンジンにさわったり、ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

マルチナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは、下表を参照して処置してください。

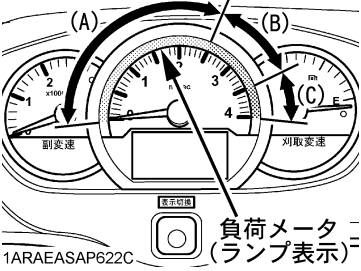


警報の種類	液晶表示 (液晶ディスプレイ)		警報ブザー (吹鳴時間)	現象	処置	参照 ページ
	異常内容 (表示時間)	処置内容				
燃料警報	燃料を給油 して下さい (約 5 秒後消灯)	—	○ 断続 (約 5 秒後 停止)	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると... 【エンジンが停止します。】	・燃料を補給します。	—
油圧警報	エンジン 油圧 異常です (処置後消灯)	—	○ 断続 (処置後停 止)	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると... 【エンジンが焼付きを起 こし停止します。】	・エンジンを停止後、オイル量を点検します。 ・オイルドレングムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	200 219 219 —

収穫作業のしかた

警報の 種 類	液晶表示 （液晶ディスプレイ）		警報ブザー （吹鳴時間）	現 象	処 置	参 照 ページ
	異常内容 （表示時間）	処置内容				
オーバー ヒート 警報	← 交互に表示 → オーバーヒート アイドリグ に して下さい （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停 止）	・ エンジンの冷却水温が 上昇しています。 ・ そのまま作業を続け ると.. 【エンジンが焼付きを起 こし停止します。】	・ 【アイドリングにして下さい】 を表示すると… アクセルレバーを操作して、エ ンジン回転数を 最低回転 位置に します。 ・ 【冷却後点検して下さい】 を表示すると… エンジンを停止し、30 分以上 たってから点検と処置をし ます。 ・ 【エンジン停止して下さい】 ↔ 【冷却後点検して下さい】 を表示すると… エンジンを 直ちに停止 し、 30 分以上たってから点検と処 置をします。 ・ 点検と処置 (1) 冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブ タンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエー タホースのバンドを増 締め (2) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (3) 防じんあみ・ラジエータフィ ンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く ・ 購入先へ連絡してください。	10 214 214 214 214 214, 219 238 238 222 —
	← 交互に表示 → オーバーヒート 冷却後点検 して下さい （処置後消灯）					
	← 交互に表示 → オーバーヒート エンジン 停止 して下さい ↓ 冷却後点検 して下さい （処置後消灯）					
充電警報	充電系統が 異常です （処置後消灯）	—	○ 断続 （処置後停 止）	・ バッテリーに充電されて いません。 ・ そのまま作業を続け ると.. 【バッテリー上りとなり、 エンジンの始動ができ なくなります。】	・ エンジンを停止後、点検と処置 をします。 (1) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (2) バッテリー 電圧低下…充電 ・ バッテリーを充電してもエンジン が始動しないときは、交換して ください。	238 238 280 280

収穫作業のしかた

警報の種類	液晶表示 (液晶ディスプレイ)		警報ブザー (吹鳴時間)	現象	処置	参照 ページ
	異常内容 (表示時間)	処置内容				
負荷警報	(C) 範囲のとき		○ 断続 (処置後停止)	・エンジンや脱こく部に 負担が掛かっています。	・作業速度を落としてください。	10, 108
	← 交互に表示 → 負荷 (処置後消灯)	速度を落と して下さい		負荷 作業中にエンジン回転数が下がってきたときは、脱こく部に負荷が掛かっています。負荷メータのランプ表示を確認しながら適性範囲で作業してください。  (A) 適正範囲 (青色) …作業を継続 (B) 減速範囲 (オレンジ色) …速度を落とす (C) 即時減速 (赤色) …主変速レバーで減速する ※警報ブザーは速度を落として、(B) 減速範囲に戻ると停止します。	・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	
もみ満杯警報	もみが満杯です (処置後消灯)	—	○ 断続 (処置後停止又は、表示切換えスイッチを押すと停止)	・グレンタンク内のもみが満杯です。 ・そのまま作業を続けると… 【グレンタンクからもみがあふれます。又は、1番スクリュが詰まります。】	・刈取作業を中止し、もみを排出します。	113 —
2番警報	← 交互に表示 → 2番 (処置後消灯)	詰まりを 取り除く	○ 断続 (処置後停止)	・1番縦スクリュケース内又は、2番処理胴(ツースパー)、2番縦スクリュケース内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると… 【ベルトの焼付きやベルト切れとなります。】	・1番縦スクリュケース又は、2番処理胴(ツースパー)、2番縦スクリュケースを掃除します。	173 —
浮きわら警報	← 交互に表示 → こぎ深さ (処置後消灯)	穂先センサを点検	○ 断続 (処置後停止)	・浮きわらや雑草が、穂先センサに長時間接触しています。 ・自動制御が困難なとき。 ・そのまま作業を続けると… 【選別不良となります。】	・穂先センサを点検し、浮きわらや雑草を取除きます。 ・自動こぎ深さ制御を解除し(切換えスイッチ 【切】 位置)、手動で操作を行なってください。	39 39 —

警報の種 類	液晶表示 （液晶ディスプレイ）		警報ブザー （吹鳴時間）	現 象	処 置	参 照 ページ
	異常内容 （表示時間）	処置内容				
シーブ 警報	← 交互に表示 → シーブ 速度を落と して下さい （ 処置後消灯 ）		○ 断続 （処置後停 止）	・シーブケース上に詰ま りが発生しています。 ・刈取量が処理能力をこ えています。 ・そのまま作業を続ける と… 【ロスや損傷米が増えたり、2番詰まりが発生 します。】	・作業速度を落とします。 ↓ ・作業速度を落としても表示が消 えないときは、選別板調節ダイ ヤルを右（開）方向いっぱいま で回します。（選別板のすき間を 全開） ↓ ・刈取作業を中止し、脱こく部を 空運転します。	10, 108 43, 123 10, 18, 108
詰まり 各警報	自動的にエンジンが停止すると同時に表 示します。 ↓			・わら詰まりをしていま す。	・異常の原因（詰まり）を取除い て復帰します。	—
刈取 詰まり 警報	← 交互に表示 → 刈取 詰まりを 取り除く （処置後消灯）		○ 断続 （処置後又 は、メイン スイッチ 【切】で停 止）	・刈取部の供給搬送部に わらが詰まっています。	・供給搬送部のわらを取除きま す。	294
排ワラ 詰まり 警報	← 交互に表示 → 排ワラ 詰まりを 取り除く （処置後消灯）			・フィードチェーン終端 部にわらが詰まっていま す。	・こぎ胴を開いて、フィード チェーン終端部のわらを取除き ます。	133, 294
カッタ 詰まり 警報	← 交互に表示 → カッタ 詰まりを 取り除く （処置後消灯）			・カッタ部にわらが詰 まっています。	・カッタの切換えカバーを開い て、わらを取除きます。	294
結束機 詰まり ・ひも 切れ 警報	← 交互に表示 → 結束機 詰まりを 取り除く （処置後消灯）			・結束部にわらが詰まっ ています。	・わらを取除きます。	— （※）
	← 交互に表示 → 結束機 ひも切れ 点検 （処置後消灯）			・結束機のひもなし・ひ も切れです。	・新しいひものセット・ひもの再 セットをします。	
	← 交互に表示 → 結束機 ビル巻付き 点検 （処置後消灯）			・結束機の結節部のビル にわらやひもが巻付い ています。	・ビルからわらやひもを取除きま す。	

※結束機仕様は、別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

重 要

* 処置したあとに異常が直らないときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

収穫作業のしかた

■マルチナビによる故障と処置

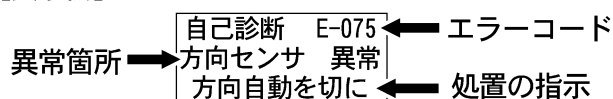
故障が発生すると、マルチナビの液晶ディスプレイに異常内容を表示します。故障による異常が発生したときは刈取作業を中止し、購入先に連絡して処置してください。

なお、故障の内容によっては、下表を参照して手動操作で刈取作業を行なうことができますが、作業終了後には必ず購入先に連絡してください。また、下表以外の異常内容が表示された場合は、直ちに購入先に連絡して処置してください。

補 足

- * 液晶ディスプレイに故障の異常内容が表示されたとき、警報ブザーは鳴りませんので注意してください。
- * 手動操作で作業を続ける場合は、下表の処置の欄の内容を良く理解し、注意をしながら作業を行なってください。
- * 液晶ディスプレイに表示される異常内容は、**エラーコード**、**異常箇所**、**処置の指示**を表示します。

[表示例]



- * 異常内容によっては異常箇所又は、**処置の指示**を表示しない場合があります。
- * 購入先に連絡する際には、液晶表示のエラーコード及び異常内容を購入先に連絡してください。
- * 故障の内容の表示は、異常内容のみの表示と異常内容と処置内容を交互に表示する場合があります。
- * 自動方向制御装置はオプション部品です。

液晶表示（液晶ディスプレイ）		異常内容	処置	参照 ページ
交互に表示				
異常内容 ↔ 処置内容				
自己診断 E-064 昇降レバー VR異常	---	パワーステアリングレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	ポジピタスイッチで刈取部の昇降操作を行なうことができますが、購入先に連絡して処置してください。	20
自己診断 E-065 旋回レバー VR異常	---	パワーステアリングレバーを左、右に操作しても機体の操向操作ができません。	こぎ深さ手動スイッチで機体の操向操作は行なえますが、購入先に連絡して処置してください。	39
自己診断 E-069 刈取位置センサ 異常 点滅中の自動切に	---	刈高さ制御、刈取オートクラッチ、ポジピタがはたらきません。また、刈高さ制御がはたらいっているときは、警報ブザーが鳴ります。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動、刈取オートクラッチ自動スイッチを【切】にしてください。	12, 40, 43
自己診断 E-072 かき込みセンサ センサ信号異常	---	刈取かき込みペダルを踏んでもかき込み作業ができません。	作業を続けて行なうことができます。	-
自己診断 E-073 こぎ深さセンサ異常	---	こぎ深さ制御がはたらきません。	手動こぎ深さスイッチの操作で作業を続けて行なうことができますが、こぎ深さに注意してください。	39

液晶表示（液晶ディスプレイ）		異 常 内 容	処 置	参照 ページ
交互に表示				
異常 内 容	処 置 内 容			
自己診断 E-074 方向センサ異常 方向自動を切に	---	方向制御がはたらきません。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 方向自動スイッチを【切】にしてください。	12
自己診断 E-075 方向センサ異常 方向自動を切に	---			
自己診断 E-076 刈高さセンサ右 センサ信号異常	自己診断 E-076 刈高さ自動を切に	刈高さ制御がはたらきません。また、刈高さ制御がはたらいているときは、警報ブザーが鳴ります。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動スイッチを【切】にしてください。	12, 40
自己診断 E-077 刈高さセンサ左 センサ信号異常	自己診断 E-077 刈高さ自動を切に			
自己診断 E-079 モノロ左前センサ異常 水平自動を切に	---	水平制御がはたらきません。	水平手動スイッチで機体を最下降位置にし、作業を続けてください。 水平自動スイッチを【切】にしてください。	33, 35, 38
自己診断 E-080 モノロ左後センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-081 モノロ右前センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-082 モノロ右後センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-083 モノロ左センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-084 モノロ右センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-085 ローリングセンサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-086 ピッチングセンサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-087 ジャイロセンサ センサ信号異常	自己診断 E-087 水平自動を切に			

収穫作業のしかた

液晶表示（液晶ディスプレイ）		異常内容	処置	参照ページ
交互に表示 異常内容 ↔ 処置内容				
自己診断 E-088 アンローダ上限 センサ信号異常	自己診断 E-088 アンローダ 手動操作のみ可	アンローダ自動旋回制御 がはたらきません。	アンローダ操作スイッチで作業を続けて 行なうことができますが、運転席の上部 （頭上）には注意してください。	45, 46, 47
自己診断 E-089 アンローダ位置 センサ信号異常	自己診断 E-089 アンローダ 手動操作のみ可			
自己診断 E-090 シーブセンサ異常	---	シーブセンサが故障して います。	作業を続けて行なうことができますが、 選別やロスに注意してください。	-
自己診断 E-093 わら処理センサ センサ信号異常	---	わら処理の切換えがはた らきません。	機体後方のカット切換えカバーが、カッ タ位置又はドロップ位置であることを確 認すれば、作業を続けて行なうことがで きます。続けて作業を行なう場合、詰ま りが発生するおそれがありますので注意 してください。	22
自己診断 E-098 排ワラレール センサ信号異常	---	結束制御がはたらきませ ん。	結束手動スイッチで作業を続けて行なう ことができます。 【結束機付き仕様】	※
自己診断 E-099 結束株揃え板 センサ信号異常	---			
自己診断 E-101 刈高さダイヤル センサ信号異常	自己診断 E-101 刈高さ自動を切に	刈高さ制御がはたらきま せん。	パワーステアリングレバーの操作で作業 を続けて行なうことができます。 刈高さ自動スイッチを 【切】 にしてくだ さい。	12, 40
自己診断 E-102 車速ダイヤル センサ信号異常	自己診断 E-102 車速自動を切に	車速制御がはたらきませ ん。	主変速レバーの操作で作業を続けて行な うことができます。 車速自動スイッチを 【切】 にしてくださ い。	10, 32
自己診断 E-103 選別板ダイヤル センサ信号異常	---	選別板の調節ができません。	作業を続けて行なうことができますが、 選別やロスには注意してください。	-
自己診断 E-104 トウミダイヤル センサ信号異常	---	トウミの調節ができません。		
自己診断 E-113 車速センサ右 センサ信号異常	---	車速センサ右が故障して います。	作業を続けて行なうことができますが、 購入先に連絡して処置してください。	-
自己診断 E-114 車速センサ左 センサ信号異常	---	車速センサ左が故障して います。		

収穫作業のしかた

液晶表示（液晶ディスプレイ）		異常内容	処置	参照ページ
交互に表示 異常内容 ↔ 処置内容				
自己診断 E-115 刈取り回転センサ センサ信号異常	---	こぎ深さ制御，車速制御， 刈高さ制御，（方向制御）が はたらきません。	主変速レバー，手動こぎ深さスイッチ及 びパワーステアリングレバーの操作で作 業を続けて行なうことができますが，刈 取速度や刈高さに注意してください。 こぎ深さ自動，車速自動，刈高さ自動， 方向自動の各スイッチを【切】にしてく ださい。	10， 12， 39
自己診断 E-120 脱こく SW 異常		脱こくクラッチレバース イッチが故障しています。	作業を続けて行なうことができますが， 2 番スクリュに詰まりが発生しても 2 番 の詰まり警報がなりませんので注意して ください。	-
自己診断 E-172	---	車速制御がはたらきませ ん。	主変速レバーの操作で作業を続けて行な うことができます。 車速自動スイッチを【切】にしてくださ い。	10， 32
自己診断 E-173	---			
自己診断 E-177 アンローダ モータ作動異常	---	アンローダブレーキがは たらきません。	周囲の安全を確認の上，作業を続けてく ださい。	-
自己診断 E-178	---	後退灯が点灯しません。	作業を続けて行なうことができますが， 購入先に連絡して処置してください。	287
自己診断 E-179	---	制動灯が点灯しません。		
自己診断 E-186	---	電動分草かんが作動しま せん。	作業を続けて行なうことができます。 【SD 仕様】	-
自己診断 E-187	---			

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた



警告

- * 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めてから行なってください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。



注意

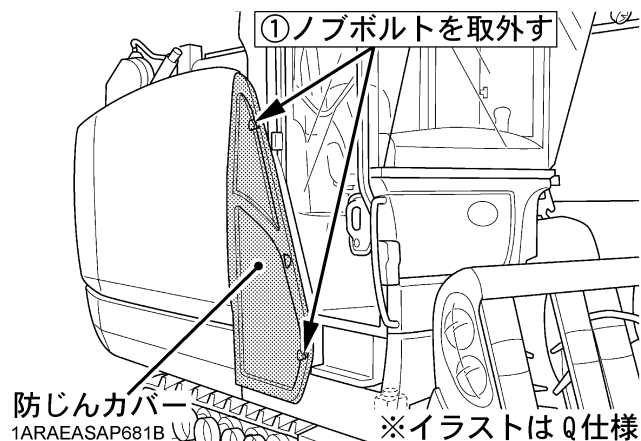
- * 傾斜地では、開閉や脱着を行なわないでください。
- * エンジンルームを閉じたときは、クランプで必ずロックしてください。

■防じんカバーの開閉と脱着

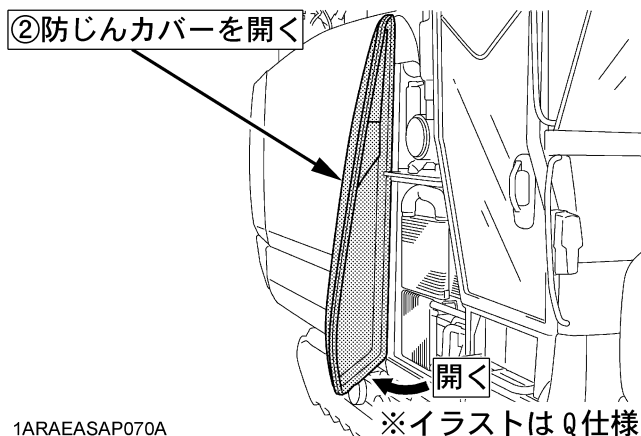
● 防じんカバーの開閉

◆開きかた

ノブボルトを取外して防じんカバーを開いてください。



②防じんカバーを開く



重要

- * 防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

◆閉じかた

防じんカバーを完全にロックするまで閉じてください。

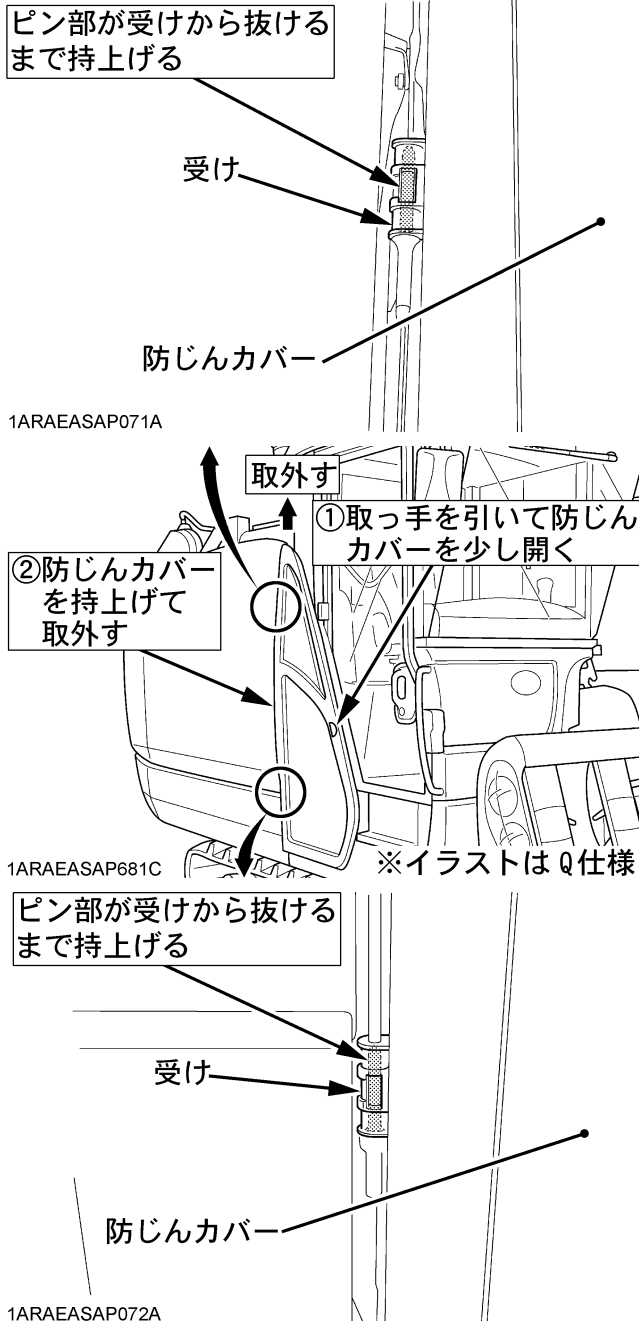
重要

- * 防じんカバーにノブボルトを取付けていない状態で走行すると、防じんカバーが開いて障害物に接触して破損するおそれがあります。

● 防じんカバーの脱着

◆ 取外しかた

ノブボルトを取外して防じんカバーを開いた状態で、両手で持上げて取外します。



重要

* 防じんカバーの網の部分を持つと網が変形します。

◆ 取付けかた

取外したときと同じ位置で、防じんカバーの上下の受けをピン部に差込んで取付けたあと、防じんカバーにノブボルトを取付けます。

■ こぎ胴の開閉



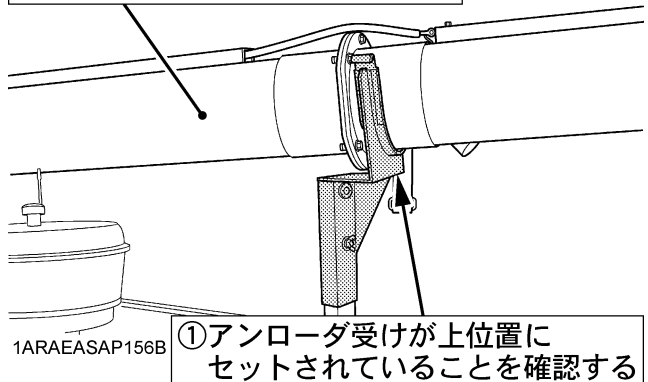
警告

- * こぎ胴を開閉するときは、平たんで安全な場所で行なってください。
- * こぎ胴を開閉するときは、最下降位置・詰まり除去位置・最上昇位置のいずれかの位置で必ず停止してください。
- * こぎ胴を開いたあとは、エンジンを必ず止めてメインスイッチのキーを抜いてください。
- * 傾斜地では、こぎ胴の開閉は行なわないでください。
- * こぎ胴を開いた状態で走行しないでください。
- * こぎ胴の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

◆ 開きかた

1. アンローダ受け及びアンローダの位置を確認します。

②アンローダがアンローダ受けに収納されていることを確認する



重要

* アンローダ受けが**下位置**でアンローダが収納状態のときにこぎ胴を開くと、こぎ胴上部カバーがアンローダに接触し、変形するおそれがあるため、アンローダ受けは必ず**上位置**にしてください。

メンテナンス

2. 脱こく・刈取クラッチレバーの位置を確認します。

脱こく・刈取
クラッチレバー

脱こく・刈取クラッチレバーが【切】
位置にあることを確認する

1ARAEASAP614H

補 足

- * 脱こく・刈取クラッチレバーが**脱こく**又は、**刈取【入】**位置のときは、こぎ胴開閉スイッチを押してもこぎ胴は開閉しません。このとき、液晶ディスプレイに**【脱こくクラッチを切る】**と表示します。

3. エンジンを始動します。
4. こぎ胴を開きます。

- (1) こぎ胴開閉スイッチの**【開】**スイッチを押し続けます。

【開】スイッチ

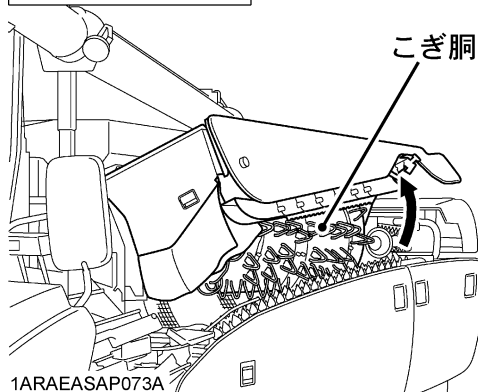
こぎ胴開閉スイッチ

※イラストは SD 仕様

1ARAEASAP612C

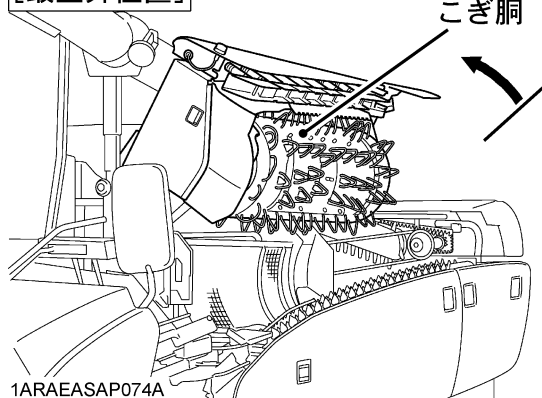
- (2) こぎ胴が**詰まり除去**位置でいったん停止すると同時に、ピピッと音が鳴り液晶ディスプレイに**【こぎ胴ロック しました】**と表示します。わら詰まりが発生したときなどわらを取除くときは、この位置で手を離して停止します。

【詰まり除去位置】



- (3) **詰まり除去**位置からさらに**【開】**スイッチを押し続けると、こぎ胴が**最上昇位置**（フルオープン）で停止すると同時に、ピピッと音が鳴り液晶ディスプレイに**【こぎ胴ロック しました】**と表示します。こぎ胴付近や受あみなどの掃除やメンテナンスを行なうときは、この位置で手を離して停止します。

【最上昇位置】

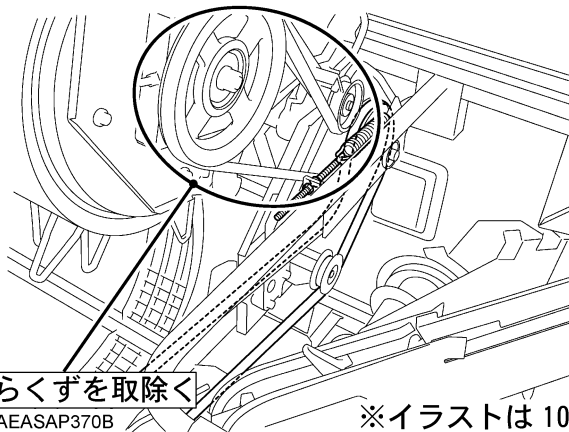


重 要

- * こぎ胴の上昇、下降を連続して繰り返さないでください。モータが加熱し、故障の原因になります。
- * **最下降位置**（閉じている状態）・**詰まり除去位置**・**最上昇位置**（フルオープン）以外の停止位置でこぎ胴を停止して掃除やメンテナンスなどの作業を行わないでください。
- * こぎ胴を開いて掃除やメンテナンスなどの作業を行なったあとは、こぎ胴を速やかに閉じてください。こぎ胴を長時間にわたり開けた状態で放置すると、こぎ胴が閉じなくなるおそれがあります。

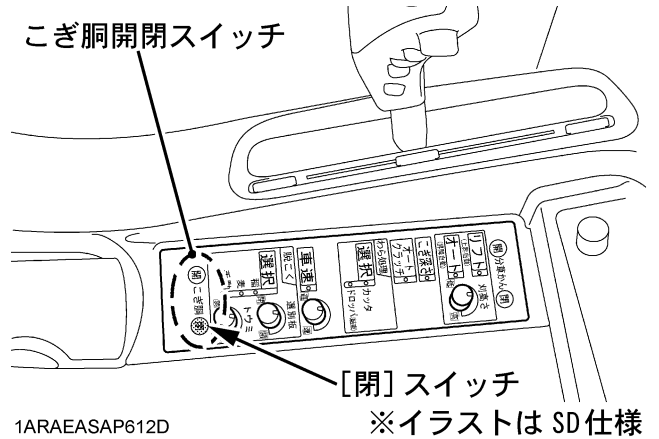
補 足

- * 緊急時などでこぎ胴開閉スイッチから手を離すと、その位置でこぎ胴は停止します。
- * **最下降位置**・**詰まり除去位置**・**最上昇位置**の各停止位置以外でこぎ胴が停止すると、液晶ディスプレイに**【こぎ胴が 開いています】**と表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。
- * こぎ胴開閉スイッチを操作すると、押している間は液晶ディスプレイに**【こぎ胴 開】**又は、**【こぎ胴 閉】**と表示されます。
- * こぎ胴を**最上昇位置**にしたあと、ローラ付近のわらくずを取除いてください。わらくずが溜まり過ぎると、こぎ胴がきちんと閉じなくなるおそれがあります。



◆閉じかた

1. エンジンを始動します。
2. こぎ胴を閉じます。
 - (1) こぎ胴開閉スイッチの**【閉】**スイッチを押し続けます。



- (2) こぎ胴が**最下降位置**で停止すると同時に、ピピッと音が鳴り液晶ディスプレイに**【こぎ胴 ロックしました】**と表示します。刈取作業や移動走行を行なうときは、この位置で、手を離して停止します。

補 足

- * こぎ胴を閉じるときは、**詰まり除去位置**で停止しません。
- * こぎ胴を開いた状態で脱こく・刈取クラッチレバーを操作すると、液晶ディスプレイに**【脱こくクラッチを切る】**と表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。また、このとき、脱こく部は作動しません。

5. エンジンを停止したあと、メインスイッチのキーを抜きます。

メンテナンス

■刈取部の開閉

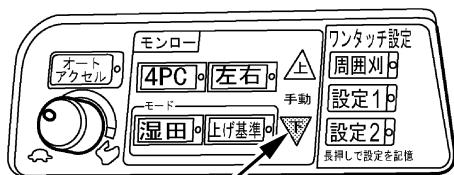


警告

- * 刈取部を開閉するときは、平たんで安全な場所で、刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 傾斜地では、刈取部の開閉を行なわないでください。
- * 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部を開いたときは、刈取部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。刈取部が閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。
- * 刈取部を開いた状態で走行をしないでください。
- * 刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

◆開きかた

1. エンジンを始動したあと、機体を**最下降**位置まで下げます。



水平操作手動スイッチを押して機体を最下降位置にする

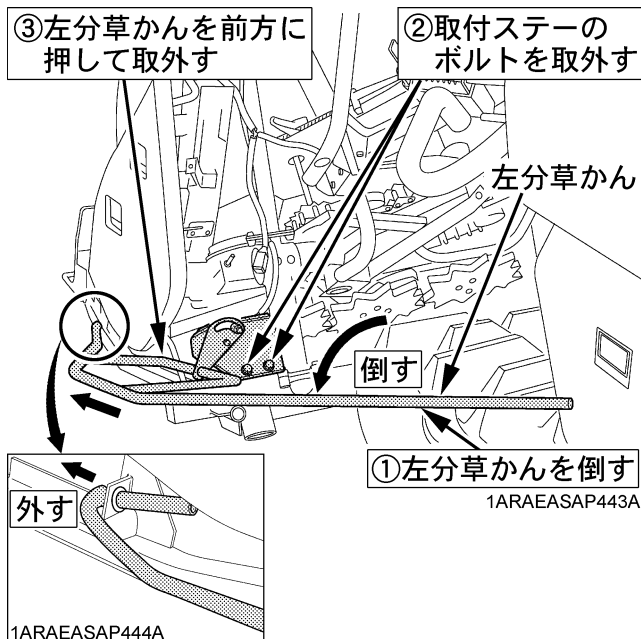
1ARAEASAP622D

※イラストはSD仕様

2. 刈取部を地面まで降ろしたあと、エンジンを停止します。

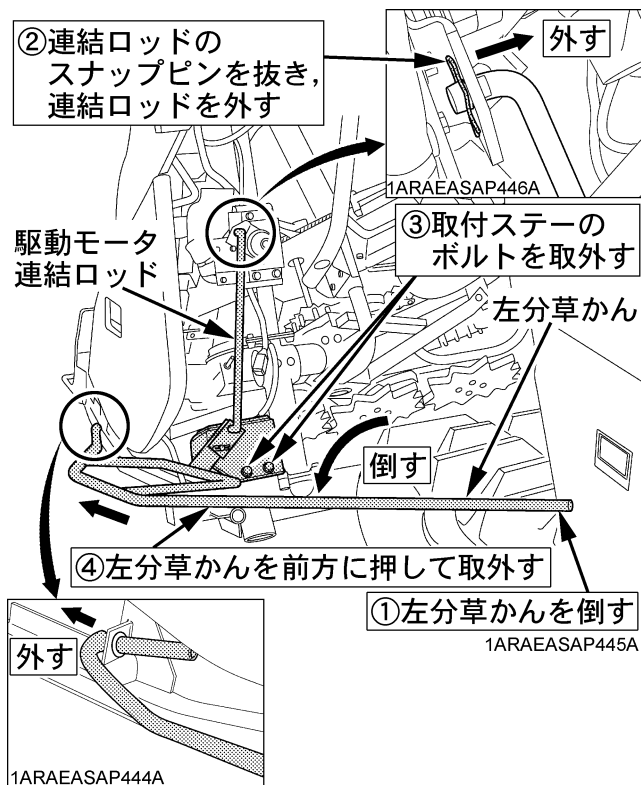
3. 左分草かん前を取外します。

[HD仕様]



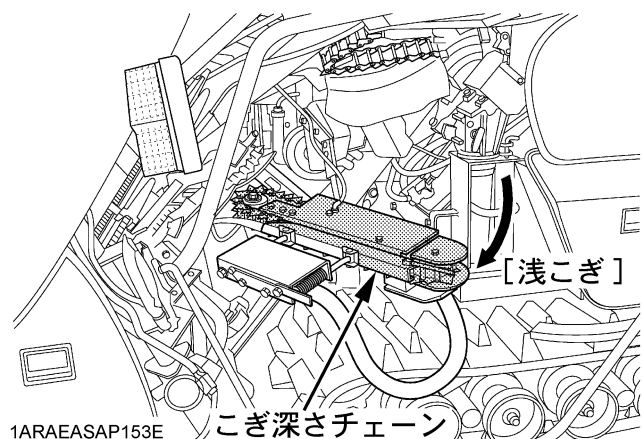
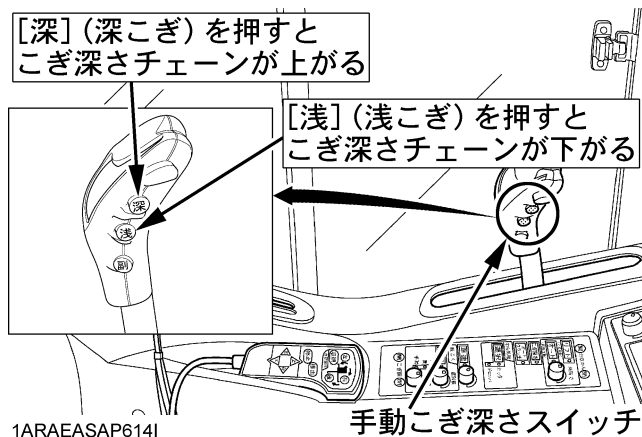
[HD仕様]

[SD仕様]

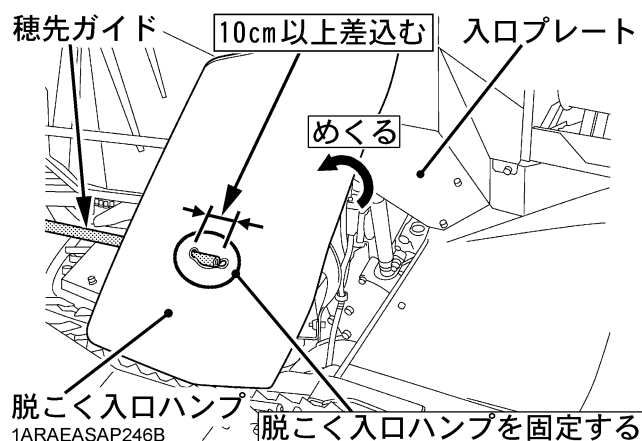


[SD仕様]

4. メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチの【浅】を押してこぎ深さチェーンを**最下降**（浅こぎ側）位置にします。そのあと、メインスイッチのキーを【切】位置にします。



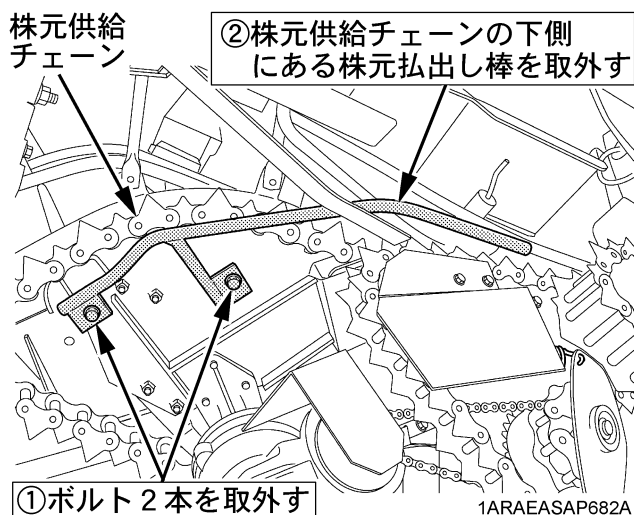
5. **【Q仕様を除くSD仕様】**は防じんカバーを前方いっぱいまで引出します。
6. 脱こく左サイドカバー上1, 下1を取外します。
7. 脱こく入口ハンプをめくり、穂先ガイドに10cm以上差込みます。



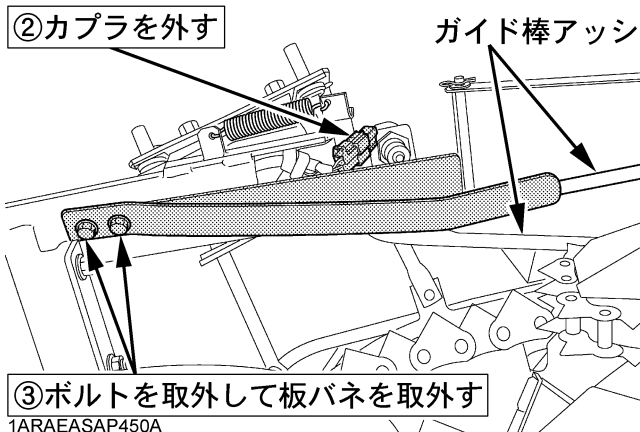
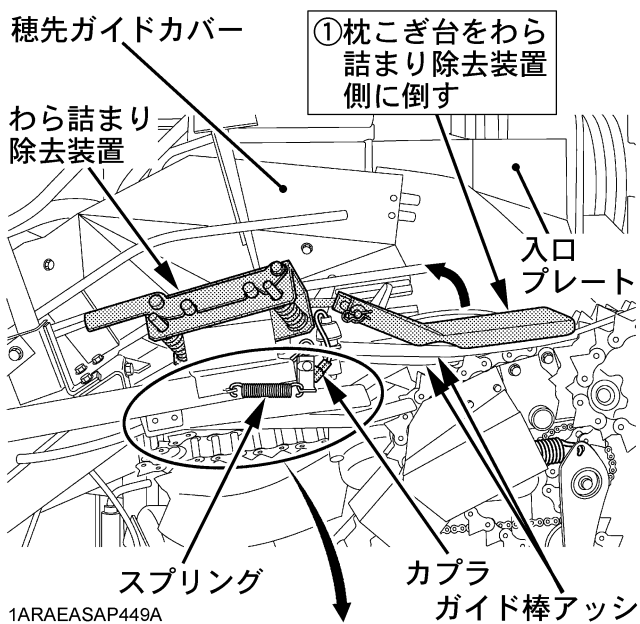
重要

- * 脱こく入口ハンプをめくらずに刈取部の開閉を行なうと、脱こく入口ハンプと入口プレートが接触し、穂先ガイドカバー及び入口プレートが破損するおそれがあります。

8. 株元払出し棒を取外します。

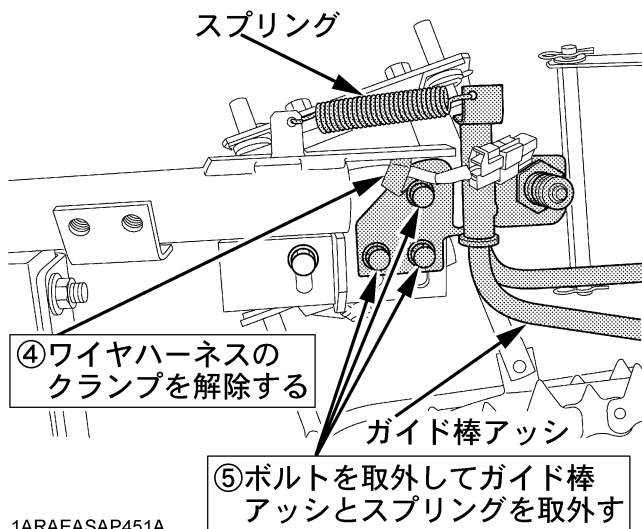


9. 板バネ、カプラ、ガイド棒アッシ、スプリングを取外します。

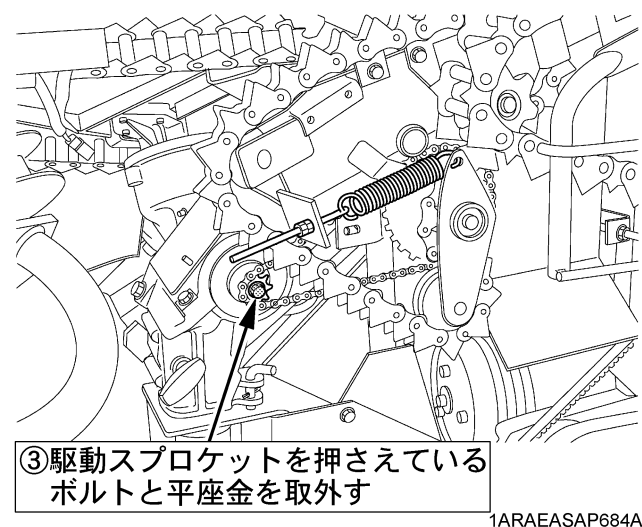
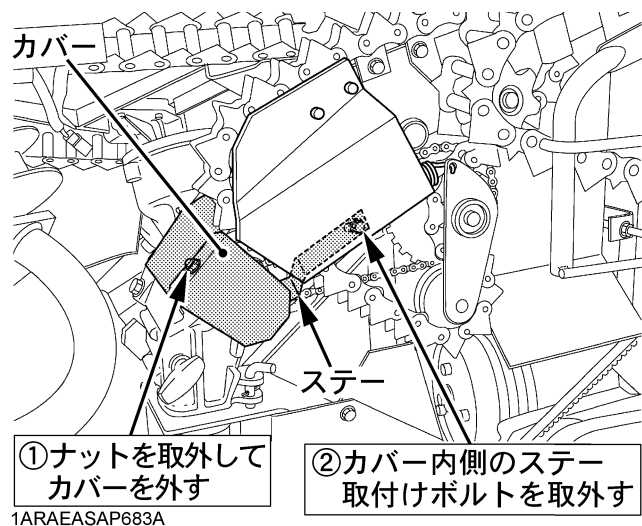


- ③ボルトを取外して板バネを取外す

メンテナンス

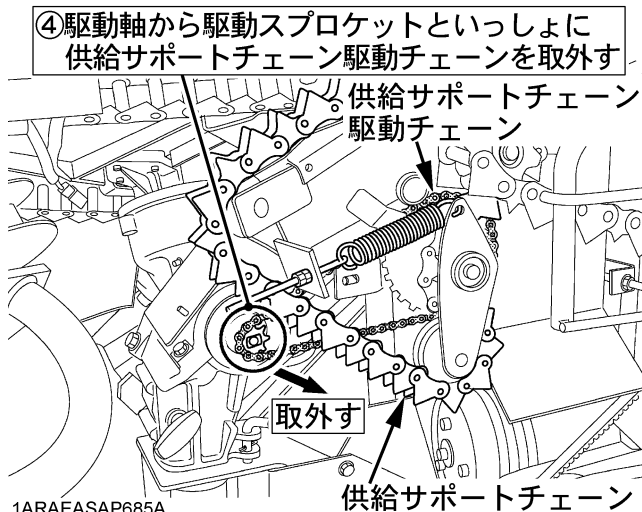


10. 供給サポートチェーン駆動チェーンの駆動スプロケットを取外します。



重要

* 補強ステーを固定しているボルトを取外し忘れると、刈取部を開くときに補強ステーが引張られて破損するおそれがあります。

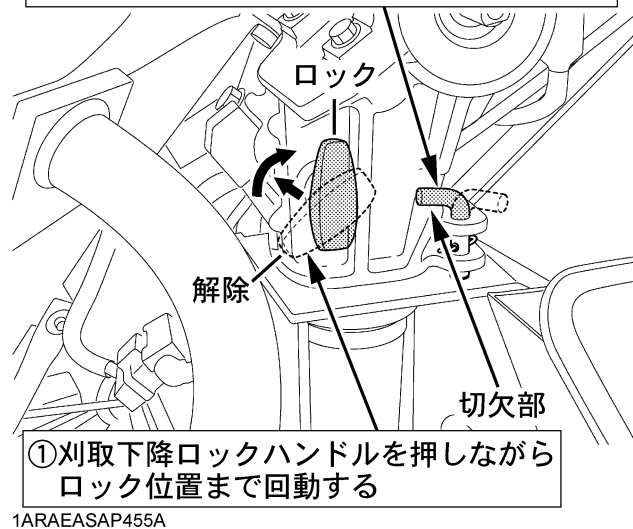


補足

* 供給サポートチェーン駆動チェーンは駆動スプロケットに取付けた状態で、そのまま垂らしておいてください。

11. エンジンを始動したあと、刈取部を**最上昇**位置にします。
12. 刈取下降ロックハンドルをロック位置にします。

②刈取部回転ロックピンを上げ、ピンを切欠部に入れて回転のロックを解除状態にする



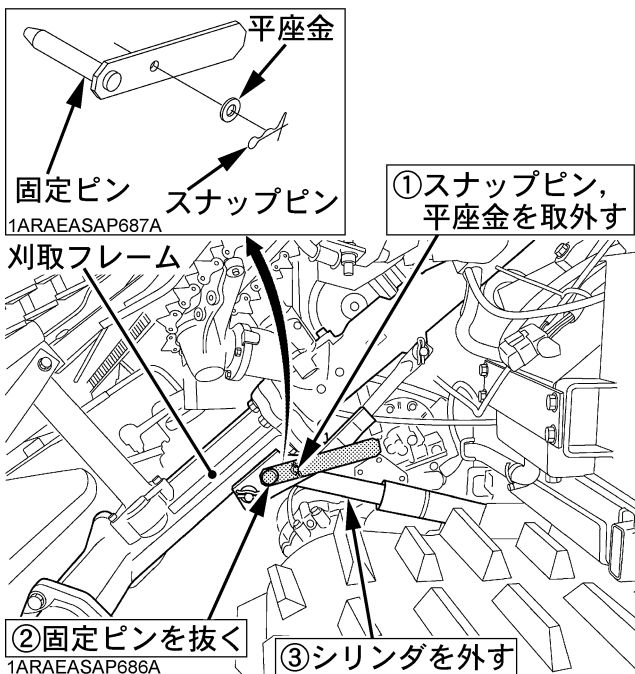
補足

* 回転ロックピンがロック状態で刈取部を回転すると、回転ロックピンが変形したり、ケースが破損するおそれがあります。

13. パワーステアリングレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。このとき、下降が停止したあとも2～3秒間パワーステアリングレバーを押さえ続けてからエンジンを停止します。

補 足

- * 油圧シリンダの残圧が残っていると、閉じるときに刈取フレームと油圧シリンダの取付ピンの穴位置が合わなくなるおそれがあるため、2～3秒間はパワーステアリングレバーを押さえ続けてください。
14. メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを**最上昇**（深こぎ側）位置にします。
15. 刈取フレームから油圧シリンダを外します。

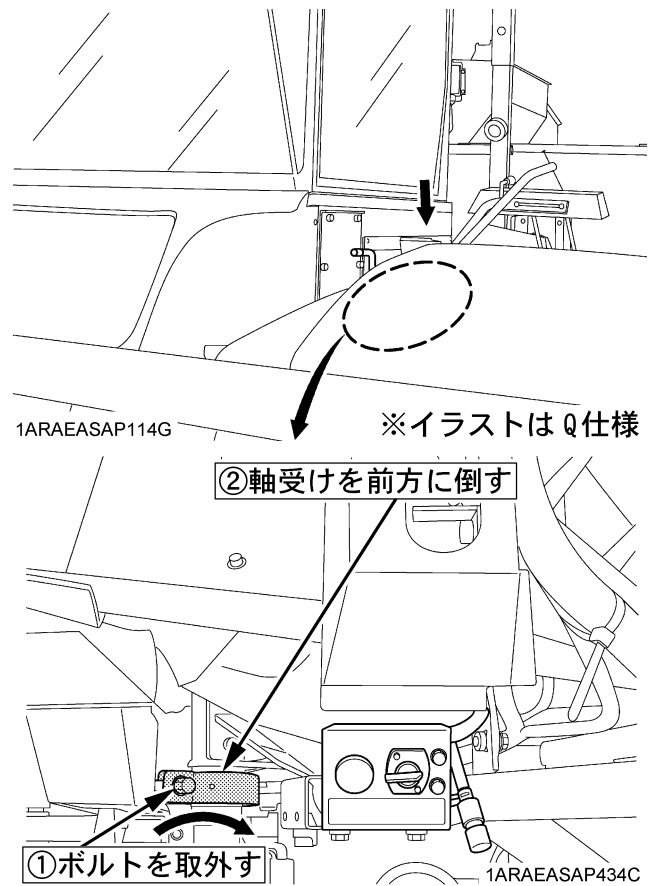


16. 手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを**最下降**（浅こぎ側）位置にします。そのあと、メインスイッチのキーを【切】位置にします。

重 要

- * 刈取部を開いたとき、こぎ深さチェーンが本機側に接触し、破損するおそれがあります。

17. 右側の軸受けを外します。



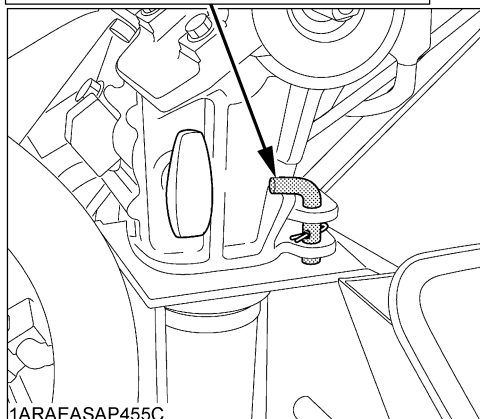
補 足

- * ボルトの取外し作業は、機体左側から通常工具でも行なえますが、運転席左側から行なう場合の専用工具については、購入先に相談してください。

メンテナンス

18. 刈取部を開きます。

①刈取部回動ロックピンが解除位置にあることを確認する

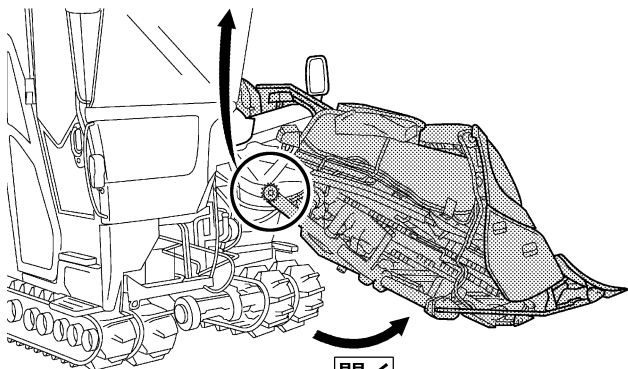
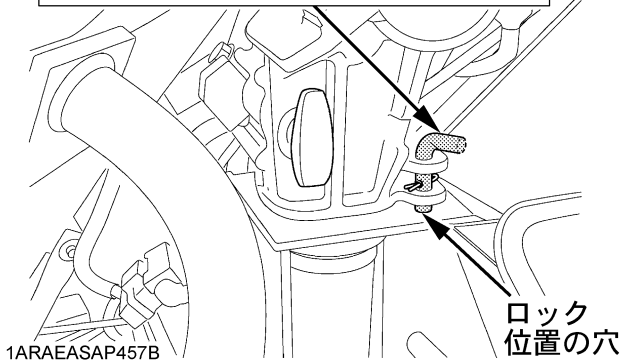


右デバイダ

②右端のデバイダを持ち、機体左側へ回動する

※イラストは 108
1ARAEASAP388B

③刈取部回動ロックピンがロック位置の穴に差込まれるまで回動する

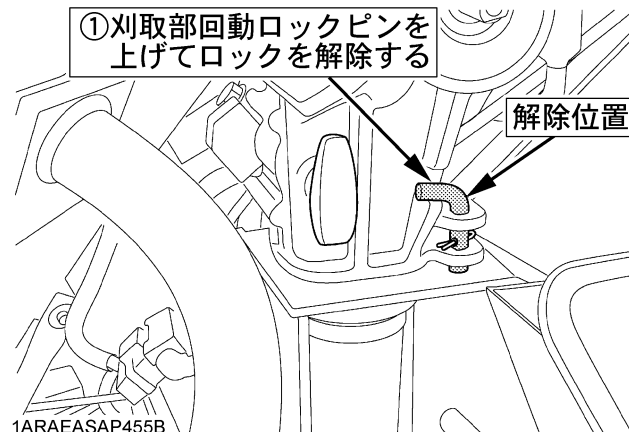


1ARAEASAP029A

◆閉じかた

1. 刈取部を閉じます。

①刈取部回動ロックピンを上げてロックを解除する



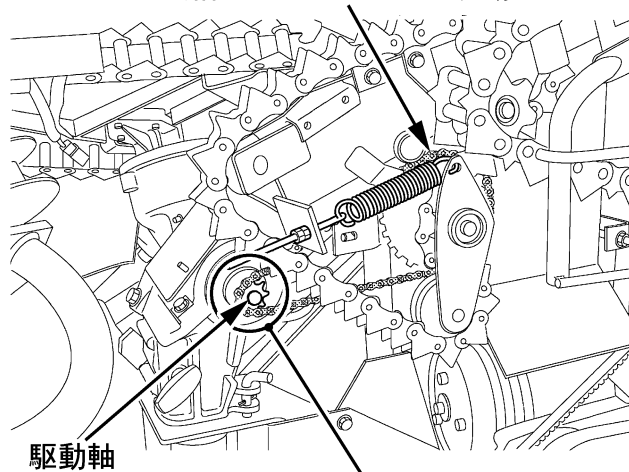
②刈取部を右側に回動し、完全に閉じる前にいったん止める

1ARAEASAP388C ※イラストは 108

重要

* 回動ロックピンがロック状態で刈取部を回動すると、回動ロックピンが変形したり、ケースが破損するおそれがあります。

供給サポートチェーン駆動チェーン



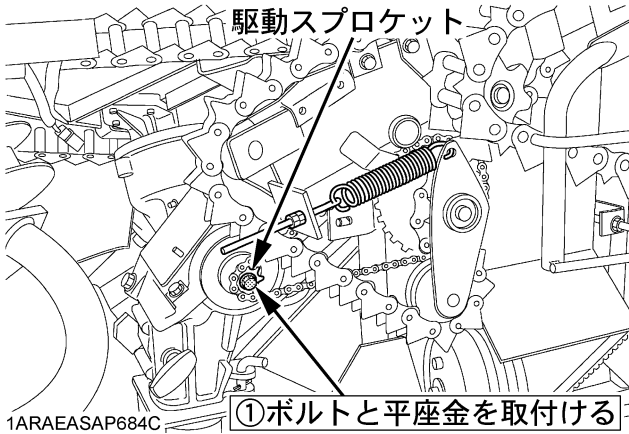
③供給サポートチェーン駆動チェーンにたるみがある状態で駆動スプロケットに駆動チェーンを掛けてから駆動軸に取付ける

1ARAEASAP684B

補 足

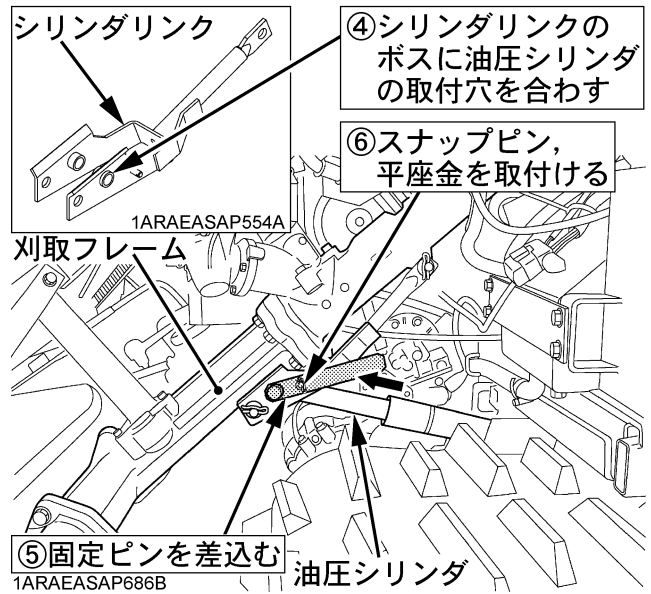
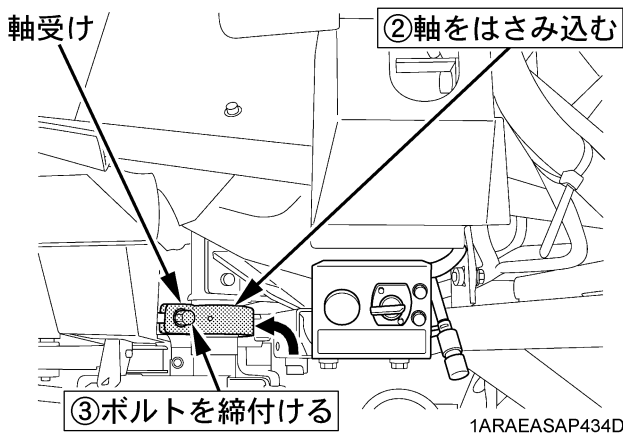
* 刈取部を完全に閉じると、駆動プロケットの取付けが困難となるため、必ず刈取部を閉じる前に駆動プロケットを駆動軸に取付けてください。

2. 駆動プロケットのボルト、平座金の取付けを行ないます。



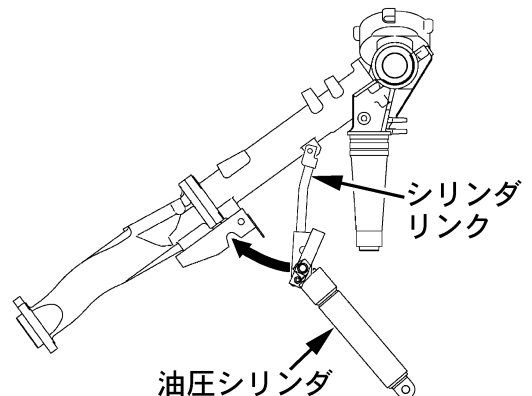
補 足

* 軸受けを上げる前に軸受けにグリスを塗布してください。



補 足

* 油圧シリンダが伸びたりして、穴位置が合わないときは、刈取部を再度開いて、油圧シリンダを最圧縮し、シリンダにシリンダリンクを取付けてください。



11ARADBEAP338A

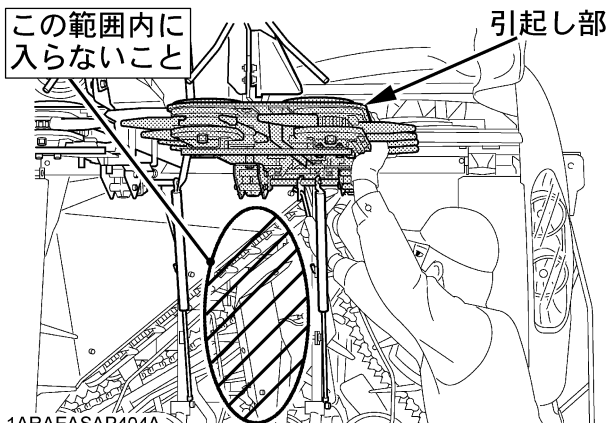
3. 開きかたの逆の手順で各部品やカバー類を取付けます。

■ 引起し部の開閉

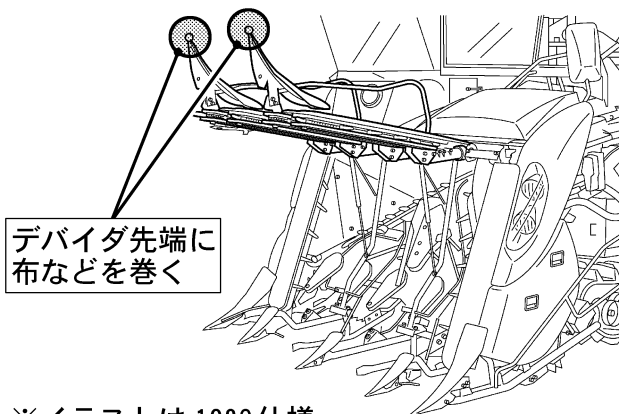


警告

- * 引起し部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。刈取部が動くとケガをするおそれがあります。
- * 傾斜地では、引起し部の開閉は行なわないでください。
- * 引起し部を分解した状態で開閉は行なわないでください。引起し部が勢いよく上がり、体に当たるとケガをするおそれがあります。
- * 引起し部の開閉作業中は、引起し部の下の位置で作業をしないでください。引起し部が落下すると体をはさまれてケガをするおそれがあります。



- * 引起し部を開いたときは、引起し部が落下しないようにストッパを必ず掛けてください。引起し部が落下すると体をはさまれてケガをするおそれがあります。
- * 引起し部を開いた状態で作業するときは、デバイダ先端部に布などを必ず巻付けてください。



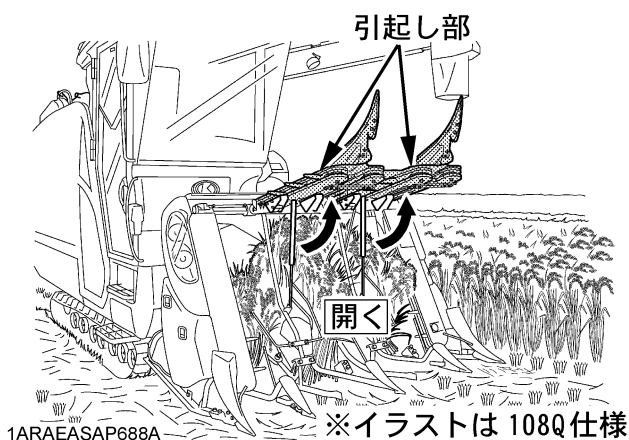
※イラストは 108Q 仕様

11ARAEASAP405A

- * 引起し部を開いた状態で走行をしないでください。
- * 引起し部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

補 足

- * 刈取部にわら詰まりが発生したときは、引起し部を開き、わらを取除いてください。また、必要に応じて刈取部のメンテナンスを行なうときに引起し部を開いてください。



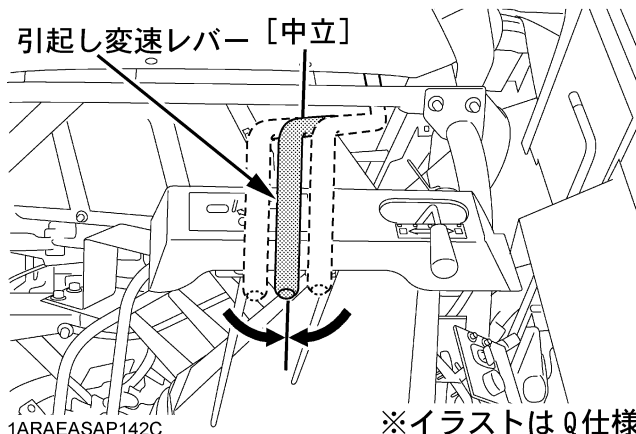
※イラストは 108Q 仕様

◆ 開きかた

1. 刈取部を地面から 5～10cm の高さまで降ろしたあと、エンジンを停止します。

補 足

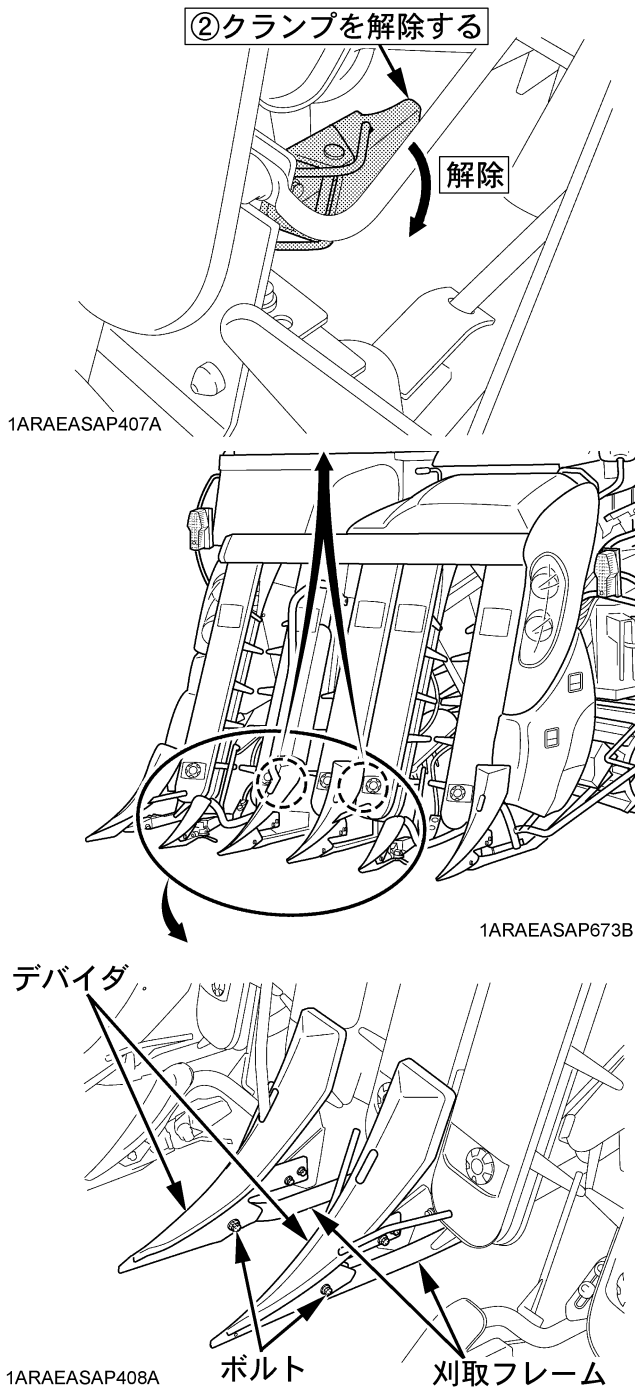
- * 刈取部を地面に着くまで降ろすと、引起し部を開くことができません。
- 2. 引起し変速レバーを【中立】位置にします。



※イラストは Q 仕様

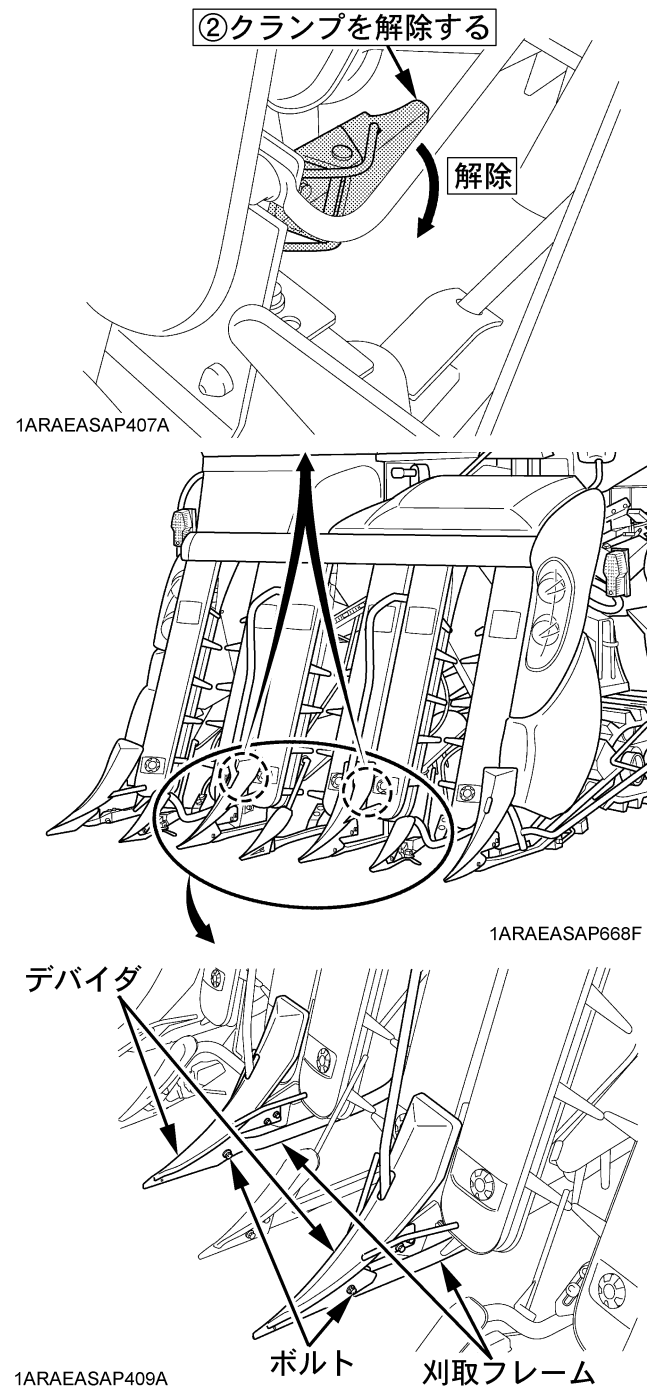
3. 刈取部の中央にある引きし部のデバイダと刈取フレームを固定しているボルト（2箇所）を取外したあと、クランプを解除します。

[572・587]



[572・587]

[698・108]



[698・108]

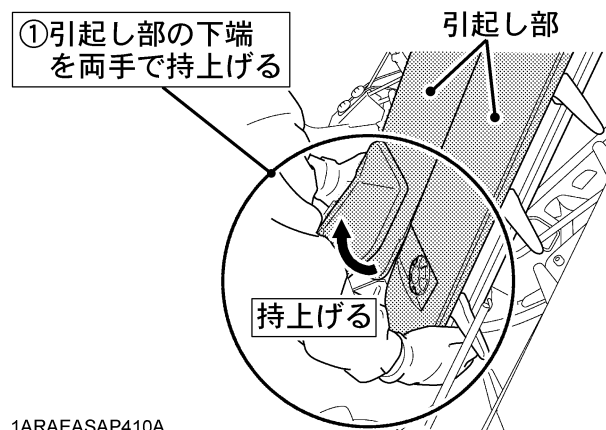
メンテナンス

4. 引起し部を持上げて開きます。

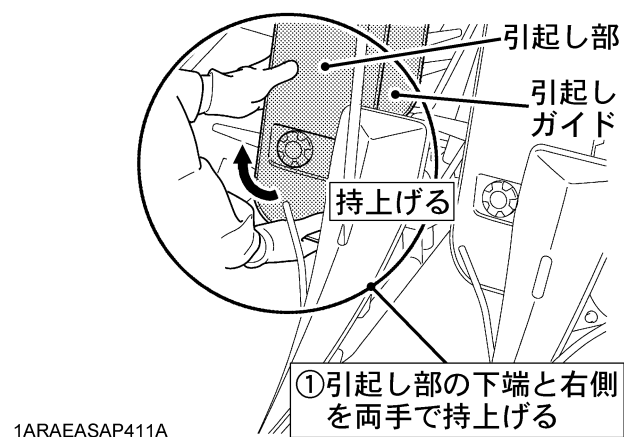
[572・587]

引起し部を開くときは、必ず右側の引起し部を先に開いてください。

[572・587]



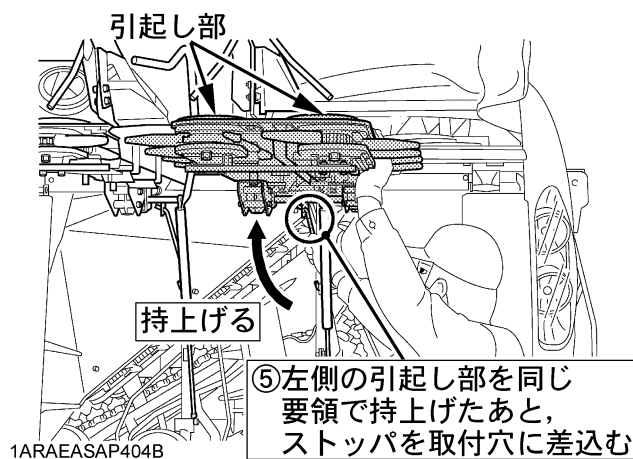
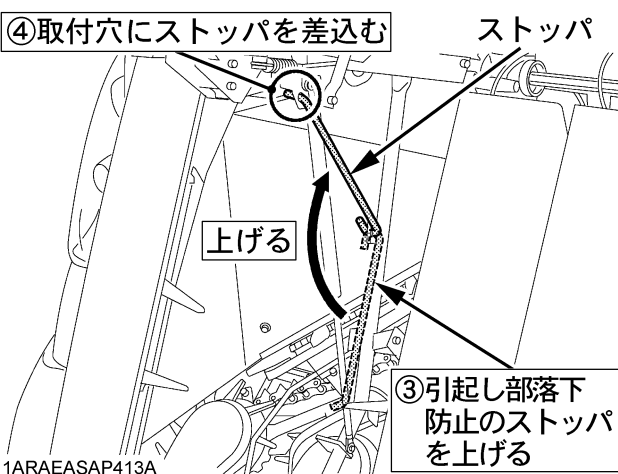
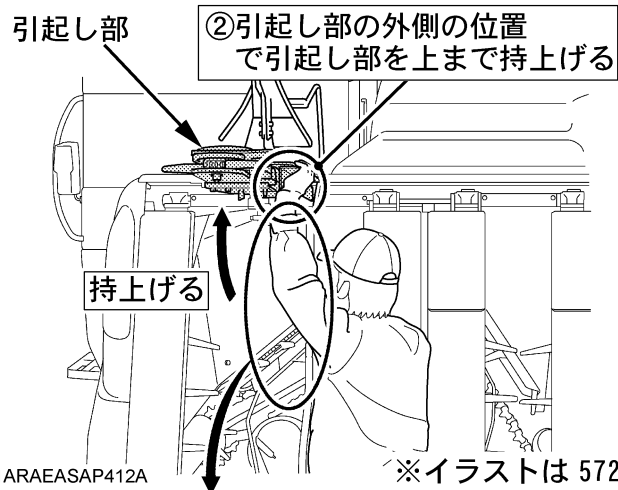
[572・587] [右側]



[572・587] [右側]

重要

* 引起し部を持上げるとき、デバイダを持上げないでください。デバイダの取付部が曲がるおそれがあります。



[572・587]

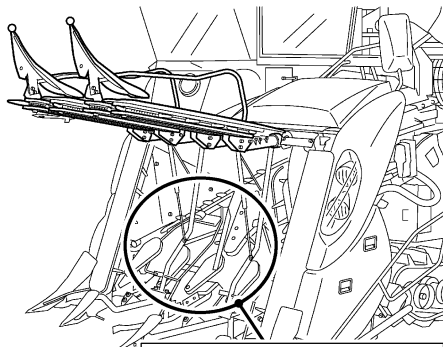
重要

* 左側の引起し部を先に開くと、引起し爪が右側の引起しガイドに接触し、引起しガイドが破損するおそれがあります。

[572・587]

補 足

- * 詰まったわらを取除く又は、メンテナンスを行なってください。



わらを取除く又は、
メンテナンスを行なう

※イラストは 108Q仕様

1ARAEASAP405B

◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じてください。

[572・587]

重 要

- * 引起し部を閉じるときは、左側から閉じてください。

[572・587]

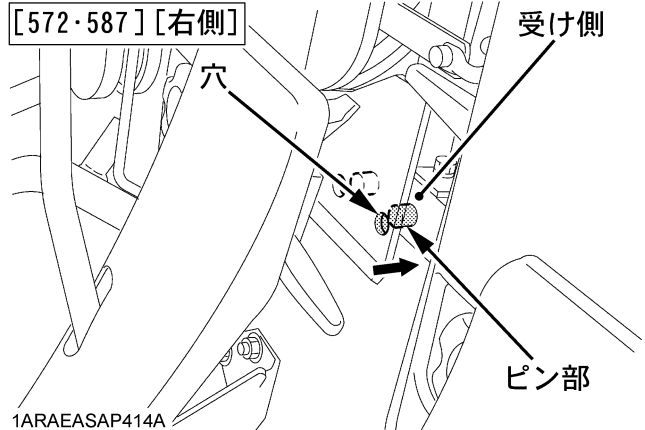
重 要

- * 引起し部を分解した状態で閉じないでください。引起しフレームの取付け部が曲がるおそれがあります。
- * 引起し部を閉じたときは、クランプとボルトで確実に引起し部と刈取フレームを固定してください。
- * 引起し部を閉じるときは、ゆっくりと閉じて最後まで手を離さないでください。勢いよく閉じると、引起し爪が刈取フレームの丸棒に接触して破損するおそれがあります。

補 足

- * 引起し部を閉じたあと、刈取フレームにデバイダをボルトで固定するとき、取付穴にずれがあるときは、引起し部を受け側にきちんとセットしてください。

[572・587] [右側]



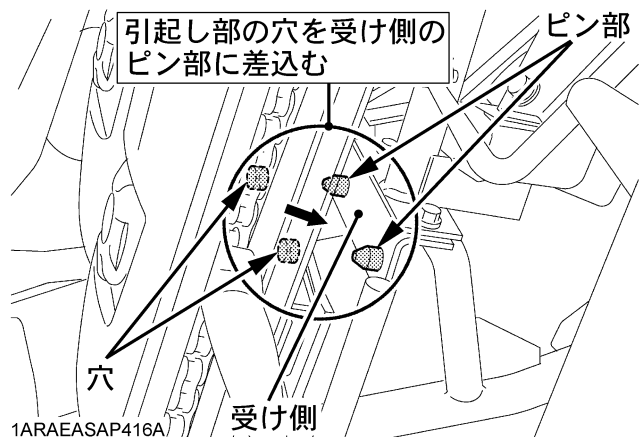
1ARAEASAP414A

デバイダ取付穴

ずれがない
ことを確認

刈取フレーム取付穴

1ARAEASAP415A



1ARAEASAP416A

- * 引起し部を閉じたあと、引起し変速レバーを**【標準】**又は、**【低速】**位置にしてください。引起し変速レバーが**【中立】**位置の状態では刈取部が作動しません。

メンテナンス

■刈取搬送部の開閉

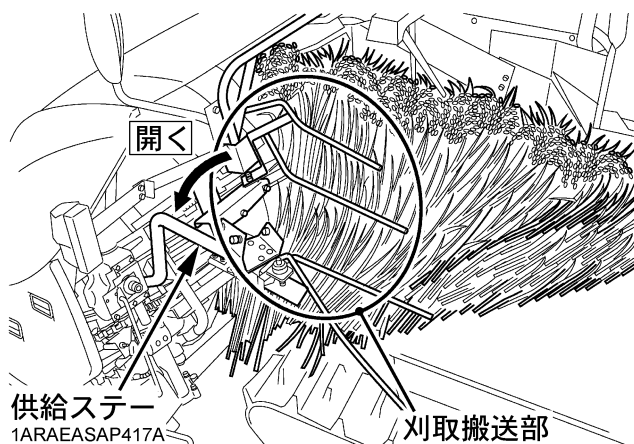


警告

- * 刈取搬送部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 刈取搬送部を開いた状態で走行をしないでください。

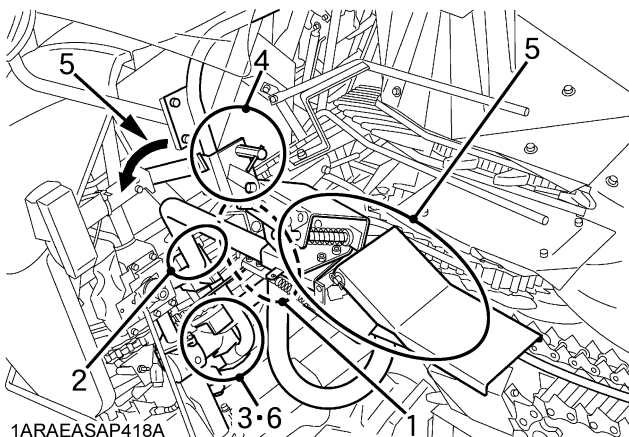
補 足

- * 刈取搬送部にわら詰まりが発生したときは、供給ステーを開き、わらを取除いてください。

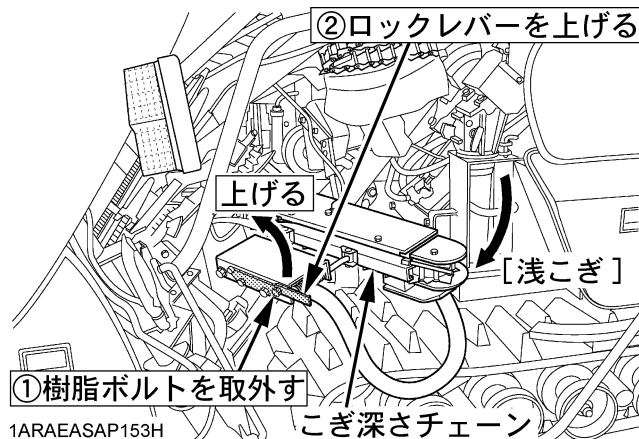


◆ 開きかた

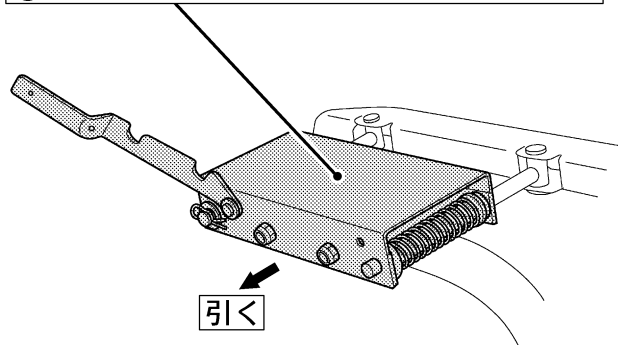
機体、左分草かん及び刈取部を**最下降**位置にし、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にしてこぎ胴を**詰まり除去**位置にしたあと、こぎ深さチェーンを**最下降**（浅こぎ側）位置にしてエンジンを停止します。そのあと、下図の手順に従って刈取搬送部を開きます。



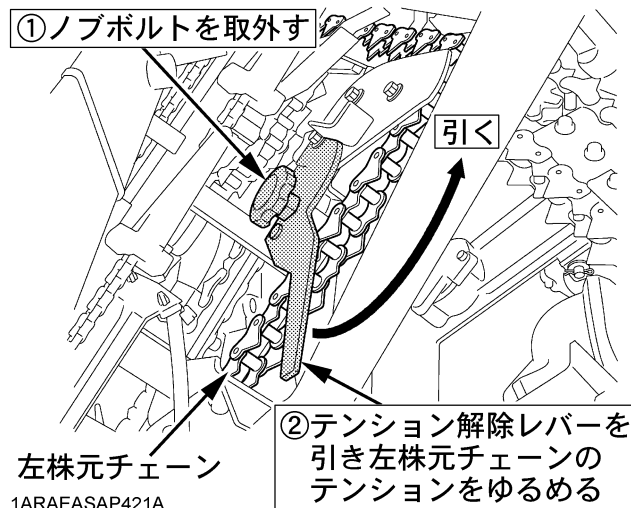
1. こぎ深さチェーンのわら詰まり除去装置を取外します。



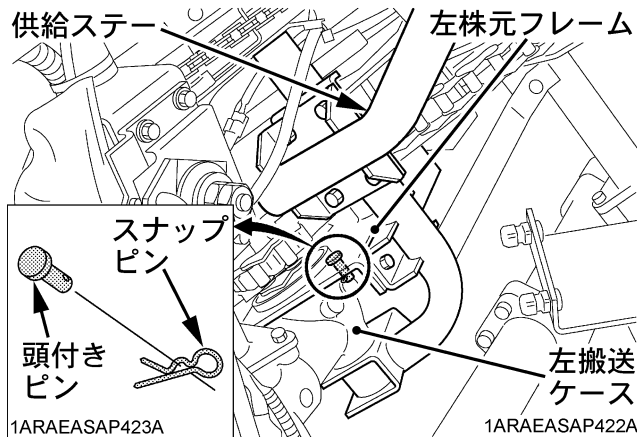
- ③わら詰まり除去装置を手前に引いて取外す



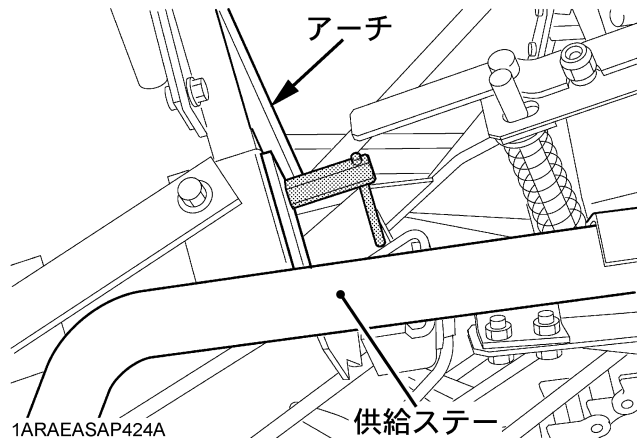
2. 左株元チェーンのテンションをゆるめます。



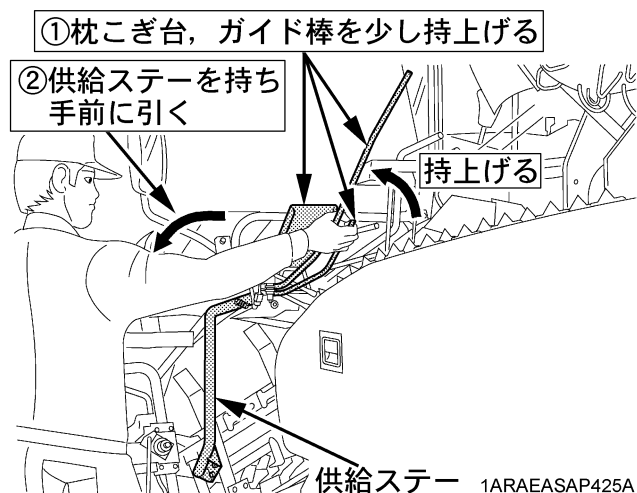
3. 左株元フレームと左搬送ケースを固定している頭付きピンとスナップピンを取外します。



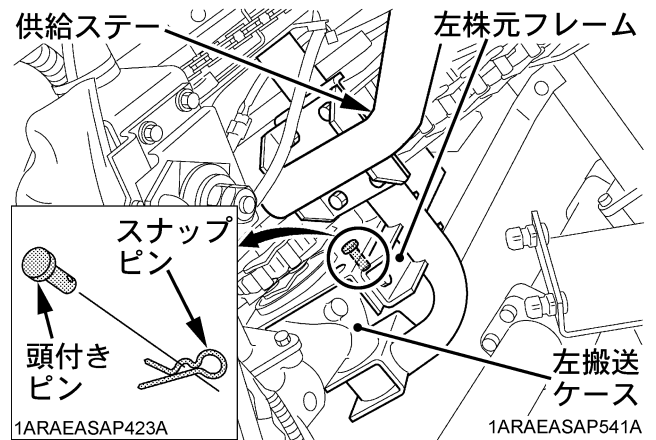
4. アーチに固定しているジャッキボルトを取外します。



5. 枕こぎ台、ガイド棒を前方に少し持上げた状態で、供給ステーといっしょに手前に引きまします。

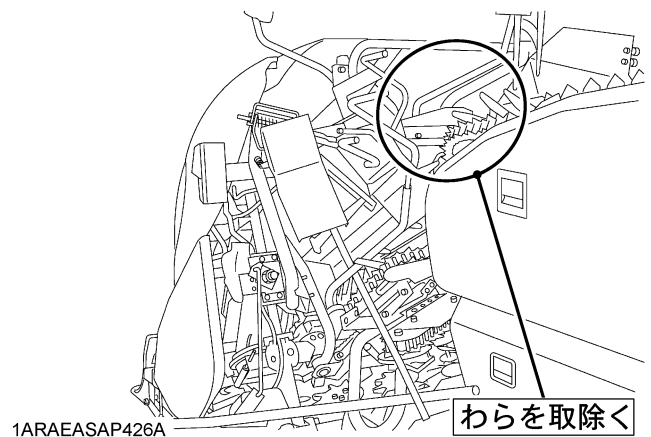


6. 供給ステーを開いた状態で左株元フレームと左搬送ケースに頭付きピンとスナップピンを取付けて供給フレームを固定します。



補 足

* 詰まったわらを取除いてください。



◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で取付けてください。

重 要

* 取外した各部品やカバー類は必ず取付けてください。

補 足

* ガイド棒は、こぎ胴を閉じる前に必ずフィードチェーン側へセットしてください。

■運転操作部の開閉



注 意

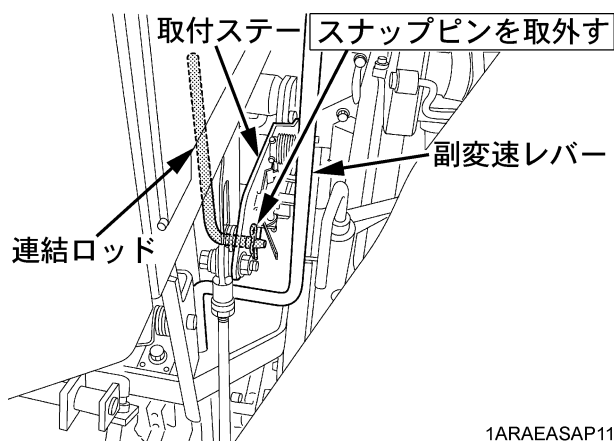
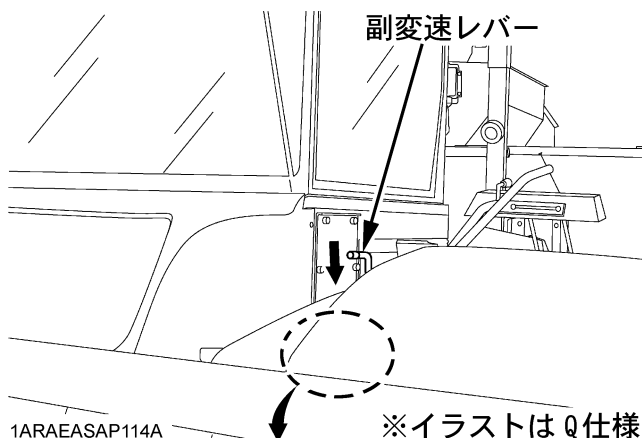
- * 運転操作部を開閉するときは、平たんで安全な場所でエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 取外したカバー類や部品は、必ず取付けてください。
- * 傾斜地では運転操作部の開閉を行なわないでください。
- * 運転操作部を開いたまま走行しないでください。
- * 運転操作部を開いた状態で運転操作部及び運転操作部とグレンタンクの間付近に入らないでください。
- * 運転操作部を開いたときは、運転操作部が閉じないように頭付きピンを必ず取付けてください。運転操作部が閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。
- * オーバヒートなどで運転操作部を開けて点検・整備をするときは、次の手順に従ってください。
 - (1) 作業を中止する。
 - (2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転したあと、エンジンを停止する。
 - (3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
 - (4) 点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認する。
- * エンジンが冷えていないとき、運転操作部を開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ、あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆ 開きかた

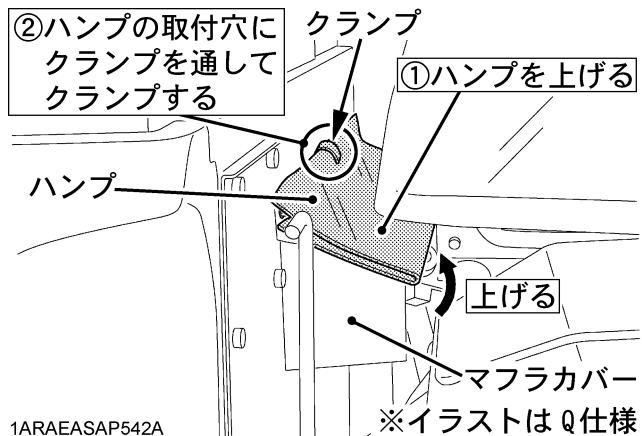
1. 駐車ブレーキを解除します。

補 足

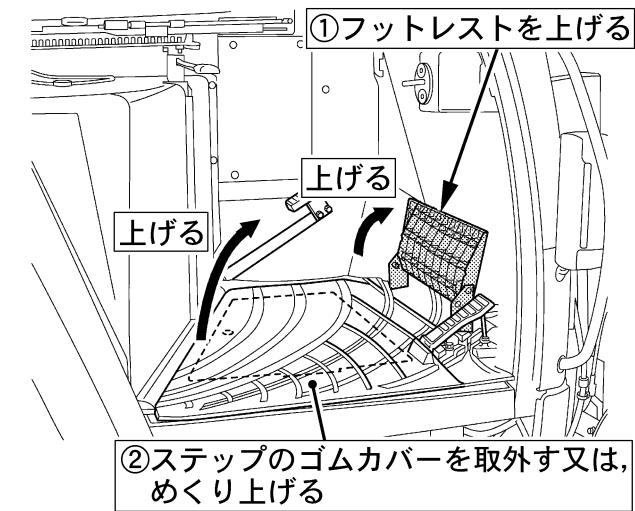
- * 駐車ブレーキが掛かっていると、運転操作部を閉じるとき正しく閉じません。
- 2. 主変速レバーの連結ロッドを取付けステーから取外します。



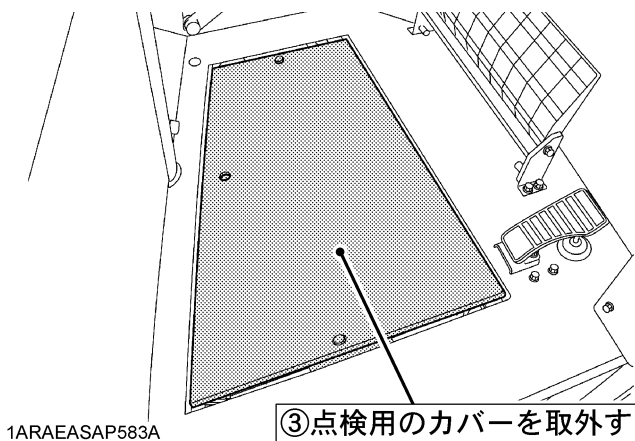
3. マフラカバーのハンプを引上げて、クランプで固定します。



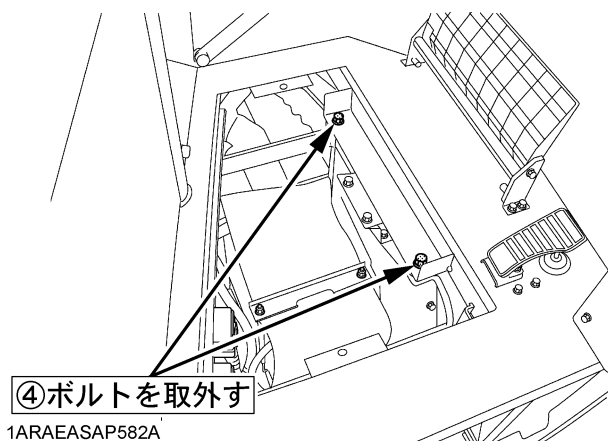
3. ステップ下にある運転操作部と本機を固定しているボルトを取外します。



1ARAEASAP124B

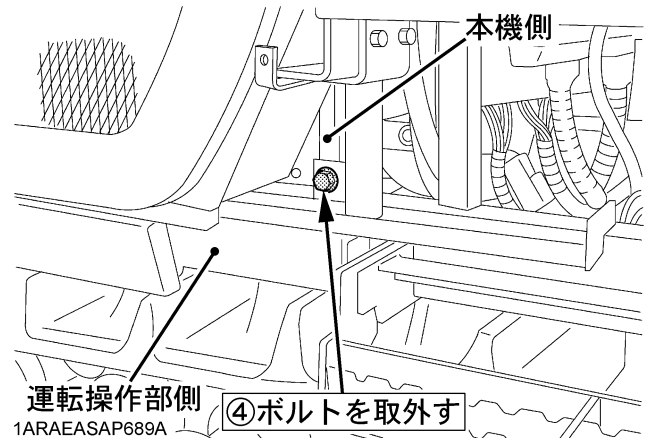


1ARAEASAP583A

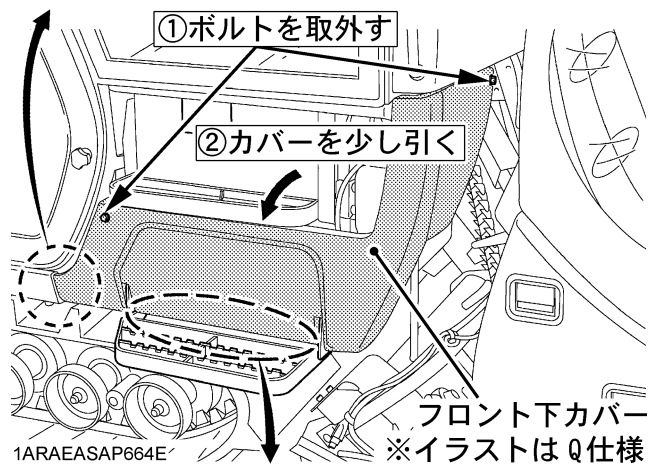


1ARAEASAP582A

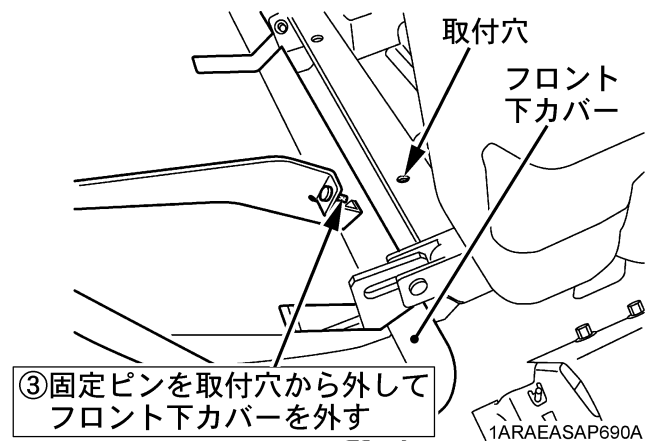
4. フロント下カバーを取外したあと、運転操作部と本機を固定しているボルトを取外します。



1ARAEASAP689A



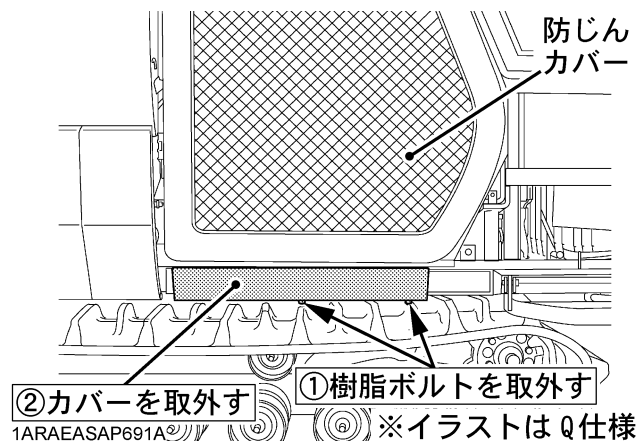
1ARAEASAP664E



1ARAEASAP690A

メンテナンス

5. 防じんカバーの下側にあるカバーを外します。

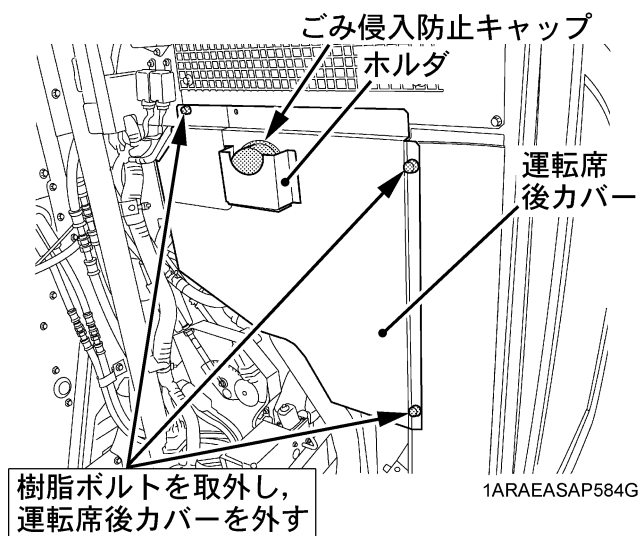


6. グレンタンクを開きます。(169 ページ参照)

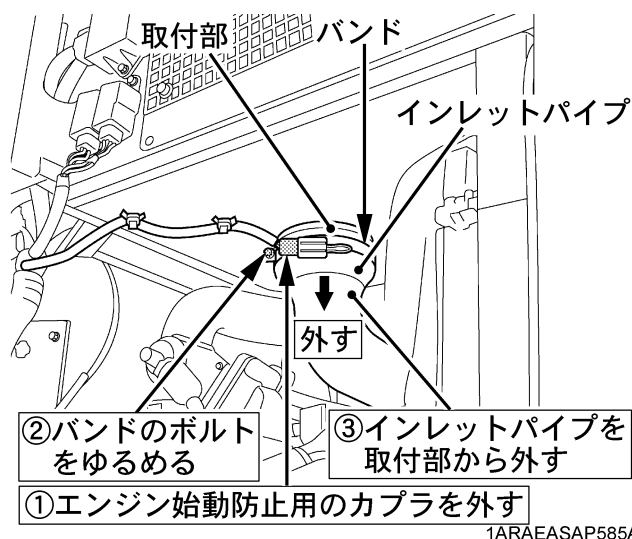
補 足

- * 運転操作部の開度は2段階（1段階目又は、2段階目）あります。運転操作部の開度に合わせてグレンタンクを開いてください。(169 ページ参照)

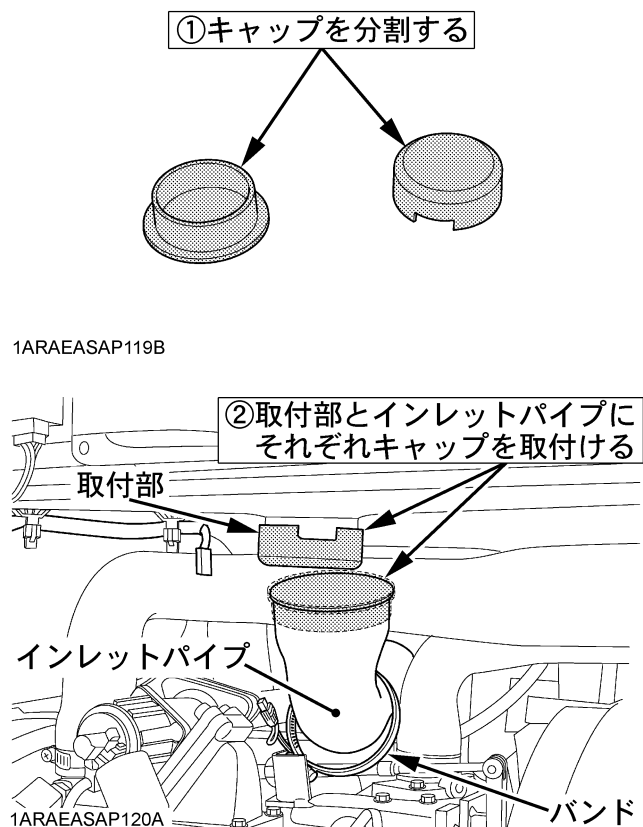
7. 運転席後カバーに収納しているインレットパイプのごみ侵入防止キャップをホルダから取外したあと、運転席後カバーを外します。



8. インレットパイプを取付部から外します。



9. ごみ侵入防止キャップを取付部とインレットパイプにそれぞれ取付けます。



重 要

- * インレットパイプを脱着するときは、インレットパイプ内にごみなどの異物が入らないように注意してください。エンジンの故障の原因となります。

補 足

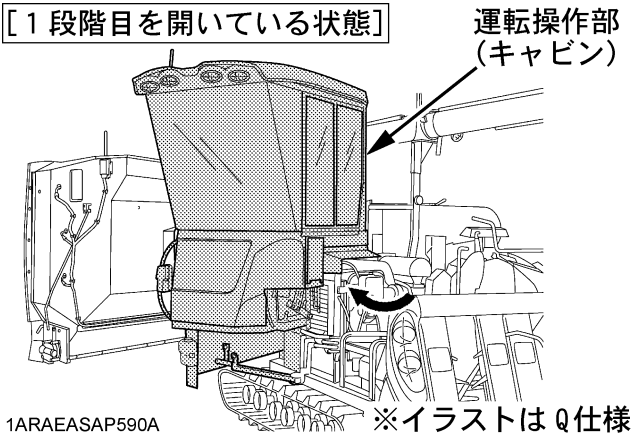
* キャップは落下しないようにきちんと取付けてください。

10. 運転操作部を開きます。

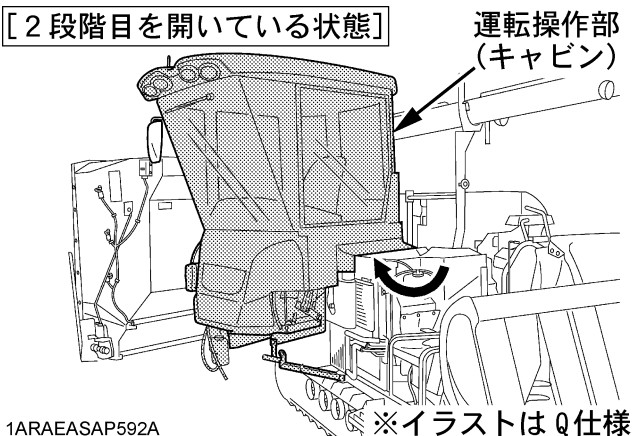
補 足

* 運転操作部は、2段階開きます。メンテナンスなどで必要に応じて開度を選んでください。

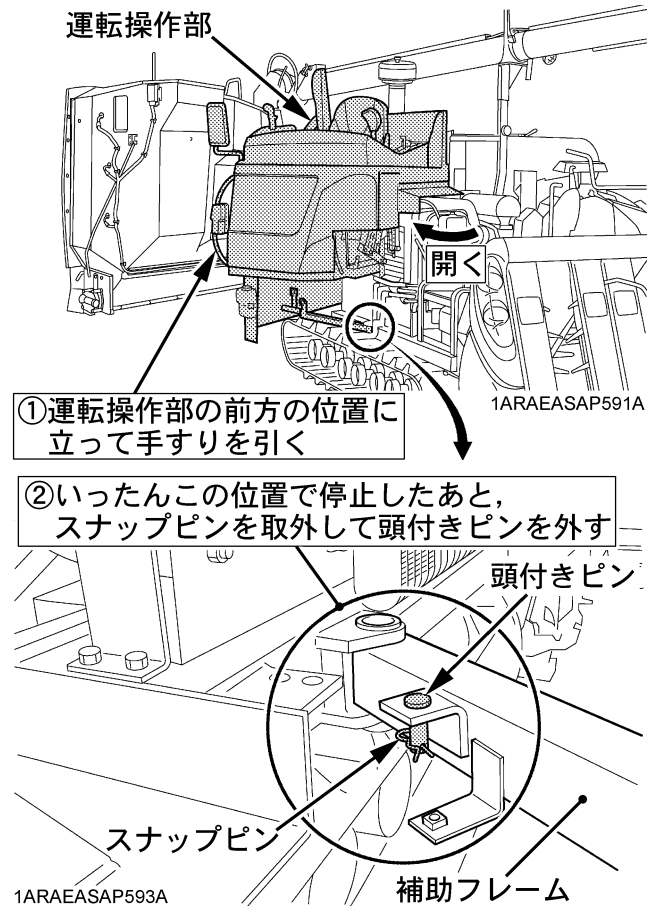
[1段階目を開いている状態]



[2段階目を開いている状態]



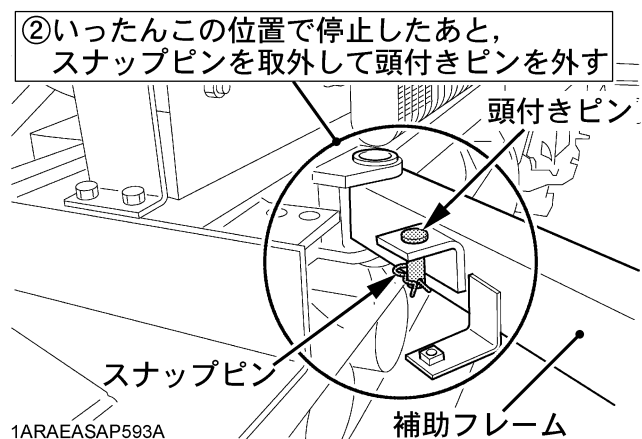
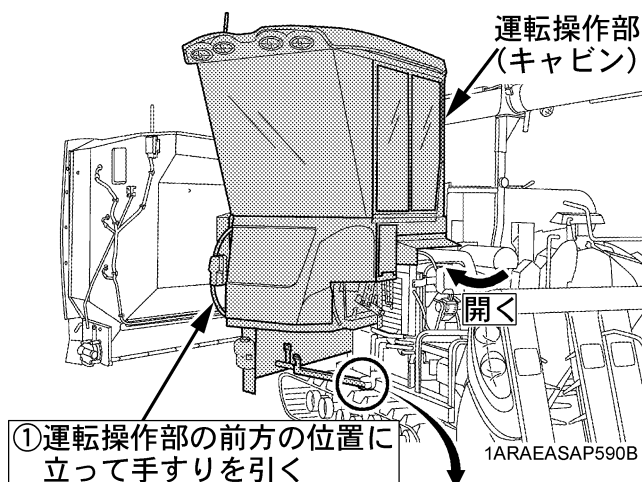
[Q仕様除く]



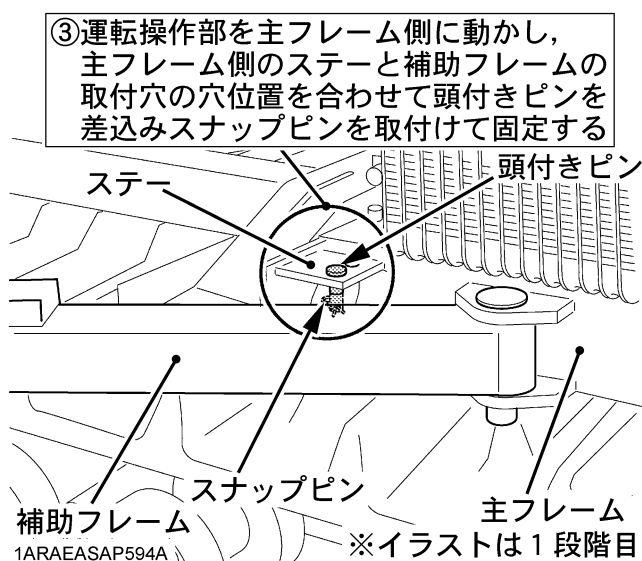
[Q仕様除く]

メンテナンス

[Q仕様]



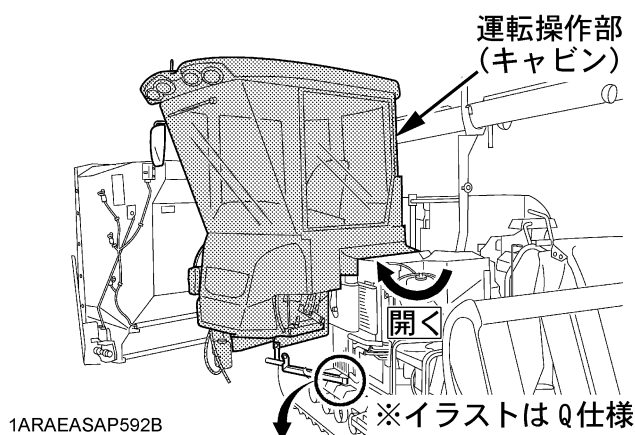
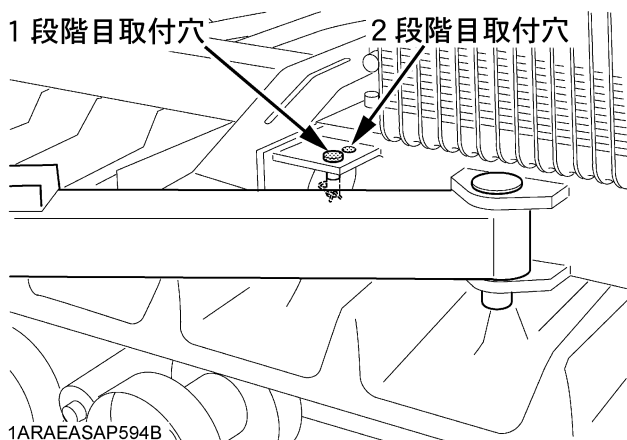
[Q仕様]



※イラストは1段階目

補 足

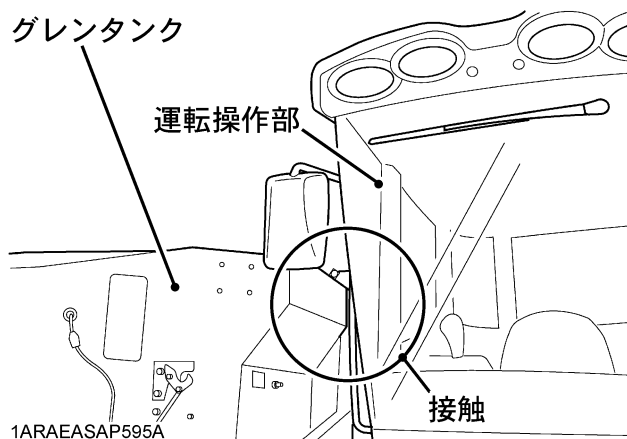
- * 運転操作部を2段階目まで開いたときは、2段階目の取付穴に頭付きピンとスナップピンを差込んで固定してください。



※イラストはQ仕様

重 要

- * グレンタンクが1段階目の開度のとき、運転操作部を2段階目の開度まで開かないでください。グレンタンクに運転操作部が接触して破損するおそれがあります。

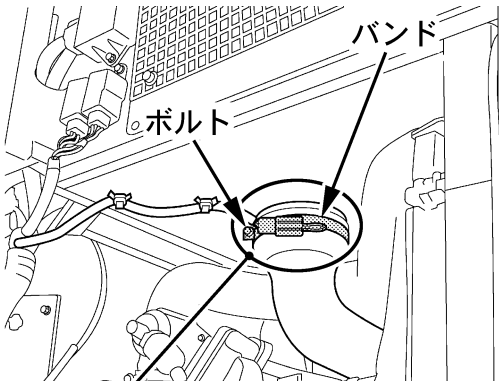


◆ 閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

重要

- * インレットパイプを取付けるとき、取付部にしっかりと差込んだあと、バンドのボルトを締めるとき、締め忘れ又は、締め過ぎに注意してください。



取外す前の状態までインレットパイプを差込む
1ARAEASAP585B

補足

- * フロント下カバーを取付けるときは、取付けピンを機体側の取付穴に必ず差込んでから取付けてください。



1ARAEASAP690B

■ カッタ部の開閉



警告

- * カッタ部を開いているときは、カッタの刃先に注意してください。
- * 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
- * カッタ部を開いた状態で走行をしないでください。
- * カッタ部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

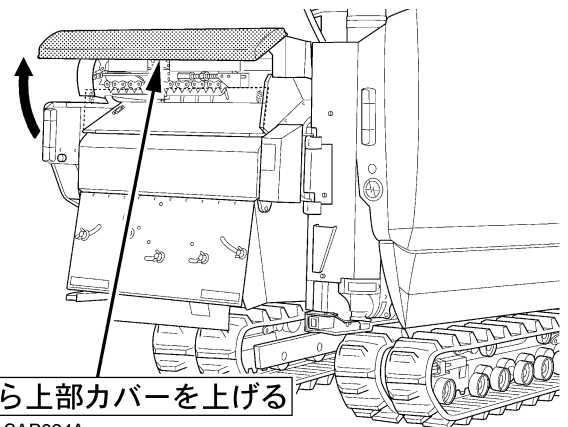


注意

- * 傾斜地では、カッタの開閉をしないでください。
- * カッタ部を開いたときは、オープントップを必ず掛けてください。

◆ 開きかた

1. 排わら上部カバーを上げます。

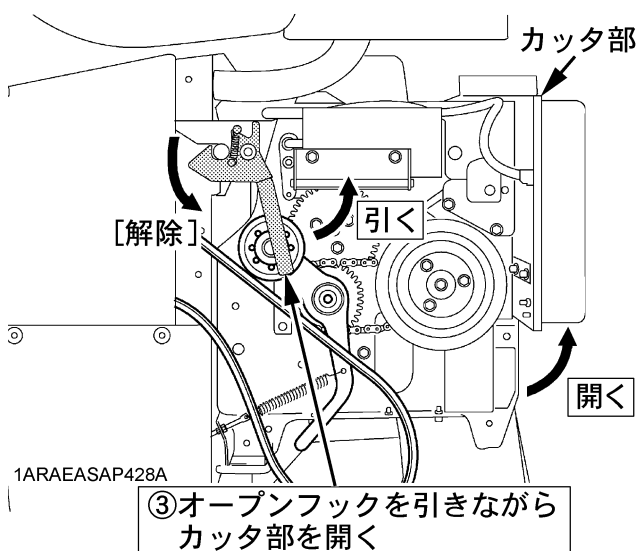
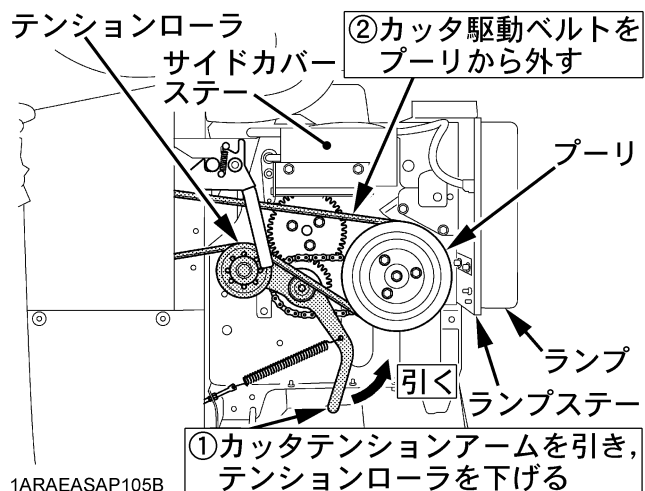


排わら上部カバーを上げる

1ARAEASAP624A

メンテナンス

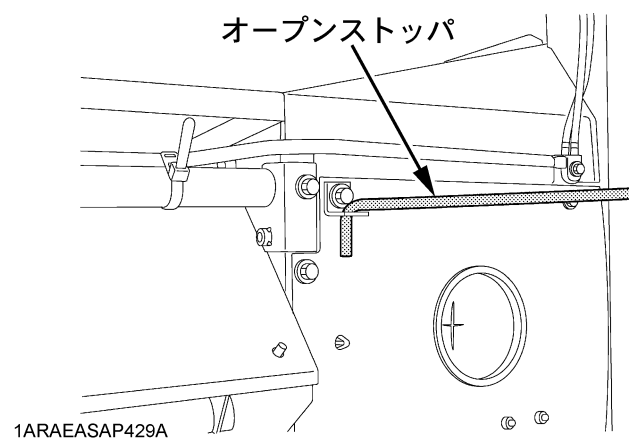
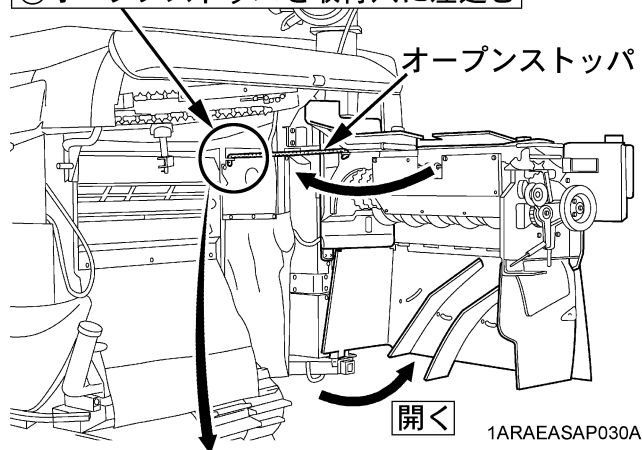
2. 取手を引いて左サイドカバー上2を外します。(165 ページ参照)
3. カッタ部を開きます。



重要

- * カッタ部を開くときは、サイドカバーステーに手を掛けて開いてください。ランプ及びランプステーに手を掛けると、ランプ及びランプステーが破損するおそれがあります。

④オープンストップを取付穴に差込む



◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重要

- * カッタ部を閉じたあとは、オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
- * ベルトはオープンフックの下側を通してください。掛け間違えると破損の原因となります。

■シーブケースの脱着

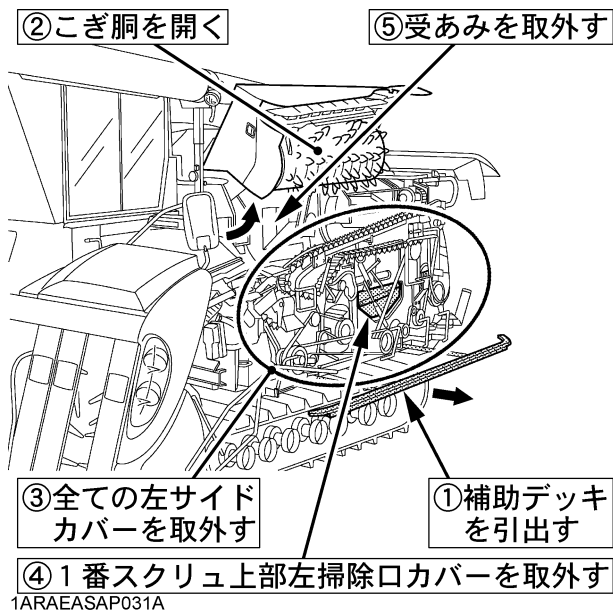


注 意

- * 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。
- * 脱着作業は、合図を掛け合って3人以上で行なってください。

◆ 拔出しかた

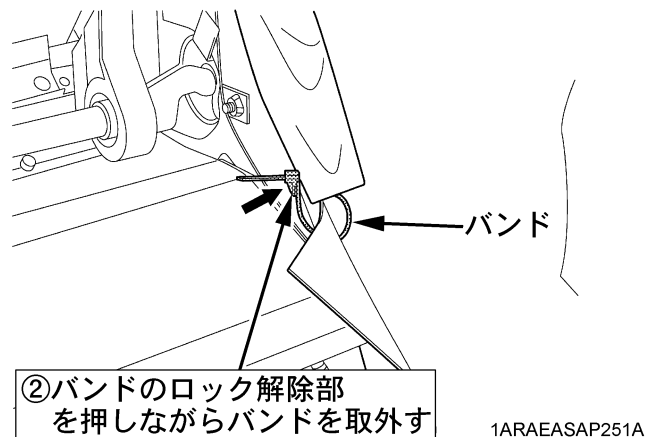
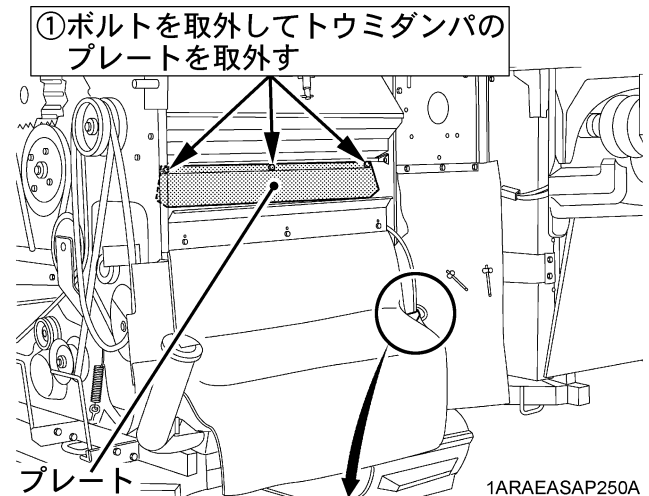
1. 補助デッキを引出したあと、こぎ胴を開きます。(133 ページ参照)
2. 左サイドカバー上1, 2と下1, 2及び左サイドカバー内1, 2, 3を取外します。(165 ページ参照)
3. ボルトを取外して、1 番スクリュ上部左掃除口カバーを外します。
4. 受あみを取外します。(163 ページ参照)



5. カッタ部を開きます。(153 ページ参照)

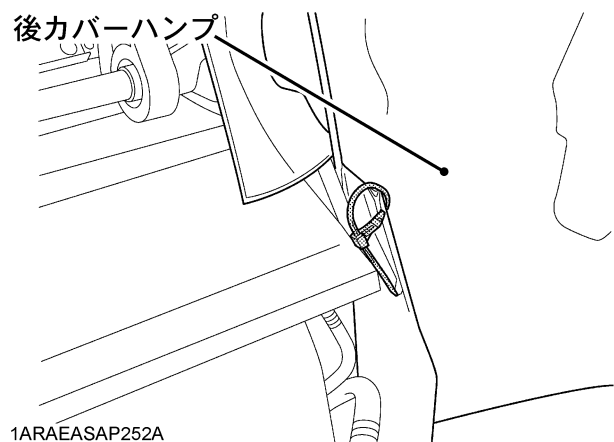
6. シーブケースを引出す準備をします。

- (1) トウミダンパのプレートを取外したあと、チャフ操作台を取外します。

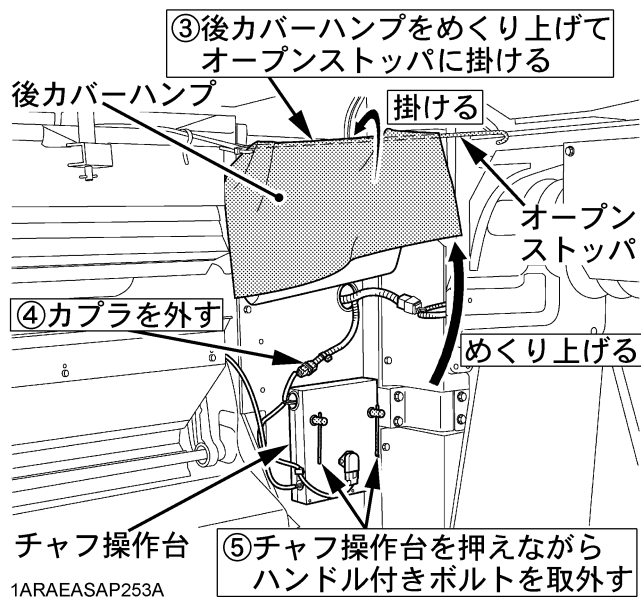


補 足

- * 取外したバンドは、なくさないように後カバーハンプに下図のように取付けてください。

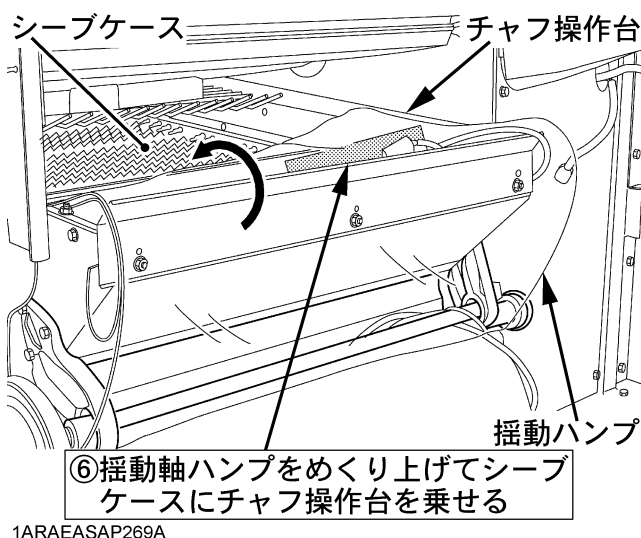
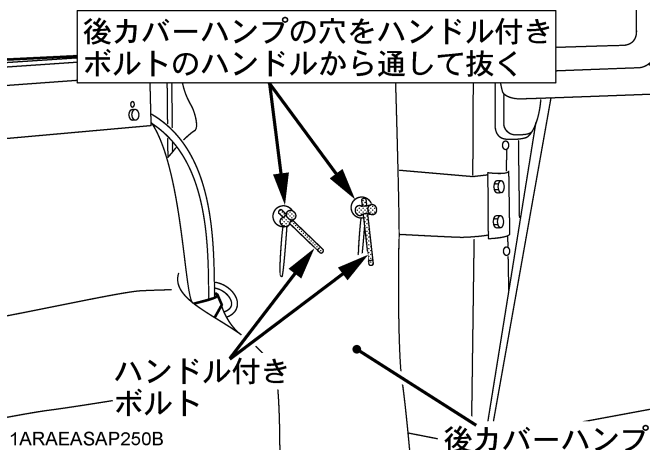


メンテナンス



補 足

- * 後カバーハンプをめくり上げるとき、後カバーハンプの穴をハンドル付きボルトのハンドルから通して抜いてください。



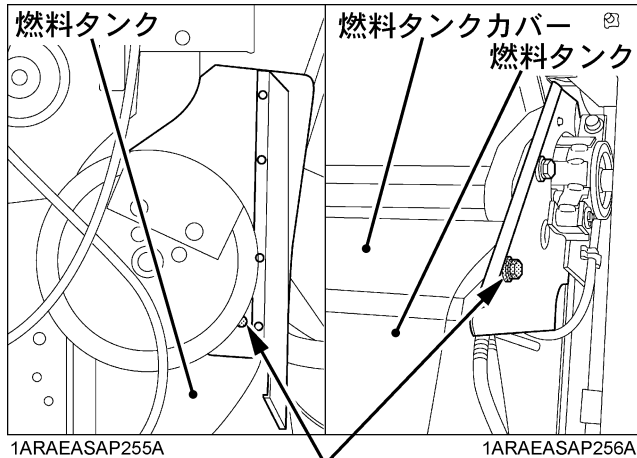
重 要

- * チャフ操作台をシープケースの上に乗せるとき、取付台を無理に引っ張らないでください。破損の原因となります。

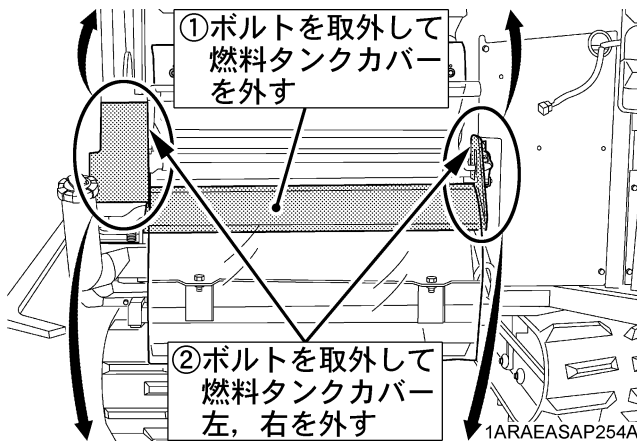
- (2) 揺動駆動ベルトのテンションを解除します。



- (3) 燃料タンクカバー及び燃料タンクカバー左、右を取外します。

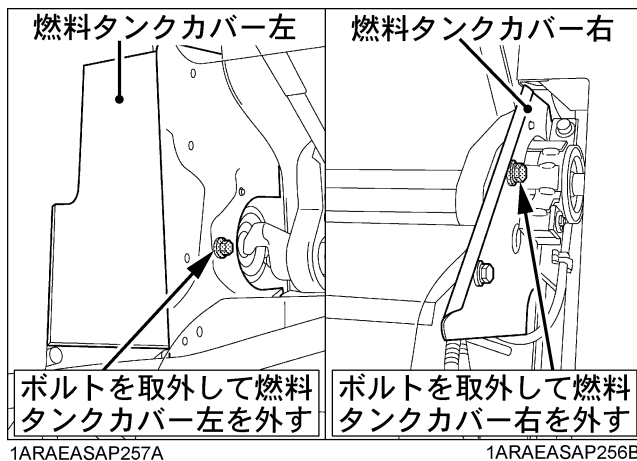


ボルトを取外して燃料タンクカバーを外す



①ボルトを取外して燃料タンクカバーを外す

②ボルトを取外して燃料タンクカバー左、右を外す

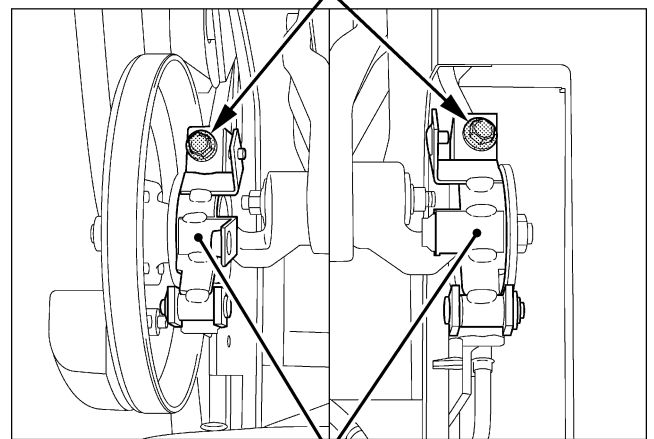


ボルトを取外して燃料タンクカバー左を外す

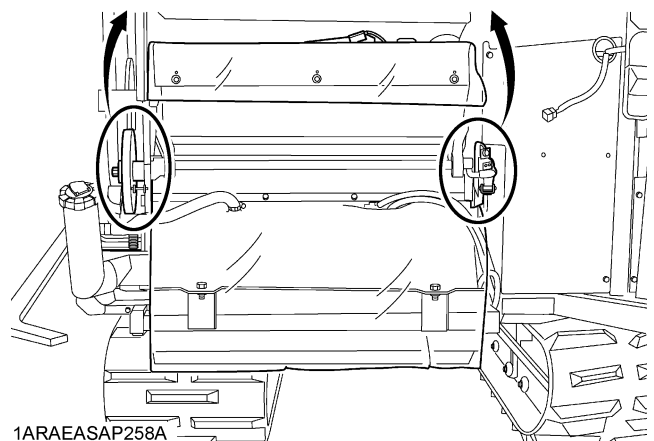
ボルトを取外して燃料タンクカバー右を外す

- (4) 揺動軸受けを取外します。

①ボルトを取外して揺動軸受けを後方に倒す



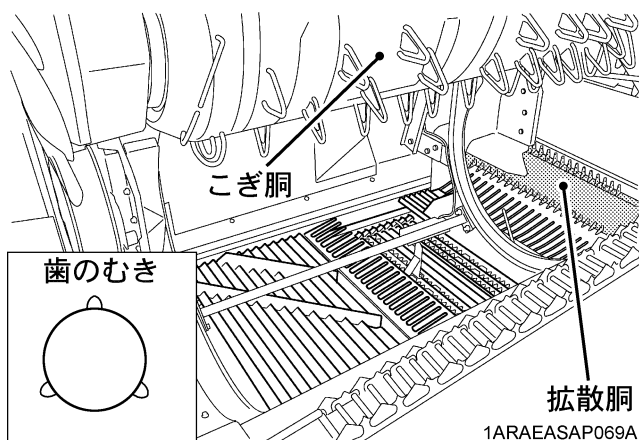
揺動軸受け



メンテナンス

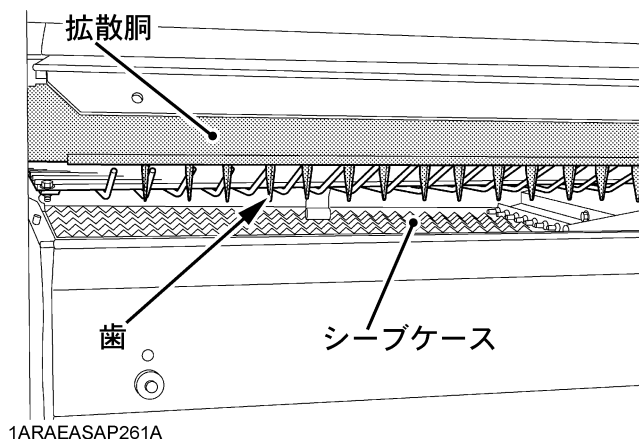
[572・587]

- (5) こぎ胴を手で回転させて拡散胴の歯の向きを図のようにします。



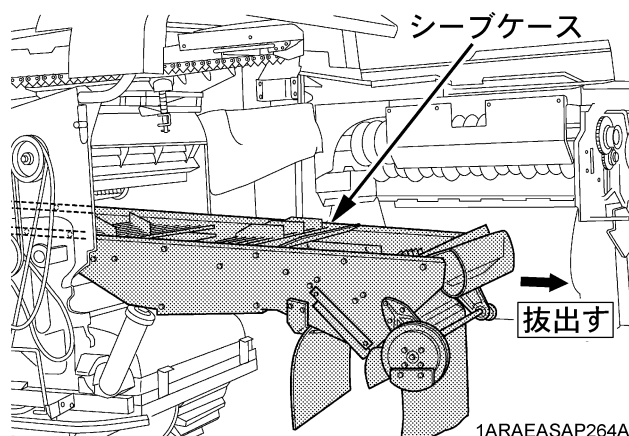
重要

- * 歯の向きが真下方向に向いていると、シーブケースを拔出すときにシーブケース上面に歯が引掛り、拔出しが困難になります。また、破損の原因となります。



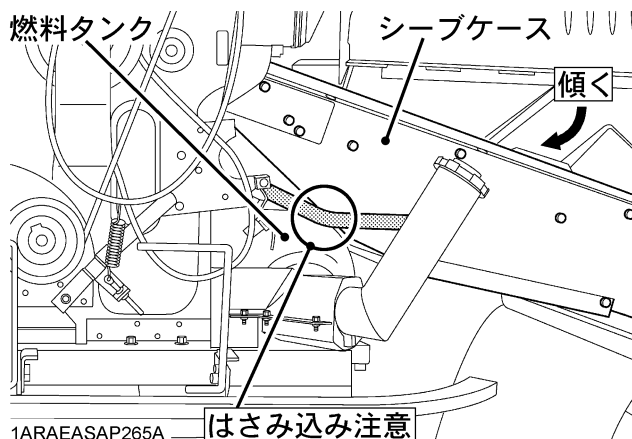
[572・587]

7. 補助者を含めて3人以上でシーブケースを拔出します。



重要

- * シーブケースを拔出すとき、水平状態で拔出してください。拔出したとき、シーブケースが下図のように傾いてしまうと、燃料タンク上側の燃料ホースにシーブケースが接触し、燃料タンクとシーブケースにはさまれて燃料ホースが破損するおそれがあります。



◆ 取付けかた

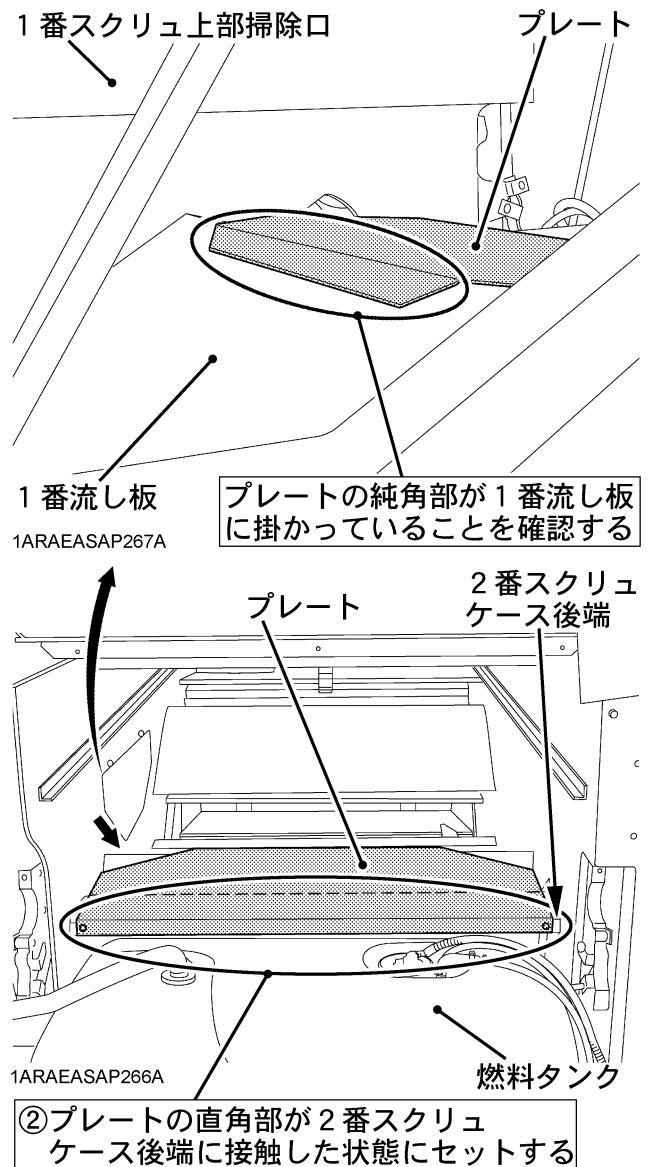
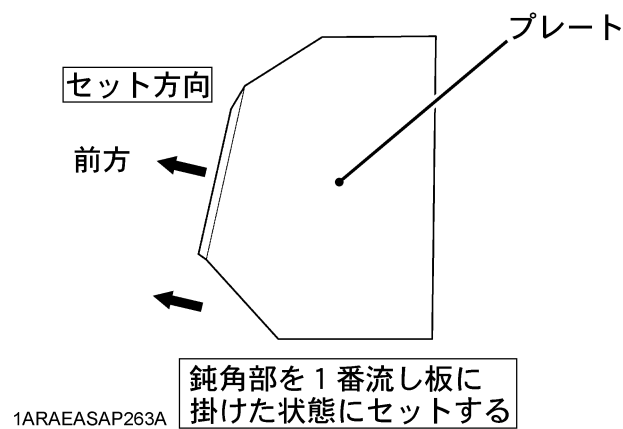
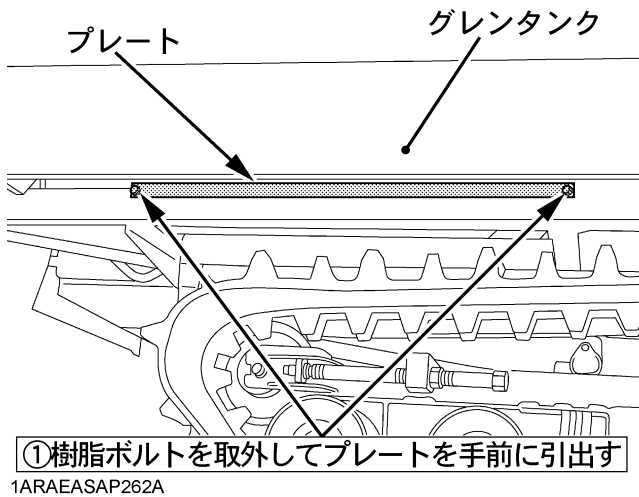
1. シーブケースの上に揺動軸ハンプをめくり上げて乗せた上に、チャフ操作台を乗せます。

[572・587]

2. 拡散胴の歯の向きが下方方向を向いているときは、拔出したときと同じ向きにします。

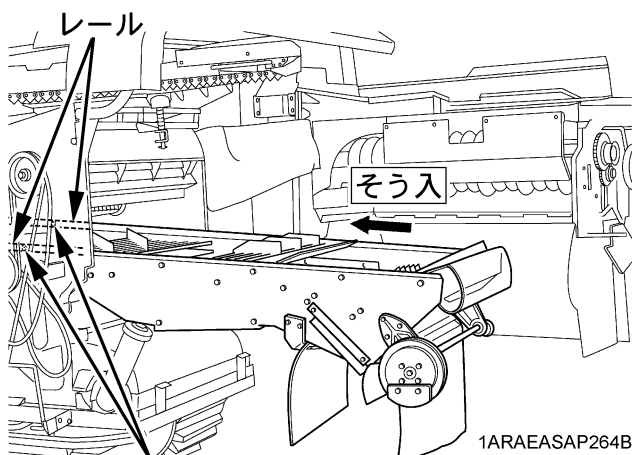
[572・587]

3. シーブケースをそう入する準備をします。

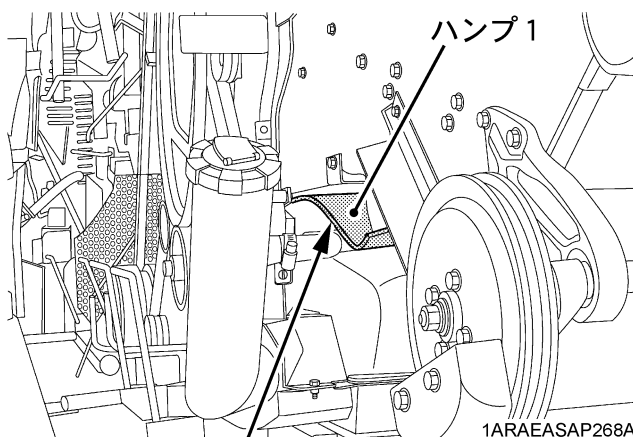


メンテナンス

4. 補助者を含めて3人以上でシーブケースをそう入します。

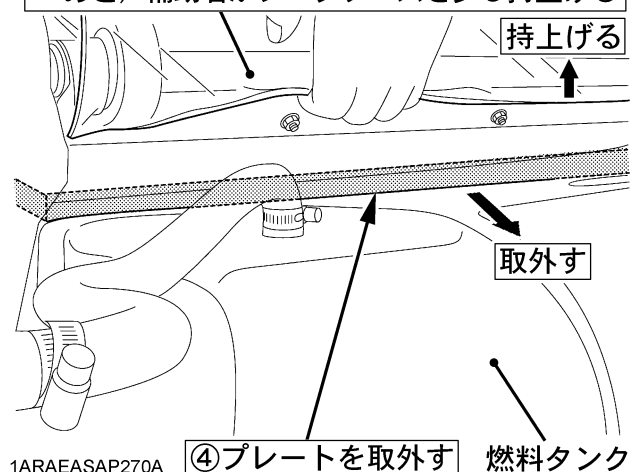


- ①シーブケースの両サイドのベアリングをレールに乗せ、シーブケースをそう入する



- ②そう入を途中でいったん止めて、ハンプ1をプレートの上に乗せ、ハンプを手で支えて前方に押し出しながらシーブケースをそう入する

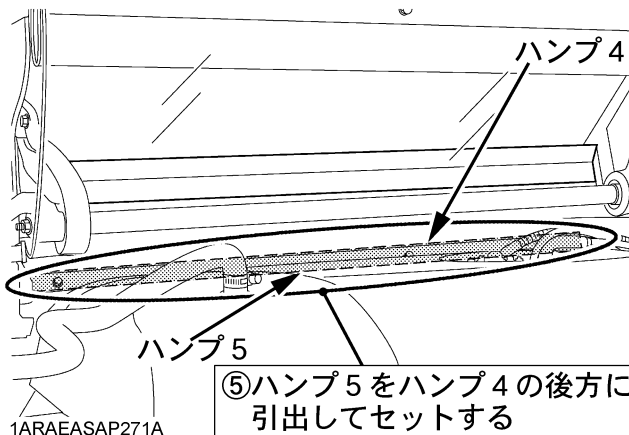
- ③シーブケースを前方いっぱいまでそう入したあと、補助者がシーブケースを少し持ち上げる



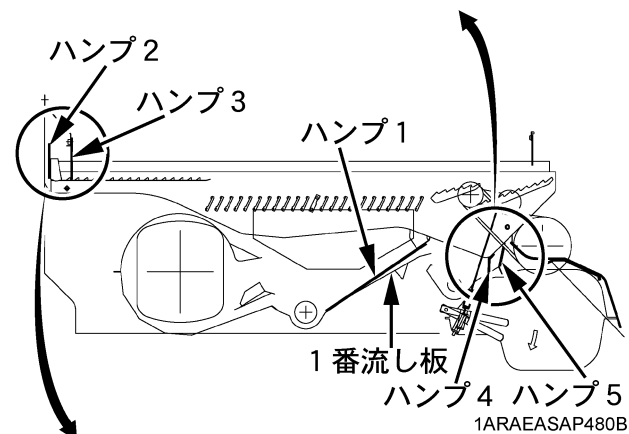
- ④プレートを取外す

重要

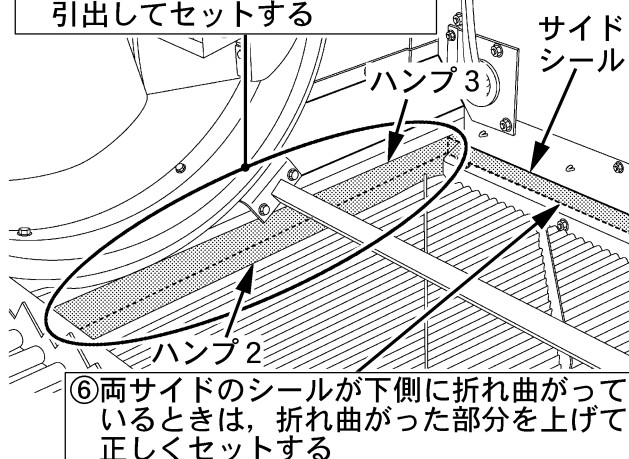
- * プレートを取忘れたまま脱こく部を動かすと、シーブケース及びプレートが破損するおそれがあります。



- ⑤ハンプ5をハンプ4の後方に引出してセットする

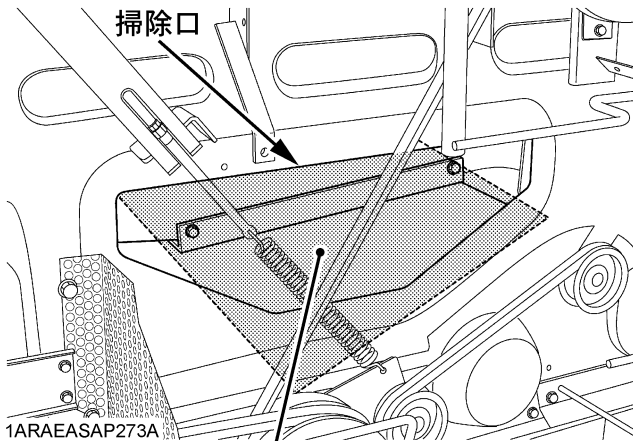


- ⑦ハンプ3をハンプ2の後方に引出してセットする



- ⑥両サイドのシールが下側に折れ曲がっているときは、折れ曲がった部分を上げて正しくセットする

1ARAEASAP272A



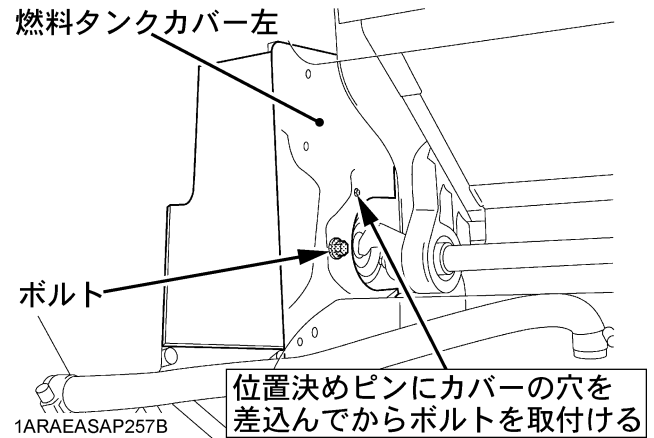
⑧ 1 番スクリュ上部左掃除口から
ハンプ1を1番流し板にセットする

5. プレートをグレンタンク下の収納位置に取付けます。
6. 左、右の揺動軸受けを上げて、揺動軸取付部に挟み込んだあと、ボルトを取付けます。
7. 揺動駆動ベルトをプーリに掛けたあと、テンションレバーを下側に押しながら掛け金具にレバーを掛けます。

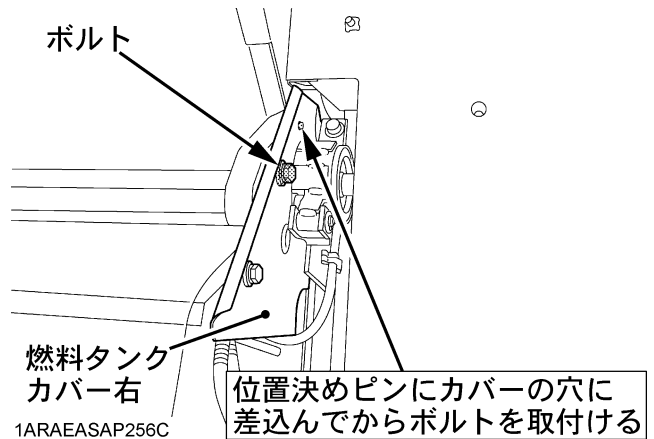
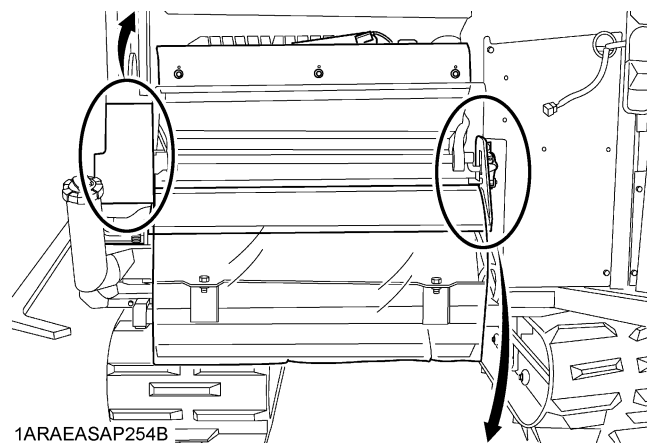
8. 燃料タンクカバー及び燃料タンクカバー左、右を取付けます。

(1) 燃料タンクカバー左、右を取付けます。

燃料タンクカバー左



位置決めピンにカバーの穴を
差込んでからボルトを取付ける

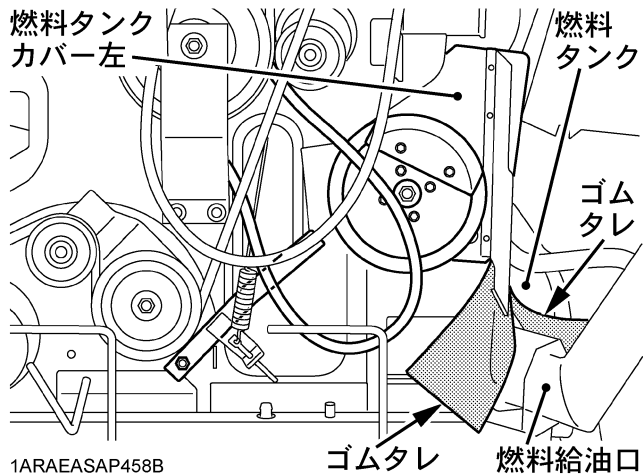


燃料タンク
カバー右

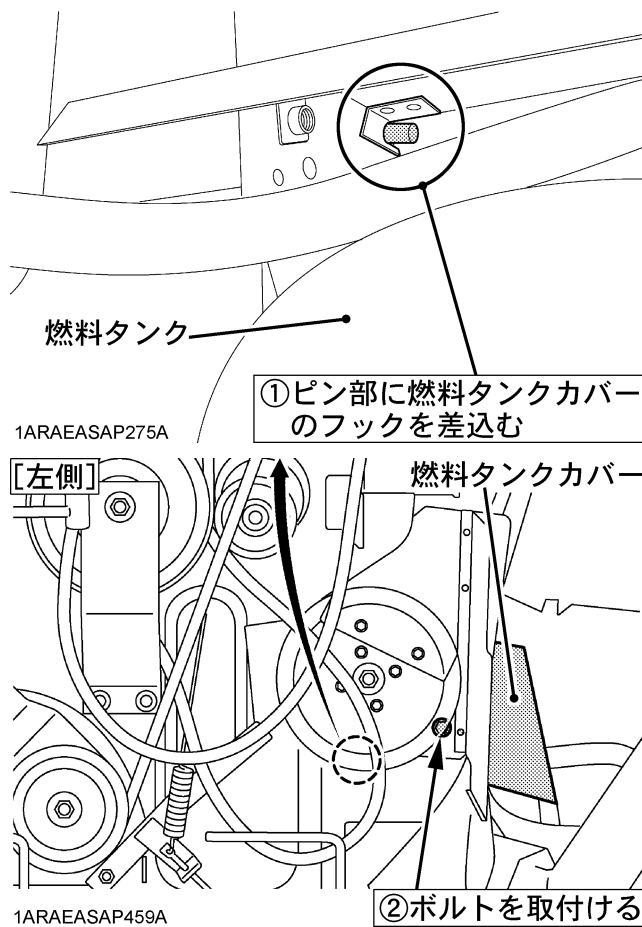
位置決めピンにカバーの穴に
差込んでからボルトを取付ける

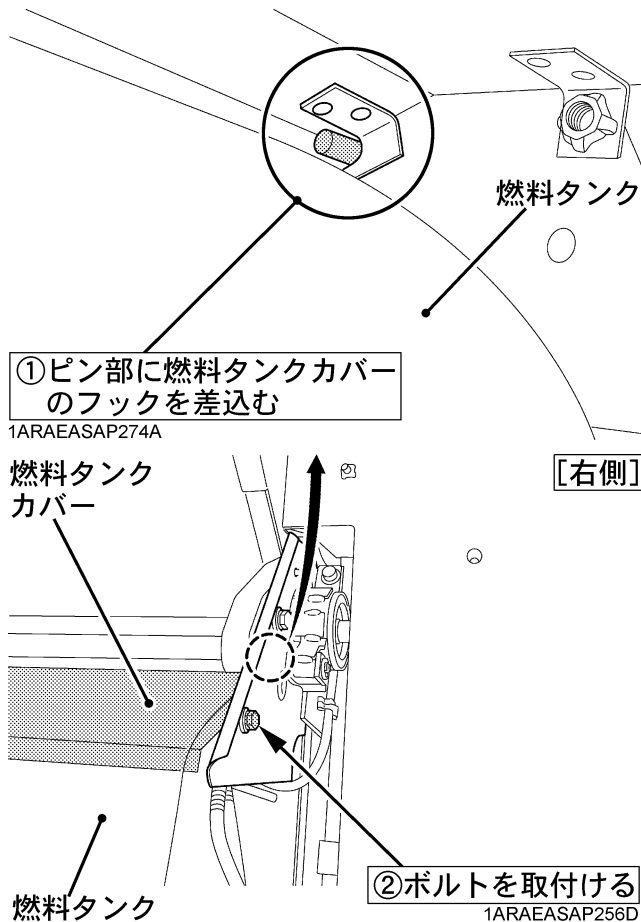
補 足

* 燃料タンクカバー左を取付けるとき、燃料タンクカバー左の下側にあるゴムタレを燃料給油口と燃料タンクの下図のように垂らしてください。



(2) 燃料タンクカバーを取付けます。

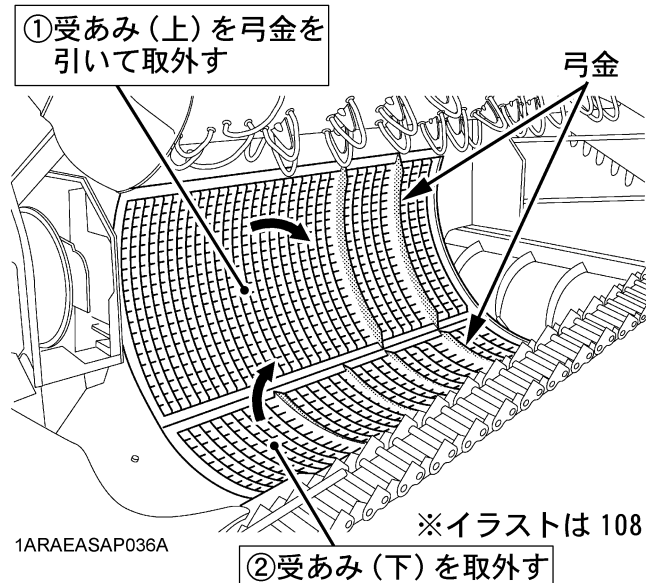




9. チャフ操作台を取付けます。
 - (1) ワイヤハーネスのカプラを接続します。
 - (2) チャフ操作台を後カバーハンプの内側にし、後カバーハンプとチャフ操作台取付穴の位置を合わせたあと、ハンドル付きボルトを締付けてチャフ操作台を本機に取付けます。
 - (3) チャフ操作ワイヤを後カバーハンプの切込み部に挟み、バンドでハンプを固定します。
10. 揺動軸ハンプを燃料タンク後側に垂らしします。
11. 受あみを取付けたあと、1 番スクリュ上部左掃除口カバーを取付けます。
12. 左サイドカバー内 1, 2, 3 を取付けたあと、左サイドカバー上 1, 2 と下 1, 2 を取付けます。
13. こぎ胴を閉じて補助デッキを収納します。

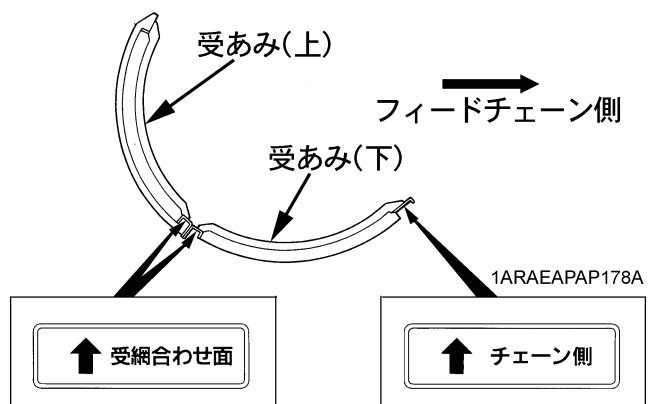
■受あみの脱着

1. こぎ胴を開きます。(133 ページ参照)
2. 補助デッキを引出します。
3. 受あみ(上)の弓金を手前に引いて取外し、受あみ(下)も同じように、引上げて取外します。
4. 取付けるときは、逆の手順で受あみ(下)から取付けます。



重 要

- * 取付けたときに受あみ(上), (下)の間にすき間があったり、受あみ(上), (下)を逆に組付けると、脱こく部の故障の原因となります。組付けるときは、下図のように受あみ(上), (下)の誤組付を防止するために取付方向ラベルを確認してください。



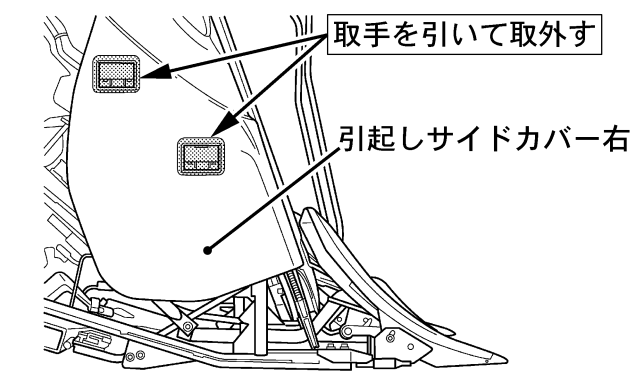
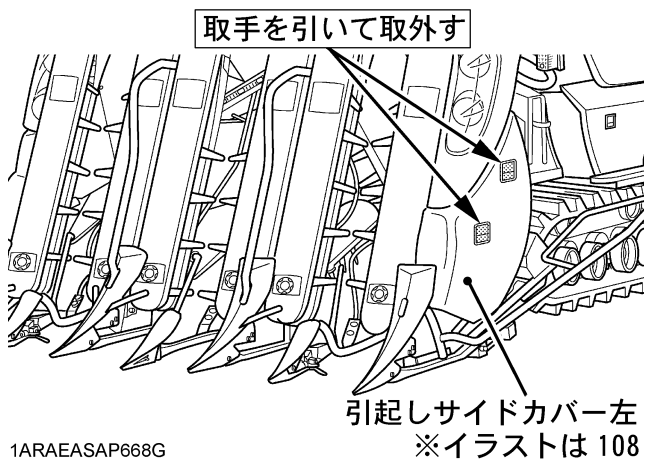
5. 補助デッキを収納したあと、こぎ胴を閉じます。

メンテナンス

■引起しサイドカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた



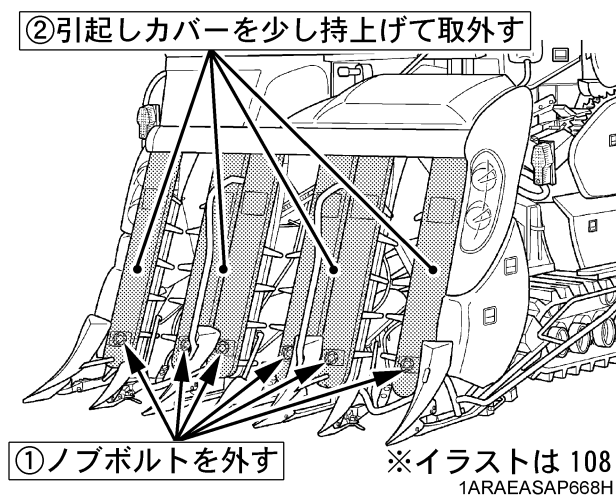
◆取付けかた

引起し爪を全て上側に倒したあと、引起しサイドカバーを取付けます。

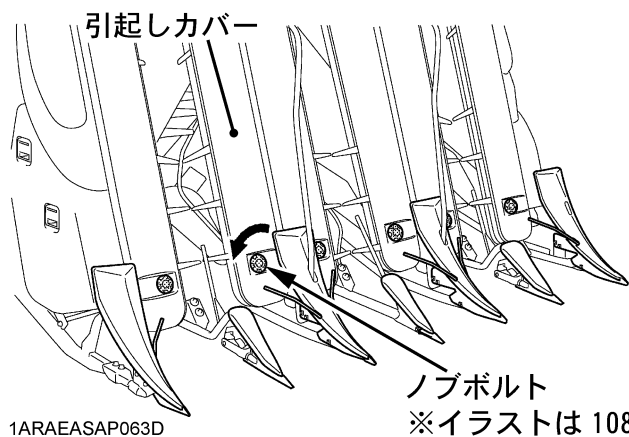
■引起しカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた



① ノブボルトを外す

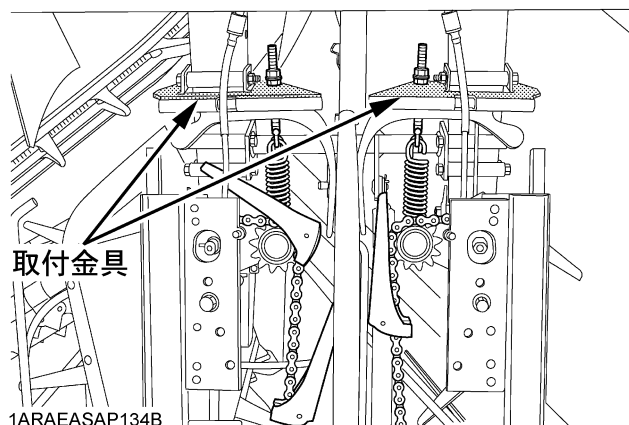


◆取付けかた

引起しカバーを取付けてノブボルトを締付けてロックします。

補 足

* 引起しカバーを取付けるとき、上部にある取付金具に引掛けてください。

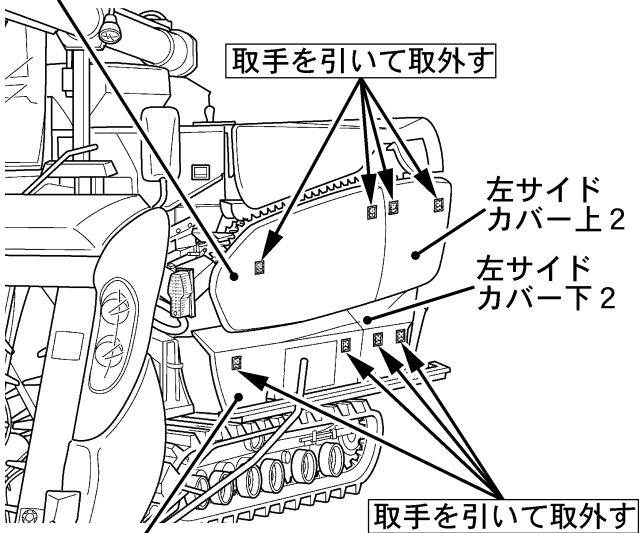


■左サイドカバーの脱着

◆ 取外しかた

- 左サイドカバー上1, 上2, 下1, 下2

左サイドカバー上1

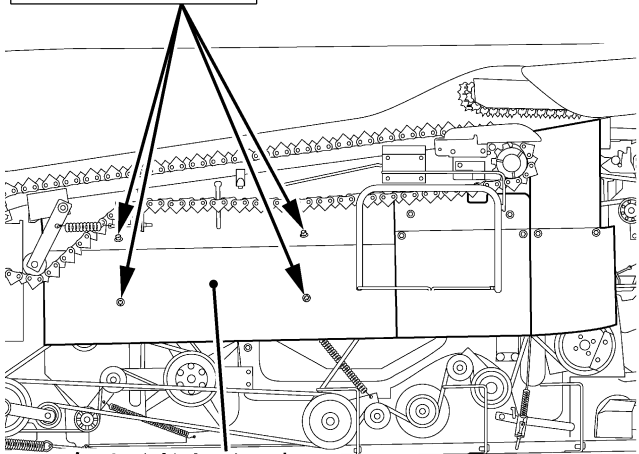


左サイドカバー下1

1ARAESAP668I

- 左サイドカバー内1, 内2, 内3

ボルトを取外して
カバーを外す

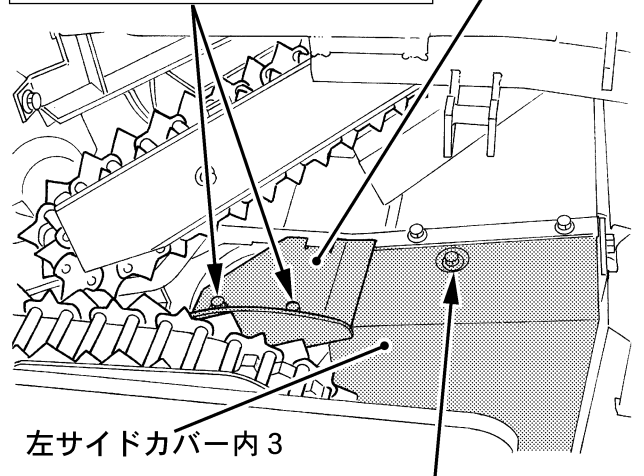


左サイドカバー内1

1ARAESAP034C

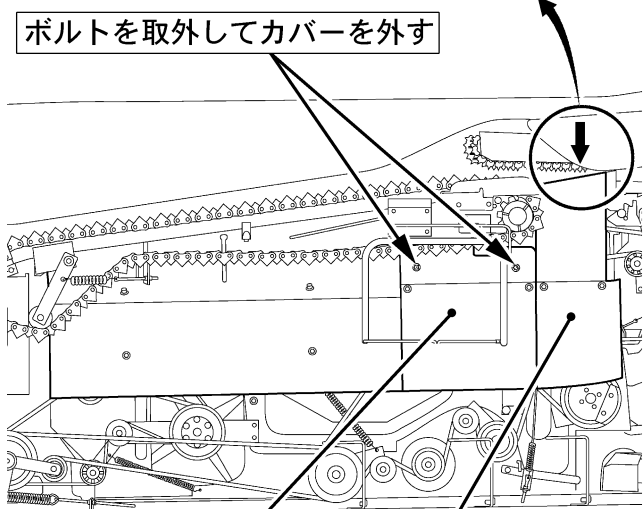
※イラストは 108Q仕様

①ボルトを取外して
チェーンガイドカバーを外す



1ARAEPAP092A

②ボルトを取外して
左サイドカバー内3を外す



左サイドカバー内2 左サイドカバー内3

1ARAESAP034D

※イラストは 108Q仕様

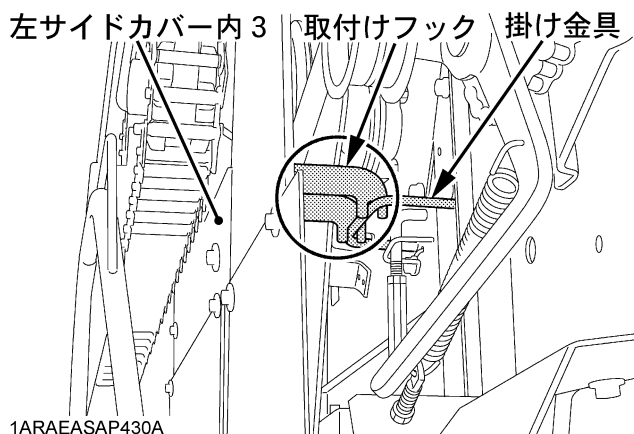
メンテナンス

◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

補 足

- * 左サイドカバー内3を取付けるとき、内側の取付けフックを掛け金具に掛けてください。

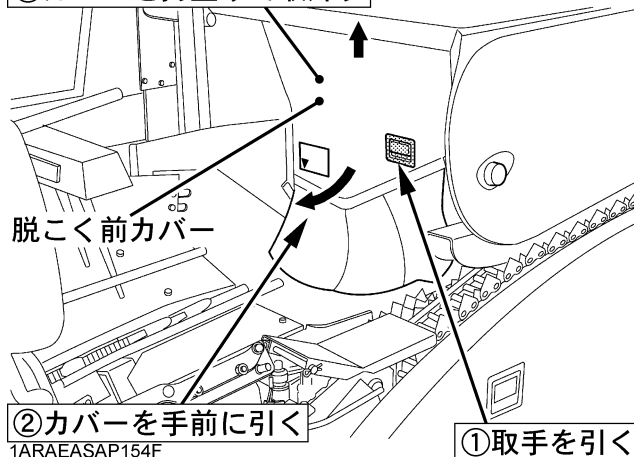


■ 脱こく前カバーの脱着

機体を**最下降**位置にしてください。

◆ 取外しかた

③カバーを持上げて取外す



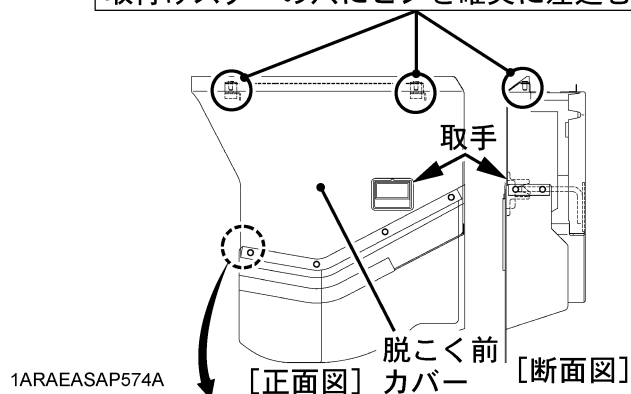
◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

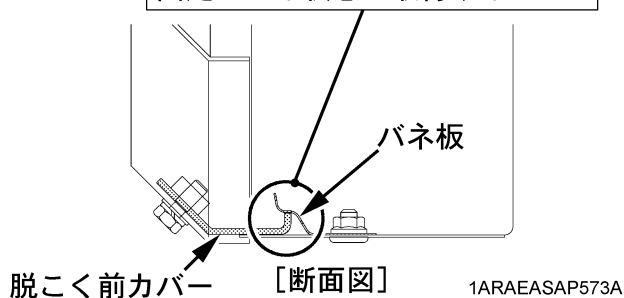
補 足

- * 脱こく前カバーを取付けるとき、上部2箇所ピン部を、本機側の取付けステーの穴に差込んでから取付けてください。また、脱こく前カバーの右下部が、本機側のバネ板に確実に掛かるまで閉じてください。

取付けステーの穴にピンを確実に差込む



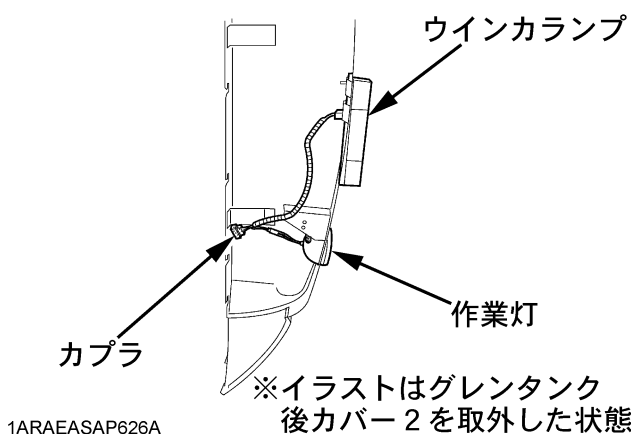
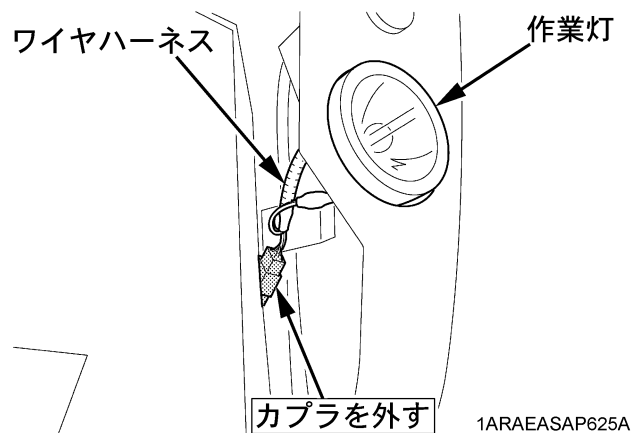
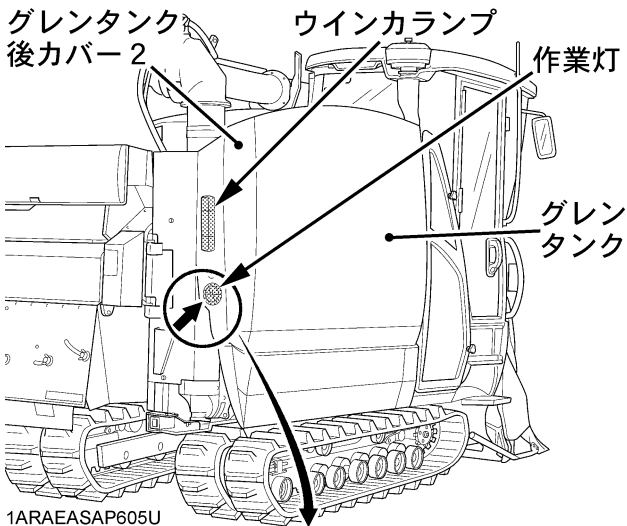
脱こく前カバーの下側がバネ板で固定される状態で取付ける



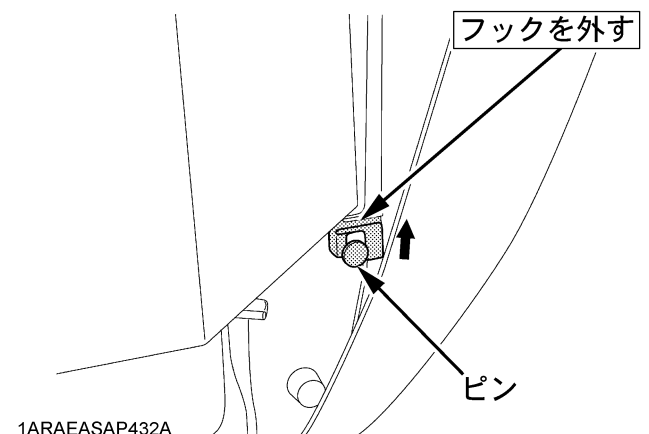
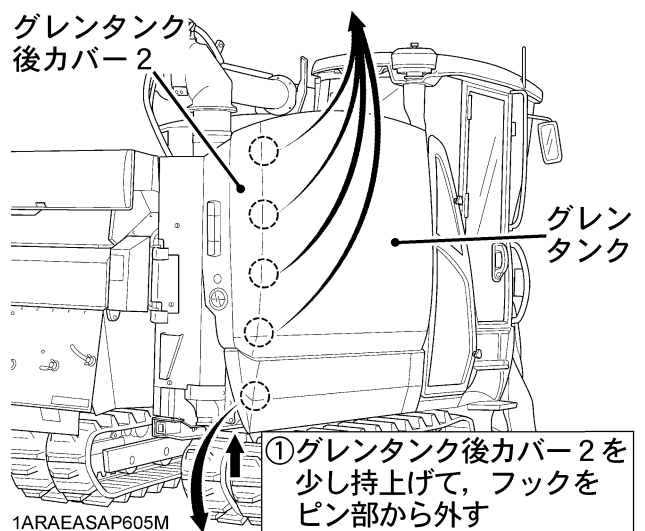
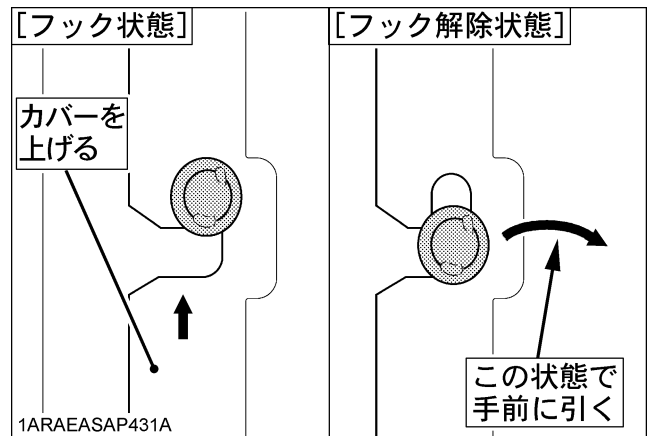
■グレンタンク後カバー 2，グレンタンク下カバーの脱着

◆ 取外しかた

- グレンタンク後カバー 2 を取外します。
(1) グレンタンク後カバー 2 に取付いているウインカランプ，作業灯のワイヤハーネスのカプラを本機側ワイヤハーネスから外します。



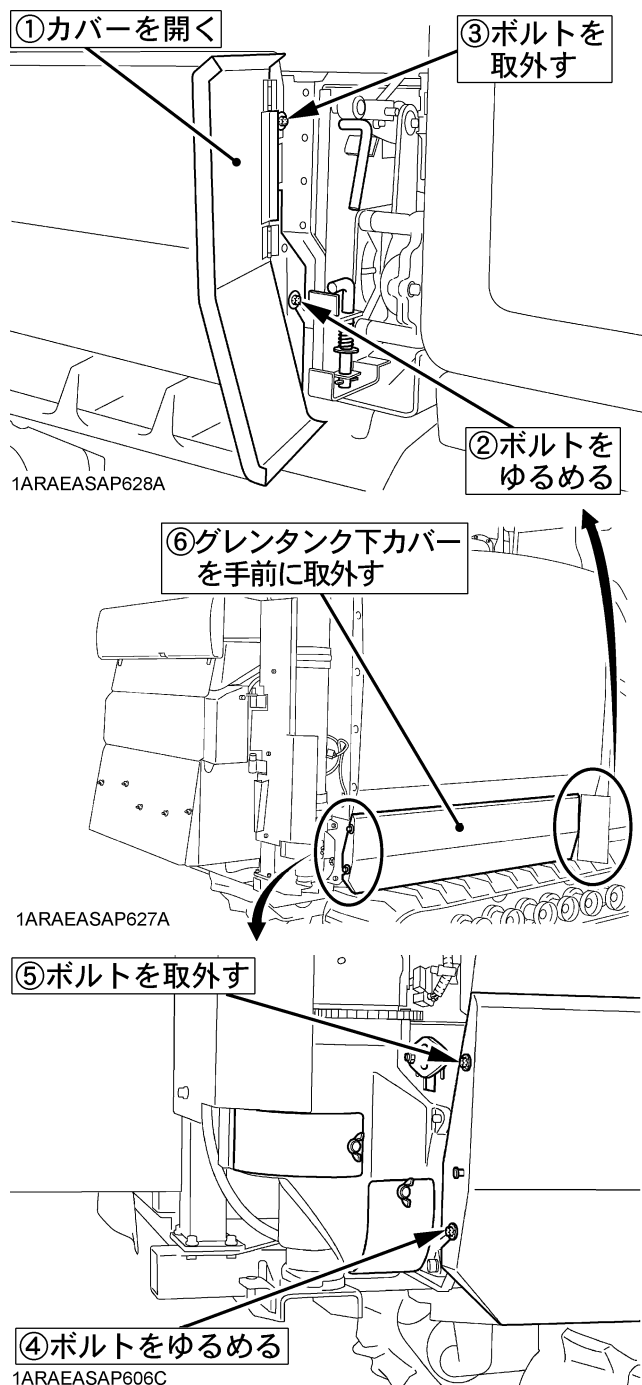
- グレンタンク後カバー 2 を少し持上げて各ピン部からフックを外したあと，手前に引いてグレンタンク後カバー 2 をグレンタンクから外します。



- グレンタンク後カバー 2 を少し開きます。

メンテナンス

2. フック側（下側）のボルトをゆるめ、固定側（上側）のボルトを取外したあと、手前に引いてグレンタンク下カバーを取外します。

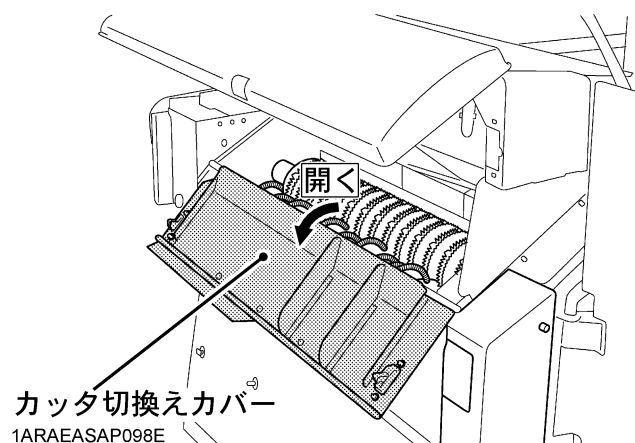
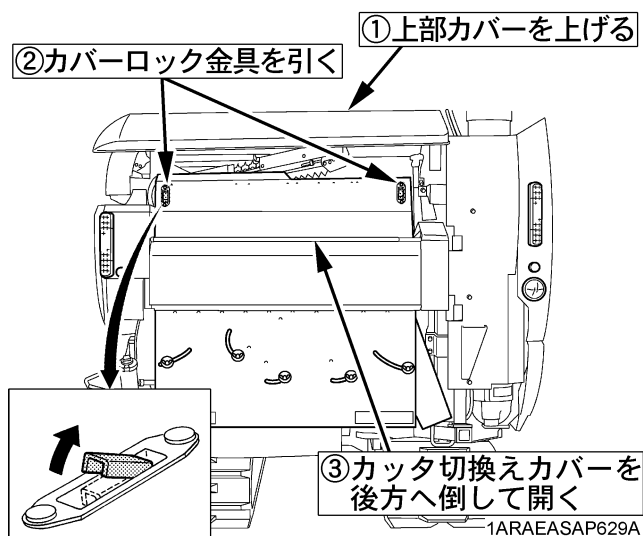


◆ 取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

■ カッタ切換えカバーの開閉

◆ 開きかた



◆ 閉じかた

カッタ切換えカバーを閉じたあと、カバーロック金具を確実にロックしてください。

補 足

- * カッタ切換えカバーを開けたままでは、エンジンを始動しても脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく【入】位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は、必ずカバーロック金具を引きながらカッタ切換えカバーを閉め、カバーロック金具を確実にロックしてください。

■グレンタンクの開閉

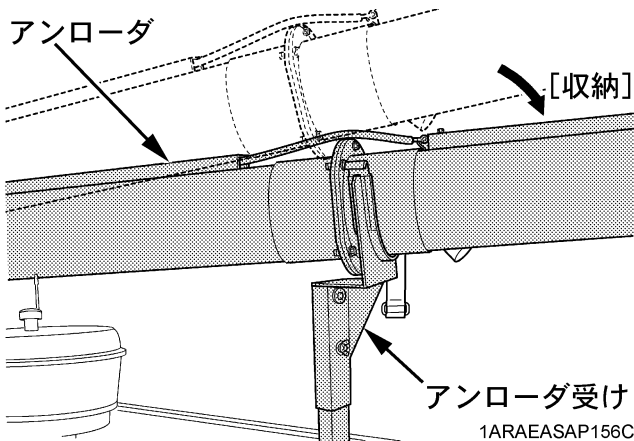


注意

- * グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 傾斜地では、グレンタンクの開閉を行なわないでください。
- * グレンタンク部を開いたときは、グレンタンク部が閉じないように頭付きピンを必ず取付けてください。グレンタンク部が閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。

◆開きかた

1. グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。(113 ページ参照)
2. 主変速レバーを【停止】位置にしたあと、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し、エンジンを停止します。



重要

- * グレンタンクの開閉を行なうときは、アンローダを必ず収納位置にしてください。

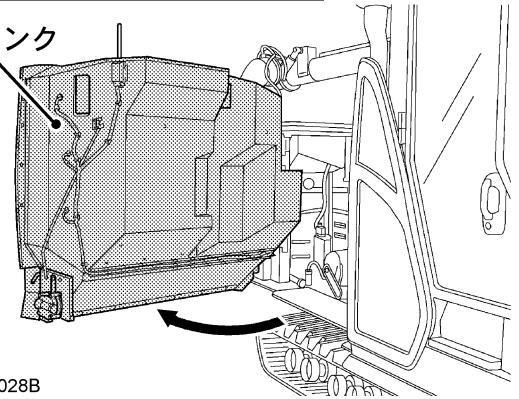
4. グレンタンクを開いたあと、頭付きピンで固定します。

補足

- * グレンタンクは、2段階開きます。メンテナンスなどで必要に応じて開度を選んでください。

[1段階目を開いているときの状態]

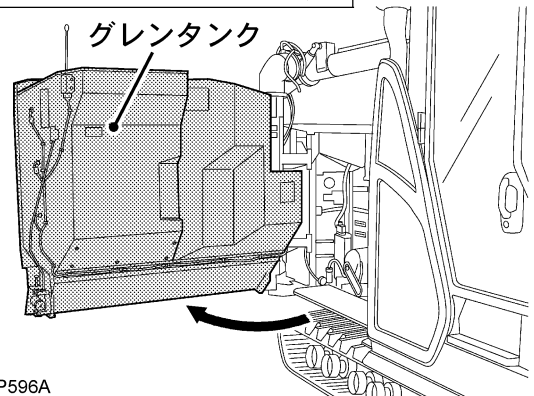
グレンタンク



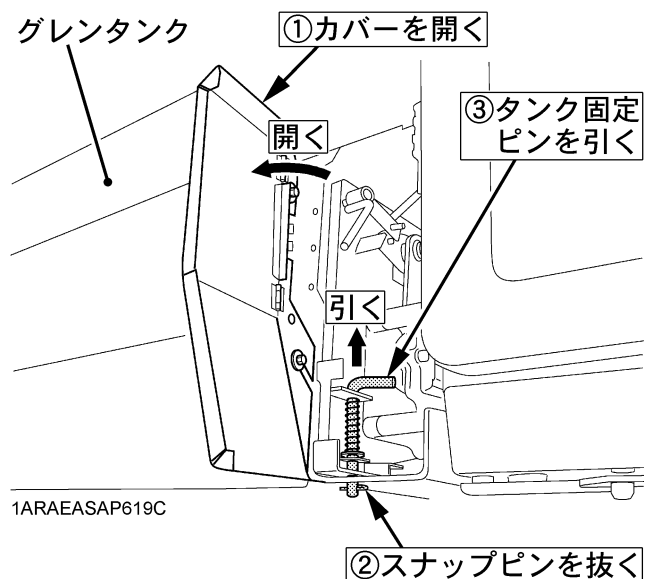
1ARAEASAP028B

[2段階目を開いているときの状態]

グレンタンク



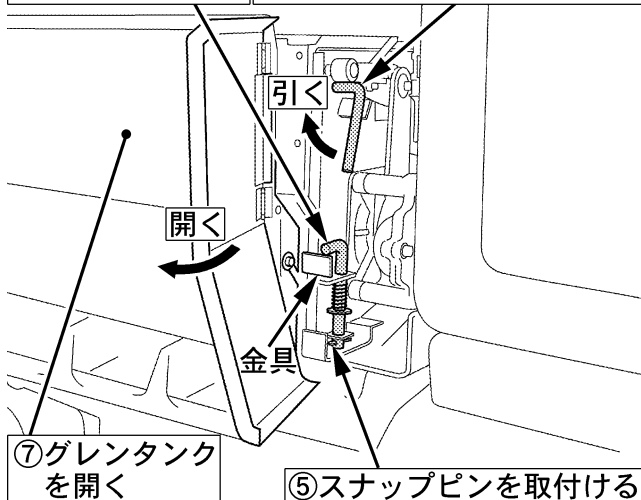
1ARAEASAP596A



1ARAEASAP619C

メンテナンス

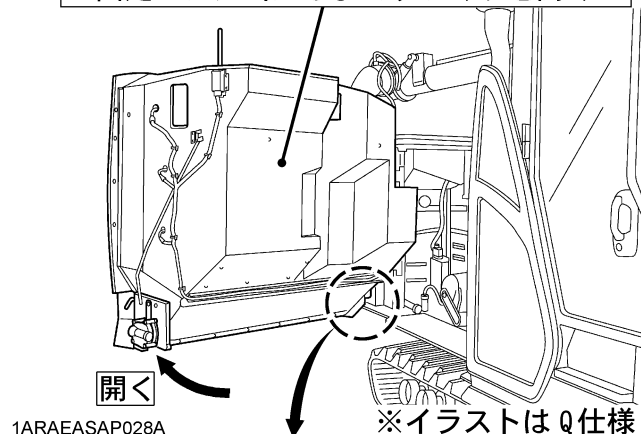
- ④タンク固定ピンを金具に掛ける
⑥グレンタンクをロックしている解除レバーを引く



1ARA-EASAP628C

[1段階目を開く場合]

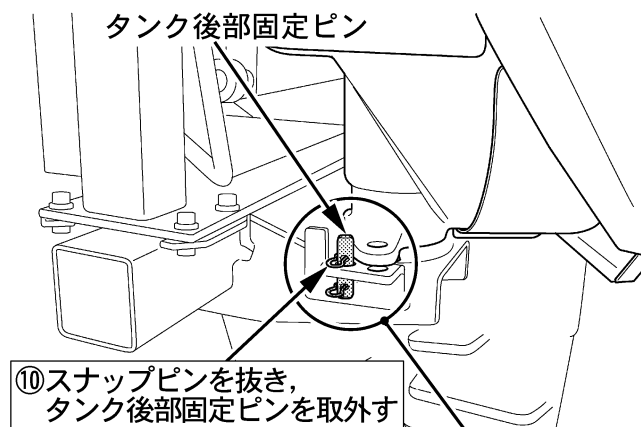
- ⑧グレンタンクを右後部にあるタンク後部固定ピンに当たるまでゆっくりと開く



1ARA-EASAP028A

※イラストはQ仕様

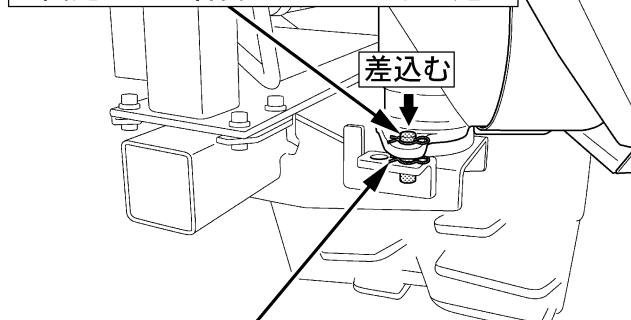
タンク後部固定ピン



1ARA-EASAP692A

- ⑨タンク後部固定ピンにグレンタンクの右後部が当たると止める
⑩スナップピンを抜き、タンク後部固定ピンを取外す

- ⑪前の手順で取外したタンク後部固定ピンを右側の穴に上から差込む



- ⑫スナップピンを下側の穴に差込んでグレンタンクを固定する

1ARA-EASAP693A

補 足

- * タンク後部固定ピンが穴に差込みにくい場合は、グレンタンク本体を軽く開閉方向にゆすってください。

[1段階目を開く場合]

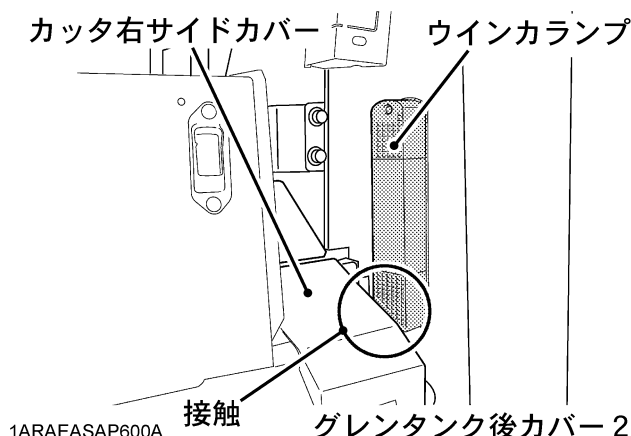
[2段階目を開く場合]

5. グレンタンク後カバー 2 を取外します。(167ページ参照)

重 要

- * グレンタンク後カバー 2 を取付けた状態で、グレンタンクを2段階目まで開くと、グレンタンク後カバー 2 に取付けられているウインランプがカッタ右サイドカバーに接触して破損するおそれがあります。

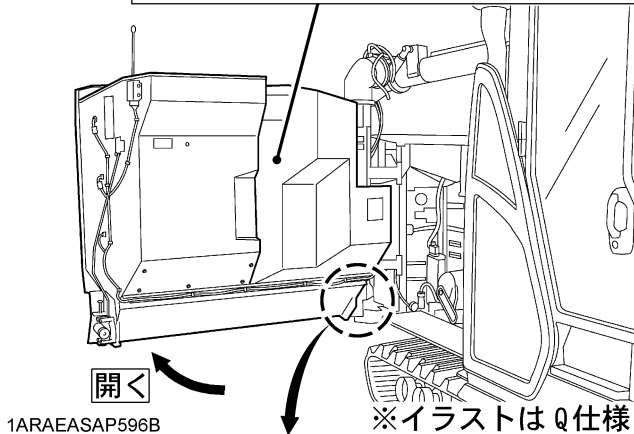
カッタ右サイドカバー ウインランプ



1ARA-EASAP600A

グレンタンク後カバー 2

⑧グレンタンクを右後部にある頭付きピンに当たるまでゆっくりと開く



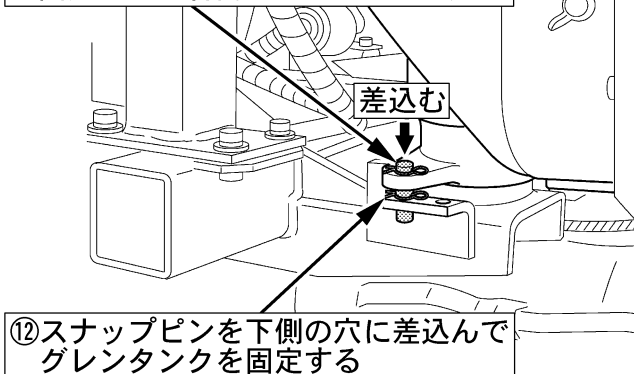
タンク後部固定ピン

⑩スナップピンを抜き、タンク後部固定ピンを取外す

⑨タンク後部固定ピンにグレンタンクの右後部が当たると止める

1ARAEASAP692A

⑪前の手順で取外したタンク後部固定ピンを右側の穴に上から差込む



⑫スナップピンを下側の穴に差込んでグレンタンクを固定する

1ARAEASAP694A

補 足

- * タンク後部固定ピンが穴に差込みにくい場合は、グレンタンク本体を軽く開閉方向にゆすってください。

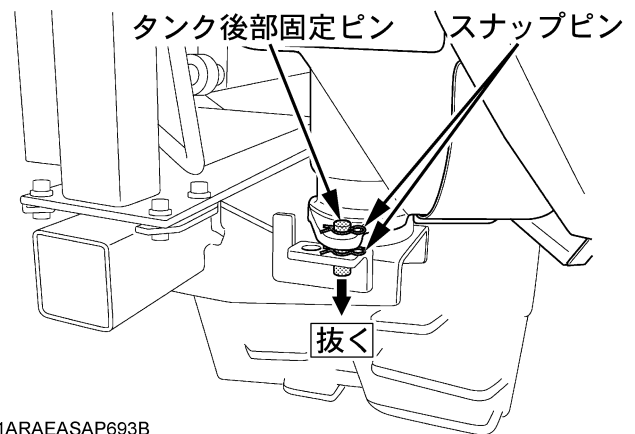
[2段階目を開く場合]

◆閉じかた

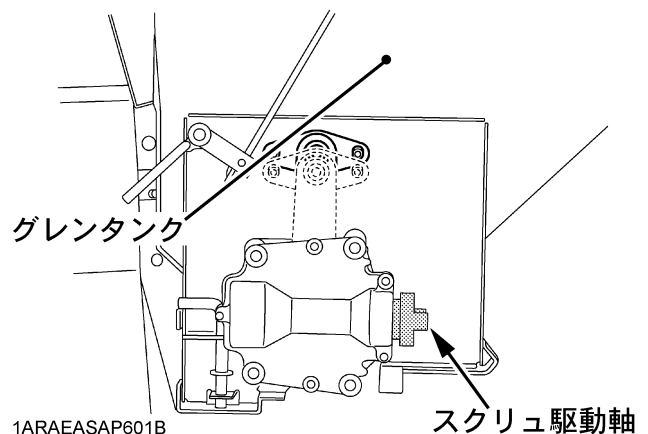
開きかたと逆の手順で閉じます。

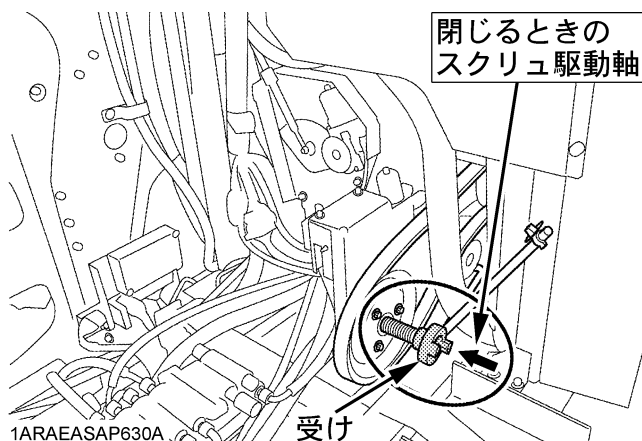
補 足

- * グレンタンクのロックや各固定ピンの取付は確実に行ってください。
- * タンク後部固定ピンを取外すときは、スナップピンを2個取外して固定ピンを下側に抜いてください。また、固定ピンが取外しにくい場合は、グレンタンク本体を開閉方向に軽くゆすってください。



- * グレンタンクを閉じたとき、グレンタンクのタンクスクリュ駆動軸が受けに正しく入らない（回転方向の位置がずれている）場合がありますが、もみを排出するとスクリュ駆動軸と受けが正常にかみ合うため正常な状態となります。





各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行なってください。



警告

- * エンジンを必ず止めてください。
- * 取外したり、開いた回転部のカバー類は衣服などが巻き込み危険ですので必ず取付けてください。
- * 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
- * バッテリー、マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取除いてください。



注意

- * 刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを〔ロック〕位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- * 空運転するときには必ず機体各部の開いたところは閉じ、カバー類を取付けてください。
- * オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品が劣化します。)
- * 刈刃やカッタの掃除・注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

- * 水洗いするときは、電装部品に水を掛けしないでください。故障の原因になります。
- * 取外したボルトやナットは、必ず締付けてください。トラブルの原因となります。

補 足

- * 掃除したあと、もみが掃除口の中に残っていないことを確かめてから各カバーを閉じる又は、各カバーを取付けてください。次回に刈取作業を行なうときにもみが掃除口から漏れます。
- * 脱こく機の中をよく乾燥させてから掃除を行なってください。脱こく機の中が濡れているともみが脱こく機の中に付着します。
- * 湿田で作業したあとは、クローラ及び周辺の泥を必ず取除いてください。

■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには、機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

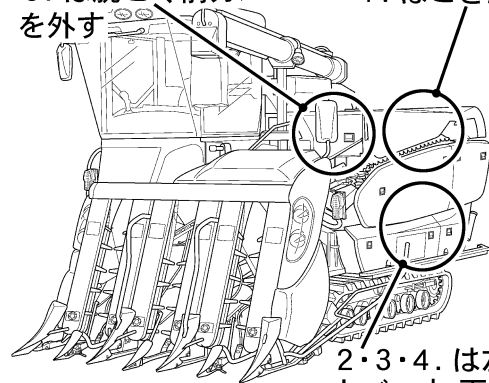
◆ 掃除のしかた

刈取り作業が終わり、もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約3分間空運転します。そのあと、いったん機体各部を収納状態（101 ページ参照）にし、脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にしてエンジンを止めます。

掃除をするときには、各部の開閉や掃除口カバーを取外してください。

◆ 掃除箇所

5. は脱こく前カバー
1. はこぎ胴を開く
を外す

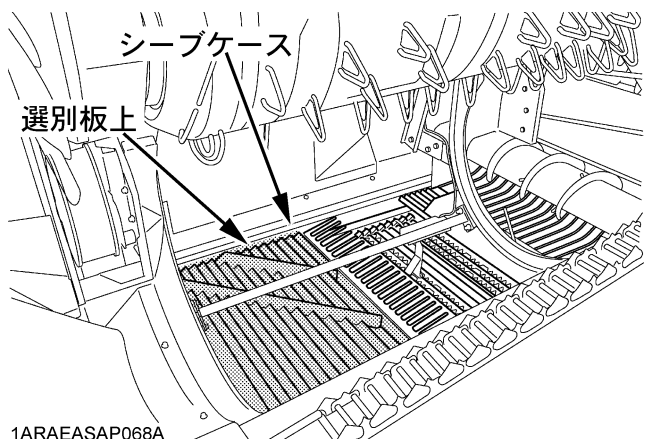


1ARA-EASAP668J

- 2・3・4. は左サイド
カバー上・下を外す

1. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）

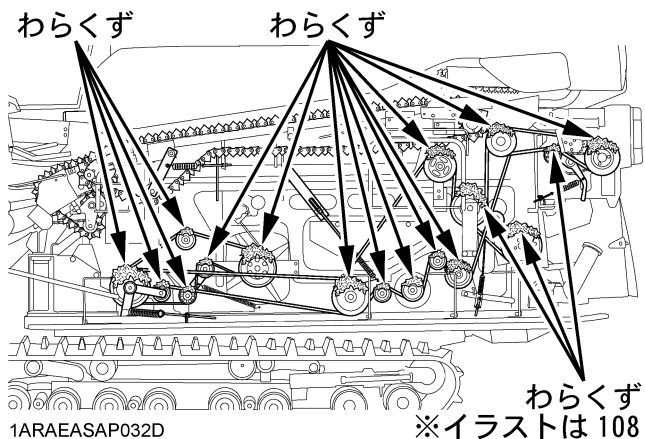
受あみ（上，下）を取外して掃除してください。掃除後は、受あみ（上，下）を取付け、こぎ胴を閉じてください。



1ARA-EASAP068A

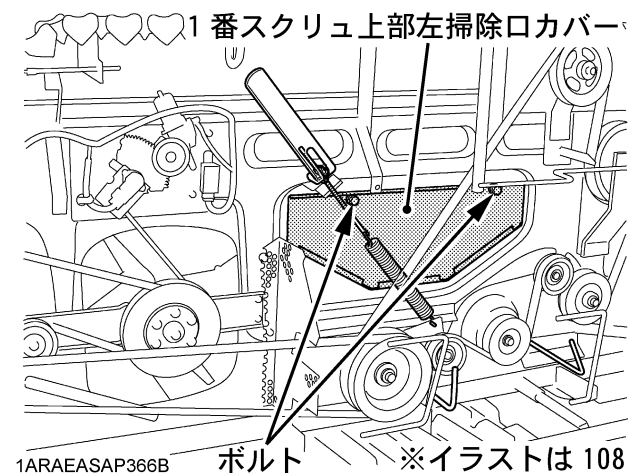
2. ベルトカバー内

左サイドカバー上1, 2及び下1, 2を外したあと、左サイドカバーの内側カバー3箇所を取外して掃除してください。掃除後は、各カバーを取付けてください。(165 ページ参照)



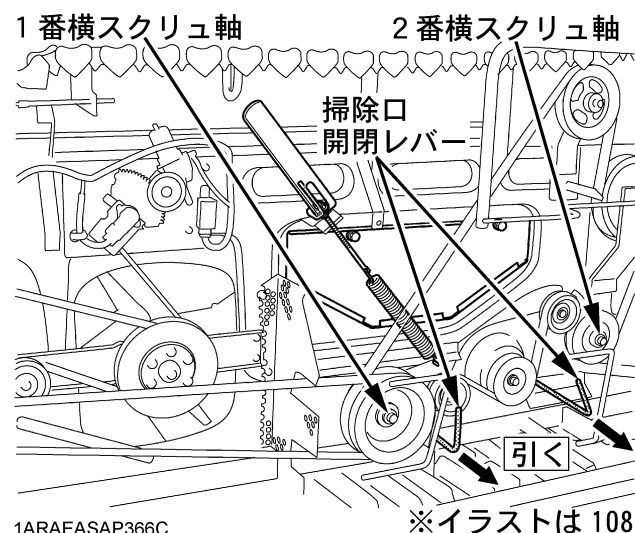
3. 1 番スクリュ上部左掃除口

ボルトを外し、1 番スクリュ上部の掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は、掃除口カバーを取付けてください。



4. 1・2 番横スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを引いて、1・2 番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は、掃除口開閉レバーを押し込んで、各カバーを取付けてください。

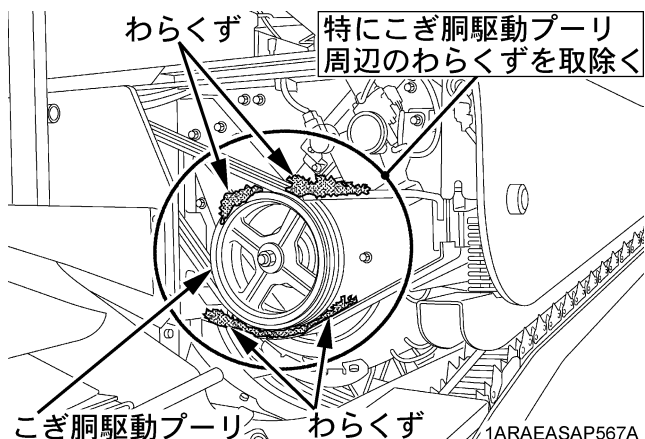


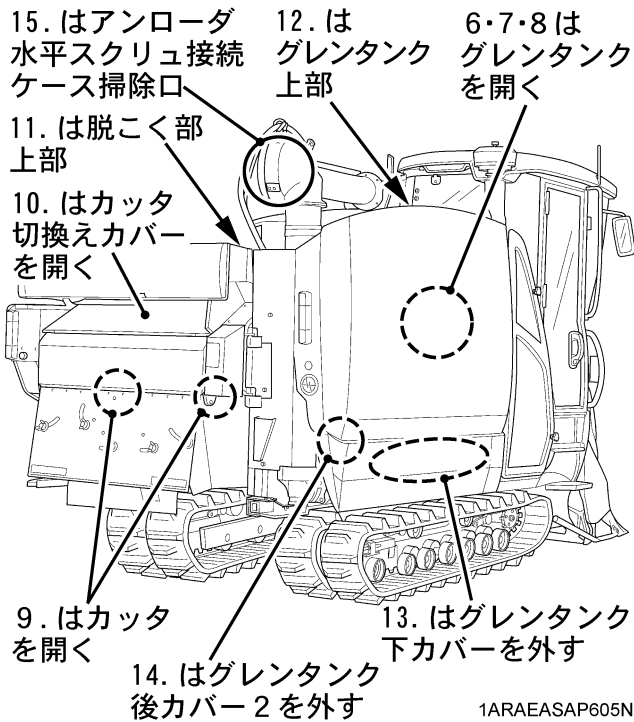
補 足

- * 掃除口開閉レバーは2～3回繰り返して押し引きしてください。
- * 掃除口の開閉カバーは横スクリュ軸下側にあります。

5. 脱こく前カバー内

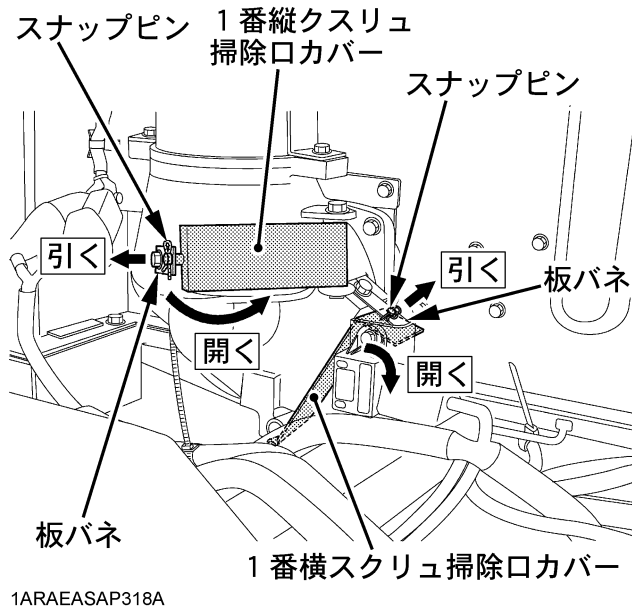
脱こく前カバーを取外してください (166 ページ参照) 掃除後は、脱こく前カバーを取付けてください。





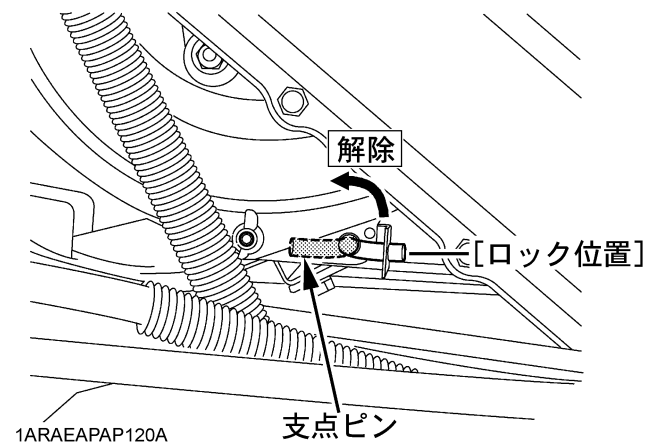
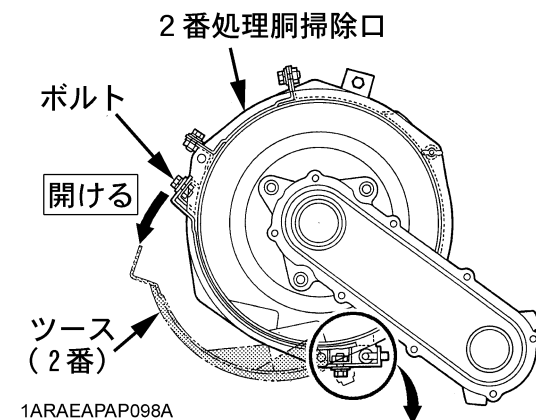
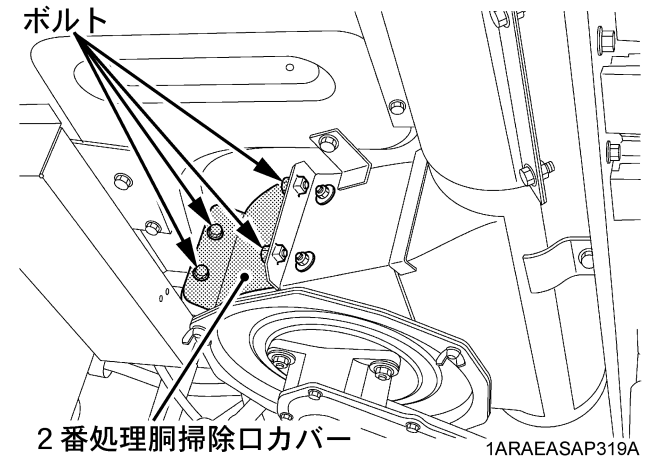
6. 1 番縦・横スクリュ掃除口

スナップピンを取外したあと、板バネを引いて1 番縦・横スクリュ掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は、掃除口カバーを閉じて、板バネの穴にピンが入っていることを確認してからスナップピンを取付けたあと、グレンタンクを閉じてください。



7. 2 番処理胴（ツースパー）・ツース（2 番）掃除口

ボルトを外して2 番処理胴の掃除口カバーを取外したあと、ボルトを外してツース（2 番）を開けて掃除してください。掃除後は、掃除口カバーを取付け、ツース（2 番）を閉じ、グレンタンクを閉じてください。



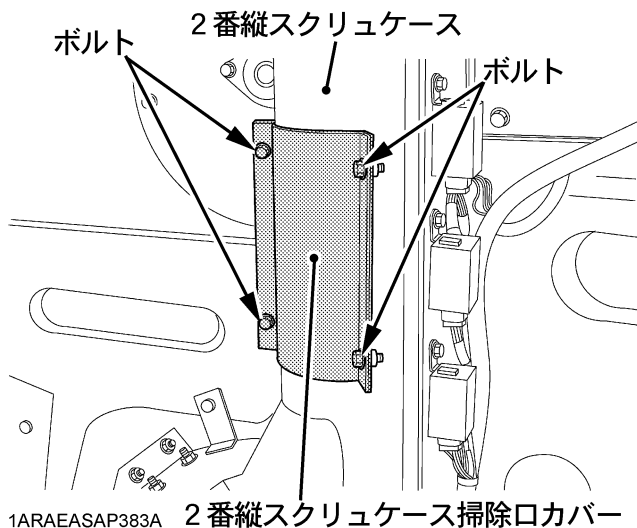
補 足

* ツース（2 番）は支点ピンを外すと取外すことができます。

メンテナンス

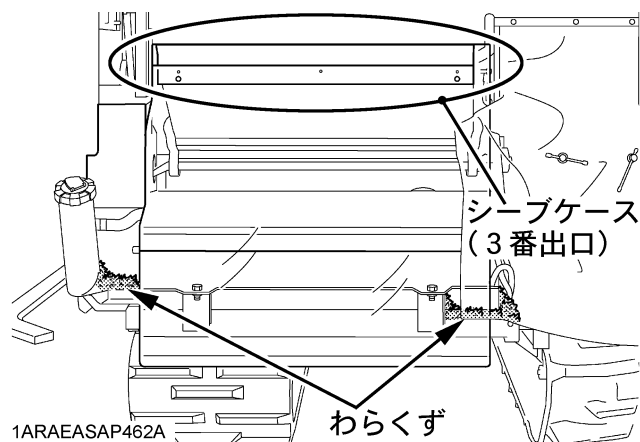
8. 2 番縦スクリュケース掃除口

ボルトを外して 2 番縦スクリュケースの掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は、掃除口カバーを付け、グレンタンクを閉じてください。



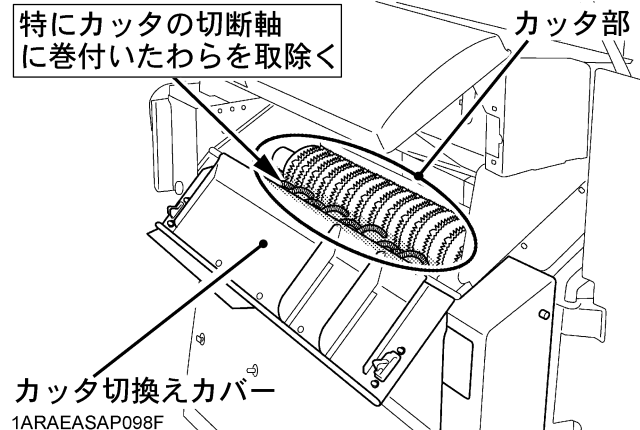
9. シーブケース後部（3 番出口）

カッタ部を開いて掃除してください。掃除後は、カッタ部を閉じてください。



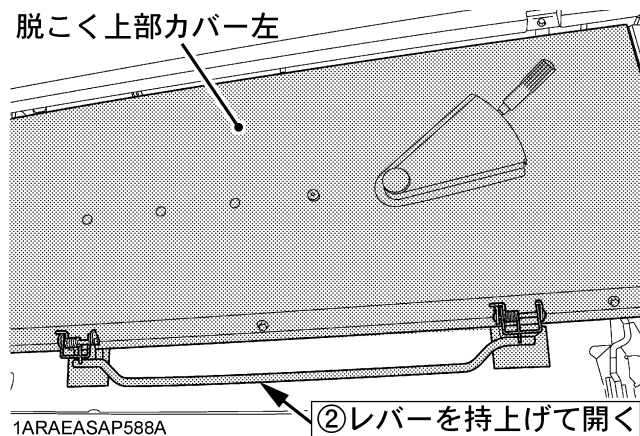
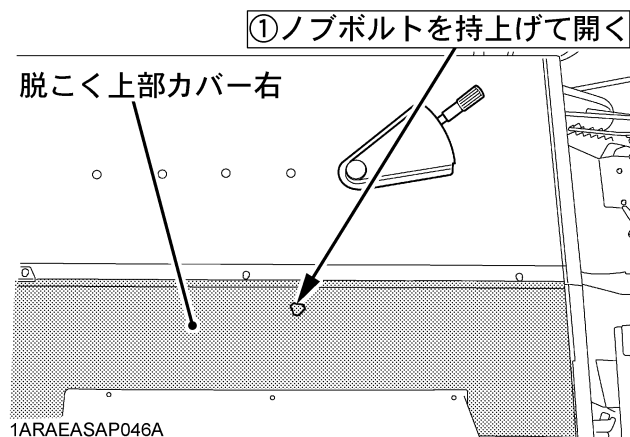
10. カッタ部内

カッタ切換えカバーを開いて掃除してください。掃除するときは、特にカッタの切断軸に巻付いたわらは全て取除いてください。掃除後は、カッタ切換えカバーを閉じてください。



11. こぎ室内

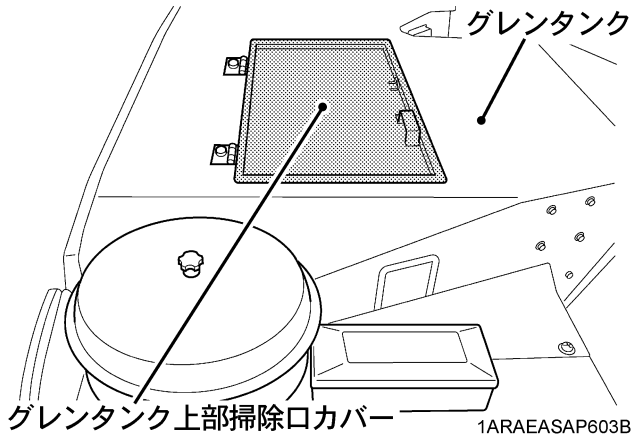
グレンタンクを開いたあと、脱こく上部カバー右のノブを持上げて開閉カバーを開き、脱こく上部カバー左のハンドルを持上げて開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は、左、右の上部カバーを閉じたあと、グレンタンクを閉じてください。



12. グレンタンク内

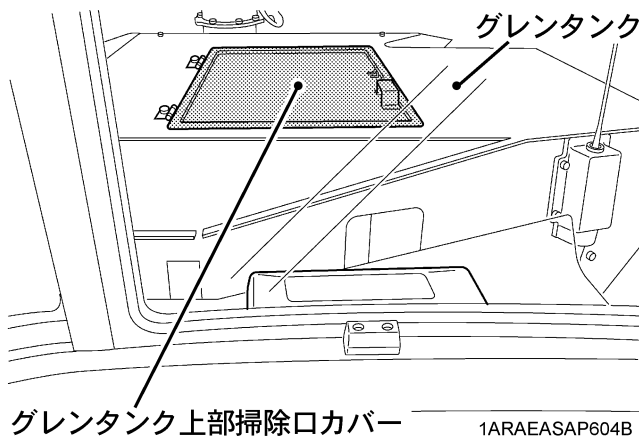
掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は、開閉カバーを閉じてください。

[Q 仕様除く]



[Q 仕様除く]

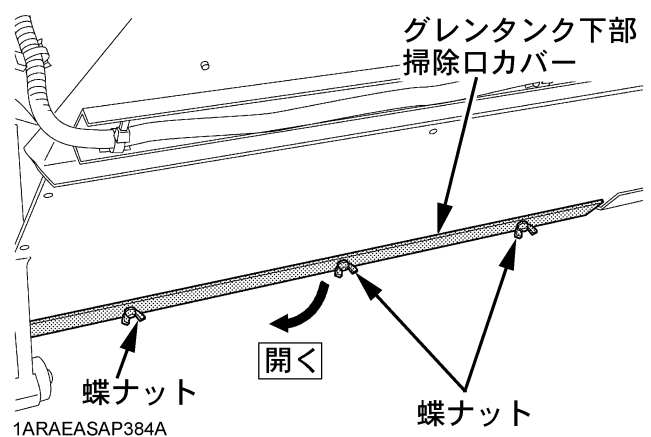
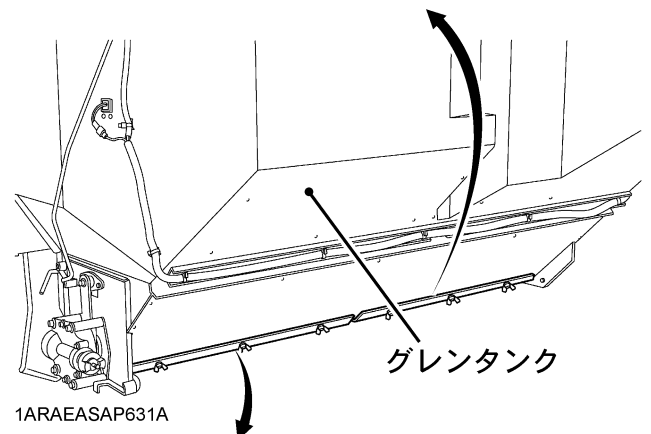
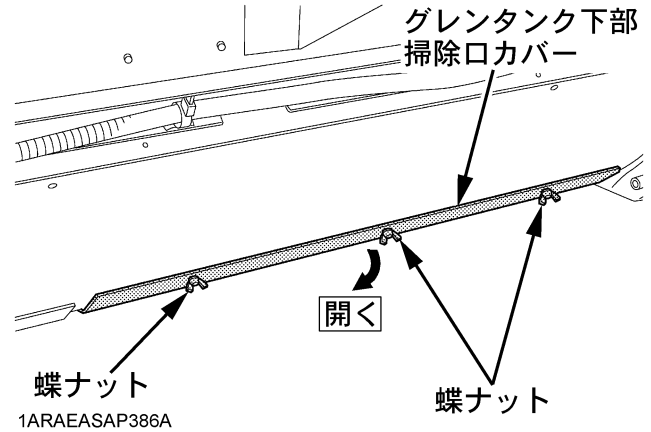
[Q 仕様]



[Q 仕様]

13. グレンタンク下部掃除口

グレンタンクを開いたあと、蝶ナットを取外し、掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は、掃除口カバーを取付けたあと、グレンタンクを閉じます。

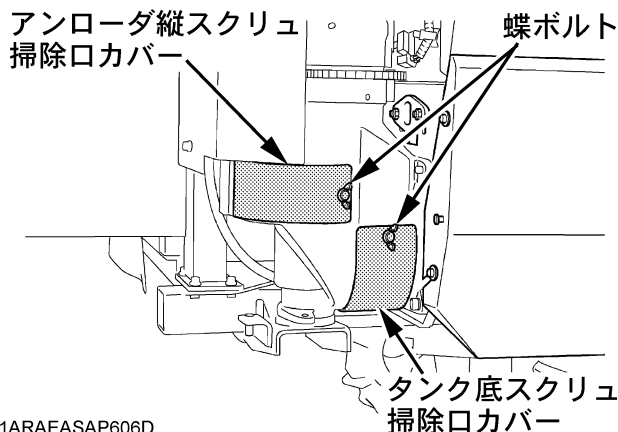


重要

* グレンタンク下部掃除口カバーを開いた状態で、グレンタンクを閉じないでください。掃除口カバーが変形するおそれがあります。

14. アンローダ縦スクリュ・タンク底スクリュ掃除口

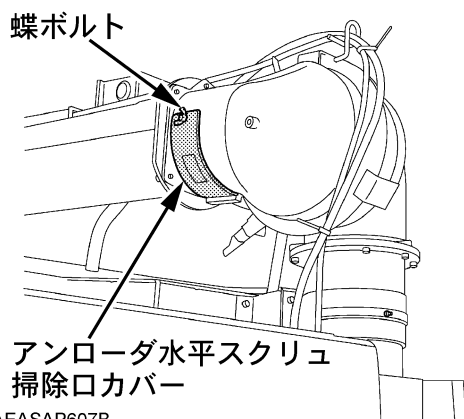
グレンタンク後カバー2を取外したあと、蝶ボルトを取外して掃除口カバーを外して掃除してください。掃除後は、掃除口カバーを取付けたあと、グレンタンク後カバー2を閉じてください。



1ARAEASAP606D

15. アンローダ水平スクリュ・接続ケース掃除口

アンローダをいっぱいまで上昇させたあと、蝶ボルトを外してアンローダ水平スクリュ掃除口カバーを外して掃除してください。掃除後は、掃除口カバーを取付けてください。



1ARAEASAP607B

◆掃除後の処置と確認

掃除終了後は、取外したり、開いた掃除口カバーや安全カバーは必ず閉じる又は、取付けてください。

■各部の注油



警告

- * 回転物や可動部に手や腕など体を近付けしないでください。巻込まれてケガをするおそれがあります。特に機械が動いているとき、油差しを使つての注油作業や注油後の確認を行なうときは、じゅうぶん注意してください。
- * 木片などで車止めをし、暴走を防いでください。
- * そで口はきっちり止めて、はち巻き、首巻き、腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
- * 刈取部、引起し部などの各部を開いて作業を行なうときは、下記事項を遵守してください。
 - 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
 - 傾斜地では、各部の開閉は行なわないでください。
 - 刈取部、引起し部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
 - 各部を開いた状態で走行をしないでください。
 - 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 刈取部を開いた状態で作業するときは、枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部の開閉を行なうときは、機体を最下降位置にしてください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。



注意

- * エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは、ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

機体各部の掃除が終わったあと又は、刈取り作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行ってください。

◆自動集中注油装置による注油

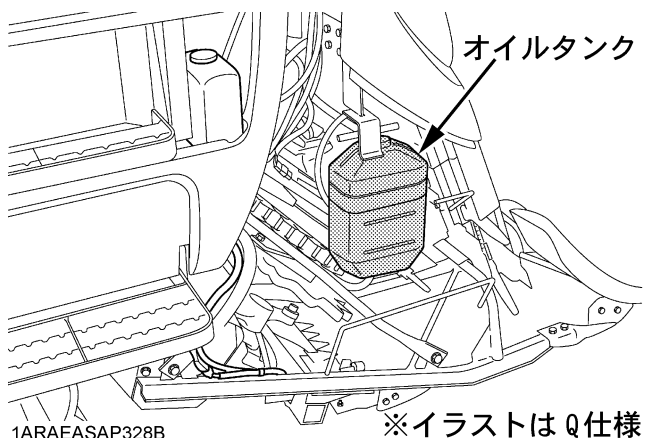
自動集中注油装置の注油スイッチを押して各 작동部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補 足

- * 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では、気温の上がる昼間に注油してください。
- * 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

●注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から5～15cmの位置にしたあと、エンジンを停止します。
2. 引きしサイドカバー右を取外し、オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



重 要

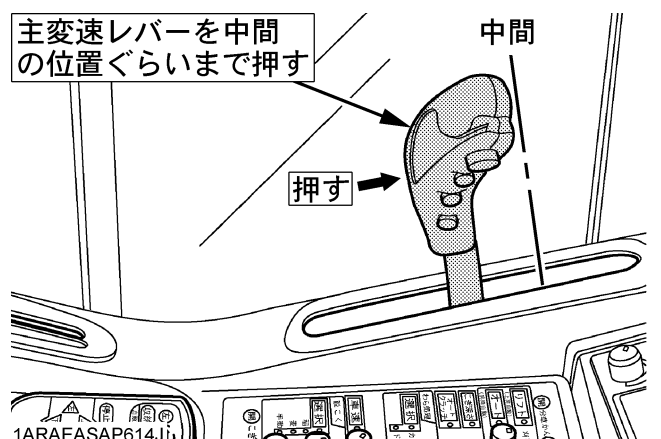
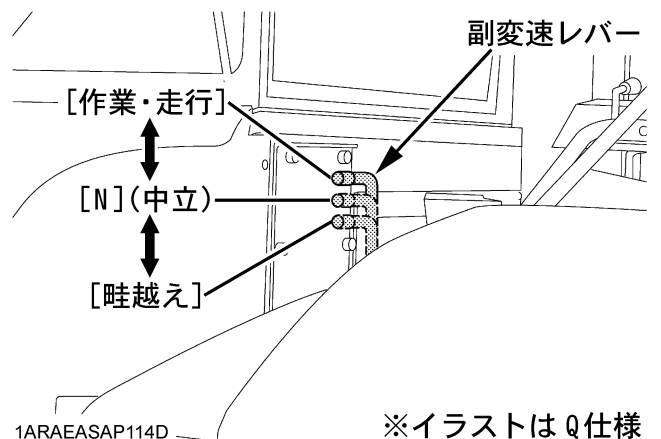
- * 廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると、ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

オイルの種類	オイルタンク容量
D30 又は、D10W-30	約 4L

3. エンジンを再始動したあと、エンジン回転数を中速回転（約 2000rpm）にし、脱こく・刈取クラッチレバーを**刈取【入】**位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

補 足

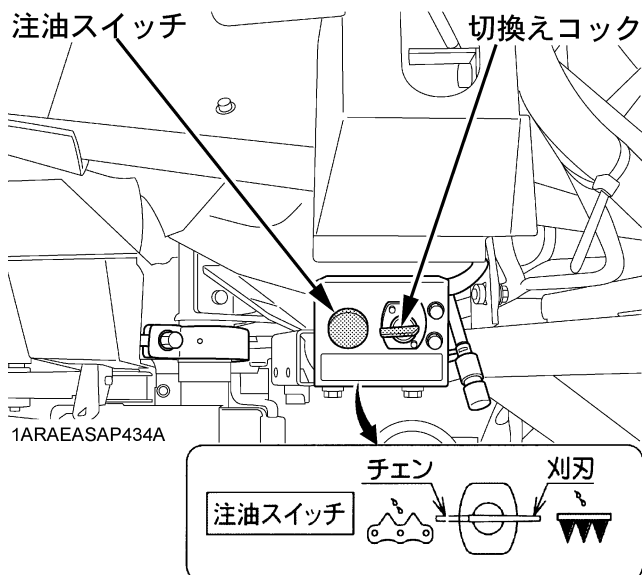
- * チェーンは中速回転で注油してください。その際、2番警報が出ますが、異常ではありません。
 - * 注油したときチェーンが停止していると、オイルが1箇所に集中するため、ベルトやカバーにオイルが付着したり、チェーンのスリップの原因となります。
4. 副変速レバーを**【N】（中立）**位置にしたあと、駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで押します。



メンテナンス

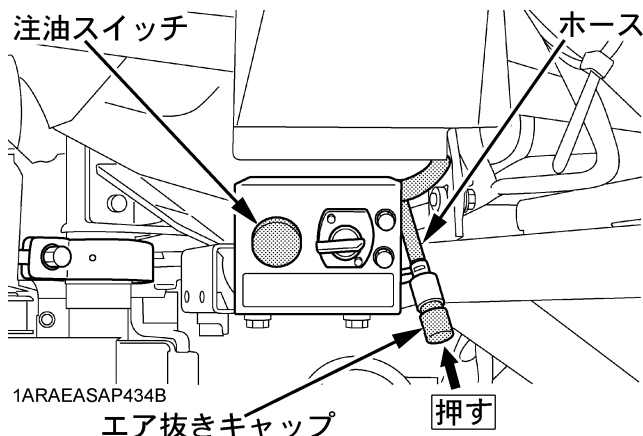
5. 切換えコックの位置を確認（**チェーン**位置 / **刈刃**位置）して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。

- チェーン位置… 7 ～ 10 秒間**連続**で押す。
- 刈刃位置……… 5 ～ 7 秒間**断続**で押す。



◆エア抜きの方法

図示のエア抜きキャップを押してから、注油スイッチを押して、油を送出してください。



1. 注油後 2 ～ 3 分間そのままの状態 で運転します。
2. 主変速レバーを **【停止】** 位置にし、エンジンを止めたあと、引起しサイドカバー右を取付けます。

重 要

- * オイルタンク内のオイルが空の状態 で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
 - * 万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り、注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は、エア抜きキャップを押し、エア抜きしてから作動してください。
 - * 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく、故障の原因になります。
6. エンジンを停止したあと、各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

補 足

- * 注油されていないときは、各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。
 - * 最初の 1 回目は配管内部にオイルがゆきわたり、配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒かかります。
7. 主変速レバーを **【停止】** 位置にしたあと、副変速レバーを **【作業・走行】** 位置にします。

◆ 注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布

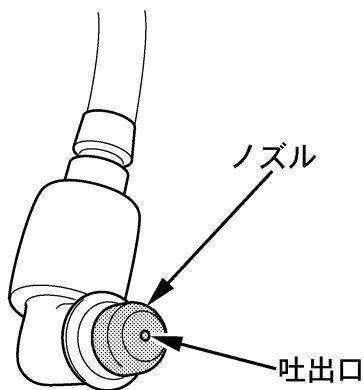
自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は、油差しで行なってください。

1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた

ノズルからオイルが出ていないときは、**エンジンを必ず止めて**、各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは、水洗い又は、圧縮空気などを使用してください。

補 足

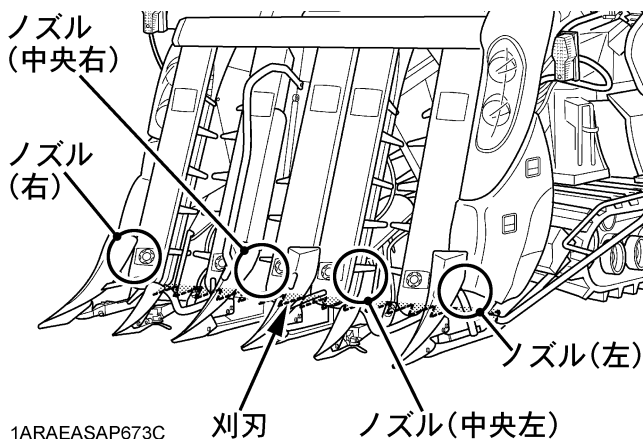
* ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは、必ず針などを使用してください。つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また、各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を取外すと掃除が容易に行なえます。



1ARADAFAP481A

● 刈刃

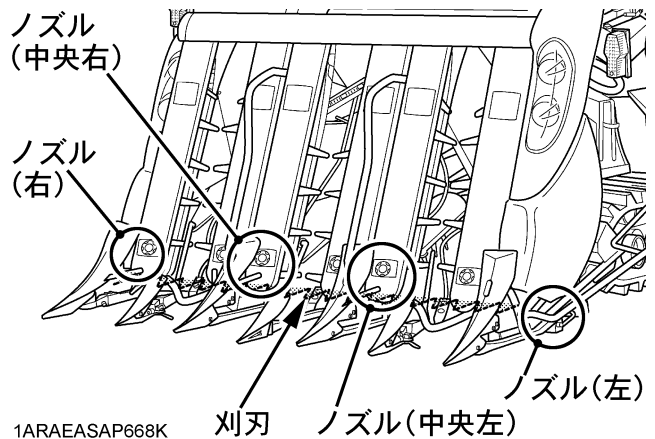
[572・587]



1ARAEASAP673C

[572・587]

[698・108]

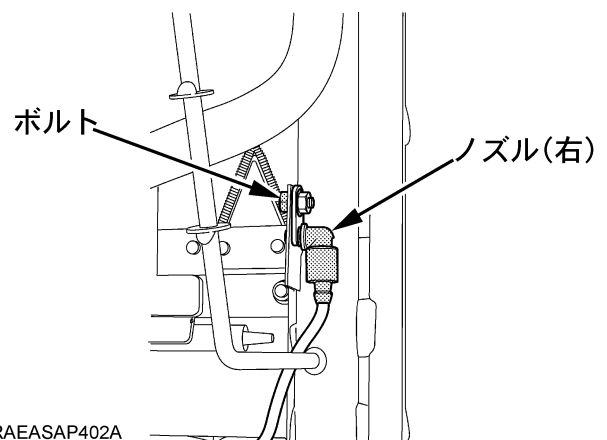


1ARAEASAP668K

[698・108]

掃除箇所

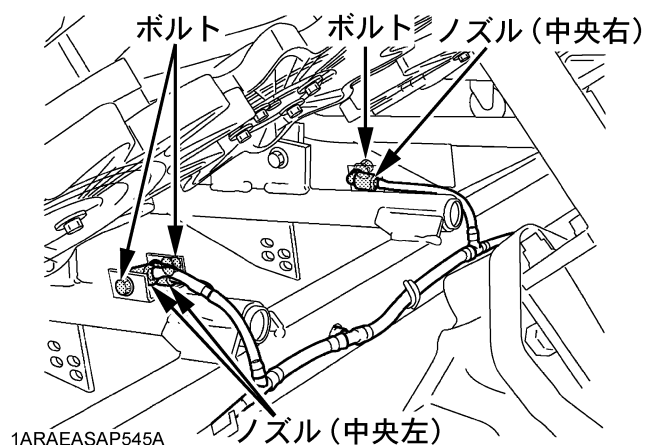
刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし、泥などの異物を取除いてください。また、引起しサイドカバー左右を取外したあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、引起しサイドカバー左右を取付けてください。



1ARAEASAP402A

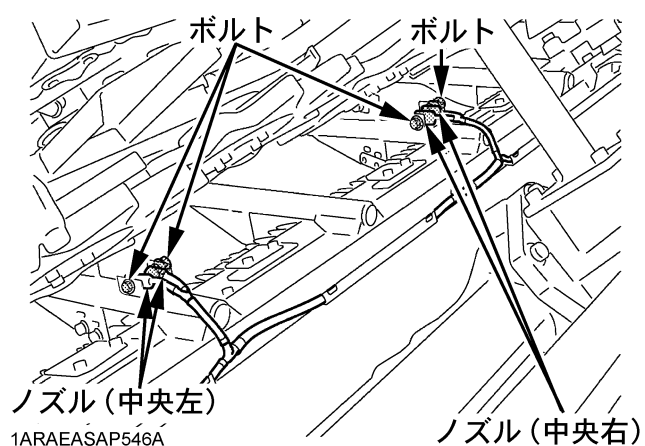
メンテナンス

[572・587]

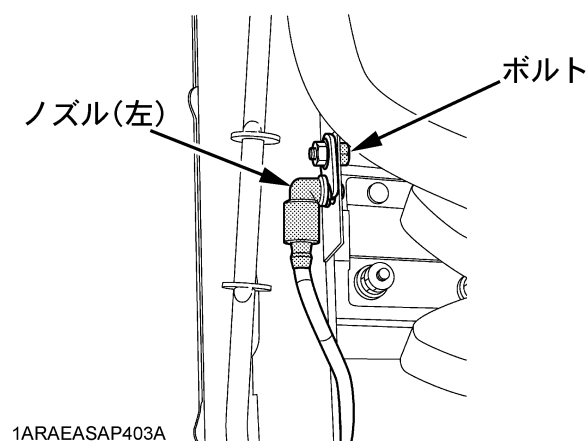


[572・587]

[698・108]

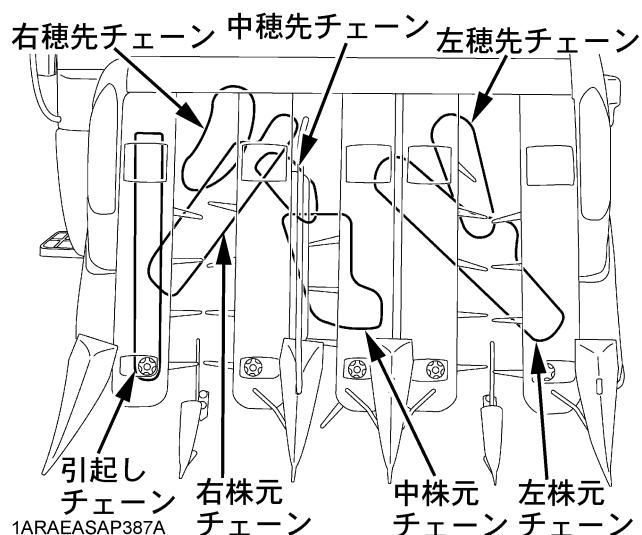


[698・108]



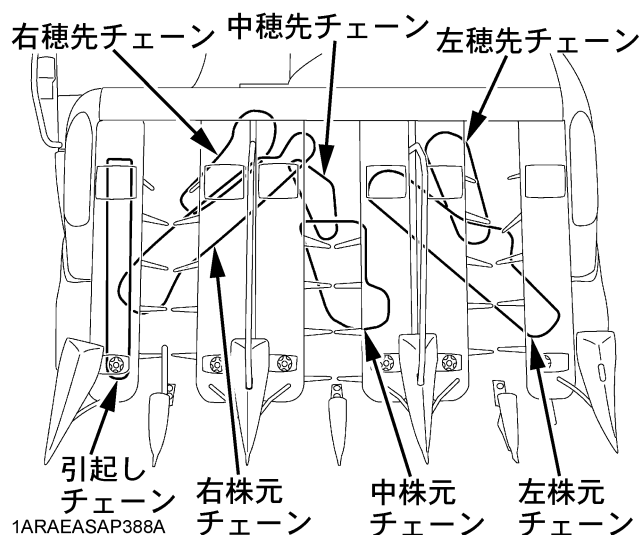
- 引きしチェーン・右穂先チェーン
- 右株元チェーン・中穂先チェーン
- 中株元チェーン・左穂先チェーン
- 左株元チェーン・株元供給チェーン
- 供給サポートチェーン
- 供給サポートチェーン駆動チェーン
- こぎ深さチェーン・フィードチェーン
- 排わら穂先チェーン・排わら株元チェーン

[572・587]



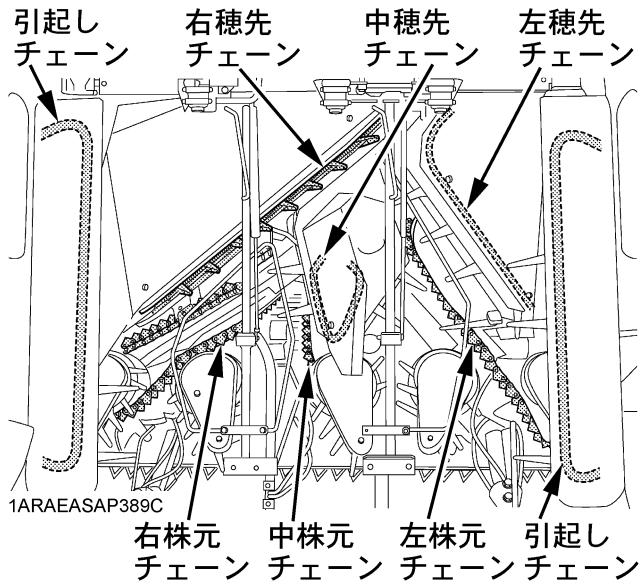
[572・587]

[698・108]



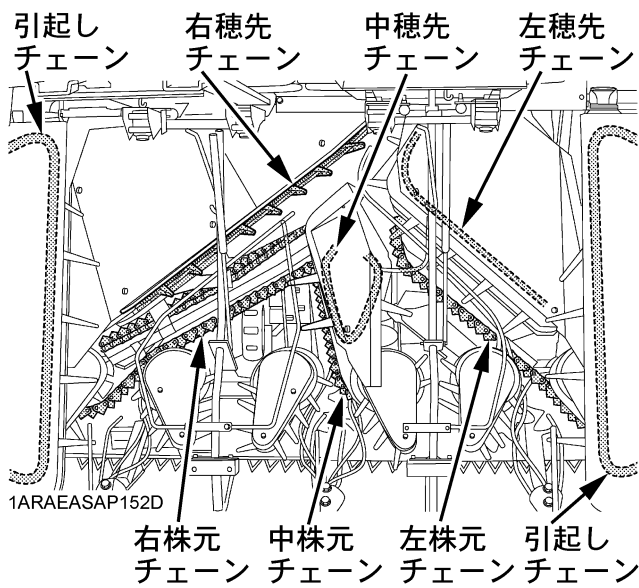
[698・108]

[572・587]

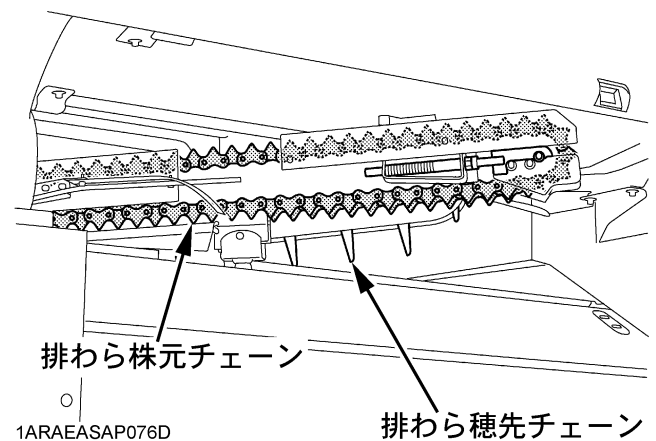
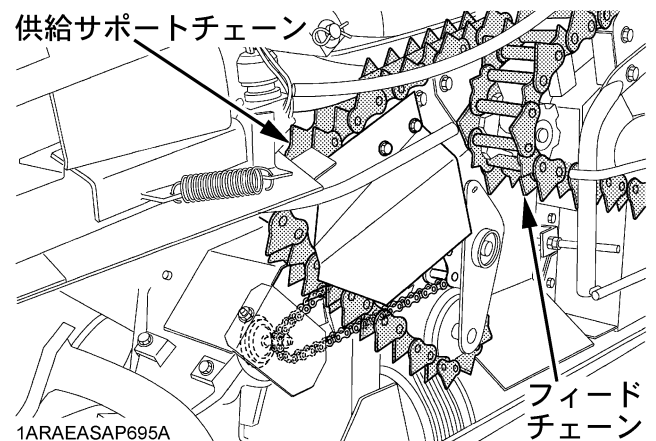
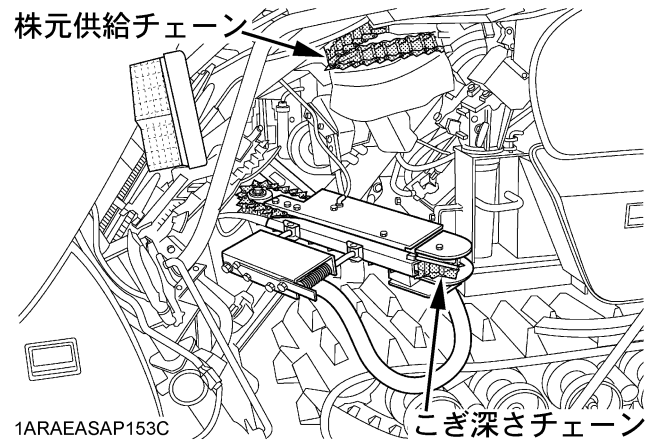


[572・587]

[698・108]



[698・108]

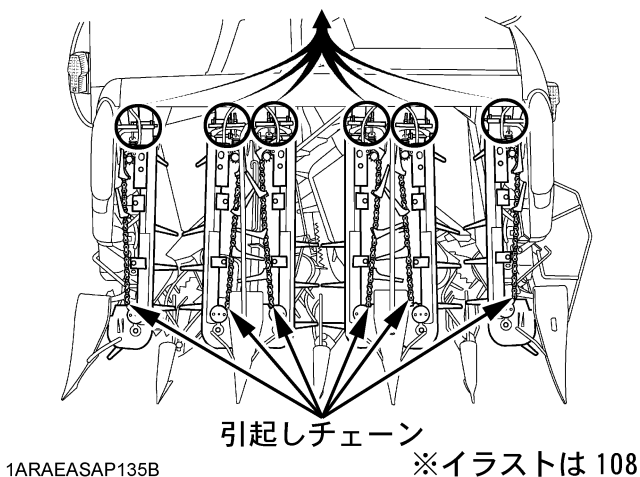
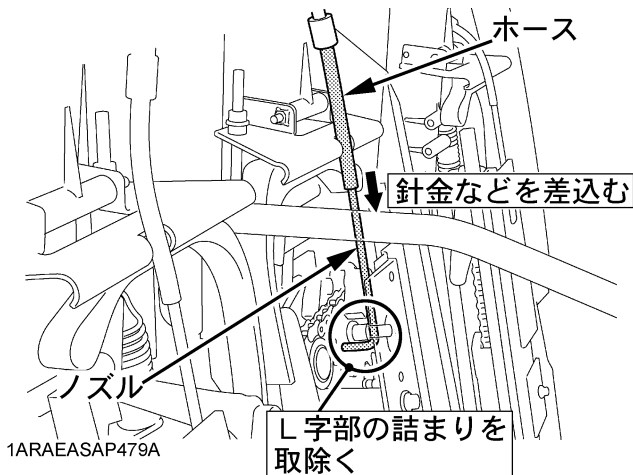


メンテナンス

掃除箇所

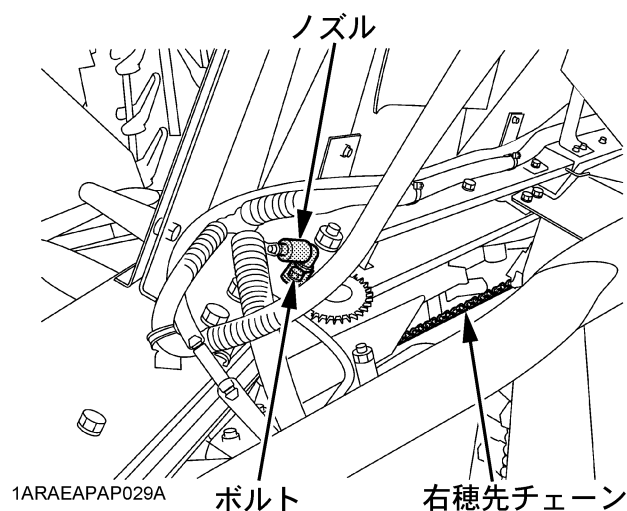
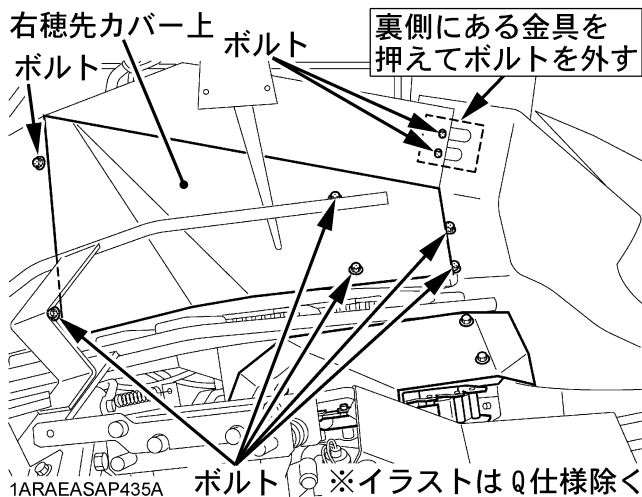
●引きしチェーン

各引きしカバーを取外したあと、ホースをノズルから抜き取り、針金などでL字部の詰まりを取除いてください。掃除後は、各引きしカバーを取付けてください。



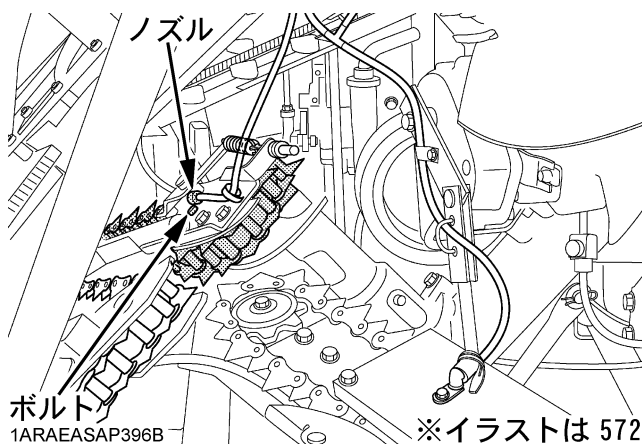
●右穂先チェーン

ボルトを外して右穂先カバー上を取外したあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、右穂先カバー上を取付けてください。



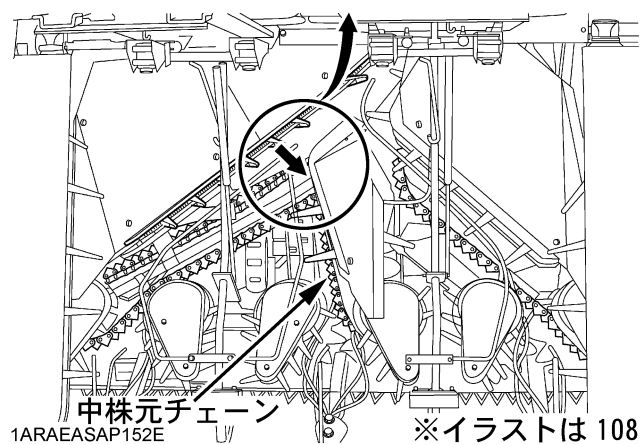
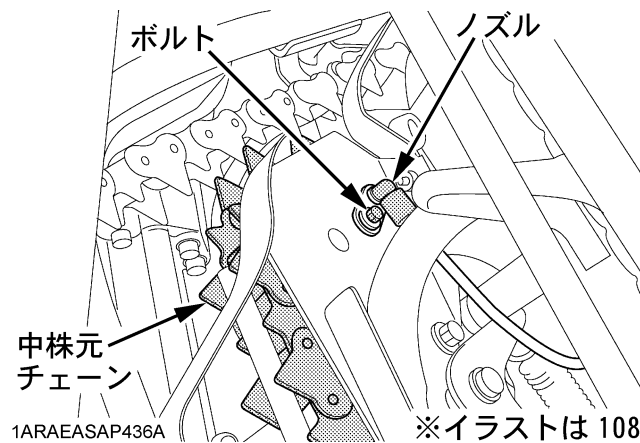
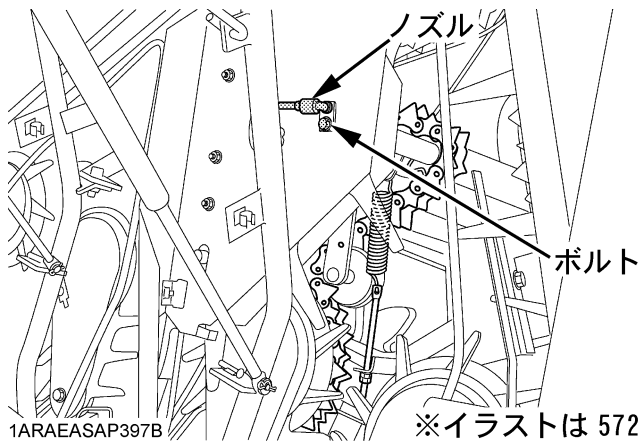
●右株元チェーン

ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けてください。



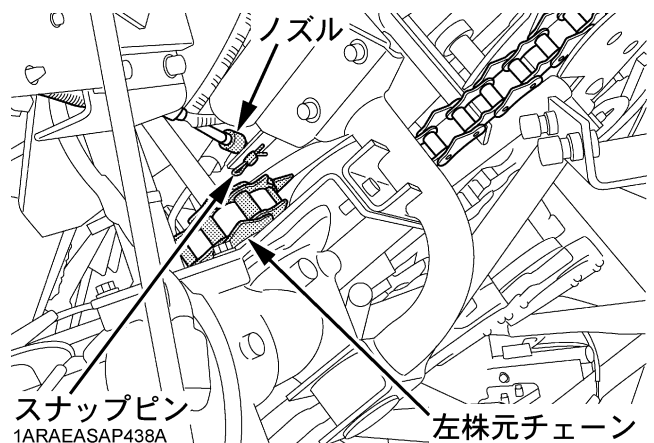
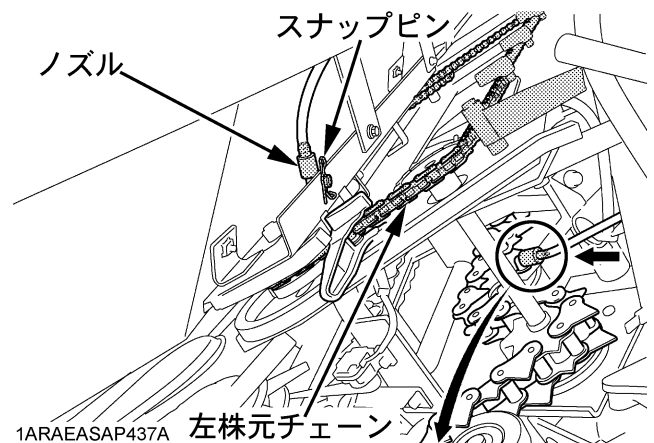
●中穂先チェーン・中株元チェーン

引起し部を開いたあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、引起し部を閉じてください。



●左穂先チェーン・左株元チェーン

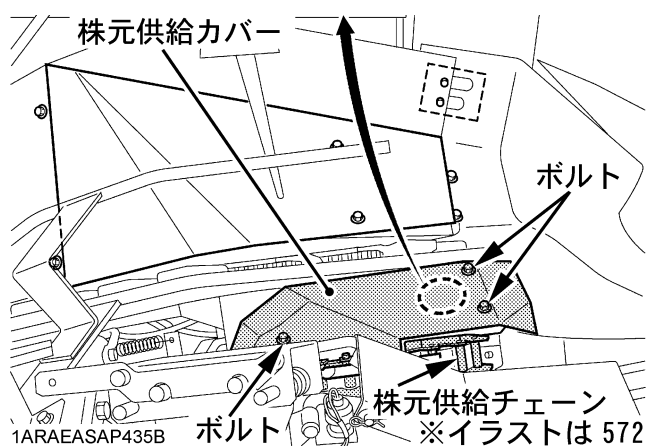
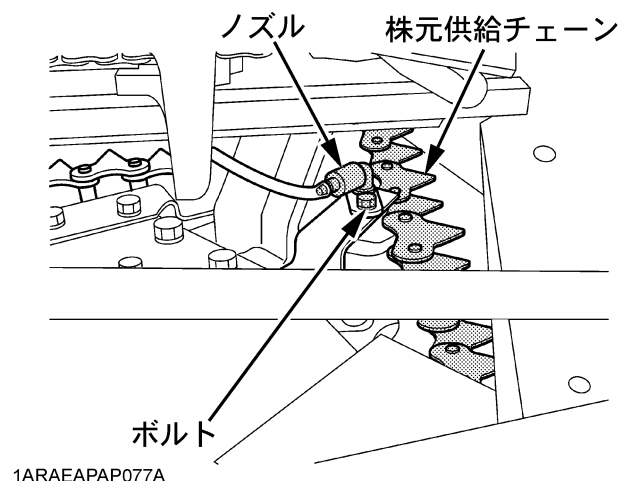
刈取左サイドカバーを取外したあと、スナップピンを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、スナップピンを取付けたあと、ノズルを取付け刈取左サイドカバーを取付けてください。



メンテナンス

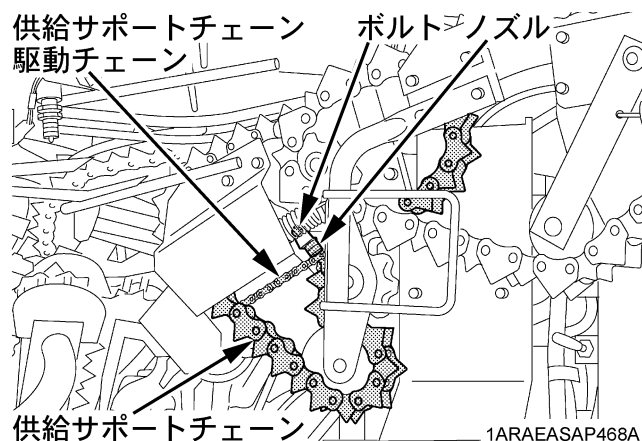
●株元供給チェーン

ボルトを外し、株元供給カバーを取外したあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、株元供給カバーを取付けてください。



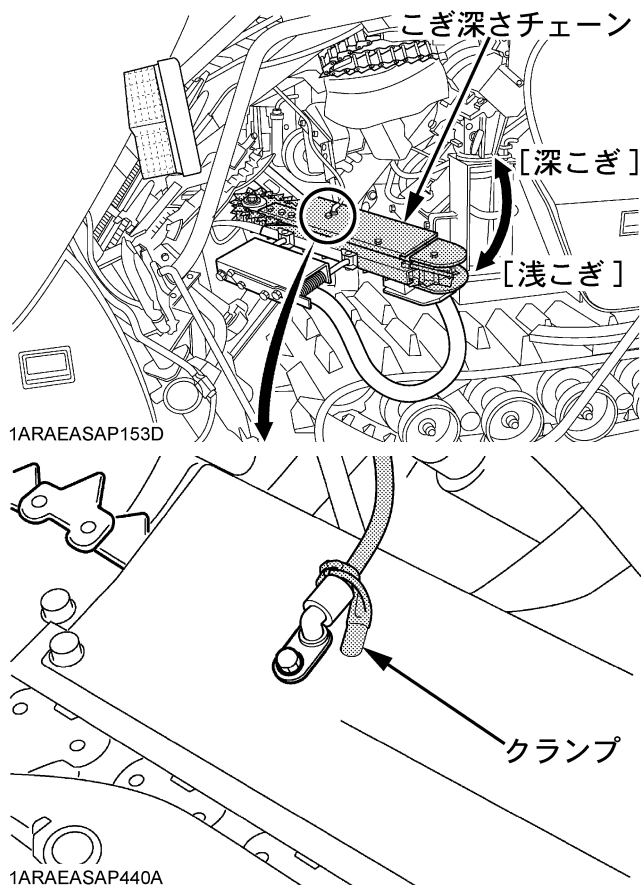
●供給サポートチェーン

左サイドカバー上1を取外したあと、ボルトを取外し、ノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、左サイドサイドカバー上1を取付けてください。



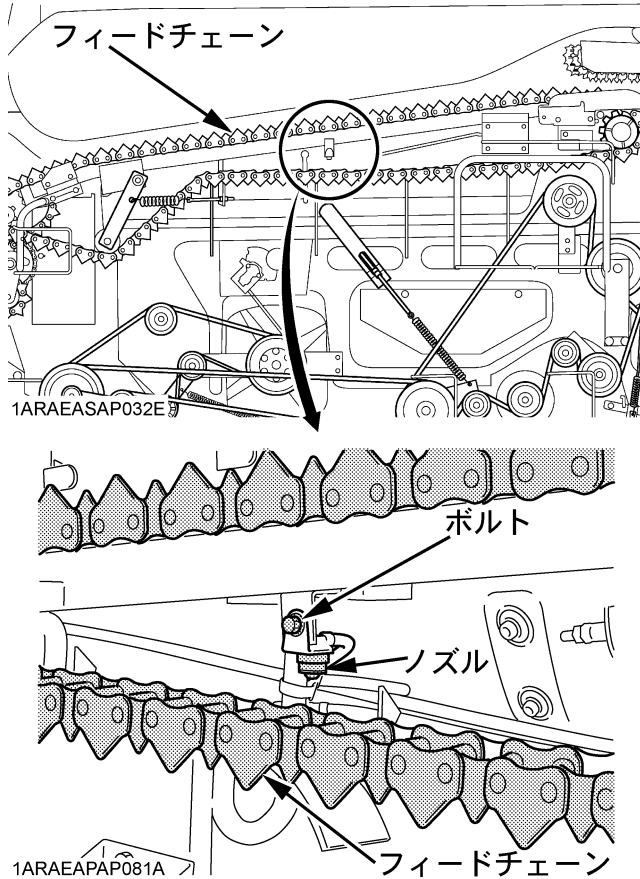
●こぎ深さチェーン

こぎ深さチェーンを浅こぎ位置にしたあと、クランプを外し、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、クランプをしてください。



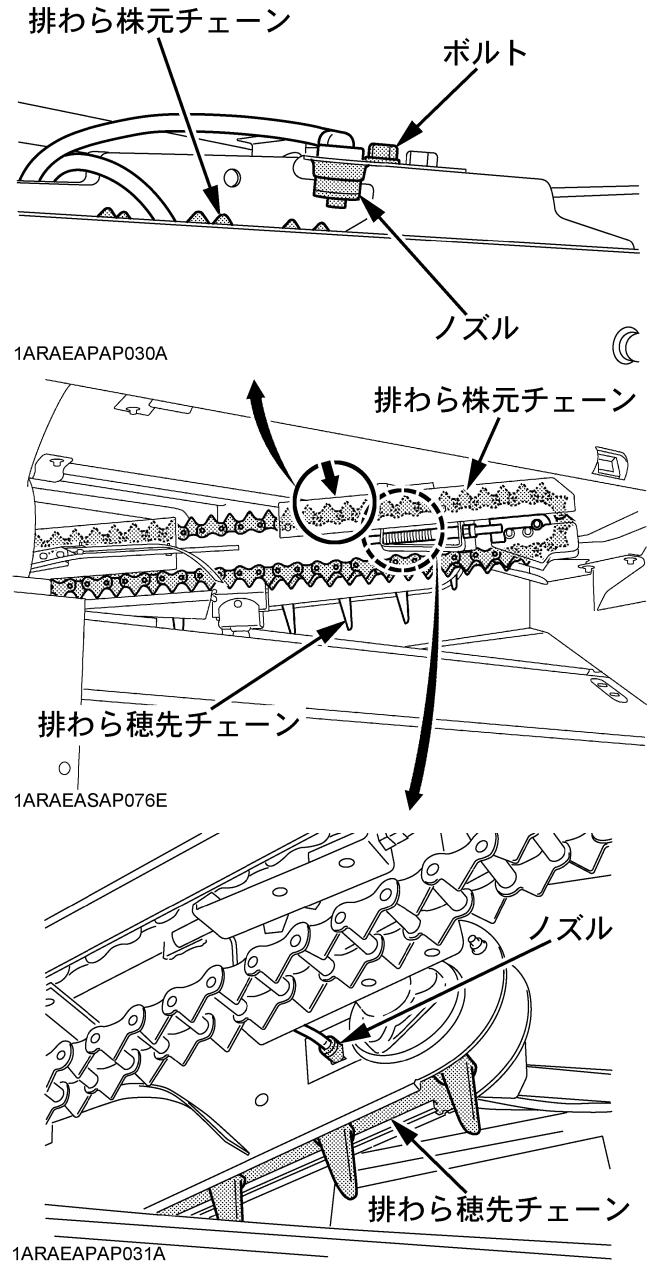
•フィードチェーン

左サイドカバー上1, 上2を取外したあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、左サイドカバー上1, 上2を取付けてください。



•排わら穂先チェーン・排わら株元チェーン

カッタ上部カバーを上げたあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、カッタ上部カバーを閉じてください。

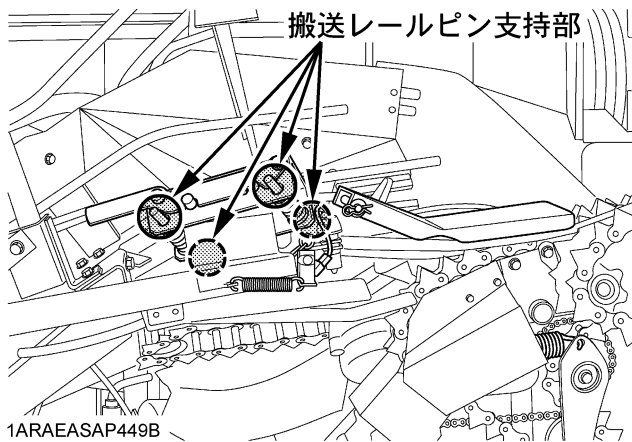


メンテナンス

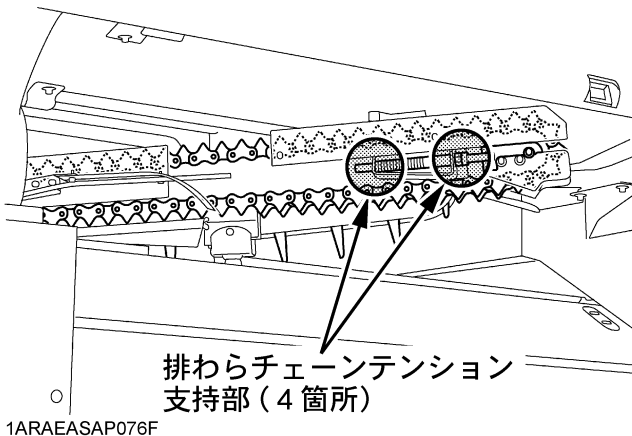
2. 手差し注油

下記箇所は油差しを使用して行なってください。

●搬送レールピン支持部



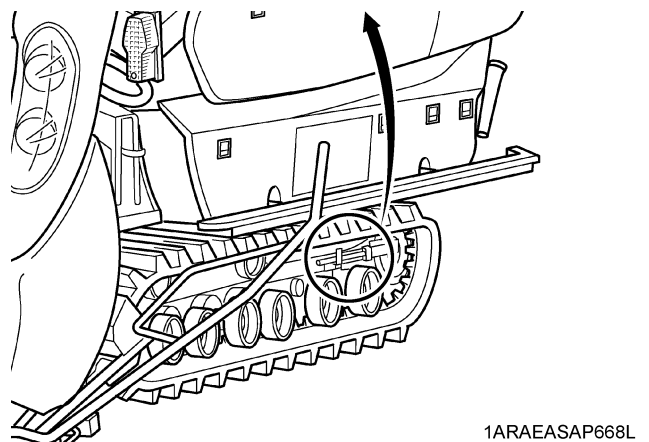
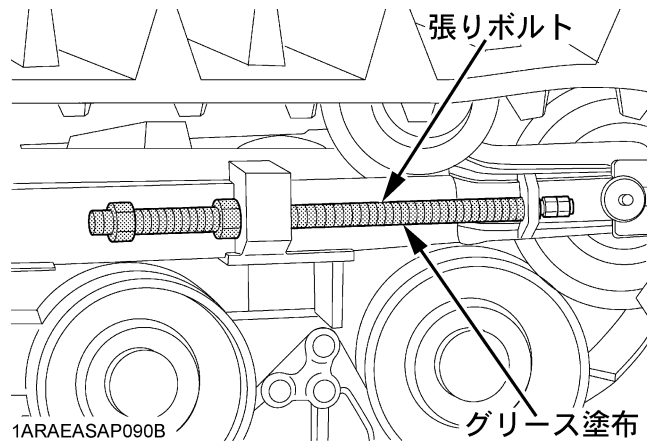
●排わらチェーンテンション支持部



3. グリース塗布

グリースを塗布してください。

●クローラ張りボルト (左, 右)



◆ 注油・掃除後の処置と確認

注油・掃除終了後は、取外したり、開閉した掃除口カバーや安全カバーは必ず取付けてください。

定期点検

定期点検は、コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。

コンバインは、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。



警告

- * 各部の調整・点検・交換を行なうときは、エンジンを必ず停止させ、各レバー類を【切】位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。
- * 取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。



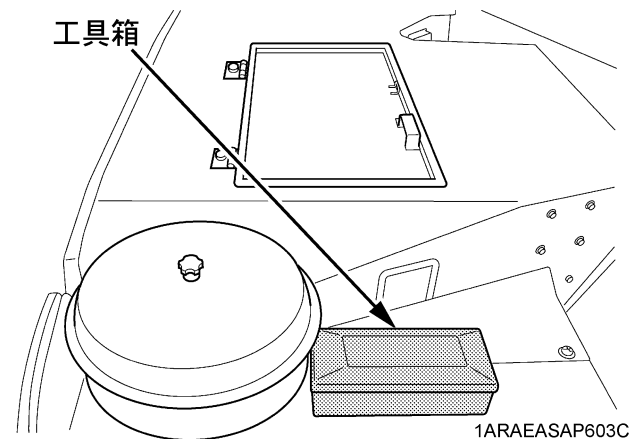
注意

- * 点検・作業するときは、駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部が一番下まで降ろしてください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- * エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは、内部がじゅうぶん冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。
- * オイル交換中は火気厳禁。
- * 刈刃やカッタの掃除や注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
- * 機械は平たんで、周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいってください。バッテリー、マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因となります。
- * 燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。

補 足

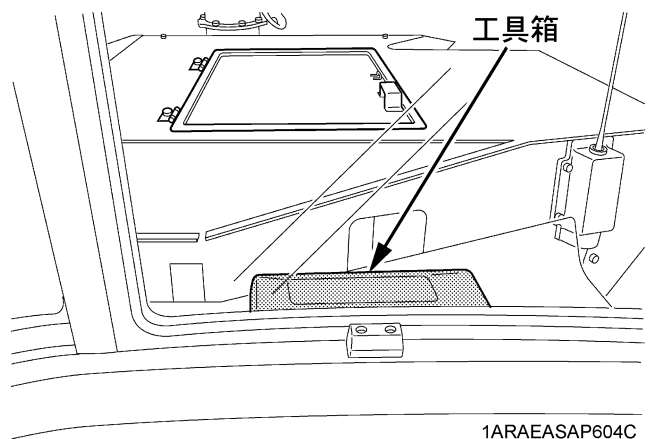
- * 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目安として早目の点検をお願いします。
- * 工具箱は下図の位置にあります。

[Q 仕様除く]



[Q 仕様除く]

[Q 仕様]



[Q 仕様]

■オイル、フィルタ類の交換とチェーン、ベルト、クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって、オイル・フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期 20 又は、50 時間で張り調整をしてください。
(交換したときも同様です。)

■廃棄物の処理について



警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- * 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- * 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- * 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。



注意

機械を損傷させないように洗淨ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。

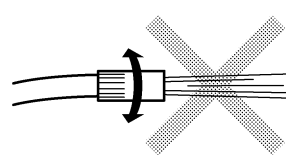
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

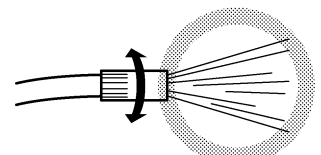
例)

- (1) シール・ラベルの剥がれ
- (2) 電装部品、エンジン・ラジエータ室内、キャビン室内等への浸入による故障
- (3) クローラ、タイヤ、オイルシール等のゴム類、化粧カバー等の樹脂部品、ガラス等の破損
- (4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



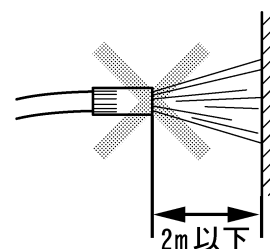
直射



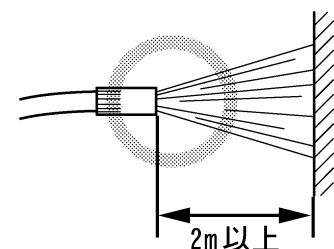
拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



2m 以下



2m 以上

1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは、購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 結束部の結節部完備
- エンジン本体
- トランスミッション
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統 (HST 含む)
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

重 要

- * 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また、メーカー保証の対象外となりますのでご注意ください。

メンテナンス

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・ 処置／ 交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	対象型式	参照 ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	交換	500 時間ごと	全型式	238 ☆
逆流ファン切換えワイヤ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	217
	交換	300 時間ごと		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	150 時間又は、6 ヶ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	219
	交換	300 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換		
燃料フィルタカートリッジ	交換	400 時間ごと	全型式	225
油水分離器	掃除	100 時間ごと	全型式	224
エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後、それ以降 200 時間ごと (エンジンオイルの交換と同時に交換)	全型式	226
燃料ホース	締付け	150 時間又は、6 ヶ月ごとの早いほうで点検・設置	全型式	219 ☆
	交換	300 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	199
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間又は、6 ヶ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	219 ☆
	交換	300 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	200 時間又は、6 ヶ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	219 ☆
	交換	400 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換		
排水ホース	締付け	200 時間又は、6 ヶ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	219 ☆
	交換	400 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ、ラジエータフィン、 HST オイルクーラフィン、トランスミッ ションオイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	222
コンデンサフィン	掃除	50 時間ごと	Q 仕様	222
インタークーラフィン	掃除	50 時間ごと	108	222
◆走行・操作部				
ミッション駆動ベルト	調整	初回又は、交換後：20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	239 ☆
	交換	500 時間ごと		
駐車ブレーキワイヤ	調整	50 時間ごと	全型式	228 ☆
	交換	300 時間ごと		
ブレーキディスク	交換	500 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換	全型式	☆
HST オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後、それ以降 300 時間ごと (油圧オイルタンクオイルの交換と同時に交換)	全型式	227 ☆
油圧オイルタンクフィルタ	洗浄	300 時間ごと	全型式	227 ☆
	交換	初回：50 時間後、それ以降 600 時間ごと (油圧オイルタンクオイルの交換が 2 回目に交換)		
トランスミッションオイルフィルタカ ートリッジ	交換	初回：50 時間後、それ以降 300 時間ごと (トランスミッションケースオイルの交換と同時 に交換)	全型式	227 ☆
クローラ	調整	初回又は、交換後：50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	288 ☆
	交換	800 時間ごと		

- * 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

- * 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・ 処置／ 交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	対象型式	参照 ページ
反射器	交換	破損しているとき	全型式	☆
クローラガイド	交換	800 時間ごと	全型式	☆
トラックローラ、イコライザボス	交換	800 時間ごと	全型式	290
キャリアローラ、ボールベアリング及び シール、モンローリンク部のプッシュ	交換	800 時間ごと	全型式	☆
車軸のオイルシール	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
ドライブローラ（スプロケット）	点検	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	全型式	291 ☆
	入換え	200 時間ごと		
	交換	400 時間ごと		
◆刈取部				
刈取駆動ベルト	調整	初回又は、交換後:20 時間後、それ以降 50 時間ごと	全型式	239 ☆
	交換	500 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	全型式	240 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	全型式	248 ☆
	交換	300 時間ごと		
引起し爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
引起し 65 ローラのベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しスプロケット、引起しテンション スプロケット、引起し駆動シャープピン	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しフレーム、引起しカバー	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
スライドレール、クッションゴム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	全型式	254 ☆
	交換	300 時間ごと		
供給サポートチェーン駆動チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	254 ☆
供給サポートチェーンの駆動シャープ ピン、ローラベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーンの駆動スプロケッ ト	交換	300 時間ごと	全型式	☆
右穂先チェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	全型式	249 ☆
	交換	300 時間ごと		
右穂先爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
右株元チェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	572・587	251 ☆
	交換	300 時間ごと		
	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	698・108	251 ☆
	交換	600 時間ごと		
右株元チェーンのローラボールベアリン グ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
右穂先チェーンのローラボールベアリン グ、アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆

- * 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

- * 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・ 処置／ 交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	対象型式	参照 ページ
右穂先カバー、右穂先フレーム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
右株元当て板、左穂先フレーム（上、下）	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
左株元レール、供給フレームガイド、 供給ガイド、株元押え	交換	800 時間ごと	全型式	☆
中穂先チェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	全型式	250 ☆
	交換	400 時間ごと		
中穂先爪	交換	400 時間ごと	全型式	
中株元チェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	572・587	251 ☆
	交換	300 時間ごと		
	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	698・108	251 ☆
	交換	600 時間ごと		
中株元チェーンのローラボールベアリン グ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
中穂先チェーンのローラボール ベアリング、アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
中穂先フレーム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
株元供給チェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	572・587	250 ☆
	交換	300 時間ごと		
	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	698・108	250 ☆
	交換	600 時間ごと		
株元供給チェーンのローラボールベアリン グ、テンションローラボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
左穂先チェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	全型式	250 ☆
	交換	400 時間ごと		
左穂先爪	交換	400 時間ごと		
左株元チェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	572・587	251 ☆
	交換	300 時間ごと		
	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	698・108	251 ☆
	交換	600 時間ごと		
左株元チェーンのローラボール ベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
左穂先チェーンのローラボール ベアリング、アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さチェーン	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	572・587	255 ☆
	交換	300 時間ごと		
	調整	初回又は、交換後:50時間後、それ以降100時間ごと	698・108	☆
	交換	600 時間ごと		
こぎ深さテンションローラのボールベア リング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さチェーン押え	交換	800 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さフレームガイド	交換	1000 時間ごと	全型式	☆

- * 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

- * 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・ 処置／ 交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	対象型式	参照 ページ
刈刃	調整	100 時間ごと	全型式	257 ☆
	交換	200 時間ごと		
刈刃クランクピン, ローラ, ベアリング, ベアリングホルダ, オイルシール	交換	600 時間ごと	全型式	☆
株元センサ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
穂先センサ (株元側, 穂先側)	交換	500 時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	800 時間ごと	全型式	☆
◆脱こく部				
脱こく駆動ベルト	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 50 時間ごと	全型式	240 ☆
	交換	500 時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 100 時間ごと	全型式	242 ☆
	交換	500 時間ごと		
後方こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 100 時間ごと	698・108	244 ☆
	交換	500 時間ごと		
脱こくクラッチワイヤ	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 50 時間ごと	全型式	231 ☆
	交換	500 時間ごと		
フィードチェーンクラッチワイヤ	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 50 時間ごと	全型式	230 ☆
	交換	500 時間ごと		
トウミ駆動ベルト	交換	500 時間ごと	全型式	
1 番駆動ベルト	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 100 時間ごと	全型式	243 ☆
	交換	500 時間ごと		
2 番駆動ベルト	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 100 時間ごと	全型式	242 ☆
	交換	500 時間ごと		
揺動駆動ベルト	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 100 時間ごと	全型式	244 ☆
	交換	500 時間ごと		
排わらチェーン駆動ベルト	調整	初回又は, 交換後:20 時間後, それ以降 100 時間ごと	全型式	244 ☆
	交換	500 時間ごと		
フィードチェーン	調整	初回又は, 交換後:50 時間後, それ以降 100 時間ごと	全型式	255 ☆
	交換	500 時間ごと		
排わら穂先チェーン	調整	初回又は, 交換後:50 時間後, それ以降 100 時間ごと	全型式	256 ☆
	交換	500 時間ごと		
排わら穂先搬送爪	交換	150 時間ごと		☆
排わら株元チェーン	調整	初回又は, 交換後:50 時間後, それ以降 100 時間ごと	全型式	256 ☆
	交換	500 時間ごと		
わら切刃 (株元側)	交換	200 時間ごと	全型式	265
わら切刃 (穂先側)	組換え	100 時間ごと	全型式	265
	交換	200 時間ごと		
こぎ歯	交換	300 時間ごと	全型式	263
受あみ	交換	400 時間ごと	全型式	163
フロントハンプ	交換	250 時間ごと	全型式	☆
上唇板ハンプ 1, 2	交換	250 時間ごと	全型式	☆
こぎ胴円筒板・取付けボルト	交換	300 時間ごと	全型式	☆
1 番縦スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆

- * 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

- * 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・ 処置／ 交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	対象型式	参照 ページ
1 番スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
2 番スクリュ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
2 番処理ケース	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
ツース（2 番固定歯）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ツース（2 番回転歯）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
排わらチェーン押え	調整	250 時間ごと	全型式	277 ☆
	交換	500 時間ごと		
打抜きあみ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
チャフ操作ワイヤ	調整	100 時間ごと	全型式	☆
	交換	500 時間ごと		
各ベアリング	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
揺動ベアリングホルダ	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
揺動アーム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
◆グレンタンク部				
タンククラッチ駆動ベルト (もみ排出クラッチベルト)	調整	初回又は、交換後:20時間後、それ以降100時間ごと	全型式	245 ☆
	交換	500 時間ごと		
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	全型式	279
各スクリュ軸	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
◆カッタ部				
カッタ駆動ベルト	調整	初回又は、交換後:20時間後、それ以降100時間ごと	全型式	245 ☆
	交換	400 時間ごと		
カッタ刃	調整	300 時間ごと	全型式	273 ☆
	交換	500 時間ごと		
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回又は、交換後:50時間後、それ以降200時間ごと	全型式	267
各ベアリング	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
◆キャビン				
コンプレッサ駆動ベルト	調整	作業シーズン前又は、後	Q 仕様	241 ☆
	交換	2 年ごと		
冷媒ガス	点検	作業シーズン前又は、後	Q 仕様	279 ☆
内気・外気フィルタ	掃除	使用時間が 30 時間ごと	Q 仕様	277
◆電装部				
バッテリー	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	280
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス、バッテリーコード	点検	50 時間ごと	全型式	280, 284 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	284 ☆
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	287 ☆
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	287 ☆
	交換	破損しているとき		

- * 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

- * 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期 (アワメータ表示時間)		容量・規定量 (L)	種 類	参照 ページ		
			点検	処置					
燃料	燃料タンク	給油	作業前 又は、 作業後	—	・容量……………約 100	ディーゼル軽油	199		
オ イ ル	エンジン	補給 ・ 交換		・初回… 50 時間目 ・2 回目以降 …200時間 ごと又は、 1 年ごと の早いほうで交換	・容量……………約 12 * 規定量 オイルゲージの 下限と上限 の間	クボタ純オイル [572・587・698] … D30スーパーCD又は、 D10W-30 スーパー CD [108] … D10W-30 スーパー CF	200		
	集中注油オイルタンク	補給		—	・容量……………約 4	D30 又は、 D10W-30	178		
	トランスミッションケース	補給 ・ 交換	50 時間 ごと	・初回… 50 時間目 ・2 回目以降 …300時間 ごと	* 規定量……………約12.3 検油口からオイルが にじむまで	クボタ純オイル NEW UDT 又は、 スーパー UDT	203		
	油圧オイルタンク				* 規定量……………約28 検油窓からオイルが 見えるまで		205		
	脱こくギヤケース	交換	—	・初回… 50 時間目 ・2 回目以降 …300時間 ごと	・容量……………約 1.7		206		
	刈取 HST ギヤケース				・容量……………約 0.14		204		
	HST 入力フランジ	交換	—	分解時	・容量……………約 0.2		207 ☆		
	刈刃駆動ケース	補給 ・ 交換			・容量 [572・587] …2.2 ～ 2.3 [698・108] …2.5 ～ 2.6		204 ☆		
	フィードチェーン駆動ケース				・容量……………約 0.6		208 ☆		
		レール台ブッシュ部	注油	作業 シーズン 終了後	—	適 量	クボタ純オイル D30 又は、 D10W-30 又は、 M80B 又は、 M90	208 ☆	
		搬送レールピン支持部		作業前 又は、 作業後					
		排わらチェーンテンション部 (株元、穂先)							

- * 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により、異なる場合があります。

重 要

[各部への補給と交換]

- * 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- * 使用するオイル・グリースは、必ず指定の**クボタ純オイル・スベアグリース・協同油脂(株)製耐熱グリース（パワーライト WR NO. 1）**を使用してください。
- * 補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

メンテナンス

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期 (アワメータ表示時間)		容量・規定量 (L)	種類	参照 ページ
			点検	処置			
水・液	冷却水 (リザーブタンク)	補水・交換	作業前 又は、 作業後	2年ごと (冬期停止時は 排出 又は、 不凍液を 入れる)	* 規定量 タンク側面の L (下限) と F (上限) の間 L (LOW) ……0.15 F (FULL) ……1.1	清水	214
	ウォッシュ液 【Q仕様】	補給		—	・容量……………約 1.2	自動車用 ウォッシュ液	216
グ リ ー ス	◆エンジン部						
	エンジン正逆流ファン部	補給	500 時間 ごと	—	適 量	協同油脂(株)製 耐熱グリース (パワーライト WR NO.1)	210
	◆走行部						
	揺動転輪部	補給	作業 シーズン 終了後	—	適 量	クボタ スペアグリース	210
	固定転輪部						
	可動転輪部						
	スイングアーム部						
	トラックフレーム部						
	ボス支点部						
	◆刈取部						
	刈取駆動ギヤカバー部	補給	分解時	—	適 量	クボタ スペアグリース	☆
	刈取部各ケース						
	刈取軸受						
	◆脱こく部						
	排わらべベルケース	補給	分解時	—	適 量	クボタ スペアグリース	☆
	1 番・2 番各ケース						
	トウミプーリ部		200 時間 ごと				
	◆グレンタンク部						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	—	適 量	クボタ スペアグリース	☆
	アンローダケース 1, 2, 3						
	縦スクリュケース アンローダブラケット部		200 時間 ごと				210
	縦スクリュケース 旋回モータベース部						
	アンローダケース 2						

- * 参照ページに☆印のある整備項目 (交換) については、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス (保守・点検) により、異なる場合があります。

重 要

[各部への補給と交換]

- * 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- * 使用するオイル・グリースは、必ず指定の **クボタ純オイル・スペアグリース・協同油脂(株)製耐熱グリース (パワーライト WR NO. 1)** を使用してください。
- * 補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料、オイル、グリースの点検・補給・交換



注 意

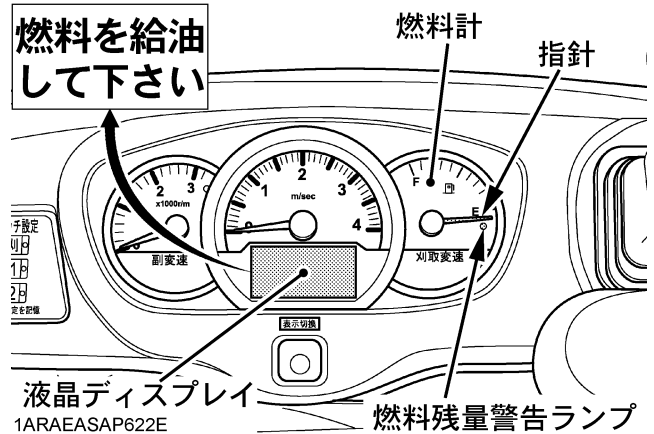
- * 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- * 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。
- * 燃料やオイルを補給又は、交換したあと、こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また、燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。

重 要

- * 点検するときは、水平で平坦な場所にコンバインを移動して行なってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。
- * コンバインの故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
 - 廃油は使用しないでください。
 - オイルを補給するときは、現在使用しているオイルと同じメーカー・同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また、異なるメーカー・異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは、オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
 - 燃料やオイルを補給・交換するときは、ゴミや異物の混入を防ぐため、給油口付近を掃除してください。また、給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
 - オイルを補給するとき、規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
 - 使用するオイル・グリースは、必ず指定の**クボタ純オイル・スベアグリース・協同油脂(株)製耐熱グリース（パワーライト WR NO. 1）**を使用してください。

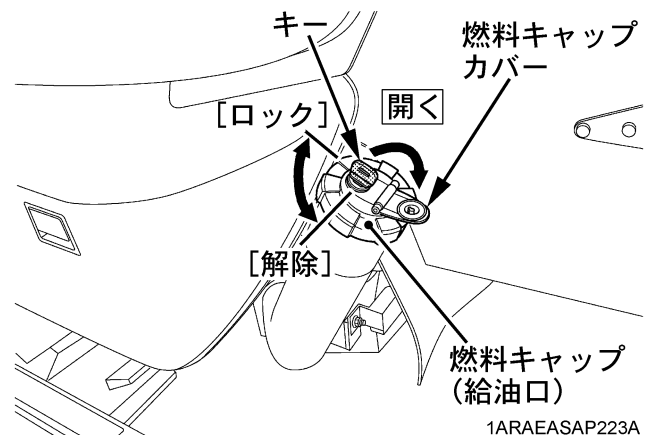
■燃料の補給

燃料計の指針が **[E]**（空）に近づくと、燃料残量警告ランプが点灯すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイに **【燃料を給油して下さい】** と表示し、ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。

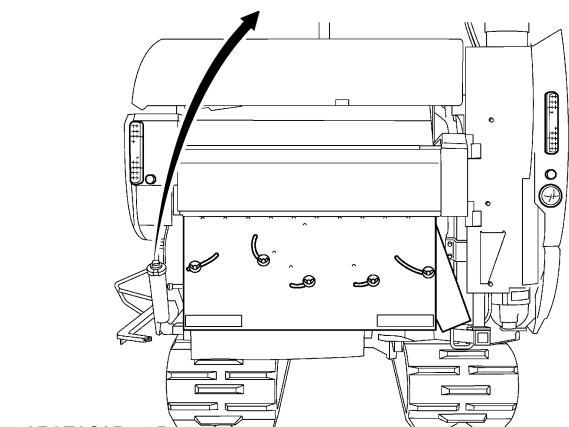


◆ 給油

給油を行なうときは、燃料キャップのカバーを開いたあと、キーを左に 90 度回してロックを解除してから燃料キャップを外してください。



1ARAEASAP223A

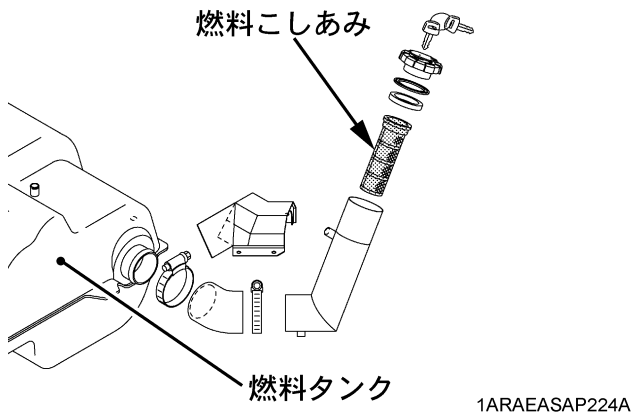


1ARAEASAP621B

メンテナンス

重 要

- * 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



補 足

- * 燃料キャップのキーは、ロックが解除された位置では取外すことができません。

◆ 補給

燃料を給油するときは平坦な場所でエンジンを止め、燃料キャップを外してください。また、メインスイッチのキーを【入】位置にすると燃料が満タン近くなったとき満タンお知らせ機能がはたらき、ブザーが鳴ります。また、ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに【燃料が満タンです】と表示します。給油後は燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 100L

補 足

- * 給油が終わったあとは、必ずキーをロックして抜取ってください。
- * **満タンお知らせ機能**は、ブザーが5回鳴ると停止します。
- * ブザーが鳴ったあと、あふれさせないように注意してください。
- * **満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき、はたらかない場合があります。
 - エンジン停止後約 20 秒間
 - 給油中に機体を揺らしたり、急激に給油したとき
 - 給油量が少ないとき
 - 機体が極端に傾いているとき

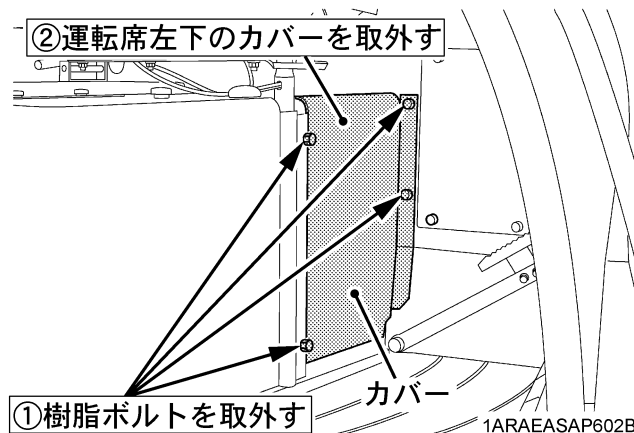
■エンジンオイルの点検・補給・交換



注 意

- * 交換をするときは、必ずエンジンを止めて、エンジンがじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドするおそれがあります。

エンジンのオイル量を点検・補給・交換をするときは、運転席左下のカバーを取外してください。点検・補給・交換後は、運転席左下のカバーを取付けてください。

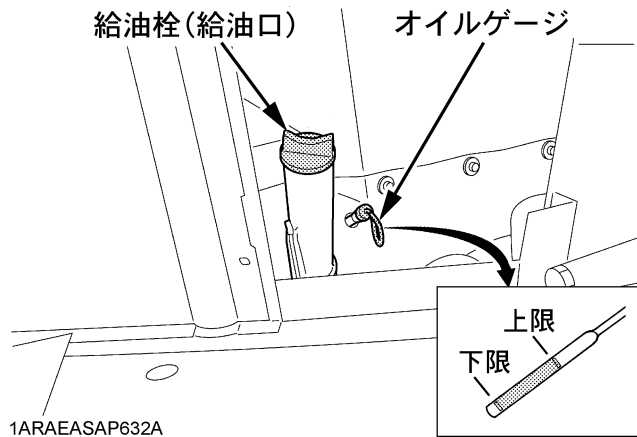


重 要

- * エンジンオイルをオイルゲージの**上限**以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

◆ 点検・補給

エンジン停止後、数分たってからオイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き、ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、運転操作部を開いて給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



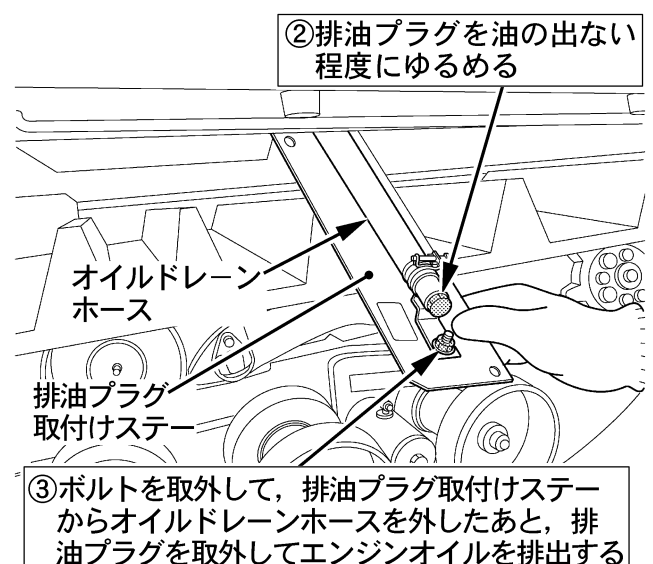
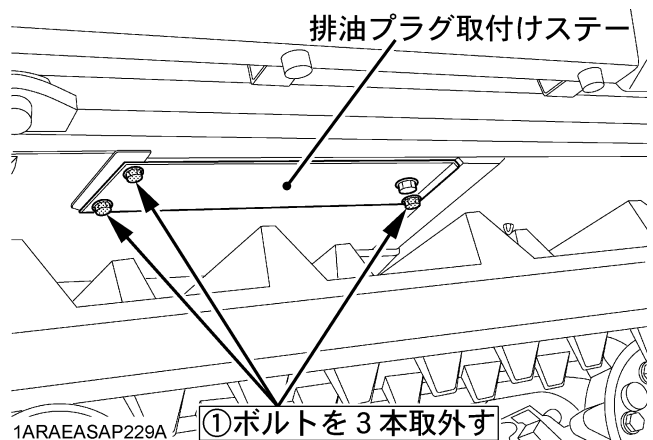
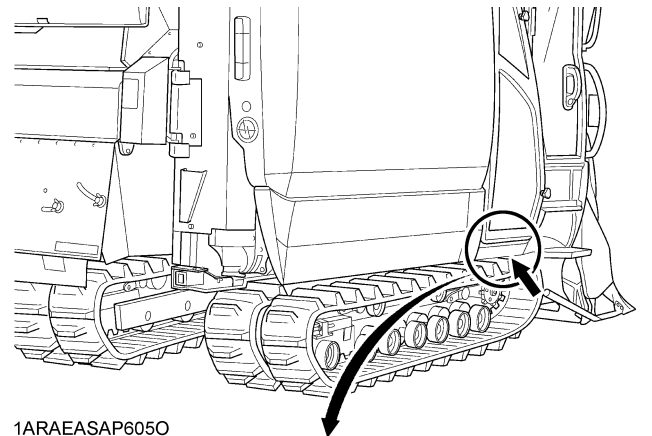
◆ 交換

補 足

* オイルの交換と同時に、エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。

● 排油のしかた

1. ボルトを 3 本取外し、排油プラグ取付けステーを機体から取外したあと、排油プラグ取付けステーをオールドレインゴムホースと一っしょに引出して、準備している容器の上で排油プラグを外し、オイルを排出します。



メンテナンス

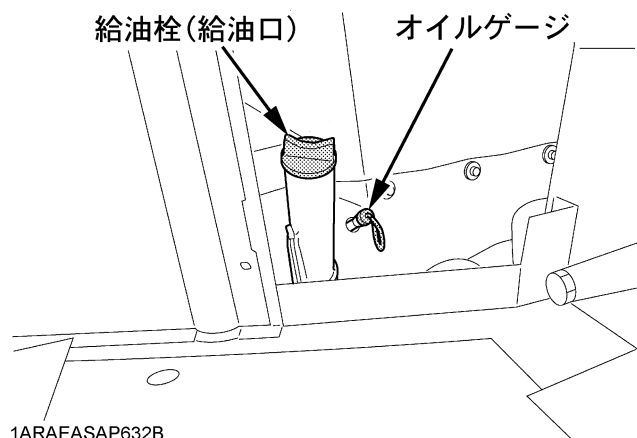
2. 排油プラグを取付けます。
3. ホースと一体となっている排油プラグを排油プラグ取付けステーに取付けます。
4. 排油プラグ取付ステーを機体に取り付けます。

重要

* 排油プラグを締め忘れると油もれが発生したり、取付けステーを付け忘れると、ホースがクローラと接触して破損するおそれがあります。

● 給油のしかた

1. 運転席左下のカバーを取外します。
2. 給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締付けます。



重要

* 指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。また、気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃未満のとき	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) [572・587・698] D10W-30 スーパー CD [108] D10W-30 スーパー CF	約 12.3L
15℃以上のとき	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) [572・587・698] D30 スーパー CD 又は、 D10W-30 スーパー CD [108] D10W-30 スーパー CF	

※ D10W-30 スーパー CD **[572・587・698]**、D10W-30 スーパー CF **[108]** はオールシーズン用です。

3. エンジンを始動し、アイドリング状態で約 1 分間運転します。
4. エンジンを停止したあと、5 分以上たってからオイル量の点検を行ないます。
5. オイルが不足しているときは、規定量になるまでオイルを追加補給します。
6. 運転席左下のカバーを取付けます。

■ トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換



警告

- * 刈取部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。傾斜地では、刈取部の開閉は行なわないでください。
- * 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- * 刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

トランスミッションケースのオイル量を点検するときは、刈取部を最上昇位置にしたあと、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にして刈取部の下降防止を行なってください。また、オイルの補給・交換を行なうときは、刈取部を開いてください。点検後は、刈取部を降ろし、補給・交換後は刈取部を閉じてください。

◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

補 足

- * オイルの交換と同時に、HST オイルフィルターカートリッジ・トランスミッションオイルフィルターカートリッジも交換してください。

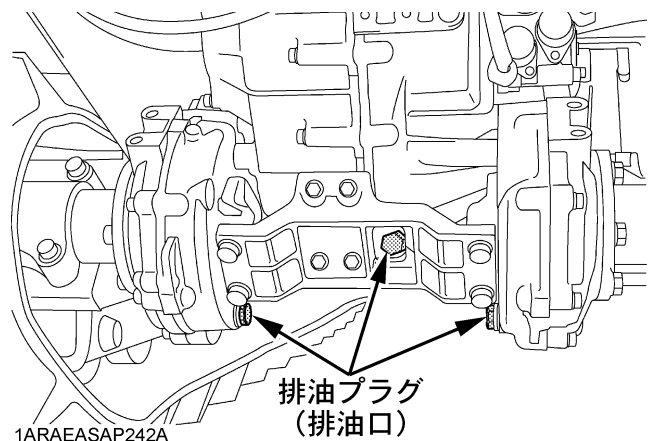
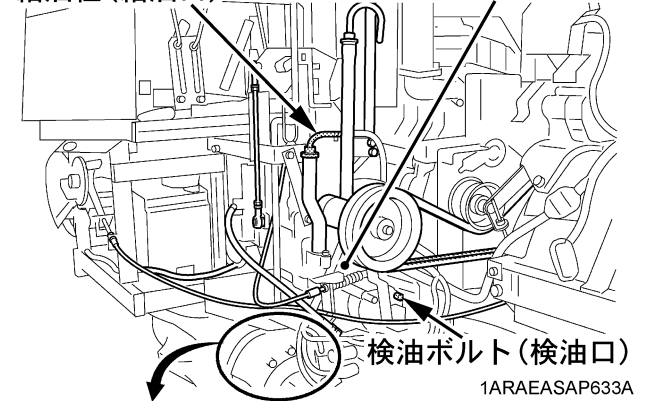
● 排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて、検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓と検油ボルトを締付けてください。

給油栓(給油口) トランスミッションケース



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル NEW UDT 又は、スーパー UDT	約 12L

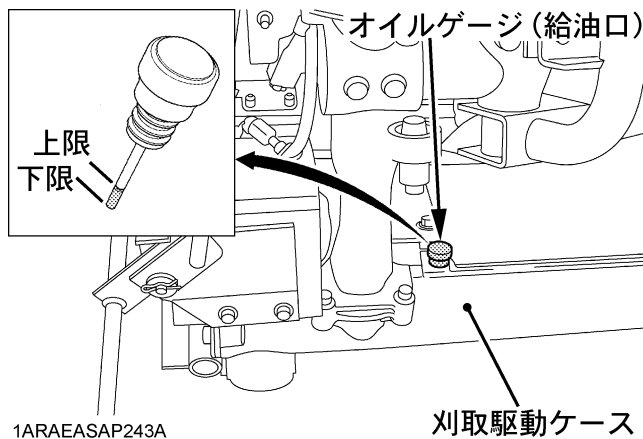
重 要

- * 給油したあと、エンジンをアイドリング状態で約 1 分間運転してエンジンを停止し、5 分間以上たってから、再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは、オイルを追加補給してください。

■刈刃駆動ケースオイルの補給

◆ 給油

刈取部を接地させたあと、オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み、オイルゲージをいっぱいまで押し込んでから抜き、ゲージの**上限と下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル NEW UDT 又は、スーパー UDT	[572・587] …2.2 ～ 2.3L [698・108] …2.5L ～ 2.6L

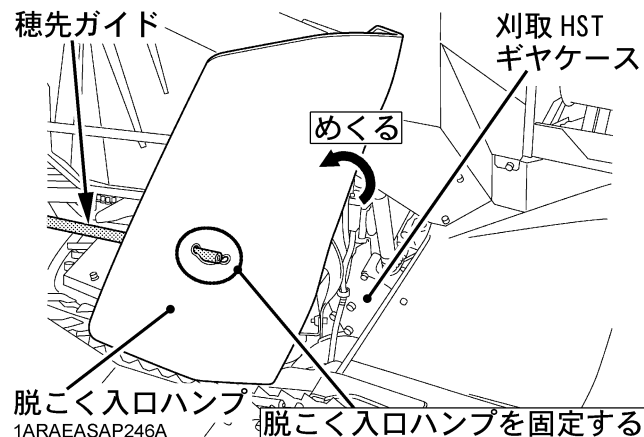
■刈取 HST ギヤケースオイルの点検・補給・交換



警告

*** こぎ胴を開いたあとは、エンジンを必ず止めてください。**

刈取 HST ギヤケースオイルを点検・補給・交換するときは、こぎ胴を開いたあと、脱こく入口ハンプをめくり、穂先ガイドで固定してください。点検・補給・交換後は、脱こく入口ハンプを垂らしたあと、こぎ胴を閉じてください。



◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

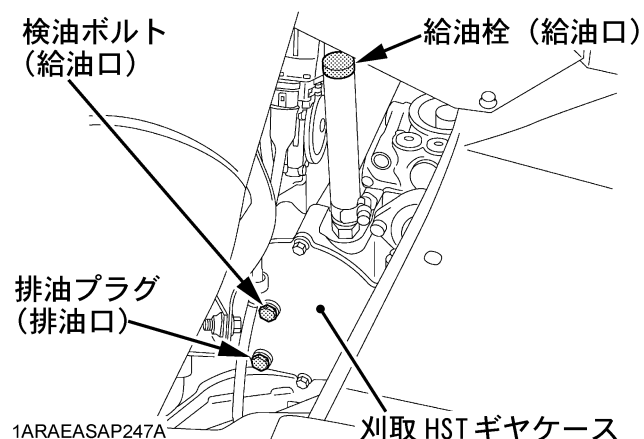
◆ 交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

● 給油のしかた

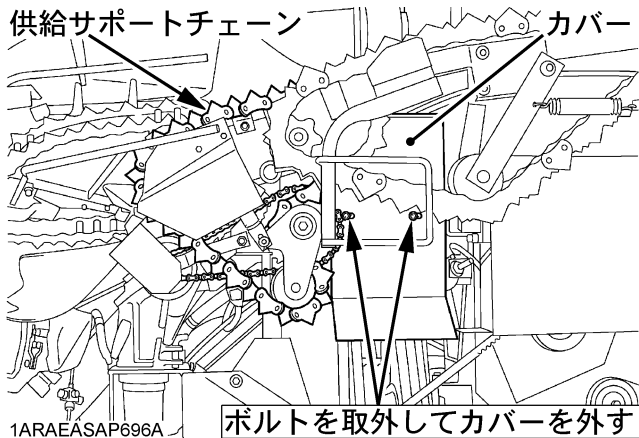
排油プラグを締付けて、検油口からオイルが出てくるまで給油口から給油し、給油栓と検油ボルトを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル NEW UDT 又は、スーパー UDT	約 0.14L

■油圧オイルタンクオイルの点検・補給・交換

油圧オイルタンクのオイル量を点検するときは、左サイドカバー上1，下1を取外したあと、供給サポートチェーン内側のカバーを取外してください。また、点検・補給・交換を行なうときは、こぎ胴を開いてください。点検・補給・交換後は、カバーを取付け、左サイドカバー上1，下1を取付けたあと、こぎ胴を閉じてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル NEW UDT 又は、スーパー UDT	約 28L

重要

- * 給油したあと、エンジンをアイドリング状態で約1分間運転してエンジンを停止し、5分間以上たってから再度点検を行ないオイルが不足しているときは、規定量になるまでオイルを追加補給してください。

補足

- * 規定オイル量は工場出荷時の給油量です。オイル交換後の実際に補給するオイル量は、ホース内などに残っているオイルにより、少し少なくなります。

◆点検・補給

油圧オイルタンクの左側面上部にある検油窓を確認し、油面が検油窓で確認できる範囲（規定量）まで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

◆交換

補足

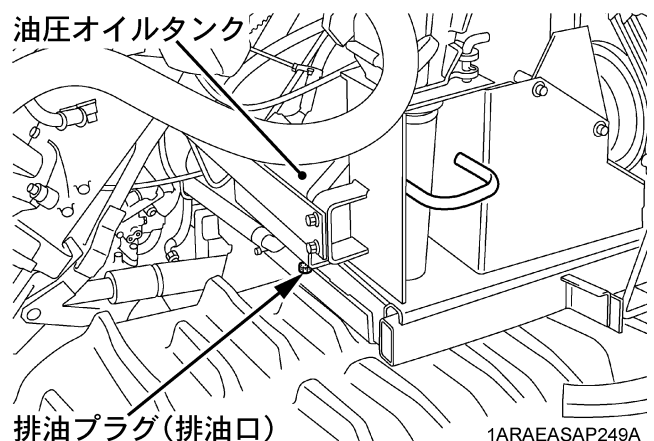
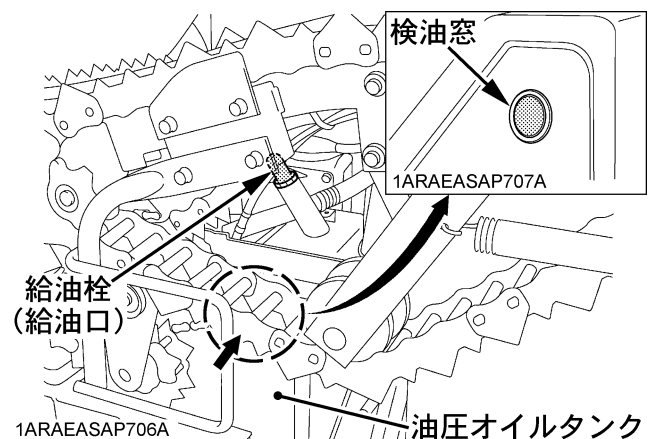
- * オイルの交換と同時に、HST オイルフィルタカートリッジ、トランスミッションオイルフィルタも交換してください。

●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて、給油口から規定量オイルを給油したあと、給油栓を取付けてください。



メンテナンス

■脱こくギヤケースオイルの点検・補給・交換

脱こくギヤケースオイルの点検・補給・交換するときは、左サイドカバー上1，下1を取外してください。点検・補給・交換後は、左サイドカバー上1，下1を取付けてください。

◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

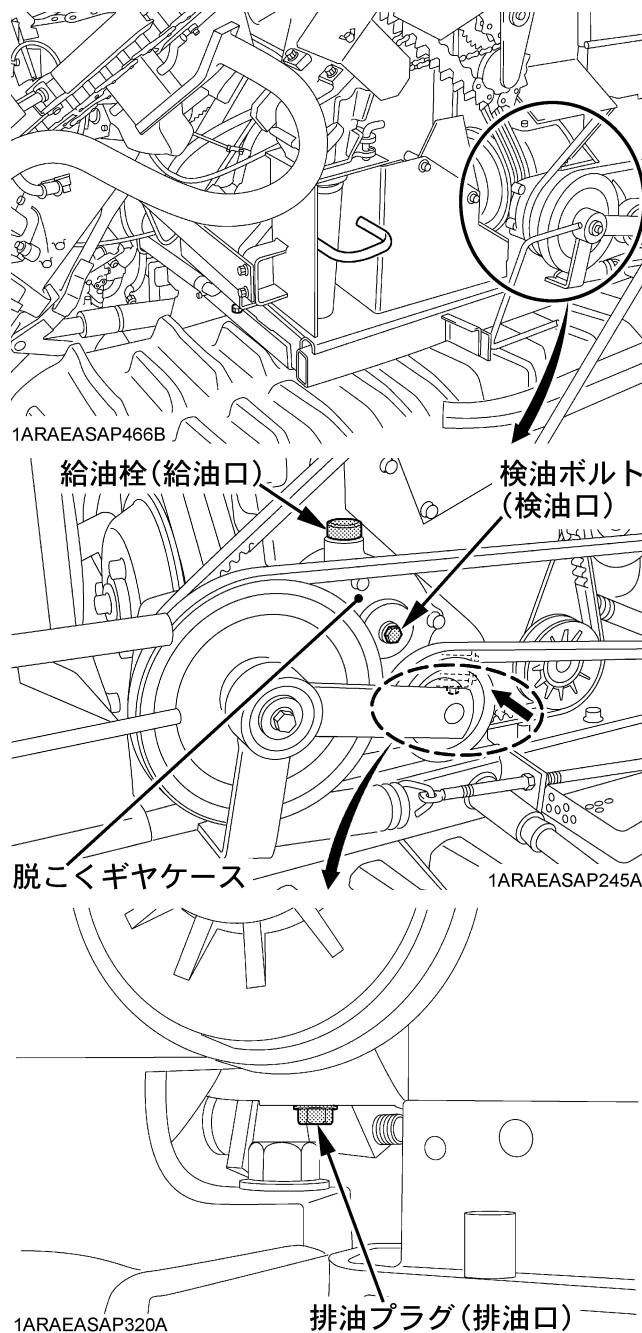
◆ 交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて、検油口からオイルが出てくるまで給油口から給油し、給油栓と検油ボルトを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル NEW UDT 又は、スーパー UDT	約 1.7L

重 要

* オイル交換後、エンジン回転数を約 1500rpm に合わせて脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく【入】**位置にして、1分間以上負荷をかけずに運転してエンジンを停止し、5分間以上たってから再度点検を行ないオイルが不足しているときは、規定量になるまでオイルを追加補給してください。

■ HST 入力フランジのオイルの補給・交換



警告

- * 刈取部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。
傾斜地では、刈取部の開閉は行なわないでください。
- * 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- * 刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

HST 入力フランジのオイルを補給・交換するときは、刈取部を開いてください。補給・交換後は刈取部を閉じてください。

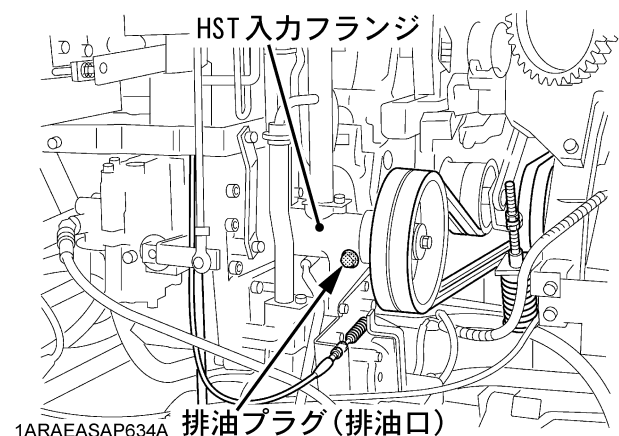
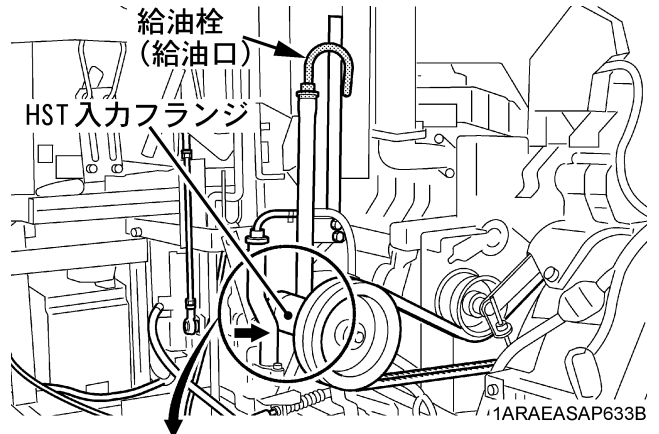
◆ 交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締付けてください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル NEW UDT 又は、スーパー UDT	約 0.2L

■フィードチェーン駆動ケースオイルの補給



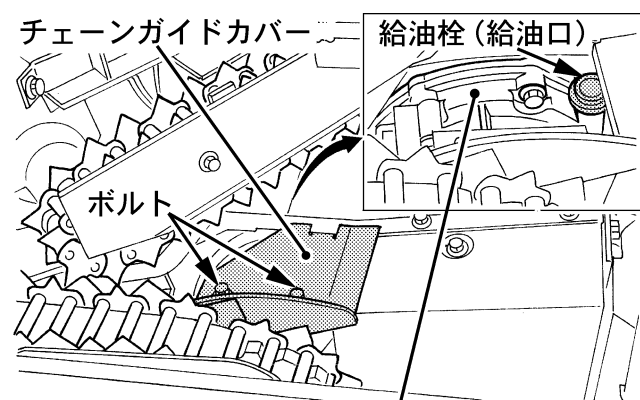
警告

*** こぎ胴を開いたあとは、エンジンを必ず止めてください。**

フィードチェーン駆動ケースのオイルを補給するときは、こぎ胴を開いたあと、ボルトを外してチェーンガイドカバーと左サイドカバー上2を外してください。補給後は、チェーンガイドカバーと左サイドカバー上2を取付けてください。

◆ 補給

給油栓を外して、オイルを適量補給してください。補給後は、チェーンガイドカバーと左サイドカバー後を取付けたあと、こぎ胴を閉じてください。



1ARAEAPAP200A

フィードチェーン駆動ケース

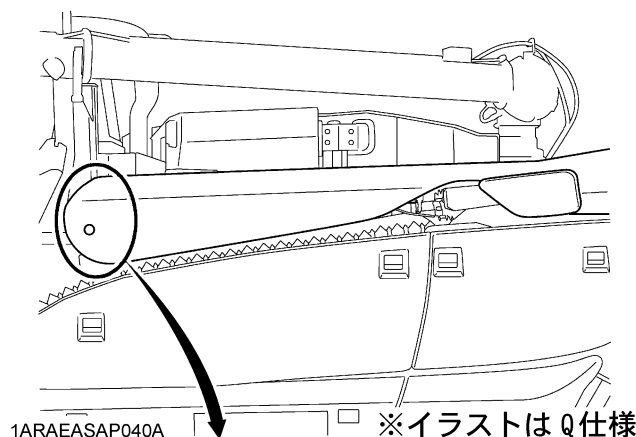
オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイルNEW UDT 又は、スーパー UDT	約 0.6L

■レール台ブッシュ部への注油

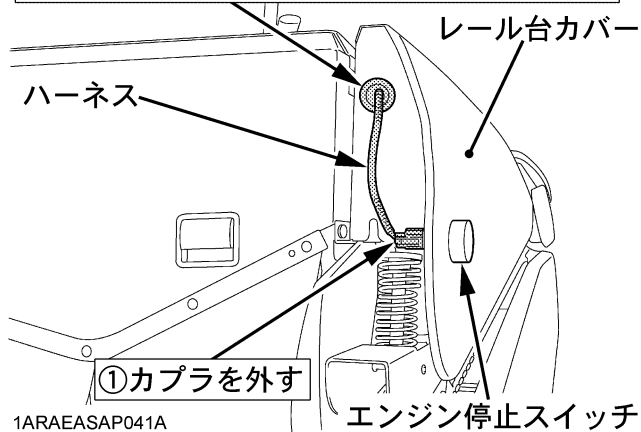
補 足

* レール台ブッシュ部への注油は、シーズン終了後の長期格納前の掃除をしっかりと行なったあと行なってください。

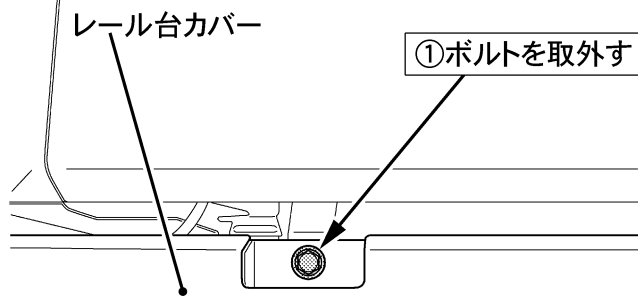
1. 補助デッキを引出します。
2. エンジン停止スイッチのカプラを取外したあと、本機側のハーネスと一体となっているゴムキャップをレール台カバーの取付穴から抜取ります。



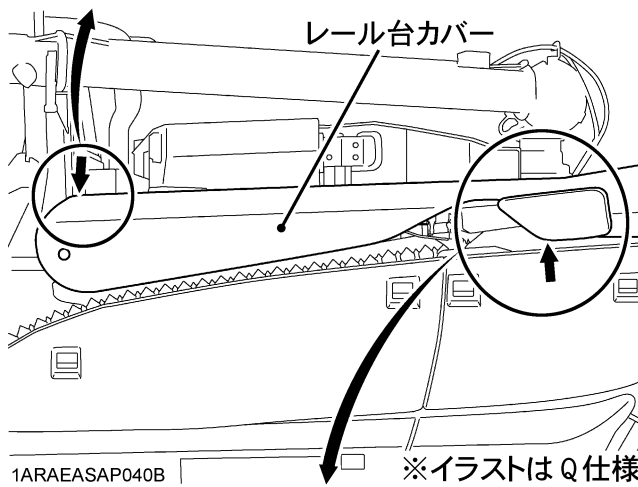
②ハーネスと一体になっているゴムキャップを取付穴から外してハーネスを抜取る



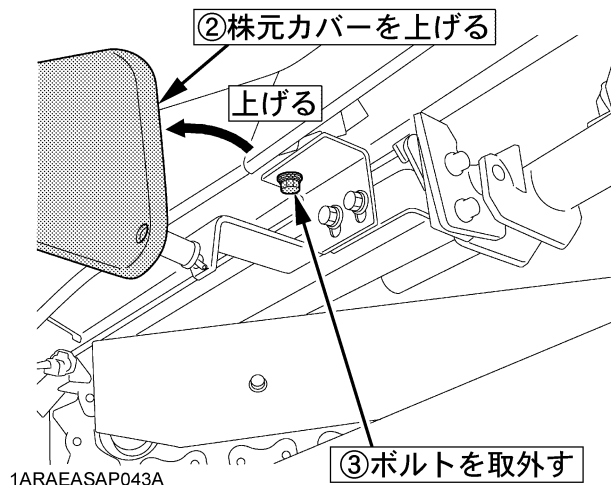
3. ボルトを取外してレール台カバーを外します。



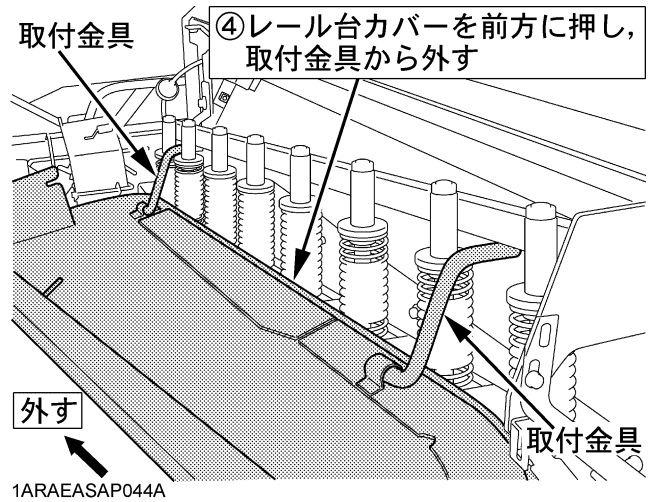
1ARAEASAP042A



1ARAEASAP040B

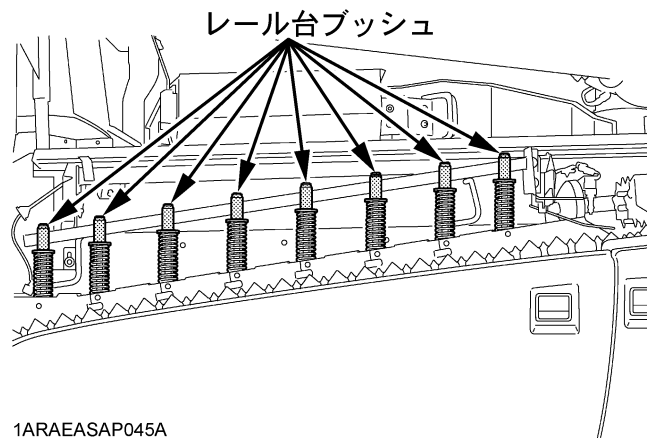


1ARAEASAP043A



1ARAEASAP044A

4. レール台ブッシュに注油します。



1ARAEASAP045A

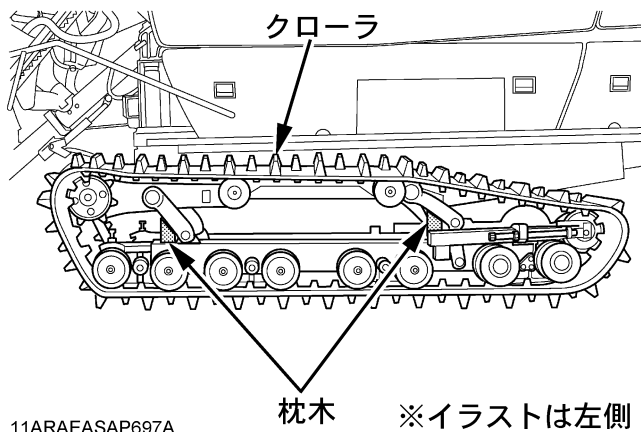
5. 取外しと逆の手順でレール台カバーを取付けます。
6. 補助デッキを収納します。

■各部のグリース



注 意

- * グリースの補給を行なうときは、エンジンを必ず止めて行なってください。
- * クローラ周辺部にグリースを補給するときは、平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを「ロック」位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。

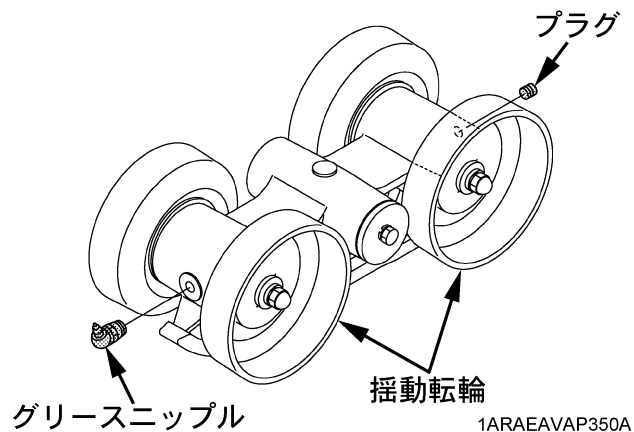
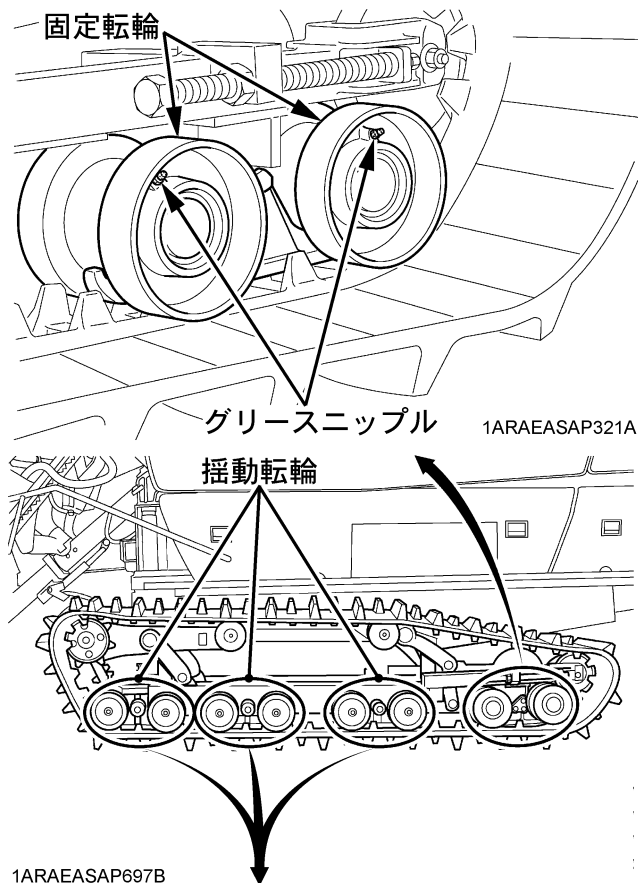


クボタスペアグリースをグリースニップルから補給してください。補給後は、各カバーを閉じる又は、取付けてください。

◆ 揺動転輪部（左、右各3箇所）

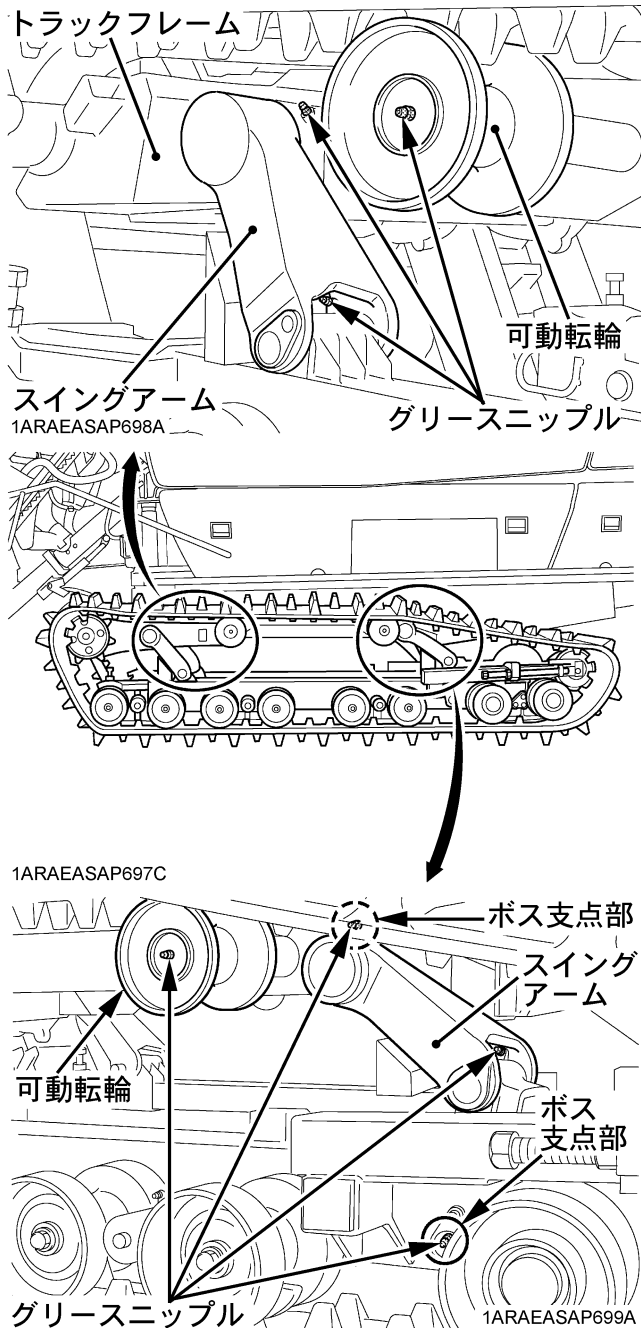
◆ 固定転輪部（左、右各2箇所）

揺動転輪部のグリース補給は、六角レンチでプラグを取外してから行なってください。また、プラグを取外した穴からグリースがはみ出てきたら補給を中止してプラグを取付けてください。



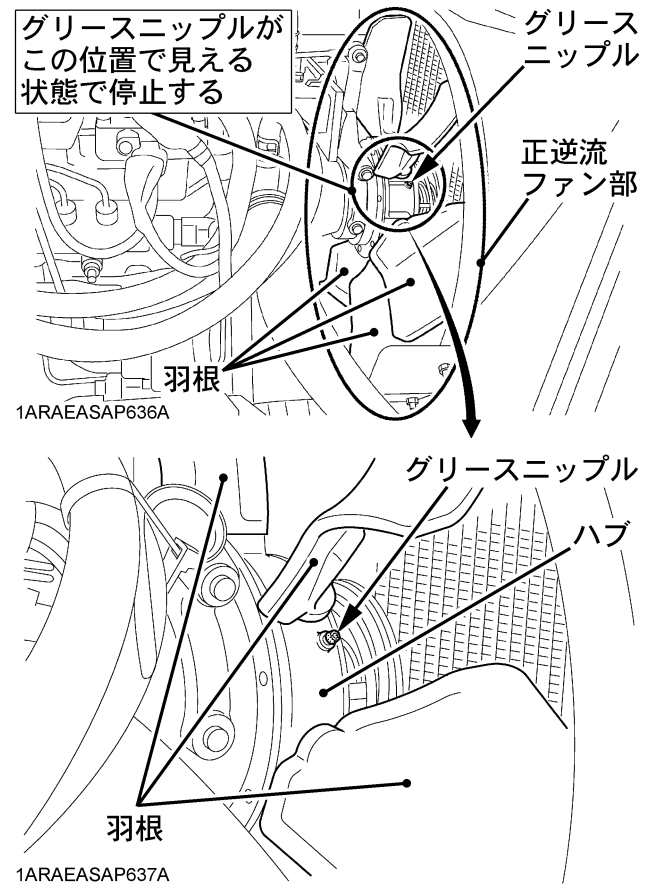
- ◆ ボス支点部 (左, 右各 2箇所)
- ◆ 可動転輪部 (左, 右各 2箇所)
- ◆ スイングアーム部 (左, 右各 2箇所)
- ◆ トラックフレーム部 (左, 右各 1箇所)

水平操作手動スイッチの【上】を押して機体を最上昇位置にしてください。

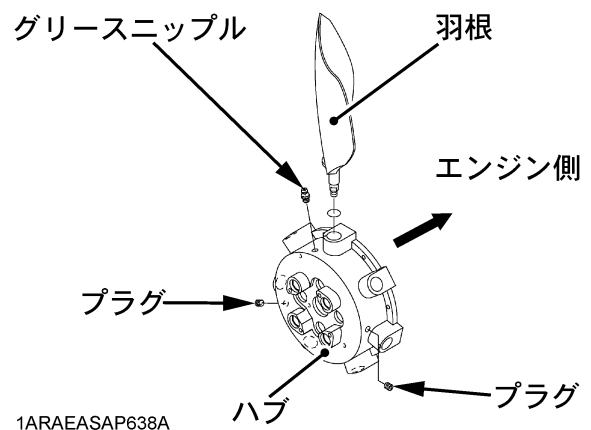


◆ エンジン正逆流ファン部

1. グレンタンクを開いたあと、運転席後カバーを取外します。
2. エンジンを始動したあと、逆流ファンの羽根を取付けているハブにあるグリースニップルを、下図の位置付近で停止するようにエンジンを停止します。



3. ハブに 2 箇所あるプラグのどちらかを取外したあと、グリースニップルからグリースを補給します。



重要

- * 補給するグリースは、必ず指定の**協同油脂㈱製耐熱グリース（パワーライト WR NO. 1）**を使用してください。指定の耐熱グリース以外のグリースを使用すると、エンジン正逆流ファン部が故障するおそれがあります。

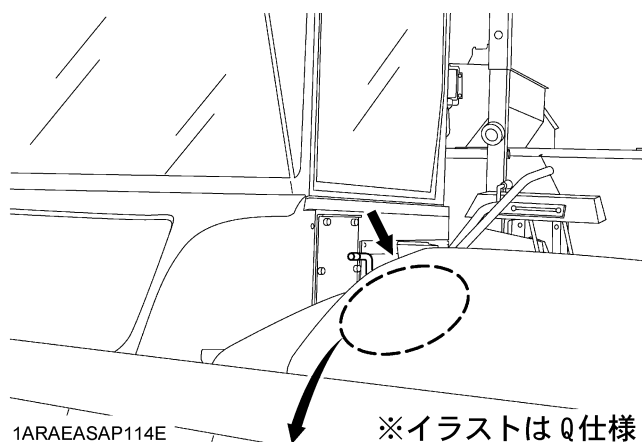
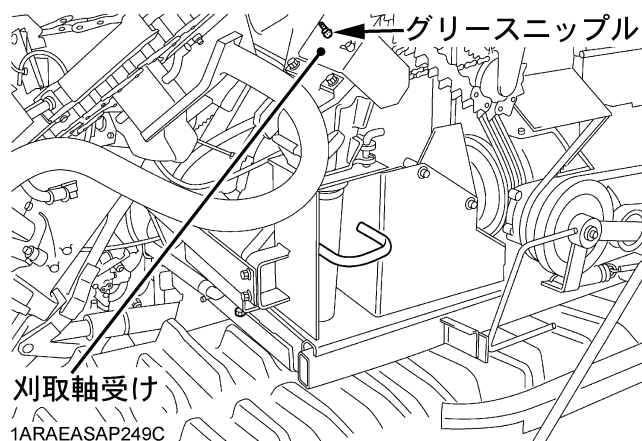
補足

- * 補給する耐熱グリースの**協同油脂㈱製耐熱グリース（パワーライト WR NO. 1）**については購入先に連絡してください。
4. 取外したプラグの取付穴からグリースがはみ出してくると補給を中止したあと、シールテープをプラグに巻いて取外したところにプラグを取付けます。

補足

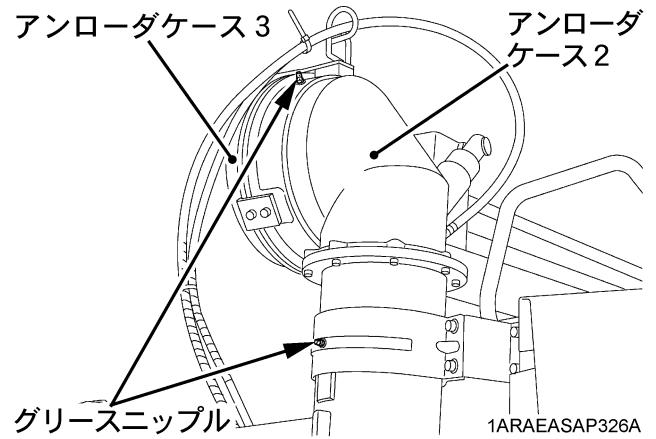
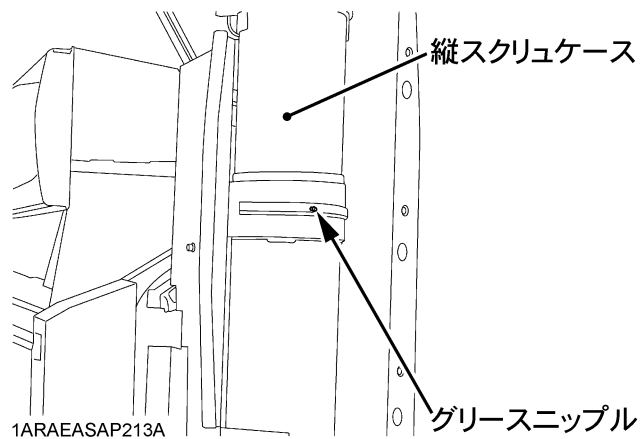
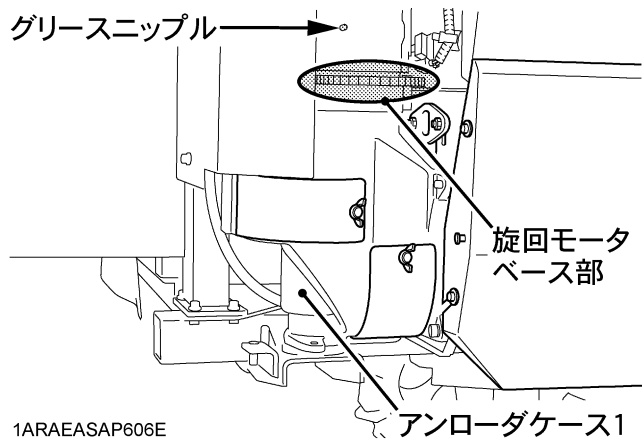
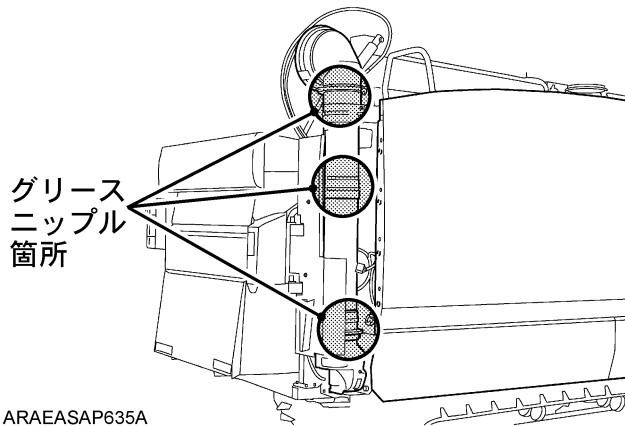
- * シールテープについては購入先に連絡してください。
 - * グリースを補給したあと、エンジンをしばらく動かすと逆流ファンの周りにグリースがにじみ出ることがありますが異常ではありません。
5. 運転席後カバーを取付けたあと、グレンタンクを閉じます。

◆ 刈取部



◆ アンローダ部

グリースの補給をするときは、グレンタンク後カバー 2 を取外してください。また、旋回モータベース部のグリースの補給は、グレンタンクを開いて行なってください。補給後は、グレンタンクを閉じたあと、グレンタンク後カバー 2 を取付けてください。



メンテナンス

■ラジエータ冷却水の点検・補給・交換

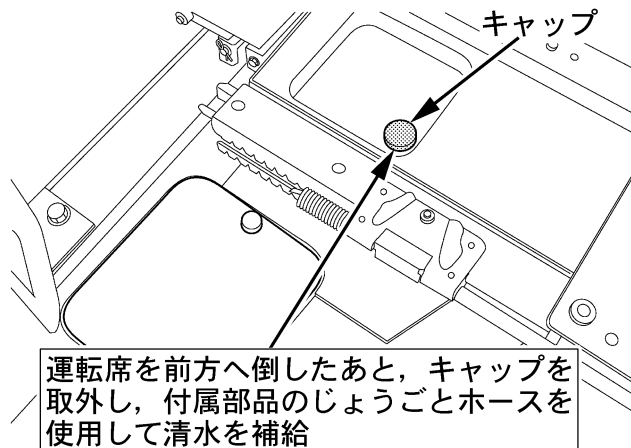
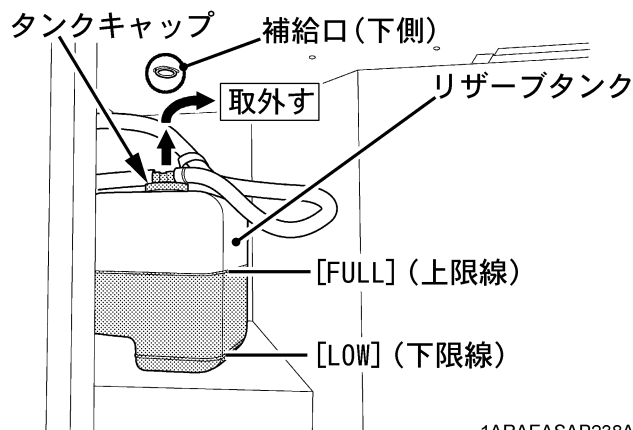
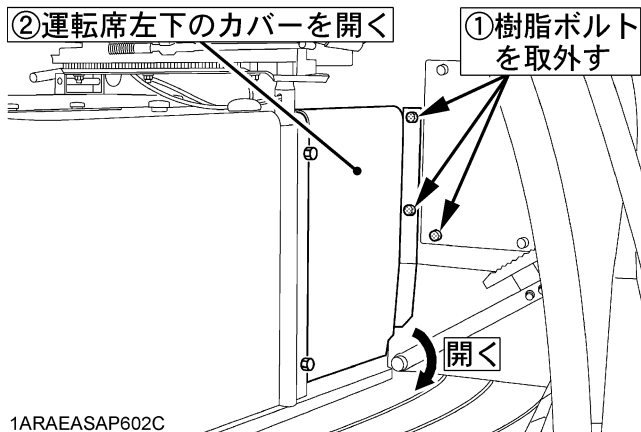


注意

- * ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。
- * 異なるメーカーの不凍液を混用しないでください。

◆ 点検・補給

1. 運転席左下のカバーを開きます。
2. リザーブタンク内の冷却水が **[LOW]** (下限線) と **[FULL]** (上限線) の間にあるか確かめます。
3. リザーブタンク内の冷却水が **[LOW]** (下限線) より少ないときは、清水を補給します。
 - (1) リザーブタンクのタンクキャップを取外します。
 - (2) 運転席下側にある冷却水補給口のキャップを取外します。
 - (3) 付属部品のじょうごとホースを使用して清水を補給します。



11ARA-EASAP237A

4. 冷却水補給口のキャップを取付けたあと、運転席左下のカバーを閉じます。

重要

- * 冷却水が自然に不足したときは、必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

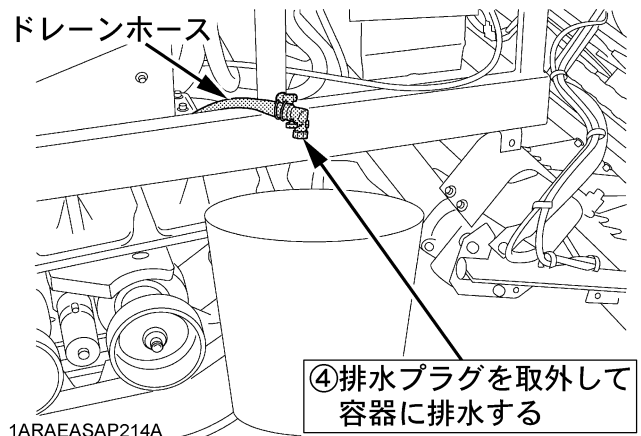
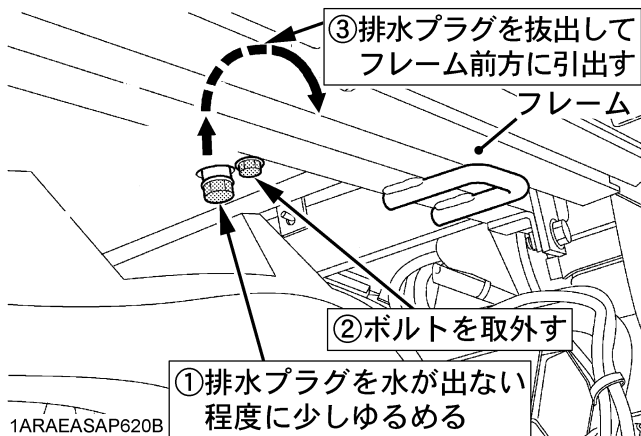
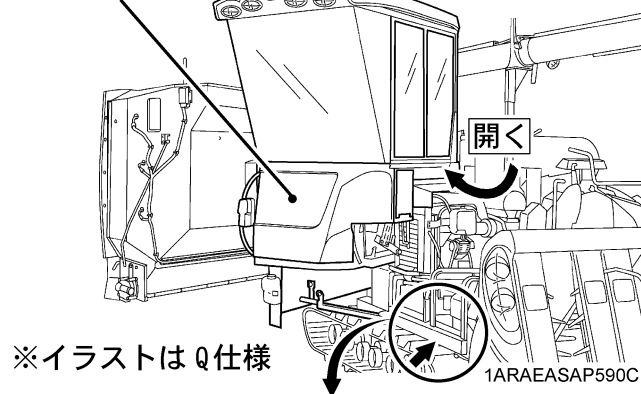
補足

- * **[FULL]** (上限線) の線以上は補給しないでください。

◆ 交換

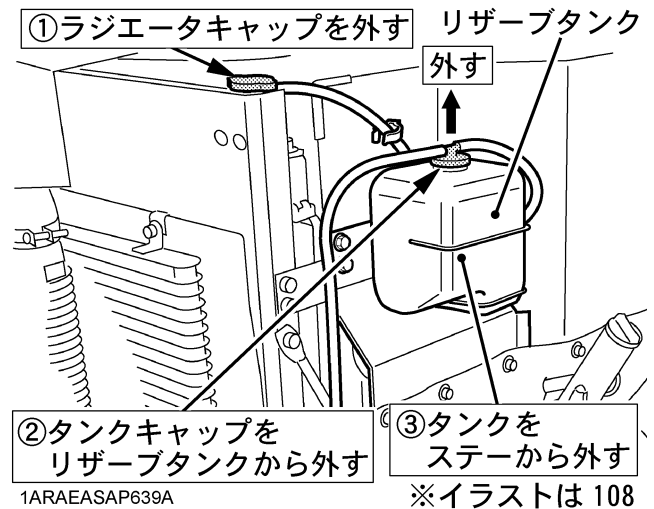
1. 運転操作部を開きます。
2. ボルトを取外し、排水プラグを排水ホースと
いっしょに引出して、準備している容器の上
で排水プラグを外し、排水します。

運転操作部



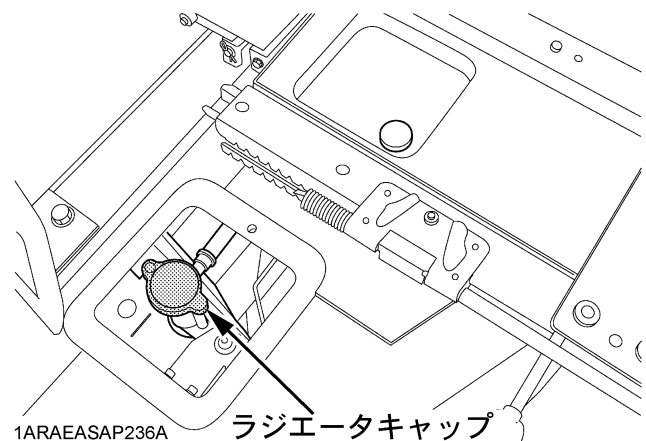
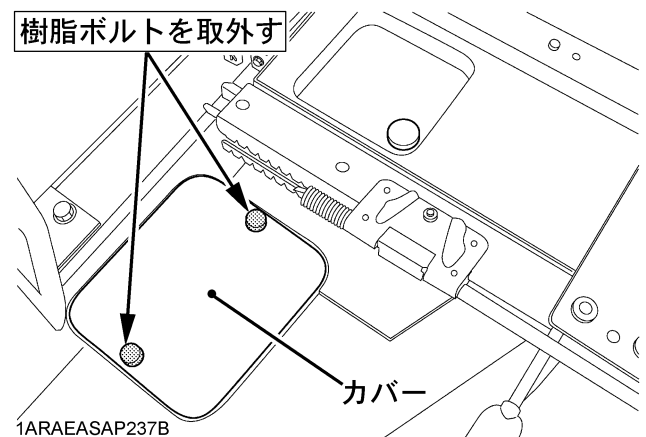
3. ラジエータキャップを外します。

4. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ
(吸引パイプ付)を取外したあと、ステーから
リザーブタンクを外して排水します。



補 足

- * ラジエータキャップは、運転操作部が閉じて
いるとき、運転席右下にあるカバーを取外す
と見えます。



5. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗いま
す。
6. リザーブタンクを取付けます。

メンテナンス

- ドレーンホース側の排水口をボルトで取付けて、排水プラグを締付けたあと、目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重要

- * 不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- * 不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- * クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。
- * 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり、排水プラグ部を機体に取り付け忘れと、ホースが破損するおそれがあります。

補足

- * 不凍液混合比は、寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して、下表を参照して混合比を決めてください。また、不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● 不凍液混合比率表

外気温度 (℃)	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比	水 (%)	85	80	75	70	65	60	55	50
率	不凍液 (%)	15	20	25	30	35	40	45	50

※出荷標準：不凍液 50%

※ラジエータ容量：7.9L **[572・587・698]**,
8.5L **[108]**

（リザーブタンク容量は含まない）

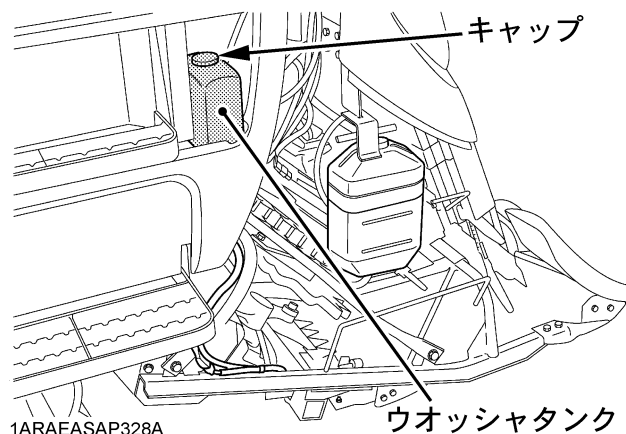
※新しい冷却水と交換を行なったあとは、必ず不凍液を入れて、5分間エンジンを空回転し、不凍液の混合を早めてください。そのあと、冷却水が冷えてからラジエータキャップを取外して冷却水の補給とリザーブタンクの水量をたしかめておいてください。

- ラジエータキャップ及びリザーブタンク、キャップを取付けます。
- 運転操作部を閉じます。

■ ウォッシュ液の補給

[Q仕様]

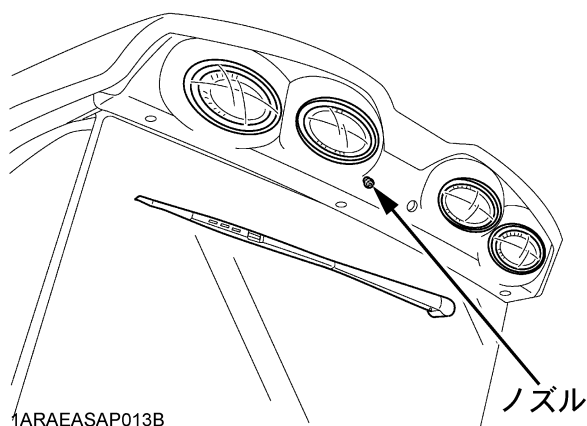
ウォッシュタンクのキャップを取外して、自動車のウォッシュ液を補給してください。補給後は、キャップを取付けてください。



ウォッシュ液の種類	ウォッシュタンク容量
自動車用ウォッシュ液	約 1.2L

重要

- * ウォッシュタンクに清水などウォッシュ液以外の液体を入れないでください。寒冷時に凍結して故障の原因となります。
- * ウォッシュ液が入っていない状態で、ワイパ・ウォッシュスイッチを押さないでください。ポンプの故障の原因となります。
- * ウォッシュタンク内にごみが混入すると、ノズルが詰まりウォッシュ液が出なくなるおそれがあります。

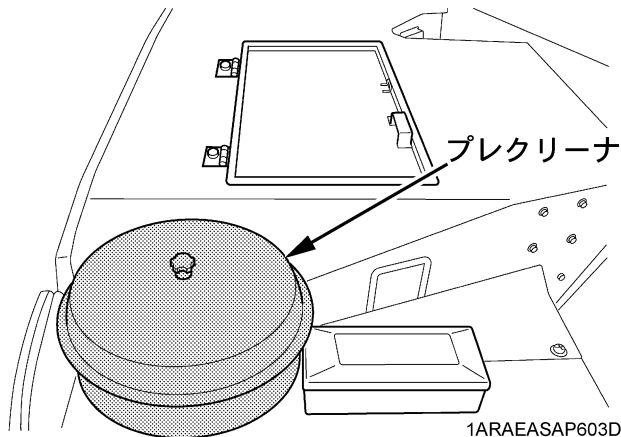


[Q仕様]

■プレクリーナの点検・掃除

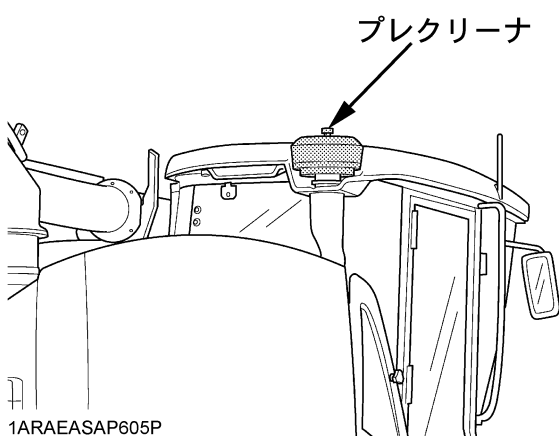
ほこりの量がプレクリーナのコレクタ側面の白ラインを越えているときは、蝶ナットをゆるめて次の要領でほこりを取除いてください。

[Q仕様除く]

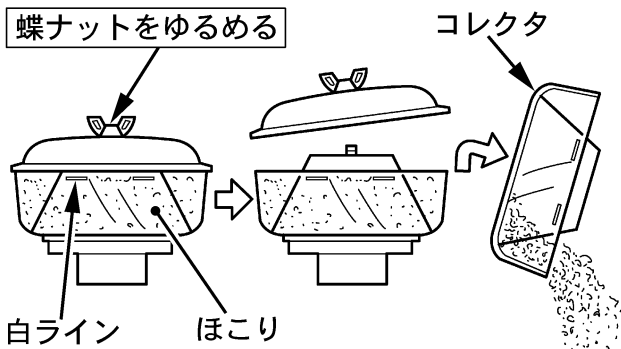


[Q仕様除く]

[Q仕様]



[Q仕様]



1ARAEAPAP278A

重要

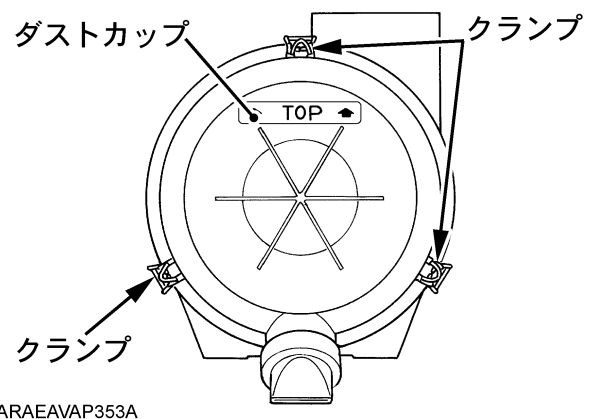
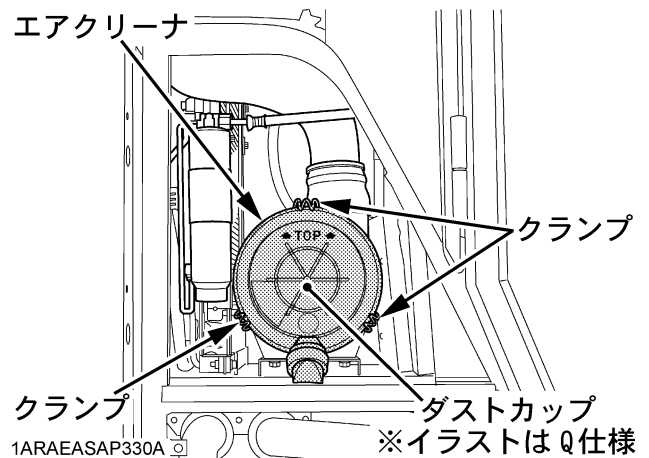
* 乾式のフィルタなのでオイルは入れないでください。

補足

* ほこりが溜まるとエアクリーナの詰まりの原因となります。

■エアクリーナの点検・掃除・交換

防じんカバーを開く又は、取外したあと、クランプ3箇所を外してダストカップを取外してください。

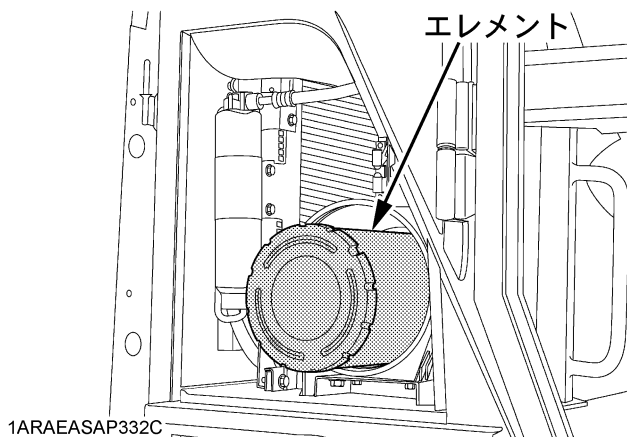


1ARAEAVAP353A

メンテナンス

◆ 点検・掃除・交換

エアクリーナエレメントの点検を行ない、掃除又は、交換を行なってください。エレメントを掃除するときは、エレメントを引抜いて取外したあとエレメントの内側から空気を吹きつけるか、又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や 300 時間経過しているときは、交換してください。作業終了後は、ダストカップを取付けて、防じんカバーを閉じてください。

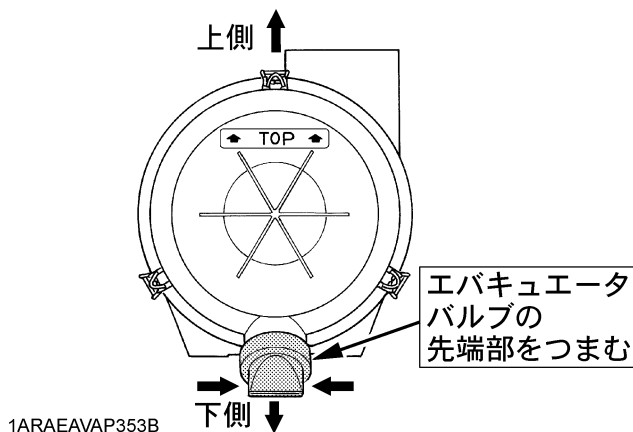


重 要

- * 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- * エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
- * エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は、たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
- * エレメントを掃除する場合、エアの圧力は 205kpa (2.1kgf/cm²) をこえないよう注意し、エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また、エアはエレメントの内側から外側に通してください。

補 足

- * エアクリーナの点検を行なったときは、ダストカップのエバキューータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。
- * ダストカップを取付けるときは **【TOP】** の文字を上側にしてください。



■パイプ、ホース類の点検・交換



注 意

- * 運転中ラジエーターホースが外れると熱湯が吹出し、ヤケドをするおそれがあります。
- * 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆ 点検

エンジン、エアクリーナ、プレクリーナ、ラジエータ、各オイルクーラ、インタークーラ [108]、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し、油もれや水もれが発生しているときやゆるんでいるときは、パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重 要

- * オイルドレインゴムホースが破損していると、エンジンが焼付を起します。
- * 油もれや水もれをしていなくても、**2年経過しているときや劣化の激しい場合は購入先に連絡して交換してください。**

◆ 交換

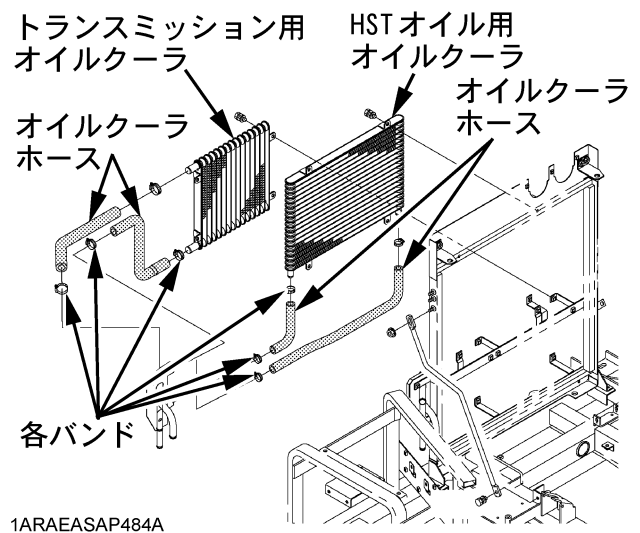
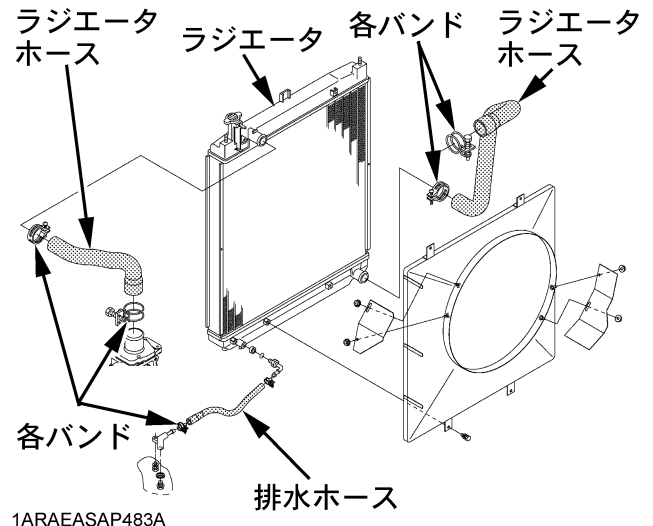
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ、締付不足がないよう取付けてください。

重 要

- * 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

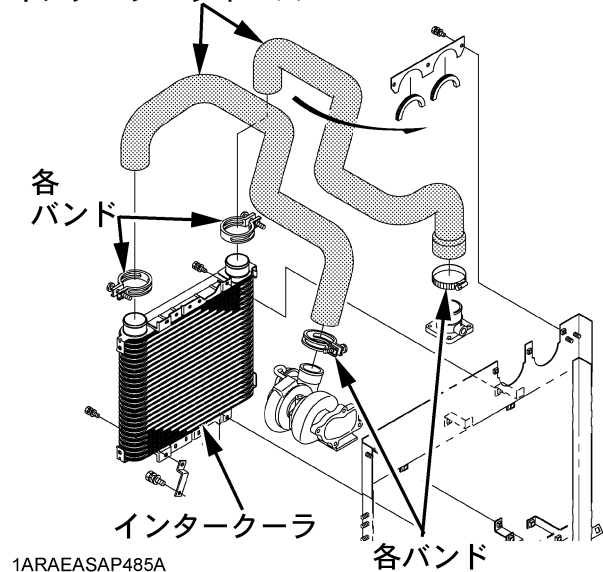
補 足

- * フューエルパイプ交換後は、メインスイッチのキーを【入】位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。



[108]

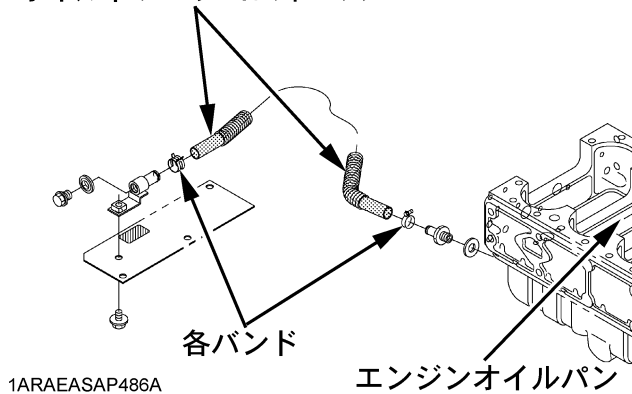
インタークーラホース



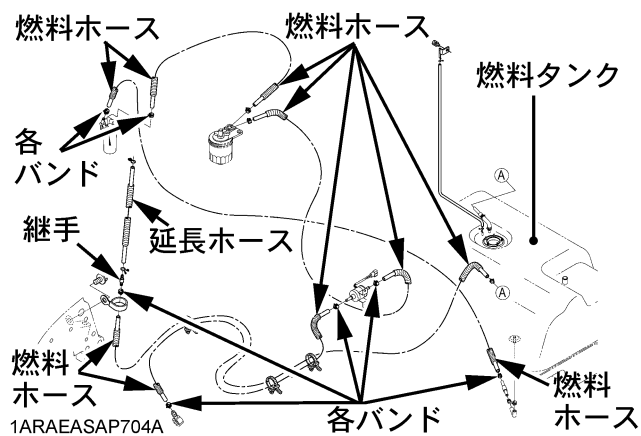
[108]

メンテナンス

オイルドレーンゴムホース

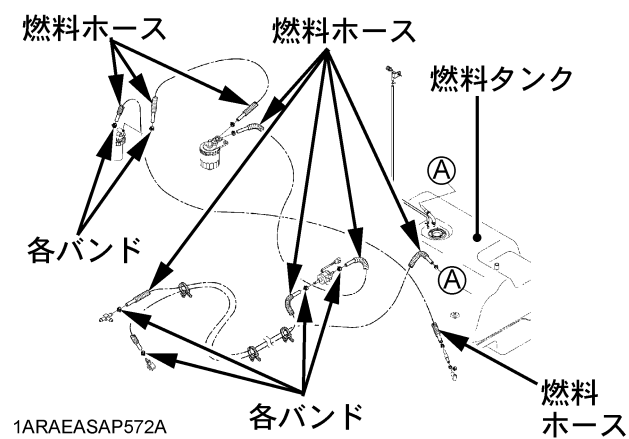


[572]



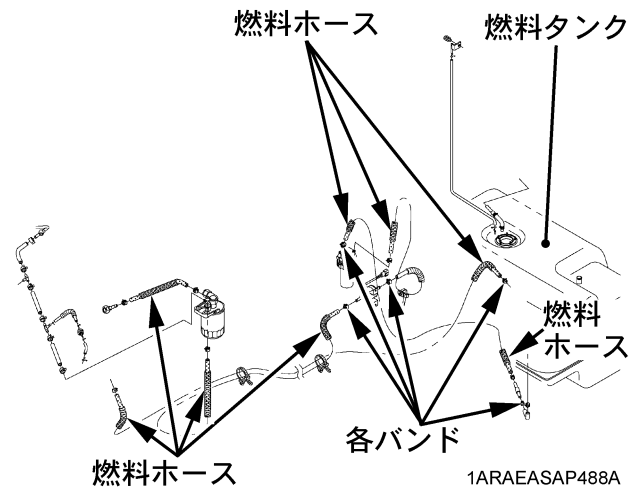
[572]

[587・698]

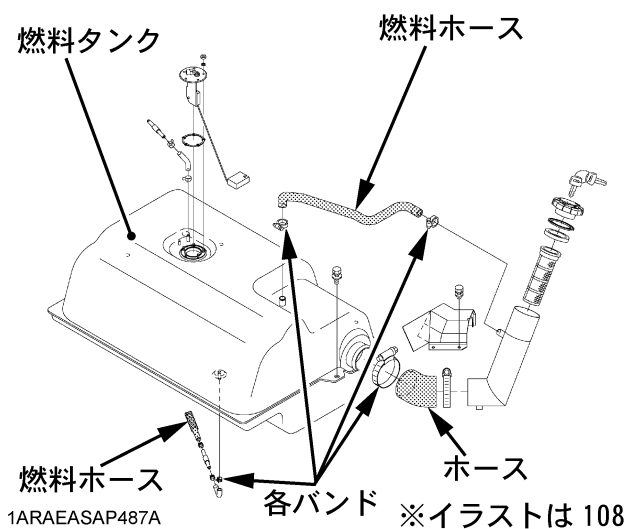


[587・698]

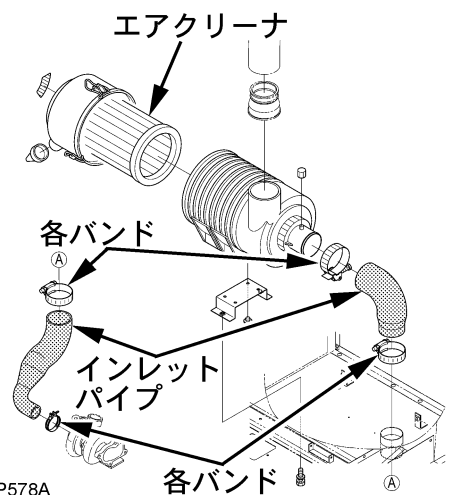
[108]



[108]

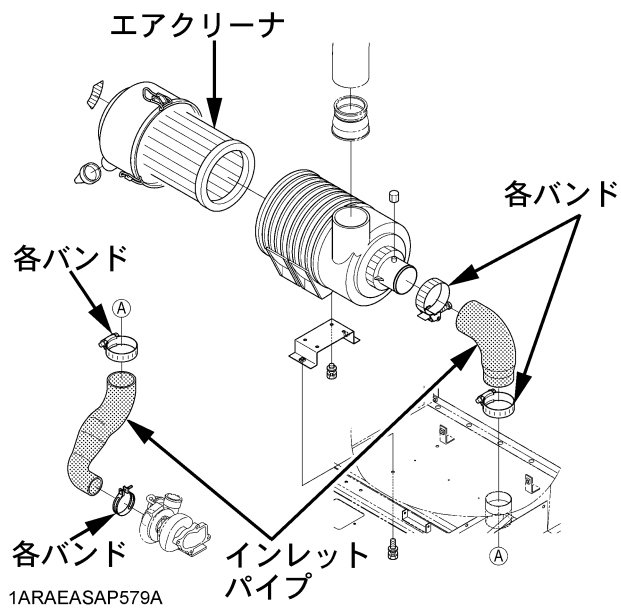


[572・587]



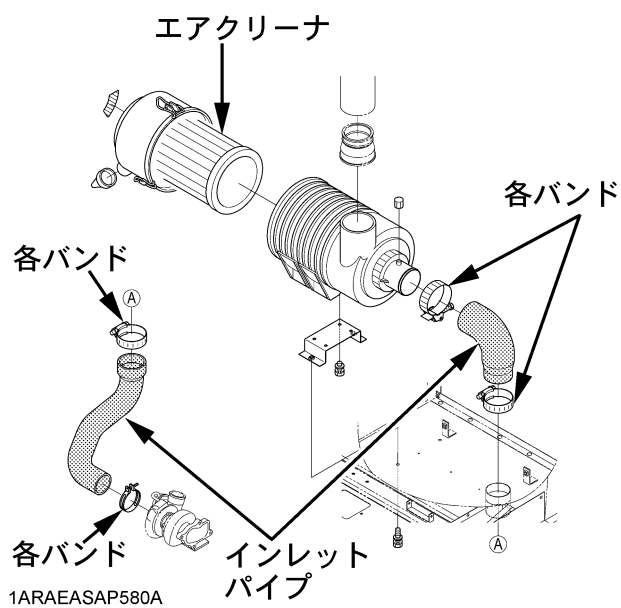
[572・587]

[698]



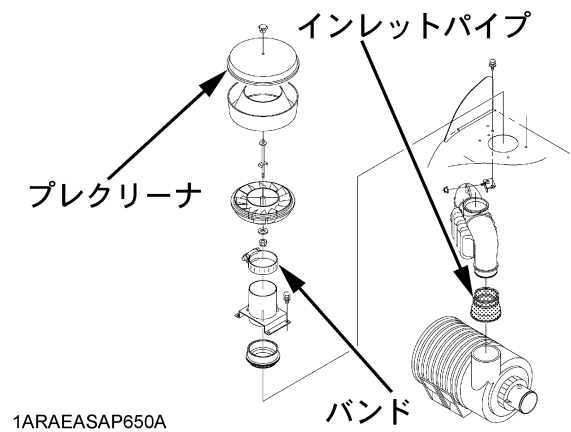
[698]

[108]



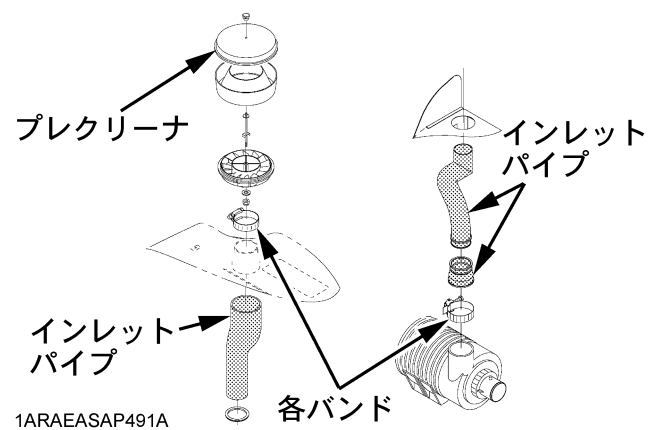
[108]

[Q仕様除く]



[Q仕様除く]

[Q仕様]



[Q仕様]

メンテナンス

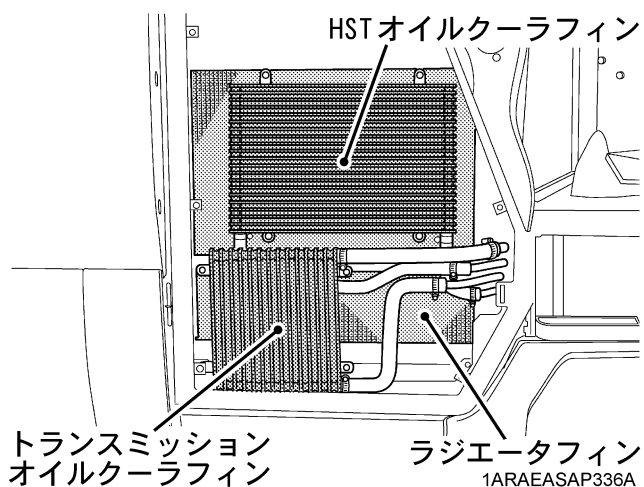
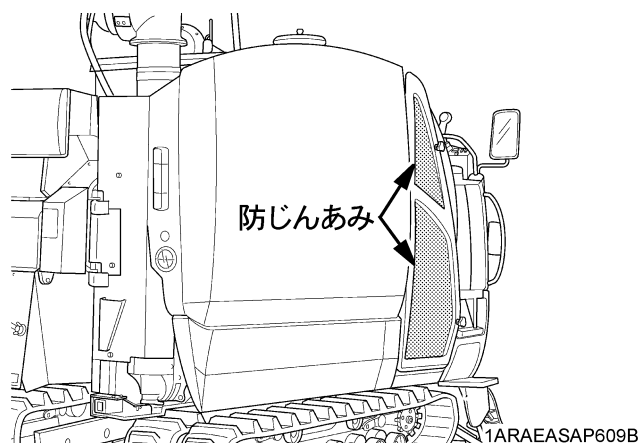
■防じんあみ、各フィンの掃除

◆ 掃除

防じんカバーを取外したあと、圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

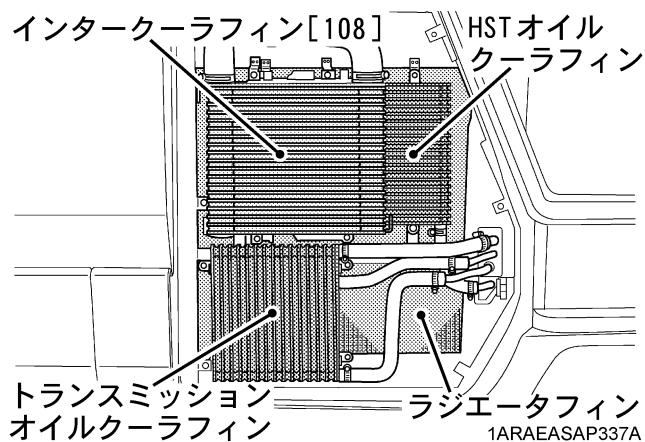
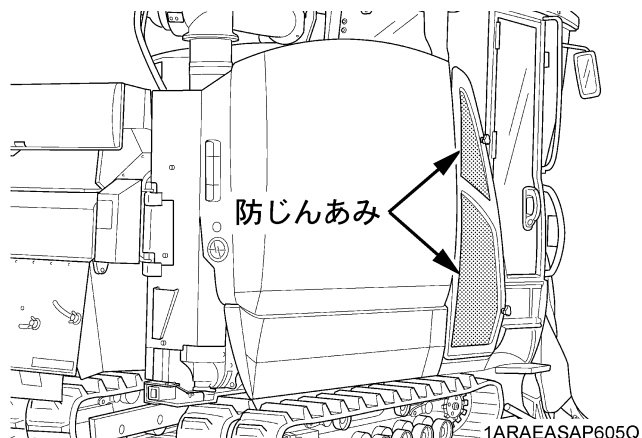
● エンジン部

[Q仕様除く]



[Q仕様除く]

[Q仕様]



[Q仕様]

重要

- * ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して、各フィンの掃除をしないでください。ラジエータフィンを傷めると、ラジエータの機能を低下させる原因になります。

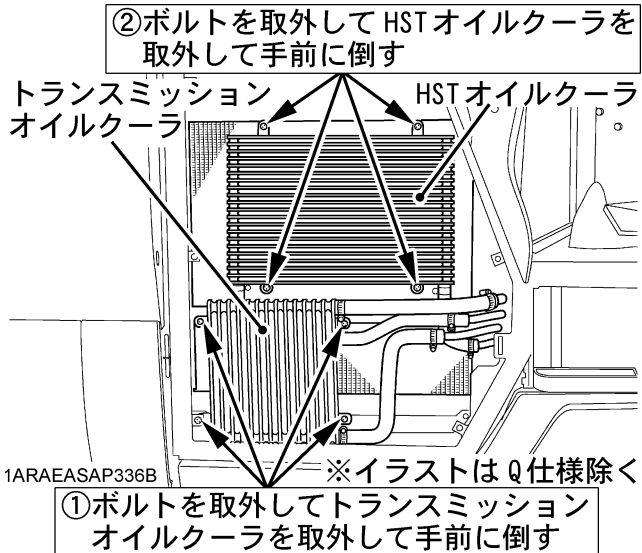
補足

- * ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は、ボルトを取外して各オイルクーラを手前に倒してから掃除してください。また、[108]はインタークーラを取外して掃除してください。

● 取外しかた

[572・587・698]

1. ボルトを取外したあと、各オイルクーラを手前に倒します。

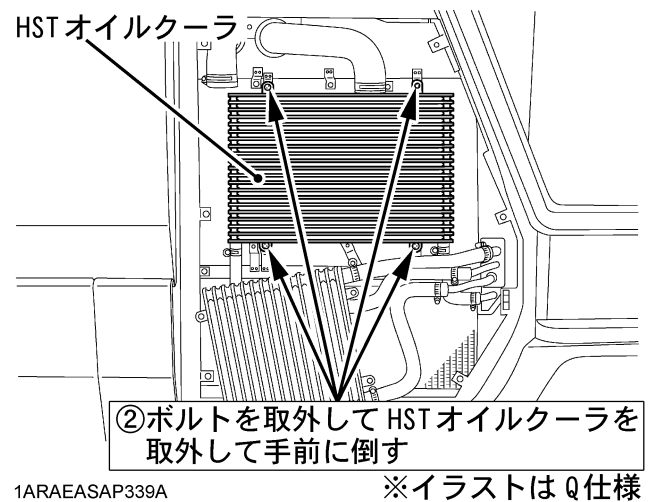
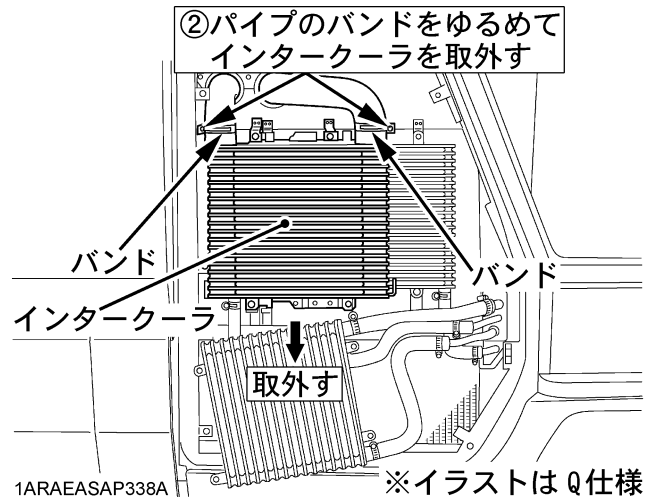
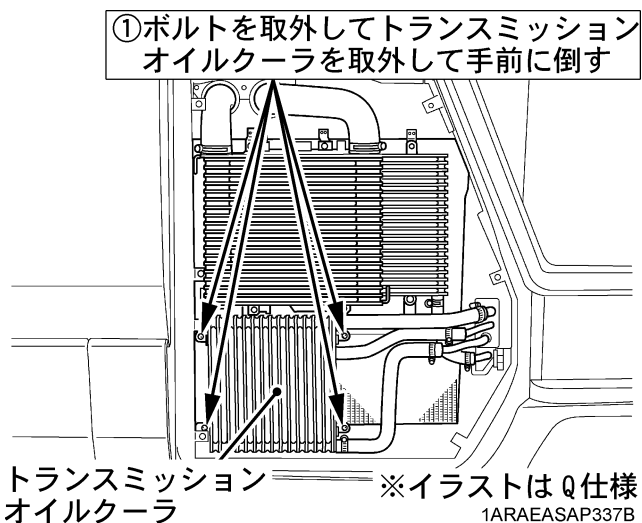


2. 逆の手順で取付けたあと、防じんカバーを取付けます。

[572・587・698]

[108]

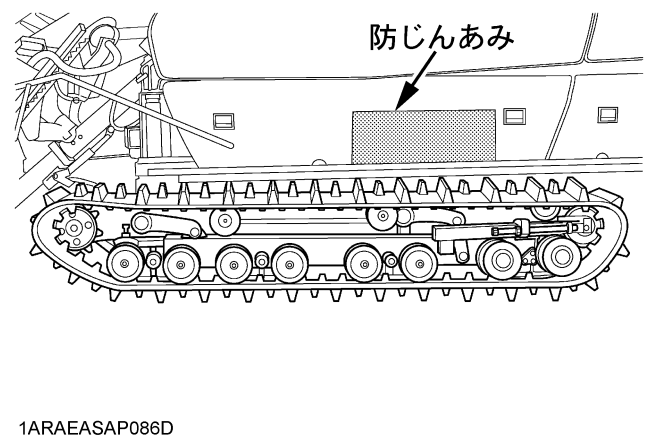
1. ボルトを取外し、ミッションオイルクーラを取外して手前に倒したあと、パイプのバンドをゆるめてインタークーラを取外し、ボルトを取外してHSTオイルクーラを取外して手前に倒します。



2. 逆の手順で取付けたあと、防じんカバーを取付けます。

[108]

● 脱こく部



■油水分離機（セパレータ）の点検・排水



注意

- * グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。

油水分離機の点検・排水を行なうときは、グレンタンクを開いてください。点検・排水後は、グレンタンクを閉じてください。

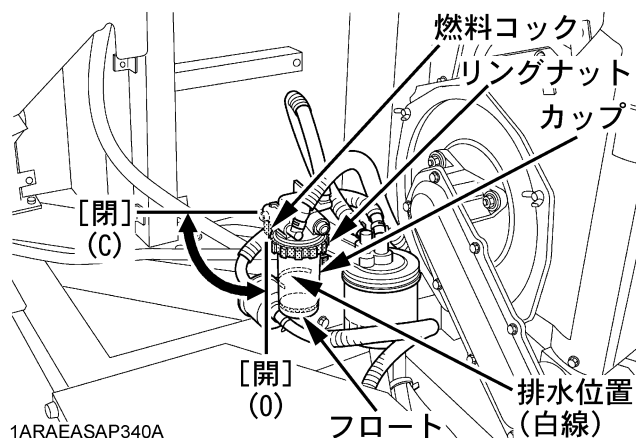
◆ 点検

グレンタンクを開き点検を行なったとき、セパレータのカップに水が貯まり、赤いフロート（浮輪）が排水位置（白線）まで上昇したときは排水してください。

◆ 排水

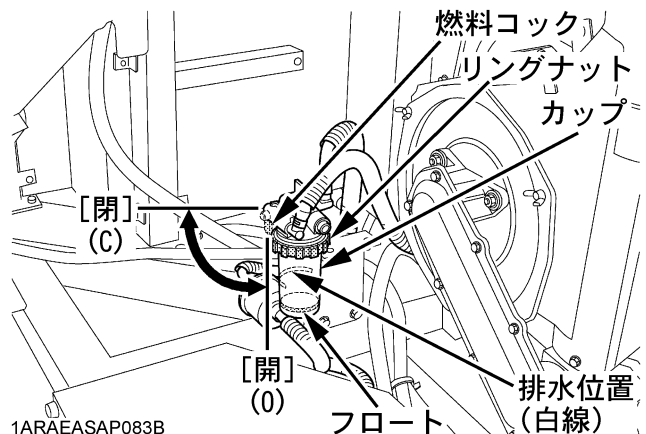
1. セパレータの燃料コックを **【閉】(C)** 位置にします。
2. リングナットをゆるめてカップを取外し、排水及びゴミの排出をします。
3. カップをリングナットで取付けたあと、燃料コックを **【開】(O)** 位置にします。

[572・587・698]

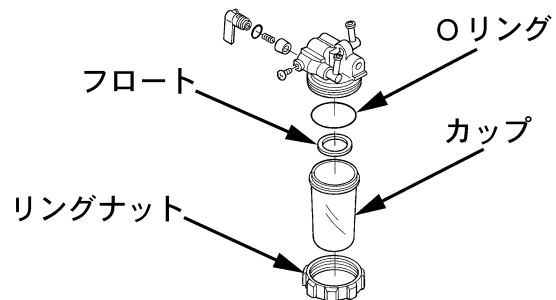


[572・587・698]

[108]



[108]



11ARAEPAP206B

重要

- * Oリングは傷付けないようにしてください。また、カップに正しく入れて組付けてください。

補足

- * 赤いフロートを捨てないでください。
- * 排水後は、スイッチキーを **【入】** 位置にする
と5～10秒で自動的にエア抜きされます。

4. グレンタンクを閉じます。

■燃料フィルタカートリッジの交換



注 意

- * グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。

燃料フィルタカートリッジの交換を行なうときは、グレンタンクを開いてください。また、交換は燃料を給油する前に行なってください。交換後はグレンタンクを閉じてください。

重 要

- * 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し、エンジンの故障の原因となります。

補 足

- * 交換後は、メインスイッチのキーを【入】位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

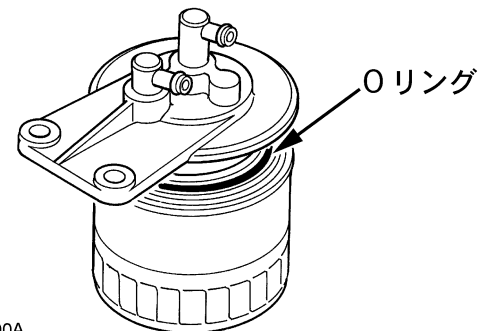
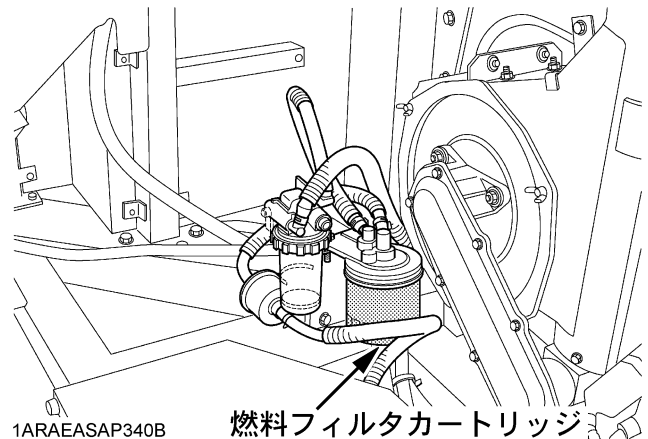
◆ 交換

1. グレンタンクを開きます。
2. セパレータの燃料コックを【閉】位置にします。
3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補 足

- * 取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。
- 4. 新しいカートリッジはOリングに燃料を薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

[572・587・698]

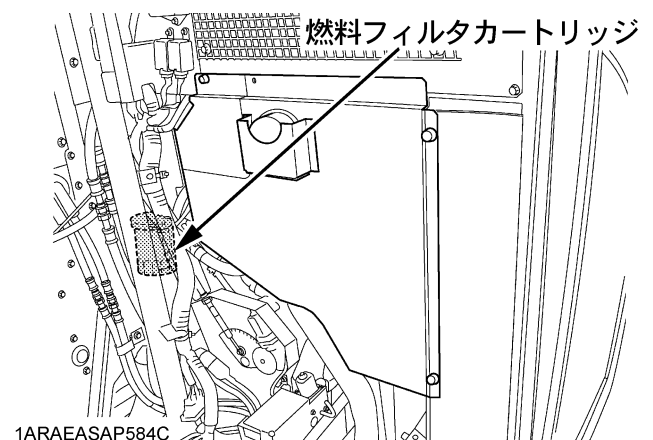


重 要

- * Oリングは傷つけないようにしてください。また、溝にきちんと入れて組付けてください。

[572・587・698]

[108]



[108]

5. セパレータの燃料コックを【開】位置にします。
6. グレンタンクを閉じます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換



注 意

- * グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。

エンジンオイルフィルタカートリッジの交換を行なうときは、グレンタンクを開いてください。交換後は、グレンタンクを閉じてください。

◆ 交換

補 足

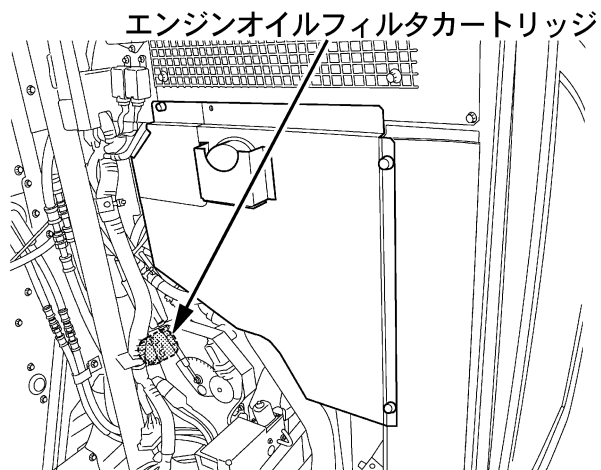
- * エンジンオイルフィルタカートリッジは、エンジンオイルの交換と同時に交換してください。

1. グレンタンクを開きます。
2. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補 足

- * 取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。

3. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
4. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと、5分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確認しておいてください。



※イラストは 108G 仕様

重 要

- * 新しいカートリッジは O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
- * エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。

補 足

- * オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

5. グレンタンクを閉じます。

■ HST オイルフィルタカートリッジ、トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換、HST 油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換



警告

- * 運転操作部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
- * 傾斜地では、運転操作部の開閉は行なわないでください。
- * 運転操作部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

◆ 交換

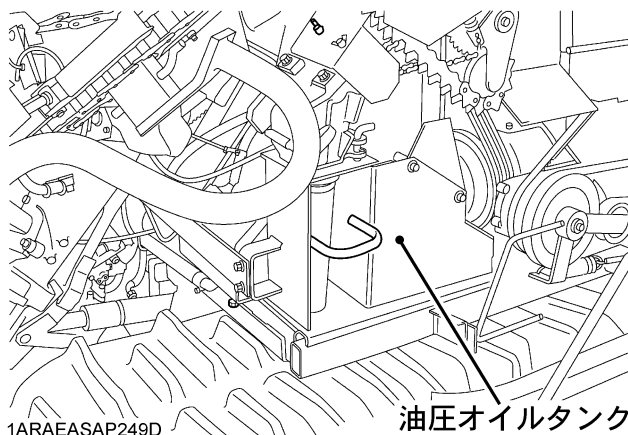
補 足

- * HST オイルフィルタカートリッジとトランスミッションオイルフィルタカートリッジは同時に交換を行なってください。また、油圧オイルタンクフィルタの洗浄又は、交換も同時に行なってください。

1. 左サイドカバー上1，下1を取外します。
2. 油圧オイルタンクの給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出します。
3. ボルトを取外して管継手を外します。

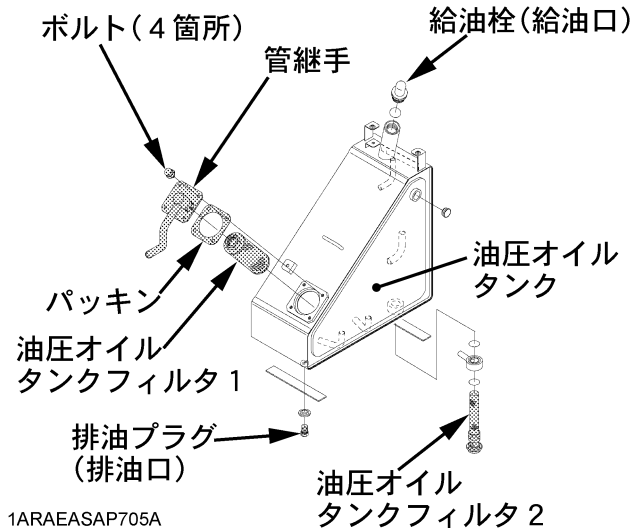
重 要

- * 管継手を取外すとき、パッキンが破れないようにゆっくりと外してください。
4. 油圧オイルタンクフィルタ 1，2を取外したあと、フィルタが汚れているときは、軽油などで洗浄し、破損しているときは交換します。



1ARAEASAP249D

油圧オイルタンク

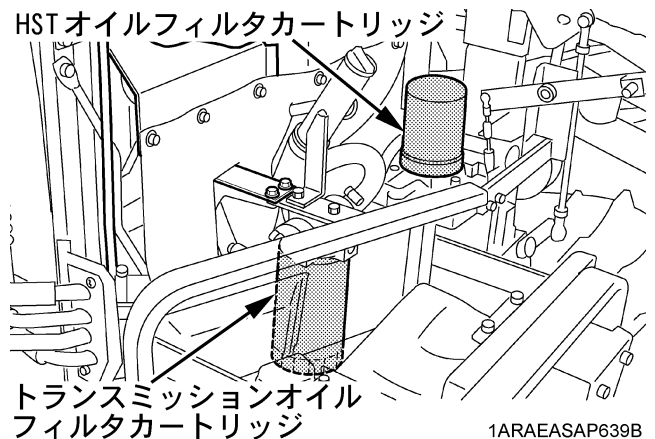


1ARAEASAP705A

5. 取外した逆の手順で油圧オイルタンクフィルタ 1，2 及び管継手を取付ます。

補 足

- * 管継手を取付けるときは、液状パッキンを塗布してください。液状パッキンについては、購入先に連絡してください。
6. 排油プラグを締付けます。
 7. 運転操作部を開きます。
 8. 専用工具を使って HST オイルフィルタカートリッジ及びトランスミッションオイルフィルタカートリッジを取外します。



1ARAEASAP639B

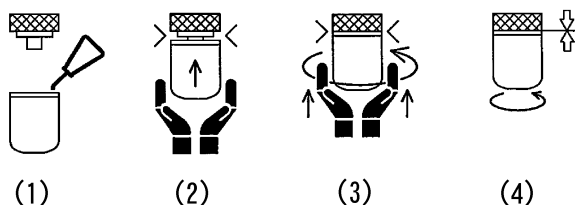
補 足

- * 取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。

9. 新しいオイルフィルタカートリッジを取付けます。

重 要

- * 新しいカートリッジを取付けるときは、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。また、オイルフィルタカートリッジを交換するときに、ごみなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、HST の故障の原因となります。
- * 新しいオイルフィルタカートリッジを取付けるときは、下記の手順で取付けてください。



※イラストはトランスミッション
オイルフィルタカートリッジ

1ARAEASAP375A

- (1) オイルフィルタカートリッジの取付面にオイルを薄く塗る
- (2) オイルフィルタカートリッジが傾かないように、両手で持ちながら取付ける
- (3) ゆるまない程度まで締付ける
- (4) オイルフィルタカートリッジと取付部にすき間がないことを確認する

10. 運転操作部を閉じます。
11. 205 ページの項を参照し、オイルを規定量給油します。

補 足

- * オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけ油圧タンクオイル、トランスミッションオイルの油面が下がります。

12. 左サイドカバー上 1，下 1 を取付けます。

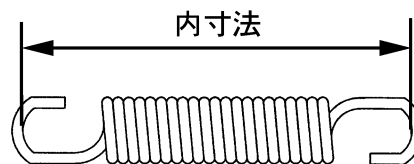
重 要

- * 給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて、オイルゲージで点検を行ない、下限より少ないときは、オイルを追加補給してください。

■各部ワイヤの点検・調整

補 足

- * スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



1ASADACAP390A

■ 駐車ブレーキワイヤの点検・調整

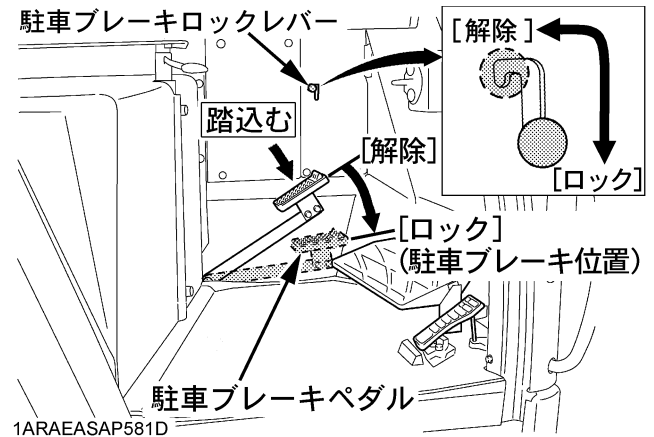


警告

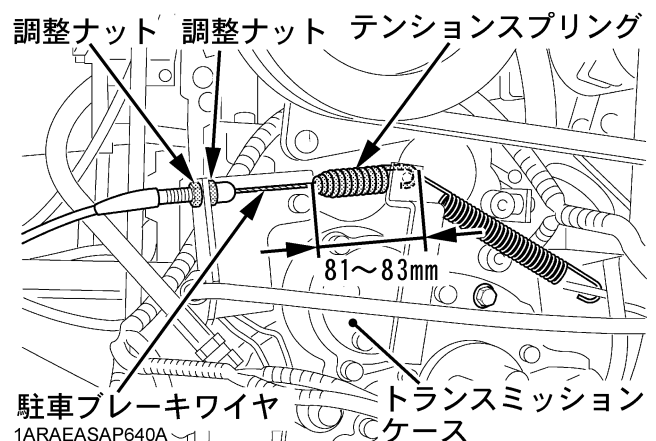
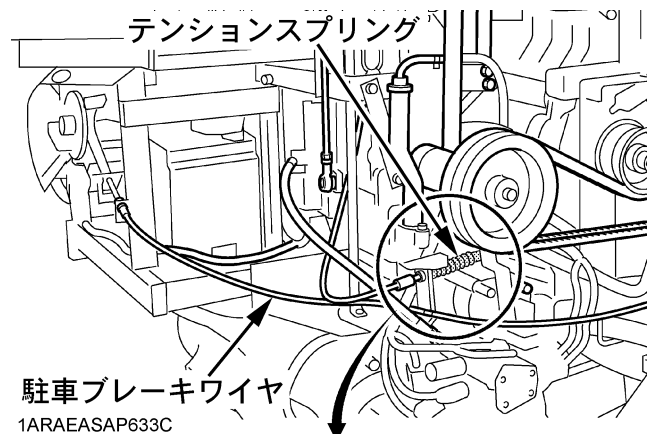
- * 刈取部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 傾斜地では、刈取部の開閉は行なわないでください。
- * 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- * 刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

テンションスプリングの長さを 81～83mm に調整します。

1. 駐車ブレーキを掛けます。
2. 刈取部を開きます。
3. 調整ナット 2 個をゆるめて、調整します。



1ARAEASAP581D

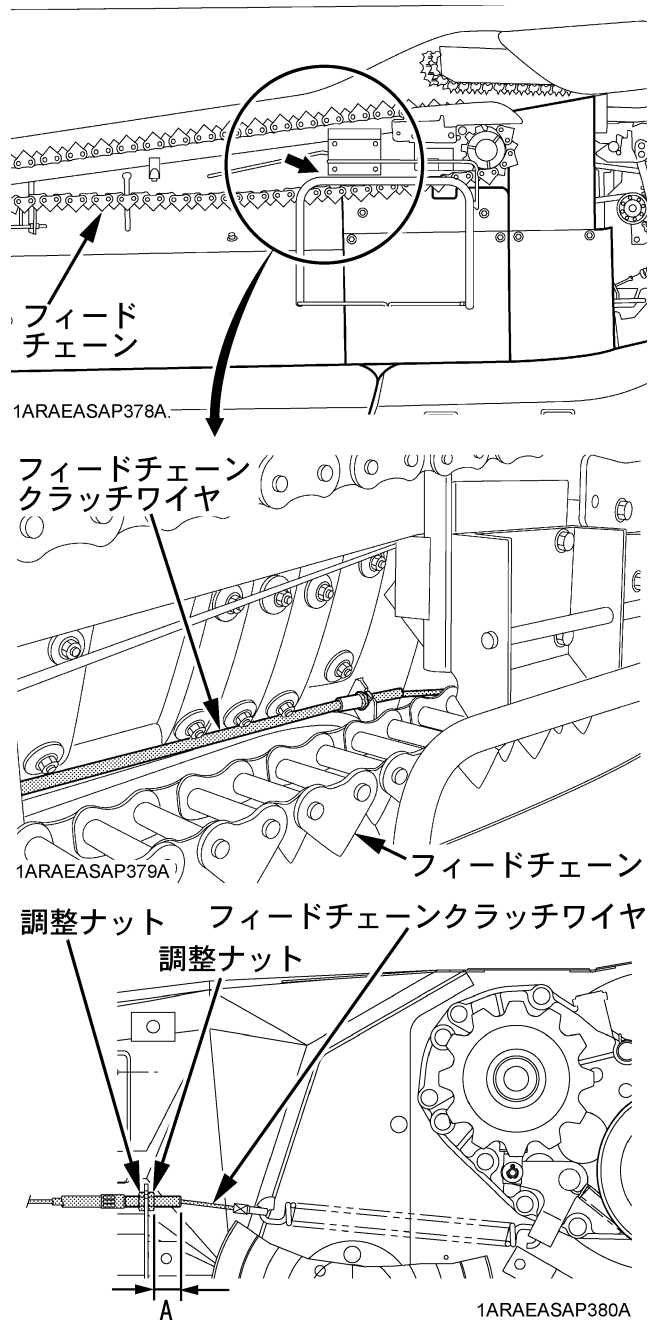


4. 調整ナットを締付けます。
5. 刈取部を閉じます。
6. 駐車ブレーキを解除します。

■フィードチェーンオートクラッチワイヤの点検・調整

刈取部を上げたとき、刈取部がフィードチェーンと同時に少し早く停止する又は、刈取部を下げたとき、フィードチェーンが刈取部と同時に少し早く作動するようにワイヤを調整します。

1. 平たんな場所で副変速レバーを **【N】**（中立）位置にし、エンジンを始動したあとオートクラッチ切換えスイッチを **【入】** にします。
2. 脱こく・刈取クラッチレバーを **刈取【入】** 位置にし、主変速レバーを前進側に操作して刈取部を作動したあと、刈取部を上げ下げし、作動状態を確認します。
3. 脱こく・刈取クラッチレバーを **【切】** 位置にしたあと、エンジンを停止します。
4. 左サイドカバー上1，上2を取外します。
5. ステップ下にあるクラッチワイヤの調整ナット2個をゆるめて下図(A)寸法を調整します。
 - 刈取部を上げたとき、フィードチェーンが刈取部より早く停止する場合…伸ばす。
 - 刈取部を下げたとき、フィードチェーンが刈取部より遅く動く場合…縮める。



6. 調整ナットを締付けたあと、左サイドカバー上1，上2を取付けます。
7. 再度確認を行なったあと、異常があれば再調整を行ないます。

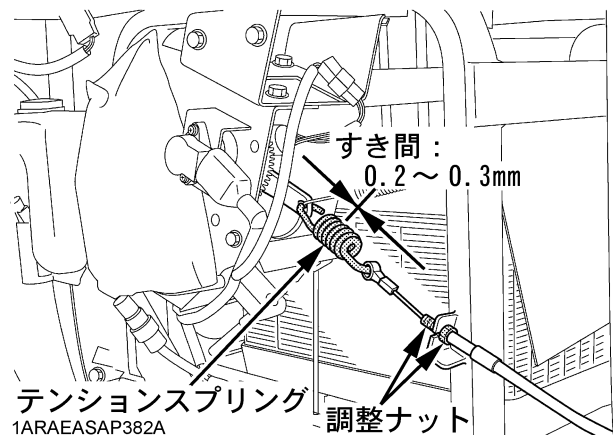
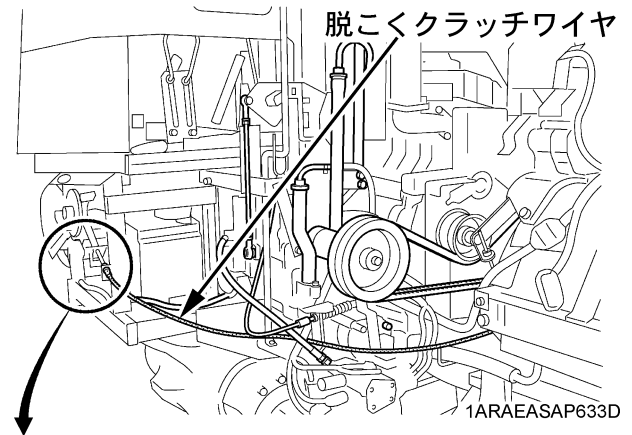
■脱こくクラッチワイヤの点検・調整



警告

- * 刈取部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 傾斜地では、刈取部の開閉は行なわないでください。
- * 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- * 刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

1. 刈取部を開きます。
2. メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと、脱こく・刈取クラッチレバーを刈取【入】位置にします。
3. メインスイッチのキーを【切】位置にします。
4. 調整ナット 2 個をゆるめてテンションスプリングのすき間を 0.2 ～ 0.3 mm の範囲の内に調整します。



5. 脱こく・刈取クラッチレバーを【切】位置にします。
6. 調整ナットを締付けたあと、刈取部を閉じます。

■各部ベルトの点検・調整



注 意

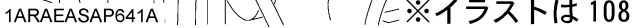
- * 刈取部、引起し部、運転操作部、グレンタンク、こぎ胴などの各部を開いて作業を行なうときは、下記事項を遵守してください。
 - 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
 - 傾斜地では、各部の開閉は行なわないでください。
 - 刈取部、引起し部、グレンタンクを開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
 - 各部を開いた状態で走行をしないでください。
 - 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 刈取部を開いた状態で作業するときは、枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部の開閉を行なうときは、機体を最下降位置にしてください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

下表を参照して、各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名 称	適応機種	サイズ	本数 (本 / 台)	張 り 調 整	
						テンション スプリング 取付け長さ (mm)	たわみ量 (mm)
エンジン・刈取部周辺	(1)	ファン駆動ベルト	[全機種]	A48 (コグ)	1	—	10 ~ 12
	(2)	コンプレッサ駆動ベルト	[Q仕様]	A37	1	—	3 ~ 5
	(3)	ミッション駆動ベルト	[572]	特 C60 コグ	2	A 20 ~ 23 (テンション ロッドの出代)	—
			[587・698]	特 C59 コグ			
			[108]	特 C58 コグ			
	(4)	脱こく駆動ベルト	[全機種]	特 B60 コグ	3	B 0.2 ~ 0.3 (す き間) (231 ページ参照)	—
脱こく部・カッタ部周辺	(5)	刈取駆動ベルト	[全機種]	特 C48	1	C 140 ~ 144	—
	(6)	補助搬送 (突起付) ベルト	[572・587]	—	5	—	10 ~ 15
			[698・108]		6		
	(7)	こぎ胴駆動ベルト	[全機種]	特 B156	3	D 327 ~ 342	—
	(8)	トウミ駆動ベルト	[全機種]	特殊 B75	1	—	—
	(9)	1 番駆動ベルト	[全機種]	特 C104	1	E 170 ~ 180	—
	(10)	2 番駆動ベルト	[572・587]	特 C148	1	F 262 ~ 266	—
			[698・108]	特 C147			
	(11)	揺動駆動ベルト	[全機種]	特 B43	1	G 393 ~ 398	—
	(12)	後方こぎ胴駆動ベルト	[698・108]	特 B58	1	H 152 ~ 162	—
グレンタンク部	(13)	排わらチェーン駆動ベルト	[全機種]	特 B75	1	J 152 ~ 162	—
	(14)	カッタ駆動ベルト	[572・587]	特 B60	1	K 163 ~ 167	—
			[698・108]	特 B59			
	(15)	タンククラッチ駆動ベルト	[全機種]	特 C54	1	L 130 ~ 135	—

重 要

- * ミッション駆動ベルト、脱こく駆動ベルト、こぎ胴駆動ベルトの交換を行なうときは、2 本又は、3 本同時に交換してください。単品で交換すると、新しく交換したベルトの寿命が短くなるおそれがあります。



[572 · 587]



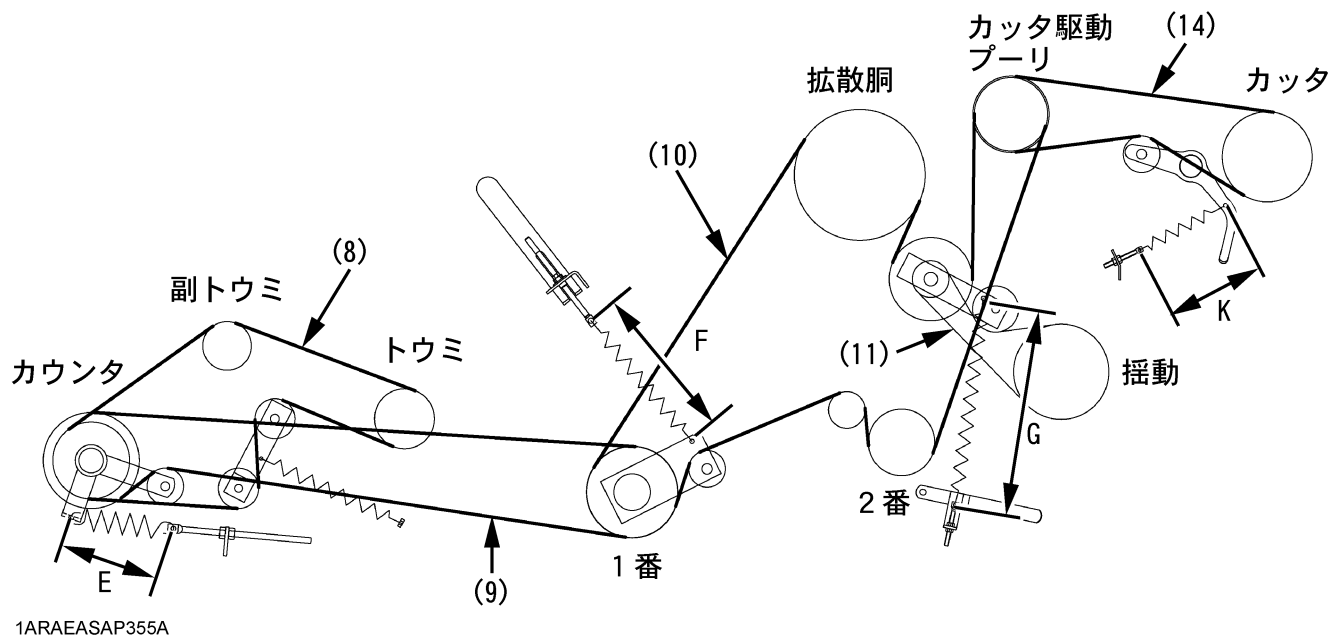
[572 · 587]

[698 · 108]



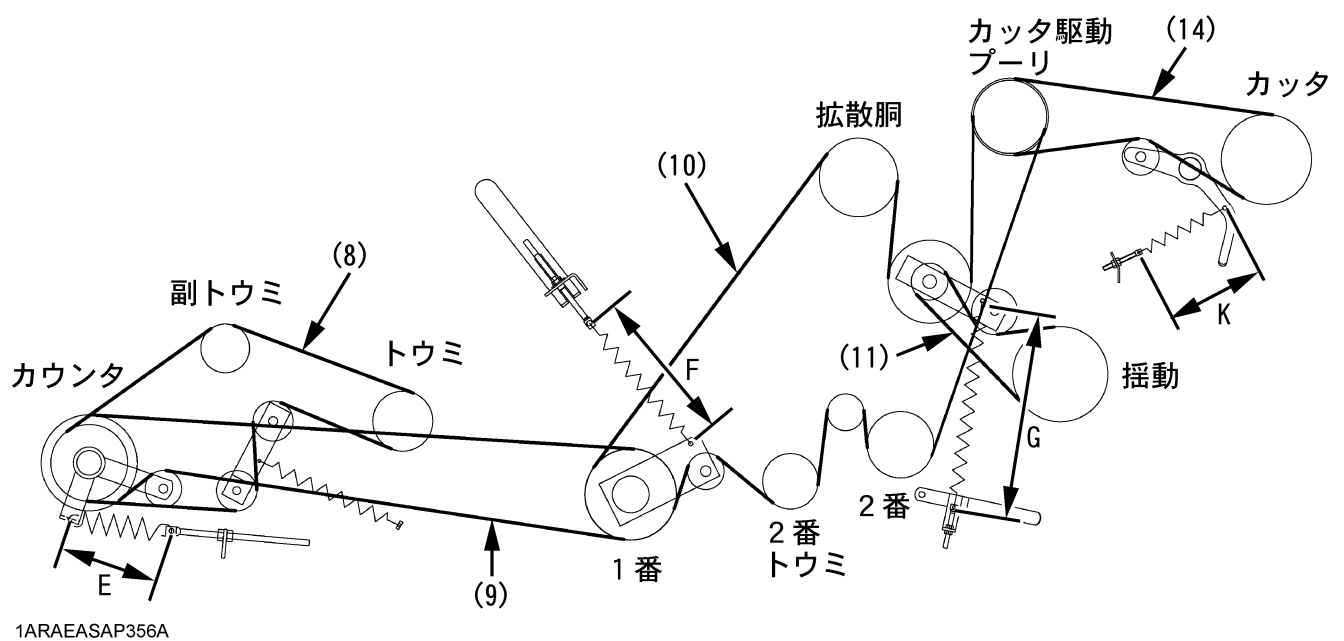
[698 - 108]

[572・587]

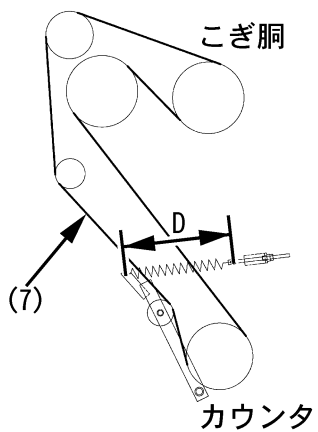


[572・587]

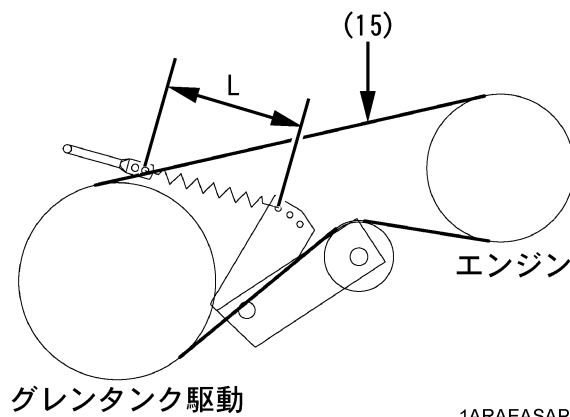
[698・108]



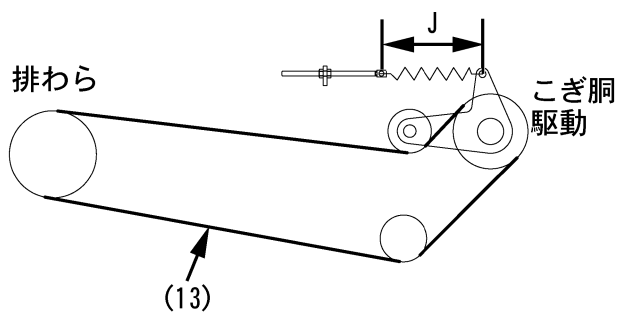
[698・108]



1ARAEASAP357A

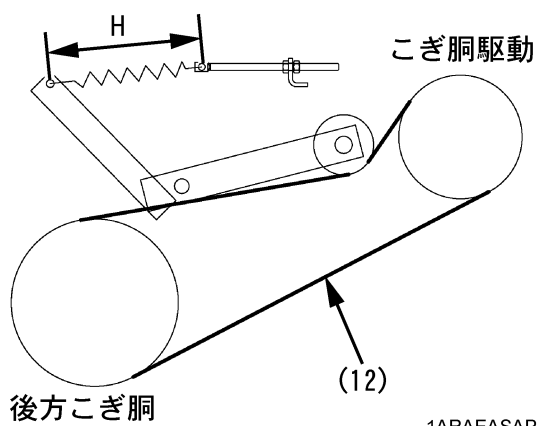


1ARAEASAP360A



1ARAEASAP358A

[698・108]



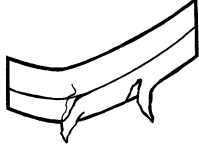
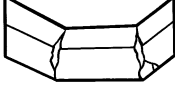
1ARAEASAP359A

[698・108]

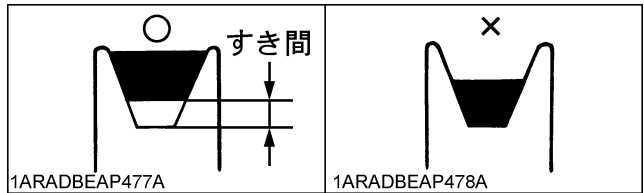
◆ 点検

各部のベルトを点検するときは、下記の事項をよく確認してください。

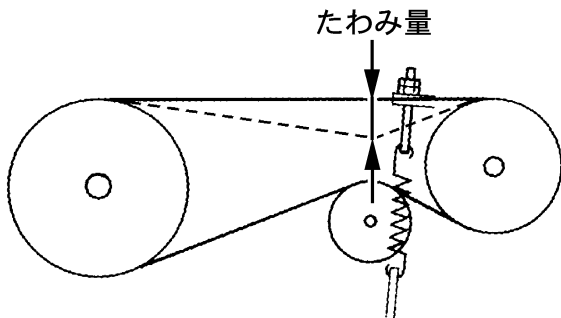
1. ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
1ARADBEAP474A	1ARADBEAP475A	1ARADBEAP476A

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び（たわみ量）



1ASADACAP384A

上記の事項を確認したとき、異常があればベルト交換又は、ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重要

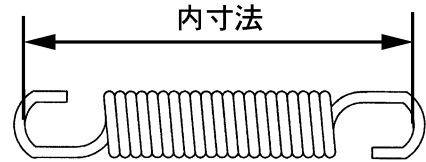
- * ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆ 調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は、張り調整を行なってください。

補 足

- * スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。

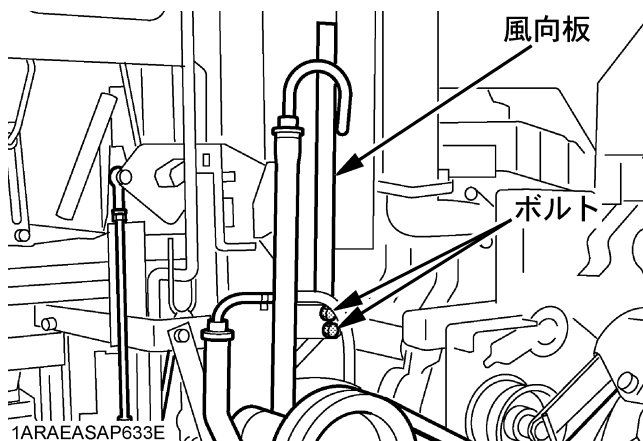
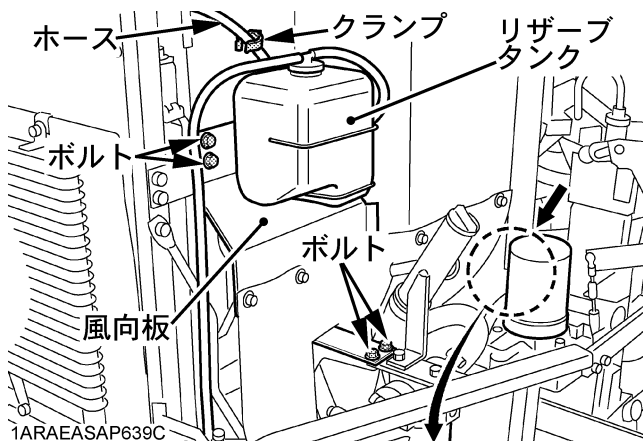


1ASADACAP390A

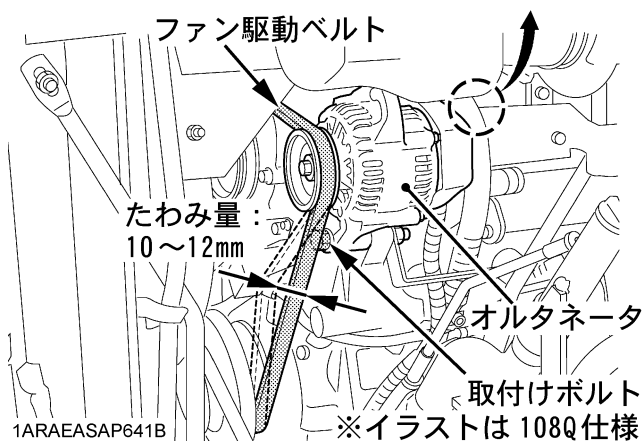
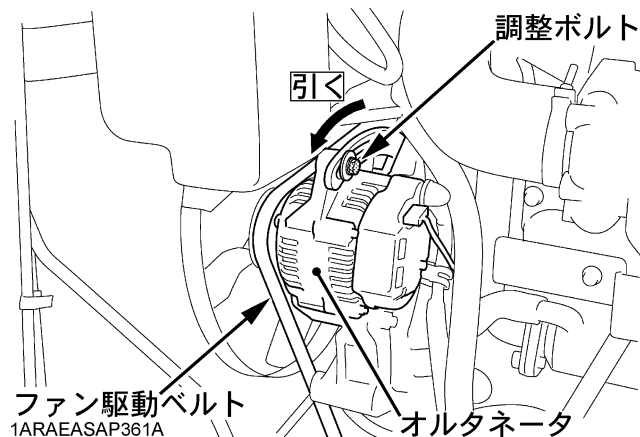
■ファン駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき（約 100 ～ 110N {10 ～ 11kgf} の荷重）のたわみ量を 10 ～ 12mm に調整します。

1. 運転操作部を開きます。
2. リザーブタンクのホースを風向板に固定しているクランプを解除します。
3. ボルトを取外して風向板を取外します。



4. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
5. オルタネータを引っ張ります。
6. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。

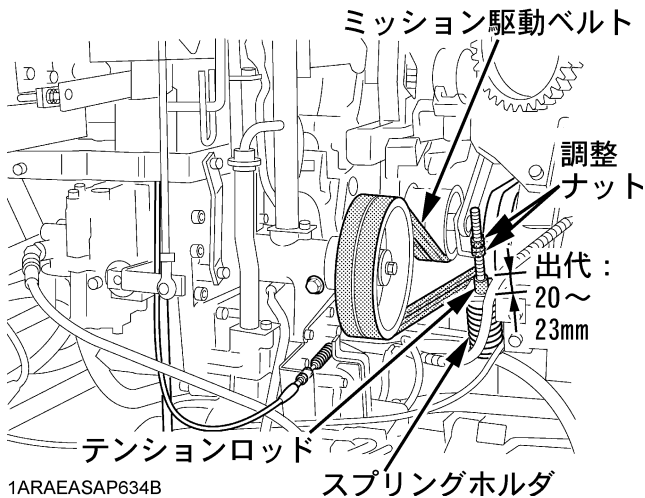


7. 風向板を取付けたあと、リザーブタンクのホースをクランプして固定します。
8. 運転操作部を閉じます。

■ミッション駆動ベルトの点検・調整

テンションロッドの出代を 20 ～ 23mm に調整します。

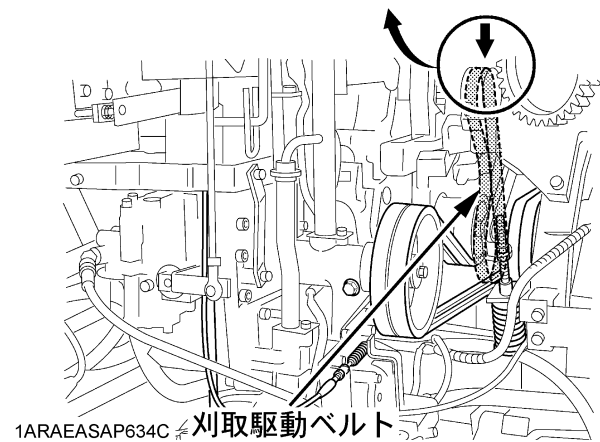
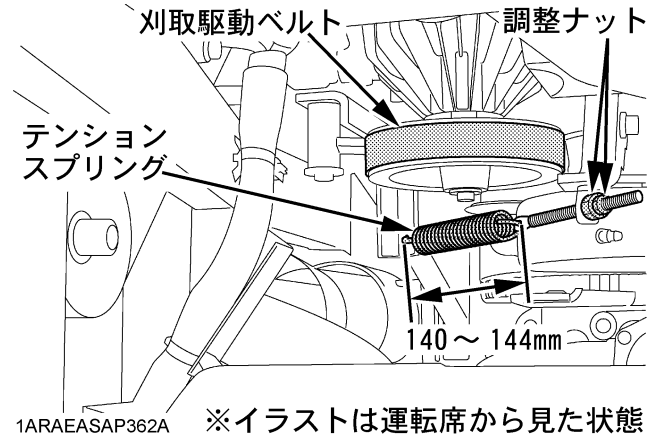
1. 刈取部を開きます。
2. 調整ナット 2 箇所をゆるめて、調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、刈取部を閉じます。



■刈取駆動ベルトの点検・調整

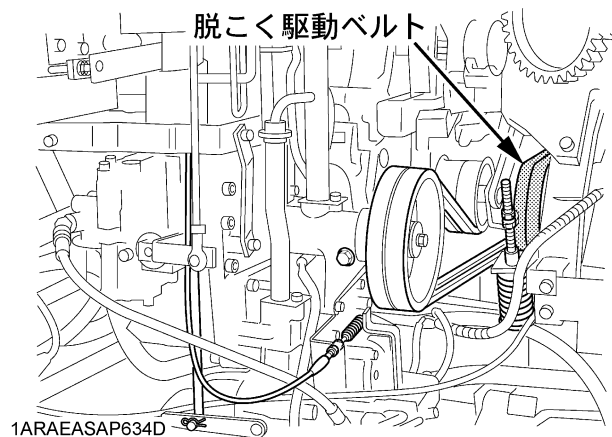
テンションスプリングの長さを 140 ～ 144mm に調整します。

1. 刈取部を開きます。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、刈取部を閉じます。



■脱こく駆動ベルトの点検・調整

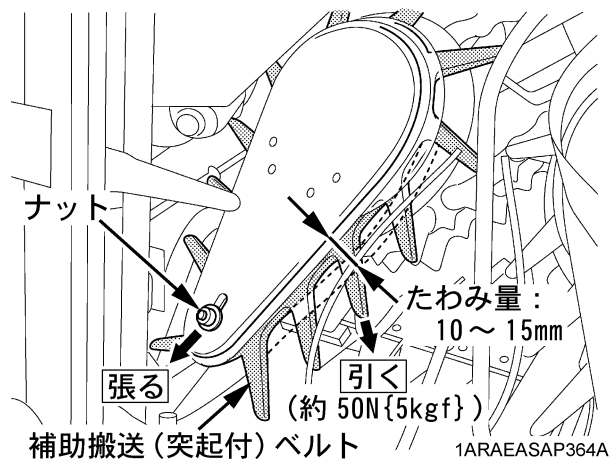
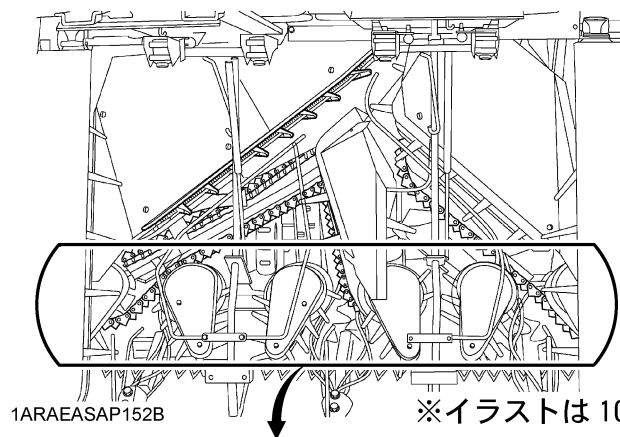
調整については、231 ページを参照してください。
(ワイヤとベルトの張り調整は同じです。)



■補助搬送（突起付）ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を引いたとき（約 50N{ 5 kgf } の荷重）のたわみ量を 10 ～ 15mm に調整します。

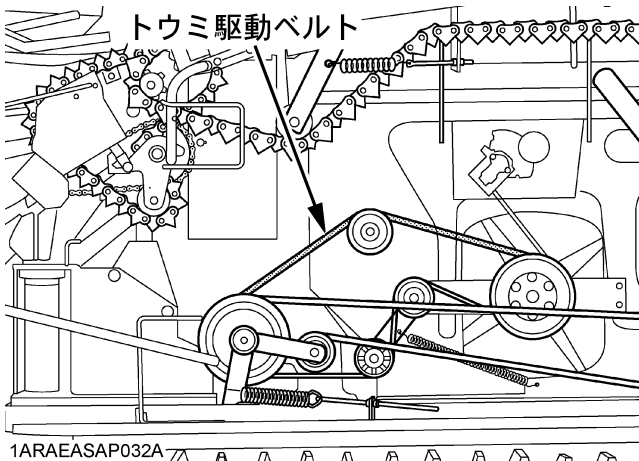
1. 引起しサイドカバー左、右を取外します。
2. 引起し部を上側に開きます。
3. ナットをゆるめます。
4. 張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。
5. 同じ要領で全てのベルトの調整を行ないます。
6. 引起しサイドカバー左、右を取付けます。
7. 引起し部を閉じます。



■トウミ駆動ベルトの点検

トウミ駆動ベルトの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが、伸びたときは、購入先に連絡して交換してください。

1. 左サイドカバー上1，下1，内1を取外します。
2. 点検を行なったあと、左サイドカバー上1，下1，内1を取付けます。

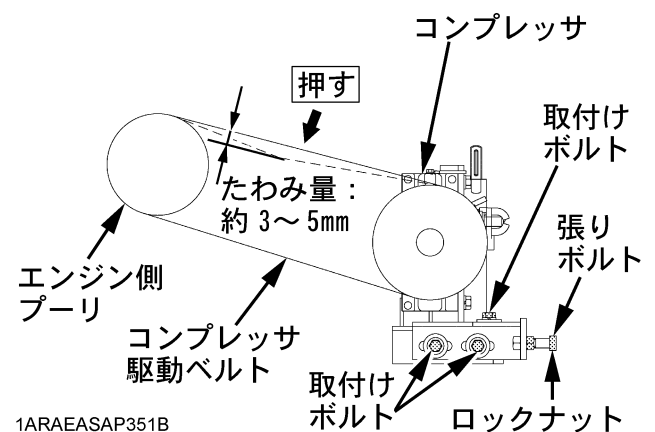
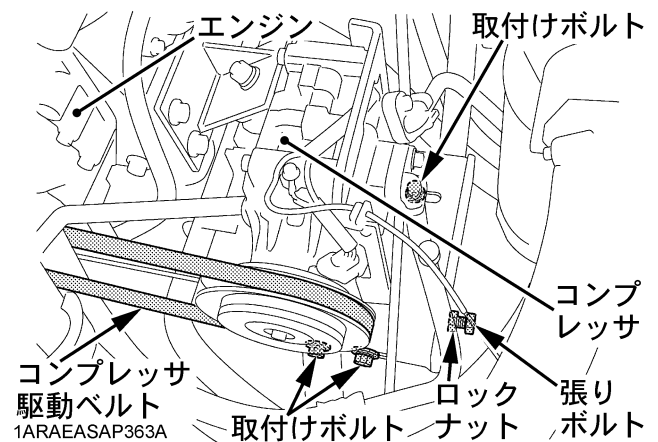


■コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整

[Q仕様]

指先でベルトの中央部を押したとき（約 16N {1.6kgf} の荷重）のたわみ量を 3～5 mm に調整します。

1. 運転操作部を開きます。
2. コンプレッサの取付けボルトをゆるめます。
3. 張りボルトのロックナットをゆるめたあと、張りボルトで調整します。
4. 張りボルトのロックナットを締付けたあと、コンプレッサの取付けボルトを締付けます。
5. 運転操作部を閉じます。

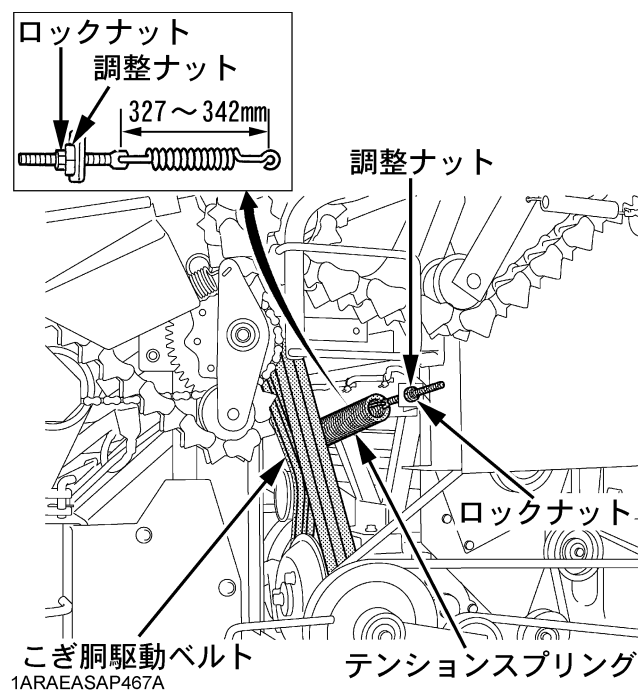
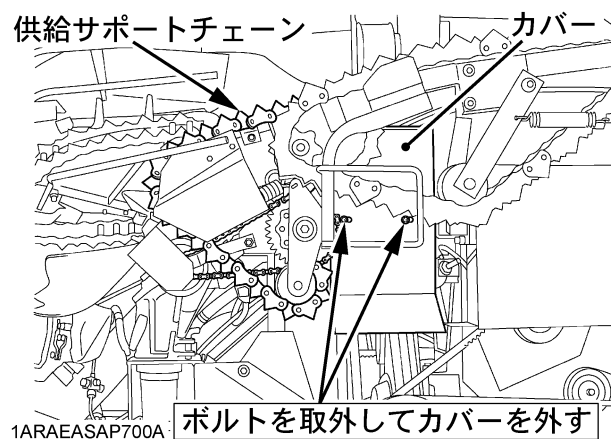


[Q仕様]

■こぎ胴駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを 327～342mm に調整します。

1. 左サイドカバー上 1, 下 1 を取外したあと、供給サポートチェーンの内側にあるカバーを取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。



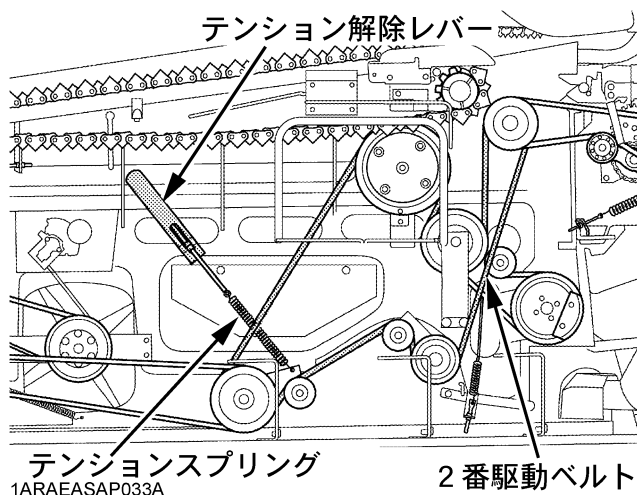
3. ロックナットと調整ナットを締付けます。
4. カバーを取付けたあと、左サイドカバー上 1, 下 1 を取付けます。

■2 番駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを 262～266mm に調整します。

1. 左サイドカバー上 1, 上 2, 下 2 と左サイドカバー内側を取外します。
2. テンション解除レバーを手前に引いてテンションスプリングのテンションをゆるめます。
3. 調整ナット 2 個をゆるめて調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けたあと、テンション解除レバーでテンションスプリングのテンションを張ります。
5. 左サイドカバー内側と左サイドカバー上 1, 上 2, 下 2 を取付けます。

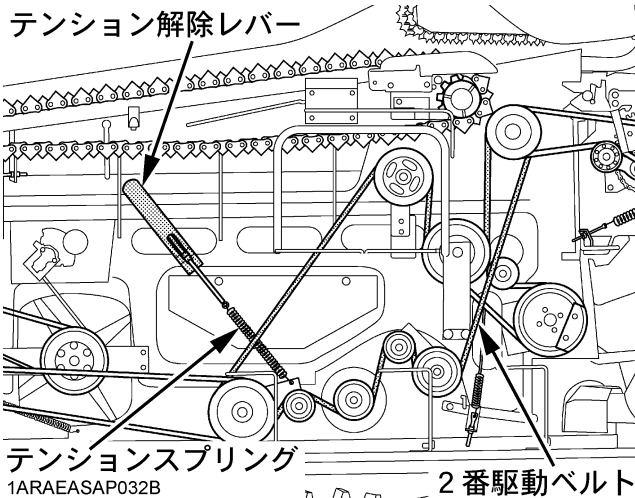
[572・587]



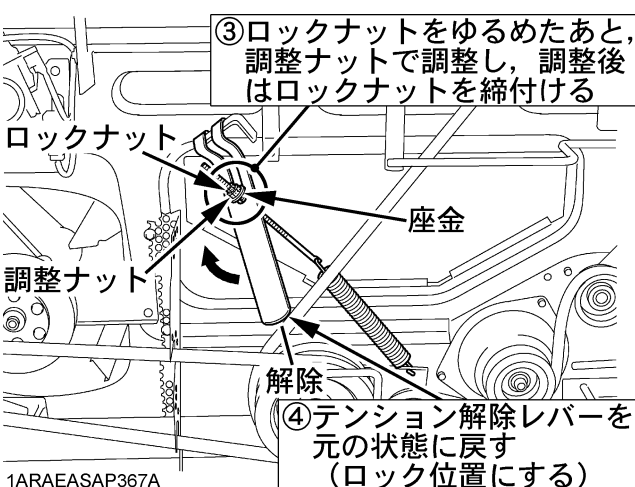
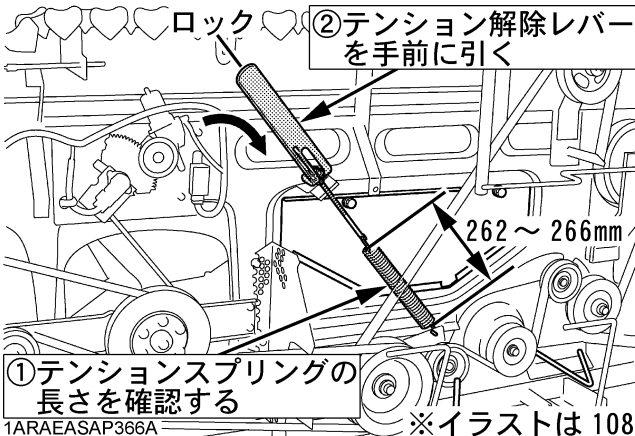
[572・587]

[698・108]

テンション解除レバー

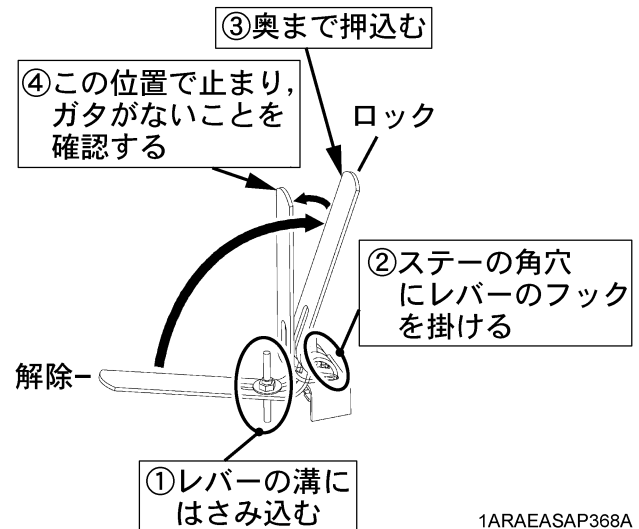


[698・108]



補 足

* テンション解除レバーをロック位置にするときは、下図の手順で行なってください。

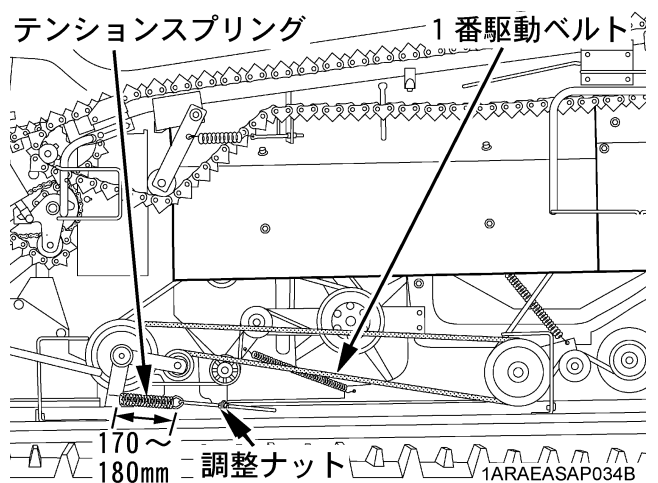


* 2 番駆動ベルトが各プーリの溝にきちんと納まっていることを確認してください。

■ 1 番駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを 170 ~ 180mm に調整します。

1. 左サイドカバー上 1, 下 1, 下 2 を取外します。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、左サイドカバー上 1・下 1, 下 2 を取付けます。

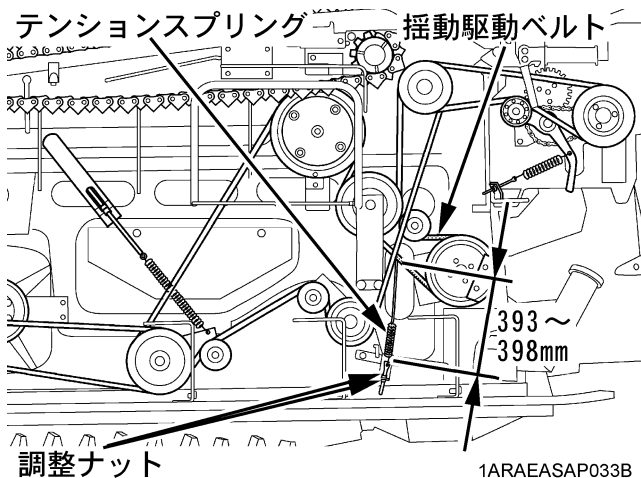


■揺動駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを 393 ~ 398mm に調整します。

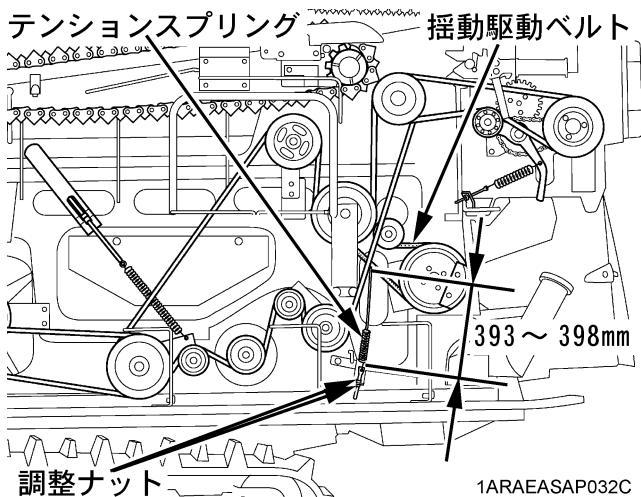
1. 左サイドカバー上 2・下 2 と左サイドカバー内側を取外します。
2. 調整ナットをゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、左サイドカバー内側と左サイドカバー上 2・下 2 を取付けます。

[572・587]



[572・587]

[698・108]



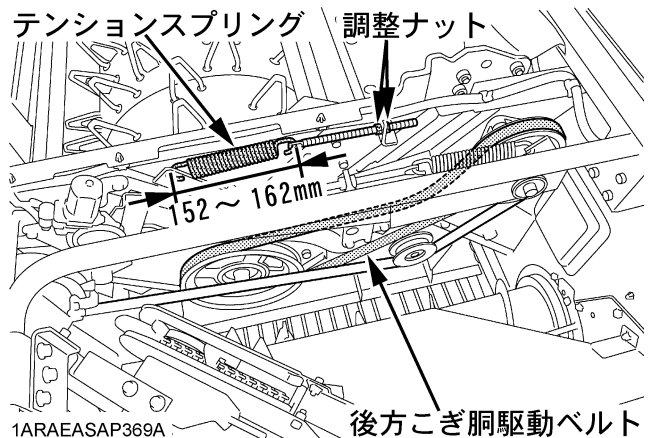
[698・108]

■後方こぎ胴駆動ベルトの点検・調整

[698・108]

テンションスプリングの長さを 152 ~ 162mm に調整します。

1. 脱こく上部カバーの左、右を開きます。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、脱こく上部カバー左、右を閉じます。

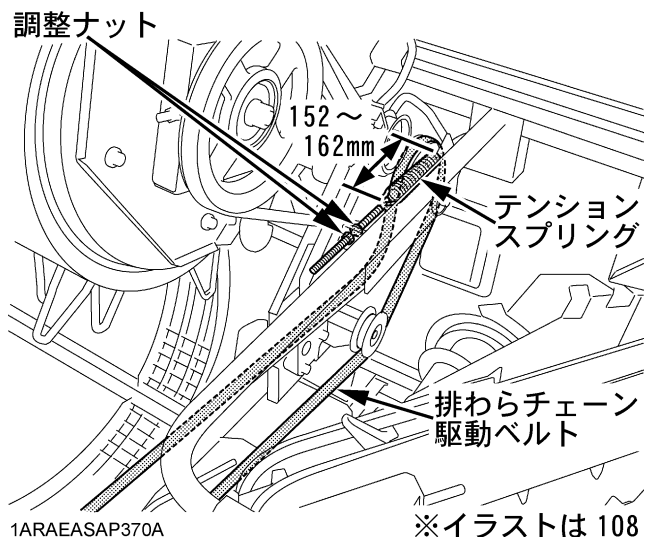


[698・108]

■排わらチェーン駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを 152 ~ 162mm に調整します。

1. こぎ胴を開きます。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、こぎ胴を閉じます。

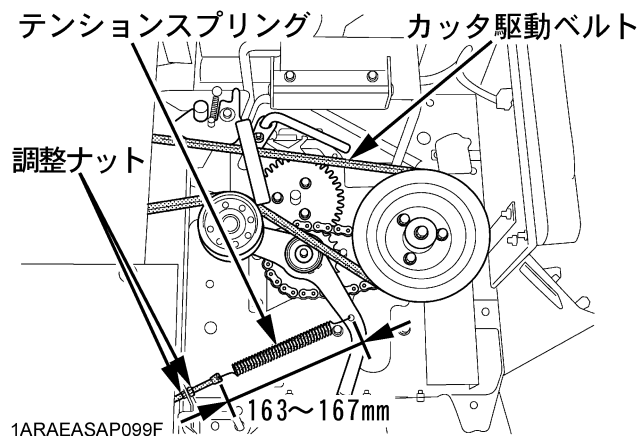


※イラストは 108

■カッタ駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを163～167mmに調整します。

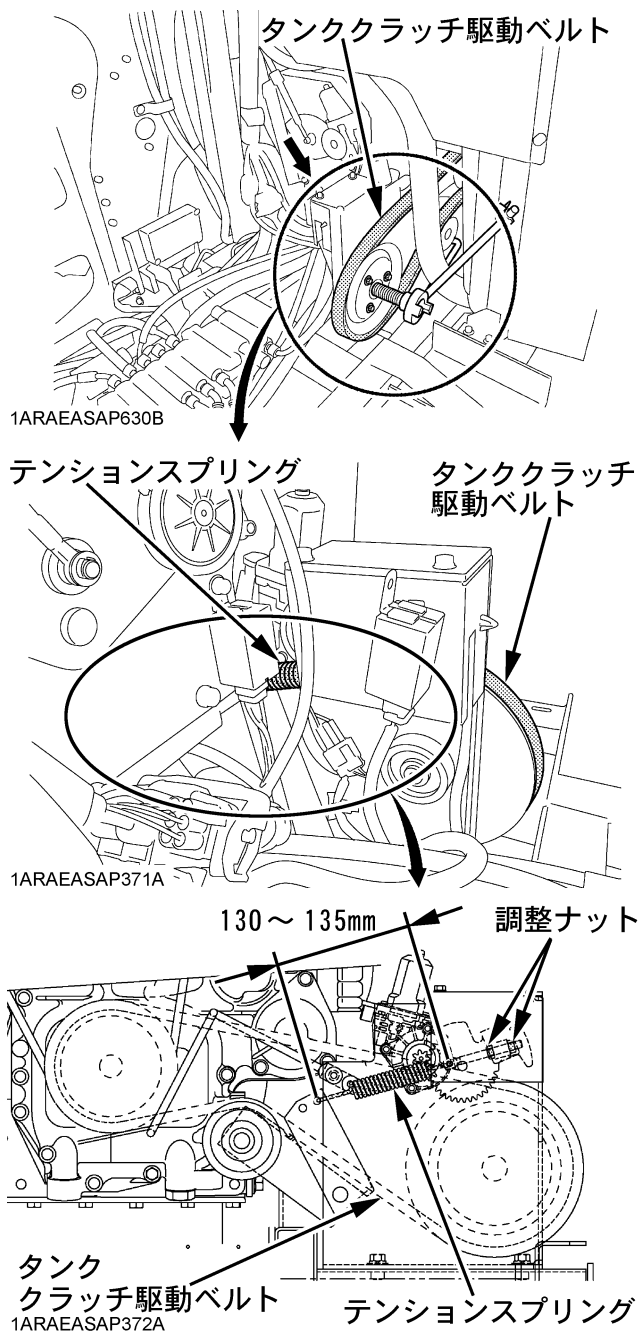
1. 左サイドカバー上2を取外します。
2. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、左サイドカバー上2を取付けます。



■タンククラッチ駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを130～135mmに調整します。

1. メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと、もみ排出スイッチを押してテンションスプリングを引張った状態にします。
2. メインスイッチを【切】位置にします。
3. グレンタンクを開きます。
4. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
5. 調整ナットを締付けたあと、グレンタンクを閉じます。
6. メインスイッチのキーを【入】位置にし、もみ排出停止スイッチを押したあと、メインスイッチのキーを【切】位置にします。



■各部チェーンの点検・調整



注 意

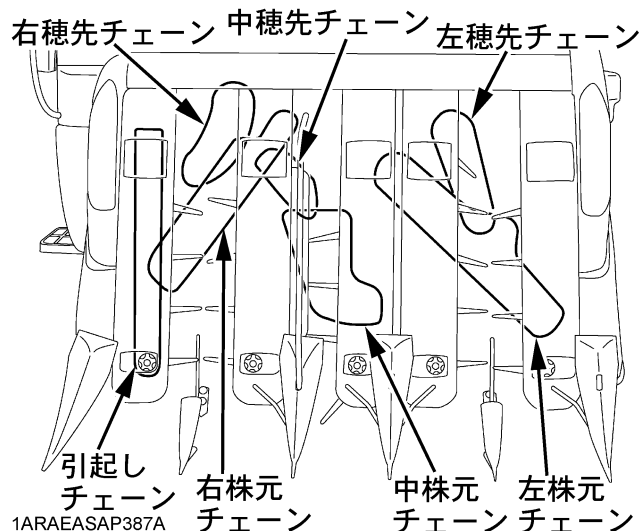
- * 刈取部、引起し部などの各部を開いて作業を行なうときは、下記事項を遵守してください。
 - 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
 - 傾斜地では、各部の開閉は行なわないでください。
 - 刈取部、引起し部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
 - 各部を開いた状態で走行をしないでください。
 - 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 刈取部を開いた状態で作業するときは、枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部の開閉を行なうときは、機体を最下降位置にしてください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

◆ 点検

各部のチェーンを点検して、ゆるみがあるときは調整してください。

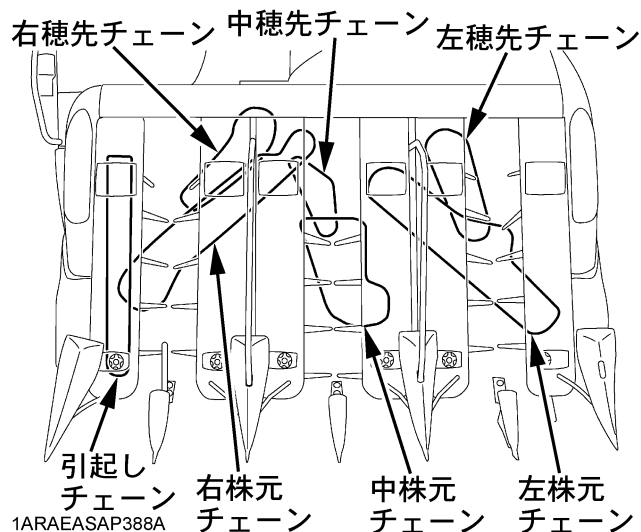
● 点検箇所

[572・587]



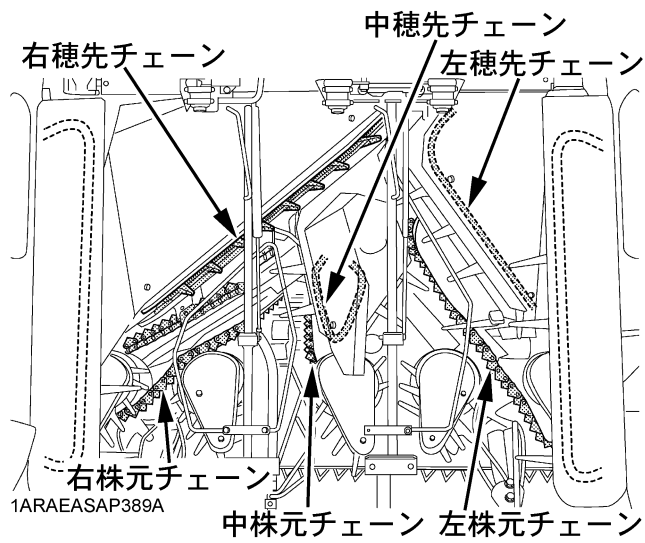
[572・587]

[698・108]



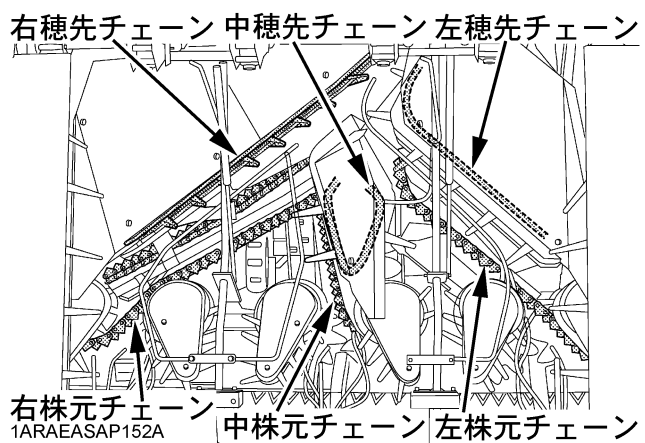
[698・108]

[572・587]

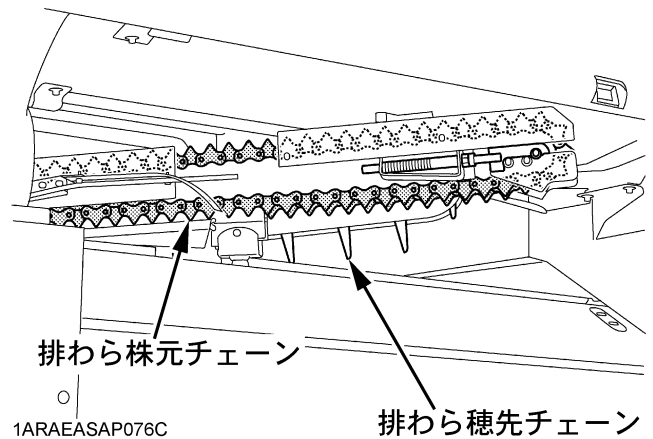
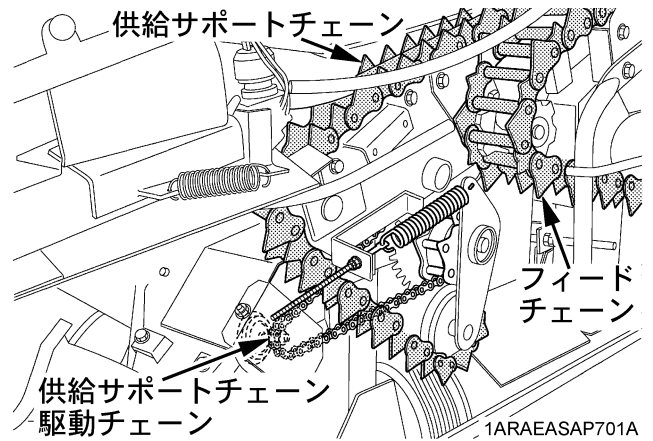
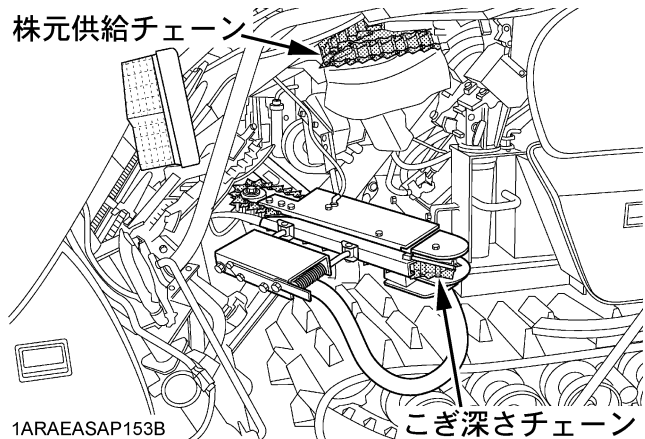


[572・587]

[698・108]



[698・108]



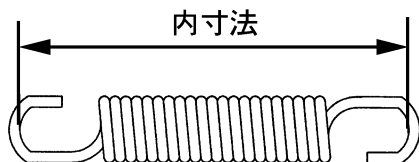
メンテナンス

◆ 調整

チェーンが伸びているときは、張り調整を行ってください。

補 足

- * スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



1ASADACAP390A

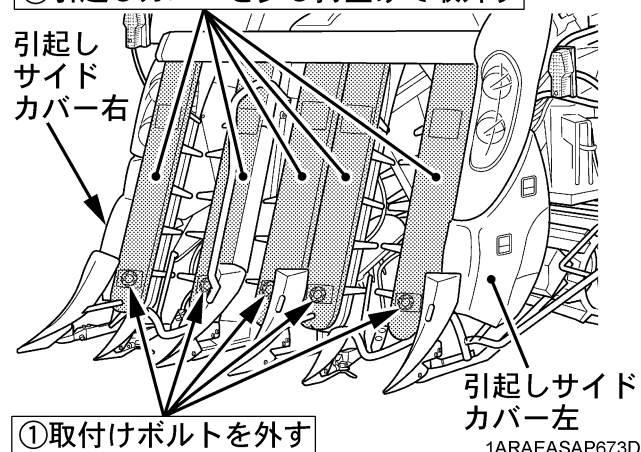
■ 引きしチェーンの点検・調整

引きしテンションフックとテンションスプリングの段差を 0.5 ～ 2.5mm に調整します。

1. 引きしカバー及び引きしサイドカバー左、右を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整します。
3. ロックナットを締付けます。

[572・587]

②引きしカバーを少し持上げて取外す

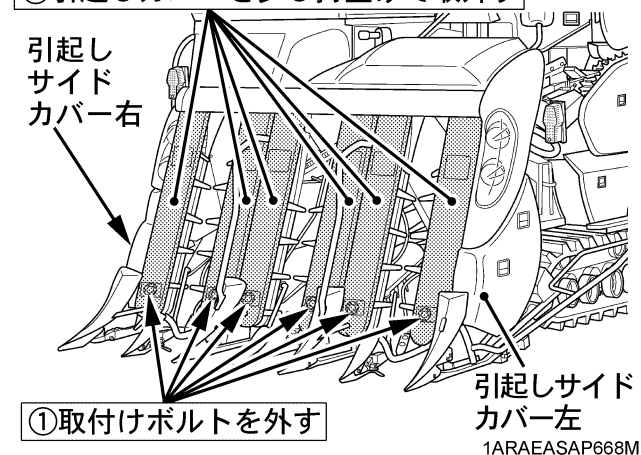


1ARAEASAP673D

[572・587]

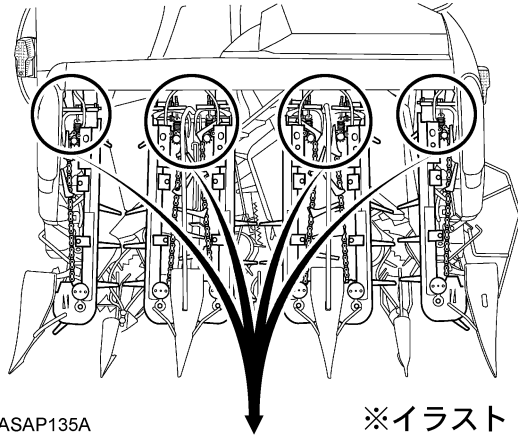
[698・108]

②引きしカバーを少し持上げて取外す



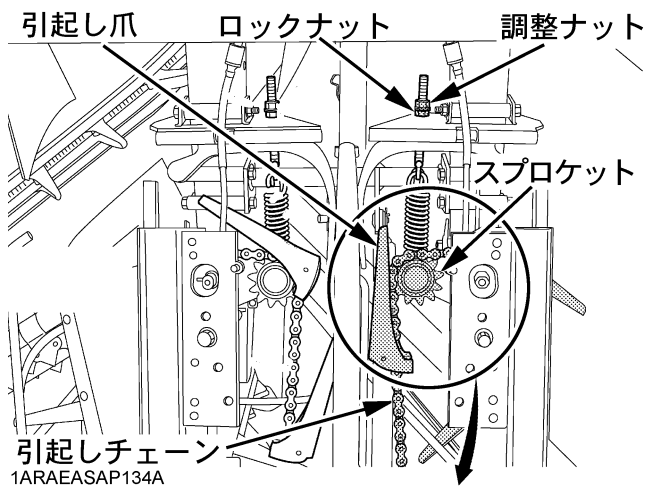
1ARAEASAP668M

[698・108]

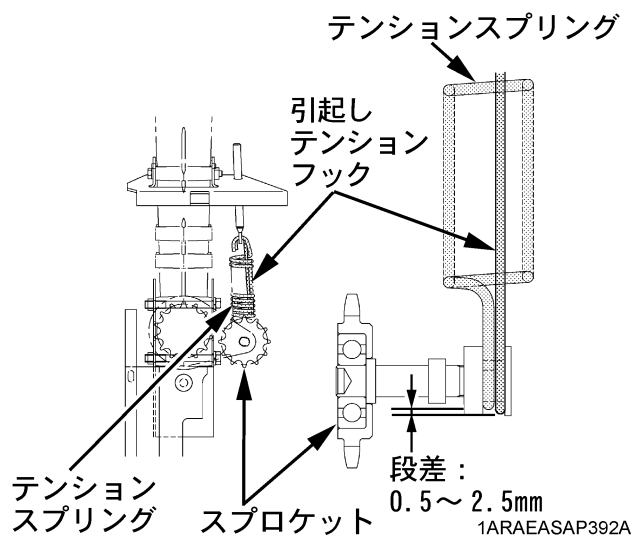


1ARAEASAP135A

※イラスト 108



1ARAEASAP134A



1ARAEASAP392A

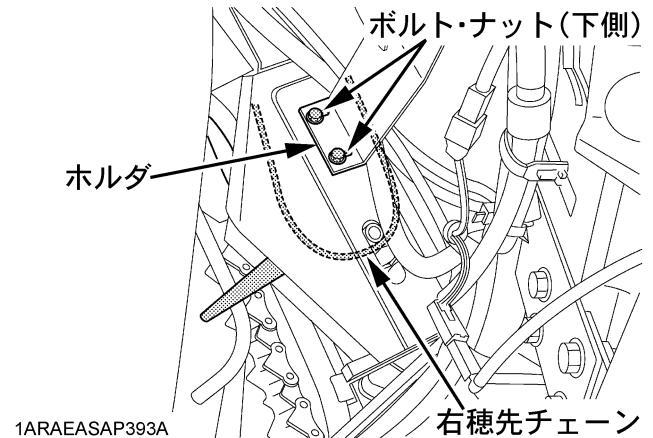
補 足

* 調整は全条行なってください。

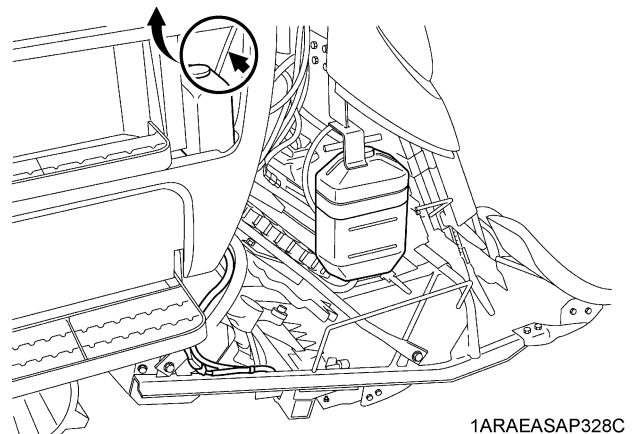
4. 引起しカバーを取付けたあと、引起しサイドカバー左、右を取付けます。

■右穂先チェーンの点検・調整

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは、2箇所のボルト・ナット（下側）をゆるめてホルダを前方に張ってください。また、ホルダの調整ができなくなったときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。



1ARAEASAP393A



1ARAEASAP328C

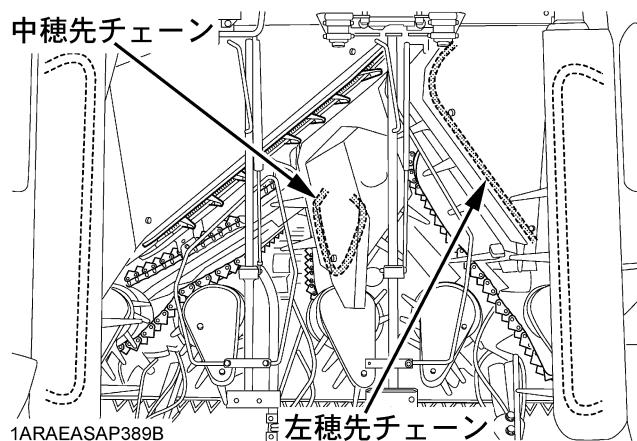
メンテナンス

■中穂先チェーン、左穂先チェーンの点検

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。

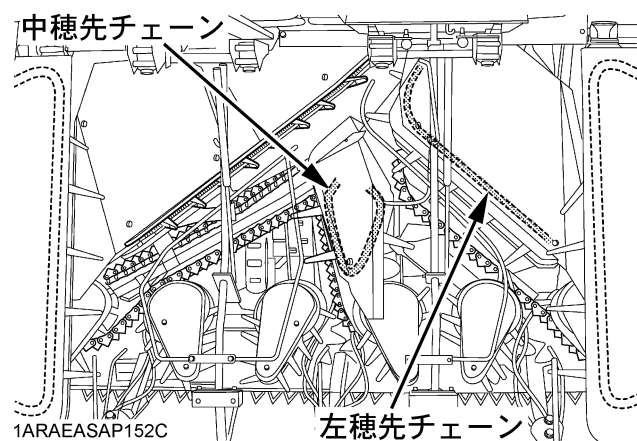
1. 引起し部を開きます。
2. 点検を行なったあと、引起し部を閉じます。

[572・587]



[572・587]

[698・108]



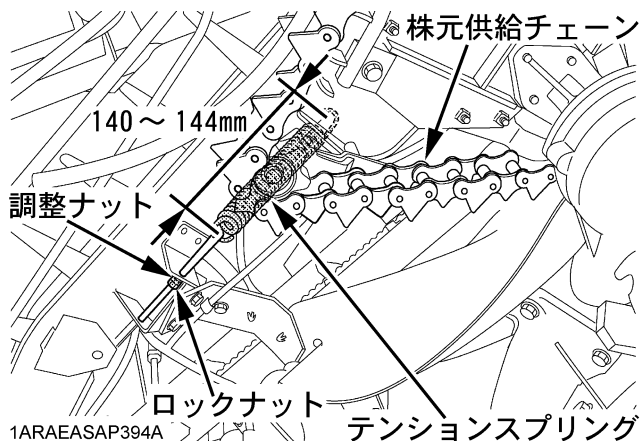
[698・108]

■株元供給チェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さを140～144mmに調整します。

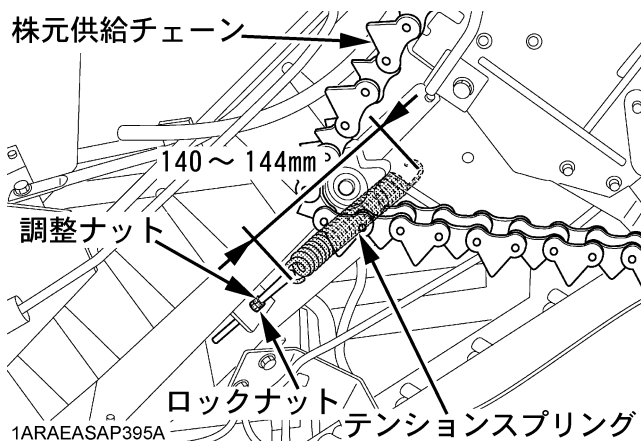
1. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。

[572・587]



[572・587]

[698・108]



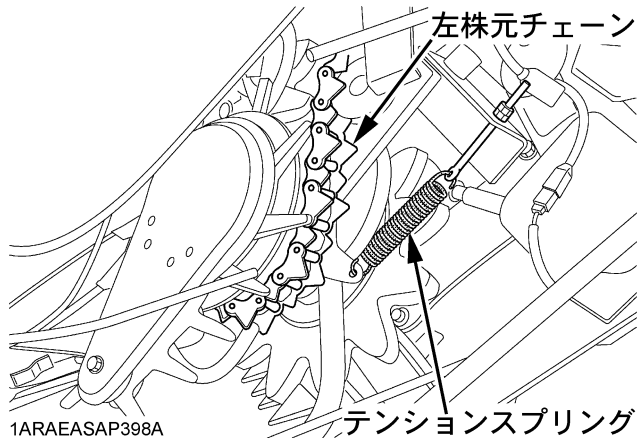
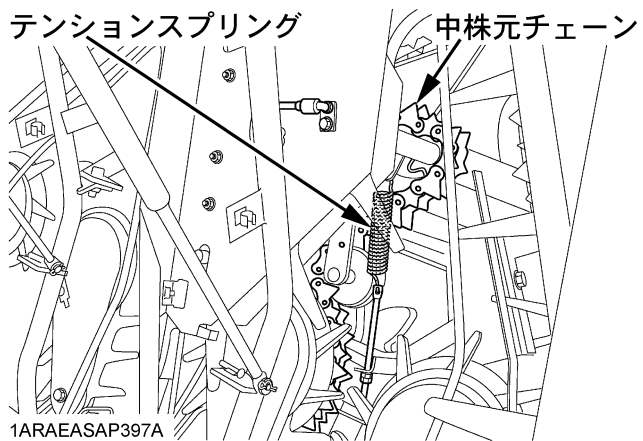
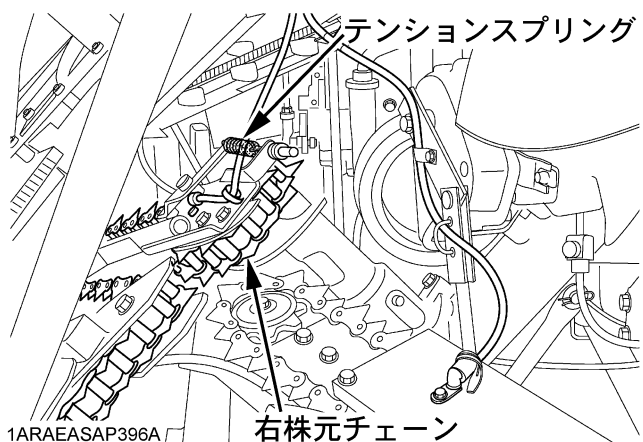
[698・108]

■右株元チェーン、中株元チェーン、左株元チェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さA寸法を140～144mmに調整します。

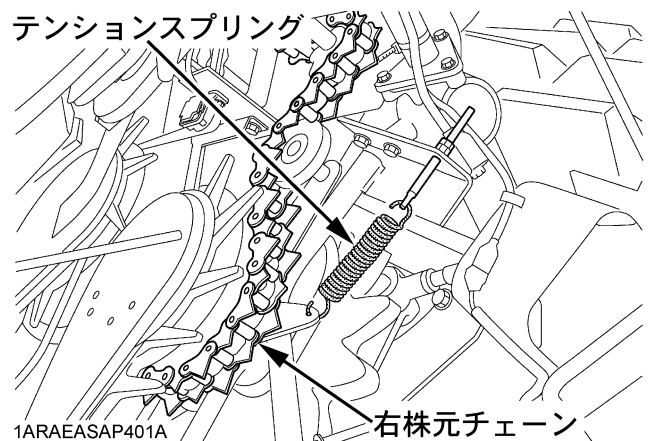
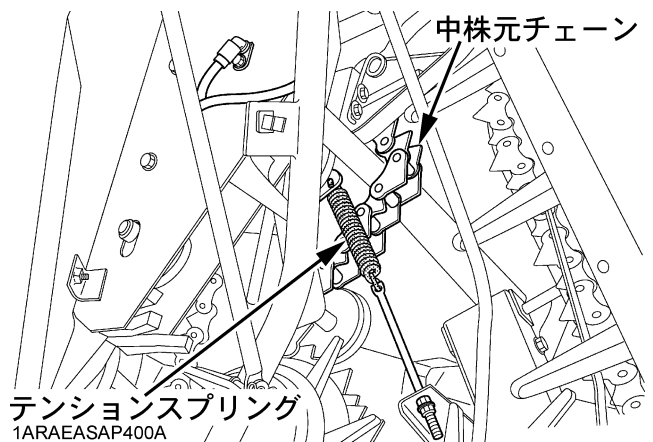
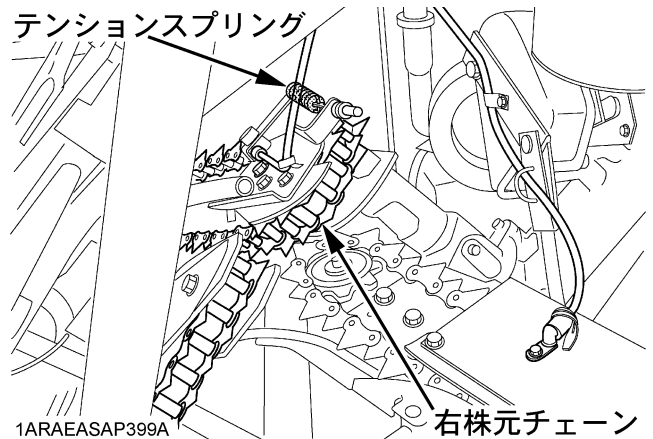
1. 引起し左サイドカバーを取外したあと、引起し部を開きます。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行います。
3. ロックナットを締付けたあと、引起し部を閉じ、引起し左サイドカバーを閉じます。

[572・587]



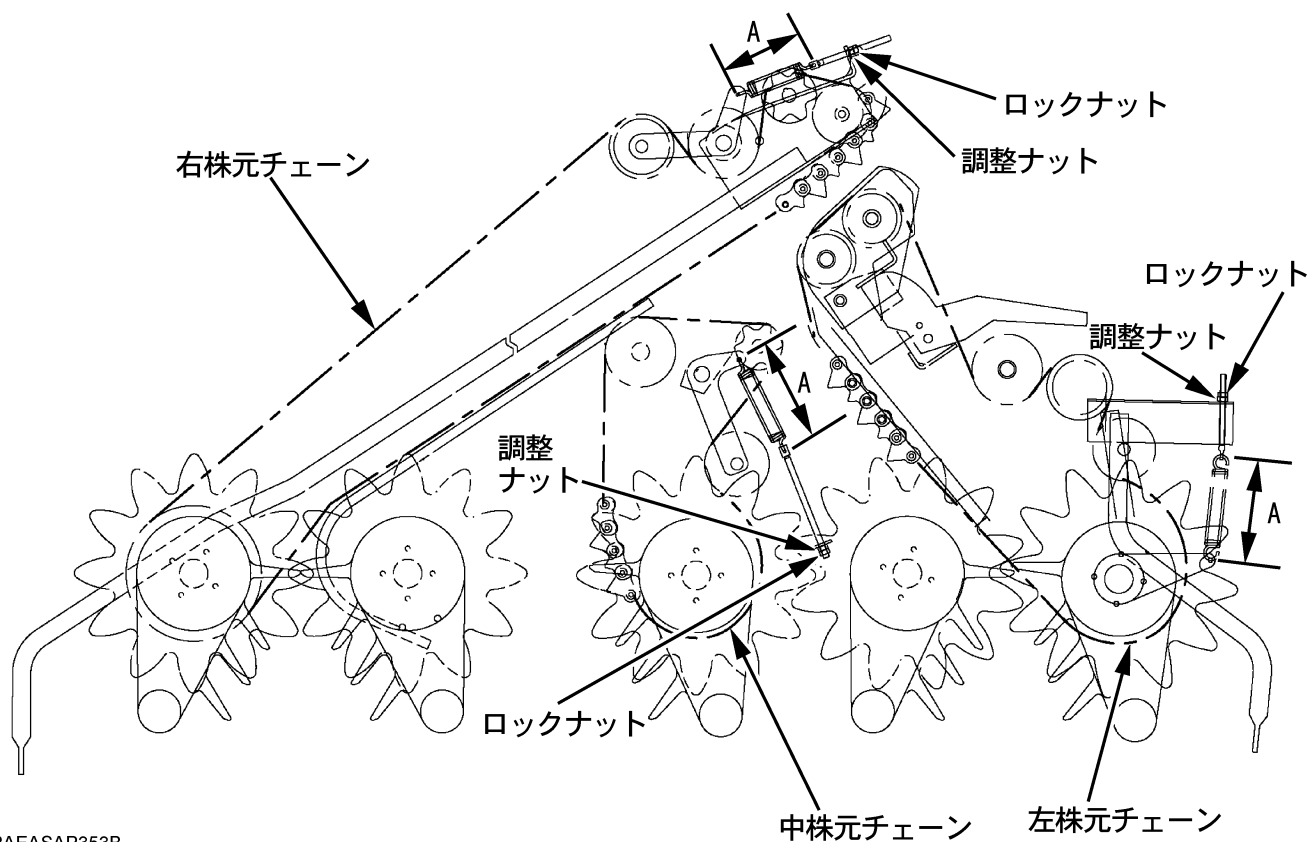
[572・587]

[698・108]



[698・108]

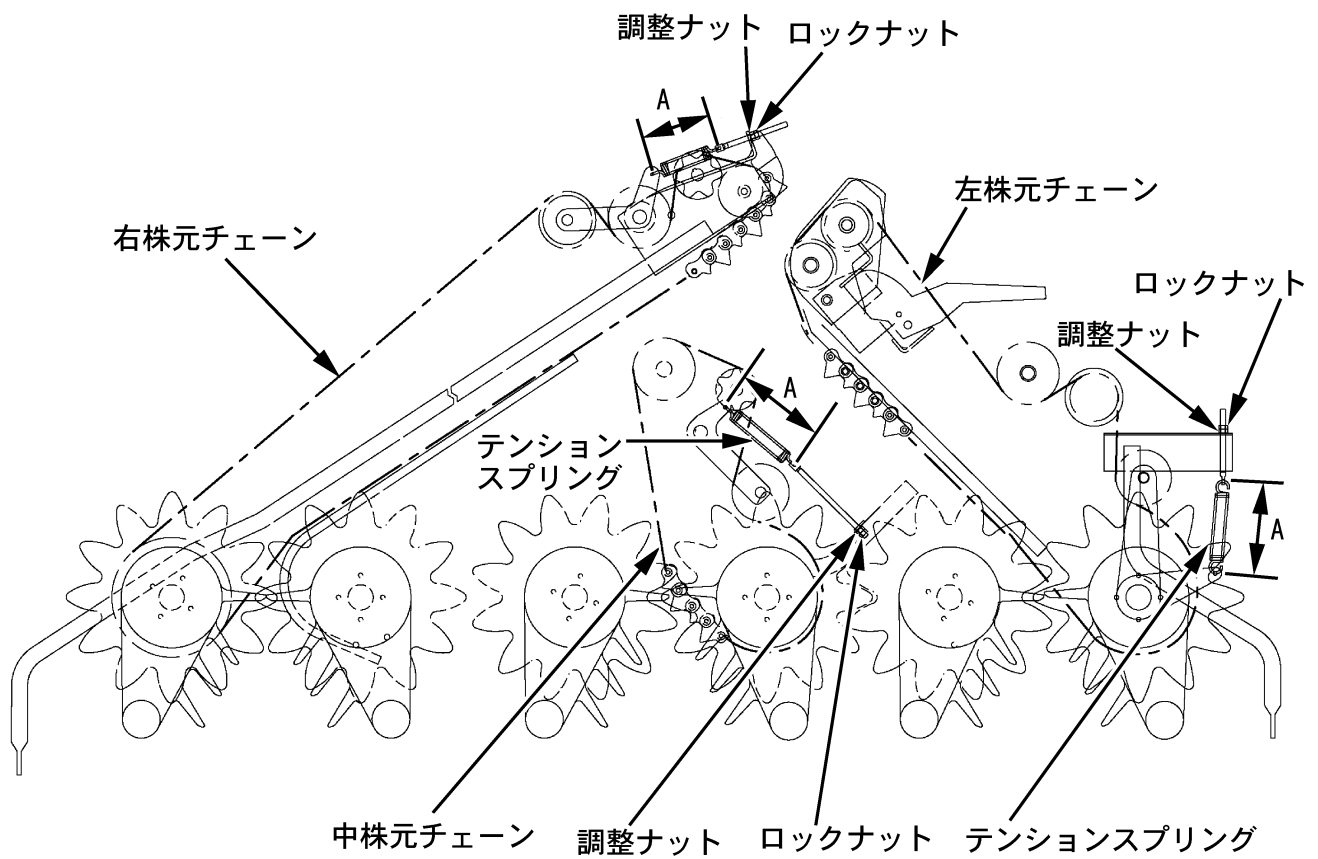
[572・587]



1ARAEASAP353B

[572・587]

[698・108]



1ARAEASAP354B

[698・108]

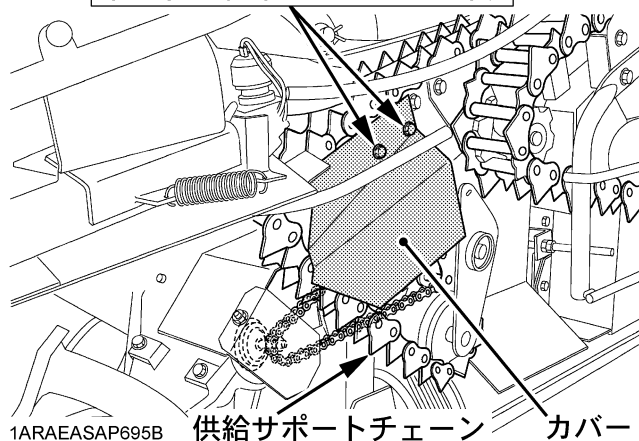
メンテナンス

■供給サポートチェーンの点検・調整

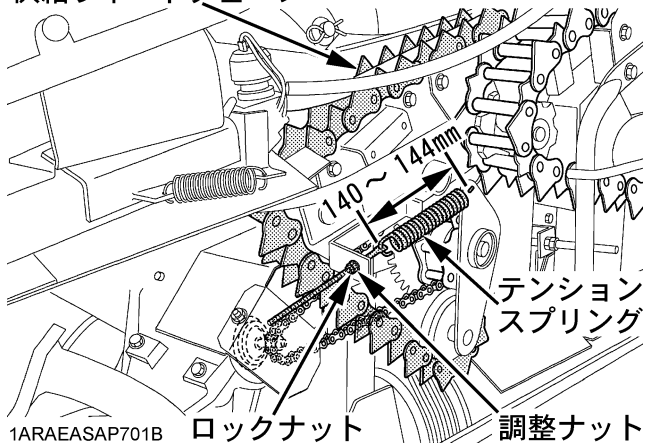
テンションスプリングの長さを140～144mmに調整します。

1. 左サイドカバー上1を取外したあと、供給サポートチェーンのカバーを取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行います。
3. ロックナットを締付けたあと、供給サポートチェーンのカバーを取付けて左サイドカバー上1を取付けます。

ボルトを取外してカバーを外す

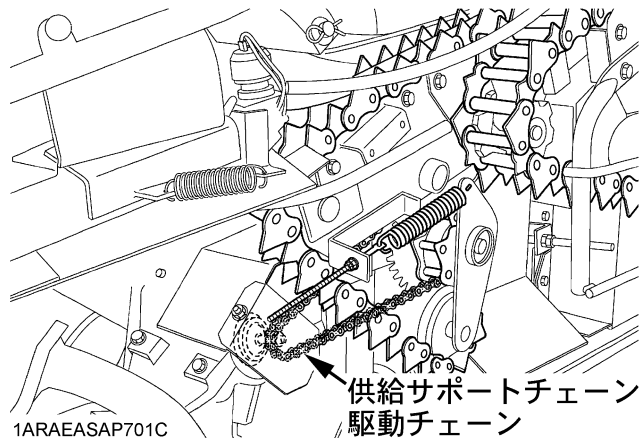


供給サポートチェーン



■供給サポートチェーン駆動チェーンの点検

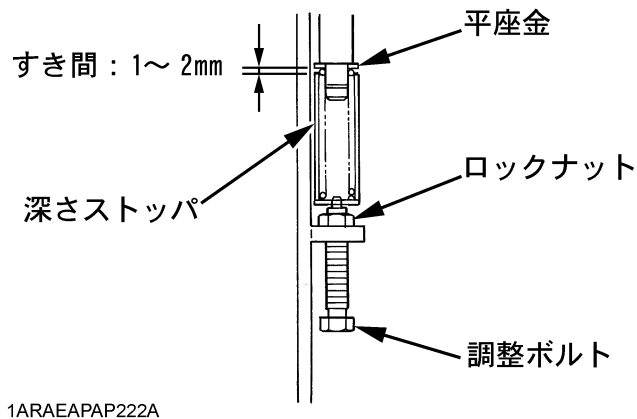
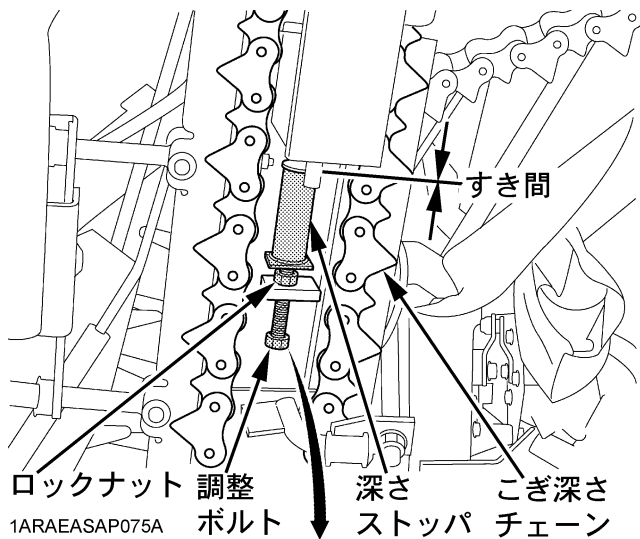
チェーンが伸びたときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。



■こぎ深さチェーンの点検・調整

深さストッパとテンションアームの平座金のすき間を1～2mmに調整します。

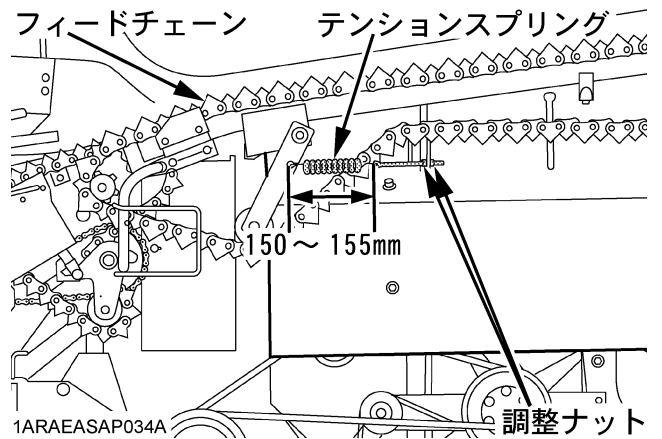
1. メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチを操作してこぎ深さチェーンを**最深こぎ**位置（こぎ深さチェーン最上昇位置）にします。
2. メインスイッチのキーを【切】位置にします。
3. ロックナットをゆるめて、調整ボルトで調整を行ないます。
4. ロックナットを締付けます。



■フィードチェーンの点検・調整

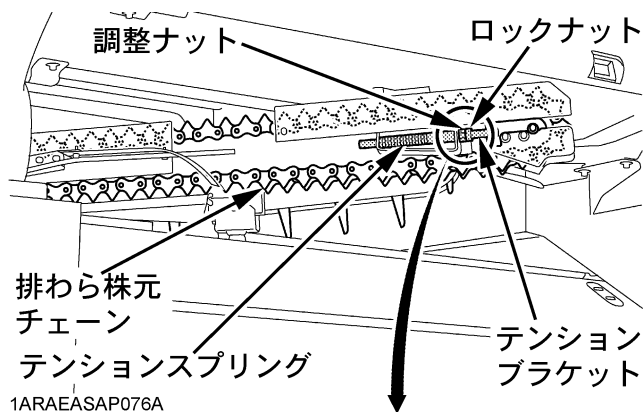
テンションスプリングの長さを150～155mmに調整します。

1. 左サイドカバー上を取外します。
2. 調整ナットをゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、左サイドカバー上を取付けます。

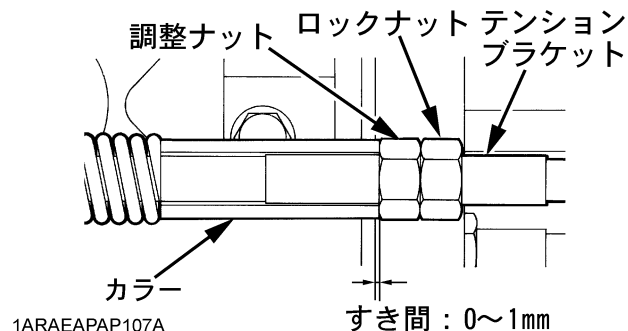


■排わら株元チェーンの点検・調整

1. カッタ上部カバーを上げます。
2. テンションブラケットを取付けているブラケットガイドの端面と調整ナットのすき間（カラーの出代）を0～1 mm に調整します。調整は株元側と穂先側が連結しているため同時に行ないます。
 - (1) ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
 - (2) ロックナットを締付けます。



1ARAEASAP076A

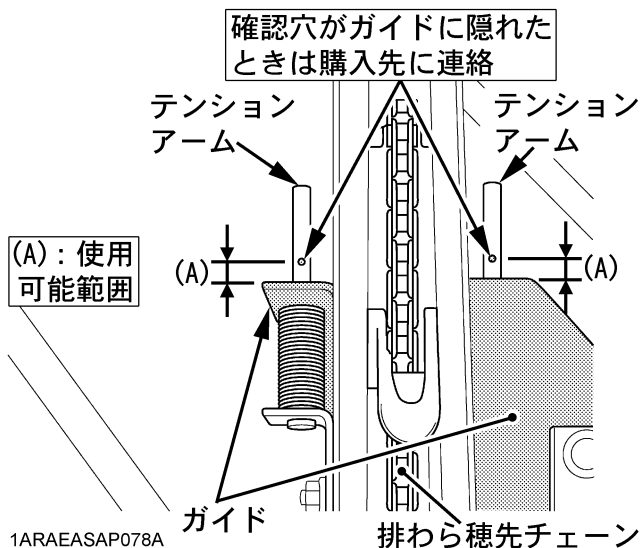


1ARAEAPAP107A

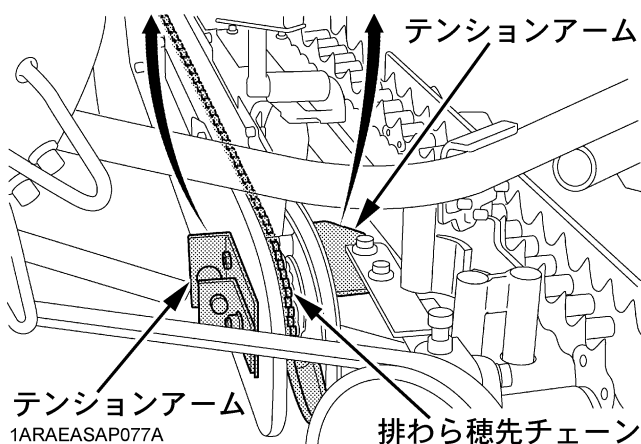
3. カッタ上部カバーを閉じます。

■排わら穂先チェーンの点検・調整

排わら穂先チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが、チェーンが伸びると穂先テンションアームのテンション位置の確認穴がガイドに隠れて見えなくなったとき（**使用可能範囲**から外れたとき）は、購入先に連絡して修理を依頼してください。



1ARAEASAP078A



1ARAEASAP077A

■刈刃の点検・調整



注 意

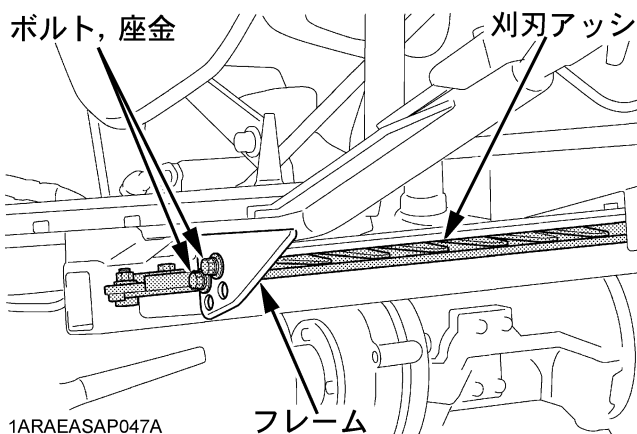
- * 平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
- * 刃部に手を掛けしないでください。不用意に刃が動くと危険です。
- * 脱着作業は手袋をして、2人で刈刃の両端を持って行なってください。

刈刃の刃先が摩耗してきたり、欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり、引抜きを起こすことがありますので、早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆ 点検・取外し

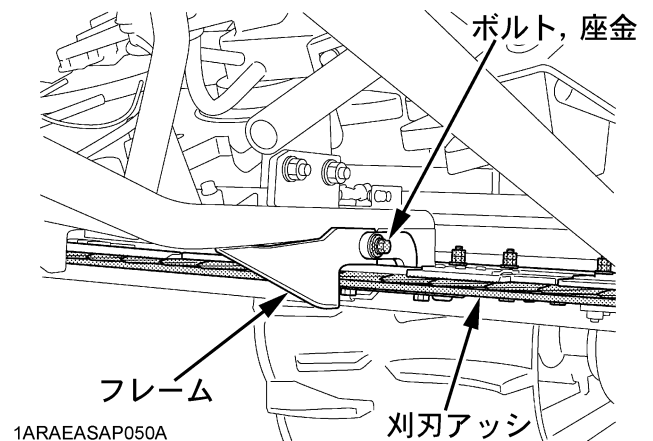
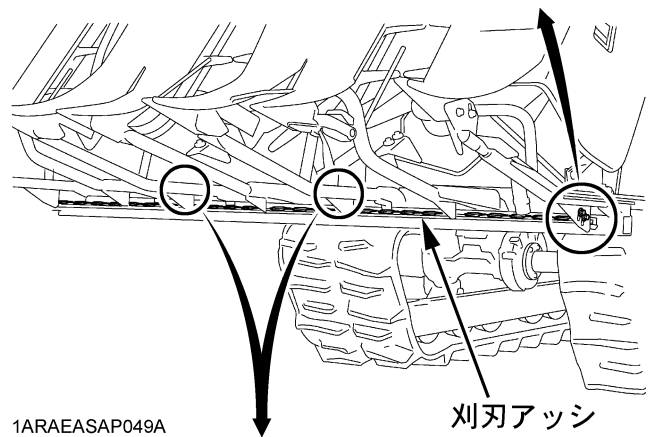
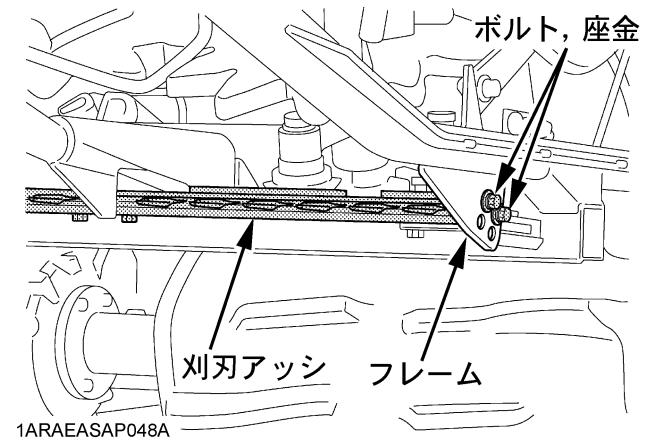
1. 自動車体水平制御の手動スイッチの【上】を押して、機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を最上昇させたあと、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にし、スイッチロック金具をセットして、刈取部の下降防止を行なったあと、エンジンを停止します。さらに枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
3. 刈刃アッシをフレームに取り付けているボルト、座金各6個を外して、刈刃アッシを下側に倒します。(刈刃オープン)

[右側]



[右側]

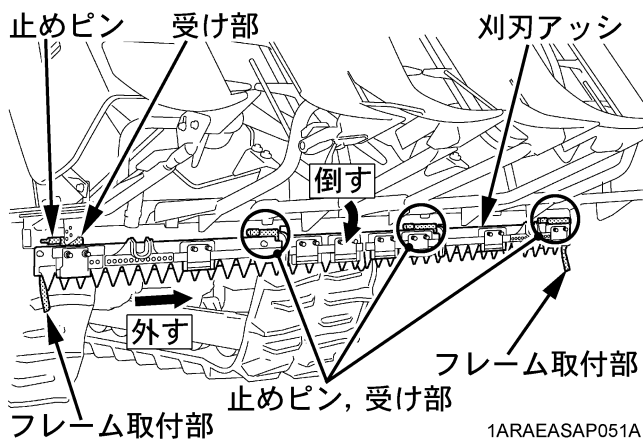
[中央・左側]



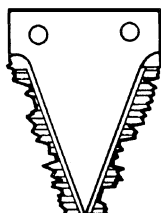
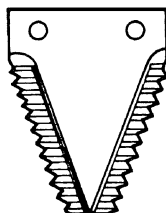
[中央・左側]

メンテナンス

4. 左、右のフレーム取付部と刈刃アッシを持ち
2人作業で刈刃アッシを左側に移動して、止
めピンを受け部から外し刈刃アッシを取外し
ます。



5. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し、動きが
かたいたときは、注油、グリス塗布やすき間調
整を行ないます。また、刃先が摩耗したり、
欠けているときは購入先に連絡して修理を依
頼してください。



1ASADACAP400A

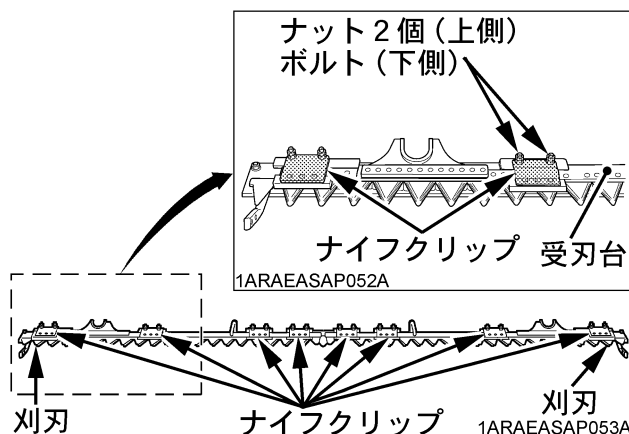
◆ すき間調整

すき間を測定するときは、すき間ゲージを使用し
てください。

補 足

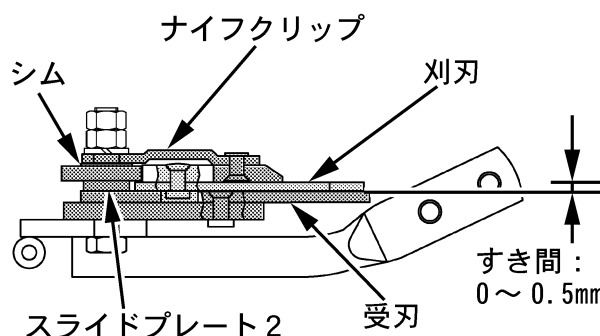
* 専用工具については、購入先にご相談くださ
い。

1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップ
を受刃台から外します。
2. 刈刃を取外したあと、ワイヤブラシなどで泥
やさびを取除きます。



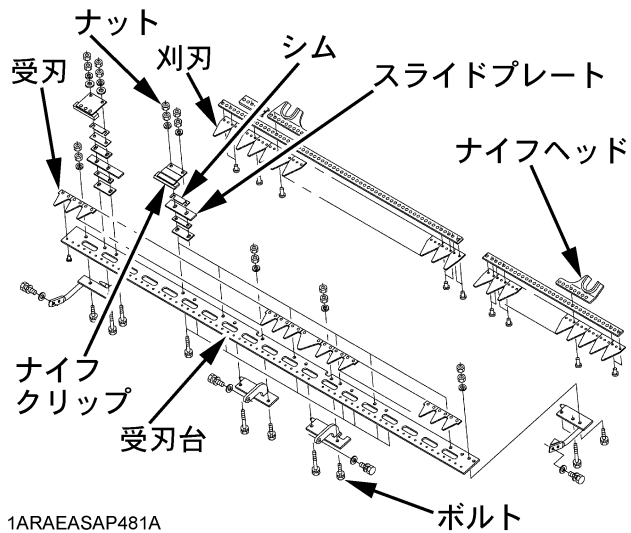
3. 刈刃と受刃のすき間を 0 ～ 0.5mm に調整しま
す。

- (1) ナイフクリップとスライドプレート2の
間にあるシムを増減して調整したあと、
ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と
受刃のすき間を 0 ～ 0.5mm に調整します。



1ARAEARAP116A

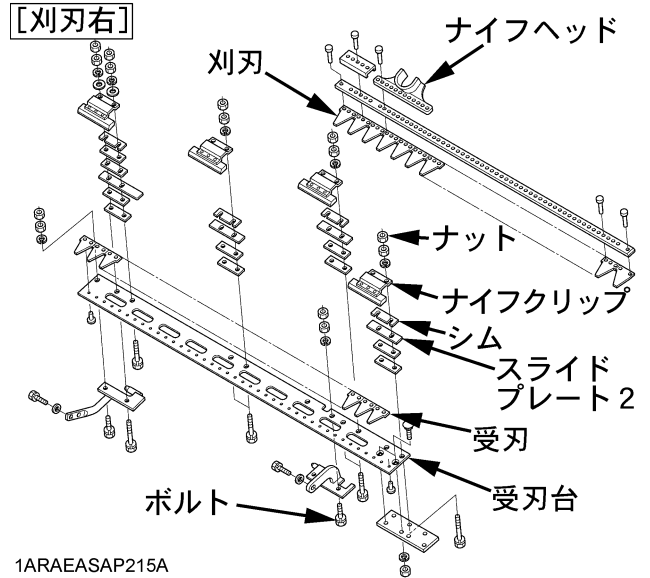
[572・587]



1ARAEASAP481A

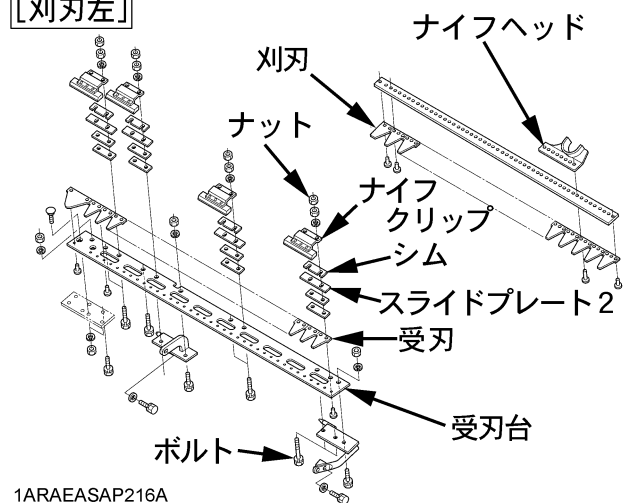
[572・587]

[698・108]



1ARAEASAP215A

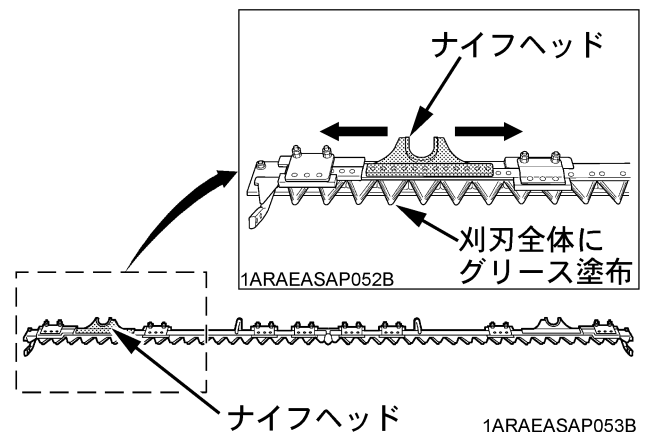
[刈刃左]



1ARAEASAP216A

[698・108]

- (2) ナイフヘッドを持ち、刈刃を左、右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない、異常がなければ刈刃全体にグリースを塗布します。

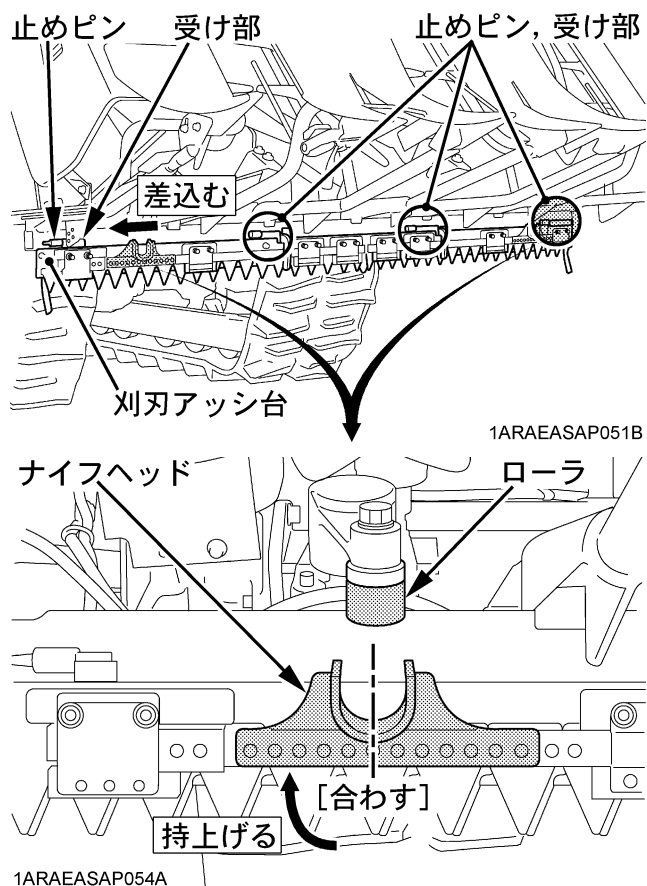


1ARAEASAP053B

メンテナンス

◆ 取付け

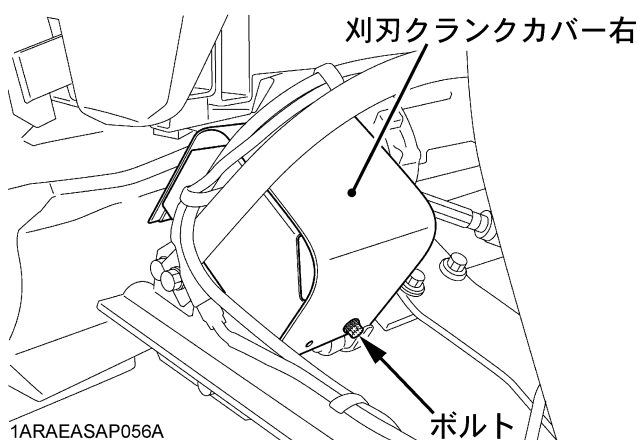
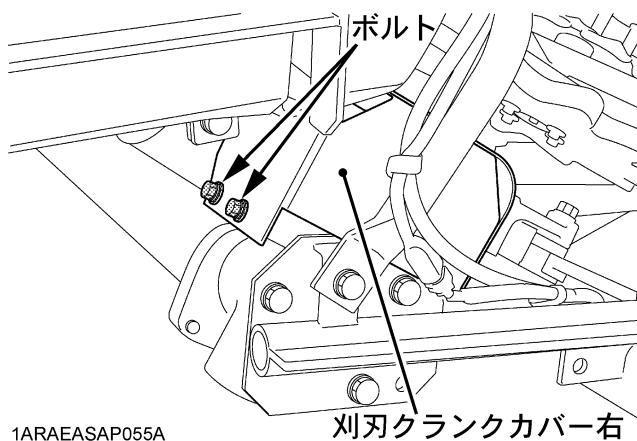
1. 2人作業で刈刃アッシを垂直の状態にして持ち、右側の止めピンを少し受け部に差込み、中央・左側の止めピンを受け部の穴に合わせてから、刈刃全体を右側に移動して刈刃アッシを取付けます。
2. 刈刃アッシの左右のナイフヘッドとローラの位置を合わせてから、刈刃アッシを水平状態まで持上げて、ボルト、座金各6個で刈刃アッシを取付けます。



◆ 刈刃クランクロッドの調整

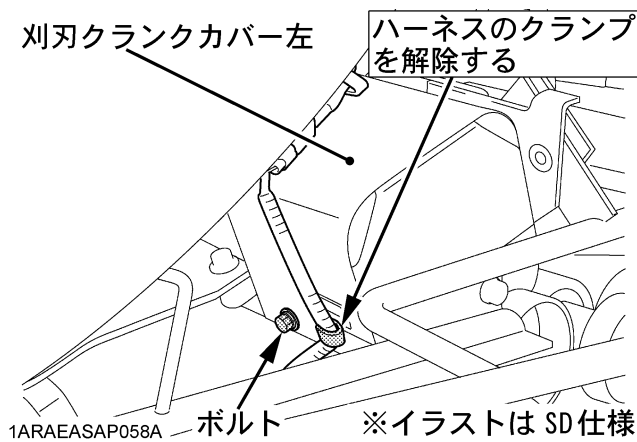
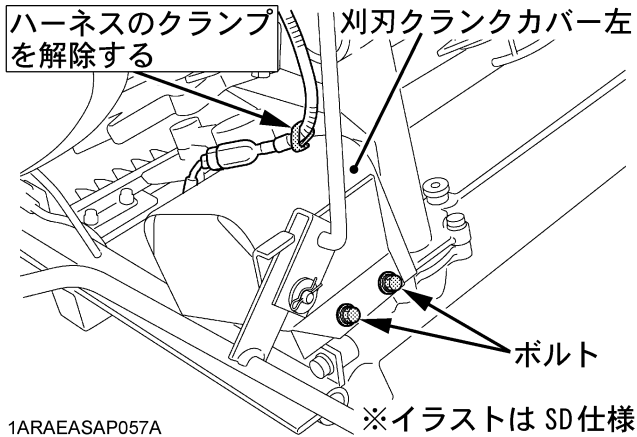
1. ボルトを取外して刈刃クランクケース左, 右を取外します。

[右側]



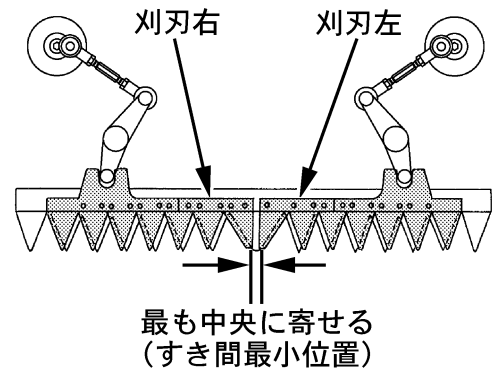
[右側]

[左側]

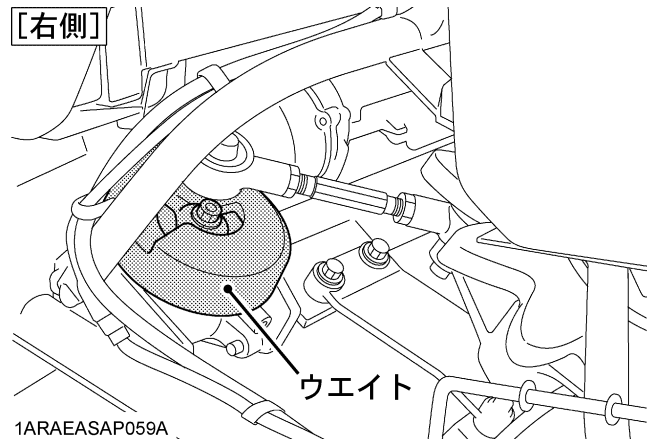


[左側]

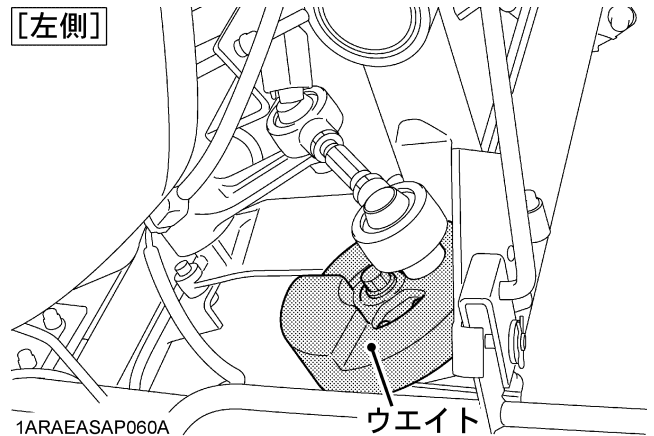
2. 左, 右にある刈刃クランクのウエイトを手で回して左, 右の刈刃を最も中央に寄せた状態 (中央のすき間最小位置) にします。



[右側]

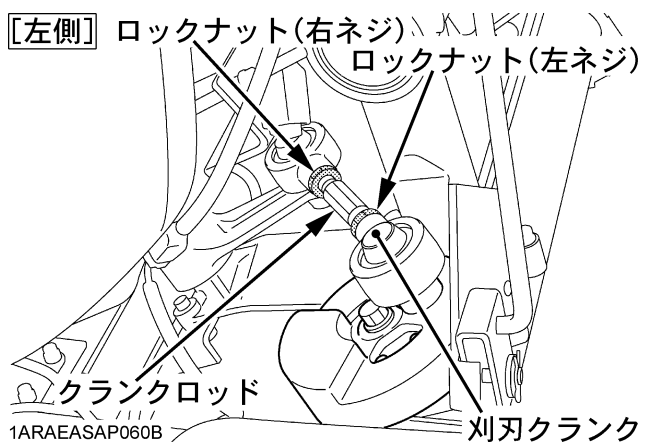
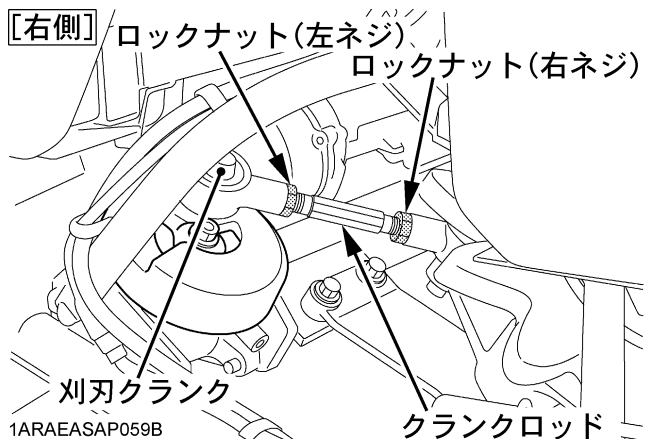


[左側]



メンテナンス

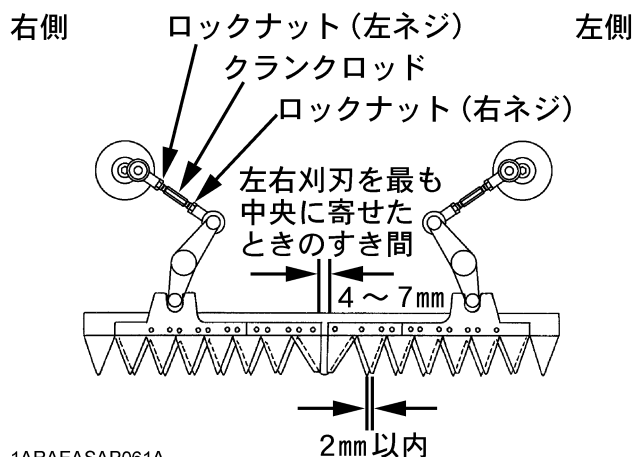
3. クランクロッド左, 右のロックナット 2 個をそれぞれゆるめします。



補 足

- * クランクロッドには右ネジと左ネジがあります。

4. クランクロッドを回して, 刈刃と受刃のセンタのずれを 2 mm 以内に調整します。
5. 刈刃中央部で, 左右の刈刃のすき間が 4 ~ 7 mm の範囲から外れているときは, 再度 3. の調整を行なって 4 ~ 7 mm の範囲になるよう調整します。



6. クランクロッドのネジ部にネジロックを塗布したあと, ロックナットを締付けます。

補 足

- * ネジロックは, 購入先に連絡して入手してください。

7. 刈刃クランクカバー左, 右を取付けます。

■ こぎ歯の点検・交換



警告

* こぎ胴を開いたあとは、エンジンを必ず止めてください。



注意

* 平たんな場所でこぎ歯の点検・交換を行ってください。

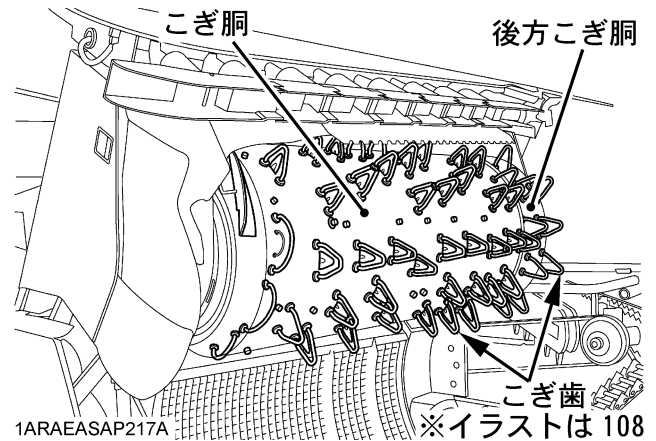
こぎ歯の歯先が摩耗してくると、受あみとのすき間が大きくなり、こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が2.5mm以下になったときは組換え又は、交換を行ってください。

重要

* 歯先の線径が2.5mm以下になると、こぎ歯が変形したり、歯先が割れて故障の原因となります。

◆ 点検

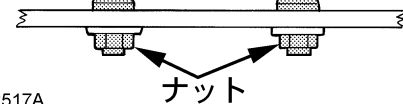
1. こぎ胴を開いたあと、エンジンを停止します。
2. 補助デッキを引出します。
3. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し、線径が2.5mm以下のときは交換します。



残りが2.5mm
以上あること

新品時 6.25mm

摩耗



1ARADBEAP517A

メンテナンス

◆ 交換

1. ボルト14本を取外してこぎ胴点検カバーを取外します。

[698・108]

2. ボルト4本を取外して後方こぎ胴のこぎ歯取付けカバーを取外します。

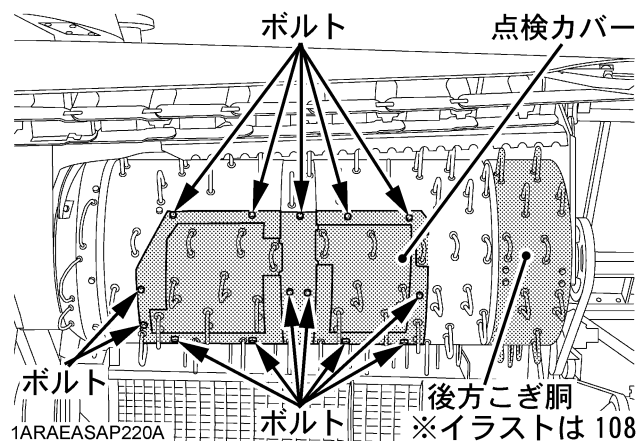
補 足

- * こぎ歯取付けカバーは、片方を取外してください。

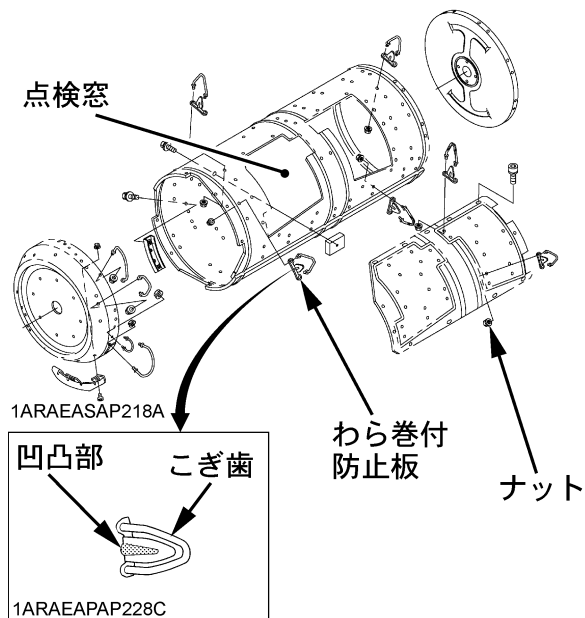
[698・108]

補 足

- * ボルトを取外すときは、六角レンチを使用してください。また、六角レンチについては、購入先にご相談ください。



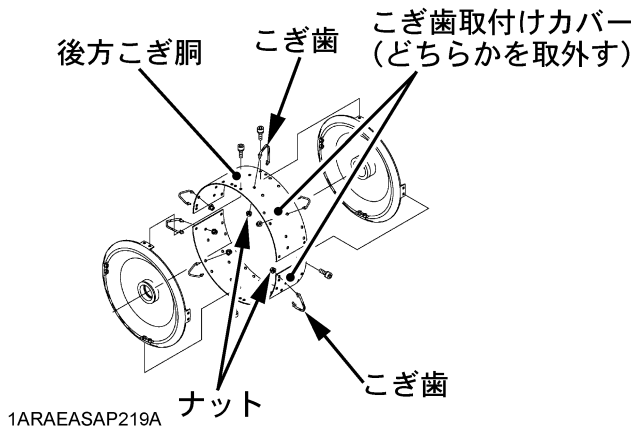
3. 点検窓から手を入れて、こぎ胴の内側からナット2個を取外し、交換するこぎ歯を取外します。
4. 新しいこぎ歯をナット2個で取付けます。
5. 点検カバー及びこぎ歯取付けカバー **[698・108]** を取外したボルトで取付けます。



補 足

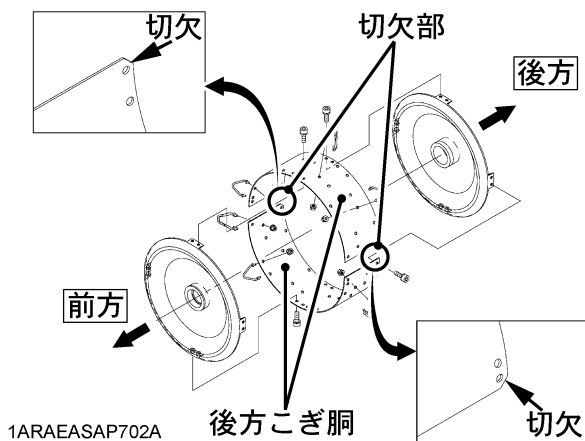
- * わら巻付防止板を取付けるときは、凹凸部の凸側を左側にして取付けてください。

[698・108]



補 足

- * 後方こぎ胴のこぎ歯取付けカバーを取付けるときは、こぎ歯取付けカバーの切欠部を下図のように機体後方側の位置に向けた状態で必ず取付けてください。



[698・108]

6. 補助デッキを収納したあと、こぎ胴を閉じます。

■わら切刃の点検・組換え・交換



注 意

- * 刃部に手を掛けないでください。
- * 危険ですので、手袋をして、脱着作業をしてください。

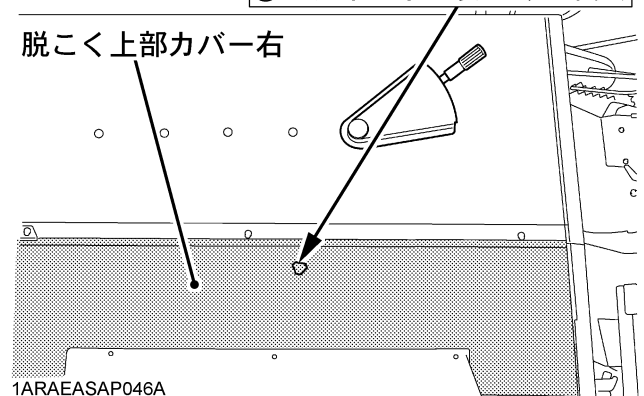
わら切刃が切れなくなると、こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため、わらくずの移動が悪くなります。また、必要以上の動力を消費するばかりでなく、排じん選別室に送られたわらくずが2番スクリュに巻きついたり、2番処理胴に詰まったりします。

◆ 点検・組換え・交換

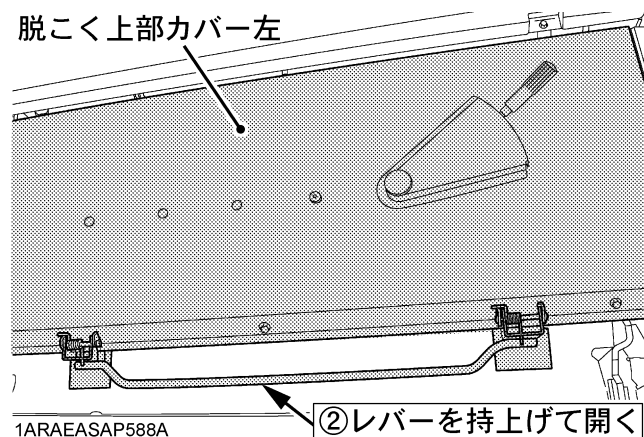
1. エンジンを始動したあと、アンローダを上昇します。
2. エンジンを停止します。
3. グレンタンクを開きます。
4. ノブボルトを持上げて脱こく上部カバー右を開きます。
5. レバーを引上げて脱こく上部カバー左を開きます。

①ノブボルトを持上げて開く

脱こく上部カバー右



脱こく上部カバー左

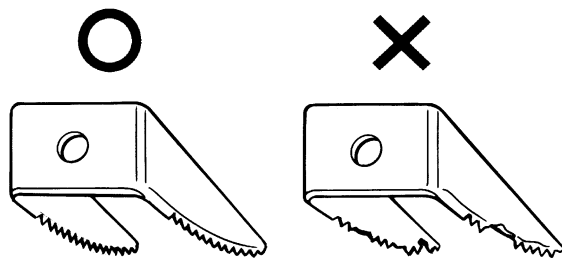
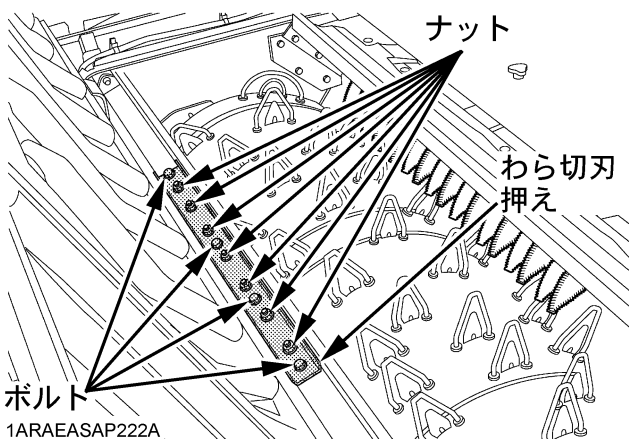
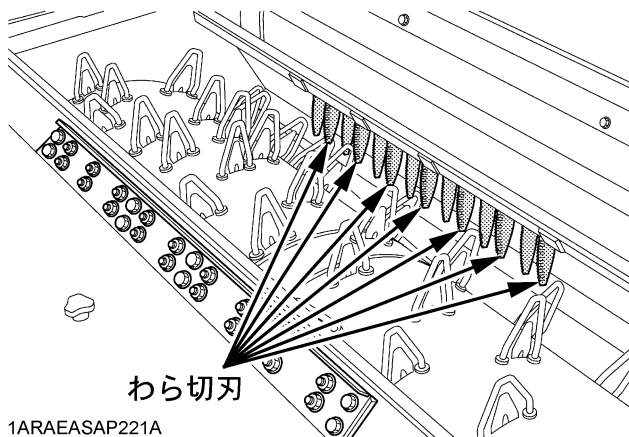


②レバーを持上げて開く

メンテナンス

● 株元側

- (1) わら切刃押えのボルト 4 本を外します。
- (2) わら切刃押えを取外します。
- (3) わら切刃押えを取出したあと、わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり、欠けているときはナットを取外して交換してください。
- (4) 交換したあとは、ボルト 4 本でわら切刃押えを締付けます。



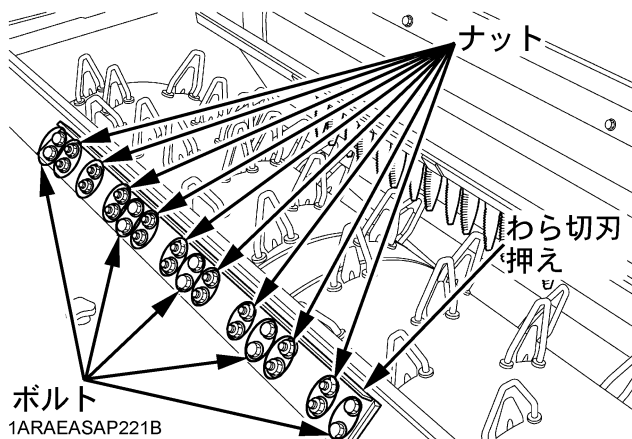
1ARADAFAP455A

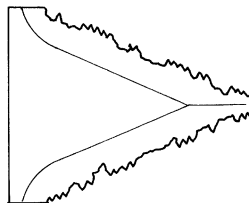
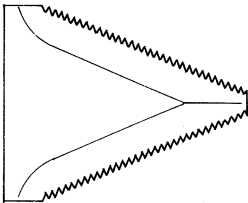
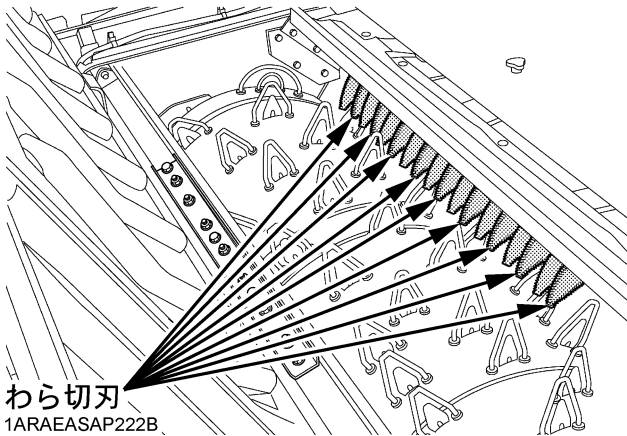
重 要

- * わら切刃を取付けるときは、刃面を上向きにし、傾きの出ないように注意して取付けてください。

● 穂先側

- (1) わら切刃押えのボルト 10 本を外します。
- (2) わら切刃押えを取外します。
- (3) わら切刃の刃先を確認し、刃先が摩耗しているときは、ナット 2 個を取外してわら切刃を 180 度回して組換えます。両刃とも摩耗や欠けが大きいときは交換してください。
- (4) 組換え又は、交換したあと、ボルト 10 本でわら切刃押えを締付けます。





1ARAEAPAP114A

重要

- * わら切刃を取付けるときは、傾きの出ないように注意して取付けてください。
- 6. 脱こく上部カバー左、右を閉じたあと、グレンタンクを閉じます。
- 7. エンジンを始動したあと、アンローダをアンローダ受けに収納します。

■カッタ部の点検・調整・増締め



警告

- * 平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。
- * 手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。
- * カッタ部を開いているときは、カッタの刃先に注意してください。



注意

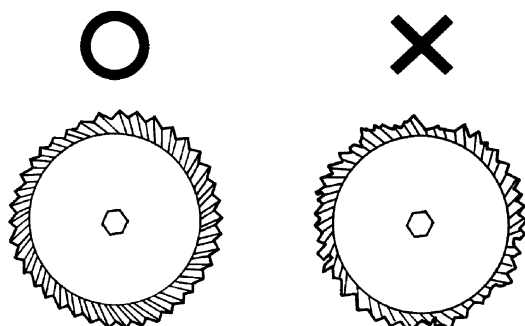
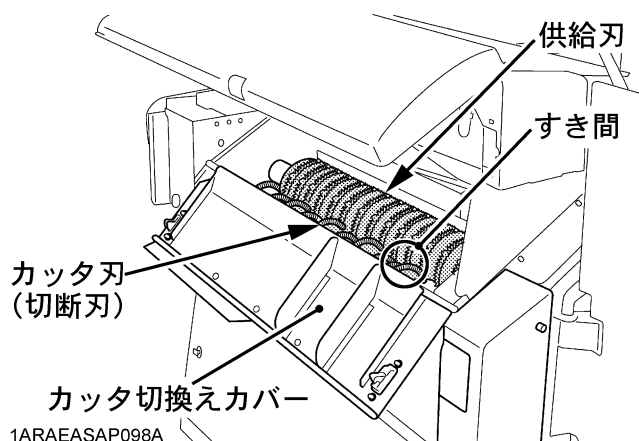
- * 傾斜地では、カッタ部の開閉をしないでください。
- * カッタ部を開いて掃除をするときは、オープnstoppaで必ず固定してください。

補足

- * わらくずなどは取除いてください。

メンテナンス

カッタ切換えカバーを開いて（168 ページ参照）カッタ刃（切断刃）の刃先の摩耗状態を確認します。刃先が摩耗したり、欠けているときは、交換してください。（273 ページ参照）また、カッタ刃（切断刃）と供給刃のラップ代とすき間を確認し、規定範囲から外れているときは、調整してください。それから、定期的（初回又は、交換後 50 時間後、その後 200 時間ごと）に切断軸と供給軸の増締めを行なってください。



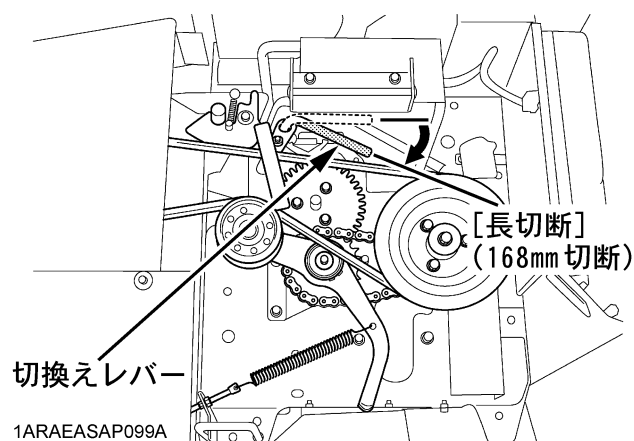
1ARADAFAP225A

◆ カッタ刃と供給刃のラップ代の点検・調整

供給刃とカッタ刃（切断刃）のラップ代を確認し、ラップ代が 9 mm 以下になったときは、軸受けプレートの取付位置の変更を行ないます。

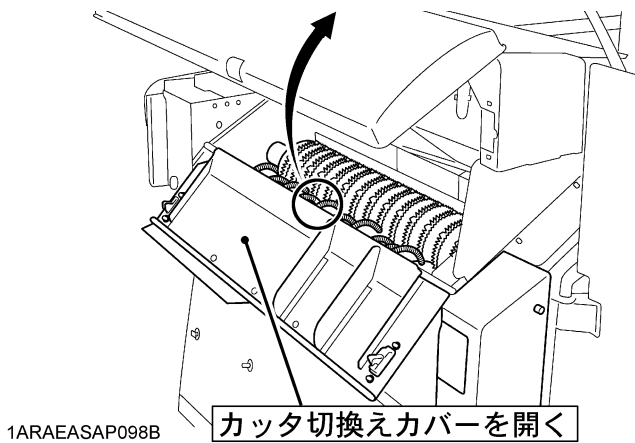
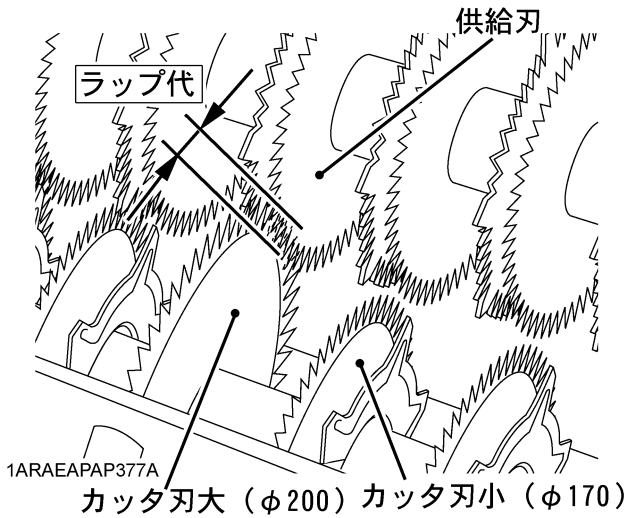
● 点検

1. 左サイドカバー上 2 を取外します。
2. 排わら切断長さの切換えレバーを **【長切断】**（168mm 切断）位置にします。



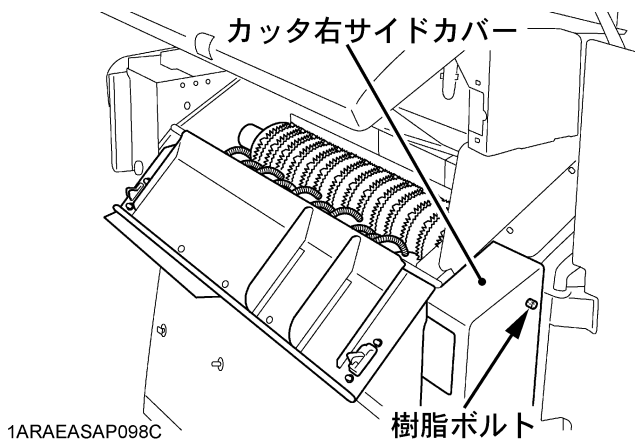
3. カッタ切換えカバーを開きます。

- 大きいほうのカッタ刃($\phi 200$)と供給刃のラップ代を測定し、9 mm 以下のときは軸受けプレートの取付位置を変更します。



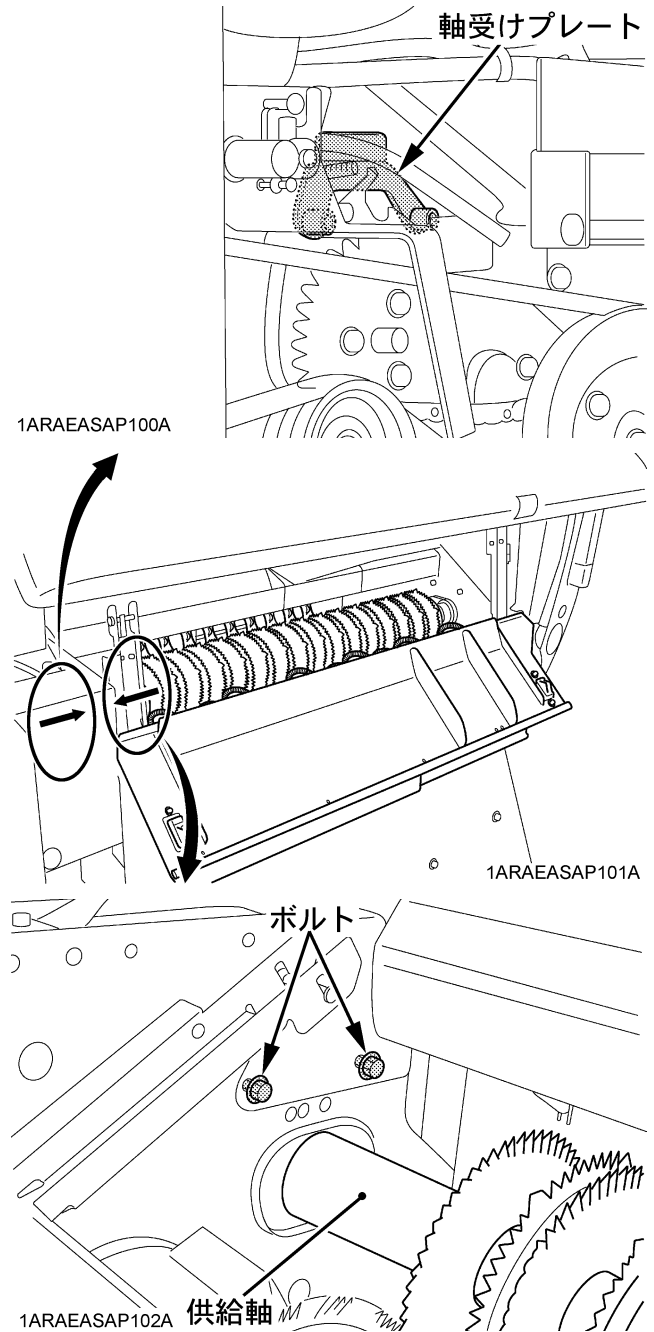
● 調整

- 樹脂ボルトを取外してカッタ右サイドカバーを取外します。



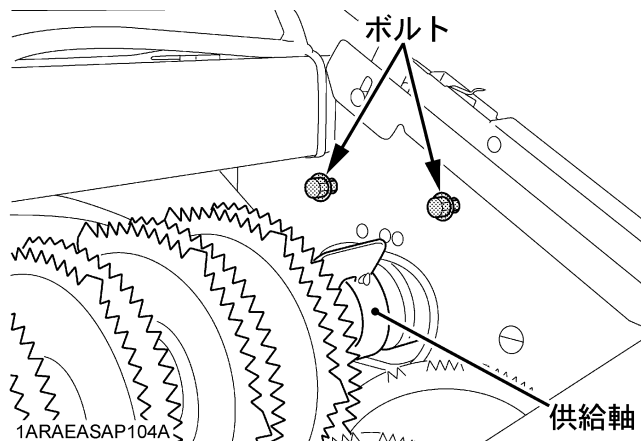
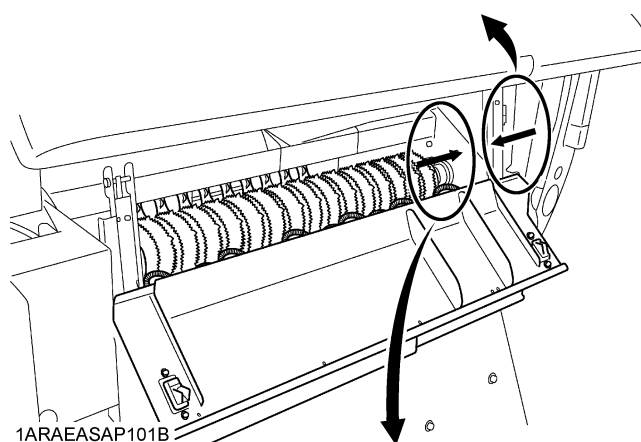
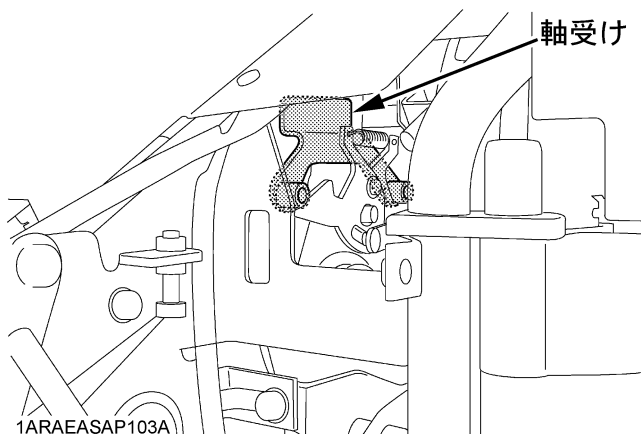
- 株元側（左側）と穂先側（右側）の供給軸を取付けているカッタフレーム上部にある軸受けプレート左、右ボルト各2本を取外します。

[株元側]



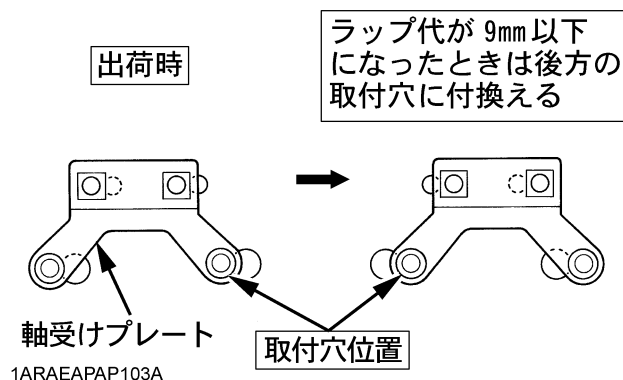
[株元側]

[穂先側]



[穂先側]

3. 株元側（左側）と穂先側（右側）各軸受けプレートの取付位置を後方の取付穴の位置に付換えてボルトで取付けます。



4. カッタを閉じたあと、カッタ切換えカバーを閉じます。

補 足

- * カッタ刃（切断刃）を交換したときは、出荷時の位置に戻してください。
- 5. カッタ右サイドカバー及び、左サイドカバー上2を取付けます。

◆ カッタ刃と供給刃のすき間の点検・調整

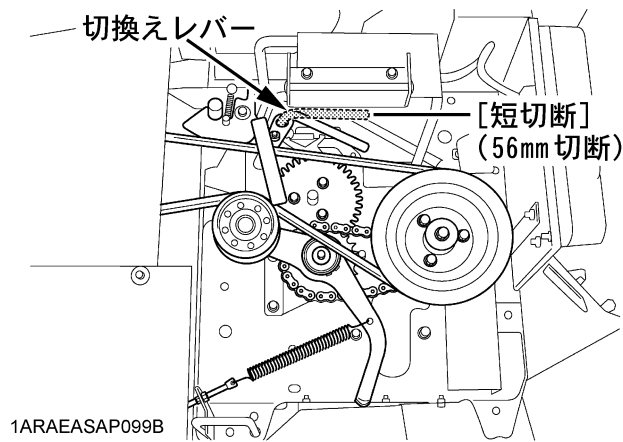
供給刃とカッタ刃（切断刃）のすき間を確認し、すき間が4.5～8.0mmの範囲から外れているときは、すき間調整を行ないます。

重 要

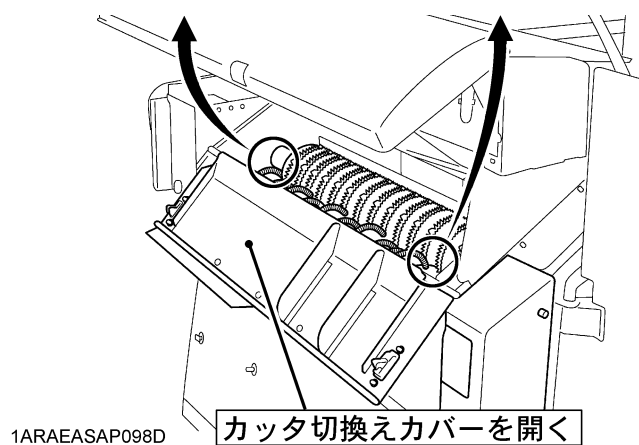
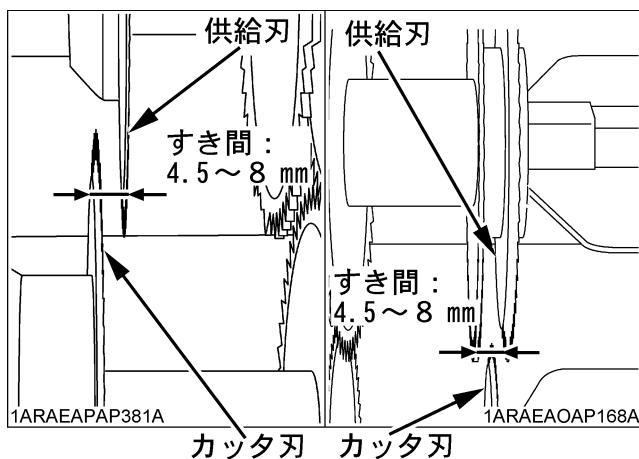
- * すき間が適正範囲（4.5 ～ 8.0mm）外になると、刃物の接触が発生し破損するおそれがあります。また、わらの切断精度が悪くなります。

● 点検

1. 左サイドカバー上2を取外します。
2. 排わら切断長さの切換えレバーを **【短切断】** (56mm 切断) の位置にします。

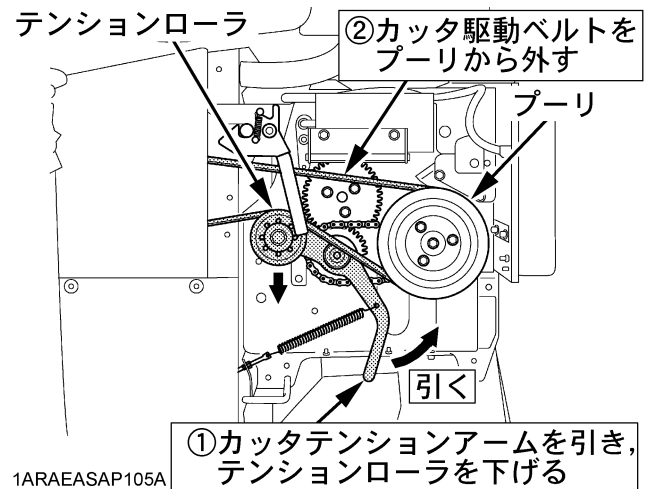


3. カッタ切換えカバーを開きます。
4. 両端部のカッタ刃と供給刃のすき間を確認し、4.5 ~ 8.0mm の範囲から外れているときは調整を行ないます。

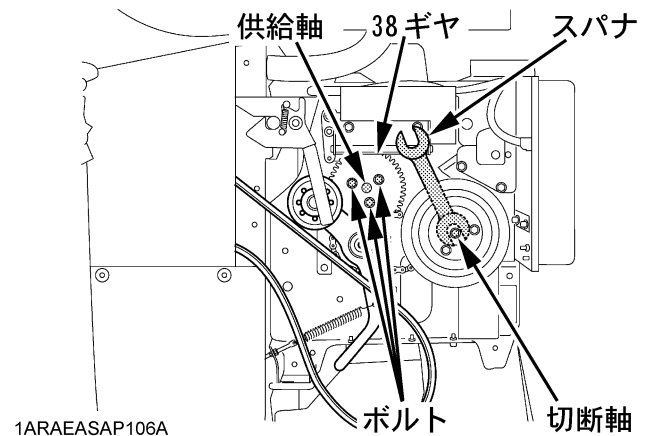


● 調整

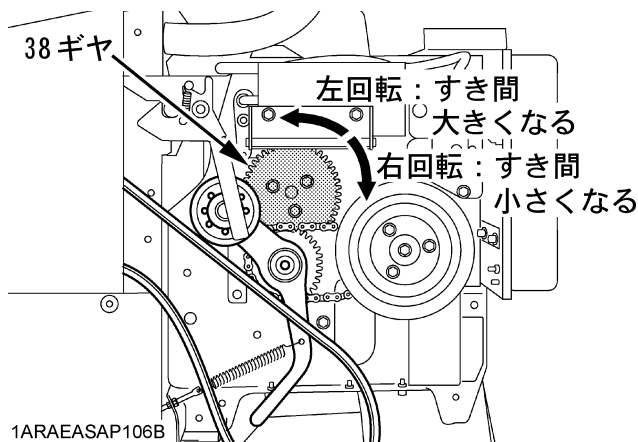
1. 左サイドカバー上2を取外したあと、カッタ駆動ベルトを外します。



2. 切断軸側のプーリ内側にスパナを掛け、切断軸を固定した状態で供給軸側の38ギヤ固定ボルト3本を取外します。



3. スパナを取外し、供給軸側の 38 ギヤを左又は、右に回してカッタ刃（切断刃）と供給刃すき間を調整します。すき間は、左に回すと大きくなり、右に回すと小さくなります。



重要

- * 38 ギヤを左に回した場合（すき間を大きくした場合）は、38 ギヤとボス部にすき間ができるため、38 ギヤを軸方向に必ず押込んだ状態ですき間を調整してください。
 - * すき間は、株元側と穂先側の両端部で測定してください。
4. 38 ギヤのボルトを取付けたあと、カッタ駆動ベルトを取付けます。
 5. 左サイドカバー上2を取付けます。

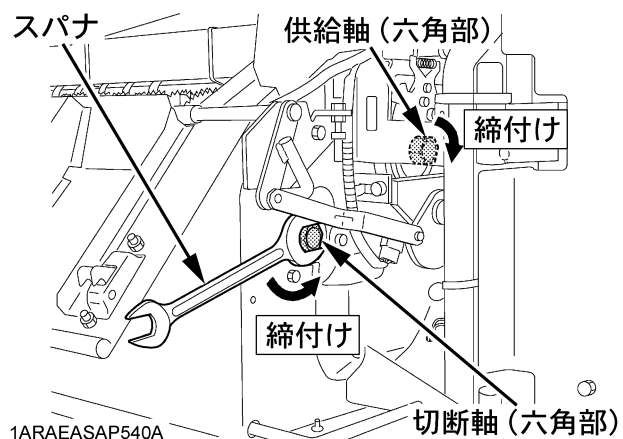
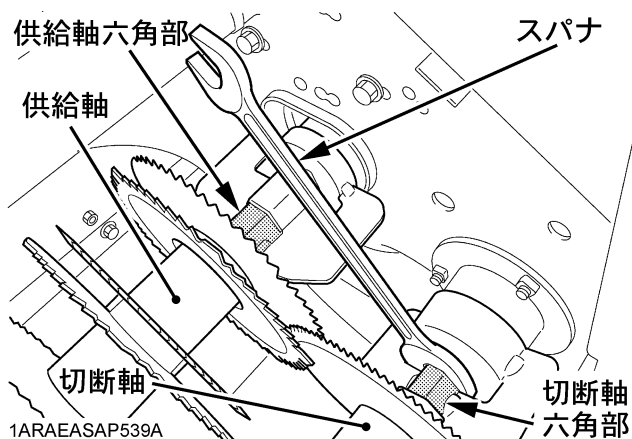
◆ 切断軸と供給軸の増締め

1. カッタ右サイドカバーを取外したあと、カッタ切換えカバーを開きます。
2. 2人作業で株元側から切断軸と供給軸をそれぞれ増締めをします。

重要

* 軸の締付けトルクは $98.0 \sim 117.6 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1000 \sim 1200 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) です。確実に締付けてください。組付け時、刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと、刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

- (1) カッタフレーム内側から切断軸又は、供給軸の終端部の六角部にそれぞれスパナを掛けて固定します。
- (2) カッタフレーム外側から切断軸又は、供給軸の六角部にそれぞれスパナを掛けて増締めします。このとき、供給軸は時計方向、切断軸は反時計方向に締付けます。



3. カッタ右サイドカバーを取付けたあと、排わら切換えカバーを閉じます。

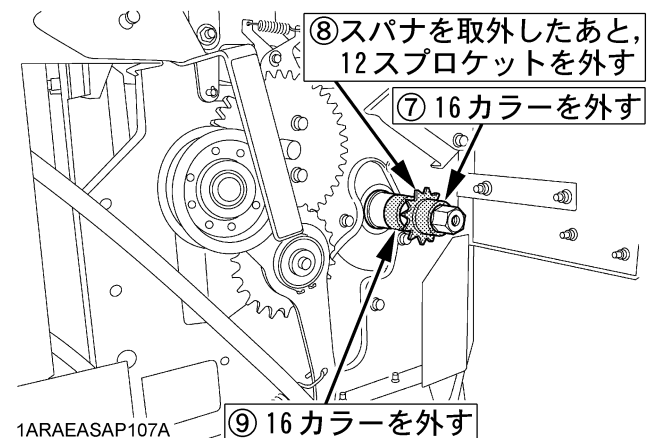
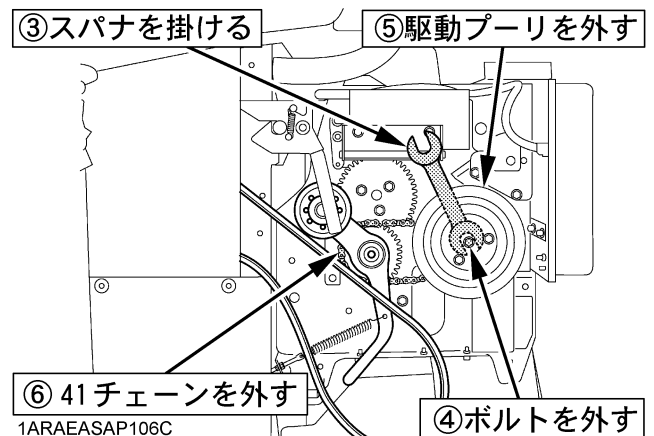
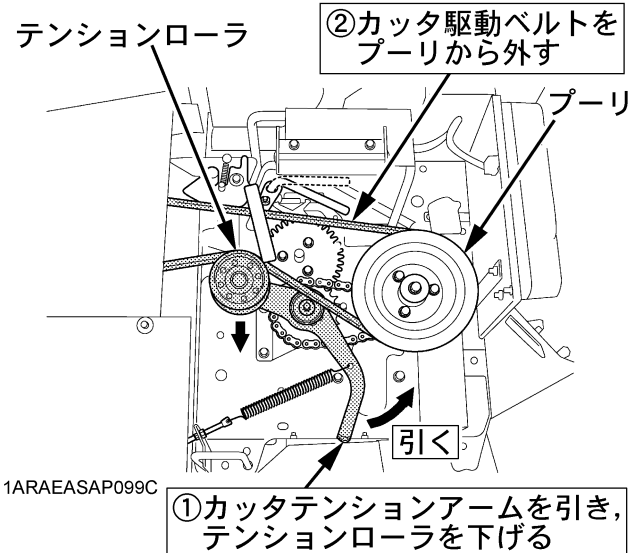
■カッタ刃の交換



警告

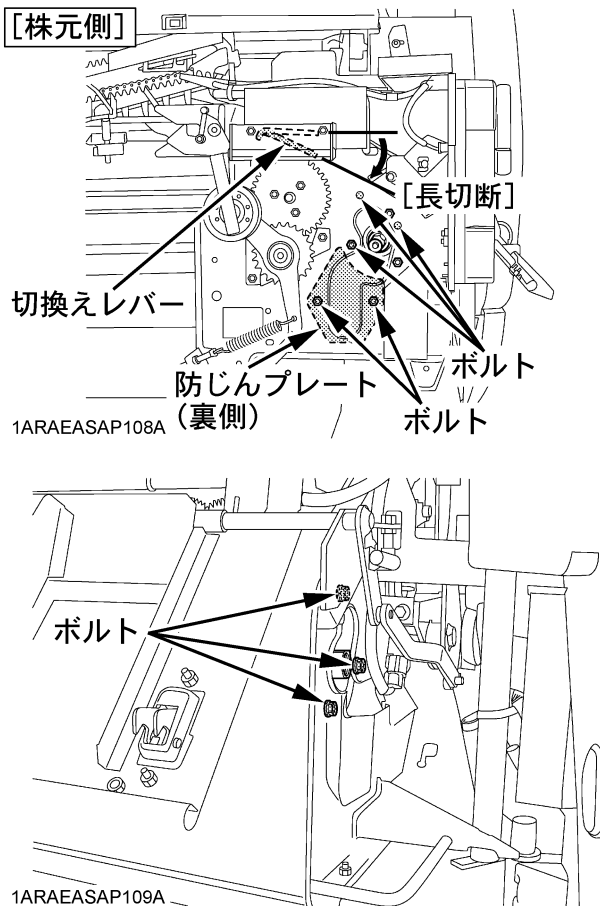
- * カッタ刃を交換するときは、エンジンを必ず止めてください。
- * 手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。
- * 切断軸完備を外すときは、2人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。
- * 切断軸アッシの分解・組立て作業は2人作業で行なってください。

1. 上部カバーを上げたあと、左サイドカバー上2とカッタ右サイドカバーを取外します。
2. カッタ駆動ベルトをカッタ駆動プーリから外したあと、カッタ駆動プーリ及び 41 チェーン、12 スプロケット、16 カラー 2個を取外します。



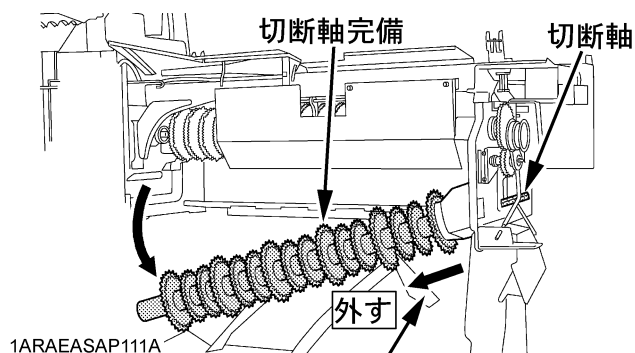
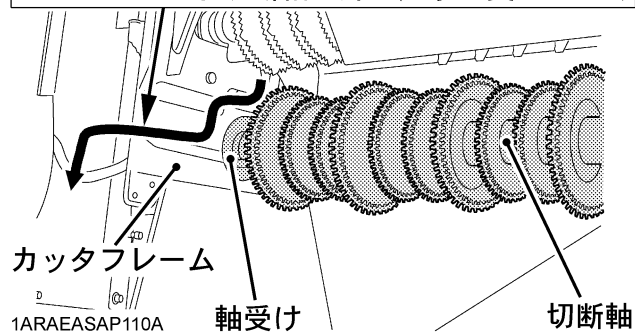
メンテナンス

3. 排わら切断長さの切換えレバーを **【長切断】** (168mm 切断) 位置にしたあと、カッタをオープンします。
4. 株元側の防じんプレートを取外したあと、株元側、穂先側の切断軸の軸受けを固定しているボルトをそれぞれ取外します。



5. 切断軸完備を取外します。

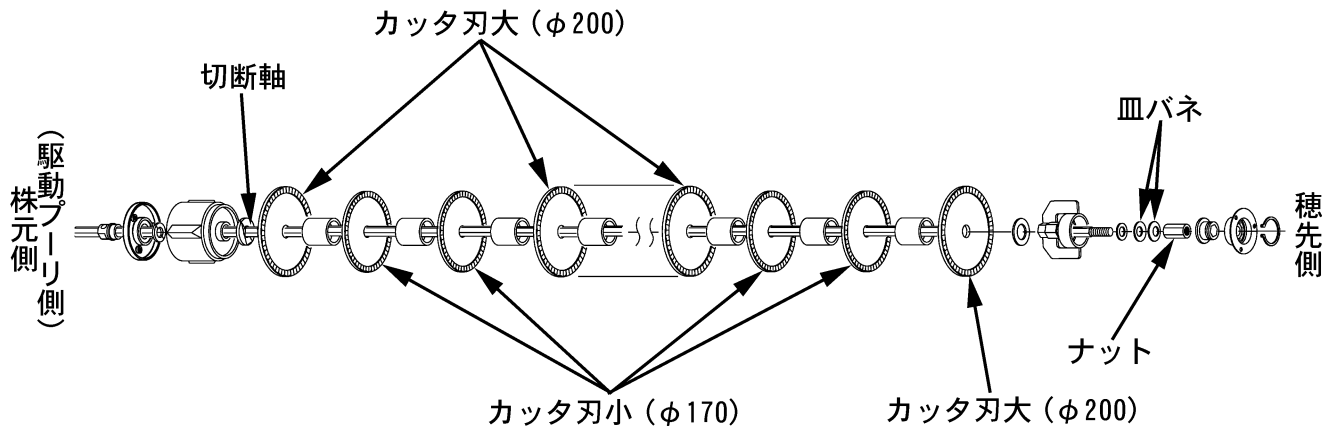
① 1 人の作業者が穂先側の切断軸受けを刃先に注意しながら下にずらして、カッタフレームから切断軸を外し、手で支えておく



② もう 1 人の作業者が株元側の切断軸を持ち、カッタフレームから切断軸を外して切断軸完備を外す

6. カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは、必ず補助者と共に2人作業で行なってください。

- (1) 切断軸アッシを安定した場所に置き、穂先側のロックナット、調整ナットと順番に取外して分解します。
- (1) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付方向（刃先の向き）や大きさ（大，小）に注意しながら交換を行ないます。

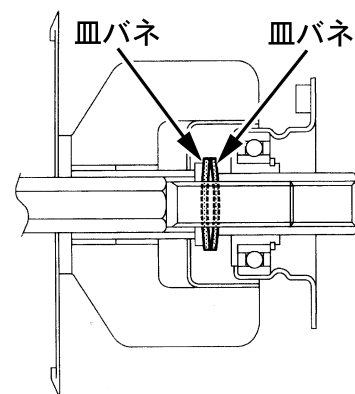
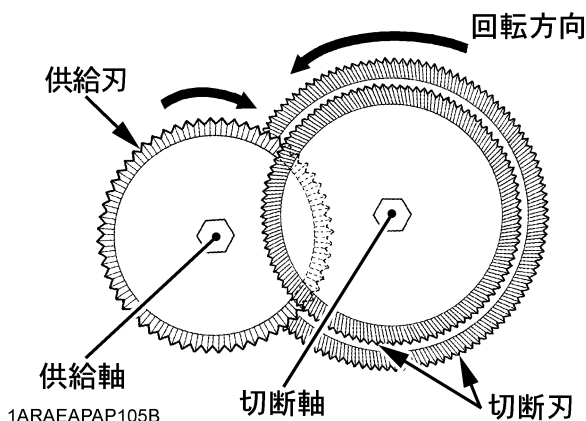


重要

- * 組付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると、切断軸が軸振れを起して異音が発生したり破損する原因となります。
- * 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると、カッタ刃とギヤロータのすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ、上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

補足

- * 取付方向（刃先の向き）や大きさを間違えるとわらの切断性能が悪くなります。
- * 皿バネ2枚は下図のように組付けてください。
- * 刃の向きと回転方向は下図のようになります。



- (2) カッタ刃の交換が終わると、分解と逆の手順で切断軸アッシを組立てます。
- (3) 切断軸アッシを垂直に立てた状態でナットをスパナで軽く締付けます。

メンテナンス

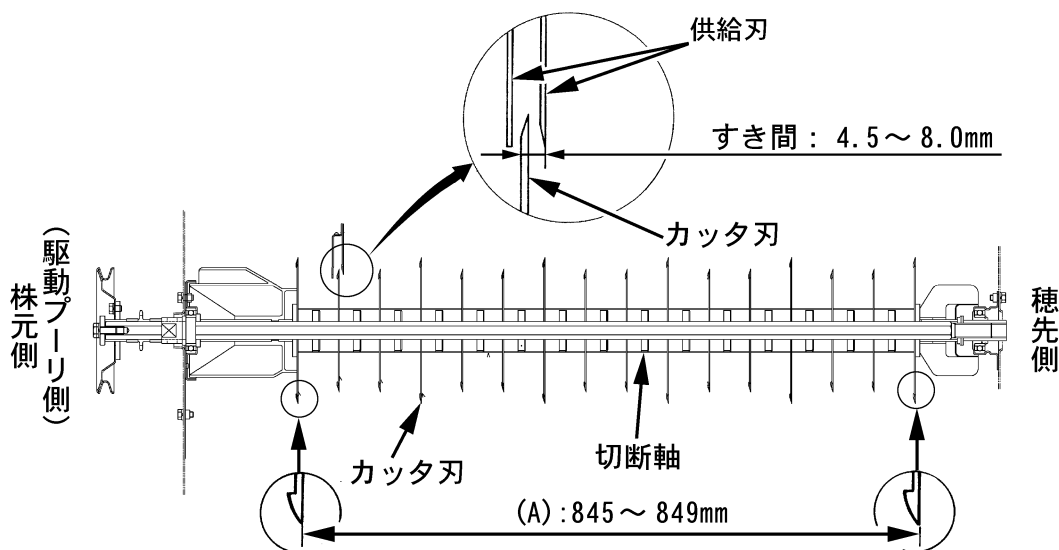
7. 排わら切断長さの切換えレバーを【短切断】(56mm 切断) 位置に切換えたあと、切断軸アッシをカタフレームに取付けます。(手順 4 ～ 6 の逆に取り付けます。)

補 足

- * 排わら切断長さの切換えレバーが【長切断】(168mm 切断) 位置では、切断軸完備の取付けが困難となります。
8. 切断軸のナットを増締め要領(267 ページ参照)で締付けます。

重 要

- * 軸の締付けトルクは $98.0 \sim 117.6 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1000 \sim 1200 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) です。確実に締付けてください。カタ刃と供給刃が接触していないか、手で切断軸を軽く回して確かめてください。
9. 下図のようにカタ刃の両端の寸法 (A) が $845 \sim 849 \text{ mm}$ の範囲から外れているときや、カタ刃と供給刃のすき間が $4.5 \sim 8.0 \text{ mm}$ の範囲から外れているときは、再度分解と正しい組立てを行ないます。



1ARAEASAP482A

重 要

- * 再組立てを行なっても範囲から外れるときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。
10. 取外した逆の手順で各部品の取付けを行ないます。
11. カッタ切換えカバーを閉じます。

補 足

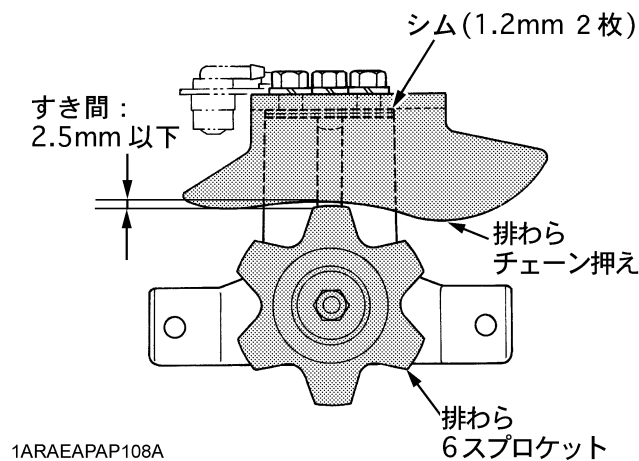
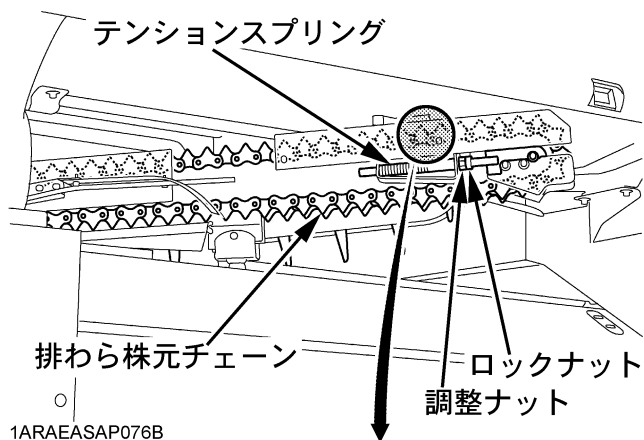
- * カッタ切換えカバーをきちんと閉じないと、自動エンジン停止装置がはたらき、エンジンが始動しません。

■排わらチェーン押えの点検・調整・交換

排わら 6 スプロケットと排わらチェーン押えのすき間が2.5mm以上になったら調整用のシムを抜いて調整してください。

◆ 点検・調整

1. 排わら株元チェーンのテンションスプリングのロックナットと調整ナットをゆるめて排わら株元チェーンを取外します。
2. 排わら 6 スプロケットと排わらチェーン押えのすき間を調整します。
3. すき間が 2.5mm 以上あるときは、ボルト 3 本を取外し、排わらチェーン押えを外してシムを 1 枚抜取ります。



補 足

- * シムは厚さが 1.2mm のものが 2 枚あります。また、シムは抜取ったあとも保管しておいてください。排わらチェーン押えを交換したときに再使用します。
- * シムを 2 枚抜取った状態で、すき間が 2.5mm 以上になったときは、排わらチェーン押えを交換してください。

4. ボルト 3 本で排わらチェーン押えを取付けます。

5. テンションスプリングの張り調整を行いません。(256 ページ参照)

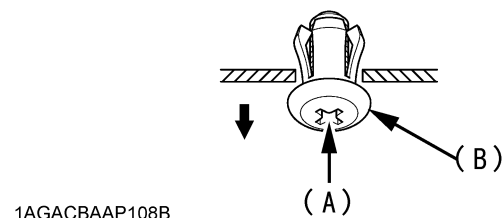
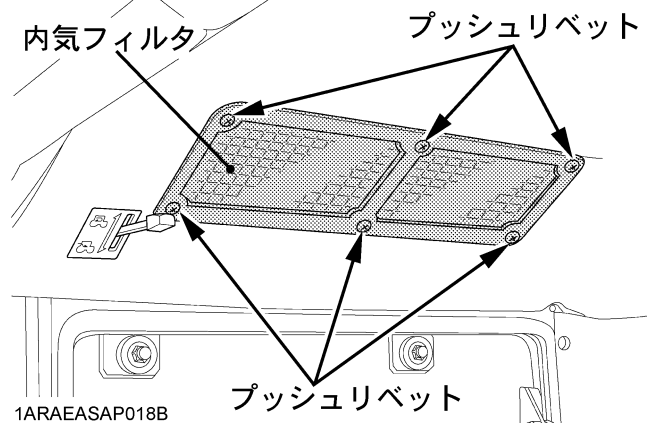
■キャビン内気、外気フィルタの掃除・交換

[Q 仕様]

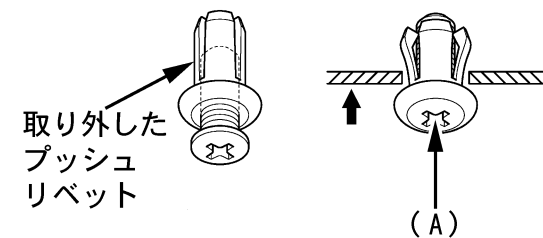
フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

◆ 内気フィルタの掃除・交換

1. プッシュリベットを取外して、内気フィルタを取外します。取外すときは、プッシュリベットの周辺 (B) 部を手で押さえて (A) 部を (+) ドライバで左に回します。



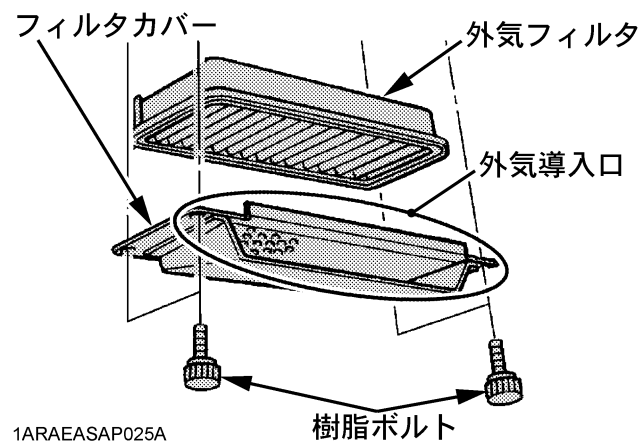
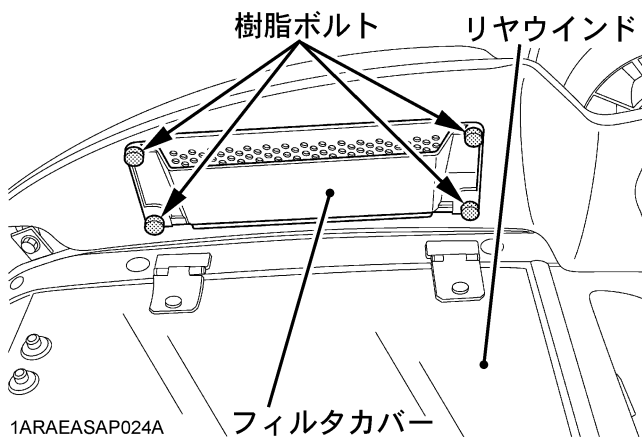
2. 内気フィルタを掃除します。掃除を行っても汚れの取れないときや、損傷しているときは交換してください。
3. 内気フィルタを取付けます。取付けるときは、プッシュリベットを内気フィルタに差込み、(A) 部を押しプッシュリベットを固定します。



メンテナンス

◆ 外気フィルタの掃除・交換

1. 樹脂ボルトを取外して、フィルタカバーと外気フィルタを取外します。
2. 外気フィルタを掃除します。掃除を行っても汚れの取れないときや、損傷しているときは交換してください。



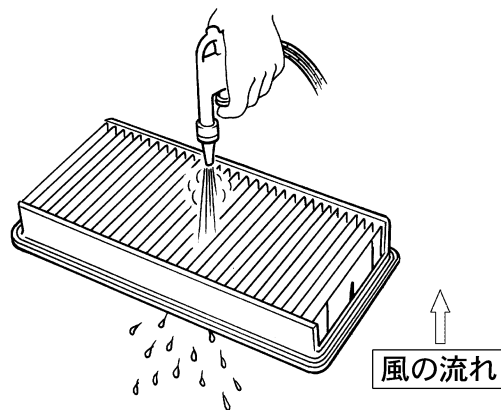
3. 外気フィルタとフィルタカバーを取付けます。

重 要

- * エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は、たたいたり固い物に当てて変形させるとエアコンの故障の原因となりますのでしないでください。
- * 外気フィルタを取付けるときは、傾きが出ないように確実に取付部に差込んでください。

補 足

- * 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。



1AGALAFAP314A

- * 汚れが著しいときは、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。
- * フィルタカバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

■冷媒（ガス）量の点検

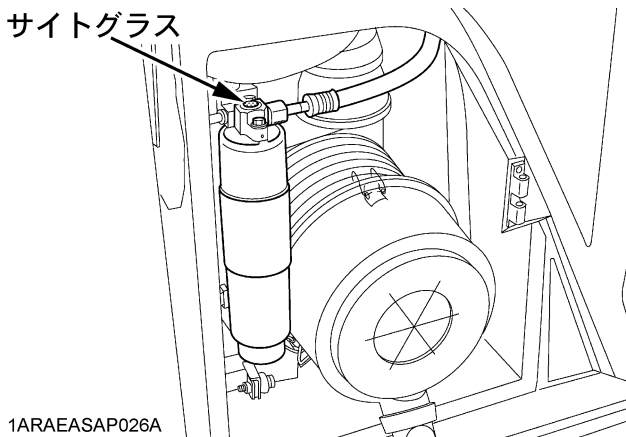
[Q 仕様]

冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し、冷媒が不足しているときは、購入先に連絡して補充してください。

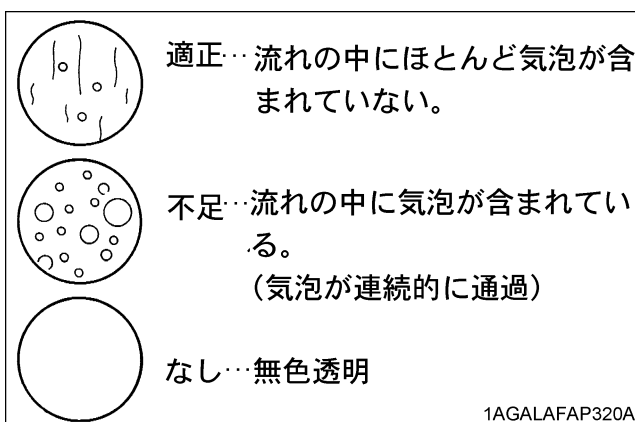
◆ 点検

1. エアコンを下記の条件で運転します。
 - 外気温：30 度以上
 - エンジン回転数：約 1500rpm
 - 内外気切換えレバー：【内気循環】位置
 - 温度調整つまみ：左端（最強冷位置）
 - ファンスイッチ：【3】（風力最強位置）
 - エアコンスイッチ：【入】位置
 - 窓（左、後）を全開，ドア全開
2. 防じんカバーを開きます。
3. サイトグラスにより、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。
4. レシーバに流れている冷媒ガスを、サイトグラスから確認します。

サイトグラス



11ARAEASAP026A



11AGALAFAP320A

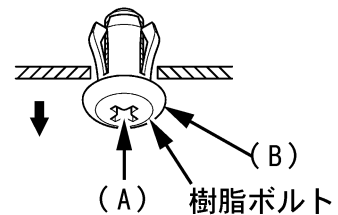
5. エンジンを停止し、ファンスイッチとエアコンスイッチを【切】位置にします。
6. 防じんカバーを閉じます。

■吐出口ブーツの点検・交換

アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

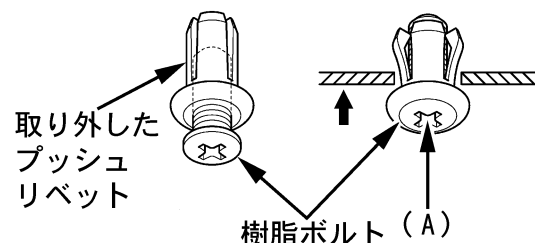
◆ 交換

1. 吐出口ブーツを取付けている樹脂ボルト10本を外します。樹脂ボルトを取外すときは、プッシュリベットの周辺（B）部を手で押さえて樹脂ボルトの（A）部を（+）ドライバで左に回して取外します。

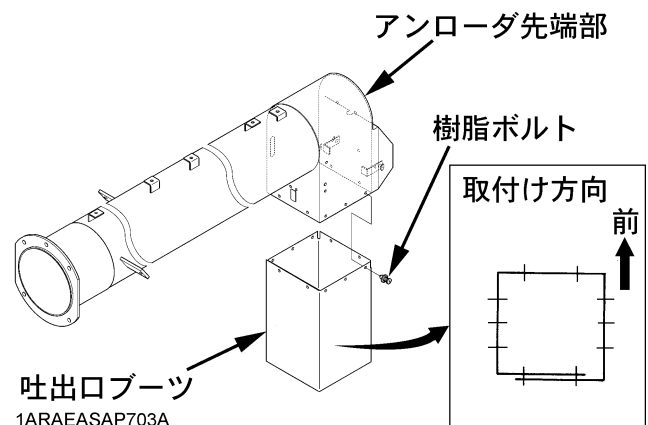


11AGACBAAP108E

2. 破損した吐出口ブーツを取外し、新しい吐出口ブーツを取付けます。新しいブーツを取付けるときは、プッシュリベットをブーツの上からアンローダ先端部の取付穴に差込み、樹脂ボルトの（A）部を押しプッシュリベットを固定します。



11AGACBAAP108F



11ARAEASAP703A

補 足

- * 吐出口ブーツを取付けるとき、吐出口ブーツの重なるの方向を間違えないでください。

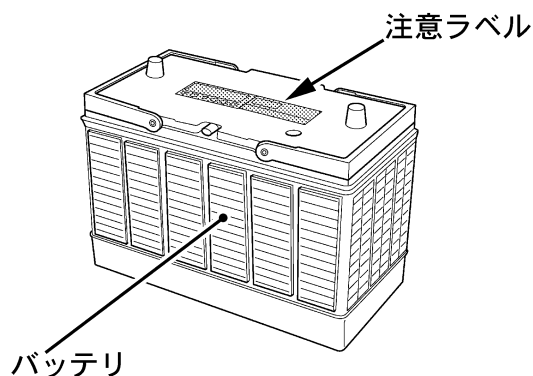
メンテナンス

重要

- * 吐出口ブーツは必ずクボタ純正品を使用してください。

■バッテリーの点検・交換

バッテリー上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



1ARAESAP038A



危険

- * バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（-）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発するおそれがあります。
- * バッテリーを取扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となります。
- * 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤ると引火爆発するおそれがあります。
- * この 12V バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- * 急速充電は厳禁です。
- * 開封は厳禁です。（密封タイプ）



警告

- * バッテリーを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補足

- * 出荷時は、補水不要のバッテリーです。

◆ 点検

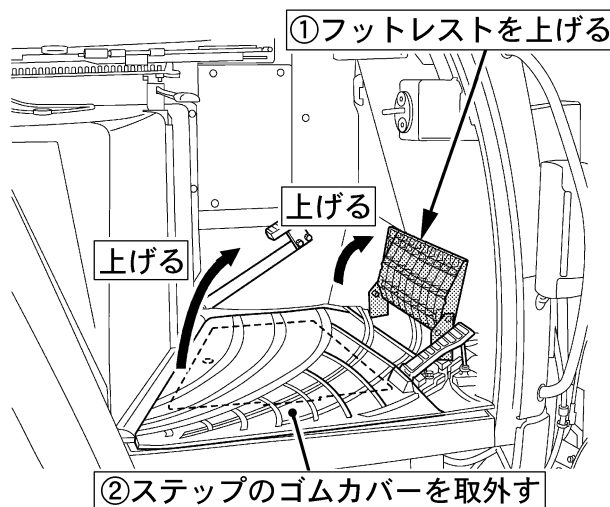


危険

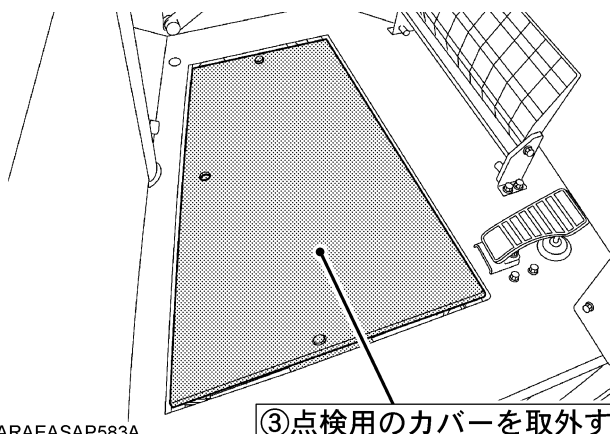
バッテリーが破損や傾いたりして、液もれが発生しているとき……

- * バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
- * バッテリーの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

1. ステップのゴムカバーの下にある、点検用のカバーを外します。



1ARAESAP124C

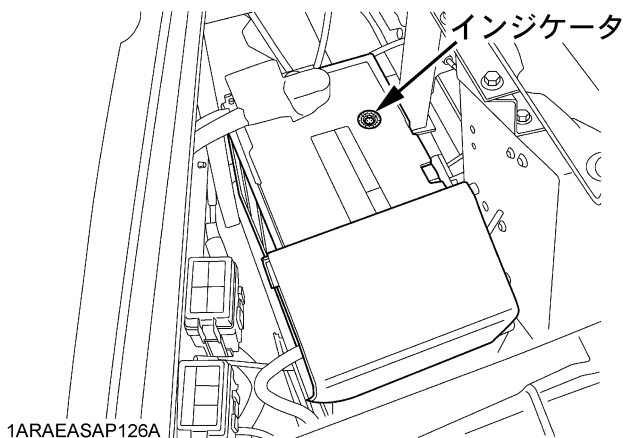
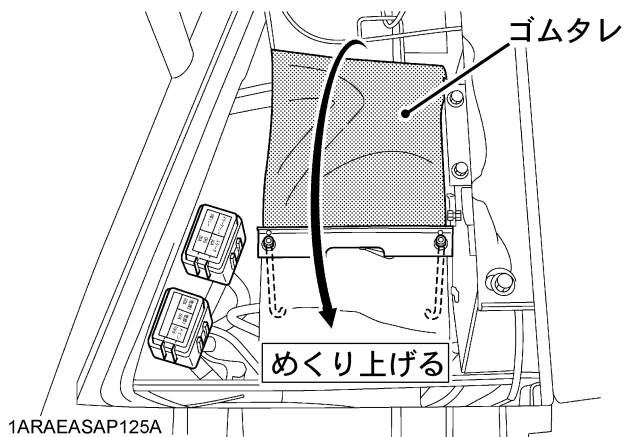


1ARAESAP583A

2. ゴムタレをめくり上げてバッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

(1) バッテリー上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し、処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補 足

* インジケータは真上から確認してください。

(2) バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

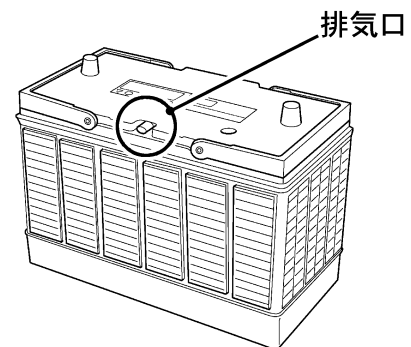
重 要

* 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

* 排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



11RAEASAP038B

(4) バッテリーケーブルの破損や(+)端子、(-)端子にゆるみや腐食がないか確認し、ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。

3. 点検用のカバーを取付けたあと、ゴムカバーを取付けます。

◆ 補充電・交換



警告

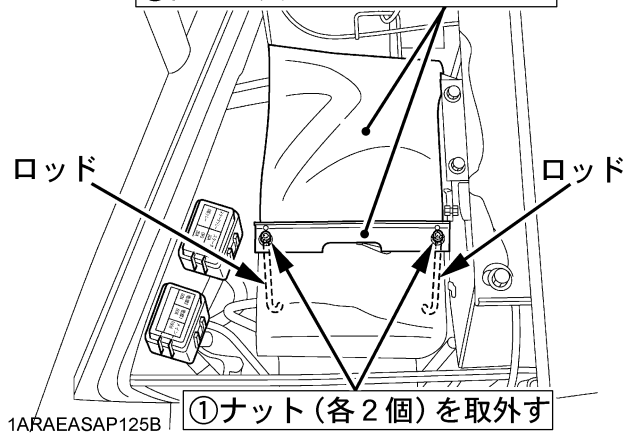
- * バッテリーは、以下の順序で取換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
 - 取外し… (－) 端子側 (アース側) から外す。
 - 取付け… (－) 端子側 (アース側) を最後に接続する。
- * バッテリーを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液 (希硫酸) のもれにより、失明やヤケドをするおそれがあります。
- * バッテリーを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
- * バッテリーの取付け方向を間違えないでください。(+) と (－) が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。
- * バッテリーを投げたり、落としたり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリーに入っている電解液 (希硫酸) により、失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また、補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が、いつもより低い。

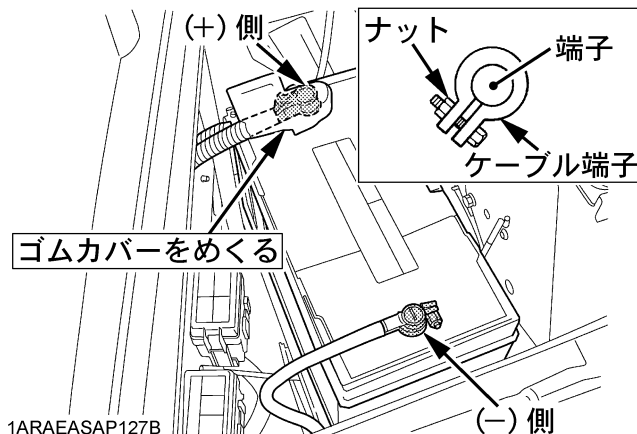
1. バッテリーを機体から取外します。
 - (1) 固定金具とゴムタレを取外します。

②固定金具とゴムタレを取外す

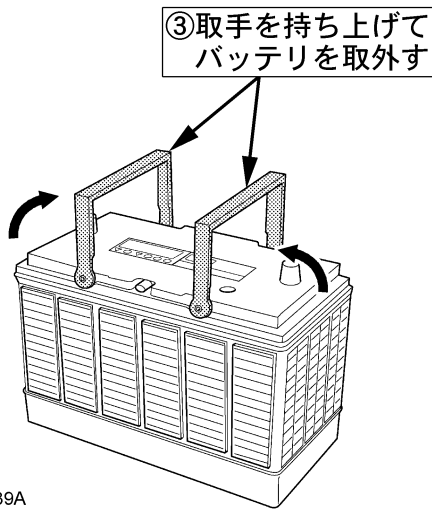


補足

- * 固定金具を取外すとき、バッテリーをバッテリー取付台に固定しているロッドも同時に取外してください。
- (2) ケーブル端子のナットをゆるめて、端子からケーブル端子を取外します。取外すときは、必ず (－) 側から取外してください。



- (3) バッテリーの両端にある取手を持上げてバッテリーを取外します。



重要

- * バッテリーを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。
- 2. 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリーの（+）を充電器の（+）側に、バッテリーの（-）を充電器の（-）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
- 3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重要

- * バッテリーを交換するとき、バッテリーは下記指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因となります。
バッテリー形式：105E41R
- * バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- * バッテリーはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。
- * 機械にバッテリーを搭載した状態で急速充電をしないでください。

補水が必要なバッテリーの場合

（補水が不要なバッテリーの説明と異なる部分の説明です。）

◆ 点検・補水

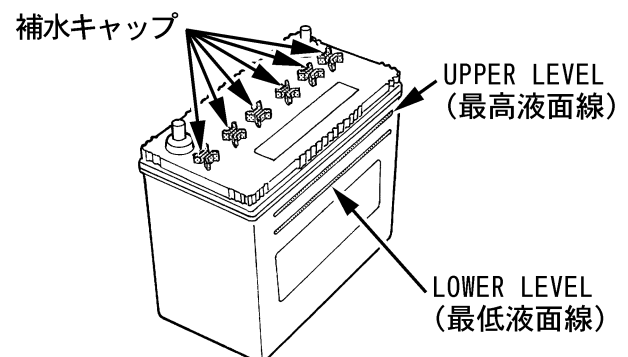


バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリーの2種類があります。補水が必要なバッテリーについては、以下の事を守ってください。

- * バッテリーは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
- * バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

1. バッテリー液の量を点検し、[UPPER LEVEL]（最高液面線）と [LOWER LEVEL]（最低液面線）の間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。



1ASADACAP478A

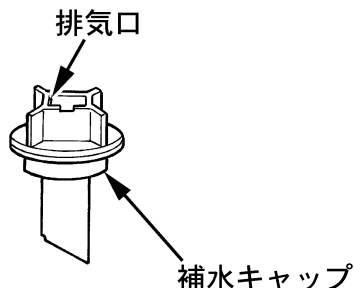
重要

- * バッテリー液が不足して極板が空气中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。
- * バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- * バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重要

- * 排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



1ASADACAP479A

◆ 補充電・交換



注意

- * **補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

1. 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
また、充電は、バッテリーの(+)を充電器の(+)側に、バッテリーの(-)を充電器の(-)側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■ 電気の各配線コード、各ヒューズの点検・交換



注意

- * **配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

◆ 各ヒューズの交換

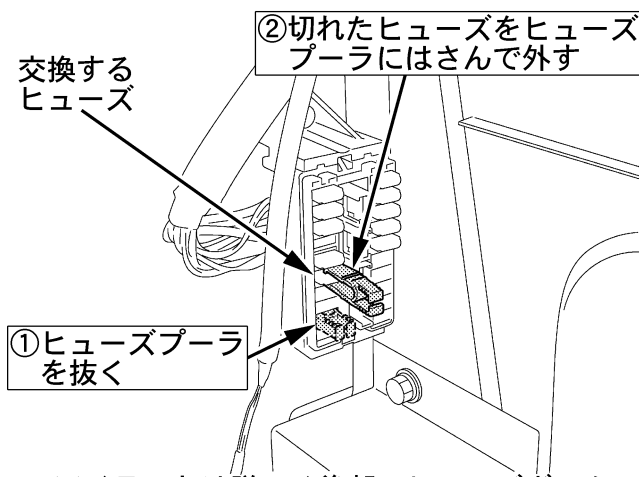
ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

重要

- * 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
- * ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先に連絡して修理を依頼してください。

補足

- * ヒューズを交換するときは、ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。

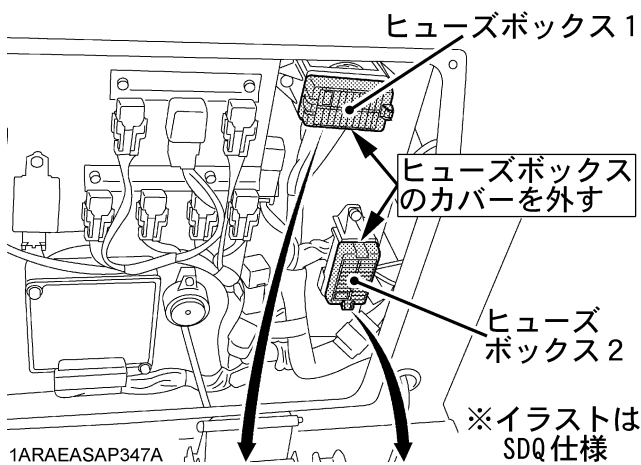
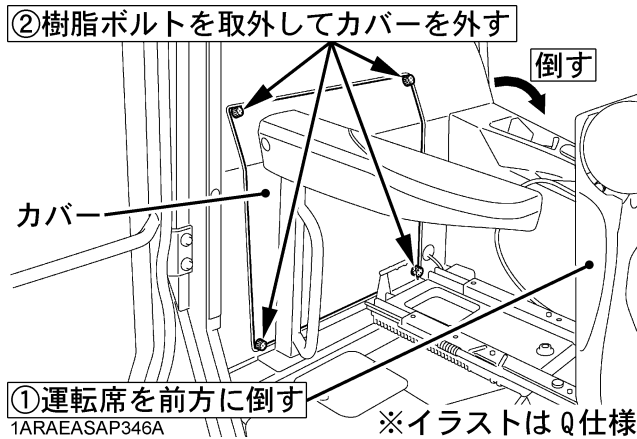


※イラストは脱こく後部のヒューズボックス
1ARAEEASAP345A

1. ヒューズボックスのカバーを外します。
2. 切れたヒューズを外します。
3. ヒューズが切れた箇所と同じ容量のヒューズと交換します。
4. ヒューズボックスのカバーを取付けます。

● 運転席後部

運転席を前方に倒したあと、樹脂ボルトを取外して運転席後部のカバーを取外してください。交換後は、運転席後部のカバーを取付けてください。



ヒューズボックス1

	回 路	容量 (A)	対象型式
A	マイコン, パネル, メータ	5	全型式
B	センサ	5	全型式
C	エンジン	10	全型式
D	オルタネータ, 燃料ポンプ	10	全型式
E	油圧バルブ	15	全型式
F	こぎ深さモータ	25	全型式
G	逆流ファンモータ	20	全型式
H	車速モータ	20	全型式
I	刈取変速モータ	20	全型式
J	モミ排出クラッチモータ	20	全型式
K	ハイサイドスイッチ	5	全型式
L	ウインカ, ブザー	10	全型式
M	脱こくクラッチモータ	25	SD仕様
N	分草かんオープンモータ	20	全型式
O	アンローダ旋回モータ	30	全型式
P	キャビン	7.5	Q仕様
Q	ワイパ, ウォッシャ	20	Q仕様
R	ブロワ	20	Q仕様
S	予備ヒューズ	7.5	全型式
T	予備ヒューズ	10	全型式
U	予備ヒューズ	20	全型式
V	予備ヒューズ	25	全型式

A		I
B	S	J
C		K
D	T	L
E		M
F	U	N
G		O
H	V	P
ヒューズ抜き		Q
		R

1ARADBAP188F

A		I
B	M	J
C		K
D	N	L
E		-
F	O	-
G		-
H	P	-
ヒューズ抜き		-
		-

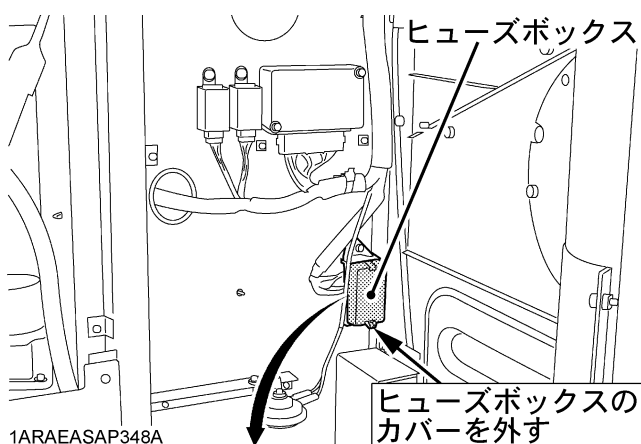
メンテナンス

ヒューズボックス 2

	回 路	容量 (A)	対象型式
A	メインスイッチ (直 B)	30	全型式
B	マイコン, メータ (直 B)	5	全型式
C	ラジオ (直 B)	5	全型式
D	本機作業灯 (直 B)	30	全型式
E	タンク作業灯	20	全型式
F	制動灯, 後退灯	10	全型式
G	前照灯	15	全型式
H	注油ポンプ	10	全型式
I	ラジオ	15	全型式
J	バックモニタ	10	全型式
K	コンデンサフィン	20	全型式
L	スイッチ (エンジン始動)	5	全型式
M	予備ヒューズ	5	全型式
N	予備ヒューズ	10	SD 仕様
O	予備ヒューズ	15	全型式
P	予備ヒューズ	30	全型式

● 脱こく後部

グレンタンクを開いてください。交換後は、グレンタンクを閉じてください。



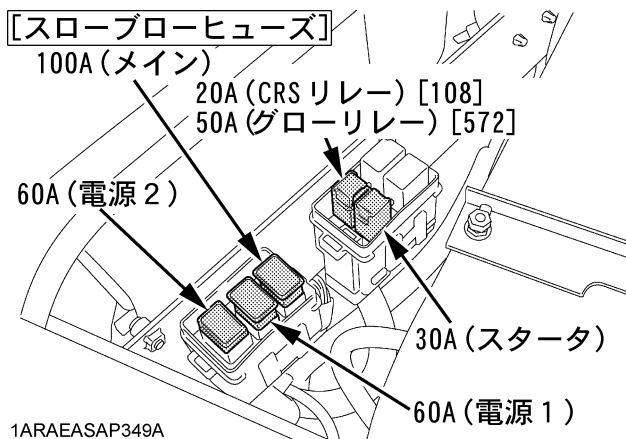
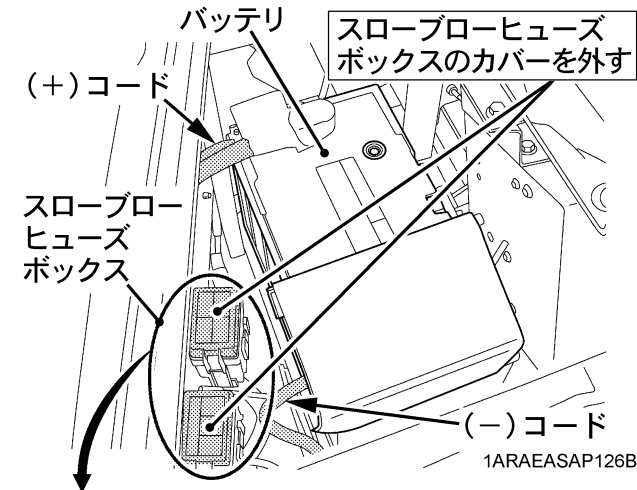
A		F
B	K	G
C		H
—	L	I
D		J
E	M	—
—		—
—	—	—
ヒューズ 抜き	—	—

1ARAEASAP576A

	回 路	容量 (A)	対象型式
A	バックブザー	5	全型式
B	チャフモータ	20	全型式
C	トウミモータ	20	全型式
D	ワラ作業切換モータ	20	全型式
E	株揃えフレームモータ	20	全型式
F	こぎ胴ピンロックモータ	20	全型式
G	こぎ胴前ロックモータ	20	全型式
H	こぎ胴後ロックモータ	20	全型式
I	排ワラレールモータ	25	全型式
J	ハイサイドスイッチ	5	全型式
K	予備ヒューズ	5	全型式
L	予備ヒューズ	20	全型式
M	予備ヒューズ	25	全型式

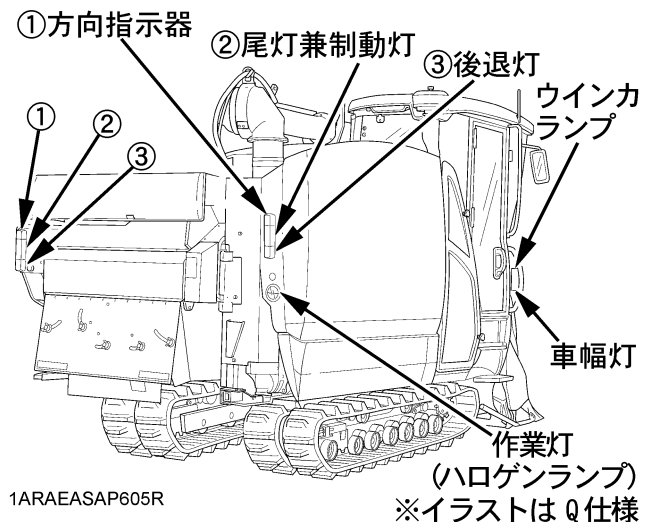
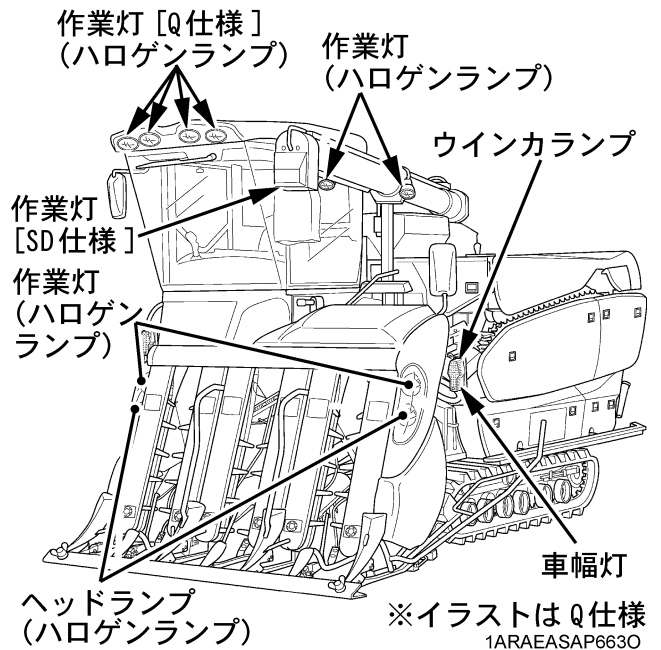
◆ スローブローヒューズ・バッテリー (+) コード ヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは新しいヒューズと交換してください。



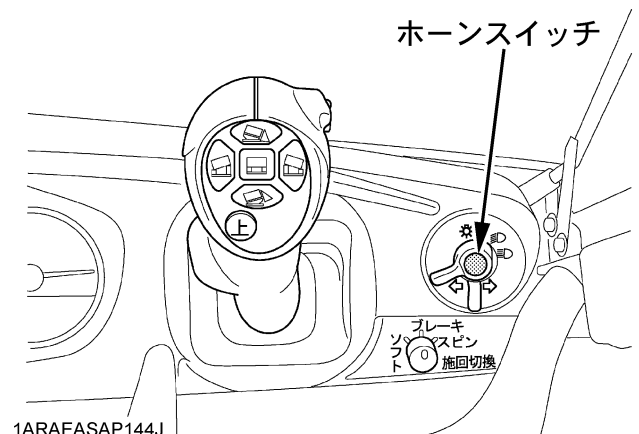
■ ランプ (電球) の点検・交換, ホーンスイッチの点検

ランプ (電球) 切れがないか点検し、切れているときは交換してください。また、ホーンスイッチを押して点検し、鳴らないときは、配線やヒューズを確認してください。



重要

* ハロゲンランプ (作業灯, ヘッドランプ) の交換をしたとき, ランプの表面に指紋などの油分が付着したときは, きれいにふきとってください。破損する原因になります。

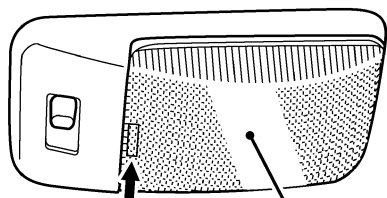


メンテナンス

● ルームランプ

[Q 仕様]

カバーを➡の凹部にマイナスドライバなどの先端部を差込み、下方向に押して取外して、電球を交換してください。



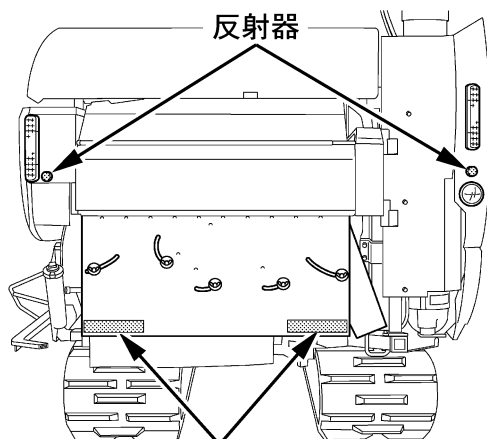
ルームランプのカバー

1ARAEASAP014B

[Q 仕様]

■反射器、反射テープの点検・交換

汚れや破損がないか点検し、掃除又は、交換を行なってください。



1ARAEASAP085A

反射テープ

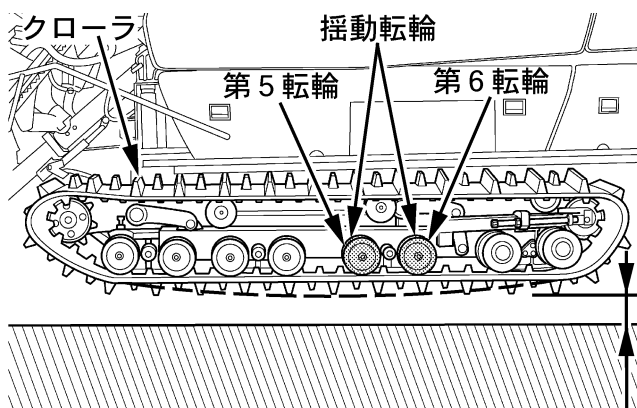
■クローラの点検・調整



注意

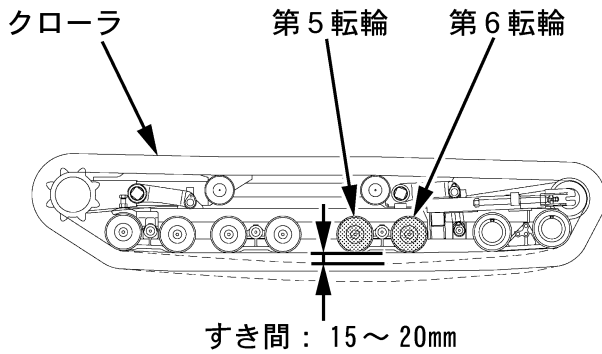
- * 点検・調整を行なうときは、エンジンを必ず止めて行なってください。
- * 平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
- * ジャッキアップを行なうときは、コンクリートなど地面の固い場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
- * ジャッキは持上荷重が2トン以上の物を使用してください。
- * 機体にセットする木材やブロックなどは、じゅうぶんな強度があるもので、セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。

地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で、機体を**最下降**位置にし、クローラ下側上面と第5・第6の揺動転輪下端のすき間を 15～20mm に調整してください。また、調整は片側ずつ行なってください。



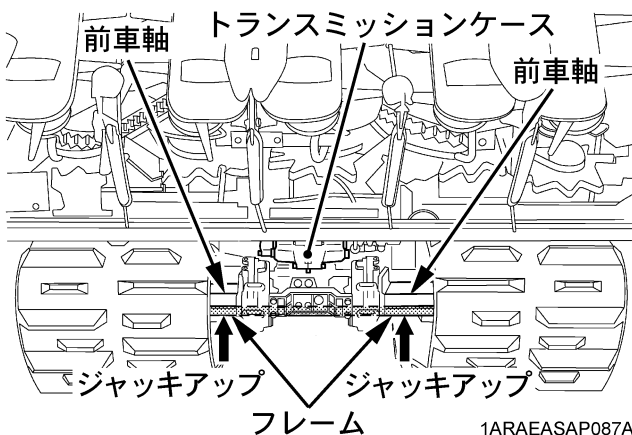
1ARAEASAP086A

約 10cm 浮かす



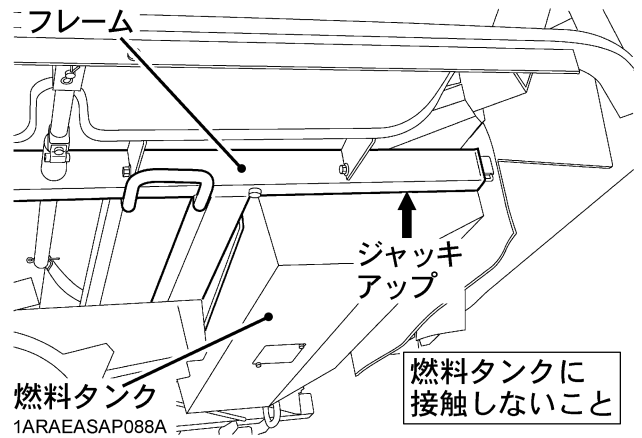
1ARAEASAP642A

- クローラを地面から 10cm 程度浮かせます。
 - エンジンを始動したあと、刈取部を**最上昇位置**にします。
 - 刈取下降ロックスイッチを**【ロック】**位置にして刈取部の下降防止を行なったあと、エンジンを停止します。
 - 水平操作手動スイッチを操作し、機体を上昇させます。
 - 前部はトランスミッションケース部の前車軸後方にあるフレームに木材やブロックをセットします。

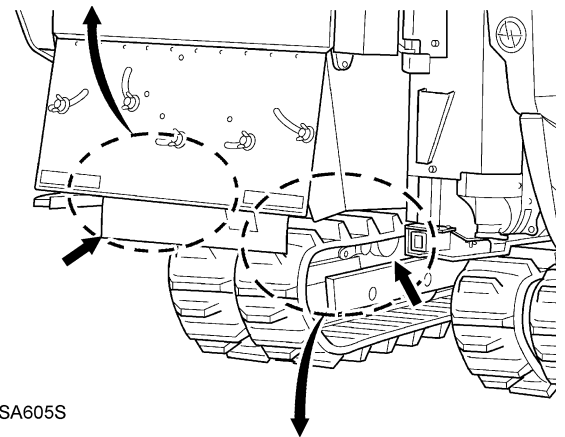


1ARAEASAP087A

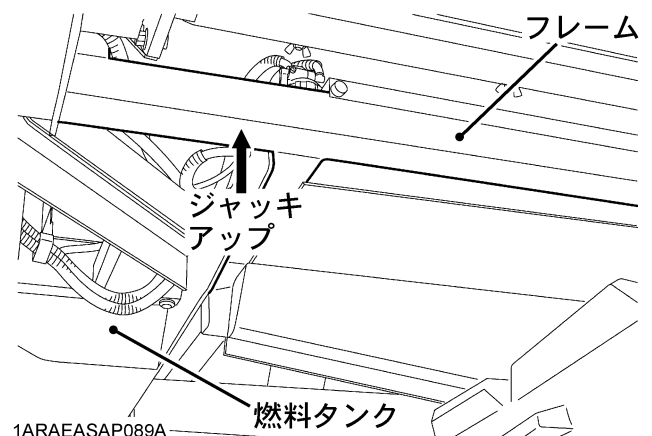
- 後部は機体フレームの下図位置に調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。



1ARAEASAP088A



1ARAEASA605S



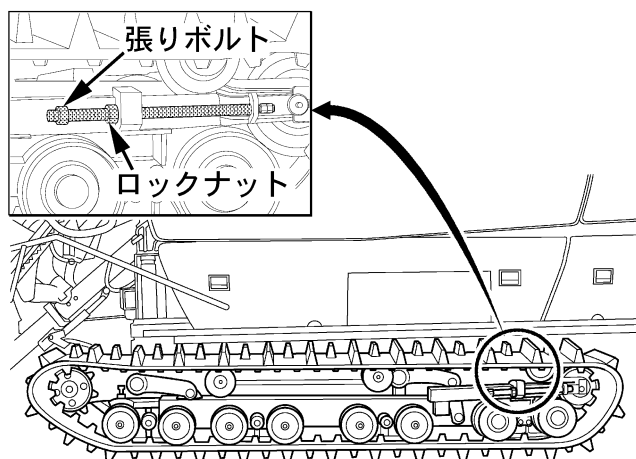
1ARAEASAP089A

メンテナンス

- (6) エンジンを始動したあと、水平操作手動スイッチを操作し、機体を**最下降位置**にします。
- (7) エンジンを停止します。

重要

- * 燃料タンクにジャッキを当てないでください。破損し燃料漏れを起こすおそれがあります。
 - * ジャッキアップを行なうときは、前車軸にジャッキをセットしないでください。前車軸が変形するおそれがあります。
2. クローラ後部にある張りボルトのロックナットをゆるめます。
 3. 張りボルトでクローラを張りながら、すき間の調整を行ないます。



1ARAEASAP086B

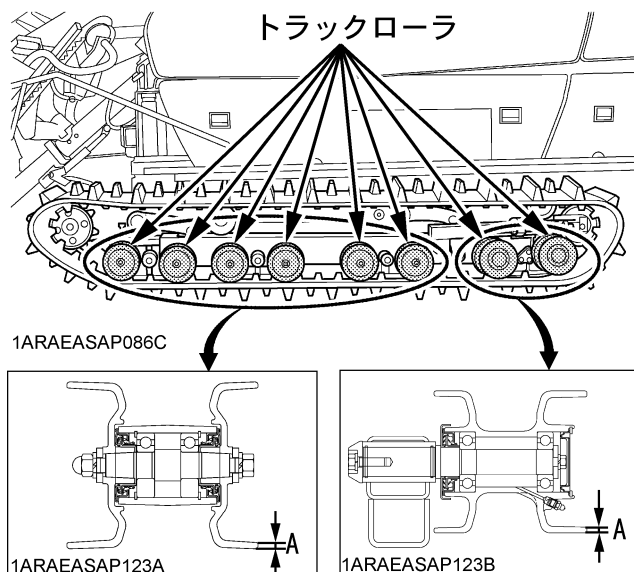
4. 左、右両方共に行ない調整後は、回り止めのロックナットを締付けます。
5. ジャッキ及びブロックや木材を取外します。

重要

- * クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
- * クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20 時間目に点検してください。
- * クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため、下記事項を守ってください。
 - 日光や雨による劣化防止のため、屋外に長期保管しないでください。
 - オイルや燃料、農薬、肥料など油脂類の付着による劣化防止のため、クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■トラックローラ（転輪）の点検

トラックローラの下図A寸法が、2 mm 以下になったとき又は、使用時間が 800 時間経過したときの早いほうで交換してください。



※イラストは左側

補足

- * 交換を行なうときは、購入先に連絡してください。

■ドライブローラの点検・左右入換え・交換

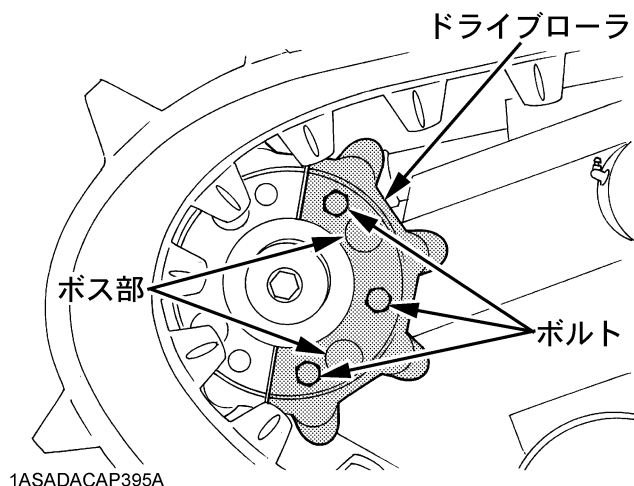
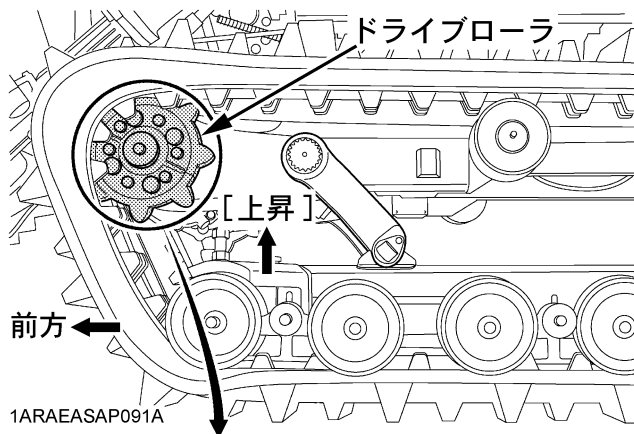


注 意

*** 点検・交換を行なうときには、平たんな場所でエンジンを必ず止めて行なってください。**

◆ 点検

1. エンジンを始動したあと、自動車体水平制御装置の機体昇降手動スイッチの【上】を押して操作して機体を**最上昇**位置にします。
2. 刈取部を上げ、2分割式ドライブローラの位置が下図の位置になるように機体を前進させます。



3. 刈取部を降してエンジンを停止します。
4. ドライブローラを取付けているボルトを確認し、ゆるみや脱落が発生しているときは、購入先に連絡してください。

◆ 左右入換え

1. ◆点検の手順 1. ～ 3. を行ないます。
2. クローラに接触していない側のドライブローラのボルト3本を外して、ドライブローラを外します。
3. 同じ要領で反対側（右側又は、左側）のドライブローラを取外します。
4. ボス部側面に泥など異物が付着しているときは、異物を取除きます。
5. 左右のドライブローラを入換えたあと、ボルト3本でドライブローラをそれぞれ取付けます。

重 要

- * ボルトにはネジロック（スリーボンド #1234B 又は、1305）を塗布し、締付トルクは 1400kgf・cm のトルクレンチで締付けてください。また、1400kgf・cm を締付けるトルクレンチがないときの交換は、購入先又は、整備工場で行なってください。
 - * ドライブローラの左側と右側を同時に交換してください。締付けトルクが不足（締付不足）すると、ボルトやドライブローラの脱落の原因となります。
6. エンジンを再始動し、2分割式ドライブローラのもう一方の入換えを行なうため◆点検の手順 1. ～ 3. を行ないます。
 7. 上記手順の 2. ～ 5. の要領で左右のドライブローラの入換えを行ないます。

◆ 交換

左右入換えと同じ要領で新しいドライブローラと交換してください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日又は、翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後



注 意

- * 機体に本機カバーをかけるときは、エンジン・マフラーが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと、必要なときは各部に注油を行ないます。(178 ページ参照)
3. アンローダを収納します。
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. キャビン仕様はバックミラーを収納し、ドアをロックしたあとキーを抜取ります。
7. 本機カバーを掛けます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを、完全に取除いてください。

重 要

- * 機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。
- * 作業シーズン終了後及び長期格納する前には、メンテナンスの【給・注油（水）一覧表】を参照して、各部の給・注油（水）を行なってください。

補 足

- * 各部にもみやわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、故障の原因となるのできれいに取除いてください。
- * 各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には、さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
- * 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って、さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため、排水又は、不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。(214 ページ参照)
2. ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって、ラジエータ及びリザーブタンクには、不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(214 ページ参照)

重 要

- * 冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下）、よく水と混ぜ合せてからお使いください。(ラジエータ容量……7.9L【572・587・698】、8.5L【108】)
- * 不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- * 不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- * クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。

◆ バッテリー



危険

- * 保管や持運びの際にバッテリーに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。



注意

- * バッテリーを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチを【切】にしてください。

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリーを機体から取外してください。また、以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し、必要に応じて充電を行ってください。（バッテリー液補水タイプは、補水してから充電を行ってください。）
- バッテリーは保管中でも自己放電するので夏は1カ月、冬は2カ月に1回それぞれ点検し、必要に応じて充電を行ってください。
- 次のような場所に保管してください。
 - (1) 直射日光が当たらない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
 - (2) 雨露が少なく、水没のおそれがない場所
 - (3) バッテリーの有害なガスや液、粉じんの発生が起らない場所

機体に取り付けている場合は、（－）側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

重要

- * サイドシュートやリヤシュートをロープで押えないでください。変形するおそれがあります。
- * 刈取部を地面に降ろしたとき、刈取部の下に物が置かれているとトラブルの原因となります。

点検・整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて、下記事項を行ってください。

- デバイダカバーを取付けたあと、分草かんを収納します。
- アンローダ受けを下げて収納します。
- アクセルダイヤルをいっぱい戻して（位置）止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは【切】位置にします。
- 車体水平制御は、機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのキーは、必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

コンバインの不調と処置



警告

* 引起し部、運転操作部、グレンタンク、こぎ胴などの各部を開いて作業を行なうときは、下記事項を遵守してください。

- 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
- 傾斜地では、各部の開閉は行なわないでください。
- 引起し部、グレンタンクを開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- 各部を開いた状態で走行をしないでください。
- 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

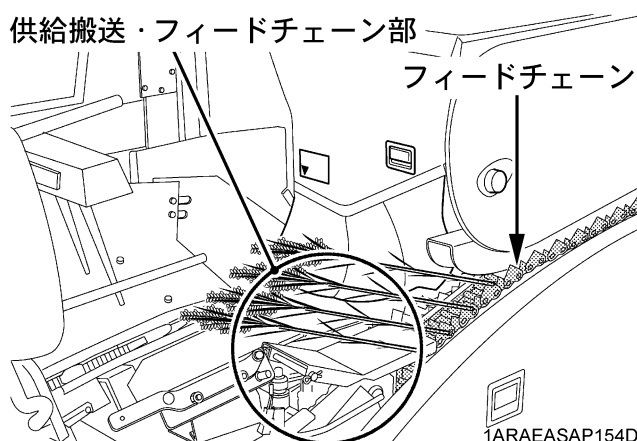
* 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

わらが詰まる

■ 自動エンジン停止装置がはたらいたとき

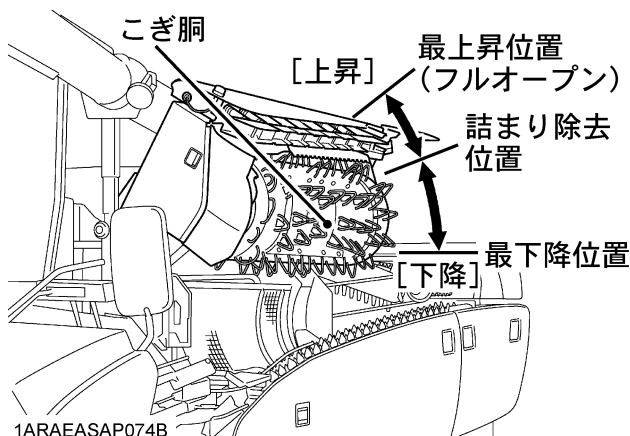
◆ 供給搬送・フィードチェーン部

自動エンジン停止装置がはたらき、液晶ディスプレイに【刈取】↔【詰まりを取り除く】と表示し、警報ブザーが鳴ったときには、掃除してください。



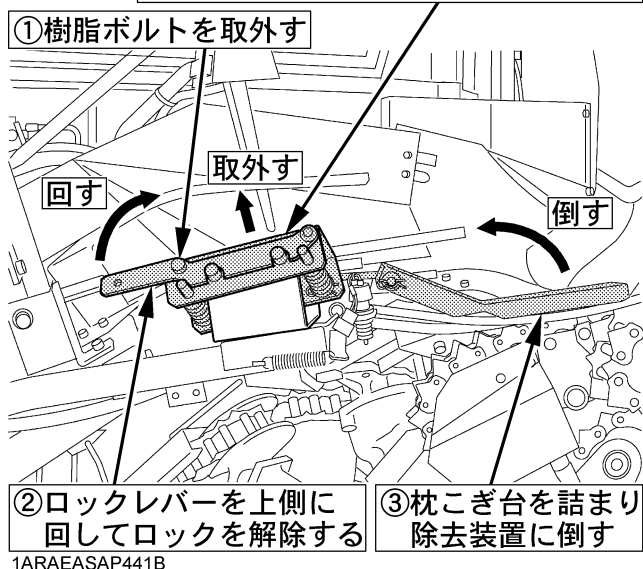
供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは、わら詰まり除去装置を取外して、わらを取除いてください。

1. こぎ胴を**詰まり解除**位置又は、**最上昇**位置まで開いたあと、エンジンを停止します。



2. 枕こぎ台とアッシ状態となっているわら詰まり除去装置を取外します。

④枕こぎ台とアッシ状態となっているわら詰まり除去装置を取外す



3. わらを取除きます。
4. わら詰まり除去装置を取付けます。
5. エンジンを始動したあと、こぎ胴を閉じます。

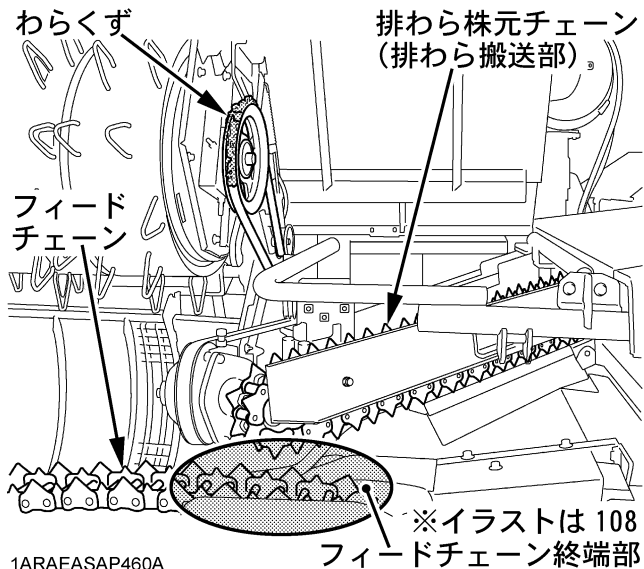
補足

* 必要に応じて刈取搬送部を開いてわらを取除いてください。(146 ページ参照)

◆ フィードチェーン終端部・排わら搬送部

自動エンジン停止装置がはたらき、液晶ディスプレイに**【排ワラ】**↔**【詰まりを取り除く】**と表示し、ブザーが鳴ったときには、掃除してください。

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にしたあと、エンジンを始動します。
2. こぎ胴を**詰まり除去**位置又は、**最上昇**位置まで開いたあと、エンジンを停止します。
3. わらを取除きます。

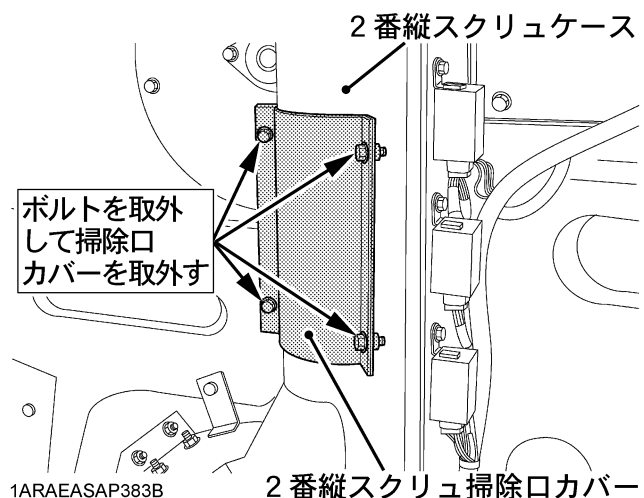


4. エンジンを始動したあと、こぎ胴を閉じます。

◆ 2 番縦スクリュ掃除口

液晶ディスプレイに**【2 番】**↔**【詰まりを取り除く】**と表示し、ブザーが鳴ったときには、掃除してください。

1. グレンタンクを開きます。
2. 2 番縦スクリュの掃除口カバーを外します。

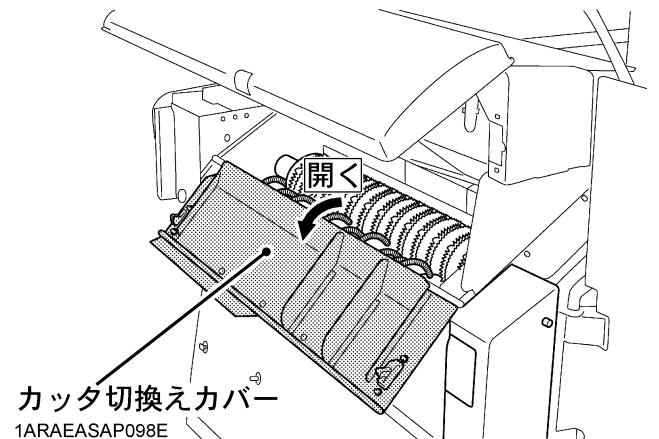
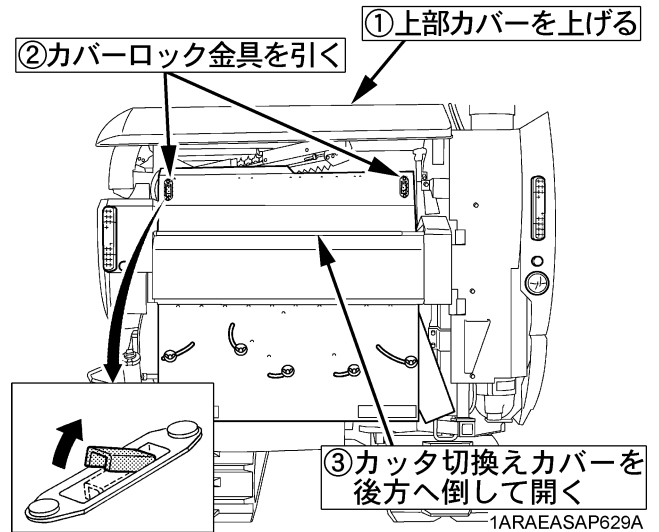


3. 2 番縦スクリュ掃除口内のわらくずを取除きます。
4. 2 番縦スクリュの掃除口カバーを取付たあと、グレンタンクを閉じます。

◆ カッタ部・排わらチェーン部

自動エンジン停止装置がはたらき、液晶ディスプレイに**【カッタ】**↔**【詰まりを取り除く】**と表示し、ブザーが鳴ったときには掃除してください。

1. カッタ切換えカバーを開きます。
2. 上部カバーを上げます。
3. カバーロック金具を引き、カッタ切換えカバーを後方へ倒します。



補 足

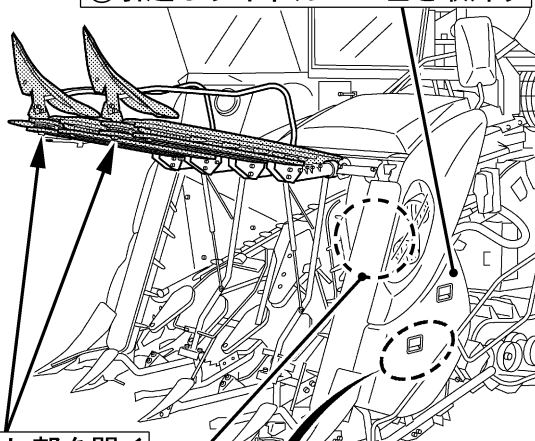
- * 必要に応じて、このあとカッタを開いて掃除を行ってください。
 - * カッタ切換えカバーを開けたままでは、エンジンを始動しても脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく【入】**位置にするとエンジンが止まります。
4. カバーをロック金具を引きながらカッタ切換えカバーを閉め、カバーロック金具を確実にロックします。

コンバインの不調と処置

■わら詰まりの取除きかた（左，右株元チェーン合流部）

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー左を取外したあと，引起し部を開きます。
3. 左株元チェーンのテンションをゆるめます。

①引起しサイドカバー左を取外す



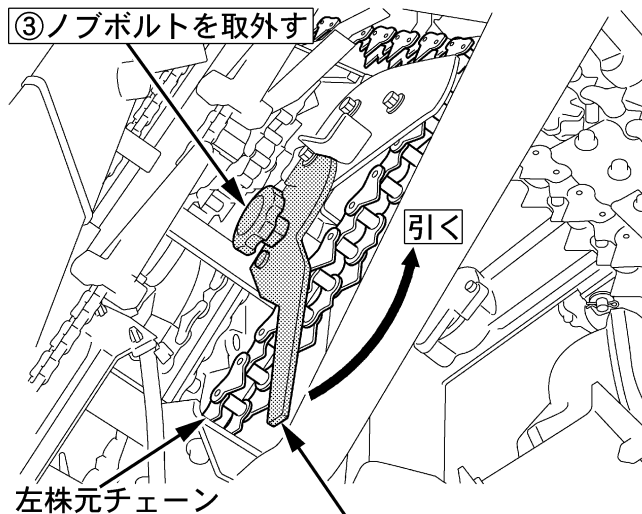
②引起し部を開く

1ARAEASAP405C

合流部

※イラストは 108

③ノブボルトを取外す



左株元チェーン

④テンション解除レバーを引いて 左株元チェーンのテンションを解除する

1ARAEASAP421B

4. わらを取除きます。
5. テンション解除レバーを引いて，左株元チェーンのテンションを張ったあと，ノブボルトを取付けます。
6. 引起し部を閉じたあと，引起しサイドカバー左を取付けます。

■シャーピンが破損したとき

引起しチェーン，供給サポートチェーンが動かなくなり，わらが刈取部前面に滞留したり，供給搬送部にわら詰まりが発生したときは，各引起しチェーン，供給サポートチェーンの駆動軸に差し込まれているシャーピンを確認し，折損しているときは購入先に連絡して交換してください。

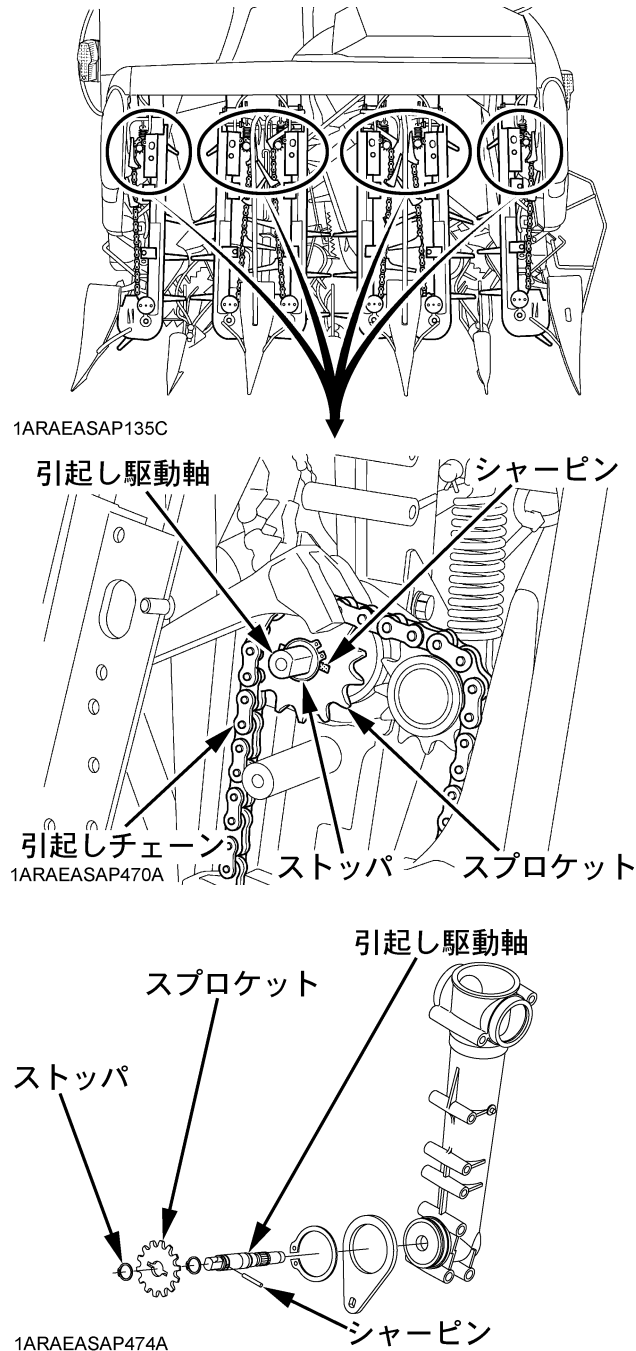
補 足

- * シャーピンは予備部品で運転席（シート）裏側の収納ボックス内に 3 個入っています。
- * 予備のシャーピン（品番：5H803-4695-0）がなくなったときは補充しておいてください。
- * 引起しチェーン用のシャーピンと供給サポートチェーン用のシャーピンは同じ部品です。

◆ 引きしチェーン駆動軸のシャープピン

刈取部前面にわらが滞留したときは、刈取作業をいったん中止し、シャープピンの確認を行なってください。

1. 平たんな場所に移動したあと、刈取部を地面に着くまで降ろしてエンジンを停止します。
2. 動いていない引きしチェーンの引きしカバーを外します。
3. シャープピンを確認します。

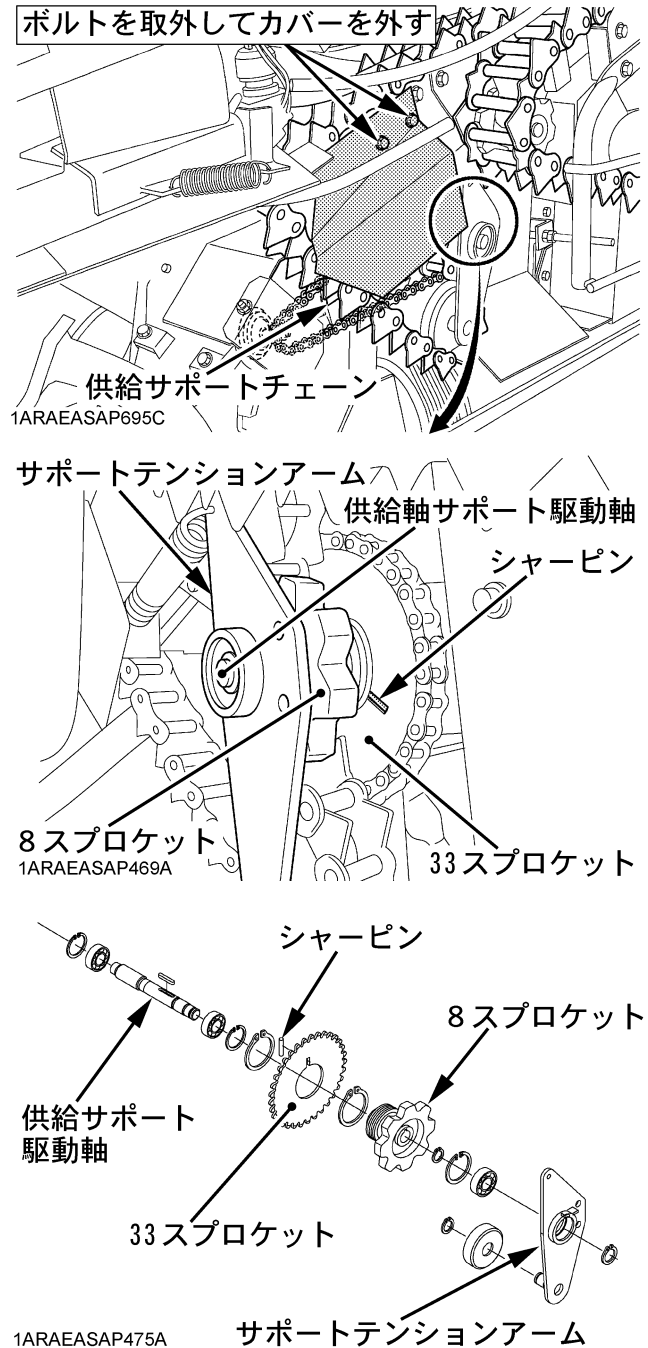


4. 引きしカバーを取付けます。

◆ 供給サポートチェーン駆動軸のシャープピン

供給搬送部にわらが滞留し、詰まりが発生したときは、刈取作業をいったん中止し、わらを取除いたあとシャープピンの確認を行なってください。

1. エンジンを停止したあと、わらを取除きます。
2. 左サイドカバー上1を取外したあと、供給サポートチェーンのカバーを取外します。
3. シャープピンを確認します。



4. 供給サポートチェーンのカバーを取付けたあと、左サイドカバー上1を取付けます。

コンバインの不調と処置

もみが詰まる

■アンローダからもみが排出されないとき

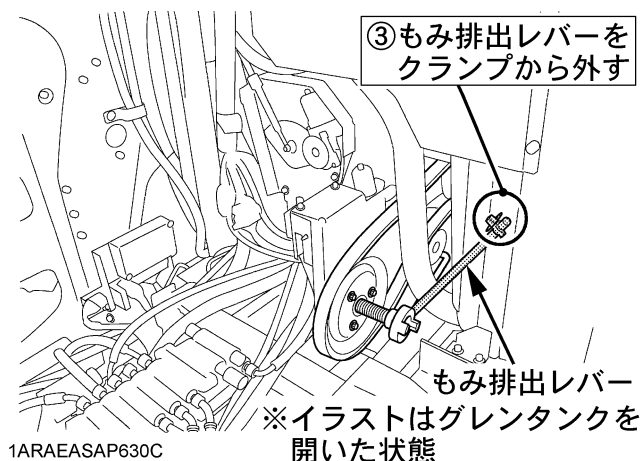
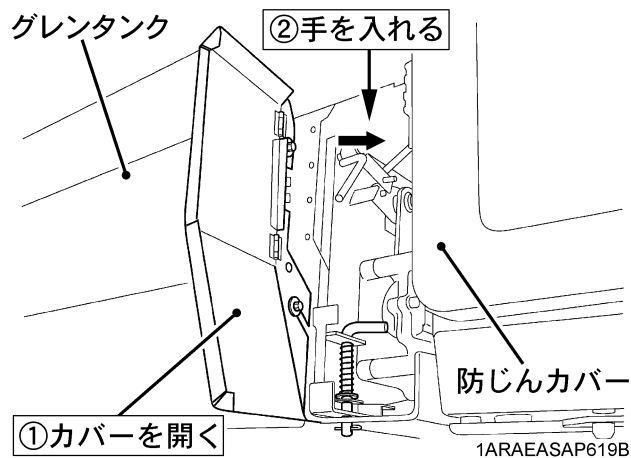


注 意

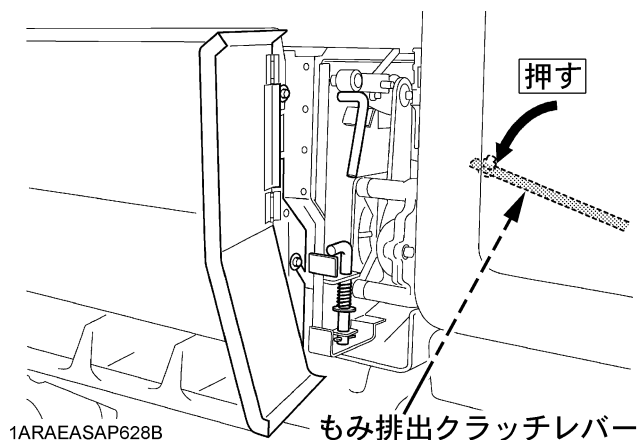
*** もみ排出レバーを操作してもみを排出するときは、近くの回転物にじゅうぶん注意してください。**

下記事項を点検し、エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは、アンローダの各掃除口を点検（173 ページ参照）し、異物を取除きます。
2. もみ排出スイッチを押しても、もみを排出しないときは、もみ排出レバーを押して排出します。
 - (1) エンジンを停止します。
 - (2) グレンタンクと防じんカバーのすき間から手を入れて、もみ排出レバーをクランプから取外します。



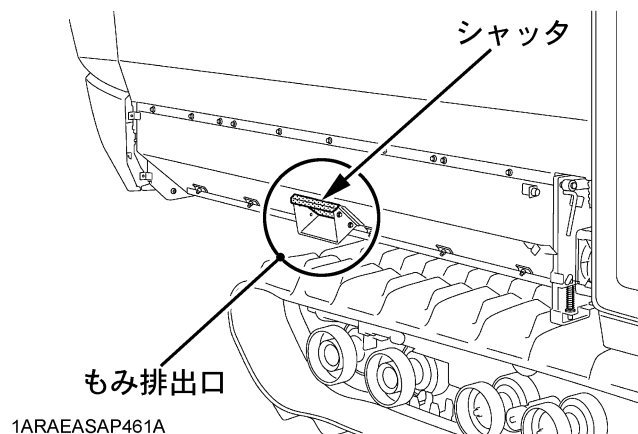
- (3) エンジンを始動したあと、エンジンの回転数を調整します。
- (4) もみ排出レバーを押してもみを排出します。



- (5) もみの排出が終わったあと、もみ排出レバーをクランプに収納します。
- (6) ヒューズや配線を点検し、もみ排出スイッチがはたらかない原因を処置します。

補 足

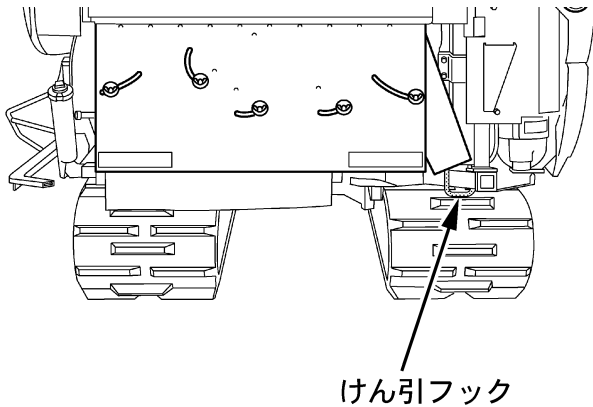
- * 処置しても直らないときは、購入先に連絡してください。
- * グレンタンク下部にあるもみ排出口のシャッターを引いてももみの排出が行なえます。シャッターを開くときは、グレンタンク下カバーを取外してください。（167 ページ参照）



その他

■けん引フックについて

コンバインが自力で動けずけん引作業を必要とする場合は、機体の右側後方のけん引フックを使用してください。このとき、後方右側以外のロープ掛けフックは、けん引作業に使用しないでください。



1ARAEASAP621C

重 要

- * このコンバインを使って、けん引作業はしないでください。故障の原因になります。

付表

主要諸元

農 機 型 式 名			クボタ R0706			
商 品 名			ER572			
区 分			HDMW〈W2〉〈W3〉	HDMQW〈W2〉〈W3〉	SD4MW〈W2〉〈W3〉	SD4MSQW〈W2〉〈W3〉
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4850				
	全 幅 (mm)	2145				
	全 高 (mm)	2660	2715	2660	2715	
機 体 質 量 (kg)			3930〈3950〉〈3980〉	4030〈4050〉〈4080〉	3960〈3980〉〈4010〉	4060〈4080〉〈4110〉
エ ン ジ ン	型 式 名		V3600ME-TE3-C			
	種 類		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼルトーボ [渦流室]			
	総 排 気 量 (L{cc})		3.620 {3620}			
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)		52.9 {72.0} / 2600			
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油			
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		100			
	始 動 方 式		セルモータ式			
	バ ッ テ リ (V・Ah)		12・83 [105E41R]			
走 行 部	ク ロ ー ラ	中 心 距 離 (mm)	1205 〈1155〉〈1205〉			
		幅 × 接 地 長 (mm)	450×1870 〈500×1870〉 〈550×1870〉			
		平 均 接 地 圧 (kPa{kgf/cm ² })	22.9 {0.23} 〈20.7 {0.21}〉 〈19.0 {0.19}〉	23.5 {0.24} 〈21.2 {0.22}〉 〈19.5 {0.20}〉	23.1 {0.24} 〈20.7 {0.21}〉 〈19.0 {0.19}〉	23.6 {0.24} 〈21.4 {0.22}〉 〈19.6 {0.20}〉
	最 低 地 上 高 (mm)		225～385			
変 速 方 式		油圧モータ式 [HST]				
変 速 段 数		前進無段・後進無段 [副変速 [油圧2段, ギヤ2段]]				
部	走 行 速 度 (m/s) (エンジン定格回転速度時)	前 進	あぜ越え：0～0.84			
		後 進	〔副変速レバー・副変速スイッチ併用〕 作業：0～1.60 高速：0～2.61			
旋 回 方 式		e-VCCT (ブレーキ・スピン・ソフトターン)				
刈 取 部	刈 取 り 条 数 (条)		5			
	刈幅[デバイダ先端間隔] (mm)		1720～1770			
	刈 取 装 置 形 式		シングルアクション [左右2分割対向]			
部	刃 幅 (mm)		1690			
	変 速 段 数 (段)		車速同調2段 [独立HST]+引起し2段			
	刈 高 さ 範 囲 (mm)		35～150			
	こ ぎ 深 さ 調 節 方 式		電動モータ式			
脱 こ ぐ 部	脱 こ ぐ 方 式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こ ぎ 胴	径×幅 (mm)	424×1130			
こ 処 理 胴		回転速度 (rpm)	505			
	こ 2 番 処 理 胴	径×幅 (mm)	140×800 [ハネ式拡散胴]			
部		回転速度 (rpm)	613			
	こ 2 番 還 元 方 式	径×幅 (mm)	240×100 [ツースバー]			
部		回転速度 (rpm)	1240			
	こ 揺 動 板	幅×長さ (mm)	800×1760			
部		選 別 方 式	揺動・圧風・全幅吸引			

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R0706			
商 品 名			ER572			
区 分			HDMW〈W2〉《W3》	HDMQW〈W2〉《W3》	SD4MW〈W2〉《W3》	SD4MSQW〈W2〉《W3》
こ く 粒 処 理 部	処 理 方 式		グレンタンク式			
	排 出 方 式		スクリュコンベア式			
	タ ン ク 容 量(L{袋})		1950 {約39袋} [1袋約50 L]			
	ア	長 さ(mm)	4600			
	ン	旋回範囲(度)・旋回方式	365 [右, 左] ・ 電動モータ			
	ロ	昇降範囲(度)・昇降方式	0 [水平] ～45・油圧式			
	ー	排出高さ[作業時](mm)	2105～5400			
	ダ	排出長さ[作業時](mm)	3140～4330			
わ ら 処 理 部	工 場 出 荷 仕 様		●カッタ 又は, ●カッタ+標準結束機 カッタ切断長さ: 56/168mm切換え式 [切断刃: セラミック切断刃] ●シュータ式拡散装置			
	オ プ シ ョ ン		●カッタ後部標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロップ [電動] ●スクリュ式拡散装置			
諸 <						

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

付表

農 機 型 式 名			クボタ R0705			
商 品 名			ER587			
区 分			HDMW〈W2〉	HDMQW〈W2〉	SD4MW〈W2〉	SD4MSQW〈W2〉
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4850				
	全 幅 (mm)	2145				
	全 高 (mm)	2660	2715	2660	2715	
機 体 質 量 (kg)			3940〈3990〉	4040〈4090〉	3970〈4020〉	4070〈4120〉
エ ン ジ ン	型 式 名		V3300DIME-TE2-C			
	種 類		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼルトーボ [直噴]			
	総 排 気 量 (L{cc})		3.318 {3318}			
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)		64.0 {87.0} / 2600			
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油			
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		100			
	始 動 方 式		セルモータ式			
	バ ッ テ リ (V・Ah)		12・83 [105E41R]			
走 行 部	ク ロ ー ラ	中 心 距 離 (mm)	1155 〈1205〉			
		幅 × 接 地 長 (mm)	500×1870 〈550×1870〉			
		平 均 接 地 圧 (kPa{kgf/cm ² })	20.6 {0.21} 〈19.0 {0.19}〉	21.2 {0.22} 〈19.5 {0.20}〉	20.8 {0.21} 〈19.2 {0.20}〉	21.3 {0.22} 〈19.6 {0.20}〉
	最 低 地 上 高 (mm)		225～385			
	変 速 方 式		油圧モータ式 [HST]			
	変 速 段 数		前進無段・後進無段 [副変速 [油圧2段, ギヤ2段]]			
	走 行 速 度 (m/s) (エンジン定格回転速度時)	前 進	あぜ越え：0～0.93 〔副変速レバー・副変速スイッチ併用〕 作業：0～1.80 高速：0～2.95			
		後 進				
旋 回 方 式		e-VCCT (ブレーキ・スピン・ソフトターン)				
刈 取 部	刈 取 り 条 数 (条)		5			
	刈幅[デバイダ先端間隔] (mm)		1720～1770			
	刈 取 装 置 形 式		シングルアクション [左右2分割対向]			
	刃 幅 (mm)		1690			
	変 速 段 数 (段)		車速同調2段 [独立HST]+引起し2段			
こ ぎ 深 さ 調 節 方 式	刈 高 さ 範 囲 (mm)		35～150			
	電動モータ式					
脱 こ ぐ 方 式	脱 こ ぐ 方 式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こ ぎ 胴	径×幅 (mm)	424×1130			
		回転速度 (rpm)	505			
こ 処 理 胴	こ 処 理 胴	径×幅 (mm)	140×800 [ハネ式拡散胴]			
		回転速度 (rpm)	613			
2 番 処 理 胴	2 番 処 理 胴	径×幅 (mm)	240×100 [ツースパー]			
		回転速度 (rpm)	1240			
2 番 還 元 方 式	2 番 還 元 方 式		スクリュ式			
	揺 動 板	幅×長さ (mm)	800×1760			
		選 別 方 式	揺動・圧風・全幅吸引			

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R0705			
商 品 名			ER587			
区 分			HDMW〈W2〉	HDMQW〈W2〉	SD4MW〈W2〉	SD4MSQW〈W2〉
こ く 粒 処 理 部	処 理 方 式		グレンタンク式			
	排 出 方 式		スクリュコンベア式			
	タ ン ク 容 量(L{袋})		1950 {約39袋} [1袋約50 L]			
	ア	長 さ(mm)	4600			
	旋回範囲(度)・旋回方式		365 [右, 左] ・ 電動モータ			
	昇降範囲(度)・昇降方式		0 [水平] ～45・油圧式			
	排出高さ[作業時](mm)		2105～5400			
	排出長さ[作業時](mm)		3140～4330			
わ ら 処 理 部	工 場 出 荷 仕 様		●カッタ 又は, ●カッタ+標準結束機 カッタ切断長さ: 56/168mm切換え式 [切断刃: セラミック切断刃] ●シュータ式拡散装置			
	オ プ シ ョ ン		●カッタ後部標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロップ [電動] ●スクリュ式拡散装置			
諸 装 置	安 全 装 置	エンジン始動時安全装置	エンジン始動防止カプラ, 駐車ブレーキ, 主変速レバー, 脱こくクラッチ, 刈取クラッチ, もみ排出クラッチ, 刈取変速切換えクラッチ, カッタ切換えカバー			
		エンジン自動停止装置	刈取詰まり, フィードチェーン詰まり, 排わら詰まり, 結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ/ビル巻付き 【結束機付き仕様】			
		そ の 他 の 安 全 装 置	刈取部下降ロック, 枕こぎ台, エンジン停止装置 【手こぎ作業非常緊急停止装置】			
	警 報 装 置		燃料, 充電, 油圧, 水温 [オーバーヒート], もみ満杯, 負荷, 刈取詰まり, 2番詰まり, シーブ, 排わら詰まり, カッタ詰まり, 結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ/ビル巻付き 【結束機付き仕様】			
	自 動 化 装 置		自動アクセル制御, 自動車速制御, 自動刈高さ制御 [上昇自動, 昇降自動 【SD仕様】], 自動こぎ深さ制御, 刈取オートクラッチ, 自動脱こく制御, 自動車体水平制御装置 [左右 【HD仕様】 , 4PC・ST 【SD仕様】], アンローダ自動旋回制御, 自動エンジン停止装置, エンジン正逆流ファン制御 [ラジエータ目詰まり防止装置]			
	オ ー プ ン 装 置		刈刃オープン, 引起しオープン, 刈取オープン, こぎ深さチェーンレールオープン, 刈取搬送オープン, 供給チェーンレールオープン, 防じんカバーオープン, キャビンオープン 【Q仕様】 , 運転席オープン 【Q仕様除く】 , こぎ胴パワーオープン, グレンタンクオープン, 排わらチェーンオープン, カッタオープン			
	そ の 他 の 装 置	運 転 操 作 部	ファインビューメータ, アクセルダイヤル, 副変速切換えスイッチ, ワンタッチ設定スイッチ, 旋回モード切換えダイヤル, 旋回力アップトリガ, 刈取変速切換えスイッチ, ポジピタスイッチ, 刈取かき込みペダル, 左分草かん開閉スイッチ 【SD仕様】 , 脱こく・刈取クラッチレバー [パワークラッチ], こぎ胴開閉スイッチ, もみ排出スイッチ [パワークラッチ]・[マルチアンローダリモコン, 無線アンローダリモコン 【SD仕様】], わら処理切換えスイッチ, 集中注油装置			
			プレクリーナ, 揺動転輪, 2分割式スプロケット			
			供給サポートチェーン, 刈取防じんカバー 【Q仕様除くSD仕様】			
			もみこぼれ防止ガード, バイプロシャッタ			
			内外気切換え式エアコン, アームレスト付きシート, バックモニタ 【SDSQ仕様】 , CDプレーヤ付きラジオ			
			スイスイデバイダ, 自動方向制御 【SD仕様】 , 刈取スタンド, 刈取防じんカバー 【Q仕様除くHD仕様】 , 種子用交換部品, 後部確認ミラー, キャノピ 【Q仕様除く】 , 無線アンローダリモコン 【HD仕様】			
適応作物範囲 [全長] (mm)			550～1300 [H仕様: 500～1200]			
倒 伏 適 応 性 (度)			追刈り: 85以下・向刈り: 70以下			
作業能率 [計算値] (a/hr{分/10a})			79～13 {8～46}			

※この主要諸元は, 改良のため予告なく変更することがあります。

付表

農 機 型 式 名	クボタ R0704			
商 品 名	ER698			
区 分	HDMW	HDMQW	SD4MW	SD4MSQW
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4850		
	全 幅 (mm)	2325		
	全 高 (mm)	2660	2715	2660 2715
機 体 質 量 (kg)	4010	4110	4040	4140
エ ン ジ ン	型 式 名	V3800DIME-TE2-C		
	種 類	水冷4サイクル4気筒立形ディーゼルトーボ [直噴]		
	総 排 気 量 (L{cc})	3.769 {3769}		
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)	72.1 {98.0} / 2600		
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	100		
	始 動 方 式	セルモータ式		
	バ ッ テ リ (V・Ah)	12・83 [105E41R]		
走 行 部	ク ロ ー ラ	中 心 距 離 (mm)	1205	
		幅 × 接 地 長 (mm)	550×1870	
		平 均 接 地 圧 (kPa{kgf/cm ² })	19.1 {0.20}	19.6 {0.20} 19.3 {0.20} 19.7 {0.20}
	最 低 地 上 高 (mm)	225～385		
	変 速 方 式	油圧モータ式 [HST]		
	変 速 段 数	前進無段・後進無段 [副変速 [油圧2段, ギヤ2段]]		
	走 行 速 度 (m/s) (エンジン定格回転速度時)	前 進	あぜ越え：0～0.92	
		後 進	[副変速レバー・副変速スイッチ併用] 作業：0～1.73 高速：0～2.85	
旋 回 方 式	e-VCCT (ブレーキ・スピン・ソフトターン)			
刈 取 部	刈 取 り 条 数 (条)	6		
	刈幅[デバイダ先端間隔] (mm)	1975～2030		
	刈 取 装 置 形 式	シングルアクション [左右2分割対向]		
	刃 幅 (mm)	1940		
	変 速 段 数 (段)	車速同調2段 [独立HST]+引起し2段		
こ ぎ 深 さ 調 節 方 式	刈 高 さ 範 囲 (mm)	35～150		
	電動モータ式			
脱 こ ぐ 方 式	下こぎ・単胴 [2分割]・軸流式			
こ ぎ 胴	径×幅 (mm)	424×1130		
	回転速度 (rpm)	前：505, 後：564		
こ 処 理 胴	径×幅 (mm)	140×800 [スクリュ式拡散胴]		
	回転速度 (rpm)	1040		
こ 2 番 処 理 胴	径×幅 (mm)	240×100 [ツースパー]		
	回転速度 (rpm)	1240		
こ 2 番 還 元 方 式	スクリュ式			
	揺 動 板 幅×長さ (mm)	800×1760		
	選 別 方 式	揺動・圧風・全幅吸引		

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R0704				
商 品 名			ER698				
区 分			HDMW	HDMQW	SD4MW	SD4MSQW	
こ く 粒 処 理 部	処 理 方 式		グレンタンク式				
	排 出 方 式		スクリュコンベア式				
	タ ン ク 容 量(L{袋})		1950 {約39袋} [1袋約50 L]				
	ア	長 さ(mm)	4600				
	旋回範囲(度)・旋回方式		365 [右, 左] ・ 電動モータ				
	昇降範囲(度)・昇降方式		0 [水平] ～45・油圧式				
	排出高さ[作業時](mm)		2105～5400				
	排出長さ[作業時](mm)		3140～4330				
わ ら 処 理 部	工 場 出 荷 仕 様		●カッタ 又は, ●カッタ+標準結束機 カッタ切断長さ: 56/168mm切換え式 [切断刃: セラミック切断刃] ●シュータ式拡散装置				
	オ プ シ ョ ン		●カッタ後部標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロップ [電動] ●スクリュ式拡散装置				
諸 装 置	安 全 装 置	エンジン始動時安全装置	エンジン始動防止カブラ, 駐車ブレーキ, 主変速レバー, 脱こくクラッチ, 刈取クラッチ, もみ排出クラッチ, 刈取変速切換えクラッチ, カッタ切換えカバー				
		エンジン自動停止装置	刈取詰まり, フィードチェーン詰まり, 排わら詰まり, 結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ/ビル巻付き 【結束機付き仕様】				
		そ の 他 の 安 全 装 置	刈取部下降ロック, 枕こぎ台, エンジン停止装置 【手こぎ作業非常緊急停止装置】				
	警 報 装 置		燃料, 充電, 油圧, 水温 [オーバーヒート], もみ満杯, 負荷, 刈取詰まり, 2番詰まり, シーブ, 排わら詰まり, カッタ詰まり, 結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ/ビル巻付き 【結束機付き仕様】				
	自 動 化 装 置		自動アクセル制御, 自動車速制御, 自動刈高さ制御 [上昇自動, 昇降自動 【SD仕様】], 自動こぎ深さ制御, 刈取オートクラッチ, 自動脱こく制御, 自動車体水平制御装置 [左右 【HD仕様】 , 4PC・ST 【SD仕様】], アンローダ自動旋回制御, 自動エンジン停止装置, エンジン正逆流ファン制御 [ラジエータ目詰まり防止装置]				
	オ ー プ ン 装 置		刈刃オープン, 引起しオープン, 刈取オープン, こぎ深さチェーンレールオープン, 刈取搬送オープン, 供給チェーンレールオープン, 防じんカバーオープン, キャビンオープン 【Q仕様】 , 運転席オープン 【Q仕様除く】 , こぎ胴パワーオープン, グレンタンクオープン, 排わらチェーンオープン, カッタオープン				
	そ の 他 の 装 置	運 転 操 作 部	ファインビューメータ, アクセルダイヤル, 副変速切換えスイッチ, ワンタッチ設定スイッチ, 旋回モード切換えダイヤル, 旋回力アップトリガ, 刈取変速切換えスイッチ, ポジピタスイッチ, 刈取かき込みペダル, 左分草かん開閉スイッチ 【SD仕様】 , 脱こく・刈取クラッチレバー [パワークラッチ], こぎ胴開閉スイッチ, もみ排出スイッチ [パワークラッチ]・[マルチアンローダリモコン, 無線アンローダリモコン 【SD仕様】], わら処理切換えスイッチ, 集中注油装置				
			エンジン部・走行部 プレクリーナ, 揺動転輪, 2分割式スプロケット				
			刈 取 部 供給サポートチェーン, 刈取防じんカバー 【Q仕様除くSD仕様】				
			グ レ ン タ ン ク 部 もみこぼれ防止ガード, バイプロシャッタ				
			キ ャ ビ ン 【Q仕様】 内外気切換え式エアコン, アームレスト付きシート, バックモニタ 【SDSQ仕様】 , CDプレーヤ付きラジオ				
			ス イ ス イ デ バ イ ダ, 自動方向制御 【SD仕様】 , 刈取スタンド, 刈取防じんカバー 【Q仕様除くHD仕様】 , 種子用交換部品, 後部確認ミラー, キャノピ 【Q仕様除く】 , 無線アンローダリモコン 【HD仕様】				
	適応作物範囲 [全長] (mm)			550～1300 [H仕様: 500～1200]			
	倒 伏 適 応 性 (度)			追刈り: 85以下・向刈り: 70以下			
	作業能率 [計算値] (a/hr{分/10a})			87～15 {7～40}			

※この主要諸元は, 改良のため予告なく変更することがあります。

付表

農 機 型 式 名			クボタ R0703			
商 品 名			ER108			
区 分			HDMW	HDMQW	SD4MW	SD4MSQW
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4850				
	全 幅 (mm)	2325				
	全 高 (mm)	2660	2715	2660	2715	
機 体 質 量 (kg)			4020	4120	4050	4150
エ ン ジ ン	型 式 名		V3800DICR-TIE3-C			
	種 類		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル インタークーラターボ [直噴]			
	総 排 気 量 (L{cc})		3.769 {3769}			
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)		79.5 {108.0} / 2600			
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油			
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		100			
	始 動 方 式		セルモータ式			
	バ ッ テ リ (V・Ah)		12・83 [105E41R]			
走 行 部	ク ロ ー ラ	中 心 距 離 (mm)	1205			
		幅 × 接 地 長 (mm)	550×1870			
		平 均 接 地 圧 (kPa{kgf/cm ² })	19.2 {0.20}	19.6 {0.20}	19.3 {0.20}	19.8 {0.20}
	最 低 地 上 高 (mm)		225～385			
	変 速 方 式		油圧モータ式 [HST]			
変 速 段 数		前進無段・後進無段 [副変速 [油圧2段, ギヤ2段]]				
部	走 行 速 度 (m/s) (エンジン定格回転速度時)	前 進	あぜ越え：0～1.01 〔副変速レバー・副変速スイッチ併用〕 作業：0～1.90 高速：0～3.14			
		後 進				
	旋 回 方 式		e-VCCT (ブレーキ・スピン・ソフトターン)			
刈 取 部	刈 取 り 条 数 (条)		6			
	刈幅[デバイダ先端間隔] (mm)		1975～2030			
	刈 取 装 置 形 式		シングルアクション [左右2分割対向]			
	刃 幅 (mm)		1940			
	変 速 段 数 (段)		車速同調2段 [独立HST]+引起し2段			
こ ぎ 部	刈 高 さ 範 囲 (mm)		35～150			
	こ ぎ 深 さ 調 節 方 式		電動モータ式			
脱 こ ぐ 部	脱 こ ぐ 方 式		下こぎ・単胴 [2分割]・軸流式			
	こ ぎ 胴	径×幅 (mm)	424×1130			
		回転速度 (rpm)	前：505, 後：564			
	こ 処 理 胴	径×幅 (mm)	140×800 [スクリュ式拡散胴]			
		回転速度 (rpm)	1040			
	こ 2 番 処 理 胴	径×幅 (mm)	240×100 [ツースパー]			
		回転速度 (rpm)	1240			
	2 番 還 元 方 式		スクリュ式			
	揺 動 部	揺 動 板 幅×長さ (mm)	800×1760			
		選 別 方 式		揺動・圧風・全幅吸引		

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R0703			
商 品 名			ER108			
区 分			HDMW	HDMQW	SD4MW	SD4MSQW
こ く 粒 処 理 部	処 理 方 式		グレンタンク式			
	排 出 方 式		スクリュコンベア式			
	タ ン ク 容 量(L{袋})		1950 {約39袋} [1袋約50 L]			
	ア ン ロ ー ダ	長 さ(mm)	4600			
		旋回範囲(度)・旋回方式	365 [右, 左] ・ 電動モータ			
		昇降範囲(度)・昇降方式	0 [水平] ～45・油圧式			
		排出高さ[作業時](mm)	2105～5400			
		排出長さ[作業時](mm)	3140～4330			
わ ら 処 理 部	工 場 出 荷 仕 様		●カッタ 又は, ●カッタ+標準結束機 カッタ切断長さ: 56/168mm切換え式 [切断刃: セラミック切断刃] ●シュータ式拡散装置			
	オ プ シ ョ ン		●カッタ後部標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロップ [電動] ●スクリュ式拡散装置			
諸 装 置	安 全 装 置	エンジン始動時安全装置	エンジン始動防止カブラ, 駐車ブレーキ, 主変速レバー, 脱こくクラッチ, 刈取クラッチ, もみ排出クラッチ, 刈取変速切換えクラッチ, カッタ切換えカパー			
		エンジン自動停止装置	刈取詰まり, フィードチェーン詰まり, 排わら詰まり, 結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ/ビル巻付き 【結束機付き仕様】			
		そ の 他 の 安 全 装 置	刈取部下降ロック, 枕こぎ台, エンジン停止装置 【手こぎ作業非常緊急停止装置】			
	警 報 装 置	燃料, 充電, 油圧, 水温 [オーバーヒート], もみ満杯, 負荷, 刈取詰まり, 2番詰まり, シーブ, 排わら詰まり, カッタ詰まり, 結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ/ビル巻付き 【結束機付き仕様】				
	自 動 化 装 置	自動アクセル制御, 自動車速制御, 自動刈高さ制御 [上昇自動, 昇降自動 【SD仕様】], 自動こぎ深さ制御, 刈取オートクラッチ, 自動脱こく制御, 自動車体水平制御装置 [左右 【HD仕様】 , 4PC・ST 【SD仕様】], アンローダ自動旋回制御, 自動エンジン停止装置, エンジン正逆流ファン制御 [ラジエータ目詰まり防止装置]				
	オ ー プ ン 装 置	刈刃オープン, 引起しオープン, 刈取オープン, こぎ深さチェーンレールオープン, 刈取搬送オープン, 供給チェーンレールオープン, 防じんカバーオープン, キャビンオープン 【Q仕様】 , 運転席オープン 【Q仕様除く】 , こぎ胴パワーオープン, グレンタンクオープン, 排わらチェーンオープン, カッタオープン				
	そ の 他 の 装 置	運 転 操 作 部	ファインビューメータ, アクセルダイヤル, 副変速切換えスイッチ, ワンタッチ設定スイッチ, 旋回モード切換えダイヤル, 旋回力アップトリガ, 刈取変速切換えスイッチ, ポジピタスイッチ, 刈取かき込みペダル, 左分草かん開閉スイッチ 【SD仕様】 , 脱こく・刈取クラッチレバー [パワークラッチ], こぎ胴開閉スイッチ, もみ排出スイッチ [パワークラッチ]・[マルチアンローダリモコン, 無線アンローダリモコン 【SD仕様】], わら処理切換えスイッチ, 集中注油装置			
			エンジン部・走行部	プレクリーナ, 揺動転輪, 2分割式スプロケット		
		刈 取 部	供給サポートチェーン, 刈取防じんカバー 【Q仕様除くSD仕様】			
		グ レ ン タ ン ク 部	もみこぼれ防止ガード, バイプロシャッタ			
キ ャ ビ ン 【Q仕様】		内外気切換え式エアコン, アームレスト付きシート, バックモニタ 【SDSQ仕様】 , CDプレーヤ付きラジオ				
オ プ シ ョ ン		スイスイデバイダ, 自動方向制御 【SD仕様】 , 刈取スタンド, 刈取防じんカバー 【Q仕様除くHD仕様】 , 種子用交換部品, 後部確認ミラー, キャノピ 【Q仕様除く】 , 無線アンローダリモコン 【HD仕様】				
適応作物範囲 [全長] (mm)			550～1300 [H仕様: 500～1200]			
倒 伏 適 応 性 (度)			追刈り: 85以下・向刈り: 70以下			
作業能率 [計算値] (a/hr{分/10a})			96～15 {7～40}			

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

* 保証書	1
* メンテナンスブック	1
* 取扱説明書確認カード	1
* 取扱説明書	1
* 取扱説明書収納ビニール袋	1
* ナンバープレート取付けステー (3 ページ参照)	1
* 本機カバー	1
* ほこりよけカバー	1
* 前分草ガイド 【572・587】 (101 ページ参照)	1
* ボルト 【572・587】 (101 ページ参照)	1
* 前分草ガイド 【698・108】 (101 ページ参照)	2
* ナット (101 ページ参照)	2
* じょうご (214 ページ参照)	1
* ビニールホース (214 ページ参照)	1
* シャーペン (296 ページ参照)	3
* 単4電池 【SD仕様】 (47 ページ参照)	3
* 無線アンローダリモコン用携帯ストラップ 【SD仕様】 (47 ページ参照)	1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

◆ 刈取部

■ スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品 番	品 名	対象型式
5H817-00000	ERM587（3連）	572・587
5H818-00000	ERM587-R（右1連）	572・587
5H815-00000	ERM108（3連）	698・108
5H816-00000	ERM108-R（右1連）	698・108

■ 自動方向制御装置

刈取作業中に自動的に方向を修正する装置です。

品 番	品 名	対象型式
5H801-99100	オプション（ADC）	SD仕様

■ 刈取スタンド

刈取部を安定した状態で取外すためのスタンドです。

品 番	品 名	対象型式
5H803-87100	スタンド、アッシ（カリトリ）	全型式

■ 刈取り防じんカバー

運転席側へ飛散してくるごみやちりを防ぐカバーです。

品 番	品 名	対象型式
5H803-95010	カバー、アッシ（ボウジン）	Q仕様を除く HD仕様

◆ 脱こく部

■種子用交換部品

品 番	品 名	対象型式
5K116-91300	交換部品, アッシ (シュショウ)	全型式

■キャノピ

グレンタンク装置型の雨よけ, 日よけです。

品 番	品 名	対象型式
5H814-00000	CP108	全型式

◆ こく粒処理部

■無線アンローダリモコン

アンローダの昇降, 旋回やもみの排出の操作が無線で行なえます。

品 番	品 名	対象型式
5G230-95010	リモコン, アッシ (ムセンアンローダ)	HD 仕様

■バックミラー

機体後方確認用のバックミラーです。

品 番	品 名	対象型式
5H601-92100	ミラー, キット (コウホウ)	全型式

※結束機又は, ドロッパ装着時は取付けられません。

◆ 排わら処理部

■カッタ後部標準結束機

品 番	品 名	対象型式
57912-00000	K-E108SY	全型式

■カッタ後部ストンパ結束機

品 番	品 名	対象型式
57913-00000	K-E108SR	全型式

■スクリュ式拡散装置

品 番	品 名	対象型式
57299-00000	WER108	全型式

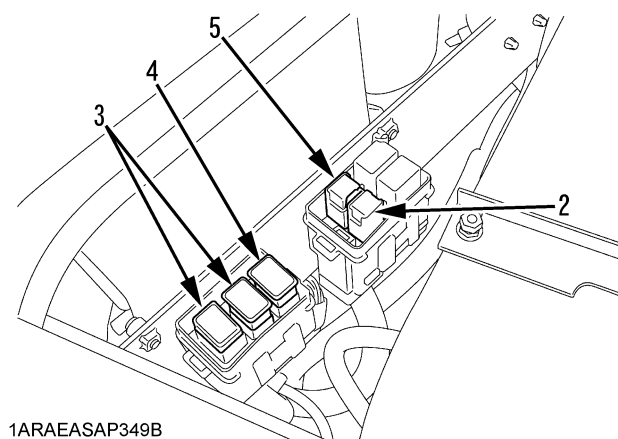
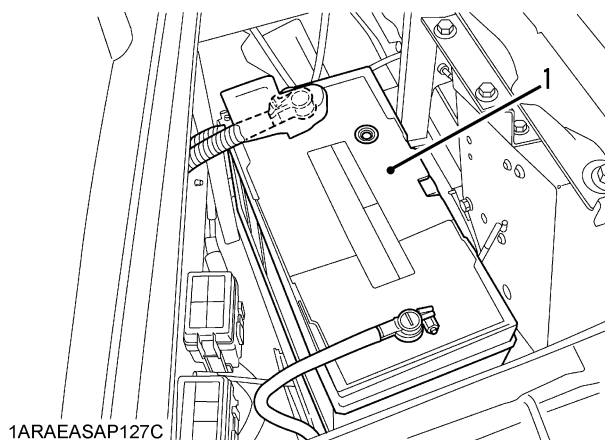
■電動ドロップ

長わらのまま, 一定量をきれいに集束落下させます。

品 番	品 名	対象型式
57279-00000	DER108	全型式

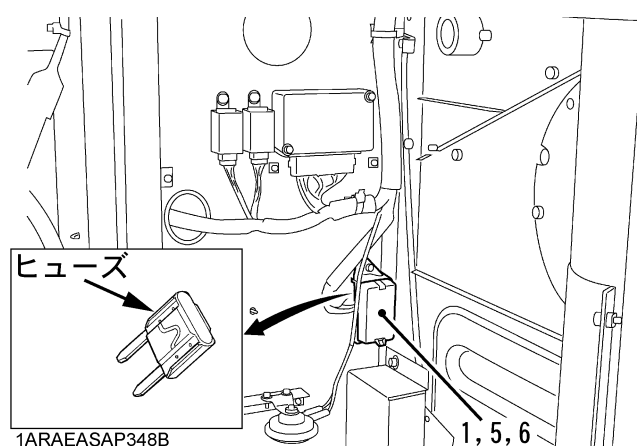
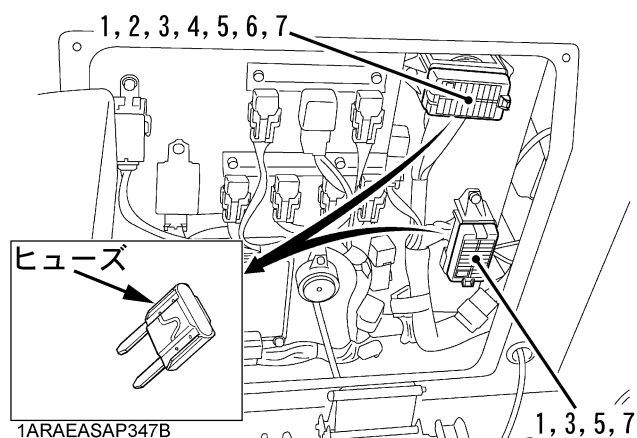
消耗部品(純正部品を使いましょう)

◆ バッテリ・スローブローヒューズ



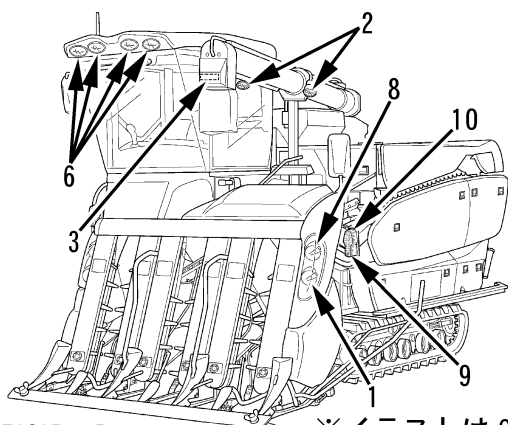
図番	品名	品番	対象型式
1	バッテリー (110E41R)	07908-25090	全型式
2	スローブローヒューズ (30A)	3C581-7716-0	
3	スローブローヒューズ (60A)	T1150-3050-0	
4	スローブローヒューズ (100A)	5H801-4186-0	
5	スローブローヒューズ (50A)	5H811-4189-0	572
	スローブローヒューズ (20A)	5H801-4185-0	108

◆ ヒューズ



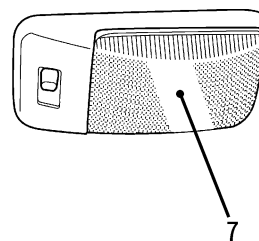
図番	品名	品番	対象型式
1	ヒューズ 5A	T1065-3043-0	全型式
2	ヒューズ 7.5A	T1065-3048-0	
3	10A オートヒューズ	5H050-4162-0	
4	15A オートヒューズ	5H050-4163-0	
5	20A オートヒューズ	5H050-4164-0	
6	25A オートヒューズ	5H050-4165-0	
7	30A オートヒューズ	5H050-4166-0	

◆ ランプ (電球)

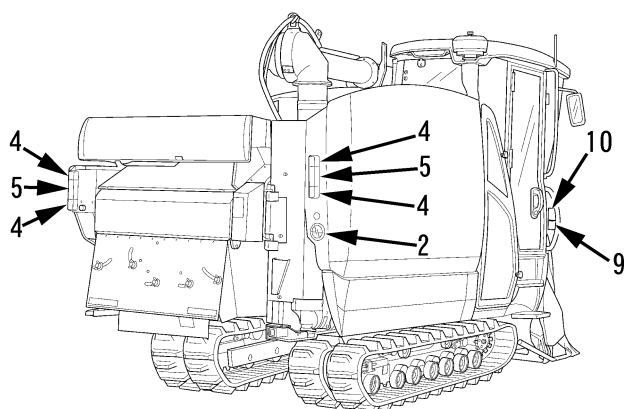


11RAEASAP663P

※イラストは Q仕様



11RAEASAP014C



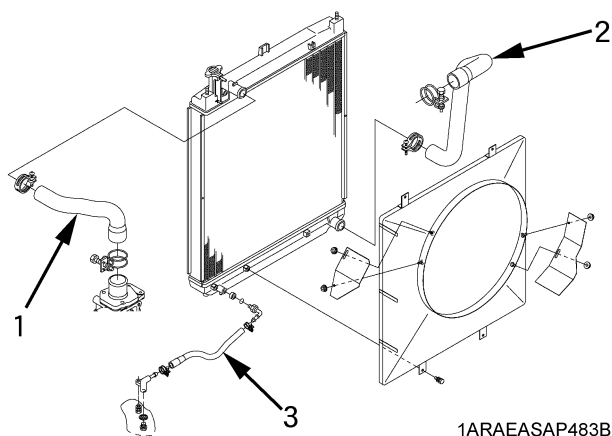
11RAEASAP605T

※イラストは Q仕様

図番	品名	品番	対象型式
1	バルブ (12V35W, ハロゲン)	T1275-9106-0	全型式
2	バルブ (ヘッドライト 55W)	K3611-5515-0	
3	ランプバルブ (12V35W)	T1275-9107-0	
4	バルブ (12V21W)	T2255-9912-0	
5	バルブ (12V21/5W)	5K110-6562-0	
6	バルブ (12V35W, ハロゲン)	5H802-3893-0	Q仕様
7	バルブ (12V5W)	3C581-5422-0	
8	バルブ (12V35W, ハロゲン)	T1275-9106-0	全型式
9	バルブ (12V5W)	T1370-9914-0	
10	バルブ (12V21W)	T1370-9911-0	

付表

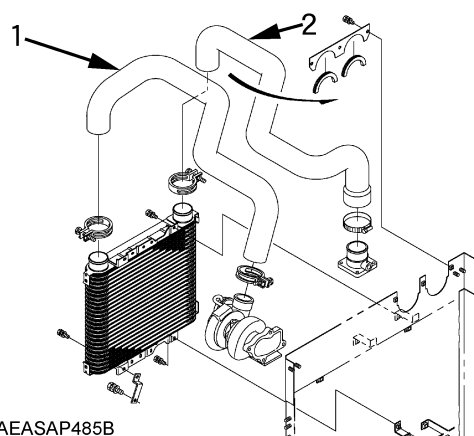
◆ ラジエータホース



1ARAEASAP483B

図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (1, ウォータ)	5H801-2555-0	全型式
2	ホース (2, ウォータ)	5H601-2556-0	
3	ホース (ハイスイ)	5H804-2554-0	

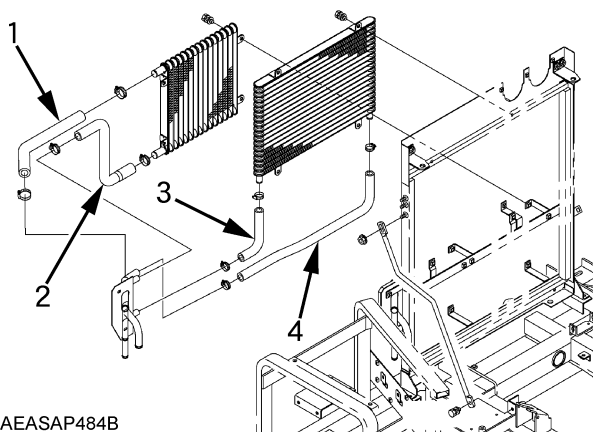
◆ インタークーラホース



1ARAEASAP485B

図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (IN1, インタークーラ)	5H801-2636-2	108
2	ホース (OUT2, インタークーラ)	5H801-2635-2	

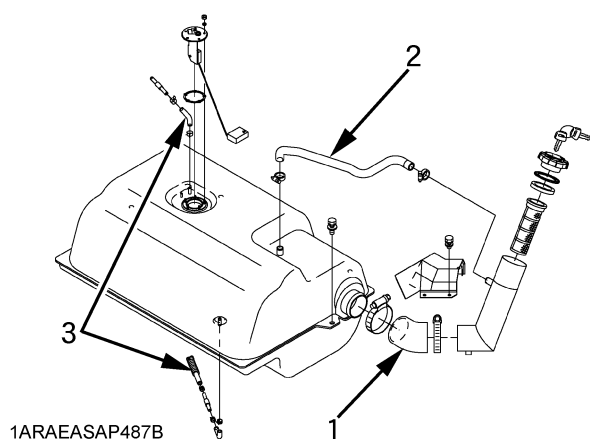
◆ オイルクーラホース



1ARAEASAP484B

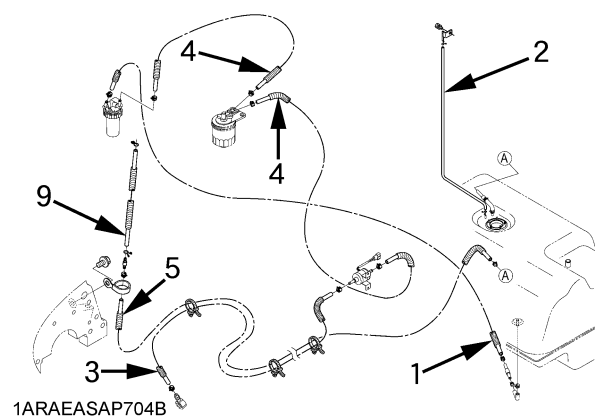
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (TM クーラ, 1)	5H801-2768-2	全型式
2	ホース (TM クーラ, 2)	5H801-2769-3	
3	ホース (オイルクーラ, 1)	5H801-2766-2	
4	ホース (オイルクーラ, 2)	5H801-2771-2	

◆ 燃料ホース



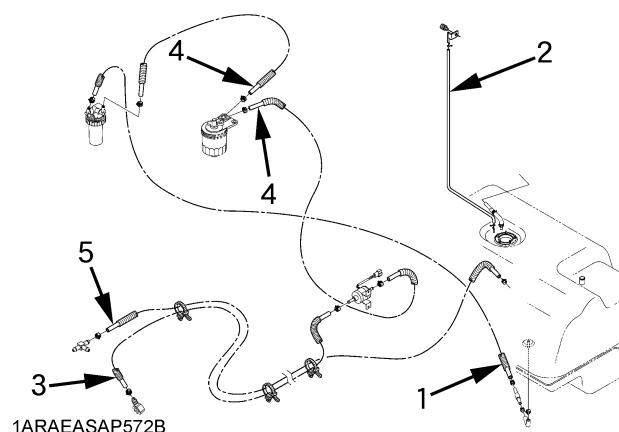
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (1, フューエルタンク)	5H801-2677-0	全型式
2	ホース (2, フューエルタンク)	5H801-2678-0	
3	フューエルチューブ, アッシ (タンク)	5H801-2679-2	

[572]



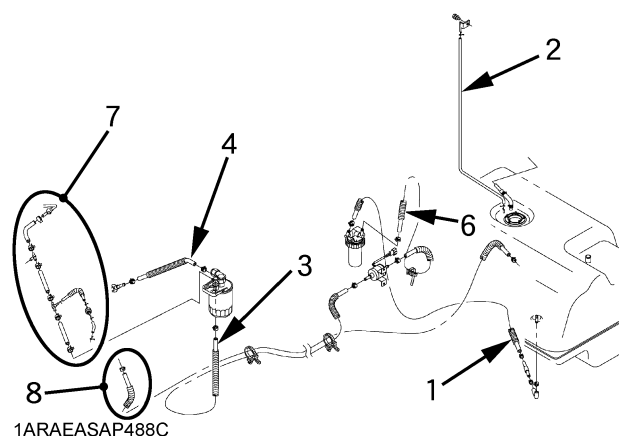
[572]

[587・698]



[587・698]

[108]

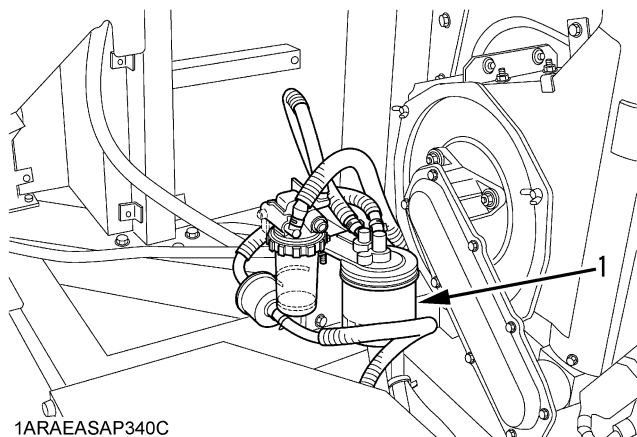


[108]

図番	品名	品番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-81650	全型式
2	フューエルチューブ	09661-40875	
3	フューエルチューブ	09661-82500	
4	フューエルチューブ	09661-80380	
5	フューエルチューブ	09661-43000	572・ 587・698
6	フューエルチューブ	09661-80550	108
7	チューブ, アッシ (7, フューエル)	5H801-2698-0	
8	チューブ, アッシ (4, フューエル)	5H801-2693-0	
9	フューエルチューブ	09661-40360	572

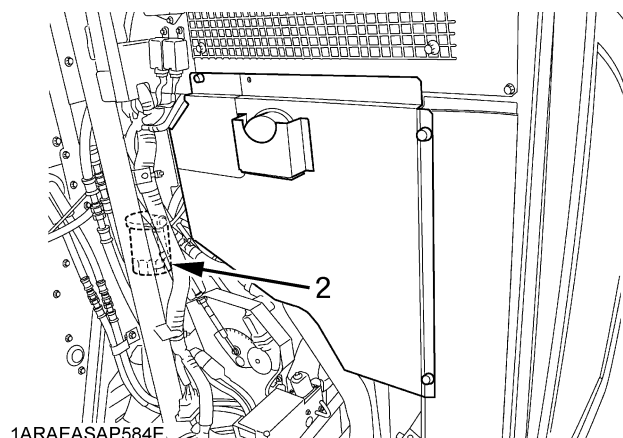
◆ 燃料フィルタカートリッジ

[572・587・698]



[572・587・698]

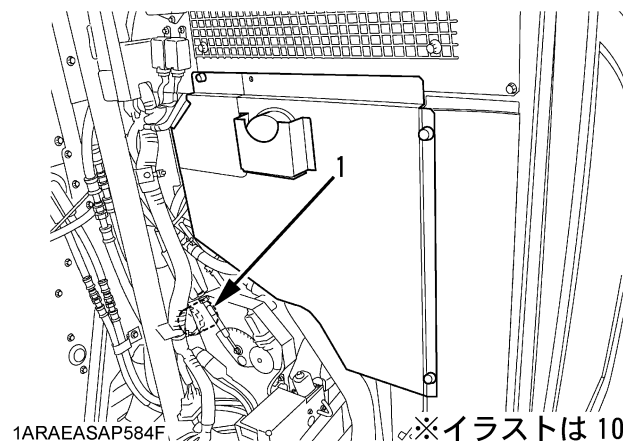
[108]



[108]

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタエレメント	15221-4317-2	572・587・698
2	フューエルフィルタエレメント	16631-4356-2	108

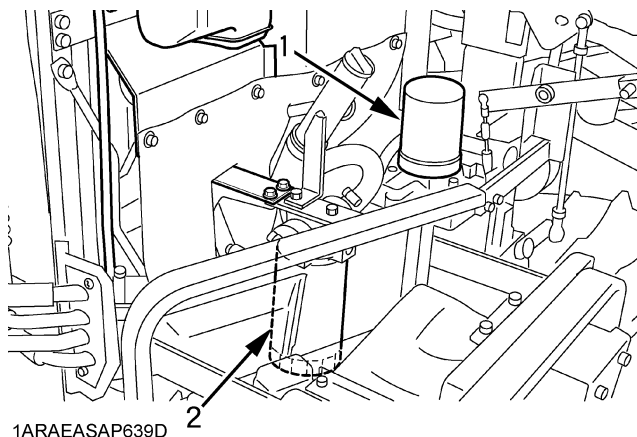
◆ エンジンオイルフィルタカートリッジ



※イラストは 108

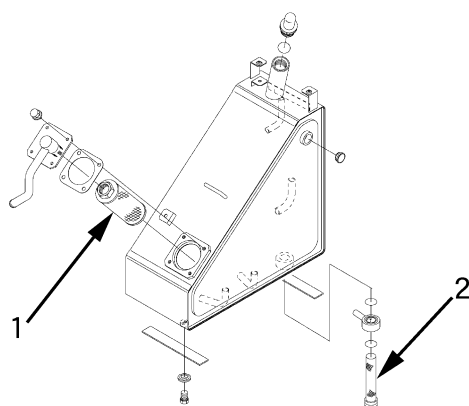
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ (オイル, カートリッジ)	1C020-3243-3	全型式

◆ ミッションオイルフィルタカートリッジ ◆ HST オイルフィルタカートリッジ



図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ (HST)	TA240-5990-0	全型式
2	フィルタ (スイコミ, TM)	5H801-1791-2	

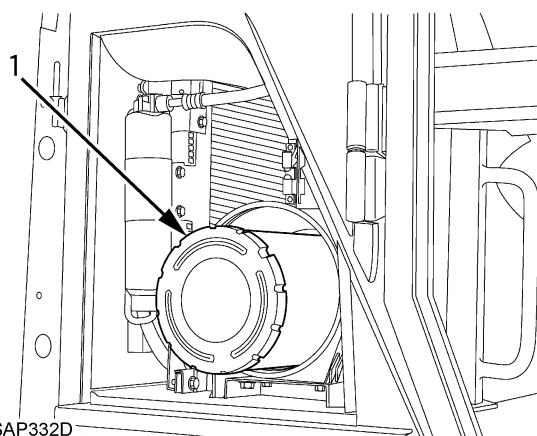
◆ 油圧オイルタンクフィルタ



1ARAEASAP705B

図番	品名	品番	対象型式
1	サクシヨンストレーナ	68131-6211-0	全型式
2	フィルタ	52600-2738-0	

◆ エアクリーナ

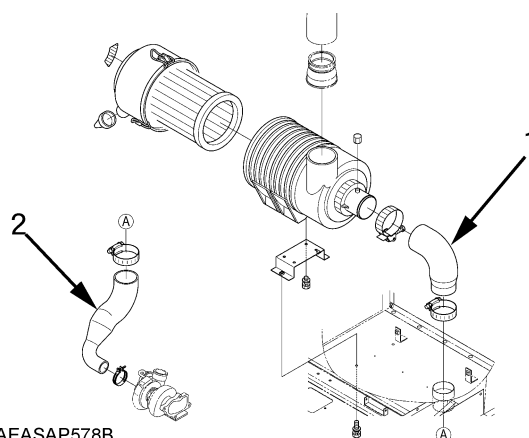


1ARAEASAP332D

図番	品名	品番	対象型式
1	エアクリーナエレメントアッシ	59700-2611-2	全型式

◆ インレットパイプ

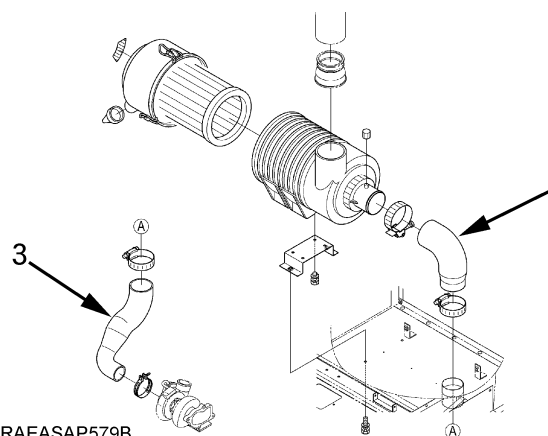
[572・587]



1ARAEASAP578B

[572・587]

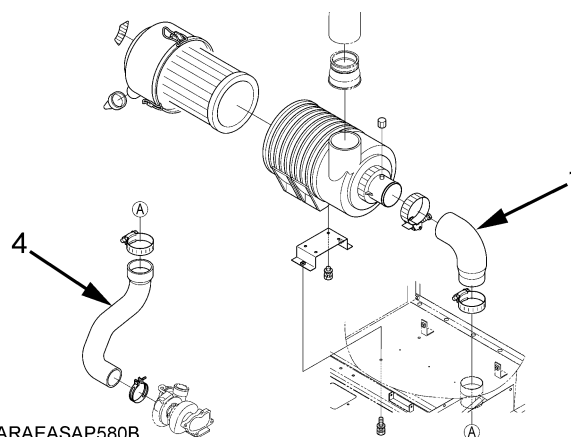
[698]



1ARAEASAP579B

[698]

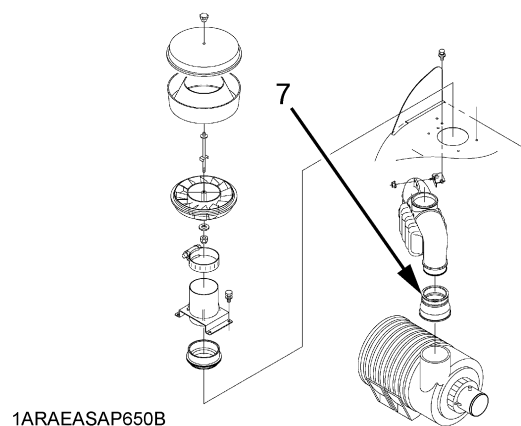
[108]



1ARAEASAP580B

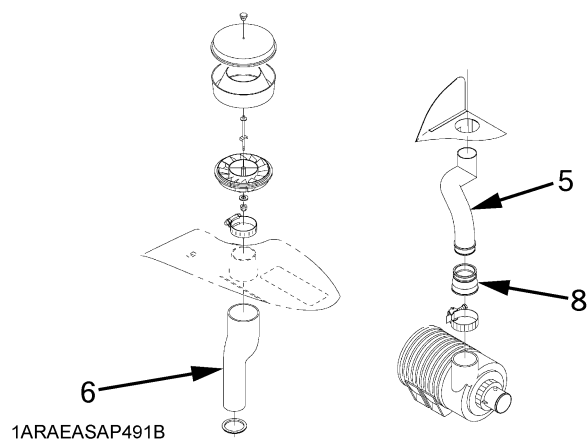
[108]

[Q仕様除く]



[Q仕様除く]

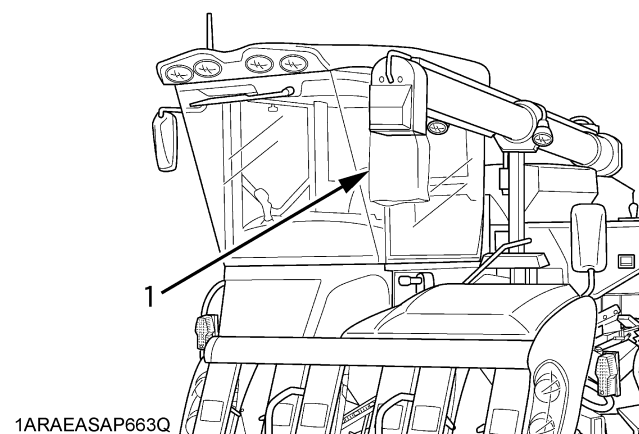
[Q仕様]



[Q仕様]

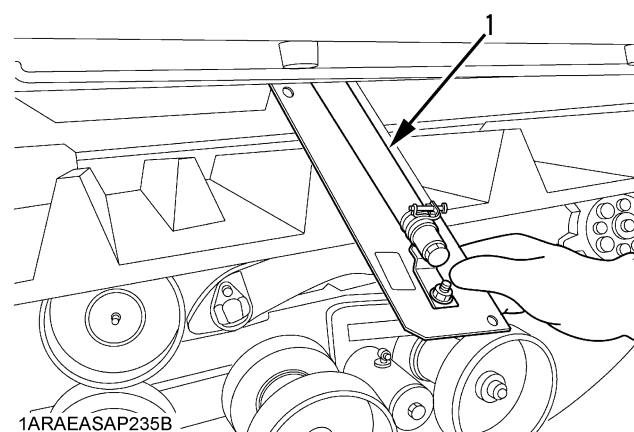
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (Q 1, インレット)	5H802-2628-0	Q仕様
	ホース (1, インレット)	5H801-2668-0	Q仕様除く
2	ホース (2, インレット)	5H807-2631-2	572・587
3		5H804-2631-0	698
4		5H801-2631-2	108
5	ホース (3, インレット)	5H802-2623-0	Q仕様
6	ホース (4, インレット)	5H802-2624-0	
7	ホース (90Q, インレット)	5H690-2632-0	全型式

◆ 吐出口ブーツ



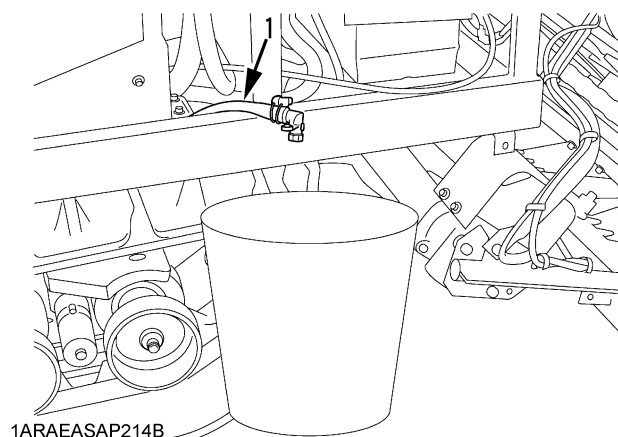
図番	品名	品番	対象型式
1	ブーツ (トシュツコウ)	5G230-3154-2	全型式

◆ オイルドレーンゴムホース



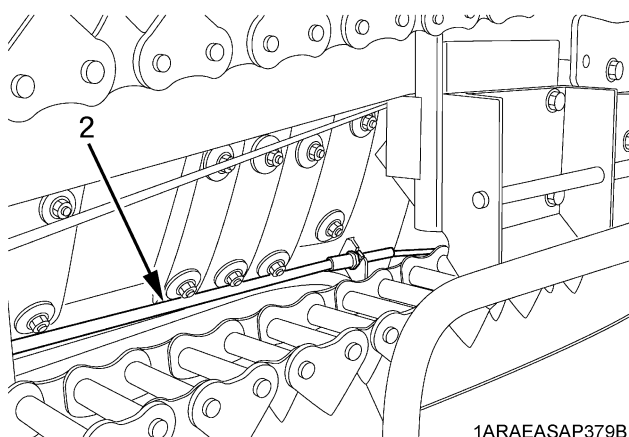
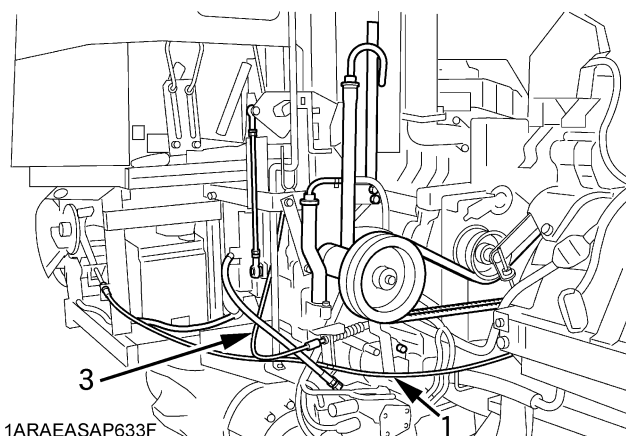
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (オイルドレーン)	5H601-2521-0	全型式

◆ 排水ホース



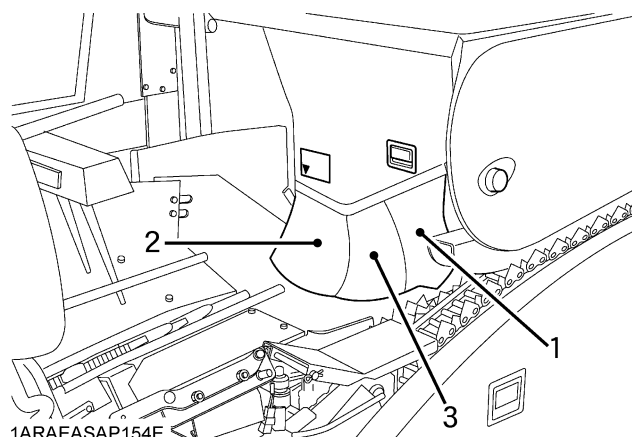
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (ハイスイ)	5H801-2554-2	全型式

◆ 各ワイヤ



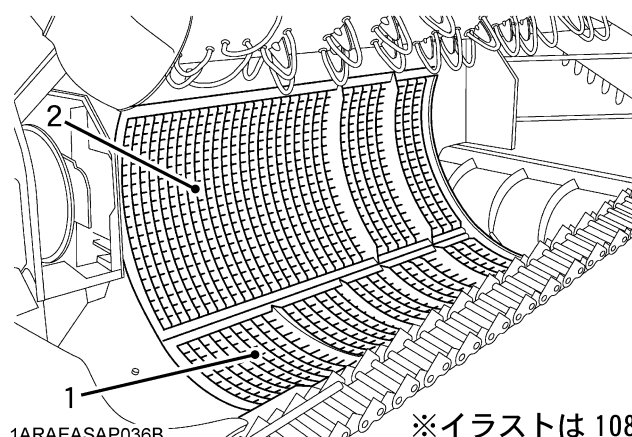
図番	品名	品番	対象型式
1	ケーブル (ダッククラッチ)	5H801-3165-2	全型式
2	ケーブル (チェーンクラッチ)	5H801-3168-3	
3	ケーブル (ブレーキ)	5H801-3216-3	

◆ フロントハンプ



図番	品名	品番	対象型式
1	ハンプ (1, フロント)	5K190-6112-0	全型式
2	ハンプ (2, フロント)	5K190-6113-0	
3	ハンプ (3, フロント)	5K190-6114-0	

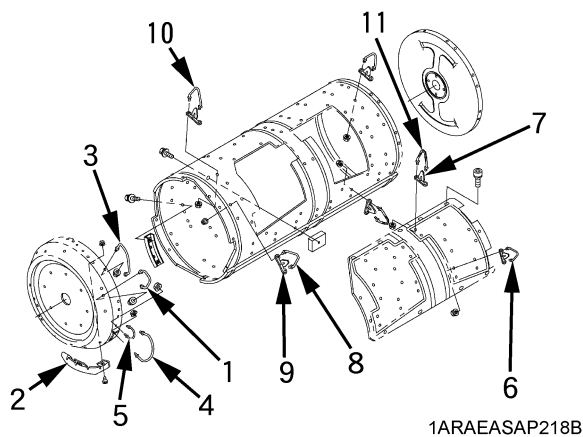
◆ 受あみ



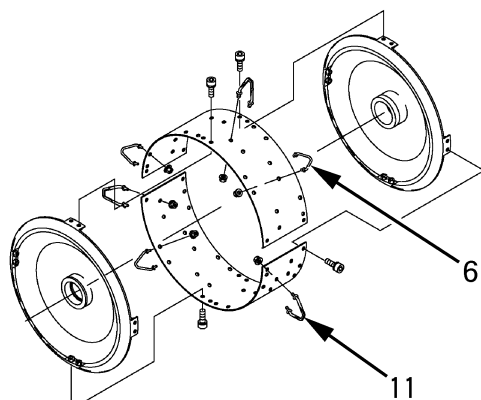
図番	品名	品番	対象型式
1	コンケーブ (8, チドリシタ)	5K116-2111-0	全型式
2	コンケーブ (8, チドリウエ)	5K116-2112-2	全型式

付表

◆ こぎ歯



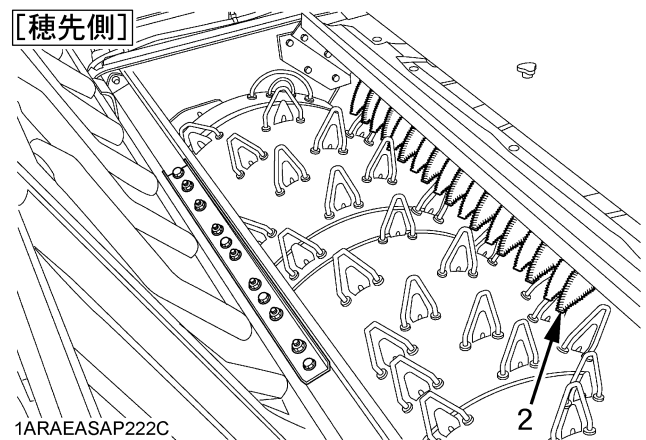
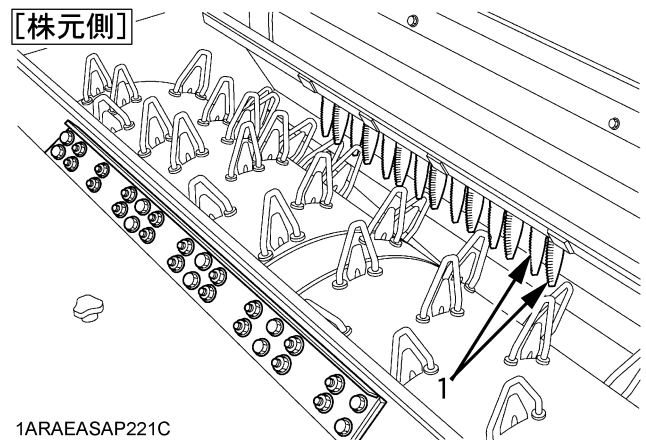
[108]



[108]

図番	品名	品番	対象型式
1	セイソシ (1)	5K190-2234-2	全型式
2	セイソシ (イタ1)	5K190-2235-0	
3	セイソシ (2, ヘンケイ)	5K190-2237-2	
4	セイソシ (2)	5K190-2238-2	
5	ダイ3セイソシシヨウ	53551-2174-2	
6	ナミハ	5K116-2248-2	
7	イタコキハ	53821-2249-2	
8	ダイ1ホキョウシ	53821-2244-3	
9	イタホキョウシ	53821-2246-0	
10	ダイ2ホキョウシ	53821-2247-3	
11	コキハ (ヘンケイ)	5K116-2251-2	

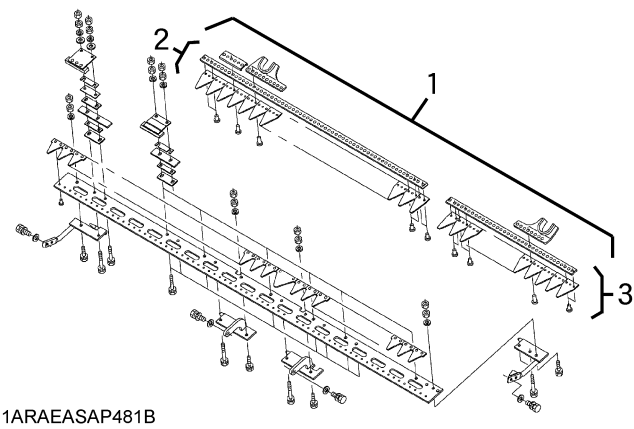
◆ わら切刃



図番	品名	品番	対象型式
1	セツダンバ (カブモト, N)	5K116-2135-0	全型式
2	セツダンバ (ホサキ, N)	5K116-2123-0	

◆ 刈刃

[572・587]

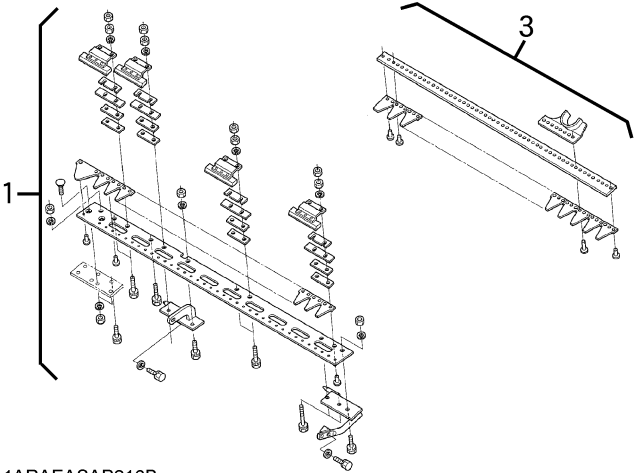


1ARAEASAP481B

[572・587]

[698・108]

[刈刃左]

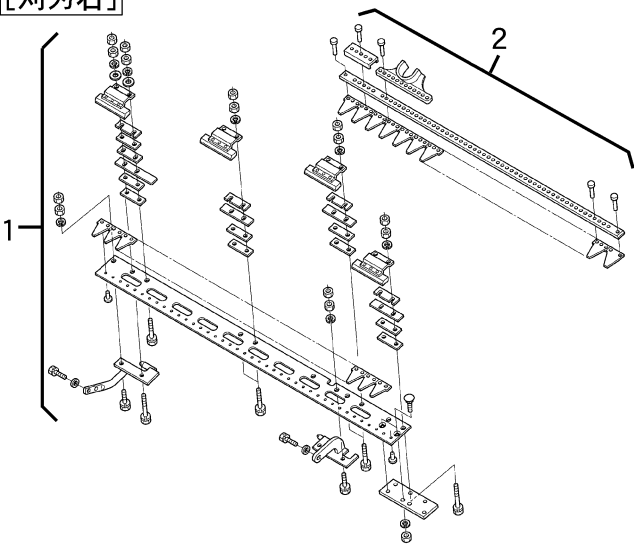


1ARAEASAP216B

[698・108]

[698・108]

[刈刃右]



1ARAEASAP215B

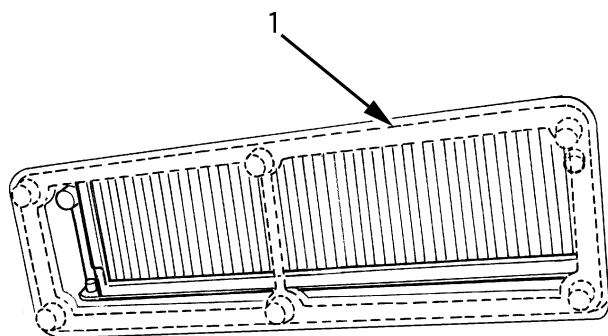
[698・108]

図番	品名	品番	対象型式
1	刈刃アッシ	5H809-5901-4	572・587
	刈刃アッシ (R)	5H803-5900-3	698・108
	刈刃アッシ (L)	5H803-5902-3	
2	刈刃コンブ (R)	5H809-5930-2	572・587
		5H672-5975-0	698・108
3	刈刃コンブ (L)	5H809-5920-2	572・587
		5H672-5980-3	698・108

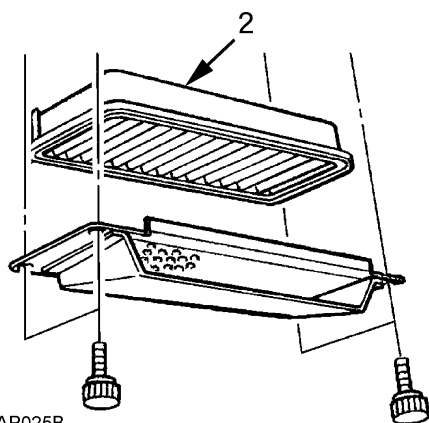
付表

◆ エアコンフィルタ

[Q仕様]



1ARAEAPAP417C

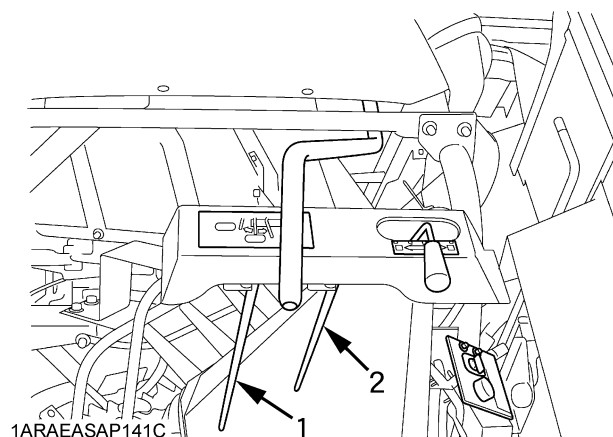


1ARAEASAP025B

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ (ナイキ)	T0270-7207-0	全型式
2	フィルタ (ペーパー)	TA043-7160-0	

[Q仕様]

◆ 穂先センサ

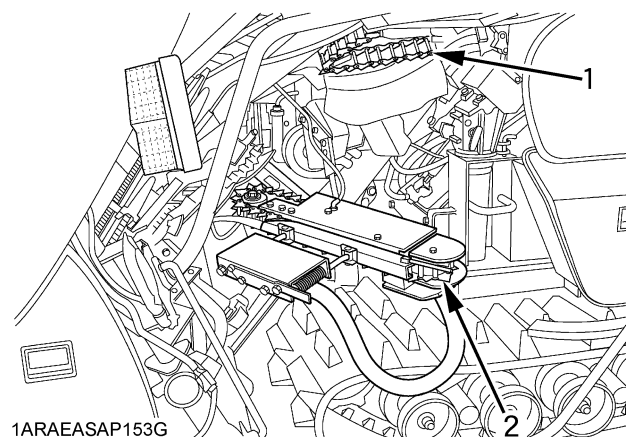


1ARAEASAP141C

図番	品名	品番	対象型式
1	スイッチ, アッシ (ホサキ, 250)	5H601-7560-2	全型式
2	スイッチ, アッシ (ホサキ, 210)	5H601-7570-2	

◆ 各チェーン

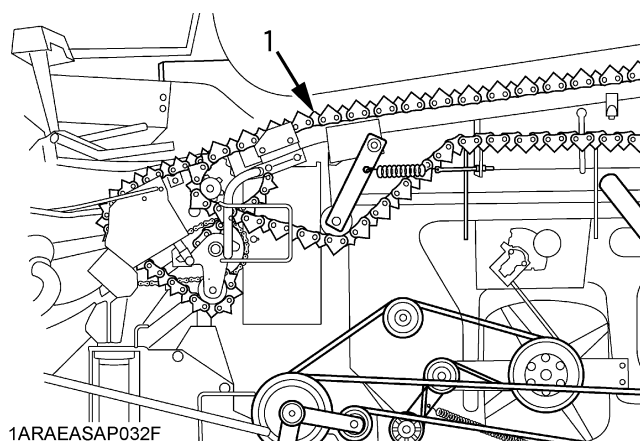
- 株元供給チェーン
- こぎ深さチェーン



1ARAEASAP153G

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン, アッシ (37, キョウキュウ)	5H813-9610-0	572・587 (H仕様)
		5H803-9610-0	698・108 (H仕様)
	チェーン, アッシ (39, キョウキュウ)	5H813-6610-0	572・587 (H仕様除く)
		5H803-6610-0	698・108 (H仕様除く)
2	チェーン, アッシ (46, フカサ)	5H601-7130-0	572・587
		5H803-7130-0	698・108

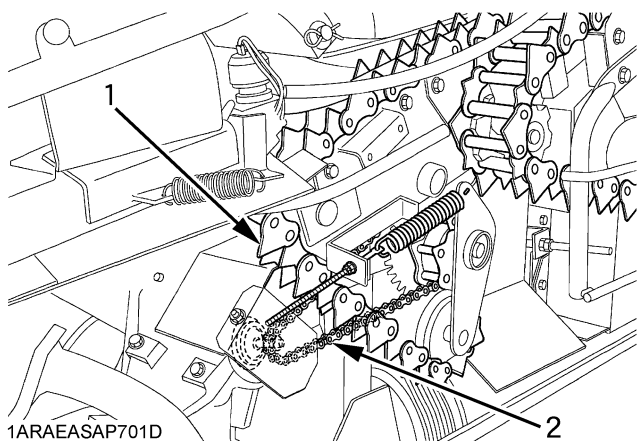
● フィードチェーン



図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン, アッシ (フィード 122)	5K116-4211-0	全型式

● 供給サポートチェーン

● 供給サポートチェーン駆動チェーン



図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン, アッシ (37, サポート)	5H803-6680-2	全型式
2	チェーン, アッシ (58, サポート)	5H803-6660-0	

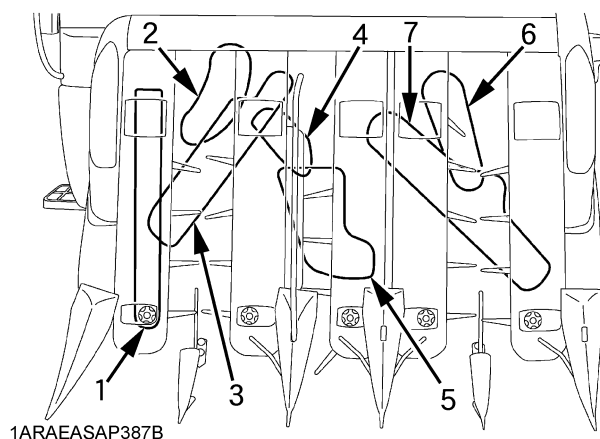
● 引きしチェーン

● 右穂先・株元チェーン

● 中穂先・株元チェーン

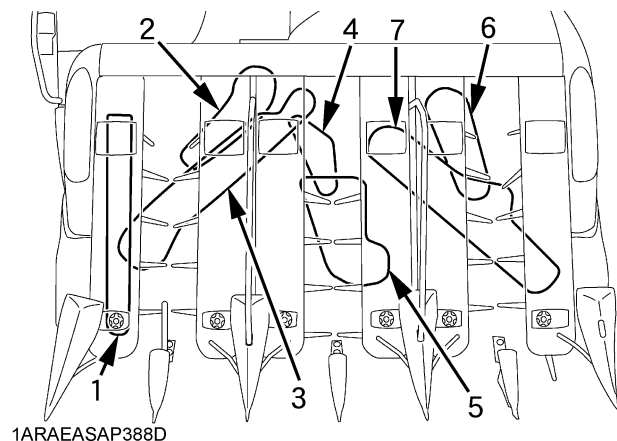
● 左穂先・株元チェーン

[572・587]



[572・587]

[698・108]

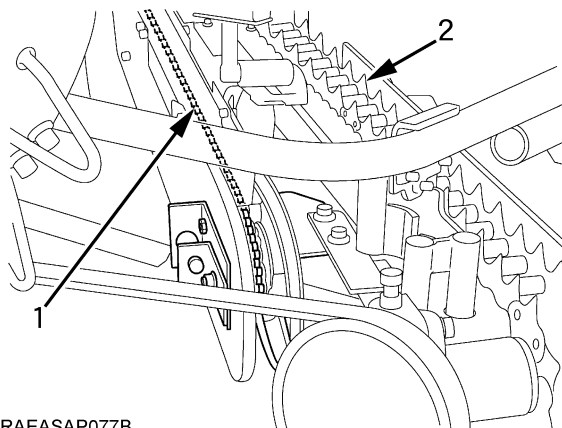


1ARAEASAP388D

[698・108]

図番	品名	品番	対象型式
1	引起しチェーン爪アッシ	52200-5401-4	全型式
2	チェーン, アッシ (R, ホサキツメ)	5H809-6701-0	572・587
		5H601-6701-3	698・108
3	チェーン, アッシ (83, ミギ)	5H813-6360-0	572・587
	チェーン, アッシ (88, ミギ)	5H803-6360-0	698・108
4	チェーン, アッシ (C, ホサキツメ)	5H809-6905-2	572・587
		5H803-6905-2	698・108
5	チェーン, アッシ (39, ナカ)	5H813-6910-0	572・587
	チェーン, アッシ (41, ナカ)	5H803-6910-0	698・108
6	チェーン, アッシ (L, ホサキツメ)	5H809-6501-0	572・587
		5H803-6501-0	698・108
7	チェーン, アッシ (58, ヒダリ)	5H813-6320-0	572・587
	チェーン, アッシ (65, ヒダリ)	5H803-6320-0	698・108

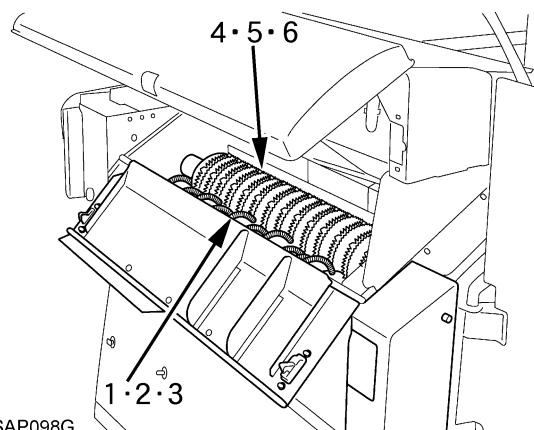
● 排わら穂先・株元チェーン



1ARAEASAP077B

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン, アッシ (ハイワラホサキ)	5K190-4410-2	全型式
2	チェーン (ハイワラ)	53981-4311-0	

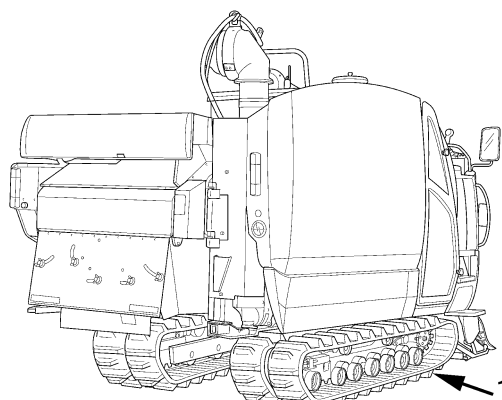
◆ カッタ刃・供給刃



1ARAEASAP098G

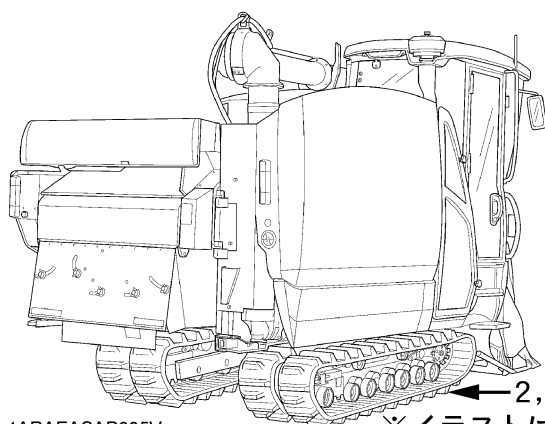
図番	品名	品番	対象型式
1	セツダンバ (200 × 21 セラミック D)	57745-5248-0	全型式
2	セツダンバ 200	57781-5244-4	
3	セツダンバ (170 × 21 セラミック D)	57745-5246-0	
4	カキコミバ 170	57781-5261-4	
5	カキコミバ 160	57781-5212-4	
6	ロータ (160)	57745-5612-0	

◆ クローラ



1ARAEASAP609C

※イラストはQ仕様除く

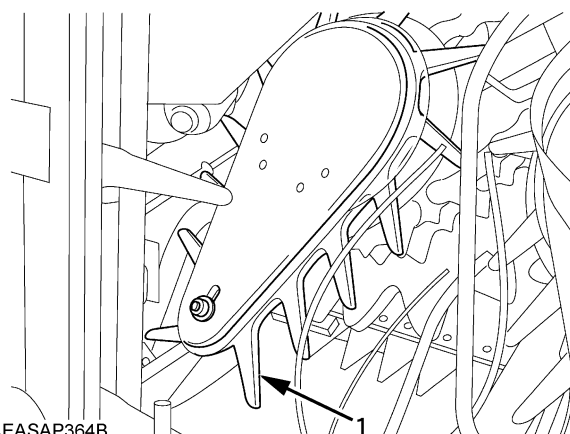


1ARAEASAP605V

※イラストはQ仕様

図番	品名	品番	対象型式
1	クローラ (450, 58)	5H811-2312-0	572
2	クローラ (500, 58)	5H807-2312-0	587・572
3	クローラ (550, 58)	5H801-2312-0	全型式

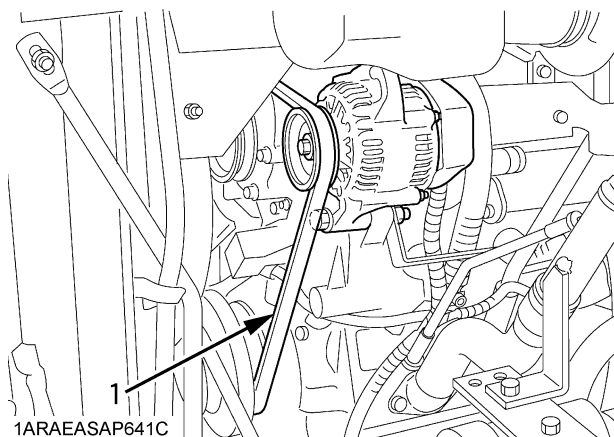
◆ 突起付ベルト



1ARAEASAP364B

図番	品名	品番	対象型式
1	ベルト (突起付)	5H601-6212-0	全型式

◆ ファン駆動ベルト



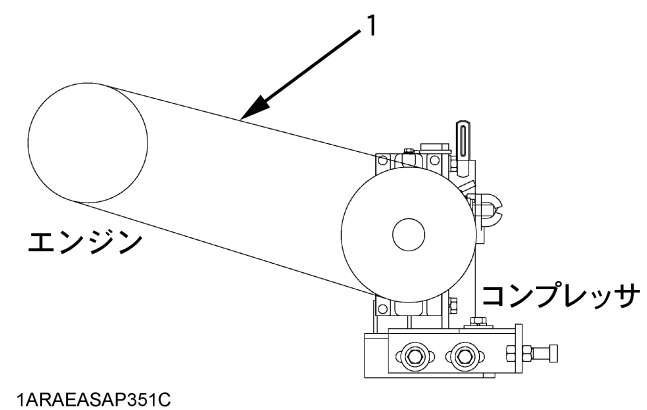
1ARAEASAP641C

図番	品名	品番	対象型式
1	ベルト	1G517-9701-0	全型式

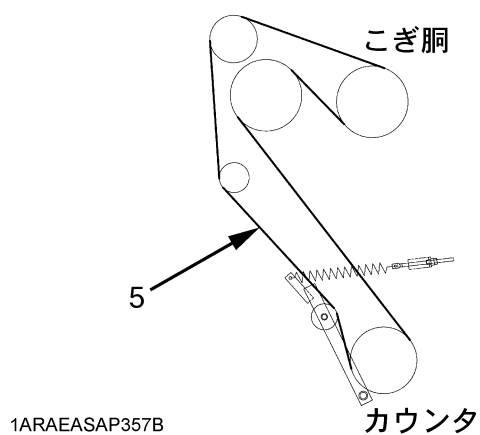
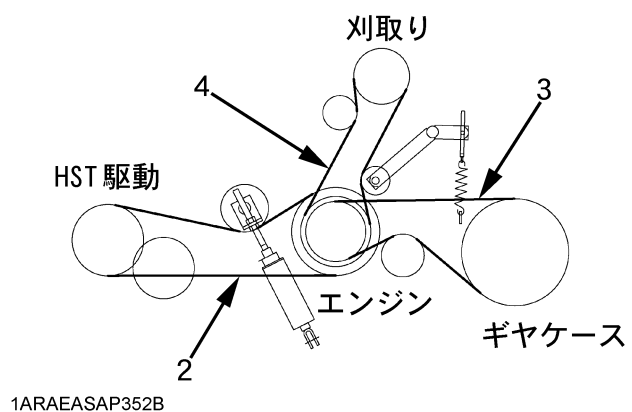
付表

◆ 各ベルト

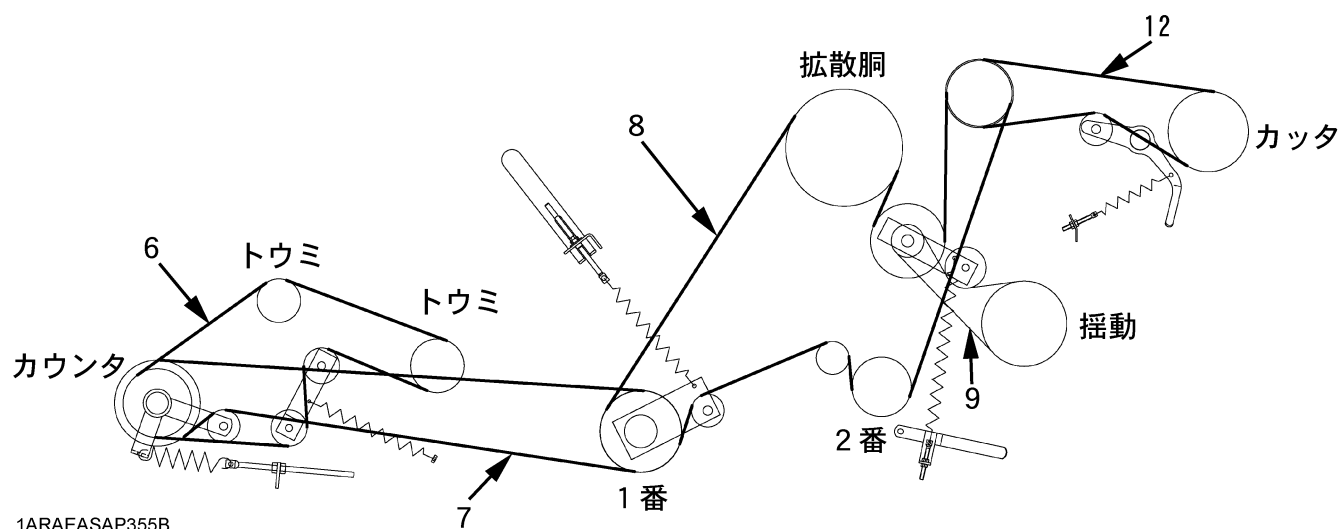
[Q仕様]



[Q仕様]

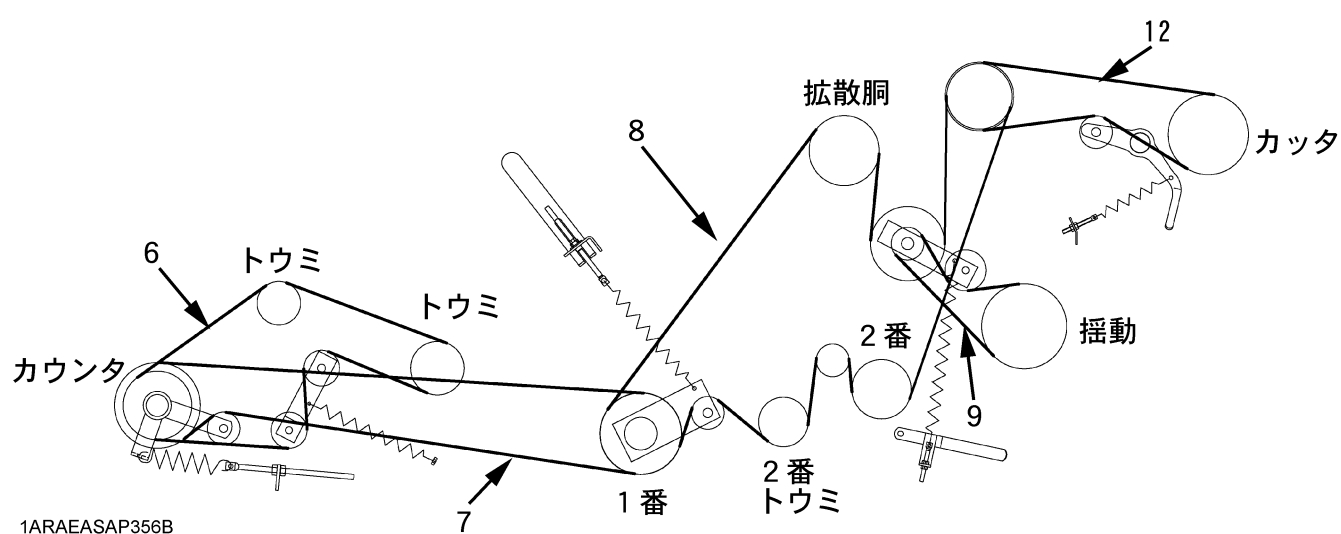


[572・587]



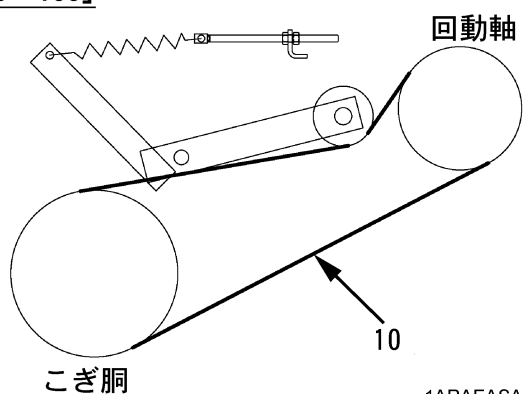
[572・587]

[698・108]

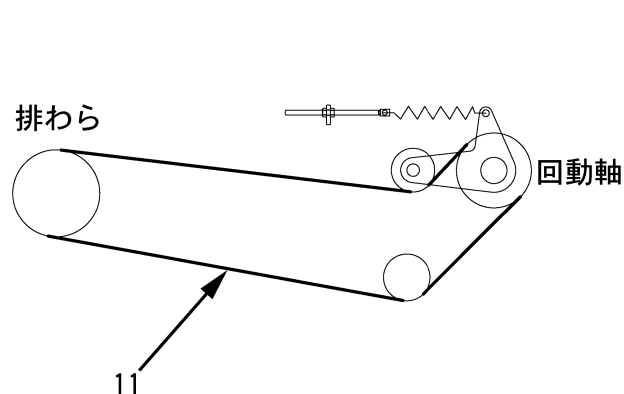


[698・108]

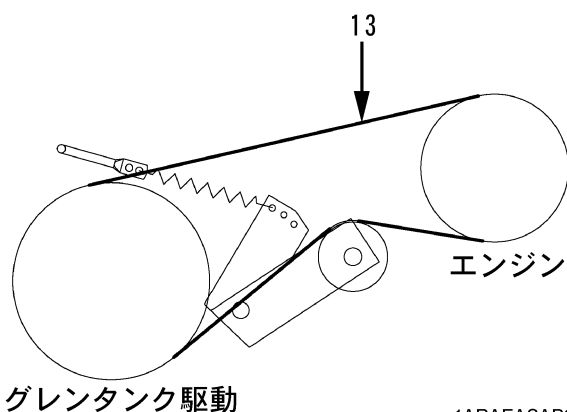
[698・108]



[698・108]



付表



1ARAEASAP360B

図番	名称	品名	品番	対象型式
1	コンプレッサ駆動ベルト	V ベルト (A37)	5H690-3627-0	Q 仕様
2	ミッション駆動ベルト	V ベルト, アッシ (コグ C60)	5H602-1140-0	572
		V ベルト, アッシ (コグ C59)	5H601-1140-0	587, 698
		V ベルト, アッシ (コグ C58)	5H672-1140-0	108
3	脱こく駆動ベルト	V ベルト, アッシ (コグ B60)	5H801-1150-0	全型式
4	刈取駆動ベルト	V ベルト (C48)	5H801-1175-2	全型式
5	こぎ胴駆動ベルト	V ベルト (B156)	5K116-7111-0	全型式
6	トウミ駆動ベルト	V ベルト (コグ B75)	5K116-7114-0	全型式
7	1 番駆動ベルト	V ベルト (C104)	5K116-7112-0	全型式
8	2 番駆動ベルト	V ベルト (C148)	5K118-7113-0	572, 587
		V ベルト (C147)	5K116-7113-0	698, 108
9	揺動駆動ベルト	V ベルト (B43, K)	5K124-7115-0	全型式
10	後方こぎ胴駆動ベルト	V ベルト (B58)	5K116-7118-0	698, 108
11	排わらチェーン駆動ベルト	V ベルト (B75)	5K116-7117-0	全型式
12	カッタ駆動ベルト	V ベルト (B60)	5K118-7119-0	572, 587
		V ベルト (コグ B59)	5K116-7119-0	698, 108
13	タンククラッチ駆動ベルト	Vベルト (C54, タンクドウ)	5G230-8114-0	全型式

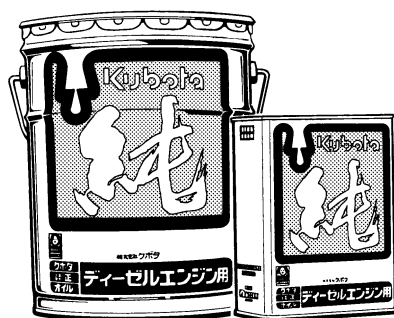
クボタ純オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは、コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを、必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと、あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

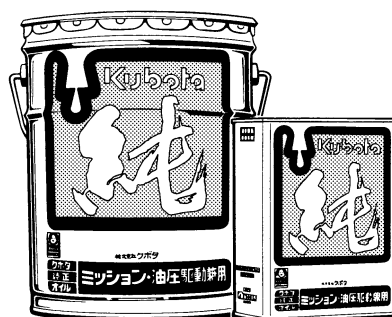
お買求めは、購入先へご用命ください。

- D10W-30 スーパー CD 又は、D30 スーパー CD
(ターボ付きディーゼルエンジン用)
D10W-30 スーパー CF
(ターボ付きディーゼル CRS エンジン用)



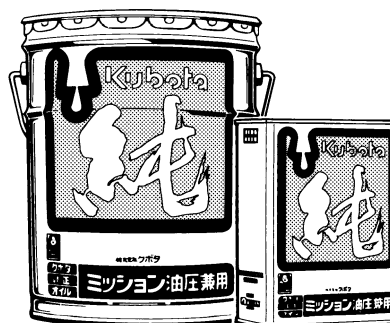
20L 4L
1ARADAFAP393A

- NEW UDT 又はスーパー UDT
(油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用)



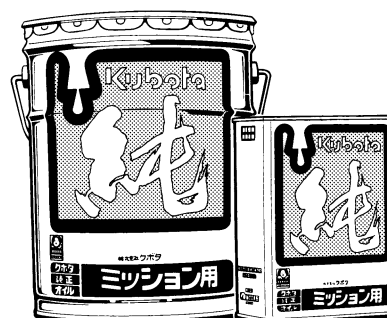
20L 4L
1ARADAFAP394A

- M80B (ミッション油圧兼用)



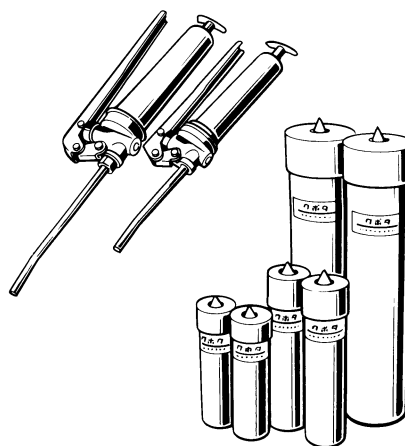
20L 4L
1ARADAFAP395A

- M90 (一般ミッション・各ギヤ用)



20L 4L
1ARADAFAP396A

■クボタスペアグリース



60 100 400
1ARADAFAP397A

索引

英数字

1 番駆動ベルトの点検・調整.....	243
2 番駆動ベルトの点検・調整.....	242
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？ と思われたら.....	77
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのエラー表示に ついて.....	77
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ..	78
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い.....	78
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注 意.....	78
CCD カメラの取扱いについて.....	62
CD の取出し.....	75
CD の挿入と再生.....	75
HST オイルフィルタカートリッジ, トランス ミッションオイルフィルタカートリッジの交 換, HST 油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交 換.....	227
HST 入力フランジのオイルの補給・交換.....	207

あ

アクセルダイヤル.....	10
アームレスト (ひじ掛け).....	17
アンローダからもみが排出されないとき....	298
アンローダ自動旋回制御装置.....	45
アンローダ操作スイッチ.....	46
アンローダ無線リモコンスイッチ.....	47

う

ウオッシャ液の補給.....	216
受あみの脱着.....	163
運転席 (シート).....	16
運転操作部の開閉.....	148

え

エアクリーナの点検・掃除・交換.....	217
エアコン操作のしかた.....	59
液晶パネルについて.....	62
演奏の一時停止.....	75
エンジンオイルの点検・補給・交換.....	200
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	226
エンジンの始動と停止のしかた.....	82
エンジン停止スイッチ.....	21
エンジン停止スイッチ.....	21

お

オイル, フィルタ類の交換とチェーン, ベル ト, クローラの張り調整.....	190
オプション (別売品).....	308
音質調整.....	70
音量調節.....	69

か

各ウインドの開閉のしかた.....	54
各部チェーンの点検・調整.....	246
各部のグリース.....	210
各部の掃除.....	173
各部の注油.....	178
各部ベルトの点検・調整.....	232
各部ワイヤの点検・調整.....	228
カッタ切換えカバーの開閉.....	168
カッタ部の開閉.....	153
カッタ駆動ベルトの点検・調整.....	245
カッタ後部ストンパ結束機.....	309
カッタ後部標準結束機.....	309
カッタ刃の交換.....	273
カッタ部の点検・調整・増締め.....	267
株元供給チェーンの点検・調整.....	250
刈取オートクラッチ.....	43
刈取部の開閉.....	136
刈取スタンド.....	308
刈取りかき込みペダル.....	20
刈取り防じんカバー.....	308
刈取 HST ギヤケースオイルの点検・補給・交換	204
刈取下降ロックスイッチ.....	17
刈取駆動ベルトの点検・調整.....	239
刈取作業の手順.....	108
刈取作業後の手入れ.....	292
刈取搬送部の開閉.....	146
刈取変速切換えスイッチ・引起し変速レバー	18
刈刃の高さ調節.....	121
刈刃の点検・調整.....	257
刈刃駆動ケースオイルの補給.....	204
寒冷時の始動のしかた.....	86

き

キャノピ	309
キャビン装置の開閉	52
キャビン内気, 外気フィルタの掃除・交換	277
給・注油(水)点検一覧表	197
供給サポートチェーンの点検・調整	254
供給サポートチェーン駆動チェーンの点検	254
曲を繰り返し聴く(リピート演奏)	76
曲を探す(スキャン演奏)	76

く

クイック選局(ISR 機能)	73
クボタスペアグリース	327
クボタ純オイル	327
グレンタンクの開閉	169
グレンタンク後カバー2, グレンタンク下カバーの脱着	167
クローラの点検・調整	288

け

けん引フックについて	299
------------------	-----

こ

後方こぎ胴駆動ベルトの点検・調整	244
こぎ歯の点検・交換	263
こぎ室送じん調節レバーの調節	122
こぎ深さチェーンの点検・調整	255
こぎ胴の開閉	133
こぎ胴駆動ベルトの点検・調整	242
こぎ胴開閉スイッチ	20
コントロールパネル	57
コンバインの準備のしかた	101
コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ	28
コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整	241

さ

作業に合わせた各部の調整・調節のしかた	119
作業設定スイッチ	51
作業灯スイッチ	56
作物に合わせた変速の選びかた	112
作物の条件	99
左右スピーカの音量バランス調整	72

し

始動のしかた	83
シープケースの脱着	155
時刻合わせ	71
自動アクセル制御装置	31
自動エンジン停止装置がはたらいたとき	294
自動こぎ深さ制御装置	39
自動刈高さ制御装置	40
自動車速制御装置	32
自動車体水平制御装置(4PC・ST モンロー)	35
自動車体水平制御装置(左右モンロー)	33
自動選局	74
自動脱こく制御の調節	123
自動脱こく制御装置	43
自動方向制御装置	308
手動こぎ深さスイッチ	39
手動選局	74
種子用交換部品	309
受信バンドの選択	73
重低音の増強	70
主変速レバー, 副変速切換えスイッチ	10
主要諸元	300
使用者が行なってはいけない修理	191
シャーピンが破損したとき	296
消耗部品(純正部品を使いましょう)	310

す

スويسイデバイダ	308
水平操作手動スイッチ	38
スクリーンセーバーの設定	72
スクリュ式拡散装置	309

せ

洗車時の注意	190
旋回のしかた	94
旋回切換えスイッチ・旋回力増強切換えスイッチ(旋回力アップトリガ)	13

そ

走行前の準備	89
--------------	----

た

脱こく・刈取クラッチレバー	18
脱こくギヤケースオイルの点検・補給・交換	206
脱こくクラッチワイヤの点検・調整	231
脱こく駆動ベルトの点検・調整	240
暖機運転について	86
タンククラッチ駆動ベルトの点検・調整	245

ち

駐車ブレーキワイヤの点検・調整	229
長期格納時	292

つ

次の曲／前の曲の選択	76
------------	----

て

停止のしかた	87
停車・駐車のしかた	94
定期点検一覧表	192
手刈り（枕刈り）脱こくのしかた	117
電気の各配線コード、各ヒューズの点検・交換	284
電源の入／切	69
電動ドロップ	309

と

ドアの開閉、ロックのしかた	53
トウミ駆動ベルトの点検	241
道路走行について	95
時計表示への切換え	71
吐出口ブーツの点検・交換	279
トップ機能	76
ドライブローラの点検・左右入換え・交換	291
トラックとあゆみ板の準備	96
トラックへの積込み・積降しのしかた	96
トラックへ積込み時のコンパインの準備	96
トラックローラ（転輪）の点検	290
トラック上での処置	97
トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換	203
ドリンクホルダ	17

な

内外気切換えレバー	58
中穂先チェーン、左穂先チェーンの点検	250
ならし運転について	82

に

日常点検項目	80
--------	----

ね

燃料フィルタカートリッジの交換	225
燃料、オイル、グリースの点検・補給・交換	199
燃料の補給	199
燃料切れ後の再始動のしかた	86

は

パイプ、ホース類の点検・交換	219
廃棄物の処理について	190
排出調整板の調整	123
排わらチェーン押えの点検・調整・交換	277
排わらチェーン駆動ベルトの点検・調整	244
排わら株元チェーンの点検・調整	256
排わら穂先チェーンの点検・調整	256
発進のしかた	91
バックミラー	309
バックモニタが故障かな？と思ったら	67
バックモニタのお問合わせ	68
バックモニタの機能説明	65
バックモニタの取扱い上の注意	68
バックモニタの操作	61
バッテリーが上がったときの始動のしかた	87
バッテリーの点検・交換	280
早送り／早戻し	76
パワーステアリングレバー	12
反射器、反射テープの点検・交換	288

ひ

引起し部の開閉	142
引起しカバーの脱着	164
引起しサイドカバーの脱着	164
引起しチェーンの点検・調整	248
引起し爪高さの調節	121
左サイドカバーの脱着	165
左分草かん開閉スイッチ	19

ふ

ファインビューメータ	23
ファン駆動ベルトの点検・調整	238
フィードチェーンオートクラッチワイヤの点検・調整	208
フィードチェーンの点検・調整	255
フィードチェーン駆動ケースオイルの補給 ..	208
副変速レバー	11
付属部品	308
フットレスト（足置き）	14
プリセット選局	74
ブレーキペダル（駐車ブレーキ）	12
プレクリーナの点検・掃除	217

ほ

防じんあみ、各フィンの掃除	222
防じんカバーの開閉と脱着	132
ポジタススイッチ	20
ほ場の刈りかたと旋回のしかた	111
ほ場の出入りのしかた	107
ほ場の準備	100
ほ場の条件	100
補助搬送（突起付）ベルトの点検・調整	240

ま

毎日の作業後	292
マルチナビによる異常と処置	124
マルチナビによる故障と処置	128

み

右デバイダの調節	120
右株元チェーン、中株元チェーン、左株元チェーンの点検・調整	251
右穂先チェーンの点検・調整	249
ミッション駆動ベルトの点検・調整	239

め

メインスイッチ	9
メモリ登録（自動選局）	74
メモリ登録（手動選局）	74
メモリ登録の確認	74

も

もみが詰まる	298
もみの排出のしかた	113
もみ排出スイッチ	22

ゆ

油圧オイルタンクオイルの点検・補給・交換 ..	205
油水分離機（セパレータ）の点検・排水	224

よ

揺動駆動ベルトの点検・調整	244
---------------------	-----

ら

ラジエータ冷却水の点検・補給・交換	214
ラジオの選択	73
ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）	76
ランプ（電球）の点検・交換，ホーンスイッチの点検	287

り

リリースボタン	69
---------------	----

る

ルームランプの使いかた	57
-------------------	----

れ

冷媒（ガス）量の点検	279
レール台ブッシュ部への注油	208

わ

ワイパの使いかた	55
わらが詰まる	294
わら処理切換えスイッチ	22
わら切刃の点検・組換え・交換	265
わら詰まりの取除きかた（左，右株元チェーン合流部）	296

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず、購入先へ ご相談ください

おぼえのため、記入されると便利です

購入先名	担当	電話 ()	—
ご購入日	型式名	区分	
車台番号(製造番号)	エンジン型式	エンジン番号	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら、下記にお問合わせください。

都道府県	お問合せ先	都道府県	お問合せ先
北海道	北海道営業技術推進部	滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、兵庫	大阪営業技術推進部
青森、秋田、山形(庄内地区)	秋田営業技術推進部	岡山、広島	中国営業技術推進部
岩手、宮城、福島、山形(庄内地区以外)	仙台営業技術推進部	島根、鳥取	中国営業技術推進部(米子事務所)
栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡	東京営業技術推進部	香川、徳島、高知、愛媛	株式会社四国クボタ 営業技術課
新潟、長野、山梨	新潟営業技術推進部	山口、福岡、佐賀、長崎、沖縄	福岡営業技術推進部
富山、石川、福井	金沢営業技術推進部	大分、宮崎、熊本、鹿児島	熊本営業技術推進部
愛知、三重、岐阜	名古屋営業技術推進部		

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)376-4434
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162
東京営業技術推進部：電(048)862-1588
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860
中国営業技術推進部：電(086)279-4511
中国営業技術推進部(米子事務所)：電(0859)39-3181
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181
本社営業技術部：電(072)241-7247

株式会社 **クボタ**

機械東日本事務所：電(048)862-1121
機械西日本事務所：電(06)6470-5970

〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地3丁目1番地
〒011-0901 秋田市寺内字大小路207-54
〒981-1221 宮城県名取市田高字原182番地の1
〒338-0832 さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
〒950-0992 新潟市中央区上所上1丁目14番15号
〒924-0038 石川県白山市下柏野町956-1
〒491-0031 愛知県一宮市観音町1番地の1
〒661-8567 兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
〒703-8216 岡山市東区宍甘275番地
〒689-3547 鳥取県米子市流通町430-12
〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分字向647-3
〒811-0213 福岡市東区和白丘1丁目7番3号
〒861-4147 熊本市富合町廻江846-1
〒590-0823 大阪府堺市堺区石津北町64番地

〒338-0832 さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
〒661-8567 兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号



安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号